JNC TJ1400 2005-021
~~PNC ZJ1222 98-011~~

~~限定資料~~

# 地層処分研究開発に関する情報の認知に係わる研究（その４）

（動力炉・核燃料開発事業団　研究委託内容報告書）

## 成果報告書

1998 年２月

株式会社 三菱総合研究所

本技術資料は，個人情報，著作権等に係る当該箇所につき，不開示または削除としています。

この資料[illegible]隈られた関係者だけに開[illegible]等を行わないよう、[illegible]管理して下さい。ま[illegible]う特に注意してくだ[illegible]

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松4番地49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部 技術協力課

電話:029-282-1122(代表)
ファックス :029-282-7980
電子メール:jserv@jnc.go.jp

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184, Japan

本資料に[illegible]

© 核燃料サイクル開発機構
(Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2005

〒107-00[illegible]

[illegible]進本部

社会環境研究グループ

JNC TJ1400 2005-021
~~限定資料~~
~~PNC ZJ 1222 98-011~~
１９９８年２月

# 地層処分研究開発に関する情報の認知に係わる研究（その４）

河合　　潤※
薮田　尚宏※
古屋　俊輔※
杉山　直紀※

## 要　　旨

地層処分研究開発成果に対する公衆の理解は、情報提供の内容や方法のみならず、地層処分そのものに関する印象やさらには個人の知識、倫理観・価値観に強く左右される。地層処分のようなリスク事象に関しては公衆への情報提供には、一般的にリスクコミニュケーション研究の成果が用いられるが、地層処分研究開発成果の情報提供に関しては確立された手法はない。そこで本研究は、情報提供手法の確立に向け、情報提供内容及び手法と公衆の情報認知の関係を明らかにするとともに、今後の地層処分研究開発への理解に有効なコミニュケーション対策に資することを目的としている。このために、平成６年度には、公衆を対象とした個別ヒアリング調査により地層処分研究開発成果の情報認知と地層処分への態度の関係を把握することを試みた。平成７年度は、まず情報認知と態度の関係を基にして態度、事実認識、価値観（リスク観）を基本とする地層処分問題に対する意識構造を分析する枠組み（意識構造分析モデル）を仮定し、公衆への個別ヒアリングを通じて抽出した態度、事実認識、価値観（リスク観）をモデルにあてはめ、その適用性を検討した。さらに情報認知と態度の関係を説明するため、コミニュケーション実体を定義して、これをモデルに取り入れることを試みた。平成８年度は、公衆へのヒアリング結果から情報認知と態度の関係をより詳細に分析できるように意識構造分析モデルを整理し直し、またモデルにおける価値観、事実認識、コミニュケーション実体の役割を明確にした。

本年度は、これまでに構築した意識構造分析モデルの汎用性を確認するために、年代層及び性別を拡げたヒアリングを実施すると伴に、意識構造分析モデルの定量的な評価のためにアンケート調査を実施した。ヒアリングでは、意識構造分析モデルが性別及び世代間でも適用できることを確認した。また、アンケート調査による定量的な評価から、公衆を地層処分に対する意識構造により分類し、特性を把握するとともに、各分類に対するコミニュケーション策を検討した。さらには、これまでの成果を反映させて、第２次とりまとめの公表を視野に入れた地層処分研究開発への理解促進に有効なコミニュケーション対策の提案を行った。

---

本報告書は、株式会社三菱総合研究所が動力炉・核燃料開発事業団の委託により実施した研究内容結果である。
契約番号：090D0201
事業団担当部課室および担当者：環境技術開発推進本部　社会環境研究グループ　安藤　康正
※：（株）三菱総合研究所　総合安全研究センター

JNC TJ1400 2005-021
~~COMMERCIAL PROPRIETARY~~
~~PNC ZJ 1222 98-011~~
February, 1998

# The Study of public cognitive process for generic geological disposal problem(Ⅳ)

Jun Kawai※
Naohiro Yabuta※
Syunsuke Furuya※
Naoki Sugiyama ※

## ABSTRACT

The degree of public acceptance about the study for generic geologic disposal (GGD) problem is affected by not only the content and the way of announcement, but also the impression, the knowledge and the sence of ethics or value on the disposal system.For the announcement to general public about the matter involving latent risk like GGD problem, the risk communication study is applied generally. But, it has'nt been established to annouce generic geologic disposal problem.

For the purpose of establishing the method of the announcement about GGD problem,this study was made to prove the relation between the public cognitive process and the content or way of announcement to general public. Futher it was useful the construction of efective risk comminucation scheme in public acceptance about the study for GGD problem.

The year of 1995, we investigated the views from which several persons recognize "The R&D about GGD system for HLW", identified the dominate factors for them to recognize the infomation, and analized how they judge the value of GGD problem by correlating factors. In the 1996's and 1997's work ,we investigated the views from which several persons and constructed the experimaental frame of the judgement for value,assumped the communicating matter because of fully analizing how they judge the value of generic geologic disposal problem within R&D. Futher,by the hearing to general public,we confirmed the validity of the experimaental frame with applying the systematic method, and assumped the type of personal attitude for GGD problem within R&D.

In this year,we made to prove the comminucation model constructed from 1995 to last year.

First,we comfirmed the generality of this model by hearing to men and wemen from twenty-years-old to sixty-years-old. Second,investigated the probabirity of quantative analysys with the communication model by about 300 questionairs.

As a result, it was made sure that this model was able to apply to general public pepole regardless of sex and generation. Anther results,by the analsys of questionairs,this model had the objectivity. Futher result,in veiw of publication of the 2000's report,we suggested the effective scheme of general public acceptance about the study for GGD.

---

Work performed by Mitsubishi Research Institute, Inc. under contract with Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation (PNC).
PNC Liaison : Yasumasa Ando
General Manager
Presentation Management Research Program
Radioactive Waste Managent Project

※ Research Center For Safety Science, Mitsubishi Research Institute, Inc.

# 地層処分研究開発に関する情報の認知に係わる研究（その４）

## 目　　次


１．序論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-1

１．１　目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-1

１．２　実施内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-1

２．これまでの研究の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-1

２．１　研究の経緯と成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-1

２．２　地層処分に対する問題認識と態度との基本的な関係の把握 ・・・・・・・ 2-5

２．２．１　地層処分問題の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-5

２．２．２　地層処分に関する問題認識と態度との基本的な関係 ・・・・・・・・ 2-8

２．３　地層処分に関する意識構造モデルの設定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 2-16

２．３．１　態度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-18

２．３．２　問題認識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-19

２．３．３　社会的立場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-24

２．３．４　意識構造モデルのまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-30

３．コミュニケーションモデルの検証 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-1

３．１　コミュケーションモデルに基づいたコミニュケーション方策の検討 ・・・ 3-1

３．２　他の年齢層へのモデル適用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3

３．２．１　ヒアリングによる確認項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3

３．２．２　ヒアリング方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-5

３．３　ヒアリング結果の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-8

３．３．１　ヒアリング結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-8

３．３．２　コミニュケーションモデルを適用した問題認識の整理の方法 ・・・ 3-30

３．３．３　ヒアリング分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-32

３．４　コミニュケーションモデルの定量化方法の検討 ・・・・・・・・・・・・ 3-40

３．４．１　意識内容の定量的分類とコミニュケーション方策検討の手順 ・・・ 3-42

３．４．２　コミニュケーションモデルの定量化方法の適用例 ・・・・・・・・ 3-45

4．アンケートによる公衆意識の予備的調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-1
4．1 アンケート実施方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-1
4．2 アンケート結果の分析方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-5
4．3 アンケート集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
4．3 アンケート結果の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-15
4．5 アンケート結果に基づく公衆分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-49

5．地層処分の理解に有効なコミュニケーション対策の検討 ・・・・・・・・・・・・ 5-1
5．1 地層処分の理解に必要なコミュニケーションの検討 ・・・・・・・・・・・ 5-1
5．1．1 有効なコミニュケーションに必要な要件 ・・・・・・・・・・・・・・ 5-1
5．1．2 安心を醸成するためのコミニュケーション技術 ・・・・・・・・・・・ 5-5
5．1．3 コミニュケーション対策の有効性の検証方法 ・・・・・・・・・・・・ 5-27
5．2 地層処分の理解に有効な情報提供シナリオの作成 ・・・・・・・・・・・・ 5-30
5．2．1 コミニュケーション目標の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-30
5．2．2 具体的な情報提供シナリオの作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-31

6．研究成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-1
6．1 これまでの研究成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-1
6．2 本年度の研究成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2

添付資料A リスクコミュニケーションの考え方
添付資料B 社会的コミュニケーションモデル
添付資料C 第1回目のヒアリング結果
添付資料D ヒアリング分析結果の例
添付資料E アンケート調査票
添付資料F アンケート単純集計結果

# 1．序論

## 1．1　目的

地層処分に関する正しい情報と認識に基づいた地層処分事業に対する社会的な信頼の構築は、今後の地層処分事業の推進に不可欠なものである。現在、研究段階にある地層処分に関する重要な情報の一つとして地層処分研究開発成果があげられる。しかし、研究開発成果に関する情報は難解かつ専門的であることが多く、公衆の理解を得ることは容易ではない。このため、地層処分の成果を公衆に的確に伝える方法を明らかにする必要がある。

一般に、地層処分研究開発成果の公衆の理解は、情報提供の内容や方法のみならず、地層処分そのものや原子力に関する印象や、さらには個人の知識、倫理観等に強く左右されると考えられる。これまでのところ地層処分研究開発成果の情報提供に関して確立された手法はない。

このため、本研究では、この情報提供の確立に向け、情報提供内容や手法と公衆の認識に関する関係を明らかにすることを目的とする。

## 1．2　実施内容

（1）コミニュケーションモデルの検証

平成９年度は、平成８年度までの研究により構築したコミニュケーションモデルの適用性の検証と、適用範囲の拡大のために以下を実施する。

①他の年齢層へのモデル適用

平成８年度に構築したコミニュケーションモデル他の年齢層への適用を試みることにより、網羅性のあるものに改善していく。

適用方法としては、これまでと同様のヒアリングを行い、その結果を基にモデルの適用性を調べる。対象は、２０～３０代、４０～５０代とし、それぞれ１０名弱程度（男女半数づつ）で行う。

本研究でのヒアリング対象をまとめると、表１－１の通りとなる。

表１－１　ヒヤリング対象者　　＊平成８年度までに実施

| 対象地域 | 対象属性 | | 分析項目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 性別 | 年齢層 | 態度 | 事実認識 | 影響項目 | 主観的価値判断 | コミニュケーション実体 |
| 都市部 | 女性 | 30～40代＊（１０人前後） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 男性 | 30～40代＊（１０人前後） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ユニバーサル | 20～50代 | 平成９年度実施 | | | | |

②コミニュケーションモデルの定量化方法の検討

構築したコミニュケーションモデルを適用して、多くの公衆の地層処分に対する意識を分析（マクロ調査）するには、モデルの因子の影響度や因子間のつながりの強弱を一定の尺度で表（定量化）しておく必要があり、この定量化の方法を検討する。

（2）アンケートによる公衆意識の予備的調査

将来的には、（1）の②の方法に基づいて定量化したコミニュケーションモデルを用いて全国レベルで一般公衆の地層処分に対する意識分析（アンケートによるマクロ調査）を実施する。しかし、この大規模なマクロ調査に際しては、問題の性質上、実施方法や時期あるいは集計結果の分析方法等を十分に検討しておく必要がある。そこで、全国レベルのアンケートを円滑に進めるために、事前に（例えば、都市近郊を対象とした）小規模なアンケートを行い、調査方法のノウハウや分析方法の確立に資する。また、小規模アンケートによる予備的調査結果は、コミニュケーションモデルの検証に際しても考慮することとする。

（3）地層処分の理解に有効なコミニュケーション対策の検討

本研究の最終的な目標は、将来の地層処分実施のために、地層処分に関する情報の理解と受容を進めるための方策を検討することである。

平成8年度までは、公衆の情報の認知や地層処分問題に対する意識を理解するための枠組み（コミニュケーションモデル）の作成を中心に置き、ある程度の成果を得た。

本年度は、これまでの成果と本研究の成果を基に、地層処分に関する情報の理解と受容を進めるための具体的な方策を検討するために、次を実施する。

①地層処分の理解に必要なコミニュケーションの検討

地層処分の実施さらには、実施主体の選定、処分地の選定に関して国民のコンセンサスを得るために必要とされるコミニュケーションのあり方を整理する。

②地層処分の理解に有効な情報提供シナリオの作成

①を基に、公衆の理解促進に効果的と考えられる情報提供の具体策（シナリオ）を整理する。

（4）報告書作成

（1）、（2）、（3）の検討内容を報告書にとりまとめる。

## 2．これまでの研究の概要

本件は、地層処分研究開発成果の伝達及び認知をテーマとした研究であり、情報提供対象となる個々人の意識構造やその枠組みをヒアリング等を通して理解し、より一般性のあるもの（モデル）とした上で、今後の情報提供手法に反映していくものである。本年度は、第２次とりまとめの公表を視野に、平成８年度のまでに構築した社会コミニュケーションモデル（仮称）を用いて、より定量的な評価となるべく、アンケート調査を全国的に実施し、意識構造の基本的枠組みの適用が定量的にも客観的にも妥当なもであることを検証していくための研究を行うこととした。

### 2．1　研究の経緯と成果

本研究は、平成６年度から開始した「地層処分研究開発に関する情報の認知に関わる研究」の４カ年目にあたる。一連の「地層処分研究開発に関する情報の認知に関わる研究」は、各年度の研究成果や課題を参考にしながら、次フェーズへと研究を継続してきた。そこで、ここでは本年度の研究成果を報告する前に、まずこれまでの研究の経緯と年度毎の主な成果並びに課題を簡単にまとめて記し、その後に本年度の実施内容について説明する。

（1）平成６年度研究

平成６年度は、「地層処分問題」を社会の広範な層に属する人々がどの様な観点からみるのかをミクロ分析的手法（個別ヒアリングによる意味ネットワークの採取）により調査し、個人レベルでの「地層処分問題」への態度（価値判断）につながる支配因子（個人特性）とそれらの相互関係を階層分析法により抽出した。また、情報提供による訴求効果についても調査した。ヒアリング対象は、都内の主婦８名程度とした。平成６年度の研究は、予備的調査として位置づけ、価値判断と個人特性及び相互関係にどのようなものがあるのか洗い出した。また、情報訴求効果についても整理した。

予備研究で得られた知見をまとめると表２－１の通りである。

表２－１　予備研究で得られた知見

| 情報認知に関わる特徴 | 予備研究で得られた知見 |
|---|---|
| 地層処分への態度 | やむ得ない |
| 代表的個人特性 | 人間はミスを犯す。技術・組織に完全なものはない。 |
| 情報の訴求効果 | 個人特性により、同一情報でも訴求効果は異なる。情報内容に加えて、信頼感や雰囲気を伝えることも重要。 |
| ビデオの効果 | 放射能に対する考え方が、個人特性とビデオ情報により両極端となる。ある人は、放射能リスク緩和効果があっても、他方は、環境漏洩を懸念となる。 |
| その他 | 阪神大震災の直後の調査であり、地層処分への地震の影響を懸念。一部は、ビデオ情報により心配が緩和。 |

（2）平成７年度研究

平成７年度は、平成６年度に抽出した「地層処分問題」に対する公衆の価値判断と個人特性及びそれらの相互関係を整理して、地層処分問題に対する情報認知過程（「態度－事実認識－価値観」）を説明する一つの「意識構造分析モデル（仮名）」を推定・構築した。このモデルの枠組みおよび構成要素の妥当性を確認するために、個別ヒアリング（都内主婦、１０名程度）を実施した。ヒアリングでは、モデルの枠組みと構成要素を確認するためのヒアリング項目を新たに設けている。同時に、「地層処分問題」への公衆の態度（価値判断）を類型化するとともに、構築したモデルを用いて情報提供から態度に至るまでの認知過程を分析した。この際、認知の段階を判別する基準として「リスクコミニュケーション実体」を定義して、個人の認知過程の説明に用いた。

平成７年度研究で得られた成果・知見をまとめると次の通りである。

①意識構造分析モデル：地層処分への態度と情報認知過程（意識構造）を説明するモデル。

態度－事実認識－主観的価値判断－背景となる価値項目－コミニュケーション実体

②地層処分問題とNIMBY問題は、「意識構造分析モデル」を用いて表２－２の通り説明される。

表２－２　「意識構造分析モデル」を用いた説明

| | 地層処分問題に対する意識構造 | NIMBY問題としての地層処分問題に対する意識構造 |
|---|---|---|
| 態度 | 仕方ない | できれば反対 |
| 事実認識 | ①地層処分の必要性<br>②生命へのリスク<br>③問題との距離 | ①生命へのリスク<br>②問題との距離<br>③地層処分の必要性 |
| 主観的価値判断 | ①ＨＬＷを放置できない<br>②放射能汚染による健康影響<br>③社会的責任 | ①②放射能汚染による健康影響<br>②自己責任・子孫への影響<br>②生活環境のデメリット |
| 背景となる価値項目 | ①技術的適切性（技術、人間、組織への信頼）<br>②放射能リスク<br>③公共意識 | ①放射能リスク<br>②世代間の不公平<br>③環境破壊（住み心地悪化） |
| リスクコミニュケーション実体<br><br>注)地層処分への事実認識 | ①情報、信頼、権威<br>②権利、生命<br>③権利 | ①生命、権利<br>②信念<br>③情報、信頼、権利 |

・地層処分の必要性・・・・技術的適切性、

・地層処分問題との距離・・自己責任、社会的責任（公共意識）

・生命へのリスク・・・・・放射能リスク、次世代への負担

「意識構造分析モデル」を用いることで「地層処分問題」のように公衆にとってなじみの薄いリスク施設に対する態度類型（距離が遠い、リスク感大、ベネフィットなし、技術面で不安あり）の把握や地層処分とNIMBY問題との相違の説明に利用できることが分かった。

また、モデルにより分析された結果から、地層処分とNIMBY問題への態度は、公衆の社会生活における価値判断（問題との距離）とつながりが有ることも推定できた。

一方、平成７年度研究では、ヒアリングを通じてある程度は「意識構造分析モデル」の枠組みと構成要素の妥当性、リスクコミニュケーション実体の確認を行っているが、対象が主婦のみであるため、モデル自体の完備性をより一層高める必要があることも判った。平成７年度に構築した「意識構造分析モデル」をまとめると表２－３の通りである。

表２－３　平成７年度の構築した「意識構造分析モデル」

| | 社会的立場 | 問題認識 | | 態度 |
|---|---|---|---|---|
| 事実認識 | 問題との距離 | 生命へのリスク | 地層処分の必要性 | どちらでも良い |
| 主観的価値判断 | 社会的責任 | 放射能汚染による健康影響 | ＨＬＷを放置できない | 仕方がない |
| 背景となる価値項目 | 公共意識 | 放射能リスク | 技術情報 | 賛成（我々の責任） |
| リスクコミニュケーション実体 | 権利 | 権利、生命 | 情報、信頼、権威 | 反対 |

（３）平成８年度研究

平成８年度研究では、平成７年度に「地層処分問題」に対する公衆の価値判断と情報認知過程を理解するために構築した「意識構造分析モデル」の問題点を検討し、より説明能力が向上するように、枠組み、構成要素、リスクコミニュケーション実体の役割と詳細さを見直し、「意識構造分析モデル」を再構築した。平成７年度の研究では、公衆の社会公共問題に対する価値判断には、「問題との距離」が大きく関わっていると推定されたため、平成８年度は「事実認識」から「問題との距離」を分離して、影響項目「社会的立場」とした。これにより、表２－４に示す「意識構造分析モデル」を再構築した。

表２－４　平成８年度に再構築した「意識構造分析モデル」

| | 社会的立場 | 問題認識 | | 評価＋リスク認知 | 態度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事実認識 | 社会的妥当性の知覚 | 影響の大きさの知覚<br>不確実性の知覚 | | 有効性の知覚<br>リスクの認知 | どちらでも良い |
| | 問題との距離 | 生命へのリスク | 地層処分の必要性 | | |
| 主観的価値判断 | 社会的責任 | 放射能汚染による健康影響 | ＨＬＷを放置できない | 有効・有効でない | 仕方がない |
| 背景となる価値項目 | 公共意識<br>社会的負担 | 放射能リスク<br>原子力への不安 | 技術情報<br>地層処分技術の有効性 | 危険・危険でない | 賛成（我々の責任） |
| リスクコミニュケーション実体 | 情報的相互作用<br>経済的相互作用<br>政治的相互作用 | 生命的相互作用 | 情報的相互作用 | | 反対 |

この新たなモデルの適用性・妥当性を検証するため、平成７年度同様に、個別ヒアリングを実施した。このヒアリングでは、「意識構造分析モデル」を詳細に検証出来るようにヒアリングシナリオも見直した。また、ヒアリング対象も平成６年度、平成７年度の主婦層から男性サラリーマン（１０名）に替えることにより、適用範囲を拡張し、一般化（広い層の公衆への適用）を図ると共に、一般性の検証も行うこととした。

ヒアリング調査から「地層処分問題」に対する公衆の価値判断と情報認知過程を理解する「意識構造分析モデル」の詳細化、妥当性の向上、分析性向上を図ることはほぼできた。同時に、このモデルを用いてリスク施設に対する公衆の価値判断と情報認知過程（意識構造）を広く分析し、把握することも可能となった。

平成８年度研究で得られたモデルによる分析により得られた知見をまとめると次の通りである。

1)地層処分のような公共的問題（NIMBY問題）に対しては、公衆が立脚する「社会的立場」が、問題への態度類型に大きく左右すると考えられる。この類型を用いることで、個人間の複雑な意識構造の相違を明確にできた。

注）社会的立場は、個人の社会に対する見方（受容か批判）と係わり方（共生、自律）の組合せにより４つの類型があり、それぞれが、次のように地層処分問題への態度に結びついていると考えられる。

①共生－受容　→　総論賛成、各論反対（消極的賛成、どちらでも良い）
②共生－批判　→　総論賛成、各論反対（消極的反対、どちらでも良い）
③自律－受容　→　積極的賛成（我々の責任）
④自律－批判　→　積極的反対（原子力不要）又は消極的賛成（他に方法がなく仕方なし）

2)これまでの原子力広報は、ごみ処理施設建設等の公共問題と同様に、総論賛成・各論反対に対して”問題認識（＝関心）”や”評価（＋認知）”に関連する影響項目を、コミニュケーション対策の中心に置いてきた。このため、NIMBY問題を直接左右している公衆の”社会的立場”を目標とした有効なコミニュケーション対策が、不足しているのではないかと考えられる。このコミニュケーション対策の不足が、原子力広報を容易に進めることが出来ない一因になっているとも考えられる。

## ２．２　地層処分に対する問題認識と態度との基本的な関係の把握

本研究をはじめるにあたり、「地層処分」について公衆がどのように問題を認識し判断するか、という漠然とした対象について研究を見通しよく進めていくために、問題認識と態度との基本的な関係を設定した。

この基本的な関係は、東京都区部に居住する３０代主婦に対して行った予備的な個別面接の結果にもとづいて設定したものである。

### ２．２．１　地層処分問題の特徴

（１）処分の必要性

既にある高レベル廃棄物を安全に処分しなければならない、ということに関しては、大方の人が納得するようである。特に現在の原子力発電所に反対している人であっても、現にある高レベル廃棄物をなんらかの方法で処分しなければならない、ということに関しては同意を示す、あるいは現にある以上、その処分には同意を示さざるを得ない。

この場合、では地層処分がその方法としてふさわしいか、という点に関しては議論が出てくるところとなるが、他の処分方法と比較した場合の地層処分法の優位性は多くの人が納得するようである。

しかしながら、この納得は個人が自身で技術的に判断した結果でてきたものであるか、というとそうではなく、ビデオ等で専門家がそのような判断を下しているという見聞から、専門家のそのような判断への信頼やその判断を伝える情報メディアへの信頼から、優位性を納得しているものと考えられる。

したがって、これらの点に関して懐疑的な人は、他の有力な方法が確立されるまでは処分を先延ばしにするべき、というモラトリアムを考えることになる。

（２）処分に関するメリット感の希薄さとデメリット感の多様性

高レベル廃棄物の処分は、負の（やっかいな）存在を０にするという意味で、誰にとってもなんらの積極的なメリットが乏しい、という特徴がある。この点は、有用な電力を生み出す源として認識されている原子力発電所と好対照をなすところである。このメリット感の希薄さは、次に指摘するように、地元の人々にとっては拒否感を先鋭化し、他の一般の人にとっては問題を遠いものとして捉える見方を助長する要因となっている。

ここでつけ加えるならば、ではリスク感を中心としたデメリット感は強いかというと、この点は意見の分かれるところである。高レベル廃棄物ということで原子力発電所以上に危険性を感じるという人がいる一方で、地中深くに処分し動的な利用が伴わないと言うことで、本質的には安全なものと捉

える人もいる。

（3）総論賛成、各論反対

何らかの方法で地層処分をしなければならないことと、にもかかわらず処分してもメリット感が実感を伴わないことが、地層処分に対して、総論賛成、各論反対というかなり共通した態度を形成している。すなわち、総論としては多くの人が地層処分を実施することは必要であると考えるが、各論として自宅の近くに処分場が建設されることには強く反対する、という態度である。

この各論反対の部分は、いわゆるNIMBY問題であり、上記の理由や放射能が持っているリスク感の強さから、問題が純粋な形で提示されることになる。

（4）処分問題への関心、責任感の重要性

特に、処分場が自宅から遠く隔たったところに建設されると考える多くの国民にとっては、処分のメリット、デメリットに関する実感が希薄であり、いきおい個人の一般的社会問題への関心度が、態度に大きく影響することになる。関心度が希薄であると、その個人の態度は周囲のムードに流されてしまうことになる。

また関心度と相まって、責任感の感じ方も重要である。地層処分への態度を決める大きなポイントは、個人が高レベル廃棄物の発生とその処分に関して自分の責任をどの程度感じているか、という点である。この責任意識が高ければ、（そういう人は一般に公共意識の高いので）NIMBY問題に冷静で、民主的な見解を持つ。一方、高レベル廃棄物の発生は国の責任、あるいはさらに言えば国が勝手にやったこと、という認識を持つ人にとっては、NIMBY問題は永久に解決しないことになる。

（5）大きな不公平状態

地層処分場の地元となる地域では、実感としてのリスク負担感が大きく、一方、大都市では多くの便益を享受しているという事実があり、その間の不公平感が大きい。

したがって、これを受け入れる地元にとっては、”貧乏くじを引いた”ということが強く意識される。また他の地域では、公共意識の高い人にとっては、地元との不公平性が地層処分方式に積極的に賛成するための障害になる可能性がある。一方、他の地域の人が、地層処分は国民全体の責任であり、ある特定の地方に負担をかけることが問題であることを認識して何らかの解決努力を示したとすると、地元で発生が予想される反対運動をやわらげる上で大きな効果が期待できる。

また不公平感の中には、将来の子孫にリスクを負担させることになるのかどうか、地層処分実施の

政策決定者と一般国民との間の情報や決定権などに関する不公平感などの要因もある。しかしながらこの２つの要因はあまり大きな議論になることは少ないようである。

地層処分問題（態度と問題認識）の特徴は、類似の社会問題と比較すると明瞭となる。表２－５に、原子力発電所の建設、一般ゴミ処理場の建設、沖縄米軍基地の移転との比較を示す。

表２－５　地層処分問題の特徴

| | 地層処分場の建設 | 原子力発電所建設 | 一般ゴミ処理場の建設 | 沖縄米軍基地の移転 |
|---|---|---|---|---|
| 必要性の認識 | ◎<br>ある以上、処分しなければならない | △<br>これ以上建設する必要が本当にあるか | ◎<br>ある以上、処分しなければならない | ○<br>日米安保の必要性はほぼ受容されている |
| 積極的メリット感 | △<br>原子力推進派以外、積極的意味は希薄 | ◎<br>豊富な電力供給は多くの人にとって魅力 | ○<br>家庭のゴミ処理はメリットとして実感 | ○<br>安全保障の重要性は実感されやすい |
| 総論賛成／各論反対 | ◎<br>必要性は高いものの、希薄なメリット感 | △<br>必要性に議論があり、総論賛成ではない | △<br>必要性が高く、リスク感は低い | ○<br>必要性ではあるが地元のリスク感が強い |
| 問題への関心、責任意識 | △<br>日常生活との関わりが薄い | ○<br>有名な社会問題だが、責任感はなし | ○<br>日常生活との関わりが深い | △<br>遠い沖縄の話という認識、政府の問題 |
| 不公平感 | ◎<br>希薄なメリットと地元の強いリスク負担 | ○<br>地元の強いリスク負担 | △<br>日常生活との関わりと低いリスク感 | ◎<br>地元の強いリスク負担と、沖縄の特殊性 |

◎：特にある、　○：ある、　△：ややある、　－：ない

①地層処分の問題は以上のように、必要性の認識が強いものの、積極的なメリット感が乏しく、”まあ、必要だから仕方がない”という捉え方をされることになる。しかしながら全般的な関心度は低く、リスク感の強さとも相まっていきおい総論賛成／各論反対という態度が形成されやすくなる。このことは地元に取ってみれば、メリットが希薄でリスク感の強いお荷物を押しつけられた、という印象を与え、不公平感が高まることになる。

②地層処分建設と沖縄米軍基地の移転では

－問題が国政レベルであり一般人の関心や責任意識が薄い

－問題が国政レベルでありメリット感が薄い

－しかしながら国民全体で解決していかなければならない

－大方の意見は、総論賛成／各論反対的である

－地元の受ける負担と他の地域との間で著しいアンバランスがある

（このため、地元の人とその他の一般人とで著しい認識の差が生じる）

という点で、共通が見られる。

③原子力発電所の建設では、これ以上の発電所の増設に多くの批判的な意見があるものの、発電所そのものが持っている有用性にも一般の共通認識がある。このため、原子力発電所の建設問題では、発電所のメリットとデメリットとの比較という功利論が主テーマとなる。この点、皆にとってのやっかい物である高レベル廃棄物をどのように処分するか、そのためには誰に負担してもらうか、という公共的正義の問題である地層処分とは若干異なる。（もちろん、原子力発電でもそのような問題は重要なテーマではある。）

④一般ゴミ処理場の建設では、必要性の認識が高いという点で地層処分と共通しているものの、一般ゴミ処理場のリスク感はあまり高くなく、また日常生活に密接しているためにその恩恵を理解しやすいことから、総論賛成／各論反対という態度は（もちろん一般ゴミ処理場問題でも強い住民エゴは見られるが）それほど先鋭ではない。またこのことから、処分場近隣とそれ以外の地域との間の不公平感もあまり高くない。

### ２．２．２　地層処分に関する問題認識と態度との基本的な関係

前節で検討した地層処分の特徴を考慮し、地層処分に関する公衆の問題認識と態度との基本的な関係を、思考の流れの代表的なパターンとして整理した。

この基本的な関係を図２－１に示す。地層処分に対する態度に最も大きな影響を与えるのは、高レベル廃棄物処分の必要性である。一般的には”現にある以上何らかの方法で処分することは仕方がない”という認識がもたれ、消極的な賛成へと繋がっていく。ここで、原子力発電所に対する認識が影響してくる。一般的には、もうこれ以上の発電所の増設には賛成しないものの現状の発電所の有用性は認められており、これが高レベル廃棄物は”現にある以上何らかの方法で処分することは仕方がない”という認識に結びついている。さらに高レベル廃棄物処分の必要性が認められたとして、その処分方法には本当に地層処分が適切なのか、という議論がある。ここで大方の態度として地層処分が実施方法として適切であり、”全体的には賛成”という基盤が形成される。そのうえで、個別のメリットやデメリットの評価が行われる。また、個別のメリットやデメリットは対象者個人と地層処分との広い意味での利害関係（その人の公共意識に地層処分がどのような印象を与えているか、という点も含めて考えている）を生み出しており、これが対象者個人と地層処分問題との距離を規定することになる。この距離感は地層処分に対する態度の大きな影響を与えるとともに、もう１つの重要な問題認識である社会的不公平性に対する個人の認識に影響を与えている。

このように問題認識は、地層処分に対する態度に様々な影響を与える。また、問題認識間でも相互

に影響しあっており、この相互影響のパターンからもいくつかの重要な分析の視点が導かれる。さらに各問題認識については、代表的な認識の相違を示すことが出来る。

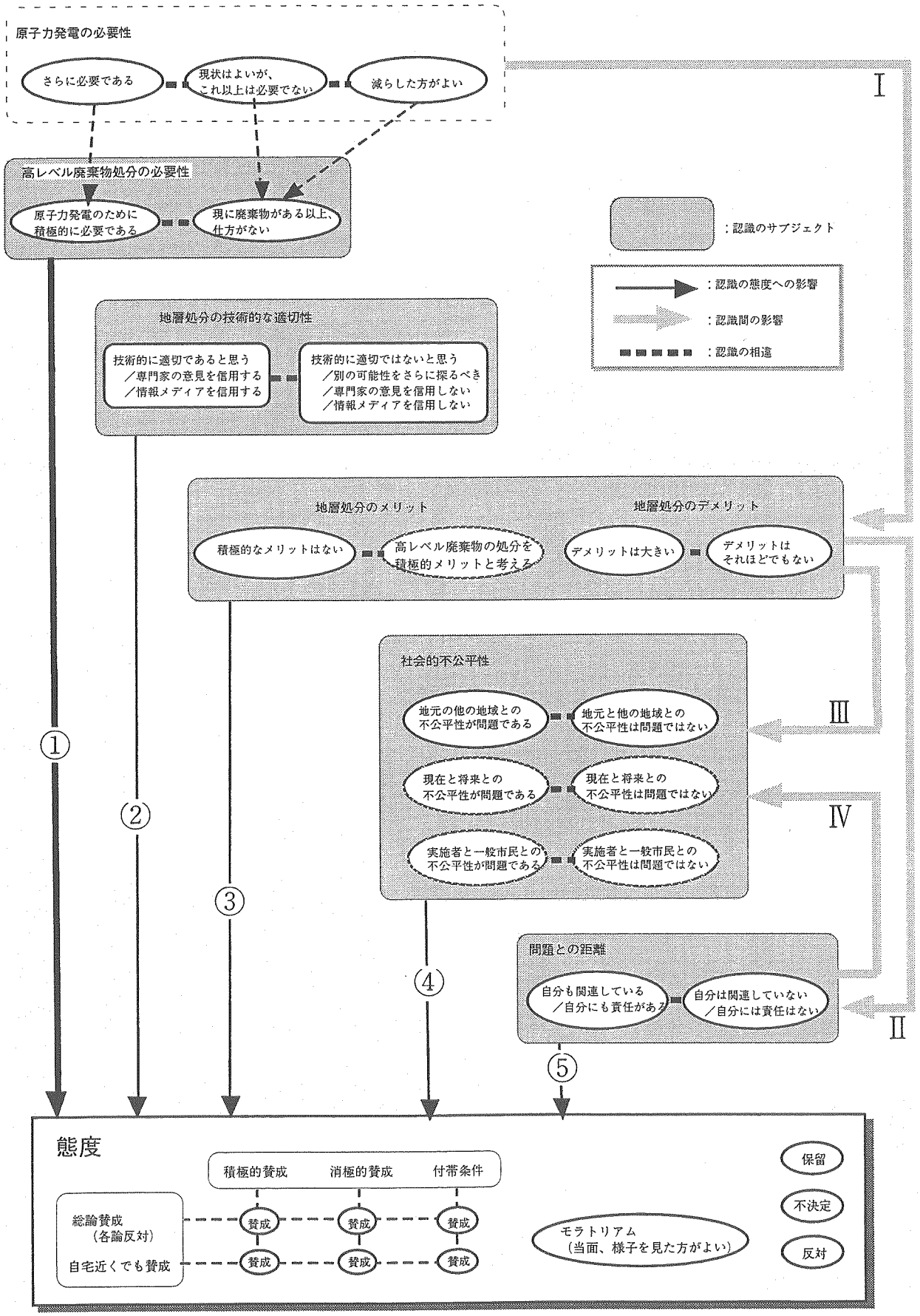



図２－１　問題認識と態度との基本的な関係構造

（１）問題認識と態度との関係、および認識の相違（認識のバラエティ）

①高レベル廃棄物処分の必要性

問題認識の意味：

地層処分にたいする態度を規定する最も支配的な問題認識である。そもそも高レベル廃棄物の処分が不必要であったなら、地層処分に賛成とする態度も極めて希になるであろう。しかしながら実際には、現にやっかいな高レベル廃棄物が存在しているわけであり、少なくとも現在ある高レベル廃棄物を何らかの方法で処分しなければならないことは、ほとんどの人が認めるところである。この必要性の認識は、地層処分の数少ないメリットの認識につながる。

認識の相違：

多くの人にとっては、”現に廃棄物がある以上、仕方がない”というものであろう。また、原子力発電所に積極的な価値を見る人は、高レベル廃棄物の処分に関しても”原子力発電のために積極的に必要である”と考えるであろう。

②原子力発電所の必要性

問題認識の意味：

原子力発電所の必要性の認識は、地層処分に対する態度を形成する上での隠れた問題認識である。”隠れた”というのは、原子力発電所必要性の認識に関わらず、現にある廃棄物を処分しなければならないう認識やその結果（消極的ながらも）賛成の態度を示す点は影響を受けていない。しかし表面的には影響を受けていなくても、メリット、デメリットの判断をはじめとして多くの問題認識や態度にimplicitな影響を与えているものと考えられるからである。この影響の最も重要な点は、高レベル廃棄物必要性の認識を通して、地層処分に積極的に賛成するかどうかの分かれ目となること、地層処分のメリットに積極的な認識を持つこと、の２点に現れる。

認識の相違：

現状では、発電所の建設は”現状維持”か、”減らした方がよい”という意見が多いであろう。また”さらに必要である”とする認識も少なからずあると考えられる。

③地層処分の技術的な適切性

問題認識の意味：

高レベル廃棄物処分の必要性が認められたとして、それをどのような方法で実施するかは、次の段階の問題認識となる。地層処分方式の優位性は、動燃等の研究機関により多く提示されており、一般

公衆はこうした情報提示を信用するか、しないか、の選択を行うことになる。したがって、この問題認識では、技術情報を提示することが認識の重要な改善、促進手段となる。

ここで、地層処分が適切でないと認識されると、態度保留（モラトリアム）につながることになる。

認識の相違：

専門家の意見やそれを提示する情報媒体を信用することにより”地層処分は技術的に適切である”という認識が持たれることになる。またそのような信用が認識されないと、別の可能性もある、という議論につながり、他方式の研究のより精力的な実施や地層処分に対するモラトリアムにつながることになる。

④地層処分のメリット、デメリット

問題認識の意味：

地層処分が技術的に適正であるとしても、処分に伴うメリット、デメリットによって、個人の態度は多様に変化しうる。メリットは、やっかいな高レベル廃棄物を処分できるという、やや消極的なものが主であり、なかなか積極的なメリットは認めにくい。これは賛成が積極的なものであるか、消極的なものであるかに影響を与える。一般的にはメリット感は希薄で、消極的な賛成につながることが多い。デメリット（あるいはリスク）の認識は多様である。代表的なものとして放射線による汚染や環境破壊があげられる。

認識の相違：

メリットに関しては、現にある高レベル廃棄物を仕方がないからなんらかの方法で処分しなければならないと考える人にとっては、”積極的なメリットはない”と認識されるであろう。一方、原子力発電を積極的に支持する人にとっては処分のメリットとしてもより積極的な意味を持つと考えられる。またデメリットとしては放射能汚染や自然破壊など多様な項目がありそれらの影響の認識もまた多様であり、”デメリットは大きい”から”デメリットはそれほどでもない”までの段階を持つ。

⑤社会的公平性

問題認識の意味：

地層処分は、メリット感が希薄で、デメリット感は（多様性があるものの、概して）強い。またこの問題に対する地元以外の一般的公衆の関心は低く、無責任な認識となりやすい。このため、地元ではややもすると貧乏くじという印象が強くもたれやすい。このようにして、実質的なメリット／デメリットのアンバランスと心情的なものから”地元と他の地域との間の”強い不公平感が認識されやす

い。またこれほど強い問題認識ではないが、高レベル廃棄物中に含まれる放射性物質が長期的に残存することから”現在と将来の世代の間の”リスク負担に関する不公平性の認識が存在する。また中央行政が主体となって事業を進めることから”実施者と一般市民との間の”情報や決定権に関する不公平性の認識も問題となるであろう。

これらは、なんらかの付帯条件などにあるか、ややもすると総論賛成／各論反対という性格を持つ態度の形成に大きな影響を及ぼすものと考えられる。

これらの社会的不公平性への認識は、個人の価値観、特に社会に対する価値観や政治意識が大きく影響するものと考えられる。

認識の相違：

”地元と他の地域との間の不公平性”、”現在と将来の世代の間の不公平性”、”実施者と一般市民との間の不公平性”がある。

⑥問題との距離

問題認識の意味：

地層処分に対する基本的な態度を形成する上で、個人の問題との距離感は重要である。距離感は、自分にとって関連のある問題か（ひとごとではないか）、自分にも多少なりとも責任のある問題か、の２つの点で表される。この距離が遠いと、個人の態度は意見の大勢に従うことになる。また地元との不公平感など社会的な緊張関係に関して有効な態度を示すことが難しくなる。高レベル廃棄物を処分することの重要性の認識と、処分問題への距離の近さは、有効な社会的解決策を導く上で重要である。

認識の相違：

”自分も関連している”と考える社会性があるかどうか、”自分にも責任がある”と考える公共性があるかどうかが重要なポイントとなる。”自分との関連”については、一般に認識が低い。”責任”に関しては、自分の責任を強く感じる人は少ないが、逆に国が勝手に高レベル廃棄物を発生させたのであり自分には責任はないとする人はさらに少ない。

（２）問題認識間の関係

①原子力発電と地層処分のメリット／デメリットとの関係

1)原子力発電の積極的支持

原子力発電を積極的に支持し、さらなる発電所の増設の必要性を認識していると、高レベル廃棄物

を処分することも、地層処分の積極的なメリットとして認識されると考えられる。

②地層処分のメリット／デメリットと問題との距離との関係

1)問題における個人の得失

地層処分問題で個人の価値観がどのような影響（得ること、失うこと）を受けるのかは、個人と問題との距離感を規定する上で重要な因子となる。例えば、地元の住民で放射能汚染のリスクを現実的なものとして感じたとすれば、その人の問題との距離はぐっと近いものになる。また都市に住んでいる人でも、行政側の事業の進め方にその人の価値観に反するような（例えば強権的な）姿勢が見られれば、その人は反権力という価値観において問題を近いものと認識するであろう。このため、ここでは個人の世界観や価値観が大きな意味を持っている。

2)地層処分の積極的メリット

地層処分に積極的なメリットを見いだしている人は、多少の社会的不公平の発生には目をつぶる傾向を示すだろう。これは間接的に原子力発電への態度が、社会的公平性の議論に影響を及ぼしていることを示すものである。

③地層処分のメリット／デメリットと社会的不公平性との関係

1)問題における個人の得失

地層処分問題で個人の価値観がどのような影響（得ること、失うこと）を受けるのかは、個人の社会的公平性の認識に大きな影響を及ぼす。例えば、地元の住民で放射能汚染のリスクを現実的なものとして感じたとすれば、そのようなリスクの脅威を受けずに電力の恩恵を享受している都市住人に対して強い不公平感を抱くかもしれない。また処分事業の実施において権力者の強権発動とする考えを抱いた人は、実施者と一般市民との決定権などに対する不公平を認識することになる。

2)地元の人と都会人の見解のギャップ

地層処分のメリット感がだれにとっても希薄であり、一方、地元の住民のリスク（をはじめとするデメリット）負担が過大であるという認識に至れば、地元の都会人との間の認識のギャップという問題が顕在化する。この結果、処分場が建設される地元に住んでいる人にとっては、問題の捉え方が大きく異なると想像される。現在、処分場予定地の”地元”は存在していないので、その意見の傾向を示唆するデータは存在しないが、実験用の施設を建設しようとしてる北海道の幌延町や岐阜の東濃群において、原子力発電所の建設を凌ぐ強さの反対運動が起きていることを考えると、相当な逆風が吹くであろうことは容易に想像できる。

④問題との距離と、社会的不公平性との関係

1)社会性と公共意識

問題との距離は、社会的公平性に関する認識に影響を与える。例えば、公共性の高い人は、行政の強権的な政策には批判的になる一方、住民側の理不尽な反対の主張にも異を唱える大局的な見方をしやすいと考えられる。社会性、公共意識が低いと、社会的不公平性には鈍感となるであろう。

## ２．３　地層処分に関する意識構造モデルの設定

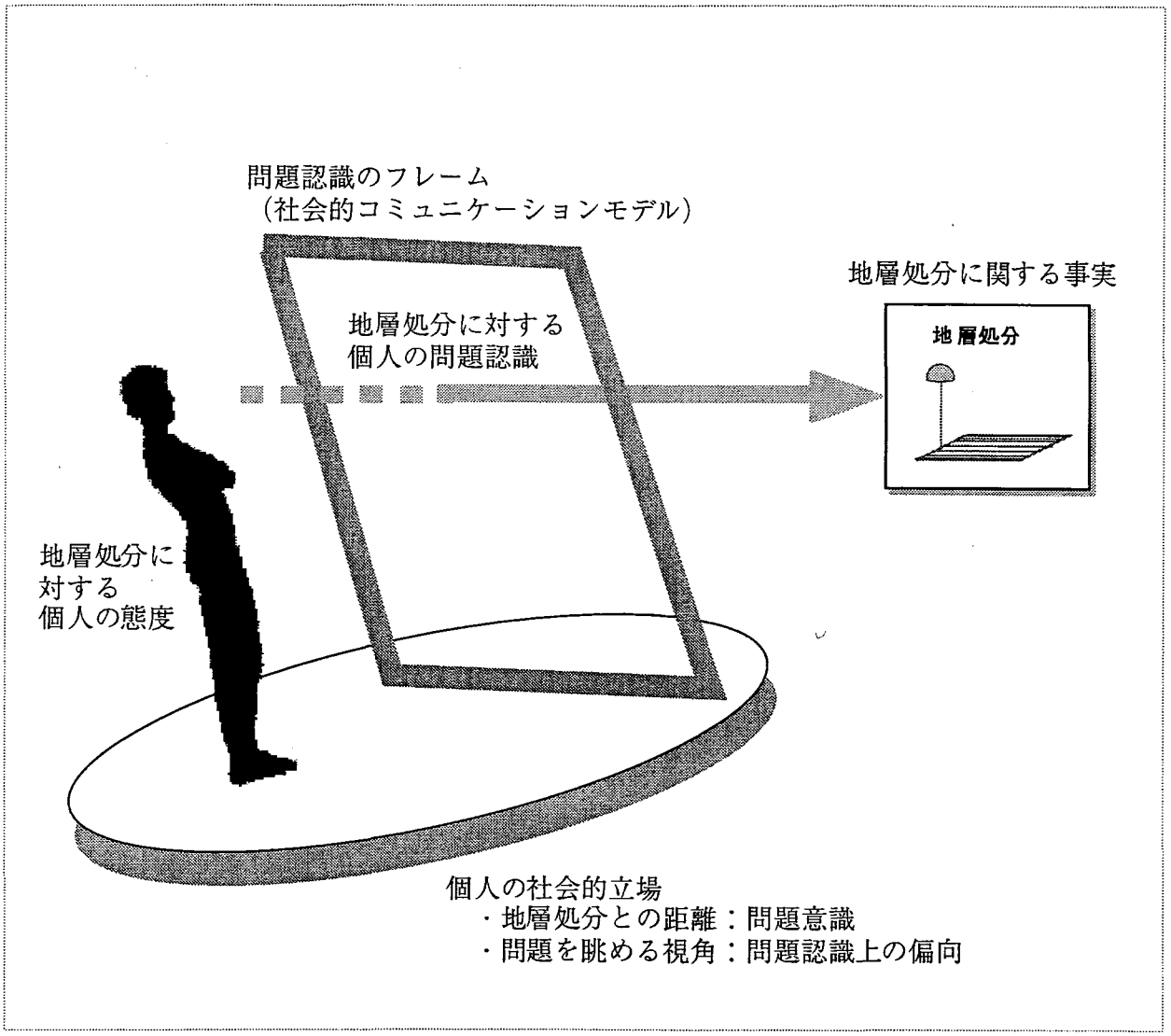
２．２で設定した「問題認識と態度との基本的な関係」は、公衆が地層処分に関してなんらかの判断をした結果をパターン化したものであるので、「なぜ」そのような考え方をするのか、という理由について調べないとそれを改善していくためのコミュニケーション方策は得られない。そこで、「問題認識と態度との基本的な関係」を拡張することにより、問題認識から態度へと至る過程において、理由も含めて表現できるような「意識構造モデル」を設定する。

まず態度について、なんらかの判断にいたるまでの認知段階を含むように拡張した。

次に問題認識についは、表面的に観察できる客観的（理性的）認識だけではなく、より根元的な理由（背景や本音の部分）としての主観的（感情的）認識をも表現できるように拡張した。この際に、問題に関する事実そのものと、その事実を個人が受けとめて印象として持つ問題認識とを混同しないように、事実関係を影響項目として分離した。

また、それらの問題認識には本人の社会的立場が深く影響するものと考え、態度と問題認識に加えて、さらに社会的立場を項目として追加した。

意識構造モデルの構成を概念的に表すと図２－２のようになる。ここで、ある個人は地層処分問題をある距離を隔てた位置から眺めており、この距離感が問題意識の高さに対応する。地層処分問題はある認識フレームを通して眺められるが、このフレーム（個人が社会と接する窓）は、客観的な事実認識だけではなく、主観的感情的な認識のレベルも表現できるように社会的コミュニケーションモデルに基づいて定義されている。なお、個人はまっすぐな姿勢で眺めているのではなく、社会的立場の差によって問題認識上の偏向を持っており、これがフレームを通して認識される地層処分のメリット、デメリットに影響（バイアス）を与える。




個人の意識構造

図２－２　意識構造モデルの概念図

## 2．3．1　態度

問題認識と態度との関係を検討した際には、地層処分に対してなんらかの価値判断を行うことを前提としていたので、その前段階である問題の認知過程は明示していなかった。

地層処分問題の特徴として、地層処分を何処まで自分の問題として考えているか、すなわち問題との距離が重要である。この問題との距離感は、問題の認知過程と密接に関わっているものである。そこで、この距離を；前章のように問題認識としてではなく、問題を認識する過程として捉え態度の拡張として設定する。

地層処分といった極めて公共性の強い技術的社会問題への態度は、個人が問題にどの程度コミットメントしているか、またコミットメントを前提とした上で、どの程度地層処分のメリット／デメリットを評価し、その結果、賛成、反対の判断をするか、というように段階的に区分できる。

このように問題を認識し、コミットしていく過程には、どの程度問題を理解しているか（知っているか）、理解していてどの程度関心があるか、関心があるとしてどの程度問題に取り組む意欲があるか、という流れで、認知、関心、意欲の３段階がある。

また賛成、反対には、消極的（付帯条件付き）、積極的の段階区分がある。

以上の態度類型を図式化すると、次のようになる。

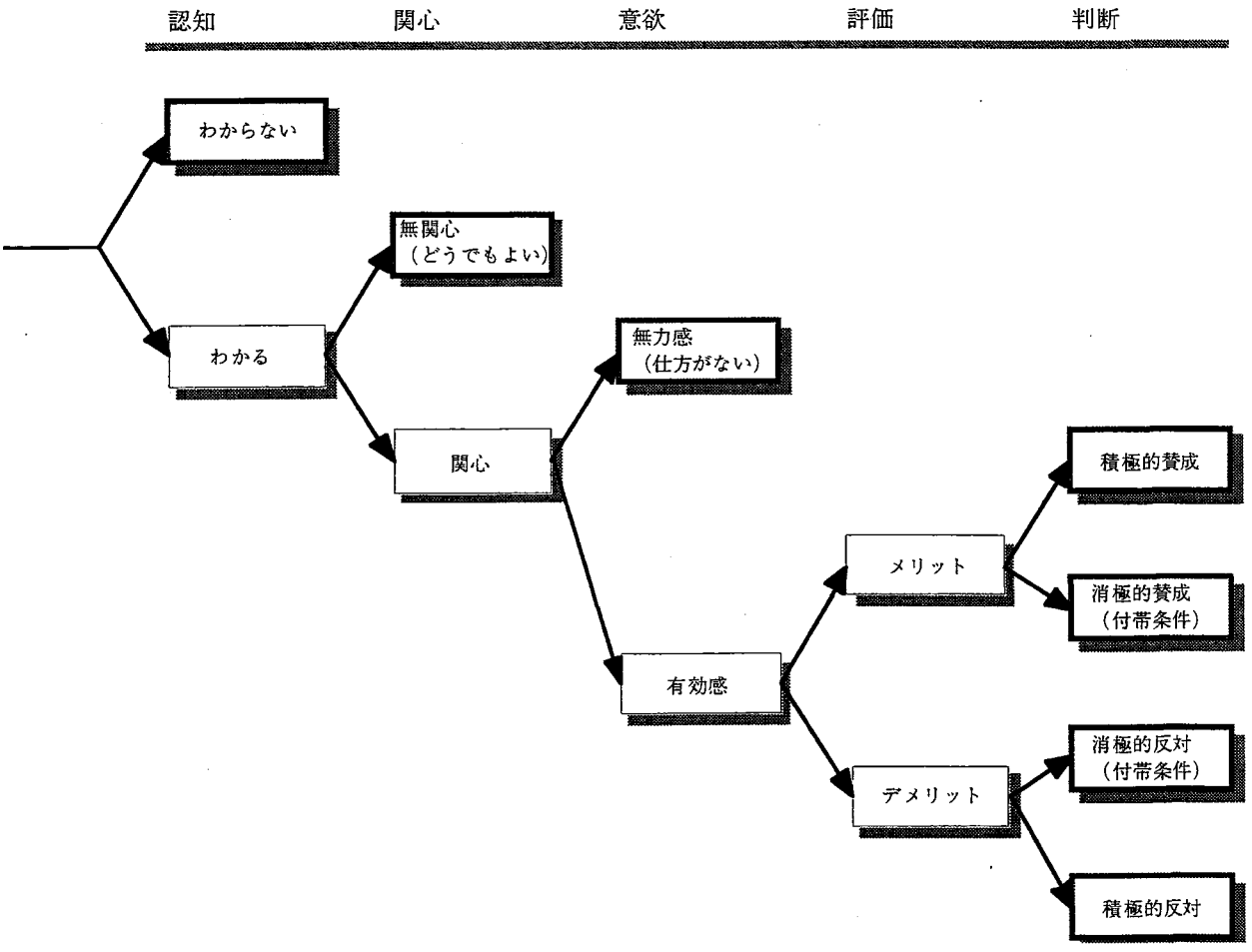



図２－３　地層処分に対する態度の類型

研究が当面の対象としている都市住民に関しては、都市住民が直接問題にコミットしているわけではないので、全般的に「わからない」「無関心」「無力感」といった態度になりがちである。そしてこれらの態度は、その基礎となる社会的立場（社会問題に対する接し方）をそのまま反映したものとなりやすい。例えば、伝統的保守の人は無関心（行政が決めたのならばそれに従う）、私生活保守の人も無関心（私には関係ない）、中流無党派の人は無力感（どうせ私個人ではどうにもならない）などとなる。このように、都市住民の場合は、中間の「問題認識（事実認識）」があまり強く影響せず、それを飛び越えた形で「社会的立場」から「態度」に直結した形となりやすい。

一方で、地元住民の場合は、直接的な利害関係が発生するので、否応なく問題にコミットメントすることになる。そこでは逆に「わからない」「無関心」「無力感」といった態度は少なくなり、「賛成」なり「反対」なりのなんらかの判断を持つものと考えられる。またその判断には、「問題認識（事実認識）」が極めて重要な影響を持つであろう。ここで「社会的立場」の影響としては、共生原理か自律原理かが重要である。共生原理的な志向が強い場合は、社会空間をウチとソトで区別するので、ウチに入ってきた異物（地層処分場）に対する感情的な拒否感が強くもたれるものと予想される。自律原理が強い場合は、公と私の区別をすることになるので、地元においても「公共問題」として比較的客観的な議論が行われるであろう。

### 2．3．2　問題認識

「なぜそのように考えるのか」という観点から地層処分に対する問題認識を調べるためには、表面的な結果である事実関係に関する認識だけではなく、それに潜在的な影響を与える主観的な問題認識のレベルも考慮する必要がある。

本研究では、最近のリスクコミュニケーション研究でとられている「客観的合理的認識」と「主観的感情的認識」との位置づけに対する考え方を導入し、さらにこれを社会的なコミュニケーションメディア（情報、貨幣、権力、権威、物理力）により階層分類することにより、問題認識を主観的なレベルまで表現できるように拡張した。

#### （1）リスクコミュニケーション

一般に人がリスクに対してどのような問題認識をするかは、リスクコミュニケーションの分野で研究されている。最近のリスクコミュニケーション研究で明らかとなったことは、人は必ずしも事実にもとづき客観的で合理的な判断を下しているわけではない、むしろ主観的で感情的な判断が問題認識に潜在的な影響を与えている、したがってこの主観的感情的な判断を考慮しない限りは良好なコミュニケーショ

ンの改善は図れない、というものである。（添付資料Ａ　参照）

（2）社会的コミュニケーションモデルによる主観的問題認識の表現

リスクに対する問題認識など、ある個人が社会におけるできごとを知覚したり、社会問題を認識したり、社会の中で他人とやりとりをしたりするのは、すべて社会的コミュニケーションによる相互作用を通じて行う、と考えられる。社会的な相互作用は、言葉のやりとりなど情報だけではなく、非言語的コミュニケーションメディアによっても行われるので、この相互作用メディアの階層を考えることによって、主観的な問題認識レベルまでを表現することが可能となる。

コミュニケーションとは、狭義には情報を伝達しあうものであり、言葉をやりとりすることによって互いの意思や概念を伝えるが、その結果個人の認識や行動に影響を与えるものであるので、一種の作用力として捉えられる。さらに、「言語」だけではなく社会的コミュニケーションの考え方に基づいて「貨幣」「権力」「敬意」「愛情」などもコミュニケーションメディアであるとして考えれば、それぞれのコミュニケーションのレベル（情報、経済、政治、倫理、生理）においてそれらメディアの作用力が働くとみなせる。（例えば、政治の分野では「権力」がメディアとして作用する。さらに「武力」などは、物理的なレベルにおいて働く社会的な作用力である。多くの場合、言葉以上にこのメディアの影響力は大きい。）

力学系において質点がおかれている状況は、結局、その質点に印加される作用力に帰着するのと同様に、個人がおかれている社会状況も、結局は、個人に及ぼされる社会的な作用力として個人に伝わってくると考える。このため、個人による社会状況の知覚や、社会問題の認識も、個人が直面している社会的な作用力をパラメータとして描き出せるであろう。（ただし、力学系の質点と違うところは、個人には、自分以外の存在を想像できることである。したがって、自分のみならず、自分にとって重要な家族、友人や、少しでも自分と同一化できる他者への影響も、知覚されたり、問題として認識されたりする。つまり、自分が直接接していないものの、隣人になんらかの影響がもたらされている場合、などについても社会問題として認識できる。）

この社会的コミュニケーションの各相互作用レベルにおける問題認識の形態をまとめると表２－６のようになる。（添付資料Ｂ　参照）

表２－６　社会的相互作用における問題認識の形態

| 社会的相互作用の次元 | 相互作用の影響価の値踏み | 影響価の値踏みに関する不確実性の見極め（明白でない値踏みへの信用） | 影響が社会的に妥当だと認識できる相手との社会関係の差 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用（情報、知識、技術） | （対象物に係る）情報、技術の効用 | 事実関係に関する信用、信憑性 | 対等 |
| 経済的相互作用（財、貨幣） | （対象物に係る）経済的効用 | 契約的信用 | 対等 |
| 政治的相互作用 | （対象物に係る）自分の意志の重要性 | 信頼、信義 | 勢力の差 |
| 倫理的相互作用 | （対象物に係る）自分の価値観の重要性 | 敬意、信念 | （自ずから共感される）価値観の優秀性の差 |
| 生理的作用 | （対象物から受ける）自己保存、集団保存に対する物理的影響 | （物理的確率） | （物理的因果関係） |

（３）影響項目

本研究において考えているのは地層処分に関する社会問題であり、個人は地層処分に関する事実からなんらかの影響を受け、問題を認識する。

昨年度整理した、地層処分によりもたらされうる影響項目を図２－４および表２－７に示す。

ここで注意しなければならないのは、上述したように、ここで挙げている影響項目がただちに問題として認識されるのではなくて、社会的コミュニケーションの（合理的ではないかもしれない）フレームを通して主観的に認識されることである。すなわちダイレクトには、「影響項目Ｅ＝問題認識Ｐ」ではない。

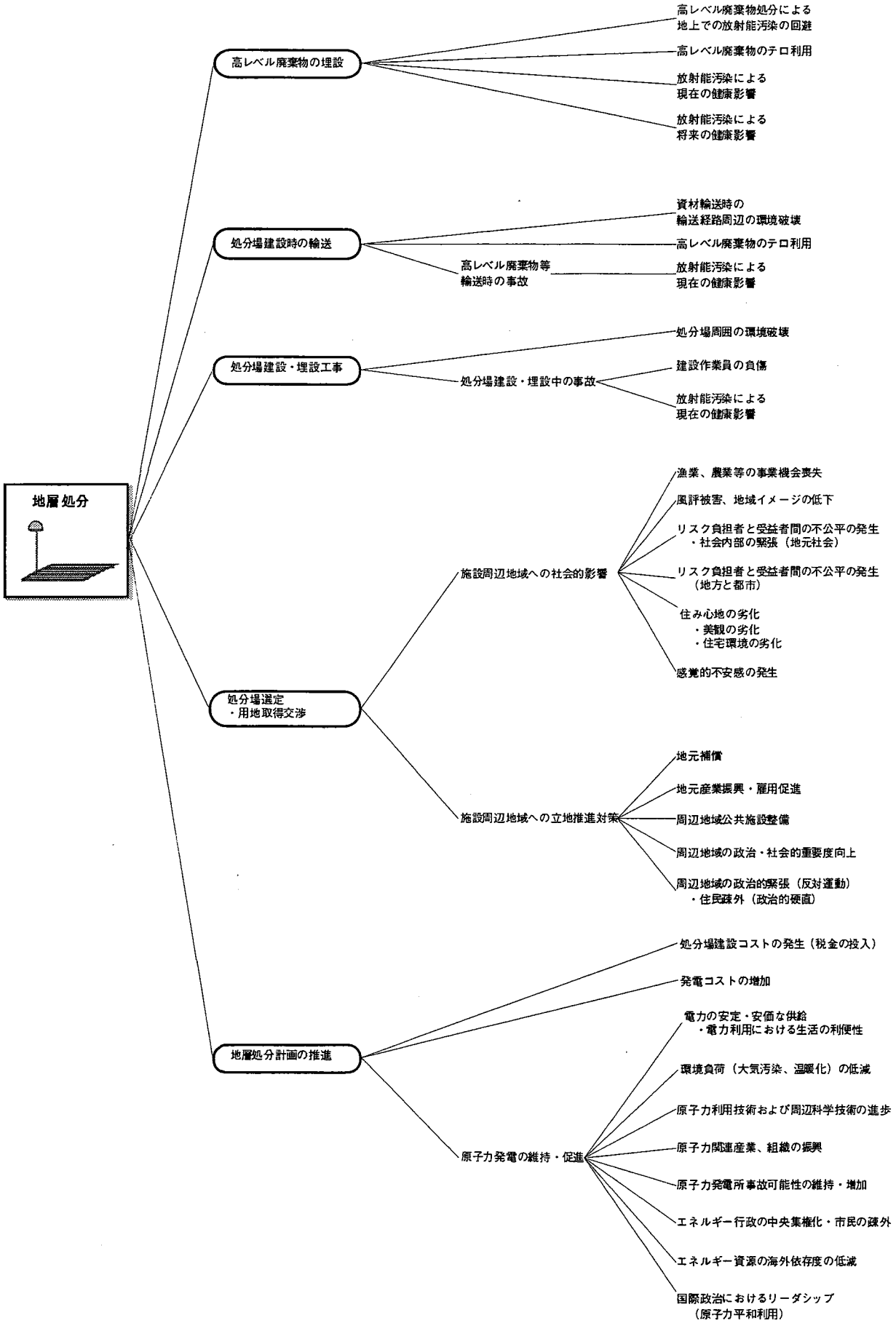

地層処分
高レベル廃棄物の埋設
高レベル廃棄物処分による
地上での放射能汚染の回避
高レベル廃棄物のテロ利用
放射能汚染による
現在の健康影響
放射能汚染による
将来の健康影響
処分場建設時の輸送
資材輸送時の
輸送経路周辺の環境破壊
高レベル廃棄物のテロ利用
高レベル廃棄物等
輸送時の事故
放射能汚染による
現在の健康影響
処分場建設・埋設工事
処分場周囲の環境破壊
処分場建設・埋設中の事故
建設作業員の負傷
放射能汚染による
現在の健康影響
処分場選定
・用地取得交渉
施設周辺地域への社会的影響
漁業、農業等の事業機会喪失
風評被害、地域イメージの低下
リスク負担者と受益者間の不公平の発生
・社会内部の緊張（地元社会）
リスク負担者と受益者間の不公平の発生
（地方と都市）
住み心地の劣化
・美観の劣化
・住宅環境の劣化
感覚的不安感の発生
施設周辺地域への立地推進対策
地元補償
地元産業振興・雇用促進
周辺地域公共施設整備
周辺地域の政治・社会的重要度向上
周辺地域の政治的緊張（反対運動）
・住民疎外（政治的硬直）
地層処分計画の推進
処分場建設コストの発生（税金の投入）
発電コストの増加
原子力発電の維持・促進
電力の安定・安価な供給
・電力利用における生活の利便性
環境負荷（大気汚染、温暖化）の低減
原子力利用技術および周辺科学技術の進歩
原子力関連産業、組織の振興
原子力発電所事故可能性の維持・増加
エネルギー行政の中央集権化・市民の疎外
エネルギー資源の海外依存度の低減
国際政治におけるリーダシップ
（原子力平和利用）

図２－４　影響項目

表２－７　影響項目の整理（事実認識項目）

| 影響を受ける価値の区分 | 周辺地域社会への限定的影響 | 全国レベルでの影響 |
|---|---|---|
| 生存<br>(生命、健康) | ・放射能汚染による現在の健康影響（埋設時）<br>・放射能汚染による将来の健康影響（埋設時）<br>・高レベル廃棄物のテロ利用　（埋設時）<br>・放射能汚染による現在の健康影響（輸送時）<br>・高レベル廃棄物のテロ利用（輸送時）<br>・放射能汚染による現在の健康影響（建設時）<br>・建設作業員の負傷　（建設時） | ・高レベル廃棄物処分による地上での放射能汚染の回避<br>（・放射能汚染による現在の健康影響）＊（埋設時）<br>（・放射能汚染による将来の健康影響）＊（埋設時）<br>・高レベル廃棄物のテロ利用　（埋設時）<br>（・放射能汚染による現在の健康影響）＊（輸送時）<br>・高レベル廃棄物のテロ利用（輸送時）<br>（・放射能汚染による現在の健康影響）＊（建設時）<br>・環境負荷の低減（大気汚染、温暖化）<br>・原子力発電所事故可能性の維持、増加 |
| 生活・環境 | ・資材輸送時の輸送経路周辺の環境破壊<br>・建設時の処分場周辺の環境破壊<br>・住み心地の劣化（美観、住環境）<br>・感覚的不安感の発生 | ・感覚的不安感の発生 |
| 経済・産業 | ・漁業、農業等の事業機会喪失<br>・風評被害、地域イメージの低下<br>・地元補償<br>・地元産業振興、雇用促進<br>・周辺地域公共施設整備 | ・処分場建設コストの発生<br>・発電コストの増加<br>・電力の安定、安価な供給、生活の利便<br>・原子力利用技術および周辺科学技術の　進歩<br>・原子力関連産業、組織の振興 |
| 政治・社会 | ・リスク負担者と受益者間の不公平<br>社会内部の緊張（地元社会）<br>・リスク負担者と受益者間の不公平（地方と都市）<br>・周辺地域の社会、政治的重要度向上<br>・周辺地域の政治的緊張、住民疎外 | ・リスク負担者と受益者間の不公平（地方と都市）<br>・エネルギー行政の中央集権化、市民の　疎外<br>・エネルギー資源の海外依存度の低減<br>・国際政治におけるリーダシップ |

＊：技術的リアリティはないが、社会的リアリティがあるので、リストに含めている

## 2．3．3　社会的立場

地層処分など、公共性が高い一方で個人の生活世界からは遠く隔たっている問題に対する個人の認識は、自分を取り巻いている「社会」というものに対して個人がどのように向き合っているか、という姿勢に大きく影響される。特に、直接的な利害関係を持つことのない大多数の一般公衆にとっては、最近の国政選挙に見られるような無党派、無関心層と同等の態度傾向が、地層処分問題に関するヒヤリングからも見られる。この場合（直接的な利害関係がない場合）、個人の社会問題への関心の高さやスタンスが地層処分に対する態度の大概を決めてしまうと考えられる。

そこで、昨年度の分析枠組みにおいては主観的な価値判断の中の小項目として扱っていた「不特定多数の全体責任」「社会システムの受容」「権威主義／自由人主義」などの、本人の社会、公共に関する基本的な姿勢に関する項目を社会学的な立場から整理し直し、地層処分問題に対する態度に大きな影響を与える「基本的な社会的立場」としてくくりだした。

社会に対する個人の基本的な立場は、個人が子供から大人へと成長し社会化していく過程で獲得する社会化の原理に大きく規定される。また、現代の日本社会は高度に発達したシステム社会であり、個人の生活に利便性をもたらしつつも個人の裁量の余地を奪ってしまうそのようなシステム化された社会の現実とどのように向かい合うか、どの程度距離を保つか、もまた個人の社会的立場を規定する大きな要素となっている。

そこで社会的立場の規定要因として、個人がどのような原理に基づいて社会と接していこうとするか（「社会化の基本戦略」）、またどの程度現実の社会と距離を保つか（「社会への基本的な関わり」）の、２つの軸を用意し、類型化する。

### （１）社会化の基本戦略

社会化とは、自分と他者をどのように関係づけるか、という問題である。自分と他者との関係は、基本的に協調と競争である。したがって適切に社会化していく際、個人が社会とうまく付き合っていく際に用いる基本的な戦略は、他者を信頼し共生していくことと、自律し他者と競争（切磋琢磨）していくことの２種類に分けられる。フロイトの精神分析学によれば、人間は誕生すると、まず母親から他者を信頼し共生していくことを学び、続いて父親から自律し他者と競争することを学ぶことにより、社会的な適応力、社会とうまく付き合っていくための基本戦略を身につけていく。この基本戦略は前者を母性原理と呼び、後者は父性原理と呼ばれる。

母性原理／父性原理の特徴を以下にまとめる。

| | 母性原理 | 父性原理 |
|---|---|---|
| 基本様式 | 包含、同一化 | 区別、差異化 |
| 行動原則 | 平等（わが子は良い子） | 自律、自由、独立（良い子がわが子） |
| | 承認（～してよい） | 規範（～すべき） |
| 人間関係 | 共生、無条件の信頼 | 競争、契約 |
| 病理 | 「甘え」 | 「対立（孤独）」 |

個人の社会化にはこの２つの基本原理が必要であるが、一般にはこれが均衡することはなく、どちらか一方が主要原理となり、他方が副原理となる。また社会全体としてもこの主－副の関係が形成され、個人の社会化原理に大きな影響を与える。例えば、日本をはじめとする東洋の社会文化では、母性原理が主要原理となっている。一方、米国などのキリスト教文化においては逆に父性原理が主要原理となっている。

日本の場合は、このように社会文化的背景として母性原理を基軸としているので、その中におかれた個人の社会化原理は、詳しく見れば、母性／母性と父性／母性となる。当然ながら、伝統的に他人に対する突出を嫌う母性原理で営まれてきた社会においては個人の社会化原理も母性原理が大多数となっている。しかしながら、最近の日本社会では国際化が進む中で、西欧流の個人主義などに影響を受けた父性原理を基軸とする人々もその割合を大きく増やしている。

母性原理を基軸とした日本社会では、無条件の承認が前提とされている「ウチ」と、遠慮が必要となる「ソト」という独特の社会空間が形成されている。この「ウチ」と「ソト」の社会のなかではなかなか自立した行動はとりにくく、また自立した不特定多数の個人の集合である公（public）という概念も希薄である。このような日本社会における社会化や社会意識にかかわる病理として、行政（お上）への過度な依存、甘え、子供っぽい地域エゴ、公共問題への無関心、「長いものには巻かれろ」主義、談合社会などが見られる。

一方で穏やかで安定的に維持される秩序や、いったん社会的な流れが決まったことがらへの恭順、順応、相互信頼の強さなどが、積極的な面として挙げられる。

（２）システム化社会への基本的な関わり

社会への基本的な関わり、あるいは社会との距離の取り方を大別すると、自分がおかれている社会を基本的に受容するか、もしくは批判をするか、のどちらかとなる。特に現代の日本社会を特徴づけるものは「システム化社会」であり、個人の社会への基本的な関わり方は、このシステム化社会を受容する

かどうかにより大きく規定されてくる。

現代の日本社会は他の先進国と同じく、官僚機構や資本主義市場、あるいは情報通信などインフラストラクチャーが高度に発達し各種のサービスが網の目のように張り巡らされている高度システム化社会となっている。システム化社会では、情報、経済、産業、政治システムなどが高度に発達し、細かく分業化され、それらの相互連関が強められている。この高度システム化社会は、生産性など効率の飛躍的上昇、きめの細かい社会サービスの網羅など生活の利便性をもたらす一方で、社会システム自体が自律的に働きはじめ必然的に個人をシステム社会の中に組み込み部品化してしまい個人の実存性を奪い、人間性を疎外することにもなる。また、このようなシステム社会の中では、誰が加害者で誰が被害者なのかが判然としなくなり、モラルの低下や無気力感、無責任感を助長する。

この高度システム化社会の問題は、戦後の工業化、近代化を経て情報化社会、ポストモダン社会へと移行した先進諸国に共通した問題であり、現代社会を特徴づける重要な要素となっている。

最近の社会的犯罪（例えば、オームによる地下鉄サリン事件、米国の連続小包爆弾事件（ユナボマー）など）やイジメなどの社会現象も、システム化社会に対する閉塞感が大きく関与していることが指摘されている。

システム化社会に対する受容と批判の基本的論点をまとめると、次のようになる。

| | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
|---|---|---|
| 合理性 | 経済や意思決定の効率を実現 | 人間の生活世界が植民地化 |
| 個人の自由 | 将来の不安から自由 | 個人の自律的な活動を束縛 |
| 個人の平等 | 機会が均等に与えられる | 個人が競争を強いられる |
| 個人の役割 | 役割分担が細分化し、効率がよい | 社会全体の加害者／被害者が不明瞭 |
| 社会の秩序 | 安定した社会が維持される | 退屈な日常が繰り返される |
| 判断の基準 | 合理性を追求すればよく、明解 | 人間性が希薄化、無意味化される |

（3）社会的立場記述チャート

ある個人の社会的な立場、特に地層処分場など迷惑施設についての公共問題に対する社会的立場は、以上述べた2つの軸、すなわち、社会において共生を重視するか自律を重視するか（社会化の基本原理）と、経済的合理性を追求する現代のシステム化社会に対する受容／批判（社会との基本的な関わり）により特徴づけることができる。この2つの規定要因による類型をチャートとして整理すると、表2－8のようになる。

表2－8　社会的立場

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理<br>(共生原理) | ・*無関心、依存*<br><br>日本的な共生を尊重し、かつシステム化社会を受容している。<br>いわゆる「市井の人」はここに含まれ、「中流層」「無党派層」なども対応する。一般的に行政依存的で公共問題には無関心である。また保守的であるが、伝統的な保守志向や、核家族化し都市生活型のライフスタイルを持った私生活保守的な志向が含まれる。 | ・*無視、シニシズム*<br><br>日本的な共生を尊重しつつ、現状のシステム化社会には批判的である。<br>このような場合、システム化された「ソト」の社会からはなるべく離れて、共生が温存されている「ウチ」にこもるような自己充足的ライフスタイルとなる。一般的に公共問題には無関心でシニカルな態度をとったり無視したりするが、自分の「ウチ」の世界が脅かされる場合には、感情的な反発が生じやすい。 |
| | 父性原理<br>(自律原理) | ・*体制維持*<br><br>日本的な共生関係による縛りつけを嫌い自由を重視し、かつ現代システム化社会の合理性や利便性を肯定的に受けとめている。<br>社会において自由に行動し、社会的な成功を求めるエクゼクティブ志向が強い。現状の社会システムを積極的に維持するという意味で、体制よりとなる。公共問題に関しては（ビジネス的な側面に限定される場合が多いが、）関心は高く、合理的な判断をしようとする。 | ・*革新*<br><br>自立した個人意識が強く、かつ現代システム化社会に批判的であり、合理性では割り切れない人間性を尊重する。<br>独立した自由人として行動し、システム社会の経済的合理性とは別の、脱近代的な価値観を追求する。政治的な体制批判を行う場合もある。公共問題にも関心が高く、体制側が推進する開発には反対する場合が多い。 |

以上のようにある個人の社会的立場は4つの象限に類型化されるが、実際にはそれらのどれかにすっきりと分類されることはなく、中間的な傾向を示すことになる。このように2つの規定要因を座標軸とみなして代表的なライフスタイルや志向を座標平面上に分布させると、図2－5のようになる。図中で三角形のグレー部分は社会、公共問題に対して無関心な態度を持つ領域を示している。

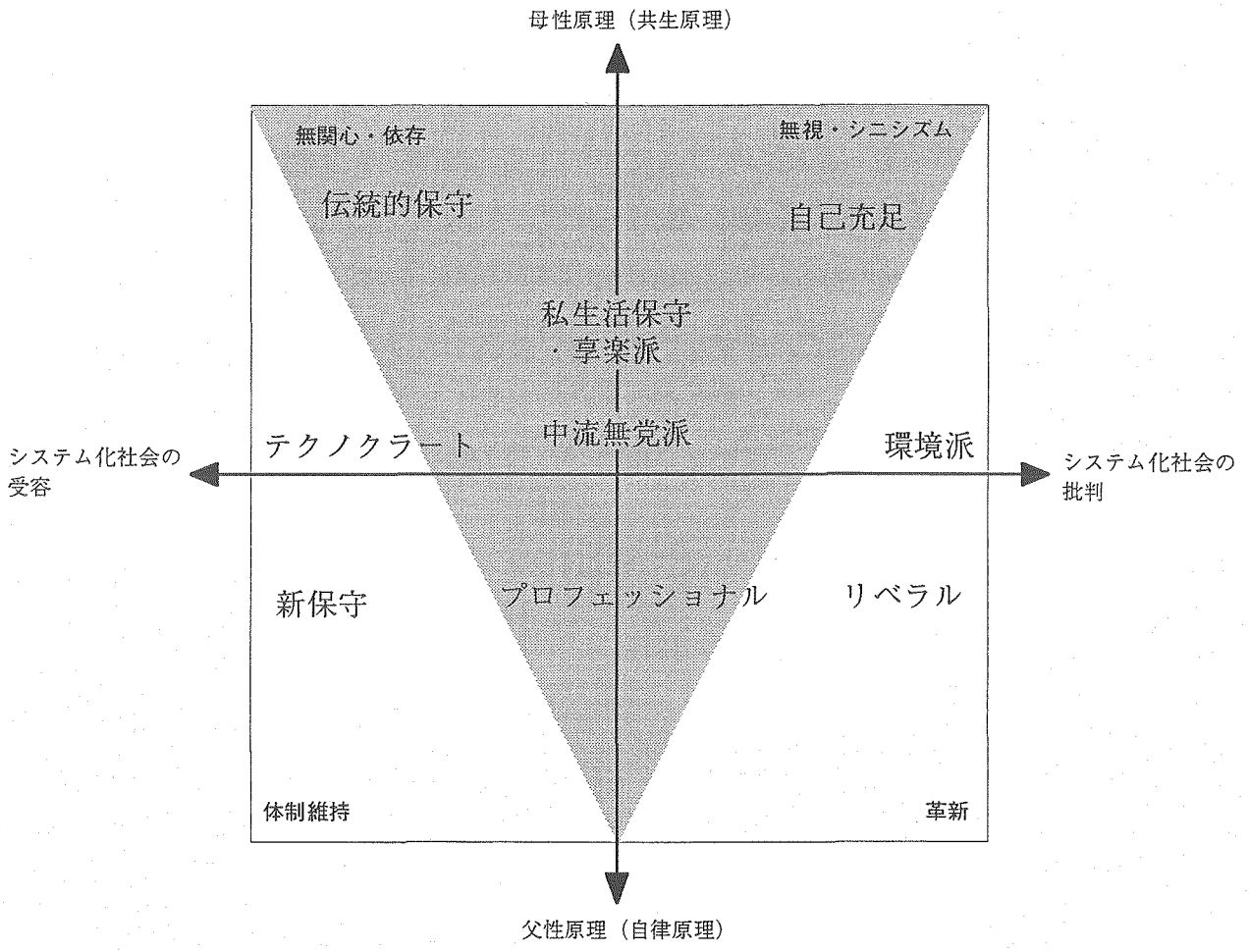



図２－５　社会的立場の４つの象限

図上に示した代表的ライフスタイル、志向について、以下に説明する。

①伝統的保守派

日本の伝統的社会における保守主義である。日本的な価値観を重視し、意見をはっきり述べたり他人から突出したりすることを嫌う。大勢に従順であり、お上志向が強い。このため、公共問題には一般に無関心であり、行政まかせとする傾向がある。

②私生活保守・享楽派

社会が核家族化し、都市生活型のライフスタイルが定着してくる中でうまれてきた保守主義であり私生活の保身に最大の関心を示す。私生活保守では、複雑化した社会生活や政治生活に対する自覚的対応として、私生活に沈潜し、公共生活にたいしては非活動的な生活様式を取る。伝統的保守よりは個人主義的な傾向が強くなっているが、自立志向ではなく、個人的な私生活を大事にしたいという意味で共生志向である。こうした傾向の背景には、集団への献身を重視する伝統文化から個人を開放する日本独特の個人主義的な価値変動がある。また重要性がました私生活にあっては、いかに人生を楽しく送るかと

いう享楽を追求するようになり、社会問題、公共問題には無関心となる。

③中流無党派

私生活保守派と近接した社会的立場にいるが、私生活保守派ほど私生活に沈潜しているわけではなく、そこそこに社会問題や政治問題にも関心を示す。ただし、現状の生活にはそこそこ満足し、特に支持したい政党や政策があるわけではない。一般の大多数の人はここに分類される。システム化社会の恩恵を享受しつつも積極的にシステム化社会に身を委ねているわけではない。

④自己充足派

社会のシステム化、管理社会化に対する若者の反応として、自己充足的、閉鎖的傾向がある。これは私生活派とも近接しているが、システム化社会への批判はより強く、社会を拒否し、自己の内的世界に沈潜する。管理主義、競争主義の社会環境の中で、自分の将来に強い関心を持つ時期にいる若者ほど、厳しい人間疎外の現実に拒否反応や防衛反応を示す。そのようなシステム化社会を少しでも変革しようとするのではなく、多くは、社会の中でのおのれの無力を感じ、他人や社会を無視し、自分の世界に閉じこもる。「オタク」といわれるスタイルもこの中に含まれる。他人を犠牲にしてまで成り上がろうとは思わず偏狭なエゴイズムを拒否するバランス感覚を評価できる面もある。ただし内的世界にとらわれて外的世界との接点を見失ってしまうと、幼児連続殺人、地下鉄サリン事件などのような極端な反社会的行動にいたってしまう場合もある。

⑤テクノクラート

システム化社会を構築している技術者であり、官僚、大企業社員などである。現代システム化社会の合理性や利便性を肯定的に受けとめている。現状では集団志向が強く、どちらかといえば共生的である。基本的には体制維持志向であるが政治的な色彩はそれほど強くなく、無党派層に近い面もある。

⑥新保守派

システム化社会を積極的に受け入れ、合理的、機能的なアプローチで安定し繁栄した社会を構築していこうとする、現代型の保守主義である。自立的であり社会に対する関心も強い。

⑦プロフェッショナル派

自立的であり社会に対する関心も強いが、自身は社会システムに対して距離を置き、客観的に見ている。体制に組みしない中立的立場で専門的な仕事をしている人で、いわゆる評論家的知識人、文化人などがここに含まれる。

⑧リベラル派

自立的であり社会に対する関心が強く、特に現行のシステム化社会の人間疎外的な側面に批判的である。ポストモダニズムの脱物質主義的な傾向を持っている。

⑧環境派

システム化社会への批判が強く、自然回帰志向を持つ。環境問題などには関心が高い。リベラル派と近接しているが、自律的に社会問題に関わり現状を変革していこうとする志向は弱い。田舎暮らしを愛したり、同好のコミュニティを形成したりなど、私生活を重視する傾向もある。

### ２．３．４　意識構造モデルのまとめ

ある個人の、地層処分に対する「態度」は、社会に対する個人の基本的な立場（「社会的立場」）と、その社会的立場に立って眺めた地層処分問題（地層処分に関する事実）に対する「問題認識」によりきまる、と考える。「社会的立場」と「問題認識」の意味関係を整理する枠組みは、認知心理学および社会心理学に基づいた社会的コミュニケーションモデルにより構成する。

この意識構造を表す枠組みの概要を、図２－６に示す。

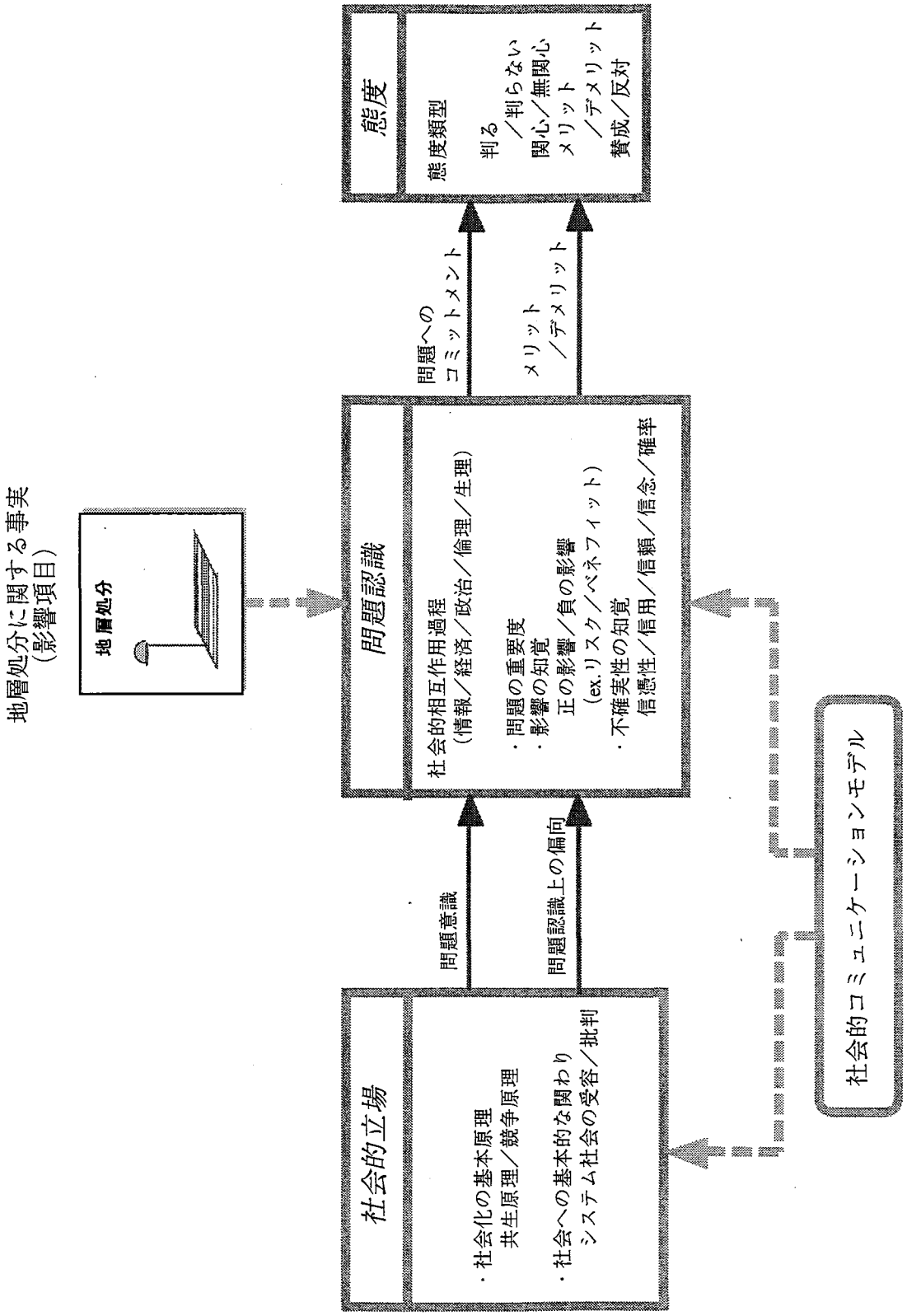

地層処分に関する事実
(影響項目)
地層処分
問題認識
社会的相互作用過程
(情報／経済／政治／倫理／生理)
・問題の重要度
・影響の知覚
正の影響／負の影響
(ex.リスク／ベネフィット)
・不確実性の知覚
信憑性／信用／信頼／信念／確率
態度
態度類型
判る
／判らない
関心／無関心
メリット
／デメリット
賛成／反対
問題へのコミットメント
メリット／デメリット
問題意識
問題認識上の偏向
社会的立場
・社会化の基本原理
共生原理／競争原理
・社会への基本的な関わり
システム社会の受容／批判
社会的コミュニケーションモデル

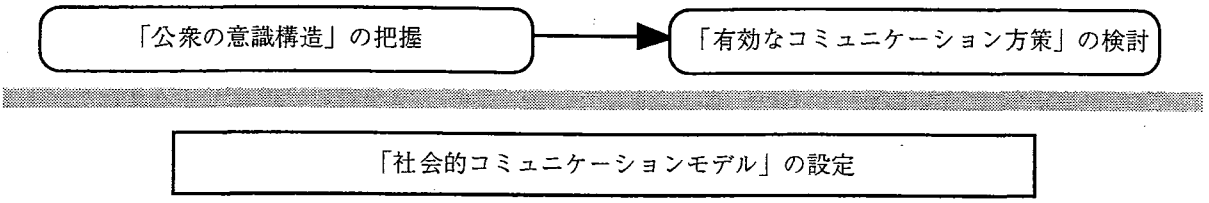
図２－６　意識構造モデル

## 3．コミュニケーションモデルの検証

### 3．1　コミュニケーションモデルに基づいたコミュニケーション方策の検討

本研究の目的は、将来地層処分を実施していく準備として、「地層処分の実施に関して公衆のより良き理解を得ていくためには、どのような情報提供を行えばよいか」という点を念頭に、望ましい情報提供のあり方やコミュニケーション方策を検討するものである。

そのためのアプローチとして、本問題を分析検討する基本的な枠組みとして「社会的コミュニケーションモデル」をベースとして、このうえで「地層処分問題に関する公衆の意識構造」、すなわち一般公衆は地層処分を受け入れる上でどこに引っかかりや疑問点を持つのか、を把握し、次にそのような引っかかりを解消するための「有効なコミュニケーション方策」を検討する、という大きな流れを設定している。




平成８度は「公衆の意識構造」を詳細、正確に把握することを主眼としたが、本年度はこの成果を「有効なコミュニケーション方策」に結びつけるためにどのように意識構造の把握結果を整理、集約するか、を設定しておく必要がある。

本年度は、そのような整理様式でヒヤリング結果を取りまとめ、有効なコミュニケーション方策の検討のための基礎資料とするものである。

「公衆の意識構造」を把握する上での要点をまとめると次のようなる。

①こだわりのポイント（地層処分を受け入れる上でどこに引っかかりや疑問点を持つのか）は、単に情報の内容や経済的便益だけに限られるのではなく、さらに意識構造の深い部分で、意思決定に参加できるか（政治的側面）、自分が充分に尊重されているか（倫理的側面）など多層にわたっている。したがって公衆のこだわりのポイントがどの層に属するものであるかを的確に見極め、それに見合った（拡張された）コミュニケーションを行っていかないと問題の解決にはならない。（例えば、公衆が政治的な決定への参加を望んでいる場合は、聞きおくだけの公聴会はあまり効果がなく、逆に住民投票運動が引き起こされる。）

②地層処分の問題に対し、個人ごとにコミットメントの程度に違いがあり、そのフェーズにより有効な

コミュニケーション方策は異なる。

コミットメントのフェーズには、「認知」「関心」「意欲」「評価」「判断」の５段階があり、例えば「認知」フェーズにおいてはマスメディアによる平明で広範な情報提供が効果的である。一方、「判断」フェーズにおいては、より個人的なやりとりが意味を持つようになり、互いの人格を尊重し、双方向的に敬意を交換することなどが重要なファクターになる。

③公衆は、「社会的な立場」により大まかに分類できる。昨年度の分析において社会的立場の類型としては、大まかには、「類型Ⅰ：私生活主義・公共問題への無関心・行政への甘え、お上主義」、「類型Ⅱ：シニシズム・政治不信」、「類型Ⅲ：脱物質主義・公共問題に関する個人の責任」の３類型が見られた。特に類型Ⅰは、いわゆる無党派層とつらなるマジョリティであり、地層処分に関するコミュニケーショングループとしても重要な位置を占めている。これらの層にどれだけ関心を持たせるか、どれだけ自分たちの問題との認識を醸成するかがコミュニケーション方策を考える上でのポイントとなりうる。

上記のような要点を考慮した上で、的確なコミュニケーション方策を検討していくために公衆の意識構造を整理するには、まず「公衆」を各類型にわけ、類型ごとに各コミットメントのフェーズに沿って本質的に問題となっているコミュニケーション上のポイントを押さえて行くことが有効であると考えられる。

例えば表３－１に示すように整理できる。

表３－１　公衆の意識構造の整理の例

類型Ⅰ：「私生活主義・公共問題への無関心・行政への甘え、お上主義」

| | 認知 | 関心 | 意欲 | 評価 | 判断 |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | 地層処分問題を聞いたことがない | 地層処分問題に興味が持てない | 問題の内容の理解が難しい | 地層処分のメリットを示す情報がない | |
| 経済的相互作用 | | 地層処分問題の必要性や利点が不明 | 地層処分問題はなんの得にもならない | 地層処分に経済的メリットはない | |
| 政治的相互作用 | | | 自分一人が何をいっても変わらない | 地層処分に政治的メリットはない | 公衆に政治的決定権がない |
| 倫理的相互作用 | | | | 地層処分に倫理的メリットはない | 公衆の意見が充分に尊重されていない |
| 生理的相互作用 | | | | 地層処分には生理的な恐怖を感じる | 地層処分には生理的な恐怖を感じる |

## ３．２　他の年齢層へのモデルの適用

本研究では、個別に実施するヒアリングによる意識内容の採取結果を分析し、３．１で述べたコミュニケーションモデル（「公衆の問題認識」の枠組）をベースに地層処分問題に対する態度－問題認識の意識構造を把握し、コミュニケーション方策を検討している。

本年度は、このモデルの適用及びヒヤリング対象を２０～３０代、４０～６０代へと拡張した。本年度のヒアリング方法を説明する。

### ３．２．１　ヒアリングによる確認項目

「公衆の問題認識」の枠組みを用いて、被験者の地層処分問題における態度、影響項目（社会的相互作用）の認知、問題認識のつながりを整理できるように、各回のヒアリングでは次の確認項目を考慮している。

（１）１回目のヒアリング内容

1)地層処分に対する態度

2)地層処分に対する影響項目の認知の有無

（２）２回目のヒアリング内容

1)地層処分問題に対する態度への影響項目

2)問題認識の影響関係

以下に確認項目毎の内容の概略を記す。

（１）１回目のヒアリング内容

1) 地層処分に対する態度の内容

地層処分に対する基本的な態度とそれに至る関心、意欲、評価、判断の内容

2) 地層処分に対する影響項目の認知の有無

地層処分問題に対する態度に直接関わる以下の項目の内容

①地層処分のメリット、デメリット（社会的重要性／個人的重要性）

②地層処分技術の適切性

③地層処分問題と自分との直接的あるいは間接的距離

④NIMBY問題の認識

（2）2回目のヒアリング内容

1) 地層処分問題に対する態度への影響項目

①影響の大きさを表現する以下の項目に係わる内容

・情報的影響

・経済的影響

・政治的影響

・倫理的影響

・生理的影響

②影響項目の不確実性を表現する以下の項目に係わる内容

・信憑性

・信用

・信頼

・信念

・確率

③影響項目に対する社会的妥当性を表現する以下の項目に係わる内容

・対等性

・勢力差

・価値観の優位性

・因果関係

2) 影響項目の関係

被験者の地層処分の問題認識における(3)の項目の影響する対象と内容さらには、項目間相互の影響関係

①対象

・個人、家族、社会全体、立地地域（仮定）住民

②影響内容

・好影響、悪影響

③影響項目間の相互の関係

### 3．2．2　ヒアリング方法

（1）第1回ヒアリング方法

”なぜ(why)”や”どのように(how)”という疑問詞で本人の考えを掘り起こしていくが、この段階ではあまり厳密な枠をはめずに、分析者が重要だと思う観点で多様な意味の”なぜ”や”どのように”を使用して、問題を深めていく。

認知－関心－意欲－評価－判断の過程（意味ネットワーク）を把握することと、より多くの影響項目を聞き出すことに徹する。

ヒヤリングは原則的に、被験者のフリーハンドによる詳述を基本とするが、前述した確認項目については、確実にヒアリングするため、手順として、まず地層処分問題に対する態度を聞くことから始め、この結果から、態度への影響項目をフリートーキングにより、聞き取っていく。それぞれのヒアリングは、以下のように行っている。

①［地層処分に対する態度］に関するヒアリング方法

質問内容：地層処分とは、どのようなものか、今後どのように進めていこうとしているのかの解説について理解していることを確認した上で、「地層処分をやっていくことに賛成か、反対か」の意見を聞く。

前提条件：地方に処分場を建設するとして、東京に在住している現在の自身の立場そのままで答えてもらう。

留意点　：認知－関心－意欲－評価－判断の態度類型が分類できるように、個々の段階で放棄、不決定、保留、条件付き賛成／反対、中立、賛成／反対を答えてもらう。特に、放棄、不決定、中立は、「よく判りません」という同一の言葉で表現されるので、注意深く分類する必要がある。

②影響項目のヒアリング（例：地層処分のメリット／デメリット（影響項目の認知））

質問内容：地層処分への態度を確認した上で、判断を下した理由を聞き取る。その際に、”地層処分をするとどのような良いことがあるのか、あるいは悪いことがあるのか、また反対に地層処分を行わないとどのような良いことがあるのか、あるいは悪いことがあるのか”を思いつくままに答えてもらう。

前提条件：良いこと、悪いことは、具体的なことがらでも、漠然とした感覚的なことがらでも、被験者が感じたままを一通り列挙してもらう。

留意点　：このヒアリングでは、地層処分問題の認識の程度と態度に影響している項目およびその影響の程度（大きさ、確実性）を導き出すためのものであるため、出来るだけ、広い範囲かつ深く、判断の理由をヒアリングしていく。

（2）第２回ヒアリング方法

第２回ヒアリングでは、第１回のヒアリング結果を分析して抽出した影響項目を手がかりとし、それらが、予め想定した表３－２に示す枠組みの中でどのように分類されるのかを詳しく聞いていく。ただし、影響項目の抽出に当たっては、分析者の恣意が入り込む可能性が高く、注意を要する。また、被験者にとって本当に態度に影響する項目であるのかを確認しておかなければならない。

このため、抽出の根拠として収集された”言及内容”と影響項目とを対応付け、その結果を被験者に提示することにより、被験者の認識に沿ったものであるかどうかの確認も行う。その上で、上記の確認項目に関する詳細な被験者の意識内容の調査を進めていき、より分析の客観性を高めていく。

表３－２　地層処分問題に対する公衆の認識を分析する枠組み

| 影響対象（例　個人） | 影響項目の知覚 | 問題の重要度 | 不確実性の知覚 | 問題の重要度 | 社会的妥当性の知覚 | 問題の重要度 | 他の問題要素との相関関係、備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 影響関係<br><br>好影響<br>or<br>悪影響 | 情報的影響項目 | | 信憑性 | | 対等性 | | |
| | 経済的影響項目 | | 信用 | | 対等性 | | |
| | 政治的影響項目 | | 信頼 | | 勢力差 | | |
| | 倫理的影響項目 | | 信念 | | 価値観の優位性 | | |
| | 生理的影響項目 | | 確率 | | （因果関係） | | |

第２回目のヒヤリングは、表３－２に抽出した影響項目を書き込み、これを分析者と被験者が見ながら、ヒアリングを進めていく。ヒアリングの方法は、以下の通りである。

①地層処分問題に対する態度への影響項目に関するヒアリング

i)地層処分に対する意見について、第１回のヒアリングを記述した意味ネットワークのチャートを再提示し、地層処分問題への認識を再活性化する。

ii)地層処分に対する対象者の態度への影響項目を記した表を示し、前回のチャートと対比させながら、被験者に項目の位置づけの確認を採る。位置づけに対して、被験者から変更あるいは疑問が出た場合は、被験者の意見をそのまま表に反映する。

iii)影響項目の表中での位置づけの理由（判断根拠）について、質問を行う。質問は、第１回のヒアリング同様に、”なぜ(why)”や”どのように(how)”という関係代名詞で、本人の判断過程を詳細に掘り起こしていく。

iv)表中の影響項目について、次の質問を行う。

・影響の大きさの知覚の欄に位置づけられた影響項目については、影響の大きさを聞き取り、重要度という尺度に置き換えて表す。尺度は、相対的な基準（大、中、小）とする。

・不確実性の欄の項目については、不確実性と感じる程度を重要度という尺度で聞き取る。

・社会的妥当性の欄の項目は、妥当性が高いと感じられる程度を重要度という尺度で聞き取る。

②影響項目の関係のヒアリング

表中に位置づけた各影響項目について、それが（家族も含めて）被験者自身に影響するものか、それとも、被験者だけでなく帰属する社会全体（一般公衆）にも影響するものか、あるいは処分場が建設される立地地域の住民に影響するものかを聞き取る。同時に、その影響の内容は、影響対象者にとって、好ましいものとなるのか、悪しきものとなるのかも質問する。

最後に、影響項目の間に関連が有ると思われる場合は、その関係の種類（例えば、従属、連結、対立、双補等）と強さについても聞き取っておく。

## 3．3　ヒヤリング結果の分析

### 3．3．1　ヒアリング結果

（1）第1回目ヒアリング結果

表3－3にヒアリング対象者のリストを示す。第1回目のヒヤリングにて採取した、地層処分問題に関する意味ネットワークのチャートの例を男女1ケースづつ図3－1、図3－2に示す。なお、他のヒアリング対象者の意味ネットワークのチャートは、添付資料Cに記載した。

表3－3　ヒアリング対象者リスト

| 属性 | 氏名 | 年齢 | 住所 | 職業 | | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 本人 | 世帯主 | |
| 20代独身男性 | | 28 | 中野区中央 | 会社員（金融） | | |
| | | 22 | 練馬区関町 | 大学生 | | |
| | | 24 | 杉並区和泉 | 会社員（ｻｰﾋﾞｽ） | | |
| | | 25 | 三鷹市中原 | 会社員（出版） | | |
| 20代独身女性 | | 23 | 大田区石川町 | 会社員（保険） | | |
| | | 25 | 世田谷区上北沢 | 会社員（派遣） | | |
| | | 26 | 渋谷区神宮前 | デザイナー | | |
| | | 28 | 練馬区南田中 | 会社員（金融） | | |
| | | 29 | 埼玉県大宮市 | 会社員（金融） | | |
| 40代以上男性 | | 46 | 調布市下石原 | 会社員（不動産） | | |
| | | 54 | 杉並区清水 | 会社員（金融） | | |
| | | 56 | 世田谷区上用賀 | 会社員（？） | | |
| | | 43 | 新宿区高田馬場 | 会社員（食品） | | |
| 40代以上女性 | | 45 | 世田谷区梅ヶ丘 | 主婦 | 会社員（商社） | |
| | | 48 | 目黒区柿の木坂 | 主婦 | 会社員（教育） | |
| | | 55 | 稲城市向陽台 | 主婦 | 会社員（不動産） | |
| | | 63 | 世田谷区松原 | 主婦 | 本人 | |

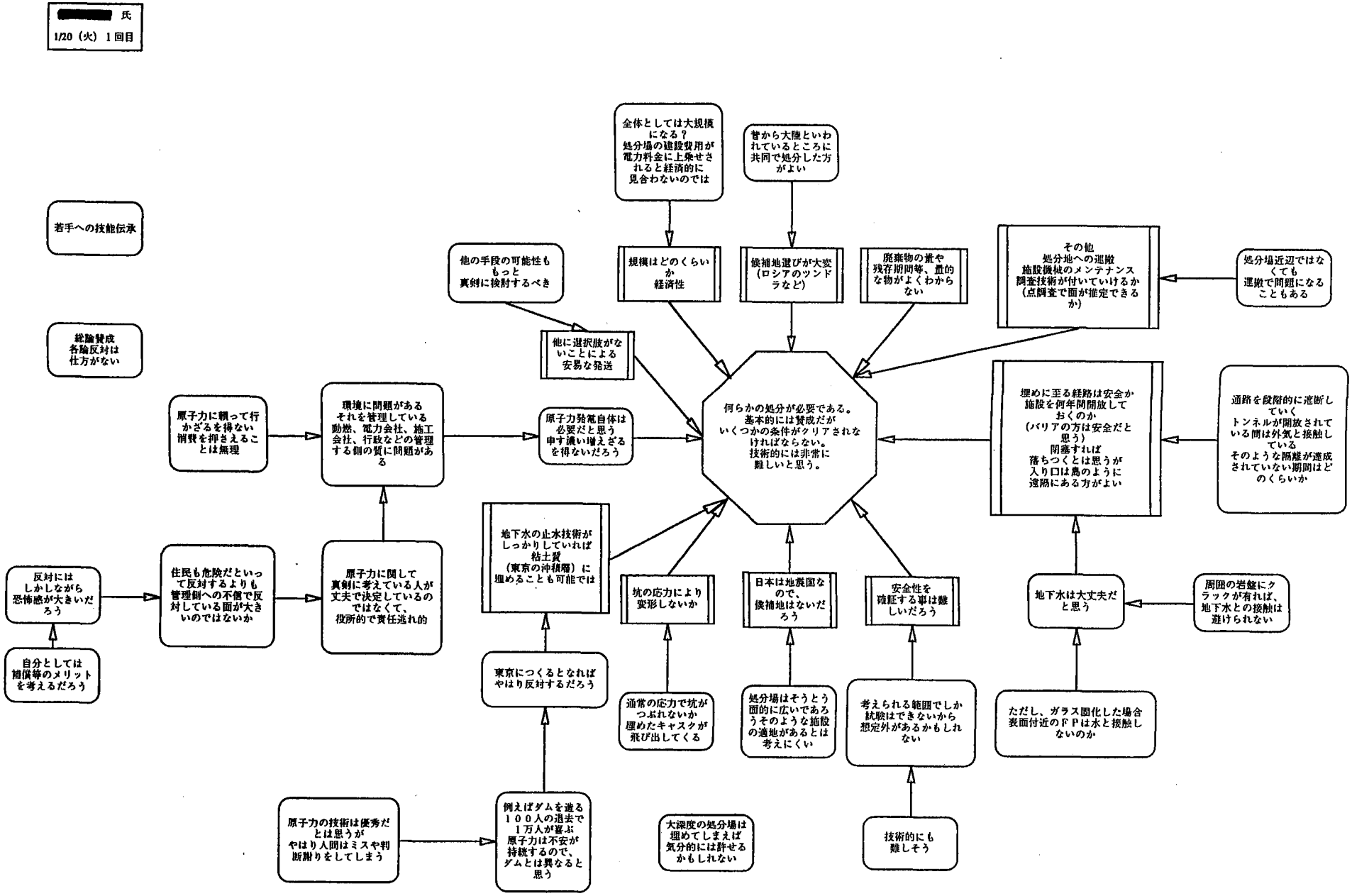



図３－１　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート（男性）

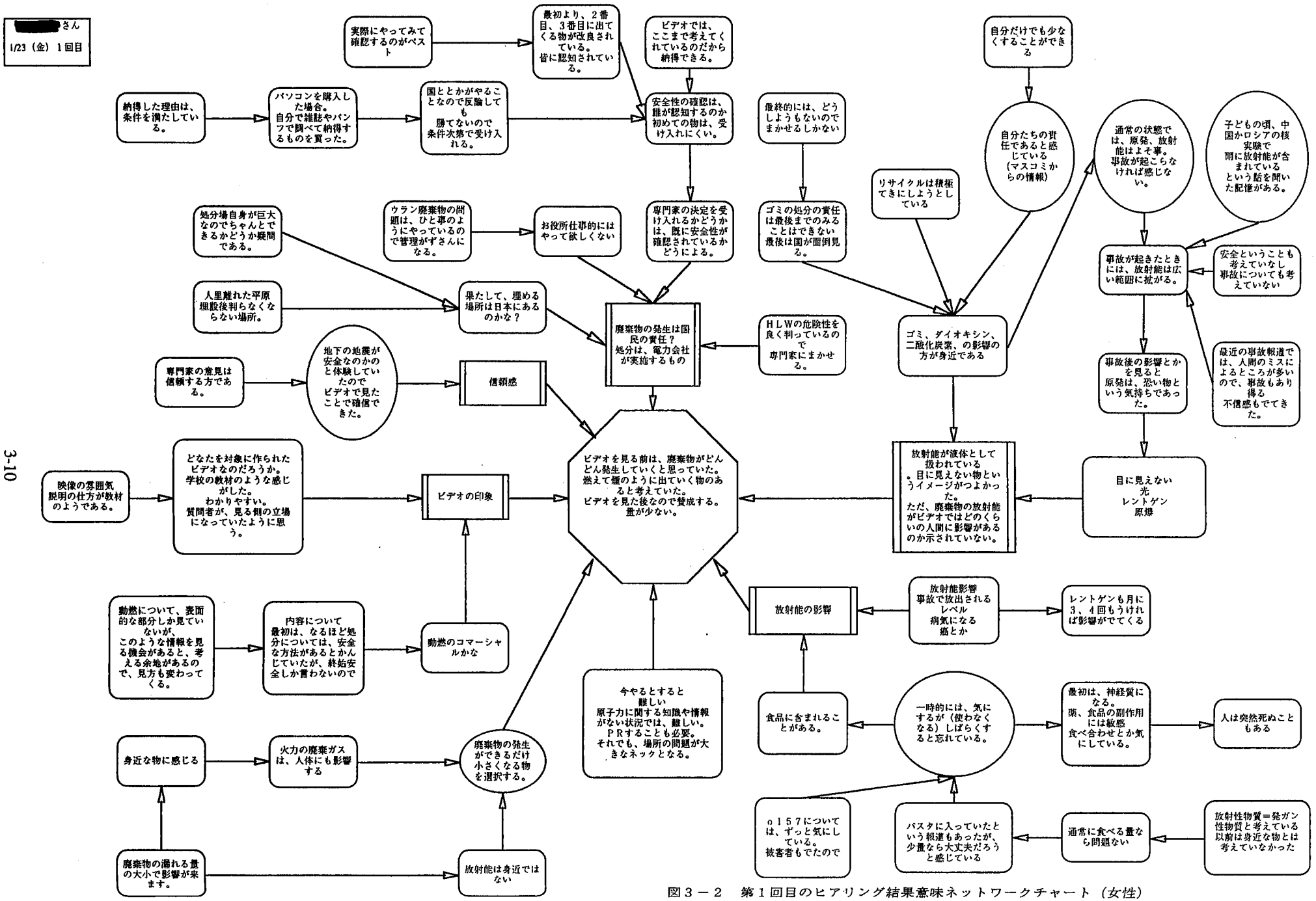



図３－２　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート（女性）

（2）第2回目ヒヤリング

第2回目のヒヤリング内容の1例を以下に示す。

河合　地層処分、やった方がいいか、やらない方がいいかについてまずどういうふうに考えますか。

A　いまのところではやった方がいいとも、やらない方がいいとも言えない状態で、それはなぜかと言えばやっぱりどうしてもいくら安全とはいえ、いくらどれだけ研究とか開発が進んでいるとはいえ、やっぱり放射能とか原子力とかやっぱりそれに伴う危険というののイメージというのがまだ拭いきれないことと、あとやった方がいいというよりはやらなきゃしょうがないのかなという感じがします。もうゴミという地球の環境とかというのはわりにどこでも言われていますけど、実際自分自身でも気をつけていることというのは、例えば燃えるゴミと燃えないゴミを分けるとかそういうことぐらいで、すごい強い関心を抱いているわけではないので、結局ゴミというのは日常生活で毎日毎日どんどん出しちゃうものなので、きっとそういうふうに思わない人も他にたくさんいると思うので、ゴミはこれからたくさん増え続けていくんだろうなということを想像すると、もうこれぐらいのことをしないとしかたがないのかなとか、あと電気の消費量とかもどんどん増えているわけですよね、クーラーとか使ったり。だからそういうことを考えると、これぐらい開発を進めていかないと、ある程度のやっぱりツケじゃないけれども危険だって思っているイメージを自分の中で背負っていかないと暮らしていけないのかなという感じはします。

河合　わかりました。まずいまは判断できないというのは、いまのご意見うかがうとどちらかというと……。

A　やった方がいいというか……。

河合　やらざるを得ないのかなという気がしますが、いまのところどちらとも言えないというのはどういうところからそうさせるんですかね。

A　問題がやっぱり大きな問題なので、地層処分という問題はとても大きな問題なんだけれども、身近で考えれば十分考えられる問題で、結構個人レベルの問題ですよね。例えばそういう電気のなんとかとか。「塵も積もれば山となる」みたいなそういう感じがするので。まず自分自身からそういう地球の環境とか、そういったゴミ処理問題とかそういうのを考えていかなければいけないんですけれども、結局はたくさんの人が考えないといけない問題ですよね。でもそのたくさんの人の意見をまとめたり、たくさんの人の行動をまとめたりするのはとても大変なことですよね。

河合　はい。

A　でもたくさんの人が気をつけなければ電気の消費量とかも減っていかないし、ゴミも減っていか

ないし。となるとやっぱり地層処分とかそういう開発を進めていかなければもうしかたがないのかなと思うと、本当にツケが回ってきちゃったのかなと。電気とかお水とかそういうものは、特に私が生まれてからは日常生活の中でいつも当たり前のようにあったので、本当に溢れるように――タダとまでは……。ちゃんとお金を払っているのでタダとまでは言わないですけれども、困ったことがないので、とりあえず。だから余計に知らず知らずのうちに無駄使いをしたりとか。便利な部分というのは科学とか開発とかが進んだ光の部分のイメージがあるんですけど。

河合　光の何？

A　光のイメージがあるんですけど。こういう例えば地層処分とかになると、どうしても単語的に「放射能」とかそういう単語が目に入ってくるので、陰の部分に見えるんですけど。なんか後始末的な感じがするんですけど。だから今日このビデオを見ていて、具体的に陰の部分だというか。

河合　陰の部分としての印象はどうですかね。

A　結局例えば「安全だ。安全だ」と言われても、どこまで安全なのかとかというのはわからない。私たちにもわからないですけど、これから例えば私たちもそういう意見とか話とかには耳を傾けたり、関心を持たなきゃいけないと思うんですけれども、これからそういう例えば私みたいに「放射能」とかって聞くとちょっと悪いイメージを持っているような人たちに対して、どこまでオープンにいろんな情報を出してくれるのかなというのが興味があって。例えば「これだけ研究しました」とか、あと「これだけいままで実験を繰り返してきました。でもだからこそもう大丈夫です。この地層処分を進めても安全に暮らしていけるんです」ということを言われても、不安を隠しきれない人もいるんだろうなというのは……。

河合　その不安な気持ちというのはどういうふうにすれば改善されるというか、不安が解消されるんですかね。

A　私が……。

河合　というのは、原子力の技術者というのは別に危険なところを隠しているわけではなくて、非常にいろいろ努力をして安全性というのをすごく確かめて、安全なものとして原子力を進めているんだけれども、「なかなかそういってもイメージがあるので、安全ですと言っても、不安に感じることはしょうがない」と言われてしまうともうそれで終わってしまうと。だから「いろいろ情報公開をしましょう」とか、「実験はこういう実験をしてこういうことを確かめました」ということを伝えても、「なかなか不安なものは不安だ」と言われてしまうと終わってしまう。そうしたらじゃあどうすればいいのかなというのが迷ってしまうんです。

A　そうですよね。

河合　ええ。そこら辺はどう思いますか。

A　自分自身としては、例えば原子力とか放射能とか、どうしてもチェルノブイリの原発事故とかを思い出してしまうので、いままでその単語に関してはイメージがあんまりよくなかったんですけれど、ただこの地層処分に関してはあまり別に不安には自分自身は思ってはいないんです。

河合　というのはなんでしょうか。

A　今日ここに来て、こういうビデオを見て、ああいうふうに説明を受ければ、「ああ、そうなんだ」と納得できる部分があるし、あとはやっぱりそこまで――そこまでというか、あそこまで例えばお金をかけたり研究をしたりして処分というものを考えていかないともう無理なところまで来ているんだなと思うので、なのであまりそういう不安というのは……。

河合　ここはちょっとおもしろいと思うんですけど、相当お金を注ぎ込んである大々的な研究をやって、そういうある程度無理をしなきゃいけないところまで来ているというのは、逆に言えば不安になる方が大きいような気がするんだけど、そういう不安を感じないというのはなんでですか。

A　不安というよりは、諦めに近いんですけど。

河合　諦めに近い。

A　うん。

河合　何を諦めるんでしょうね。

A　最近――最近というか、たまに私がやっている仕事っていうのが和紙の紙すきとかをやっていて、その前にはアロマテラピーという、例えば香りとか自然療法みたいな、わりとそういう自然ものを扱うような仕事を知らない間に自分で選んでいたんですけど。ただ私自身はずっとずっと都会に住んでいて、やっぱり便利さの中でずっと暮らしていたので、環境問題と例えば科学の進化とかそういう大きな問題じゃなくて、自分の問題として自然と進化というものの折り合いみたいなものをずっと考えていて、一方ではやっぱりなるべく、例えばゴミとかも昔は土に返っていくような燃えるようなゴミとかが多かったわけですよね。そういう自然とかがやっぱり残っていればいいなとか思う反面、もう自分自身も例えば携帯電話を使ったりとか、夏暑ければクーラーをつけたりしてしまっているので、自分自身でも正直言うとその辺のバランスみたいなのが取れなくて。最近は例えばエコロジーとか、あと自然はいいとか、自然に帰ろうとか、昔からの生活を取り戻そうとかという意見はたくさんありますけど、でも実際100パーセントそうなってしまったら、いまの人はきっと生きていけないと思うので。

河合　……昔の自然な暮らしに戻そうとすると、それも無理だと感じていると。その辺が一種の諦めというか……。

A　だから自然も残しながら、やっぱり昔からの例えば知恵とか自然とか、そういう伝わってきているようなものというのは見直されてもいい分野だと思う反面、やっぱり一度進化をしてしまったらそこからはなかなか抜けられないというのがあって。だからわりと――よくわからないんですけれど――極端な話が多いというか、エコロジーとかの。実際やっぱり皆自動車とか日常生活の中でそういう進化というのはもうたくさん使っているし、浸透しているので。

河合　そういう極端なことを言っている人は、じゃあ本当に自動車を使わないのかとか、電気を使ってないのかというと、そうでもないような気がして、やっぱり進化で使える部分を使っているということは認めていかなきゃいけないだろうなと。

A　結局そうやって自分が進化とか、そういう自動車とか電気とかそういうものを使っていっているということは、やっぱり……。そういうだから光の部分を使っているということは、やっぱり陰の部分もきちんと見つめていかなければいけないのかなというイメージが……。私自身がそうだと思うんですけれど、その地層処分についてとかそういう問題についてきちんと見ていかないと、何が安全なのかとか、例えば何が危険なのかとか、本当にそれこそ自分の中で何を不安に思っているのかとか、危険なイメージとかをどうして拭いされないのかとかそういうことが見えてこないので、自分自身がその地層問題とかそういうのをちゃんと見つめていかないとやっぱりこれからはいけないなと。そうしないと不安な部分がいつまでも漠然としたままになってしまうので。

河合　いまの原子力発電所というのは安全だと思いますか。

A　前にちょっとだけそういう原子力発電みたいな本を読んだことがあるんですけど。

河合　本当に。

A　ええ。日本では別に例えば放射能が漏れたとか、そういう事故は一つもない。自分自身が原子力発電所の近くに住んでいるわけではないので、余計に――もちろん日本のことだし、もし何かが起こった時には自分の身にも振りかかってくることだし、例えば自分の子供とかにも何か危険なものが伝わってしまうのかもしれないけれども、いままで事故が一つもないとか、そういう裏付けだとか、あとは自分が原子力発電所の近くに住んでいないということから原子力発電に関しての不安というのはなかったんです。その本を読んでいて一番思ったのは、もし自分が住んでいる近くに原子力発電所が作られるという話になった時に、本当にそういう意味では身近な問題として痛切に感じた時に、自分自身が本当にはどう思うのかなと思って。発電所が建つのに反対するのか、賛成するのか。結局その時に思ったことが、安全だと思いながらも、やっぱりどこかでできれば近くにはされたくないなと。結局さっきの話じゃないんですけれども、ちゃんと知識がちゃんとないのでいつも漠然とした不安とかを拭いきることができないんだなというのを今日ちょっと思いました。そこ

で思ってしまうのが、きっとそういう地球の環境問題とかゴミ処理問題とか大きな問題としてはニュースで聞いたり見たりする人というのはたくさんいると思うんですけれど、本当に積極的に自分から情報を集めたりとか、知識を得たいなと思う人というのがどれぐらいいるのかなというか。結局そういう人たちが自分から見たり聞いたり、自分の方から積極的に能動的に動いていかないと、きっといつまで経っても漠然とした不安を抱えている人がいっぱいいるんだろうなと思って。

河合　どうしたらよろしいでしょうか。

A　それはそうなんですよね。

河合　もっと宣伝をする。

A　でも例えば宣伝をするということとして、一番アピールしやすいのというのはテレビなわけですよね。そうするとまたテレビとかを使うということは電力とかをもっと消費することになるわけですよね。そのテレビを皆に見てもらわないとしょうがないというわけですよね。とかいろいろ考えてしまうと、本当に進化していくことというのはどうやったらいい具合にバランスが取れるのかなと思って。昔からあるようなものとか、自然のものとか。

河合　そうすると一番初めのところに戻りますけれども、賛成か反対か、いまは何とも言えないと。というのは詳しく聞いてみると、ただそうやっても大がかりな処分をしなければいけない時期に来ているのかなという一種の諦めみたいなものがあるけれども、でもまだどちらとも言えないというのは、いま言われたような進化とのバランスをどう取っていいかどうかまだ自分としてもわかってないから、それで何とも言えないというところにつながるんですか。

A　そうですね。

河合　そう書いていい？

A　（笑）

河合　それとも何かあるのかな、また。

A　いえ。そうですね。知識がなくて具体的なことがきちんとわかっていないと、本当に遠い大きな問題としてしか地層処分とかも捉えられないので、その辺が一番自分としてはいまの時点ではもどかしいというか、これをどう自分の中で取り入れていけばいいんだろうというか。

河合　そうしたら例えばあんまり原子力発電所とかを地方にばっかり押しつけちゃって、そういう進化の面というか、電気を使うのは東京でばっかり使っていて、それは地元の人にとっては非常に反感あるというので、やっぱり一番恩恵に預かっている東京にじゃあ地層にそうやって処分をしましょうと、埋めましょうと。Aさんの近くにそれが作られることになった場合はどうですかね。遠い問題ではなくて……。

A　近い問題ですよね。

河合　ええ。

A　原子力発電所がさっき作られる時に自分としてはどうするんだろうと言っていたんですけど、一回いまその話を聞いて、きっと自分の近くに地層処分の場所があったとしても、多分住み続けると思います。というのはもういままで自分が住んでいた場所とか、いままでの暮らしとか、本当に便利さが身に染みついちゃっているので。

河合　それはあったとしてもというか、「これから作らせてください」という話があったらどうします？

A　多分反対しないと思います。これからですよね。

河合　本当に？

A　だから少しずつ話していると、自分の中でも矛盾が生じちゃうんですけど。

河合　そうだよね。こういう問題はだからこそ問題として出てくるわけだからさ。そこで聞きたい一つは、その場合に原子力発電所と地層処分場だと、同じ近くに作られるという話であっても、違いは何かあります？それとも同じようなイメージがありますか。

A　なんかすごく単純に考えてしまうと、原子力発電というのは地上にあるわけですよね。だからものすごく目に入ってくるじゃないですか、発電所というものが。その目に見えてしまうものをいつも信じてしまうのはよくないことなんですけれど、やっぱりどうしても目に飛び込んでくると何かしら思ってしまう、想像してしまうので。ただ地層処分というと、地下に隠れてしまってそんなに露出がないじゃないですか。だからよっぽど地下にもぐっているということはいつもいつも自分に想像を張りめぐらさない限り、なんかすごく身近な例えば問題としては考えられなさそうな気がしてしまいます。あと自分である程度諦めているというと言葉が悪いんですけれど、諦めてしまっていると言ったのは、例えばそんなにたくさん読んだわけじゃないですけれど、地球の環境問題みたいな本を読んでも、結局結論というのが何なのかよくわからなくて、これからじゃあどうしていけばいいのかというのがわからないので、だからいつもそういう本とかを読んでも、問題を投げかけられている一方のような気がして。そうなってくると、とりあえず自分ぐらいは何かを気をつけなきゃと思うんですけれど、自分ができることぐらいは何かやらなきゃなと思うんですけれど、結局は毎日の生活を振り返ると本当に自動車乗ったりとか、自分で例えば運転しなくてもタクシー乗ったり電車乗ったり、そういうやっぱり便利さを切り離しては自分の生活は成り立たないことに気がつくと、そうするとなんかいつもそこで諦めが生じてしまうんです。

河合　わりと環境問題の本を読んだりするのは好きですか。

A　環境問題の本を読んだり……。そうですね、好きというほどではないですけれど、ただ自分自身がやっている仕事、和紙の紙すきとかそういうことをやっていると、ふとした時に、このままでいいのかなというか、そういうふうに思う時にはちょっと読んでみようかなと思うんですよ。

河合　例えばさっき原子力発電に関する本もちょっと読んだことがあるということでしたけども、どういう本ですか。

A　それは原子力発電ということで書かれた本ではなくて、日常の中で溢れている目に見えない危険のようなものに関して書かれた本なんですけれど、例えば薬だとか皆普段信じて安心して普通に飲んじゃっているけれども、こういう副作用というのもあるんだとか、そういう本を読んだ時にちょっとだけその原子力発電所について出てきました。

河合　ただその時にそれを読んでも、その原子力発電に対してはいままで日本では事故もなかったし、不安ではないなと印象として思ったと。

A　そうですね。なんか不安とか不安じゃないとか、例えばそういう地層処分とかも賛成とか反対とか、そういうことを言っていられないほど皆電気を使ったり、ゴミを出したりしているんだなというイメージを持ってしまったんですけど。

だから地層処分にしても、自分自身が研究とか開発に直接携わっているわけではないし、例えば本当に絶対に安全なように研究開発が進められて、それでＯＫが出てこの地層処分がこれから行われるようになったとしても、例えば本当に本当に100パーセントということってなかなかあり得ないじゃないですか。もしかしたらとか、万が一とか、ほんのちょっとの不安というのはきっと拭いきれない気がするんですよ。自分が直接そうやって携わっているわけではないから。でもほんのちょっと不安を持っていたとしても、もう地層処分とかそういうある程度の自分が想像できないような大きな進化みたいなものには委ねてもいいかなという気もして。自分の中にある例えば本当に少しのちょっとの不安を拭いさるのは、多分もう理屈とか情報とかということではなくて、諦めなのかなというのが……。

河合　そうですよね。よく虎の檻とかの話あるけど、マンションの隣で虎を飼っている人がいて、「絶対安全なんだ。檻が何重にもなっていて絶対きちんと管理するから、他に逃げ出すことは絶対ないし、いままでもなかった。だから大丈夫ですよ」と言われても、隣に住んでいたらやっぱりなんか不安が残りますよね。その場合にそういう不安はもう理屈じゃないから、進化のことを考えれば……。

A　そう。虎だったら、食べられちゃったらその時はその時かな。そういう感じにも諦め……。

河合　そういうのっていうのはわりとＡさんの年代の人たちというのはいまそういうふうに感じてい

るかな。他の人のことはわからないんだけど、どうなのかな。

A　どうなんでしょうね。

河合　もっと年配の人で、Aさんのお母さんぐらいの年代の人というのは不安なものは不安なのか、それは絶対嫌だとか、そういう傾向というのはわりとあるんだけれども、もうちょっと達観しているというか、そういうことって周りの同年代の人たちを見ていてもそういう傾向ってありそう？

A　そうですね。例えばこういう問題を同年代で話し合った時に、結局こういうことに、例えば大きく言えば地球環境みたいなことに興味がある人というのは大体同じような感覚を持っているんじゃないかと思うんですけど。

河合　本当に？

A　うん。

河合　さっき話も出たけどね。環境問題とかに興味のある人というのはわりと話は極端に聞きがちで、絶対農薬を使った食べ物は食べないとか、だからこういう原子力の問題なんかもとにかくダメなものはダメという感じになりがちなんだけども、逆に例えばこういう環境問題とかそういうのはあんまり関心がないという人は結構多いと思うんだけど、関心がある人というのはわりと、でもまあ現に便利な世の中でそういう進化したものというのを自然に使っちゃっているし、それはもう使わないわけにはいかないんだから、ある部分はそれは認めていかなきゃ、諦めていかなきゃいけないというふうな感じ方をしているのでしょうか。

A　あと私がアロマテラピーをやっていた時に、結局は自然のものですよね、アロマテラピーというのは。それでやっぱり農薬を使っていないお花の香りがいいとか、そういうどっちかというとエコロジーっぽい考え方で、それが嫌で仕事を辞めたんですよ、私。

河合　エコロジー的に染まっているというか……。

A　例えば農薬を付いた食べ物を例えば食べたくないとか、すごく偏りがちで、それがすごく息苦しくなってしまって。

河合　そういうのにのめり込んでいく人も多いですよね。

A　います。

河合　同年代でも多い？そういう人多い？

A　同年代はあんまりいないですね。

河合　もっと冷めているというか、光と陰の部分、両方見るような冷めたところがあるわけですね。

A　うん。

河合　おもしろいですね。どのぐらいの人がやっぱりのめり込むのですかね。もうちょっと上の年代

の人が多い？

A　そうですね。上の年代の人。でもアロマテラピーをやっていた時は接客もしていましたし、あと教えることも少ししていたんですけれど、ほとんどの人はのめり込んでいましたね、年代を問わず。それはきっと元々の性格としてどこかアンバランスな感じがあって、なんか何かに頼らないと生きていけないというのが見られたんですけど。だから多々アロマテラピーというと体にいいことのような気がするけれども、結局はアル中と変わらないような気がして、それがないと生きていけない体になっているというか。でも実際そんな例えばアロマテラピーだとか、そういう農薬の付いてない食べ物とか、そんなのばっかり食べてなくても生きている人はいっぱいいるわけですよね。ちゃんと長生きして健康な人もいっぱいいるわけだし。逆に自然自然と思う方が逆に不健康のような気がして、そればっかり求めていくというのは。

河合　それはアロマテラピーがないと生きていけないというぐらいのアンバランスさというのは、ちょっと前のオウム真理教みたいなああいう感じに近い？

A　そうですね。

河合　それは最近はどうなのかな。そういうのって下火になっているかな。それともまだ――ちょっと離れちゃっているのかもしれないけど――まだそういう傾向というのは続いているのかな。

A　アロマテラピーに限ったことじゃないんですけれど、その辺からは健康ブームになっているので。結局いまでも健康ブームって続いていて、○○をやると健康になるとか、××を飲むと体にいいとか聞くと、やっぱり皆買っちゃったり売れちゃったりとかしているみたいなんで。でも結局そういうのはそういうその場の思いつきで飲んだりやったりしても意味がないことで、本当に維持していかなければいけないことだし、でもそれを維持していくにはとても大変なことですよね。その維持していくということに関して、普通にしていける人ならいいんですけれども、私がその仕事をしていた時に思ったのは、結構皆無理して維持していこうとしている傾向があって、だからそれが私にはとても不健康なことのように思えて、逆にストレスがたまらないのかなとずっと思っていたんですけど。でも結局そのアロマテラピーとかも、結局自分たちがそのアロマテラピーに使うようなお花の香りとかを使うということは、それだけ植物が切り取られていくということなわけだから、結局ある程度自然を破壊しているわけですよね。と思うとなんか必ずやっぱり物事には光と陰があるんだなと思って。だから進化と自然もそうだけれど、光と陰とかそういうもののバランスというのがうまく取れれば自分でも一番いいのになと思いながら、どこでバランスを取っていくかの答えがいまは何も見つかってないですけど。

河合　そういう光と陰の意識というのは、また繰り返しになっちゃうけれども、わりとそういう考え

方をする人というのは同年代では多いですか？

A　そうですね。

河合　だから物事というのはやっぱり悪いところもいいところもあって、何がいいかというのは一概に言えないと。

A　うん。

河合　そういうちょっと冷めているというか。

A　同年代は、でも私たちより上の世代に比べればやっぱりきっと多いんだと思います。光と陰だけじゃなくて、例えば死ぬこととか生きることとか、わりと反対にあるような言葉というのは実は裏表の関係で一緒のものなんだというような傾向は多分あると思います。だからどっちも抱えて生きていかなきゃいけないのかなというような考え方は多分あって、きっと私たちの世代とかはそれをどう自分の中で取り込んでいくか悩んでいるような世代のような気がするんですけど。ちょうど自分たちが生きてきた時代が進化も知っているし、いまのわりと流れとかブームとかがエコロジーだったり、自然を求める環境だったり、そういう風潮がずっとあったので、皆なんとなくは口には出したりしなくても、そういうきっと問題は皆抱えている気はするんですけど。

河合　こういうエコロジーの話とかというのは友達同志で話したりすることというのはありますか？

A　ほとんどないですね。

河合　それでその陰のイメージですね。地層処分……。いまの便利さの部分というのは光の部分だけども、地層処分というのは後始末的なイメージとか、陰のイメージがあるということだけど、さっき話に出ていましたけど、原子力発電所と地層処分となるとイメージに差があります？

A　でもそんなにないですね、やっぱり。

河合　どちらもやっぱり陰のイメージとして。

A　そうですね。進化の結果みたいなイメージがあります。原子力発電というか、電気を発電するのに例えば石炭とかを燃料にしていると二酸化炭素が出てしまってよく地球温暖化に関わるとかって言いますよね。

河合　そうですね。

A　結局原子力というか、そういうものを用いて電気を発電することによって例えば少しでも地球温暖化を防ごうとか、明るいイメージもあるじゃないですか。ちゃんとそういう明るい話もちゃんとあるんだけれども、原子力とかというのはすごい熱を持っているわけですよね。その熱をちゃんと利用するという意味では再利用とか、エコロジー的な考え方もあるわけですよね。そのちゃんと明るい部分もあるんだけれども、きっと陰のイメージとして映ってしまうのは、放射能とか原子力と

いうものが、その言葉が持っているきっとイメージ、単なる自分の中にあるイメージと、あと「いままで事故がありません」とか、あと「これだけ安全です」と言われても、本当にこの先どうなるのかわからないというきっと漠然とした不安。それはきっとチェルノブイリとかの原発事故とかを知らなければ「ああ、そうなんだ。便利なものなんだ。いいものなんだ」と思いそうなんですけれど、日本でなくても世界のどこかでそういう事件があって、そういう自分の中に情報としてきっとすり込まれちゃっている部分があるので、そういう将来に対する漠然とした不安というのはきっとどこかにあるんだろうなと。

河合　その明るいイメージですけど、これは温暖化にはつながらないと。あと何か、明るいイメージって？

A　あとはだから……。

河合　熱の再利用。

A　再利用です。

河合　そういう話というのはどこで聞くわけですか、明るいイメージ。なかなか原子力って新聞なんかでも悪いイメージの方を言いがちだと思うんだけども。

A　それは小さい子供向けに書いた物理とか化学の本があって、それは原子力ということだけじゃなくて、多分原子とかそういう本当に物理をやるにあたってとか、化学をやるにあたってとかの科学の基礎的な知識の部分で、「結局最終的に原子力とかというのはこういうふうにいまはちゃんと利用されているんです」というので多分読んだんだと思うんですけど。だからその時に思ったおもしろいなと思ったのは、わりと子供向けには明るいイメージというか、危険な部分というのは絶対に書いてなくて、わりと大人向けっぽい本になるとどうしても、明るい部分もちょっとは書いてあったりするけれど、絶対に暗い部分もその明るいことに関するリスクみたいなのも書いてあって、結局書いている人も最終的にはだからどうしたいのかとか、どうなっていったらいいのかという結論が見いだせないまま、いまある事実を提示されて終わっているという感じがあって。

河合　そうすると火力と原子力と、どっちがいいと思いますか。

A　火力というのは石炭とかそういうものですか。

河合　石炭とか石油とかね。

A　逆にいまとなってしまえば、その石炭とか石油を燃やすと二酸化炭素が排出されて地球温暖化になるという、火力にすると暗い話しか聞かないんですよ。そこに逆に石油とか石炭とかの火力で発電するいい部分を知りたいんですけど、そのいい部分というのはあるんでしょうか。

河合　それはＡさんの感じ方としてですけど。

A　どっちがいいかということですか。原子力発電の方が……。

河合　それと安全を十分確かめてというか、研究なんかもしっかりやって安全を極めてほしいということなんですが、それに対してはそういうふうにちゃんとしっかりやってくれると思いますか、それともちょっとあんまり「しっかり安全だ」と言っても信用できないなと思いますかね。

A　それは思っています。

河合　信用……。

A　信用できると思っています。

河合　それはなんででしょうかね。

A　それは身近でそうやって研究して、身近にいる人だからこそ多分どれだけ危険かとか、こうすればどれだけ安全なのかというのは一番きっと目に見えて研究していく上でわかっていくと思うので。結局そういう身近にいればこの例えば地層処分とかというのは本当に自分自身の問題なんだって研究者の人は思いそうな気がするんで。あとは自分自身が研究していたとしたら、やっぱり自分が研究しているということに対して、危ないからこそ自信を持って「ちゃんと安全なんだ」と言えるところまできちんと研究を進めたいなと思うので、きっと研究者の人もそう思っている気がするので、だからある程度公開されている情報は嘘はないんだろうなという気はします。

河合　この間の「もんじゅ」の話とかってどう思います？

A　ああ、なんかありましたよね。火災じゃなくて何か原子力発電のやつでしたっけ？

河合　ナトリウムというのが漏れちゃったんだけども、それをあまりちゃんと外に出してなかったということです。それで出した情報には嘘はないんだけども、そういうもうちょっと現場を捉えた生々しいビデオはそういったものはないというふうに隠しちゃったというそういう意味で嘘はついていたと。ああいうのはどう思います？

A　なるべく真実とか、生々しかったとしても本当の映像は個人的には流してほしいとは思いますけれど、ただ変に不安を煽り立てるというのもありますよね、反面では。だから自分自身としてはやっぱりちゃんと情報は流してほしいし、ニュースは本当になるべく真実に近いことを流してほしいですけれど。

河合　じゃあああいう対応の気持ちみたいなのもわかると。

A　うん。

河合　いたずらに不安を……。誤解されたくなかったとか。

A　うん。そこで真実について事件が大きい小さいで測ってはいけないんですけれど、まして大きい事件だったらなおさらなるべくきちんとした真実は伝えてほしいけれど、逆に大きい事件だからこ

そ皆が何かしら不安を持ってしまうということもありますから。だから真実を伝えてほしいという気持ちの方が強いけれども、ほんの何パーセントだけかはきっとそういう不安とかを恐れて、パニックとかを恐れて隠しちゃったのかなと。

河合　新聞の報道とかはどう思いますか。原子力に限らず、一般的に。

A　それは嘘か本当かということですか。

河合　まあ、そうね。とか、報道する姿勢とか。

A　一応自分としては報道されたことというのは、新聞とか鵜呑みにしますけど、でもどこかで「全部本当なのかな」って疑っている部分はあります。

河合　さっきの話の続きとして何かありますかね。ちょっと漠然と聞きますけれども。

A　さっきの話って何の話でしたっけ？

河合　地層処分の話。全体としてもう一回振り返ってみて、「こんな点も考えたんだけども」という、「いいか悪いかを考えた時に、こんな点も考えたんだけど」ということがもしあれば。

A　いままではあんまり口に出すということがなくて、こういう問題を。自分の中でちょっと考えてみたりする感じで、口に出してみるということはなくて、口に出しているうちにある程度気がついたのは、自分で考えていたよりは不安に思ってないんだなと思って。

河合　それはどんな点でですかね、そう思うのは。そう気がついたというのは。

A　例えば原子力発電とか、地層処分とか、自分の家の近くにできたらどうしますかとか、そういうのを改めて考えた時に、いままで自分で思っていたのはきっと嫌だろうなとか、漠然とした不安を抱えたまま反対してしまうかなとか思っていたんですけど、このビデオを見たせいもあって、あとは口に出しているうちに改めて自分の生活を想像してみるうちに、結局やっぱり住んでそうだなというのがイメージとして沸いたので、住んでいるということはきっと自分で思っているよりは不安に感じてないんじゃないかなと。

河合　さっきの諦めみたいなものがあるという話なんだけど、初めには地層処分という大きな問題だけども、それというのは元々は一人一人が電気を使っているといった身近な問題であって、だから一人一人が電気を使うことによって塵が積もるみたいな形で、それをゴミ処理しなきゃいけなくなってきている。処理しなければいけないと。だからいろいろな意見があるけれども、ある程度いろいろな意見があっても、もうやっぱり待ったはできないような状況になってきているんじゃないかなという感じでしたよね。その場合どうしたらいいですかね。つまり多分いろんな意見が出てくると思うんですよね。それで諦めている人もいるだろうし、積極的に賛成する人もいるだろうし、すごく反対する人もいるだろうし、いろんな意見が出てくると思うんだけど、その中でどうこの問題を

進めていったらいいと思いますかね。

A　前にも出た話ですけど、反対している人の中には何も知らないで反対している人もやっぱりいると思うので、あんまりわけがわかっていなくて、ただ地層処分とかという言葉のイメージで反対している人もいると思うので、だからやっぱりある程度地層処分を行う前にはこういう情報というのはなるべくいろんな人の目に届くような形でいろいろ、テレビとかだけじゃなくていろんな形で知らず知らずのうちに目に飛び込んでくるぐらいの何か情報があると、もしかしたら考え方を直す人も、改めて考え直す人もいると思うんですけれど。ただもうそういうのに目を向けようともしなくて、ただもうがむしゃらにきっと反対する人っていうのも出てくるような気がするんですけど、すごい極端なことを言ってしまえば、そういう人の意見は聞かなくてもいいかなと。

河合　ただ環境問題とかエネルギーの問題とか原子力の問題なんかを何か情報として提供しようとすると、わりと若い世代の人というのはそういうのはダサいとか――ダサいということを表現がいまでも言うのかどうかわからないけど。お洒落でないというか。だからそういう意味であんまり見てもらえないか、逆に言えば反発じゃないけれども、距離を逆に置かれちゃうというか、そういう感じはあるんだけども、それはどうですか。

A　その内容よりは提供のしかただと思うんですけれど、情報の。例えばいまの若い人が興味があることというと、例えばファッションとかに興味がある人って多いと思うんですけど、そういういろんな国のファッション関係に就いている人、デザイナーとかいますよね。ああいう人たちが例えばもう少し積極的にこういう問題を意識して、例えば限定でTシャツにちょっと問題を織り込んでみるとか、あと若い人がよく読むような雑誌になるべく取り上げてみるとか。

河合　でも雑誌の例えばいまの雑誌は何が流行っているのかよくわかりませんが、僕なんかの世代だと「アンアン」とかああいうのだけども、そこに原子力、こういう問題が特集で載っていても、やっぱり「何、これ？」という感じで見ないんじゃないかと。こんな他の紙面とちょっと浮いちゃったようになっていて、あとそういうクサいというのもあるでしょ。そういうのがあると思うんだけど。逆効果じゃないかなと思うんだけど。

A　例えばですけど、「アンアン」とかだとよく「いま大人の女が常識として知っておかなければいけないこと」みたいな特集とかってたまに組まれるじゃないですか。

河合　ありますよね。

A　ああいうところにさり気なく入れてみるとか。「いまこういうのが一般常識」という形で括ってしまって、「こういう問題に取り組まなければ」と。

河合　おもしろいね。そうすると僕も考えないではないんだけど、こういう一種のちょっと前の軽薄

な時代というのでもないんだけど、そういうことの反省としてあまりチャラチャラしているのは逆に言えばカッコ悪いといって、少しは……。それでフランス人の女の子みたいに、フランスの女の子とか海外の女の子というのはそれなりに自分の意見というのを持っているでしょ。そういう意見を持っている方がやっぱりお洒落というのがあって、そういう意味からこういうエネルギー問題を少し考えているということがお洒落なライフスタイルなんだというようなそういう可能性っていうのはあり得るのかなと、いまの若い世代に。

A　私も自分より若い世代――自分もまだまだ若い世代ですけど――特に自分より若い世代、特に高校生とかはもう使っている言葉も違うし、わからないって思っている部分もあったんですけれど、私たちの世代よりもなんか若さを武器にして若い時だけ楽に生きているというイメージがあったんですけど、実際若い子としゃべったわけじゃないですけど、なんかやっぱり若い子は若い子なりにその時代時代でなんかいろいろ考えているんじゃないのかなと思うと、きっかけとか入り口とかはそういう流行だとか、いまそういうことを知ってなければいけないとかという軽い切り口だったとしても、結構若者は若者でちゃんと考えていくんじゃないのかなと。

河合　ただファッションデザイナーが自発的に、例えばTシャツの絵柄にこういう「Ｎｕｃｌｅａｒ」というか、原子力の問題を扱ったり、ある意味ではそれは結構カッコいいものができるかもしれないけど、それが例えばスポンサーとして国なり、こういう原子力を進めているところがお金出していたりしたら、それはどうなのかな。うさんくさいという部分はある？

A　いや、うさんくさい……。そうですね……。

河合　うさんくさそう。電力会社とか国が始めると、途端にオジンくさいというか、そういう話になると思うんだよね。例えばよくわからないけど、プリクラで自民党の本部に橋本龍太郎のプリクラができたとかいうと、途端にクサいなという感じになっちゃうんだけど、そうはならないのかな。なかなかうまくいかないような気がして。どうですか。

A　それはそういうふうに感じるのは河合さんの世代だからですかね。それとも結構皆そう思うと思っているということですか。

河合　だから僕自身もどうもそう感じるんだけどね。だからどうなんですか。

A　私たちですか。私とかですよね。

河合　うん。

A　でも逆にいまは、さっきのプリクラの話じゃないですけど、そういうのが逆にというミスマッチっぽいところを楽しんでいる部分も……。それがお洒落なんだ、の傾向もあると気がするんですけど。

河合　難しいね。そこら辺がおもしろいんだけど、そうすると最近東京電力が中畑さんとかを使って

原子力のコマーシャルをやっているのは見たことあります？

A　見たことないです。

河合　中畑と、バレーボールの川合が出てきて、「福島と新潟、原子力発電所によって東京に電力が送られてきています」というようなことを言っているコマーシャル。去年の暮れぐらいからやっているんだけど、それは見てない？

A　見てないですね。

河合　ぜひそれ聞きたかったな、そのイメージを。

A　でもなんか……。そうか、そうですよね。爽やかさが入って。

河合　最近のオジサンたちのやっていることってどう思います？大蔵省の話とか、いろいろ各省の不祥事というか。皆なんか陰でやっぱり何やっているかわからないという気がするけど。

A　信用できないっぽい。

河合　同じようなイメージありますかね。こういう……。

A　原子力発電とか、地層処理……。

河合　それを進めている人たちの、最近の報道されるようなお役所の人たちとか大企業の人たちとか。

A　どこかでそれはありますね。信用できないというか。

河合　こういう原子力の人たちも含めて。

A　うん。どうしても国が絡んじゃうと何かあるんじゃないかと。

河合　ちょっと揚げ足取っちゃうようだけど、ただAさんがずっとこれから生きていく間はそんなにひどいことは起きないだろうと、いまのままが続くだろうということは、どこかでやっぱりそういうでも人たちに任せておけばそうそう悪いことにはならないだろうというようなことも考えているわけではない？

A　いいですか。

河合　国が絡んで……。

A　なんか自分が起きている間に何もあまり起きないだろうというのは、その人たちに任せていれば安心だろうというよりは、その人たちというのは結局国の政治家とかはいっぱいいますよね、人間。だからその人たちの意見をまとめたり、何か一つのことを強行突破するというのはとても大変なことだから、そういう問題はいろいろ例えば隠して隠して先に延ばし延ばしにしているようなイメージがあるので、急にすごく大きいことが起きるような気が自分ではしていなくて、それて自分が生きている間ぐらいはそんなにすごい大問題は起きないかなと思っているところが……。

河合　じゃあ隠して隠して先延ばししていったとしても、なんとか自分が生きている間ぐらいまでは

持つだろうという感じ？

A　うん。そういう感じの方が。信用しているというよりは、そういう感じの方が近いです。だから日本が例えば本当になくなってしまうぐらいの、あとは世界がなくなってしまうぐらいの大きな問題ほど隠されていってしまう気が、闇に葬られていくような気がするので。あとは一応大問題なんだけれども、それが明るみに出たら大問題なんだけれども、本当には別に実際は世界とかが日本とかがひっくり返っちゃうほどの事件じゃないから明るみに出ているんじゃないかという気がして。

河合　人それぞれの考え方があると思うけれども、普通はそのうち多分結婚されて子供ができて家庭を持ってというふうになると思うんだけど、そうすると子供の世代の間もまだ持つと。

A　そうですね……。

河合　まだでも実感はないのかな、そういう……。

A　そうですね。いつかは滅んじゃうんじゃないかと言っている言葉の裏には、結局もう何千年とかそういうような、まだ例えば自分の子供、自分の孫ぐらいだったらその先の世代として想像がつくんですけれど、もう自分の想像もつかないような先の世代ぐらいにならないと滅びない気がしているんですよ。滅びる滅びると言っていても、本当に想像を越えたような世代で滅びちゃうのかなと。だからいまみたいな生活じゃなくて。都合がいいと思いますけど。

河合　逆に言えばなんだかんだ問題があるけれども、いまはそれほど深刻な問題というのはないという感じなのかな。

A　（笑）深刻な問題は……。そうですね。だからすごい極論で言っちゃえば深刻な問題はいっぱいあるんだけれども、もうなんか一刻も争うようなすごい大変な問題というのは結局ないから、皆も自分もそれほど切羽詰まった危機感がないんじゃないかと思うんですけど。

河合　それでちょっとさっきの話に戻るんですけども、いまのに関連はしているんだけれども、ただもう地層処理の事態はあんまり待ったできないようなところまで来ていて、いろんな意見があるだろうけれども、そういう意見をある程度まとめていかなきゃいけないということをさっき話していたと思うんだけども、がむしゃらに反対する人はもうしょうがないけれども、あまりよく知らないで反対している人が多いと思うので、そういう人たちにいろんな形で情報を提供していった方がいいと。それでうまく意見がまとまっていくと思いますか。

A　ただその反対している人が、何も知らないで反対している人がどれだけ興味を持って接してくれるかというのは、結局どういうふうに提示されたかにもよると思うんですけど、興味をそそるように読んでもらえるような形にしなければいけないわけですよね。ただ情報量が多ければ多いほど、ある程度自分の中で皆ある程度の答えは出せるような気がするので、そういう意味ではまとまるよ

うな気はします。きっとこの今日のこういう話しているように、例えばこういう地層処分をするんだったら国が関係してきたり、何とかが関係してきたりとか、いろんな関連性の話っていっぱい出てくるわけですよね。それをきっと皆頭の中でまとめるのはとても大変だと思うので、そういう意味でもなるべく情報がたくさんあると、ある程度自分でたくさん読んで見て、あとは必要なものだけ自分の中で取り入れて、ある程度まとまる気がするんですけど。

河合　新潟県の巻町というところがあって、そこで実は環境問題のこともあるからもう少し火力発電所を減らして、原子力発電所を皆電気使うので建てましょうという計画があって、それを巻町に建設していこうという話があったんだけれども、地元の人が「やっぱりウチの町は嫌だよ」という話になって、それで住民投票をして住民としての意見を明らかにしようということで住民投票を起こしたら反対の方と。それでそこの町としては反対なんだという立場を取っているというのは、この話は聞いたことは？

A　それと同じかわからないんですけど、朝日新聞で対談していました。東京電力の代表の人と、そこの町の町長さんかなんかが……。全部読みたかったんですけど、ウチ朝日新聞じゃなくてちょっとしか読めなかったんですけど、それは見ました。

河合　そういう問題についてはどう思います？

A　多分住民とかになると、大きな団体になると、きっと「この原子力発電を建てます」と言った時に多分反対する人の方が最初は多いと思うんですけど、でも大きな団体だから、自分ではどうして反対なのか理由が述べられないけれど、「周りの人が反対しているし」とか、あと「原子力って危なそうだから」と思って、自分では理由もわからないで、多分突き詰めていくと理由がよくわからなくて反対している人も多いと思うんだけれども、そういう人たちはきっとこういう例えば「安全です」とか「大丈夫です」とかという資料を多分読もうともしない気がするんですけど。「そんなのは読みたくもない」とか、「どうせ危ないんだから」とか、そういうふうに「いつもこういうふうに安全安全と言って誤魔化している」とか、そういうふうに思っていてすごい反対意見が多そうな気がするんですけど。だからちゃんとした本当のこういう例えばディスカッションみたいなのをして、きちんとどうして反対なのかというのを述べられる人はほとんどいないんじゃないのかなというのを対談を見てて思いました。あとは皆なんか本当にない方がいいみたいな。絶対反対じゃないけれども、あるよりはない方がやっぱりいいかなとか、きっとはっきりした反対意見というのがわからないから、逆にどういう情報を公開したらいいのかとかがはっきりしなくてまとめられない部分が……。

河合　それと大体今日はこんな感じでいろいろ話してくれて役に立って本当に楽しかったんだけど。

A　こちらこそ。

河合　最後にこの話もうちょっと離れて、いまの世の中に対してはこんなもんじゃないかなと思うとか、あるいは世の中間違っているんじゃないかなと思うとか、そういうことに関してはどういう……。

A　いまの世の中は自分も含めて問題で起こっていることはいっぱい知っているんだけれども、実際行動に移している人がほとんどいないんだろうなという世の中だなと思います。だから世の中が間違っているというふうには思わないですけど。

河合　例えば何かやろうとしても、いろいろ「あれやるな。これやるな」という制限がきついので、もっとそんなところから離れたところで自分勝手に何かやりたいなと思っていますか。でも逆に自分が一匹狼でやるとすごく大変だし不安だから、そういう制限があっても何かどこかもうちょっと拠り所となるような大きな組織の方の中でいた方がいいと思っていますか。

A　組織……。これからは――これからはというか、組織の中にいた方がいいというのは思ってなくて、どうしても組織で守られている部分とか、いい部分もあるけれど、いまは山一證券とかのこともあって、結局組織にいても別にそんなに守られているわけじゃないし、それはだから守られているというのはいままでの考え方で、これからは別に守られているというわけじゃないし、だからどこにいても結局は人間一人。だから……。

河合　どっちかというと一人で伸び伸びやりたいなと。

A　そうですね。

河合　ただ世の中全体の中にうまく自分の場所をうまく見つけられないなというふうな感じじゃないわけですね。

A　うん。それはないですね。組織とかじゃなくて、ある程度人とのつながりを大事にしていれば何かしら自分の居場所とか、あとはうまくやっていけると思うので。でもそうやって自分は組織の中にいなくてもそういうのに巻き込まれたりとかいうのは、お金とかが絡んじゃうとどうしてもそうなったりするので、ずっとやっぱり個人、一人で生きていくというか、一匹狼的な個人で生きていくというのは絶対できないなと。

河合　じゃあ今日はこのぐらいにしましょう。どうもありがとうございました。

A　ありがとうございました。

### ３．３．２　コミュニケーションモデルを適用した問題認識の整理の方法

第２章において設定した社会的コミュニケーションモデルに基づく意識構造モデルの適用性を検証する目的で、公衆への個別ヒヤリングの内容を意識構造モデルに基づいて妥当に整理できるかどうかを調べた。

またこれに伴い、東京都区部に居住する２０代から６０代までの人の地層処分に対する問題認識および社会的立場を整理した。ヒヤリング対象者の内訳を表３－１に示す。

表３－４　ヒヤリング対象者の内訳

| | ２０代 | ３０代 | ４０代～６０代 |
|---|---|---|---|
| 女性 | ５人 | １５人 | ４人 |
| 男性 | ４人 | １０人 | ４人 |

ヒヤリング結果は、前章で設定した意識構造モデルにもとづき、態度として認知、関心、意欲、評価、判断の５段階のカテゴリーを適用し、また具体的な問題認識を情報、経済、政治、倫理、生理の５階層の相互作用レベルに区分して整理した。

さらに社会的立場として、母性原理／システム受容、母性原理／システム批判、父性原理／システム受容、父性原理／システム批判の４カテゴリーを適用した。

地層処分に対する問題認識の整理結果を、表３－５に示す。

表３－５　問題認識の整理結果

| | 認知<br>わからない／わかる | 関心<br>どうでもよい／関心あり | 意欲<br>どうにもならない／有効 | 評価（一般論として）<br>原子力は必要／不必要<br>HLW 処分は必要／不必要<br>地層処分は適切／不適切 | 判断（自分の問題として）<br>どちらでもよい<br>／賛成かつ立地受入<br>／総論賛成各論反対<br>／保留<br>／反対 |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | (1) 原子力についてどのくらい知っているか<br>(2) 情報が公開されているか<br>(3) 情報に触れやすく、手に入れやすいか<br>(4) 論旨が明解か<br>(5) 専門的、技術的で難解でないか | (6) 自分に関係のある情報か<br>(7) 信頼できる情報か<br>(8) 他の人はどう思っているのか<br>(9) 原子力にはマイナスイメージがあるか | (10) 疑問点に明解な解答が得られるか | (11) 判断するのに充分な量と質の情報が得られるか<br>(12) 長期間にわたる予測は可能か<br>(13) 規模や期間についての情報が示されているか<br>(14) 専門家の判断は信頼できるか<br>(15) マスコミの意見は信頼できるか<br>(16) 反対派の意見は信頼できるか<br>(17) HLW 処分は避け得ない問題か<br>(18) 他に処分方法はないのか | (19) 取り返しはきくか、廃棄物をいつでも取り出せるか |
| 経済的相互作用 | | (20) 自分の暮らしにどの程度の影響があるか | | (21) 原子力発電にはどの程度のメリットがあるか<br>(22) 処分のコストは適切か | (23)自分の負担はどの程度か |
| 政治的相互作用 | | (24) 知っていると社会的に有利か | (25) 処分方法の決定に意見を反映できるか | (26) 実施主体の長期間にわたる管理は可能か<br>(27) 地層処分の方針が既定路線として硬直化していないか | (28) 行政は責任をまっとうしているか<br>(29) 電力事業者は責任をまっとうしているか<br>(30) 住民投票など、意思決定に参加できるか |
| 倫理的相互作用 | | (31) 自分にも責任があるか | (32) 一般公衆が尊重されているか | (33) 専門家の態度は信頼できるか<br>(34) 次の世代に対して無責任ではないか | (35) 前もって説明があったか<br>(36) 消費地と立地地域に不公平はないか<br>(37) 処分地選定が強行されるか<br>(38) 自分にも責任はあるか |
| 生理的相互作用 | | (39) 自分にも危険が及ぶ問題か<br>(40) 原子力発電は環境問題解決に貢献するか | | (41) 漏洩などで生態系への影響はあるか<br>(42) 環境を破壊しないか<br>(43) 地震による影響はないか<br>(44) 地中で核爆発する危険はないか<br>(45) １００％の安全性があるか | (46) 原子力をどのくらい不安に思っているか |

### 3．3．3　ヒヤリング分析結果

第１回目のヒアリング結果の意味ネットワークと第２回目のヒアリング結果を基に、３．３のコミニュケーションモデルの定量化の方法に基づいて、個人の意識内容（社会的立場、問題認識、態度）を分析し、分類した。分析結果の１例を以下に記した。なお、分析結果の例を添付資料Ｄに付記した。

（１）分析結果の例

①被験者

植田氏

②地層処分に対する態度

消極的反対：　現状では安全であるとは思えないので、他にいい方法が見つかるまでの間、厳重な管理のもとに廃棄物を保管する。その間に消滅処理等の技術開発を行う。首都を移転して官庁街をへんぴな場所に持っていき、その下に廃棄物の保管場所をつくっても良い。

③地層処分に対する問題認識

| | 影響の大きさの知覚 | 不確実性の知覚 | 社会的妥当性の知覚 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | *情報的影響*<br>○他の解決策② | *信憑性* | *対等性* |
| 経済的相互作用 | *経済的影響* | *信用* | *対等性* |
| 政治的相互作用 | *政治的影響* | *信頼* | *勢力差*<br>○国民投票による決定③<br>●地層処分に対する行政責任④<br>地層処分に対する都市住民の責任⑤ |
| 倫理的相互作用 | *倫理的影響* | *信念* | *価値観の優位性* |
| 生理的相互作用 | *生理的影響*<br>●地中に原子爆弾① | *確率* | *（因果関係）* |

影響関係：　好影響：　☆私・家族　○社会全体　△地元住民

悪影響：　★私・家族　●社会全体　▲地元住民

問題の重要度：　重要度大　重要度中　重要度小

④社会的立場

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理（共生原理） | | 政治行政不信、密室政治①<br>公衆の無関心② |
| | 父性原理（自律原理） | | |

（2）各影響項目の内容

1）地層処分に対する問題認識

①地中に原子爆弾

内容：地層処分された高レベル廃棄物が、原爆のように爆発することがあり得る。チェルノブイル以上の悲劇的な災害が起こりうる。

言述：「だからこういう問題だって水面下で片づけられてしまって後になって我々が知って、えー、こんな所に原子爆弾が埋まっていたんだ、っていう騒ぎになるような気がしてならないんですけれどね。」

「例えば北朝鮮かなんかがパニックになってミサイルが東京に飛んできたと。そのそばにそういう核廃棄物があった場合非常に危険な状態になりません？防衛的な面からすると都市、しかも東京という都市のそばにそういう火薬庫をつくるというのはあんまり僕は賛成できないんですよね。」

「核爆発じゃないですけれど、放射能が漏れて、その結果やはり奇形児が生まれて、あの村の周りではガンで早く死ぬ人が多くなったり、５本足の生えた牛が出てきたりとかですね、そういうので今だに苦しんでいるっていうじゃありませんか。チェルノブイリ村の周辺は。」

「それはやはり放射能が漏れるということと兵器としての原子力というのはやはり僕は同じだと思うんですよ。ただ単に爆弾だけだったら、まあそばにいればやられてしまいますけれども、何キロも離れていた所にいる人が毛が抜けたりとか将来子供を産んだら奇形児だったとか、そういうことはないじゃないですか、普通の爆弾だったら。ところが原子力というのは、原子力発電所だって何か事故があったらそういうことが起きてしかもそれがずっと子々孫々に影響を残すわけでしょ。土地自体も、そこからできた作物を食べたらその放射能が体に蓄積されていってやはりガンになる確率だって高くなるだろうし、早く死んじゃうしっていう・・。だからそういう意味ではやはり原子爆弾の破壊力と原子力発電の核廃棄物がいざ放射能漏れした時のリスクというのは同じような気がするわけですよ、影響力として。ただ、原子爆弾が落ちてくる確率と原子力発電所から出た核廃棄物の放射能が漏れる確率とどちらが高いかといえば・・どうなんですかね、同じくらいなんですか。むしろ大きいかもしれないじゃないですか、廃棄物を埋めたことによって放射能漏れする確率のほうが。」

解釈：核物質＝チェルノブイル＝原子爆発、というイメージを強固に持っている。また、原子力発電所以上に地層処分の方が危険性を持っていると考えている。この強固なイメージが、行政不信と相まって地層処分への反対の態度につながっていると考えられる。

②他の解決策

内容：原子力に頼らない発電技術、高レベル廃棄物を消滅処理等で無害化する技術はやる気になれば必ず技術的に可能である。それらのビジョンを示さない行政に問題がある。

言述：「私はこれは技術開発で絶対解決すると思うんです。（中略）原子力ではないしかも火力発電でない水力発電でもない電気をおこす技術というのはもう少し頑張ればもっといいものが出るような気がするんですね。」

「もっと研究して、あれがもう次世代のエネルギー供給システムにするんだっていうんであれば、そういうところ高いんであれば税金でもっと補助してあげればいいことであって、そんなばかどもらに飯を食べさせるために税金を払っているんじゃないんですからね。だから僕は技術開発してまず先に電気をつくる技術っていうのができると思うんですよね。」

「で、一日でも早くそういう技術を開発して原子力からは撤退する。で、撤退したところで残るのは廃棄物ですよね。ですからその廃棄物をどうするかという技術に関しては平行して研究を続けていくわけです。たぶん１番早く技術が完成するのが電力をつくるシステム、その次に完成するのがたぶん超伝導技術－電気を運ぶ技術－、そして一番最後にこういう核廃棄物がくるんじゃないかなっていう気がするんですよ、技術開発の順序でいったら。ですからいずれにしても今から一斉のせでその３つの技術を集中的に投資して集中的に開発に取り組む、それをまず続けるべきですね。と僕は思うんです。それで続けていくためにはお金がいるから基本的に日本のシステムを抜本的に変えていかなきゃいけない。そうなってくればいろいろなところでもっと住み易い日本になるような気がするんですよ。」

「消滅処理というものですか。あれをもっと集中的に研究してほしいなっていう気がするんですけれど。」

解釈：原子力発電や地層処分などの既定路線が密室の中で決められているが、やる気になればこのような危険な技術に頼らないでも、充分技術的に克服できる、と考えている。そうならないのは、政治家にビジョンがないから、としている。この考え方が、地層処分への反対につながっている。

③国民投票による決定

内容：地層処分については、審議会みたいなもので賛成意見、反対意見を出し合って、最終的にいくつかの案を出して、そのうえで国民投票で決めればよい。

言述：「最終的にはインターネットを通じて投票ができるシステム。で、政治家が自分のビジョンに基づいて法案出す、出したので実際に投票をする、それで直接決める。そいうふうな国にして

いけばいいんじゃないかなと。」

「ひとつはこういう方法がありますと、これについては利点はこうだけど逆に欠点としてはこういうのがありますと。この地層処理であれば・・利点はあるどうか分からないけれど、とりあえず安全だ、で、欠点は将来どこに埋めたかわからなくなってしまう、とかね。」

「賛成意見の人十人と反対意見の人十人とか、そういう形で審議会みたいなので出してあげて。それで反対意見からこういう欠点が出されました、賛成意見からこういうメリットが出されました。さああなたはどうします、といって投票してもらえばいいんですよ。」

解釈：背景には、行政が有効なビジョンを示せないこと、情報が公開されておらず公衆に決定権がないことがある。ただし、公衆が正しい決定を下せるか、というとそれに対する不信感もある。また、このような決定方式をすることにより住民エゴが出てくることへの配慮は乏しい。

④地層処分に対する行政責任

内容：原子力は本来不必要なものであり、政治家や行政が明確なビジョンを持ってやっていたら高レベル廃棄物の発生は避け得たものであった。そこで、地層処分が「総論賛成、各論反対」となったら行政が責任を持って引き受けるべきである。

言述：「国民投票をして、地層処分が決定されたとします。その次にどこにつくるかという話になったときにみんな自分のところではやだ、といったらどうしますか」「そうしたら政治家が引き受けるしかないじゃないですか。」

「僕は、やはりここまでした責任は官僚政治家にとってもらいたいというのがあるんですよね。」

解釈：背景に、いままで密室で進めてきた行政への強い批判がある。基本的には地層処分反対という立場であり、もしやるのであれば、勝手にどうぞ、私は知りません、という考え方である。自らにも責任があることへの配慮や住民エゴへの批判はない。

⑤地層処分に対する都市住民の責任

内容：利益を一番大きく受けているのは東京であるとは思うが、それは人口が多いだけだからであり、東京都民が地層処分の責任を負わなければならないいわれはない。

言述：「利益を受けているのは確かに東京の人かもしれないけれど。でも、どうなんですかね・・。人数の問題でしょ、東京が一番多く使うというのは。各個人の家庭で見た場合に、そう変わらないんじゃないですか、使う電気の量というのは。たまたま東京は人数が多いから電気も多く使うでしょうけれど・・。いや一案としては絶対その案が出てくると思うんですよ。避けては通れないと思うんですよ。だけどなぜ東京都民がその責任を負わなくてはいけないのかなっていうのが・・いまいち。たまたま密集した所に人が多いと電気が多くなるんだとしたら、それ

もなんかアンフェアだなという気もしちゃったりするんですけれど」

「僕東京なんです。だからかもしれないです。」

解釈：高レベル廃棄物がなぜ発生してきたのか、誰に責任があるのか、という点への配慮が希薄である。自分たちの街には絶対いやだというＮＩＭＢＹにつながっている。

２）社会的立場

①政治行政不信、密室政治

内容：政治家や行政はビジョンを示さず、明確な情報公開もなく、効果のない政策を密室で決めており、とても任せておけない。

言述：「税務署に確定申告に行った時にですね（中略）だから僕もカチンときましてね、誰もお上だと思ってないよと、お前等そういう発想でいるからだめなんだと言って大喧嘩したわけですよ、そこで。だからなんかそういう賤民思想・・官僚とか公務員とかに会って、自分たちは選ばれた人間だから税金で取ったのを勝手に使っていいという発想がすごくあるんですよ、ああいう人たちには。それが上から下まで徹底しているわけですよね。」

「そういうことなしに２代目はどんどん国会議事堂の赤い絨毯を踏んで、赤坂の料亭に行って遊んでいたり。そうやってちゃんと考えていないわけでしょ、彼らは。所詮考えたところで坊ちゃんなんですよ。だから彼らに任せられないわけですよ。」

「この問題に限らないですよ、何でもビジョンがないですもの、日本は。マハテールみたいに情報立国を目指すんだって言って現実に動いている国もあれば、日本みたいになんだかよく分からないうちに置いていかれちゃうのかどうだか分からないですけれど。」

「それから官僚たちというのは僕は必要ないと思うんです。少なくとも上級官僚という人間は必要ないです。で、それもこうやって官僚も全部切ってしまう、なくしてしまう。で、最終的にはインターネットを通じて投票ができるシステム。で、政治家が自分のビジョンに基づいて法案出す、出したので実際に投票をする、それで直接決める。そいうふうな国にしていけばいいんじゃないかなと。ただそこで心配なのはやはり、大前研一が入らなくて青島が入るような選挙民がいるからそれで結局日本は潰れちゃうかもしれないですよね、そうなった時に。」

「何も言わないと勝手にこうやって地層処分みたいなことをしちゃうわけですよ、彼らは。こんなのもっとオープンに議論すべきだと思うんですよ。原子力のしかも処分の問題でしょ。それをこうやってこのアンケートがどういう役に立つのか分からないですけれども、こういう水面下でごちょごちょこういう人の意見を取ってですね、それでもってうやむやに片づけようと

いう発想は許しがたいですよね。もっとちゃんとオープンにする・・じゃないとなんか納得できないなというのがありますよ。」

解釈：政治家や行政が決める政策がなってないと感じ、それが密室で決められていることとも相まって、政治、行政不信にいたっている。また、大事なことは公開して国民投票で決めるべきであると言っているが、その決定にあずかる公衆への不信もある。

②公衆の無関心

内容：公共問題を公衆が議論してもその声が行政に到達しない。このため公衆も無関心になっている。

言述：「結局議論をしてもそれが届かないんですよ、お上までに、我々の議論というのは。それを届けるにはどうしたらいいと思います？彼らが耳を貸してくれる、あるいは彼らのところまで情報がちゃんと正しく届くそういうシステムというのはあるんですかね、今。」

解釈：公衆が公共問題に無関心であることについて、行政側の責任を指摘している。ある種の行政への甘えが見られる。

3）意識上の文脈

a）：①政治行政不信、密室政治　→（①地中に原子爆弾）→　②他の解決策　→「消極的反対」

・政治家や行政に対して、正しく明確なビジョンを持たない、しかも密室的に決定しているとして、非常に批判的である。

・このことが、地層処分等原子力利用の原子爆弾との同一視とあいまって、原子力利用を密室で決めた政策的な間違いである、とする見方につながっている。

・また明確なビジョンがあれば、原子力に頼らない現実的なエネルギー生産が可能であるとしており、これらが高レベル廃棄物の地層処分は行わず、政治家が責任を持って保管するという消極的反対の態度につながっている。

・また原子力利用を、政治家が勝手に密室で決めた政策的な間違い、であるとする見方は、公衆や特に自分の責任に対する意識の希薄さにつながっている。

<コミュニケーション方策>

・まず、非常に基本的なレベルで原子力に関する誤解を持っている。この「原子力＝チェルノブイリ＝核爆発」という誤解は、再三その違いを周知してきたにも関わらず以前として以外と多くの人々に強固に定着しているステレオタイプであるかもしれない。このため、この誤解を解消するためのわかりやすい情報提供が引き続き必要である。（「原子力に関するわかりやすい情報提供」は、いままでのＰＡ方策として重点的になされてきたものであり、最近ではそれだ

けでは限界があるものとして、双方向の対話の重要性などが唱えられ、見直しが求められているものである。しかしながら、なお強固に「原子力＝チェルノブイリ＝核爆発」というイメージを持った公衆が多いとすれば、基本的な情報の提供は、関心のない人への到達率の高い方法によってより効果的に行われていかなければならないであろう。）

・政治不信そのものに対する効果的なコミュニケーション方策はいまのところ見あたらない。もし、「政治はこのままではいけない」というような強い政治意識を背景として政治不信を抱いているのならば、議論の中に参加できる道を開いていくことでそのような人とは有効はコミュニケーションを図っていくことができるであろう。しかしながら、この事例に見られるような政治不信は、より第三者的、傍観者的なものであり、「今の政治はなっちゃいないが、私のせいではない」というものである。このようなシニカルな無党派層に対しては、地層処分に対する地道な責任意識を啓発していくことが当面の課題であろう。

・結局のところ、このようにもともと中央行政に対してネガティブな社会的姿勢を持っており、さらに原子力に対して基本的な誤解をしている人に対しては、地層処分の事実関係や妥当性、正当性を他のオプションとの客観的な比較において、わかりやすく地道に示していくことが必要であろう。

b）：①政治行政不信、密室政治

→ ③国民投票による決定、④地層処分に対する行政責任、⑤地層処分に対する都市住民責任

・この流れは、無党派層の中で今の政治に批判的な見方をするグループに典型的なパターンであると考えられる。政治不信を言うが、かといって自分が積極的に政治に関わっていこうとするのではなく、突き放して「私は知らない」とする。このため、地層処分などやっかいな社会問題の責任は行政などにあるとし、そういう意味で公共意識に乏しく、行政への甘えも見られる。地層処分問題を「自分の問題」としては捉えない。このため、住民エゴの問題への配慮に乏しく、安易に国民投票、住民投票を唱える。都市部住民と処分地地元との利害関係への配慮にも乏しい。

<有効なコミュニケーション方策>

・このように、「行政（お上）が何とかすればよい、私の問題ではない」とする見方は、処分地となる地域との関わりの薄い大多数の国民にとって共通した本音であることが容易に想像できる。この図式をそのままにしておくと、お上：ＶＳ：地元という対立関係が先鋭化され（そして無関心の傍観者としての大多数の国民がいる）ることになり、最も望ましくない状況になる。したがって、どうしても無党派層を呼び覚まし、地層処分に関する国民的な議論を行っていく

ことが重要であろう。

・これらは、環境問題にも共通した課題であり、環境問題などにおいて住民の意識向上、啓発で取られている方策が参考となる。

## ３．４　コミュニケーションモデルの定量化方法の検討

本研究では、一般公衆を対象としたアンケートを実施し、意識構造モデルにおける態度－問題認識－社会的立場の相関関係を定量的に調べる。また相関関係を定量化するに伴い、類似の相関関係を持つサンプルをグルーピングし、公衆の類型化を試みる。具体的な定量化方法については第４章で説明する。

ここでは、前項までに整理した公衆の問題認識の具体的内容に基づいて、アンケートにおいて相関を調べるべき質問項目を設定した。この質問項目は、３．１で得られた問題認識の具体的内容に基づいて設定したものである。次ページの表３－６に設定したアンケート質問項目と問題認識との対応を示す。

表３－６　質問項目と問題認識との対応

| 質問項目 | 問題認識 |
|---|---|
| (3)(5)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | [39]自分にも危険が及ぶ問題か<br>[41]漏洩などで生態系への影響はあるか |
| (6)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | [46]原子力をどのくらい不安に思っているか |
| (7)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、環境を破壊すると思いますか？ | [42]環境を破壊しないか |
| (8)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、必要だと思いますか？ | [17]HLW 処分は避け得ない問題か<br>[18]他に処分方法はないのか |
| (9)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | [33]専門家の態度は信頼できるか |
| (10)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して専門家のいうことは、信用できると思いますか？ | [12]長期間にわたる予測は可能か<br>[14]専門家の判断は信頼できるか<br>[15]マスコミの意見は信頼できるか<br>[16]反対派の意見は信頼できるか |
| (11)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されると思いますか？ | [1]原子力についてどのくらい知っているか<br>[2]情報が公開されているか<br>[3]情報に触れやすく、手に入れやすいか<br>[10]疑問点に明解な解答が得られるか<br>[11]判断するのに充分な量と質の情報が得られるか<br>[13]規模や期間についての情報が示されているか |
| (12)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、周辺住民が得る情報は、信用できる情報だと思いますか？ | [7]信頼できる情報か |
| (13)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | [26]実施主体の長期間にわたる管理は可能か<br>[27]地層処分の方針が既定路線として硬直化していないか |
| (14)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、地層処分場のイメージが悪いから起こると思いますか？ | [9]原子力にはマイナスイメージがあるか |
| (15)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | [25]処分方法の決定に意見を反映できるか<br>[30]住民投票など、意思決定に参加できるか<br>[31]自分にも責任があるか<br>[32]一般公衆が尊重されているか<br>[35]前もって説明があったか |
| (16)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | [28]行政は責任をまっとうしているか<br>[29]電力事業者は責任をまっとうしているか |
| (17)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | [37]処分地選定が強行されるか |
| (18)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、電力の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | [38]自分にも責任はあるか |
| (19)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起こると思いますか？ | [34]次の世代に対して無責任ではないか<br>[36]消費地と立地地域に不公平はないか |
| (21)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設にあたって、周辺地域への補償は、適切に行われると思いますか？ | [23]自分の負担はどの程度か |
| (22)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、原子力の恩恵を受ける国民と処分場を引き受ける人に、不公平が生じると思いますか？ | [36]消費地と立地地域に不公平はないか |
| (23)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | [46]原子力をどのくらい不安に思っているか |
| (24)放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | |

### 3．4．1　意識内容の定量的分類とコミニュケーション方策検討の手順

コミニュケーションモデルの定量化方法として、ヒアリング調査により分析した各個人の社会的立場、問題認識、態度等の意識内容を定量的に分類するための考え方とともに定量化に基づく有効なコミュニケーション方策の検討の手順を記す。

①地層処分に対する個人の意識構造は多様であるが、全体的に見渡すと大まかに分類する。

↓

②分類した意識構造毎にその特徴を抽出する。

↓

③個人の意識構造をマッピングする意識構造モデルの枠組みを仮定する。

（意識構造モデルの枠組み：図３－３に示す社会的立場、問題認識、態度の相互作用を表現する枠組み。）

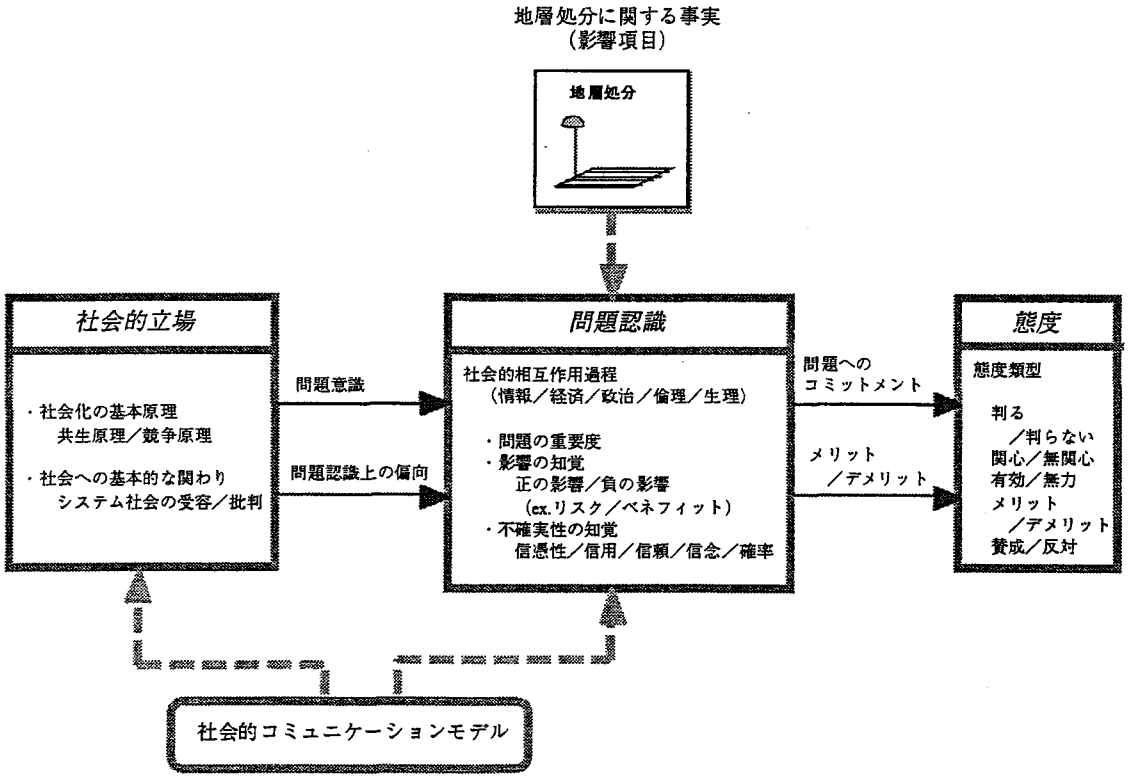



図３－３　意識構造モデルの枠組み

↓

④図３－４に示すように意識構造モデルの枠組みの当てはめて、ヒアリング調査により分析した個人の多様な意識の内容を書き下していく。

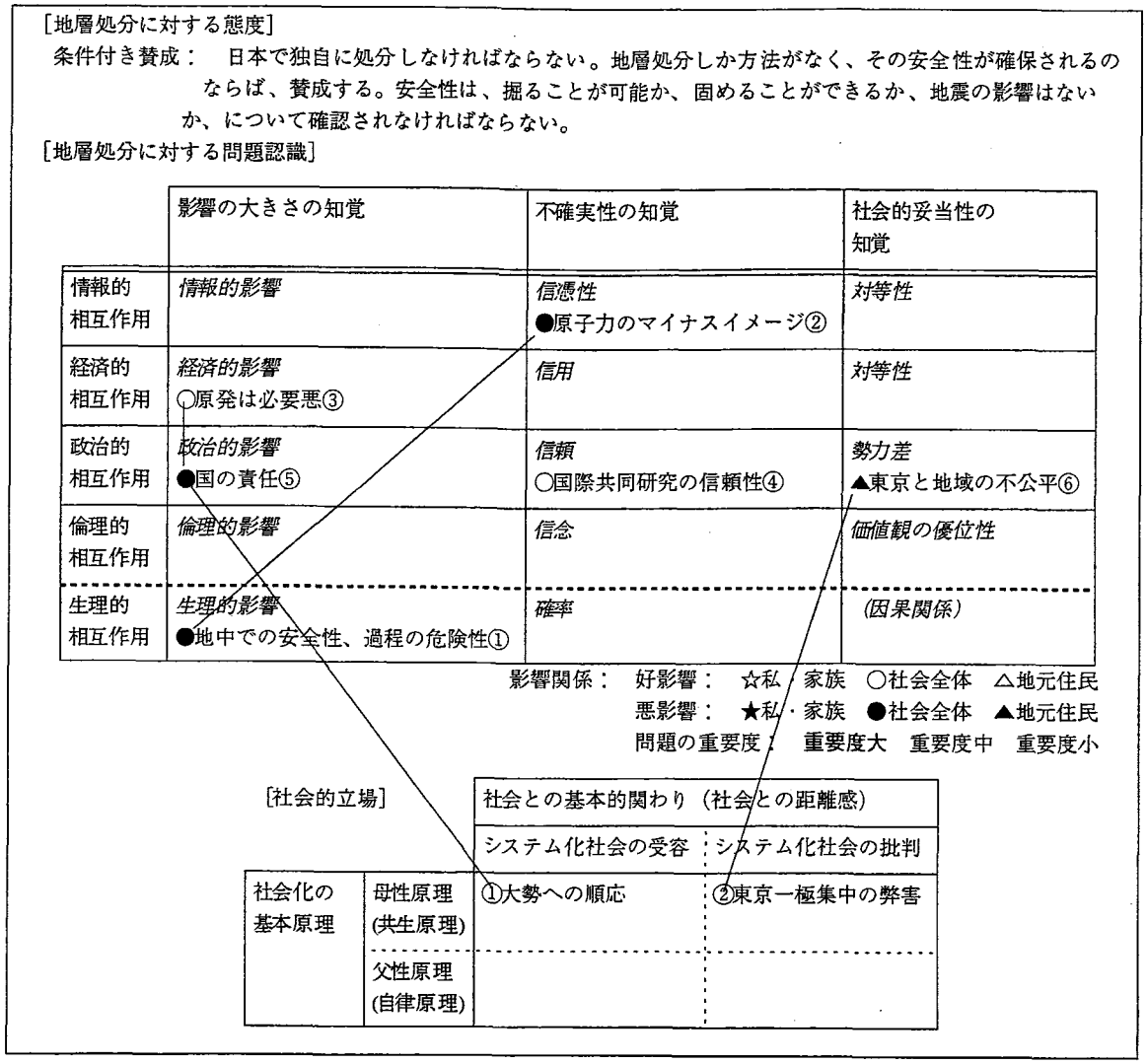



図３－４　個人の意識内容意の識構造モデルの枠組みの当てはめ例

↓

⑤多様な個人の意識内容を集約し代表化を行う。

↓

⑥代表化された意識内容の各項目（社会的立場、問題認識、態度）を問うアンケート調査を行い、図３－５に示すようにアンケート調査結果の各項目間の関係を推定して、意識内容の類型化を行う。

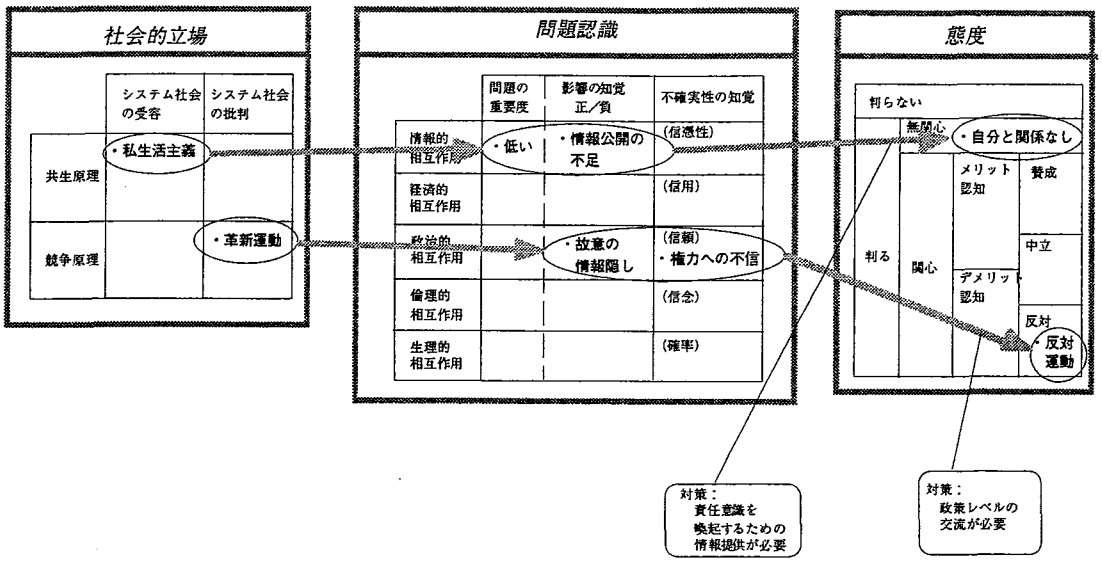



図３－５　個人の意識内容の項目（社会的立場、問題認識、態度）間の関係

↓

⑦アンケート調査から得られる各類型毎の定量的分析結果も踏まえて、表３－７に示すように意識内容の類型ごとに有効なコミュニケーション方策を検討する。

表３－７　有効なコミュニケーション方策の検討

| | 認知 | 関心 | 意欲 | 評価 | 判断 |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | 類型①：「聞いたことがない」都市部：60%<br>方策：①a、①b | 類型②：「自分には関係ない」都市部：50%<br>方策：②a | ・・・ | | |
| 経済的相互作用 | | | ・・・ | ・・・ | |
| 政治的相互作用 | | | | ・・・ | 類型＊：「私の町には反対」都市部：80%<br>方策：＊＊＊ |
| 倫理的相互作用 | | | | | ・・・ |
| 生理的相互作用 | | | | | |

注）地層処分に対する意識構造を調べると、「認知」→「関心」→「意欲」→「評価」→「判断」といった態度（あるいはコミットメント）のフェーズにより大きく異なる。また、都市部消費地域と処分場候補地域などの立場の差が色濃く現れる、有効なコミュニケーション方策も大きく異なるため、この態度（あるいはコミットメント）のフェーズを基軸として調査結果を集約する。

### 3．4．2　コミニュケーションモデルの定量化方法の適用例

本研究で用いている意識構造モデルは既存のリスク認知分析の視野を拡張することにより、リスク施設の合意形成にかかわる公衆の社会的な立場や政治的無力感などをも扱えるように配慮したものである。また全体地図上での類型化により意見グループの定量化が行えるようにも設定されていることに特徴がある。

この意識構造モデルの位置づけを示すため、参考までに以下に既存の研究例で考慮されている因子をこの定量化方法の様式に従った整理を試みる。

”パブリックアクセプタンスと公的規制・情報公開”土田昭司、Vol.8,No.1,1997,
日本リスク研究学会誌

（1）研究内容

①公共のリスク受容について、個人の操作可能性の影響に注目して分析している。

②個人の操作可能性として、情報公開を扱っている。

③感情群毎の因子分類

1)好意的感情群

・原子力発電の受容（漠然とした不安感）

・情報公開感と政治に対する効力感

・エネルギー消費に関する価値観

・居住地域への原子力発電受容態度（必要性、安全性、不安感）

2)否定的感情群

・原子力発電の受容（身近な必要性、安全性、不安感）

・情報公開感と政治に対する効力感（問題への関心）

・エネルギー消費に関する価値観と原子力行政

・原子力発電の具体的効力感

3)感情なし群

・原子力発電の受容（必要性、安全性、不安感）

・エネルギー消費に関する価値観と原子力行政

・情報公開感と漠然とした効力感

・原子力発電の具体的効力感、原子力発電への関心

（2）コミニュケーションモデルの定量化方法の適用例

本研究の意識構造モデルを用いて既存研究の分析結果を整理すると図３－６の通りに整理される。

ここでは、まず公共のリスク受容における公的規制と情報公開に対する感情群（「好意的感情」、「否定的感情」、「感情なし」）を態度に置き換える。次に感情群毎の因子を影響項目と相互作用に分けて問題認識を組み換え、公共のリスク受容における態度分類との関係を再構築した。

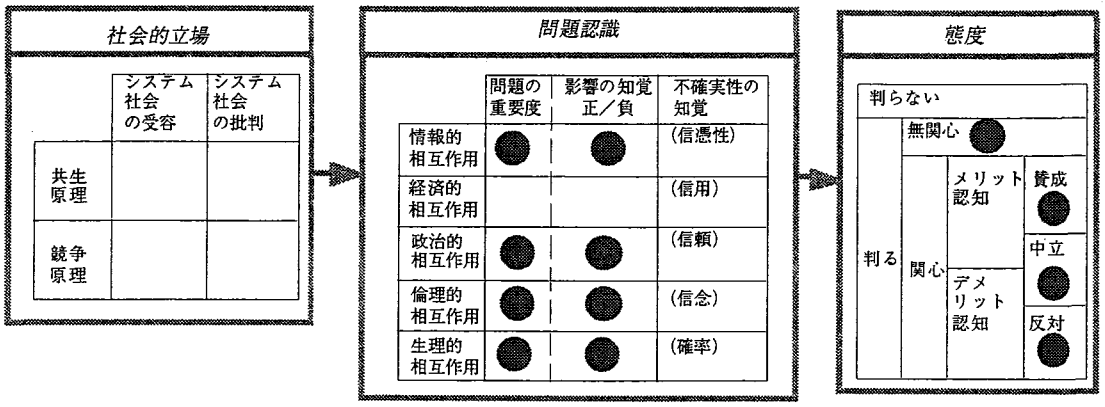



図３－６　公共のリスク受容に対する意識構造モデルの適用例

## 4．アンケートによる公衆意識の予備的調査

将来的な全国レベルのアンケートを円滑に進めるために、事前に都市近郊を対象とした小規模なアンケートを行い、公衆意識の調査方法や分析方法を確立する。さらに、アンケート結果から態度－問題認識－社会的立場の各因子を定量的に関連づけて、公衆の態度をグルーピングする。

ここでは、上記の目的に沿って本研究で実施したアンケートについて実施方法、集計結果を説明する。さらに、小規模アンケートによる予備的調査の集計結果から、意識構造分析モデルの適用性の検証もかねて、公衆意識の分析を試みることとした。

### 4．1　アンケート実施方法

（1）対象の選定

①対象地域の選定及びアンケート数

これまでのヒアリング調査は、周辺に迷惑施設や社会公共的な問題を抱えていないと考えられる平均的な都市部住民を対象として行ってきた。アンケート調査の一つの目的は、分析モデルの検証にもあることから、まず、アンケート対象地域としては、ヒアリング対象と同じ地域を中心におくこととした。また、将来的な全国規模のアンケートを想定すると、迷惑施設や社会公共的な問題を抱えている地域は必ず存在する。そこで、一般的な都市部住民との比較対象としてこれらの地域も対象とした。

本アンケートは、回収率を高めるために、戸別訪問による配布・回収とすることとした。このため地域選定の候補地には、配布・回収の容易さを優先して、関東近県としている。まず、候補とした地域を表４－１に示す。

この地域の中から、動燃殿との協議により地域の共通性があると考えられるものは省略して、地域別アンケート数がある程度確保できるように最終的には、表４－２に示す地域とアンケート数とした。

②アンケート対象者

アンケート対象者は、戸別訪問による配布・回収でもあり、地域毎に各年齢層、性別が出来るだけ均一となるように調整した。なお、年齢層は、２０代～６０代としている。

戸別訪問は、表４－２の各対象地域のなかから、さらに幾つかの区域を任意に選定して、その区域内の家庭を、２～３件おきに訪問する。各地域の訪問は、アンケートに応じてもらえる人数及びその地域の年齢層と性別の人数比が目的の値を満たすまで行った。

表４－１　　アンケート対象地域候補地

| 都道府県 | 区・市町村／地区名 | No. | 備考 |
|---|---|---|---|
| 東京都 | 世田谷区上野毛 | 1 | 山手 |
| | 葛飾区柴又 | 2 | 下町 |
| | 練馬区光が丘 | 3 | 新興住宅地 |
| | 港区台場（臨海副都心） | 4 | 大規模開発地域 |
| | 福生市双葉町 | 5 | 横田基地周辺 |
| | 西多摩郡檜原村 | 6 | 首都近郊在部 |
| | 西多摩郡日の出町 | 7 | 産廃施設周辺 |
| 神奈川県 | 横浜市神奈川区三ツ沢 | 8 | 首都近郊 |
| | 横須賀市佐原 | 9 | 核燃料施設周辺 |
| | 綾瀬市深谷 | １０ | 厚木基地周辺 |
| 千葉県 | 千葉市美浜区幸町 | １１ | 首都近郊 |
| | 柏市 | １２ | RI 施設周辺 |
| | 成田市三里塚 | １３ | 空港周辺 |
| 埼玉県 | 浦和市駒場 | １４ | 首都近郊 |
| | 秩父郡両神村 | １５ | 首都近郊在部 |
| 茨城県 | 水戸市城南 | １６ | 地方都市 |
| | 鹿島郡神栖町 | １７ | 大規模開発地域 |
| 群馬県 | 前橋市日吉町 | １８ | 地方都市 |
| | 勢多郡東町 | １９ | 地方在部 |
| 栃木県 | 宇都宮市鶴田町 | ２０ | 地方都市 |
| 静岡県 | 熱海市渚町 | ２１ | 観光地 |

表４－２　　アンケート対象地域リスト

| 都道府県 | 区・市町村／地区名 | No. | アンケート依頼予定件数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 東京都 | 世田谷区周辺* | 1 | ９０ | 都市部 |
| | 福生市双葉町周辺 | 2 | ５０ | 基地周辺 |
| | 西多摩郡日の出町 | 3 | ５０ | 産廃施設周辺 |
| 神奈川県 | 横須賀市佐原周辺 | 4 | ５０ | 核燃料施設周辺 |
| 千葉県 | 成田市三里塚周辺 | 5 | ５０ | 空港周辺 |
| 合計 | | | ２９０ | |

＊中野区、杉並区、世田谷区、目黒区、大田区

（２）アンケート内容の設定

①アンケート内容の設定方針

アンケート内容は、次の２つ主目的として設定することとした。

1)被験者に提起すべき主命題及び態度の確認

以下の命題に対する被験者の態度、問題認識の程度（強さ・身近さ、妥当性等）を確

認する。

・廃棄物問題に関する設問

・エネルギー問題に関する設問

・基地問題に関する設問

・その他、公共的迷惑施設に関する問題（地層処分）

2)態度への問題認識の確認

意識構造分析モデルで用いている以下のコミニュケーション実体の態度への影響を調べるための質問項目を３．３で検討した定量化方法に基づいて設定し、問題認識に対する被験者の認識の程度（影響の大きさ、妥当性・確実性）を確認する。また、項目間の相互関係も確認する。

・情報的相互作用

・経済的相互作用

・政治的相互作用

・倫理的相互作用

・生理的相互作用

・被験者の社会的立場

・現状社会の認識

各項目の質問内容は、被験者にとっては明確に区別されない場合もある。このため、各相互作用に該当する質問を１つとするのではなく、別の表現を用いた質問も用意して、各項目の内容を被験者が区別しやすいように工夫した。

②アンケート設問の設定方法

アンケートの各設問は、平成８年度までの研究で整理した意識構造モデル（被験者が命題に対して採りうる態度の過程とその態度に至る過程で影響する項目の順番）に沿って設けていく。これにより、被験者に設問回答への筋道を用意しておく。ただし、順番の妥当性もアンケートで確認できるように設問を設けておく。各問題認識とそれらに対応する質問項目を表４－３にまとめた。

なお、上記に沿って作成したアンケート票を添付資料Ｅに添付した。

（３）アンケート票の配布・回収方法

アンケートの配布・回収は、アンケート調査員による戸別訪問方式とし、対象地域の家庭を無作為に訪問し、年齢層、性別を確認して、アンケートの依頼を行うこととした。この際の、年齢層、性別の確認により、アンケートが特定の集団に片寄らないようにした。また、大規模な集合住宅棟では、自治会等のグループ活動の影響により、意見の偏りが懸念される。そこで、集合住宅等に訪問する場合は、１棟当たりのアンケート依頼数が２件以上にならな

いように配慮した。

表４－３　影響項目毎の質問主旨、内容（例）

| 影響項目 | 質問主旨 | 質問内容（例）の概略 |
|---|---|---|
| 現状社会の認識 | 現状社会の認識 | いまの日本の状況をどう思うか |
| | 将来社会の認識 | 将来の日本の状況はどうなると思うか？ |
| 社会的立場 | 政治行政への不信 | いまの政治や政治家、役人を信用するか？ |
| | 政治への無力感 | なにかすることで、いまの政治が変わると思うか？ |
| | 行政への依存 | 世の中のことは、政府に責任がある？ |
| | 行政への迎合 | 世の中のことは、政府にまかせておけばよい？ |
| | 公共問題への個人の責任 | 公共問題に関しては、個人がもっと関心をもつべき？ |
| | 個人の利己性 | みんな自分の利益しか考えていない？ |
| | 大勢への順応 | なるべく周囲とあわせた方がよい？ |
| | 公平さ | 国民全体のため一部の人の犠牲はやむをえない？ |
| | エゴイズム | 社会のため自分や家族が犠牲になるのは、納得できない？ |
| | ライフスタイルの是非 | 環境問題の解決には、現在の生活をあらためるべきか？ |
| 情報的相互作用 | 問題の認知度 | ゴミ処理施設建設の問題を知っているか？ |
| | 情報媒体 | ゴミ処理施設建設の問題は、日頃、何から見聞きするか？ |
| | 情報の非公開 | 必要な情報は周辺住民に公開されているか？ |
| | 情報の信憑性 | 周辺住民が得ている情報は、信用できるか？ |
| | 問題への関心 | ゴミ処理施設建設の問題について、関心はあるか？ |
| 生理的相互作用 | リスク認知 | ゴミ処理施設は、人体に悪影響があるか？<br>ゴミ処理施設は、人体に間接的に悪影響があるか？<br>ゴミ処理施設から発生する有害物質を知っているか？ |
| | 環境との不調和 | 自分のうちのそばに建設されたら、不安を感じるか？<br>ゴミ処理施設は、環境を破壊すると思うか？ |
| 経済的相互作用 | 必要性 | ゴミ処理施設は、必要だと思いますか？ |
| | 補償の妥当性 | ゴミ処理施設の建設周辺地域への補償方法は、適切か？ |
| 政治的相互作用 | 行政不信 | ゴミ処理施設建設への役所の対応は信用できるか？ |
| | 行政の能力 | ゴミ処理施設建設に役所は優れた対応ができるか？ |
| | 住民投票の是非 | ゴミ処理施設建設は、周辺住民の投票で決めるべきか？ |
| | 行政がきめるべき | ゴミ処理施設建設は、議会が責任を持って決めるべきか？ |
| | 議会にしたがうべき | ゴミ処理施設建設は、議会の決定に住民は従うべきか？ |
| | 専門家不信 | ゴミ処理施設建設に関して専門家の言葉は信用できるか？ |
| 倫理的相互作用 | 享受者の責任 | ゴミ処理施設建設は、ゴミを出す都市住民が責任を持つべきか？ |
| | 地域エゴ | ゴミ処理施設建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因か？ |
| | 不公平性 | ゴミ処理施設建設に関しては、ゴミを出す人と施設を引き受ける人で、不公平があるか？ |
| | ライフスタイルの変更 | ゴミ処理施設建設の問題を解決するには、生活習慣を見直すべきか？ |
| | 住み易さ | ゴミ処理施設の建設に周辺住民が反対するのは、<br>・安心して住めなくなる？<br>・建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになる |

## 4．2　アンケート結果の分析方法

### （1）アンケート結果の分析手順

地層処分に対する公衆意識構造を把握するために、集計したアンケート結果を分析して、地層処分建設に対する態度毎（「賛成」、「反対」、「判断なし」）に公衆の人間像をグループ化する。その人間像の特徴をまとめることで、グループ毎のコミュケーション対策の検討に資する。

公衆の意識構造のグループ化のためのアンケート結果の分析は、次の手順で行った。図４－１に以下の手順の関係を示した。

①単純集計表の作成
②クロス集計表の作成
③問題認識間の相関分析
④態度に対する問題認識間の回帰分析
⑤相関、回帰分析結果を参考に問題認識をグループ化（クラスター分析）
⑥グループ化した問題認識を用いた主成分分析の実施
⑦主成分の選定
⑧主成分に基づく態度毎の公衆のグループ化
⑨各グループの特徴の分析

なお、アンケート調査結果の分析に際しては、以下の点を留意した。

㈠)アンケート調査結果から得られる情報は、分析過程で抜け落ちがないようにする。
㈡)アンケート結果から有意な情報を抽出できるように分析方法とする。
㈢)アンケート結果の分析に際して統計的手法を基本とし、分析者の恣意的判断を最小にする。
㈣)アンケート結果から直接得られる情報と分析者の判断は、明確に区別する

### （2）アンケート結果の分析手順の内容

アンケート結果の処理・分析ならびに公衆のグループ化の手順の実施内容を記す。

①単純集計表の作成

アンケート結果を順位データに整理する。

②クロス集計表の作成

クロス集計表を作成し、態度（「賛成」、「反対」、「どちらでもない」）及び問題認識（各質問項目への回答）間の関係の概略を把握する。

③問題認識間の相関分析

単純集計結果に対して全問題認識間の相関分析を行い項目間の関係を把握し、相関関係について考察する。同時に相関係数値を基準に関係の強い項目を抽出して、分類しておく。

④態度に対する問題認識間の回帰分析

純集計結果の全問題認識に対して態度を目的変数とする重回帰分析を行う。説明変数の係数を基準に、態度を説明できる変数（問題認識）の組合せの候補を抽出する。

⑤相関、回帰分析結果を参考に問題認識をグループ化（クラスター分析）

③の相関分析では、２つの問題認識の線形関係の強弱、④の回帰分析では、問題認識と態度との線形関係を分析する。したがって線形関係以外の傾向（例えば、２次曲線関係や一極集中等）の類似性を調べるために別の分析を行う。まずクロス集計表から問題認識間の位置関係を把握し、これを基に問題認識間での線形以外の関係を把握するためクラスター分析を行う。クラスター分析では、問題認識間の相関や態度へ影響の強弱ではなく、それらの分布の類似性が把握できる。相関分析、回帰分析、クラスター分析結果を考慮し、相関が強い項目のグループや類似性の高い項目のグループ、説明変数の係数が大きい問題認識を重要な問題認識として選択しグループ化する。ここで、問題認識の選択では、主成分の説明割合が十分であることを考慮する

⑥主成分分析の実施

グループ化した問題認識に対して主成分分析を行い、問題認識毎の主成分負荷量を算出する。

⑦主成分の選定

グループ化した問題認識の組合せで表現される主成分（態度を説明する軸）に意味付けを行う。

⑧態度の公衆のグループ化

選定した主成分（軸）の組合せを用いて態度毎（「賛成」、「反対」、「どちらでもない」）に集団をグループ化する。例えば、「賛成」の集団は、主成分１と主成分２を２軸としたとき４つグループに分かれる。ここで、２軸の組合せは、その集団のグループが、明確に分離するように選択する。

⑨各グループの特徴の分析

グループ化した集団に対して、どのような傾向・特徴をもつ集団であるのか分析し、グループの特徴に意味付けを行う。

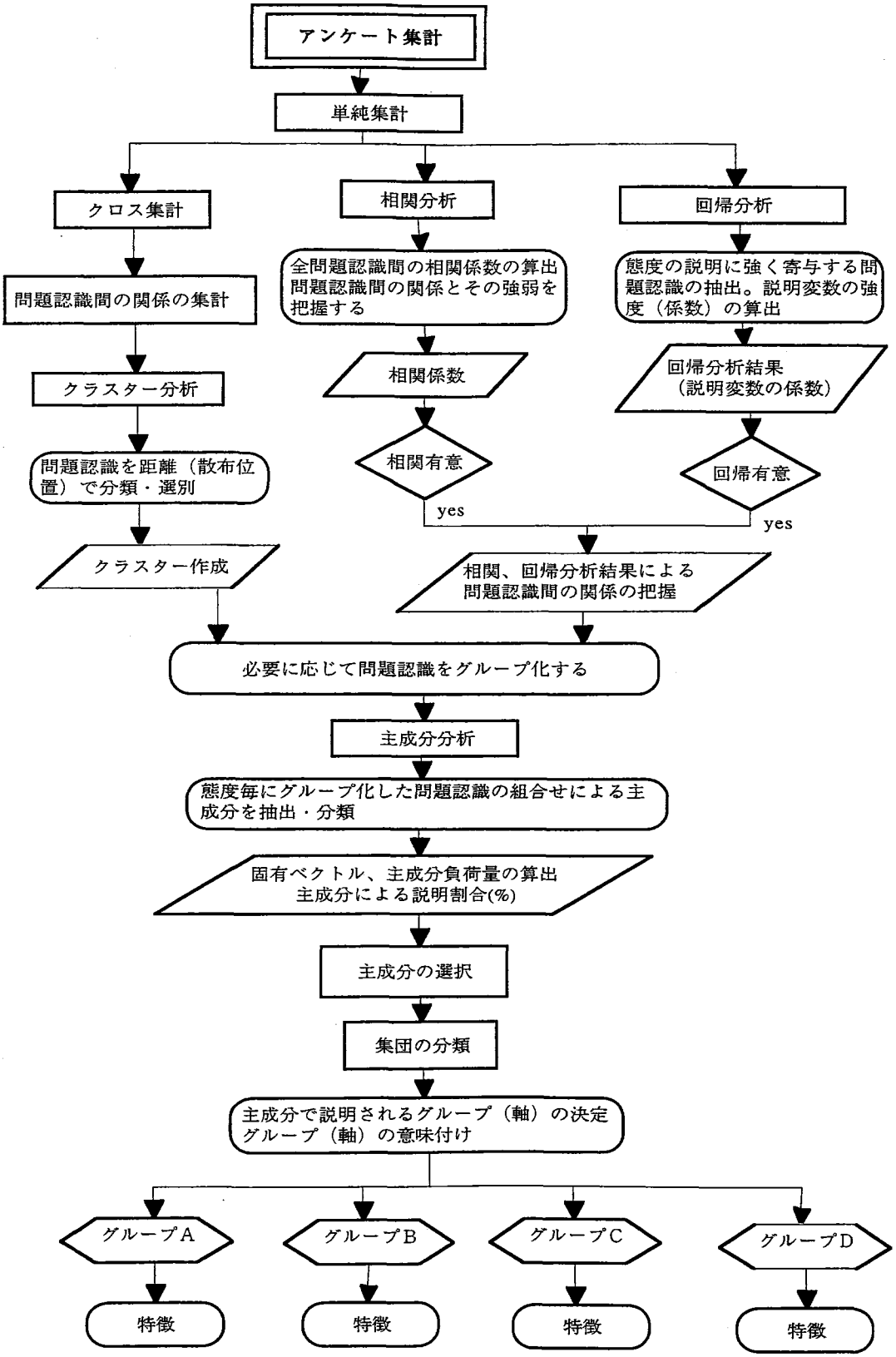



図４－１　アンケート結果の分析手順

## ４．３　アンケート集計結果

ここでは、アンケート票の回収結果についてまとめた。

（１）アンケート回収率

アンケートの回収結果を表４－５に示す。表中の回収率は、本件のアンケート内容拒否と配布数の和を母数として、回収数の比率を示しており、全体では、約６６％の回収率となっている。ここで、アンケート内容拒否は、アンケートの主旨と内容を確認した上で、アンケートへの回答を拒否された人数である。

一方、戸別訪問によるアンケート票の配布に際しては、訪問先においてアンケート内容ではなく、アンケートそのものに対する拒否も発生している。これは、訪問目的（アンケート調査）を告げた時点で、対応拒否するもので、主旨や内容は一切説明されていない。アンケート調査拒否の総数は、アンケート回収総数を上回っている。このような調査拒否も含めると回収率は、４０％弱となる。中でも、東京都日の出町における調査拒否は、回収数の２倍と著しく高くなっている。日の出町での調査拒否率が、他地域に比べて高い理由としては、他地域と同様な拒否理由の他に、産廃施設建設の問題に関連したアンケートと受け取られ、それに対する拒否が、含まれるからと考えられる。

アンケート回収数の年齢、性別の内訳では、表４－６に示すとおり、各年代、性別の比率は極端な差異はなく、アンケート回収は、偏りのない結果が得られていると考えられる。

（２）アンケート集計結果

アンケートの設問への回答は、各回答の統計数が少ないため、次の３つに集約して集計した。なお、集約前の単純集計結果とそれに基づく回答傾向については、添付資料Ｆに整理した。

・賛成
・反対
・判らないまたは判断しない

上述したようにアンケート内容は、大きく次の３つの設問に分類されている。

①現代社会への意見
②現代社会制度（政治、役所、行政）への意見
③社会公共問題への意見
④社会公共問題に対する態度

これらの設問に対する回答欄の区分けは表４－７のようにまとめた。また、個人属性の区分けについても統計上の観点から表４－８の通りまとめた。

けについても統計上の観点から表４－８の通りまとめた。

アンケート集計結果は、上記の４つの設問を、３種類の回答分類にしたがって単純集計した。さらに、その結果を４つの社会公共問題への態度（賛成、どちらでもない、反対）と現代社会・社会制度への意見および社会公共問題への意見とのクロス集計、個人属性（性別、地域、年齢等）と地層処分問題への意見とのクロス集計として整理した。クロス集計結果を添付資料Ｆに示した。ただし、１地域（成田地区）の結果は、回答の偏在性が強く他の４地域と異なる傾向を示ている。このためアンケート結果の統計処理をする上では、全体の分析結果に偏った結果をもたらす可能性がある。そこでこの地域の集計は集計結果から除外することとした。

アンケート結果は、各地域毎に、問題認識に関する回答及び命題に対する回答をクロス集計しているが、母数は、地域別に見ると高々５０弱である。この結果から各問題認識間で有為な傾向を見つけることは統計的に意味ある結果をえることは困難である。そこで、クロス集計では、問題認識毎の質問と命題に対する回答の傾向や相関を定性的に把握する。定性的な把握を基に、特に支配的と考えられる問題認識およびそれと蜜に関係するであろう問題認識を洗い出し、グループ化に資する。

また、問題認識以外の因子として、年齢、性別、職業、学歴等の個人情報の影響についても傾向を整理して、問題認識のグループ化の参考とした。

表４－４　各地域内でのアンケート実施状況（１／２）

1998.　**社会公共問題　意識調査**　　調査状況記録

| NO | 調査地点 | | 男性 | | | | | 女性 | | | | | | | | | 該当者 | 該当者 | 該当者 | 年令 | 調査 | 内容 | 回収 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 男性 | 女性 | 合計 | 回収率 | ナシ | 不在 | 不能 | 割付余 | 拒否 | 拒否 | 不能 |
| 1－1 | 中野区南台5 | 配布 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 8 | 7 | 15 | | 13 | 5 | 3 | 7 | 17 | 3 | 3 |
| | | 回収 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 1－2 | 杉並区和泉4 | 配布 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 7 | 8 | 15 | | 15 | 4 | 2 | 9 | 8 | 3 | 1 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 1－3 | 渋谷区笹塚駅前 | 配布 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 8 | 7 | 15 | | 13 | 5 | 2 | 12 | 8 | 3 | 3 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 1－4 | 杉並区下高井戸 | 配布 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 7 | 8 | 15 | | 15 | 15 | 2 | 5 | 8 | 2 | 3 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 5 | 6 | 11 | 0.733 | | | | | | | |
| 1－5 | 世田谷区桜上水1 | 配布 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 7 | 8 | 15 | | 28 | 36 | 3 | 7 | 10 | 3 | 4 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 1－6 | 世田谷区梅ヶ丘2 | 配布 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 19 | 17 | 5 | 5 | 10 | 3 | 3 |
| | | 回収 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 1－7 | 目黒区大岡山2 | 配布 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 28 | 14 | 1 | 10 | 9 | 3 | 2 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 7 | 6 | 13 | 0.867 | | | | | | | |
| 1－8 | 世田谷区等々力5 | 配布 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 9 | 6 | 15 | | 12 | 10 | 0 | 13 | 7 | 2 | 2 |
| | | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 7 | 6 | 13 | 0.867 | | | | | | | |
| 1－9 | 大田区鵜の木3 | 配布 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 22 | 10 | 1 | 8 | 16 | 2 | 3 |
| | | 回収 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| | 計 | 配布 | 13 | 14 | 16 | 17 | 13 | 11 | 13 | 14 | 13 | 11 | 73 | 62 | 135 | | 計 | 165 | 116 | 19 | 76 | 93 | 24 | 24 |
| | | 回収 | 11 | 10 | 12 | 13 | 9 | 11 | 12 | 11 | 10 | 10 | 55 | 54 | 109 | 0.807 | | | | | | | |
| 2－1 | 瑞穂町 | 配布 | 1 | 1 | 3 | 3 | | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 | 7 | 15 | | 12 | 5 | 6 | 0 | 10 | 2 | 4 |
| | 箱根が崎駅周辺 | 回収 | 1 | | 2 | 2 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 6 | 11 | 0.733 | | | | | | | |
| 2－2 | 羽村市 | 配布 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 7 | 8 | 15 | | 19 | 6 | 3 | 3 | 17 | 3 | 3 |
| | 双葉町2．3丁目 | 回収 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 | 7 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 2－3 | 福生市 | 配布 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 3 | 2 | 7 | 8 | 15 | | 26 | 21 | 0 | 22 | 12 | 2 | 3 |
| | 福生駅周辺 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 2－4 | 福生市 | 配布 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 7 | 8 | 15 | | 18 | 14 | 0 | 21 | 12 | 2 | 1 |
| | 武蔵野台1 | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| | 計 | 配布 | 4 | 4 | 8 | 9 | 4 | 6 | 4 | 7 | 9 | 5 | 29 | 31 | 60 | | 計 | 75 | 46 | 9 | 46 | 51 | 9 | 11 |
| | | 回収 | 4 | 3 | 6 | 6 | 3 | 6 | 4 | 5 | 5 | 5 | 22 | 25 | 47 | 0.783 | | | | | | | |
| 3－1 | 日の出町 | 配布 | 1 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 11 | 5 | 2 | 6 | 7 | 3 | 3 |
| | 役場周辺と以東 | 回収 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 3－2 | 日の出町 | 配布 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 8 | 7 | 15 | | 14 | 8 | 2 | 6 | 15 | 4 | 3 |
| | 平井橋周辺 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 3－3 | 日の出町 | 配布 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 5 | 3 | 2 | 6 | 13 | 6 | 3 |
| | 千石橋周辺 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| 3－4 | 日の出町 | 配布 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 9 | 6 | 15 | | 11 | 6 | 2 | 5 | 12 | 5 | 3 |
| | 三吉野周辺 | 回収 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | |
| | 計 | 配布 | 5 | 9 | 12 | 5 | 4 | 4 | 5 | 5 | 7 | 4 | 35 | 25 | 60 | | 計 | 116 | 68 | 17 | 69 | 98 | 27 | 23 |
| | | 回収 | 5 | 5 | 6 | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | 6 | 4 | 24 | 24 | 48 | 0.8 | | | | | | | |

表４－４　各地域内でのアンケート実施状況（２／２）

1998.

## 社会公共問題　意識調査

### 調査状況記録

| NO | 調査地点 | | 男性 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 女性 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 男性 | 女性 | 合計 | 回収率 | | 該当者ナシ | 該当者不在 | 該当者不能 | 年令割付余 | 調査拒否 | 内容拒否 | 回収不能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4－1 | 横須賀市 | 配布 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 7 | 8 | 15 | | | 6 | 10 | 0 | 4 | 11 | 2 | 4 |
| | 佐原4．5 | 回収 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 5 | 11 | 0.733 | | | | | | | | |
| 4－2 | 横須賀市 | 配布 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 7 | 8 | 15 | | | 10 | 7 | 0 | 6 | 12 | 1 | 3 |
| | 久里浜1．2 | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| 4－3 | 横須賀市 | 配布 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 8 | 7 | 15 | | | 14 | 11 | 0 | 8 | 11 | 2 | 3 |
| | 久比里1．2 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| 4－4 | 横須賀市 | 配布 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 8 | 7 | 15 | | | 7 | 13 | 0 | 6 | 13 | 4 | 3 |
| | 舟倉町 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| | 計 | 配布 | 4 | 7 | 7 | 6 | 6 | 5 | 7 | 5 | 6 | 7 | 30 | 30 | 60 | | 計 | 37 | 41 | 0 | 24 | 47 | 9 | 13 |
| | | 回収 | 4 | 5 | 6 | 5 | 4 | 4 | 6 | 4 | 4 | 5 | 24 | 23 | 47 | 0.783 | | | | | | | | |
| 5－1 | 成田市 | 配布 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 6 | 9 | 15 | | | 7 | 11 | 0 | 15 | 12 | 3 | 3 |
| | 三里塚周辺 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| 5－2 | 成田市 | 配布 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 9 | 6 | 15 | | | 17 | 7 | 0 | 8 | 12 | 2 | 3 |
| | 大清水周辺 | 回収 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| 5－3 | 成田市 | 配布 | 1 | 1 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 | 7 | 15 | | | 7 | 14 | 0 | 11 | 15 | 2 | 4 |
| | 吉倉周辺 | 回収 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 6 | 11 | 0.733 | | | | | | | | |
| 5－4 | 成田市 | 配布 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 7 | 8 | 15 | | | 2 | 12 | 0 | 8 | 6 | 1 | 3 |
| | 堀ノ内．長田周辺 | 回収 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 | 6 | 12 | 0.8 | | | | | | | | |
| | 計 | 配布 | 5 | 6 | 6 | 7 | 6 | 5 | 6 | 9 | 4 | 6 | 30 | 30 | 60 | | | 33 | 44 | 0 | 42 | 45 | 8 | 13 |
| | | 回収 | 4 | 4 | 6 | 5 | 4 | 5 | 4 | 6 | 4 | 5 | 23 | 24 | 47 | 0.783 | | | | | | | | |
| | 合計 | 配布 | 31 | 40 | 49 | 44 | 33 | 31 | 35 | 40 | 39 | 33 | 197 | 178 | 375 | | 計 | 426 | 315 | 45 | 257 | 334 | 77 | 84 |
| | | 回収 | 28 | 27 | 36 | 33 | 24 | 30 | 31 | 31 | 29 | 29 | 148 | 150 | 298 | 0.795 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回収／配布 | | 0.9 | 0.68 | 0.73 | 0.75 | 0.73 | 0.97 | 0.89 | 0.78 | 0.74 | 0.88 | 0.751 | 0.843 | 0.795 | | 合計 | 819 | 586 | 90 | 472 | 623 | 146 | 155 |

表４－５　　アンケート配布・回収結果

| 都道府県 | 地域名 | アンケート調査拒否 | アンケート内容拒否 | 配布数 | 回収数 | 未回収数 | 回収率* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京都 | 世田谷区周辺 | ９３ | ２４ | １３５ | １０９ | ２６ | ０．６９ |
| | 福生市双葉町周辺 | ５１ | ９ | ６０ | ４７ | １３ | ０．６８ |
| | 西多摩郡日の出町 | ９８ | ２７ | ６０ | ４８ | １２ | ０．５５ |
| 神奈川県 | 横須賀市佐原周辺 | ４７ | ９ | ６０ | ４７ | １３ | ０．６８ |
| 千葉県 | 成田市三里塚周辺 | ４５ | ８ | ６０ | ４７ | １３ | ０．６９ |
| 合計 | | ３３４ | ７７ | ３７５ | ２９８ | ７８ | ０．６６ |

＊回収率＝回収数／（アンケート内容拒否＋配布数）

表４－６　　アンケート回収数

| 性別 | 地域名 | 年齢層 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ２０代 | ３０代 | ４０代 | ５０代 | ６０代 | |
| 男性 | 世田谷区周辺 | １３ | １４ | １６ | １７ | １３ | ５５ |
| | 福生市双葉町周辺 | 4 | 3 | 6 | 6 | 3 | ２２ |
| | 西多摩郡日の出町 | 5 | 5 | 6 | 4 | 4 | ２４ |
| | 横須賀市佐原周辺 | 4 | 5 | 6 | 5 | 4 | ２４ |
| | 成田市三里塚周辺 | 4 | 4 | 6 | 5 | 4 | ２３ |
| | 小計 | ２８ | ２７ | ３６ | ３３ | ２４ | １４８ |
| 女性 | 世田谷区周辺 | １１ | １２ | １１ | １０ | １０ | ５４ |
| | 福生市双葉町周辺 | 6 | 4 | 5 | 5 | 5 | ２５ |
| | 西多摩郡日の出町 | 4 | 5 | 5 | 6 | 4 | ２４ |
| | 横須賀市佐原周辺 | 4 | 6 | 4 | 4 | 5 | ２３ |
| | 成田市三里塚周辺 | 5 | 4 | 6 | 4 | 5 | ２４ |
| | 小計 | ３０ | ３１ | ３１ | ２９ | ２９ | １５０ |
| 合計 | | ５８ | ５８ | ６７ | ６２ | ５３ | ２９８ |
| 年齢層比率 | | ０．１９ | ０．１９ | ０．２３ | ０．２１ | ０．１８ | １．０ |

表４－７　回答欄区分け

| 回答区分け | 設問内容 | |
|---|---|---|
| | ①現代社会への意見<br>②現代社会制度（政治、役所、行政）への意見<br>③社会公共問題への意見 | ④社会公共問題に対する態度 |
| 賛成 | そう思う<br>どちらかというとそう思う | 賛成<br>どちらかといえば賛成<br>条件次第で賛成<br>仕方がない |
| 判断無し<br>どちらでもない | どちらとも言えない<br>判らない | 賛成、反対どちらでもない<br>良く判らない<br>関心がない |
| 反対 | どちらかというとそう思わない<br>そう思わない | 反対<br>どちらかといえば反対<br>条件次第で反対 |

表４－８　　個人属性に関する設問内容（選択形式）

| 設問内容 | 選択肢 | 集計結果での項目 | 公衆分類での項目 |
|---|---|---|---|
| 地域 | 世田谷区周辺（都市部公衆） | 同左 | 同左 |
| | 福生市（基地周辺公衆） | 同左 | 同左 |
| | 日の出町（ゴミ処理場周辺公衆） | 同左 | 同左 |
| | 横須賀市（原子力関連施設周辺公衆） | 同左 | 同左 |
| | 成田市（大規模開発地域周辺公衆） | 回答の偏在性が強いため、集計結果から除外。 | 同左 |
| 性別 | 男性 | 同左 | 同左 |
| | 女性 | 同左 | 同左 |
| 年齢 | ２０代 | 同左 | 同左 |
| | ３０代 | 同左 | 同左 |
| | ４０代 | 同左 | 同左 |
| | ５０代 | 同左 | 同左 |
| | ６０代以上 | 同左 | 同左 |
| 子供の有無 | なし | 同左 | 同左 |
| | あり | 同左 | 同左 |
| 学歴 | 小学校卒業（旧制も含む） | 高卒未満にまとめた | 大卒未満にまとめた |
| | 中学校卒業（旧制も含む） | | |
| | 高等学校卒業（旧制も含む） | 高卒にまとめた | |
| | 専門学校卒業 | 専門・短大卒にまとめた | |
| | 短大卒業 | | |
| | 大学卒業 | 大卒以上 | 同左 |
| | 大学院卒業 | | |
| 職業 | 無職 | 同左 | 分類なし |
| | 専業主婦 | 同左 | 同左 |
| | 学生 | 同左 | 分類なし |
| | 会社員 | 会社員・公務員にまとめた | 同左 |
| | 団体職員・公務員 | | |
| | 自営業 | 同左 | 分類なし |
| | その他 | 同左 | 分類なし |

## ４．４　アンケート結果の分析

アンケート結果は、表４－９、表４－１０の各設問項目と問題認識の対応に従って整理し、以下の相関分析、因子分析、クラスター分析を実施した。

（１）相関分析

単純集計表を基に算出した全対象者の地層処分場建設に対する問題認識間の相関係数を表４－１１に、地層処分場建設への態度毎（賛成、どちらでもない、反対）分類での相関係数を表４－１２、表４－１３、表４－１４に示す。

（２）因子分析

単純集計表を基に因子分析により算出された地層処分場建設に対する態度を説明する主要な問題認識とその説明係数を表４－１５に示す。

（３）クラスター分析

単純集計表を基にクラスター分析により分類された問題認識の樹形図を、全対象者と地層処分場建設への態度毎（賛成、どちらでもない、反対）に図４－２、図４－３、図４－４、図４－５に示す。

これらのクラスター分析と前述の相関分析結果（相関係数）、因子分析結果（説明係数）を参考にして問題認識間の関係をまとめて、各クラスターを代表する項目にグループ化した。表４－１６に、問題認識のクラスター毎のグループ化の結果を示す。このグループ化により主成分分析を行う際の因子数を縮約でき、主要な主成分の把握が用意となる。（注）

（注）主成分分析を行う場合、因子が多いと多くの主成分が生じ、目的とする主成分の把握が難しくなる。

（４）主成分分析

表４－１６の因子を用いて全対象者、地層処分場建設への態度毎（賛成、どちらでもない、反対）に分けて主成分分析を行った。全対象者の主成分分析結果として、主要な主成分１、主成分２の因子負荷量を図４－６、図４－７に、両主成分の関係を図４－８、主成分分析に基づく公衆の分類を図４－９に示す。同様に地層処分場建設への態度毎（賛成、どちらでもない、反対）の公衆の主成分分析結果（主成分１、主成分２の因子負荷量、主成分の関係、賛成公衆の分類）を図４－１０～図４－１３、図４－１４～図４－１７、図４－１８～図４－２１に示す。

表４－９　　社会一般に関する設問内容を代表する問題認識目

| 設問番号 | 設問内容 | 問題認識 |
|---|---|---|
| 1 | いまの日本の状況は、昔と比べて良くなったと思いますか？ | 現状社会の認識 |
| 2 | 将来の日本の状況は、今より良くなると思いますか？ | 将来社会への期待 |
| 1 | いまの政治や政治家や役人は信用できると思いますか？ | 政治・行政への信頼 |
| 2 | あなたがなにかをすることによって、いまの政治は良くなると思いますか？ | 政治参加の意識 |
| 3 | 政治や経済など、世の中のことは、政府にすべての責任があると思いますか？ | 政府責任の認識 |
| 4 | 政治や経済など、世の中のことは、政府にすべて任せておけばよいと思いますか？ | 政府への依存 |
| 5 | 公共問題に関しては、個人がもっと関心をもち責任とるべきと思いますか？ | 公共問題への責任 |
| 6 | 最近は、みんな自分の利益しか考えていないと思いますか？ | 自己利益の優先 |
| 7 | 社会に対する意見は、なるべく周りの人にあわせた方がよいと思いますか？ | 社会への迎合 |
| 8 | 国民全体のために、ある程度、一握りの人が犠牲になることはしかたがないと思いますか？ | 第３者犠牲の容認 |
| 9 | 社会のためとはいえ、自分や家族が犠牲になるのは、納得できないと思いますか？ | 家族犠牲の拒絶 |
| １０ | 環境問題などの解決のためには、あなたの現在の生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | 生活習慣の変更の容認 |

表４－１０　個別の社会問題に関する設問内容を代表する問題認識（１／２）

| 設問番号 | 設問内容 | 問題認識 |
|---|---|---|
| 1 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）(1)の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることが考えられます。あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？ | 反対運動の認知 |
| 2 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の問題について、関心はあるほうだと思いますか？ | 問題への関心 |
| 3 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に直接悪影響があると思いますか？ | 直接的リスクの認識 |
| 4 | 高レベル放射性廃棄物やそれから出る放射線や放射能(2)について良く知っていると思いますか？ | 放射能の認知 |
| 5 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | 間接リスクの認識 |
| 6 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | 隣接立地への不安 |
| 7 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、環境を破壊すると思いますか？ | 環境破壊の認知 |
| 8 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、必要だと思いますか？ | 必要性の認識 |
| 9 | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | 行政への信頼 |
| １０ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して専門家のいうことは、信用できると思いますか？ | 専門家への信頼 |
| １１ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されると思いますか？ | 情報公開への信頼 |
| １２ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、周辺住民が得る情報は、信用できる情報だと思いますか？ | 提供情報への信頼 |
| １３ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | 行政能力への信頼 |
| １４ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、地層処分場のイメージが悪いから起こると思いますか？ | 風評への認識 |
| １５ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | 直接決定の容認 |

(1)下線部は、社会公共問題の対象により、「ゴミ処理場建設」、「原子力発電所建設」、「米軍基地移転」となる。他の設問内容でも同様。

(2)社会公共問題が「ゴミ処理場建設」の場合は、「ダイオキシンやゴミ処理場から出る有害物質について」、

「原子力発電所建設」では、「原子力発電所から出る放射線や放射能」に変わる。「米軍基地移転」では（４）の設問なし。

表４－１０　　個別の社会問題に関する設問内容を代表する問題認識（２／２）

| 設問番号 | 設問内容 | 問題認識 |
|---|---|---|
| １６ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設[1]は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | 間接決定の容認 |
| １７ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | 政治・行政への依存 |
| １８ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、電力の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | 恩恵への責任意識 |
| １９ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起こると思いますか？ | 住民エゴへの認識 |
| ２０[3] | ゴミ処理施設建設の問題を解決するには、あなたの生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | 生活レベル変更への理解 |
| ２１ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設にあたって、周辺地域への補償は、適切に行われると思いますか？ | 補償の妥当性の認識 |
| ２２ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、原子力の恩恵を受ける国民と処分場を引き受ける人に、不公平が生じると思いますか？ | 消費地と地元の不公平 |
| ２３ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | 隣接立地不安への理解 |
| ２４ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | 利害対立への理解 |
| ２５ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に対しては、賛成ですか、反対ですか？ | 地層処分場建設への態度 |

(1)下線部は、社会公共問題の対象により、「ゴミ処理場建設」、「原子力発電所建設」、「米軍基地移転」となる。他の設問内容でも同様。

(2)「地層処分場建設」と「米軍基地移転」の場合は（２０）は、設問なし。社会公共問題が「ゴミ処理場建設」、「原子力発電所建設」の場合のみ。「原子力発電所建設」では、下線部を変更。

表４－１１　地層処分場建設に関する質問項目への回答間の相関

| | Q7(0) | Q7(1) | Q7(2) | Q7(3) | Q7(4) | Q7(5) | Q1(1) | Q1(2) | Q2(1) | Q2(2) | Q2(3) | Q2(4) | Q2(5) | Q2(6) | Q2(7) | Q2(8) | Q2(9) | Q2(10) | Q6(1) | Q6(2) | Q6(3) | Q6(4) | Q6(5) | Q6(6) | Q6(7) | Q6(8) | Q6(9) | Q6(10) | Q6(11) | Q6(12) | Q6(13) | Q6(14) | Q6(15) | Q6(16) | Q6(17) | Q6(18) | Q6(19) | Q6(21) | Q6(22) | Q6(23) | Q6(24) | Q6(25) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性別 | 0.01 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年齢 | 0.01 | -0.02 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子供有無 | 0.01 | 0.14 | 0.45 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学歴 | -0.19 | -0.10 | -0.33 | -0.15 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職業 | 0.04 | -0.28 | -0.14 | -0.05 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現状社会の認識 | -0.06 | 0.10 | -0.10 | 0.02 | -0.03 | 0.03 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 将来社会への期待 | 0.06 | -0.03 | 0.00 | -0.06 | -0.11 | -0.01 | 0.25 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治・行政への信頼 | -0.08 | 0.03 | -0.06 | 0.02 | 0.05 | -0.04 | 0.22 | 0.16 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治参加の意識 | -0.04 | 0.02 | -0.03 | -0.05 | -0.04 | -0.06 | 0.02 | 0.08 | 0.19 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府責任の認識 | 0.03 | -0.17 | -0.02 | 0.01 | 0.13 | 0.21 | -0.10 | -0.13 | -0.07 | -0.16 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府への依存 | -0.04 | 0.04 | 0.02 | 0.03 | 0.05 | 0.04 | 0.07 | 0.02 | 0.10 | -0.12 | 0.11 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公共問題への責任 | 0.14 | -0.04 | -0.02 | 0.01 | -0.02 | -0.03 | -0.05 | 0.10 | 0.00 | 0.07 | -0.07 | -0.21 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己利益の優先 | -0.03 | -0.06 | -0.10 | -0.06 | -0.05 | -0.03 | -0.13 | -0.06 | -0.16 | 0.03 | 0.19 | -0.01 | 0.14 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会への迎合 | -0.11 | -0.12 | -0.01 | -0.05 | 0.12 | 0.02 | -0.03 | 0.04 | 0.11 | -0.05 | 0.10 | 0.21 | -0.13 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第３者犠牲の容認 | 0.03 | 0.02 | -0.07 | 0.02 | 0.05 | 0.02 | 0.05 | 0.00 | 0.20 | 0.02 | 0.06 | 0.08 | -0.02 | 0.00 | 0.23 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家族犠牲の拒絶 | 0.09 | 0.01 | -0.07 | -0.09 | 0.02 | 0.02 | 0.06 | 0.00 | 0.01 | -0.10 | 0.09 | -0.15 | 0.10 | -0.01 | -0.03 | -0.13 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活習慣の変更の容認 | -0.07 | -0.04 | 0.07 | 0.00 | -0.08 | -0.12 | -0.10 | -0.07 | 0.03 | 0.13 | -0.05 | 0.04 | 0.20 | 0.15 | -0.13 | 0.04 | -0.10 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 反対運動の認知 | 0.09 | 0.16 | -0.25 | -0.10 | 0.03 | -0.06 | 0.01 | -0.01 | -0.03 | -0.01 | 0.19 | 0.08 | 0.08 | 0.10 | -0.03 | -0.02 | 0.02 | -0.02 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題への関心 | 0.15 | 0.11 | -0.12 | -0.06 | -0.05 | -0.07 | -0.04 | 0.00 | -0.05 | 0.02 | 0.13 | -0.02 | 0.19 | 0.18 | -0.06 | -0.05 | 0.08 | 0.05 | 0.58 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 直接的リスクの認識 | 0.13 | -0.07 | 0.20 | -0.02 | -0.14 | -0.01 | -0.23 | -0.08 | -0.10 | -0.10 | 0.05 | 0.04 | 0.08 | 0.09 | -0.09 | 0.01 | -0.03 | 0.10 | 0.10 | 0.19 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射能の認知 | 0.22 | 0.08 | -0.12 | 0.00 | -0.07 | -0.13 | -0.06 | 0.06 | -0.07 | 0.04 | 0.08 | 0.00 | 0.09 | 0.08 | -0.01 | 0.00 | -0.06 | 0.08 | 0.60 | 0.53 | 0.21 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 間接リスクの認識 | 0.02 | -0.10 | 0.18 | 0.00 | 0.00 | -0.01 | -0.17 | -0.15 | -0.04 | -0.19 | 0.06 | 0.00 | -0.02 | 0.04 | -0.03 | -0.04 | -0.09 | 0.18 | 0.04 | 0.07 | 0.55 | 0.08 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 隣接立地への不安 | 0.08 | -0.10 | 0.14 | 0.03 | -0.02 | -0.05 | -0.12 | -0.06 | -0.20 | -0.16 | 0.10 | -0.08 | 0.05 | -0.03 | -0.08 | -0.07 | -0.01 | 0.02 | -0.04 | 0.03 | 0.33 | -0.02 | 0.40 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境破壊の認知 | 0.11 | -0.11 | 0.10 | 0.03 | 0.01 | 0.04 | -0.10 | -0.13 | -0.21 | -0.14 | 0.07 | 0.00 | 0.09 | 0.09 | 0.00 | -0.08 | -0.04 | 0.10 | -0.06 | 0.02 | 0.51 | 0.01 | 0.56 | 0.49 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性の認識 | -0.07 | 0.15 | 0.00 | 0.05 | -0.06 | -0.05 | 0.01 | 0.11 | -0.10 | 0.01 | -0.04 | -0.06 | 0.07 | -0.03 | -0.01 | 0.12 | -0.24 | 0.07 | 0.09 | 0.02 | -0.18 | 0.07 | -0.10 | -0.05 | -0.11 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政への信頼 | 0.02 | -0.12 | 0.12 | 0.13 | 0.01 | -0.04 | 0.05 | 0.08 | 0.22 | 0.01 | -0.03 | 0.03 | 0.00 | 0.00 | 0.06 | 0.08 | -0.03 | -0.01 | -0.21 | -0.15 | -0.12 | -0.13 | -0.06 | -0.03 | -0.12 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門家への信頼 | -0.09 | 0.02 | 0.04 | -0.01 | 0.08 | -0.06 | 0.10 | 0.03 | 0.14 | -0.05 | -0.02 | 0.03 | -0.05 | -0.12 | 0.02 | 0.13 | -0.05 | 0.02 | -0.06 | -0.07 | -0.06 | 0.02 | 0.02 | -0.11 | -0.17 | 0.06 | 0.33 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | |
| 情報公開への信頼 | -0.09 | -0.01 | 0.05 | 0.15 | 0.06 | 0.03 | 0.06 | 0.08 | 0.20 | 0.13 | 0.04 | 0.11 | -0.09 | -0.09 | 0.02 | 0.07 | -0.10 | 0.01 | -0.16 | -0.17 | -0.10 | -0.12 | -0.16 | -0.12 | -0.15 | 0.02 | 0.41 | 0.38 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| 提供情報への信頼 | -0.14 | 0.00 | 0.06 | 0.13 | 0.04 | 0.05 | 0.09 | 0.03 | 0.11 | 0.05 | -0.01 | 0.04 | -0.06 | -0.03 | -0.01 | 0.15 | -0.11 | -0.05 | -0.04 | -0.10 | -0.09 | -0.03 | -0.09 | -0.13 | -0.20 | 0.09 | 0.37 | 0.51 | 0.54 | 1.00 | | | | | | | | | | | |
| 行政能力への信頼 | -0.04 | -0.01 | 0.08 | 0.09 | 0.04 | 0.06 | 0.00 | 0.05 | 0.26 | 0.03 | 0.01 | 0.18 | -0.05 | -0.05 | 0.08 | 0.07 | -0.12 | -0.07 | -0.19 | -0.11 | -0.09 | -0.16 | -0.09 | -0.15 | -0.18 | 0.03 | 0.61 | 0.34 | 0.55 | 0.44 | 1.00 | | | | | | | | | | |
| 風評への認識 | 0.14 | 0.02 | 0.00 | 0.11 | 0.02 | 0.07 | 0.04 | 0.12 | 0.04 | -0.02 | -0.02 | 0.07 | -0.02 | -0.04 | 0.02 | 0.04 | 0.05 | -0.05 | -0.03 | -0.07 | -0.13 | -0.07 | -0.04 | 0.00 | -0.01 | 0.02 | 0.11 | 0.12 | 0.10 | 0.02 | 0.08 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 直接決定の容認 | 0.05 | -0.05 | 0.10 | 0.00 | -0.05 | 0.05 | -0.04 | -0.12 | -0.10 | 0.00 | 0.07 | 0.00 | 0.09 | 0.08 | 0.02 | -0.07 | 0.07 | 0.09 | -0.03 | 0.07 | 0.10 | 0.09 | 0.15 | 0.11 | 0.16 | -0.21 | -0.01 | -0.03 | -0.05 | -0.03 | -0.02 | 0.12 | 1.00 | | | | | | | | |
| 間接決定の容認 | 0.01 | -0.02 | -0.05 | 0.00 | 0.08 | 0.00 | 0.00 | 0.07 | 0.18 | -0.07 | -0.02 | 0.05 | -0.03 | 0.02 | 0.09 | 0.16 | -0.02 | -0.01 | -0.10 | -0.08 | -0.02 | -0.01 | 0.01 | -0.17 | 0.01 | 0.14 | 0.17 | 0.16 | 0.14 | 0.12 | 0.17 | 0.10 | -0.07 | 1.00 | | | | | | | |
| 政治・行政への依存 | 0.00 | -0.07 | -0.01 | 0.00 | 0.02 | 0.07 | 0.05 | 0.13 | 0.17 | 0.02 | -0.02 | 0.10 | -0.10 | 0.05 | 0.10 | 0.20 | -0.09 | -0.05 | -0.09 | -0.08 | -0.12 | -0.03 | -0.11 | -0.20 | -0.15 | 0.00 | 0.39 | 0.21 | 0.22 | 0.21 | 0.42 | 0.21 | -0.13 | 0.45 | 1.00 | | | | | | |
| 恩恵への責任意識 | 0.04 | 0.11 | 0.04 | 0.08 | -0.23 | 0.04 | 0.05 | 0.14 | 0.04 | -0.06 | -0.06 | 0.04 | 0.12 | 0.10 | -0.03 | 0.14 | -0.01 | 0.10 | 0.04 | 0.12 | -0.03 | 0.11 | 0.04 | -0.15 | -0.12 | 0.04 | 0.06 | 0.15 | 0.00 | 0.15 | 0.07 | 0.04 | 0.10 | 0.06 | 0.22 | 1.00 | | | | | |
| 住民エゴへの認識 | 0.06 | -0.05 | -0.01 | 0.13 | 0.02 | 0.07 | 0.09 | 0.08 | 0.15 | 0.00 | 0.04 | 0.16 | -0.13 | -0.01 | 0.15 | 0.19 | -0.04 | -0.13 | -0.07 | -0.10 | -0.08 | -0.07 | -0.09 | -0.21 | -0.09 | 0.03 | 0.22 | 0.09 | 0.24 | 0.11 | 0.25 | 0.21 | -0.07 | 0.17 | 0.45 | 0.16 | 1.00 | | | | |
| 補償の妥当性の認識 | 0.01 | -0.02 | -0.12 | 0.05 | 0.05 | 0.03 | 0.08 | 0.12 | 0.14 | 0.01 | 0.03 | -0.06 | -0.03 | 0.09 | -0.05 | 0.16 | -0.02 | -0.02 | -0.11 | -0.12 | -0.08 | -0.06 | -0.19 | -0.18 | -0.25 | 0.04 | 0.37 | 0.22 | 0.32 | 0.28 | 0.32 | 0.08 | -0.11 | 0.10 | 0.19 | 0.04 | 0.10 | 1.00 | | | |
| 消費地と地元の不公平 | 0.03 | 0.05 | -0.04 | -0.09 | -0.04 | 0.11 | -0.04 | -0.06 | -0.02 | -0.05 | 0.06 | 0.06 | 0.05 | 0.16 | 0.03 | 0.08 | -0.02 | 0.15 | 0.05 | 0.18 | 0.18 | 0.12 | 0.25 | 0.12 | 0.21 | 0.10 | -0.08 | -0.03 | 0.00 | -0.06 | -0.01 | 0.10 | 0.13 | 0.01 | -0.04 | 0.20 | 0.00 | -0.03 | 1.00 | | |
| 隣接立地不安への理解 | 0.00 | 0.00 | -0.04 | -0.06 | -0.11 | 0.05 | -0.06 | -0.05 | -0.10 | 0.00 | 0.11 | 0.05 | 0.16 | 0.21 | -0.06 | -0.11 | -0.09 | 0.16 | 0.11 | 0.18 | 0.14 | 0.02 | 0.22 | 0.13 | 0.20 | 0.04 | -0.04 | 0.00 | -0.14 | -0.15 | -0.10 | 0.02 | 0.11 | -0.05 | -0.06 | 0.09 | -0.09 | -0.07 | 0.21 | 1.00 | |
| 利害対立への理解 | 0.10 | 0.05 | -0.02 | 0.04 | 0.03 | 0.05 | 0.03 | -0.03 | -0.03 | 0.02 | 0.02 | -0.03 | 0.00 | -0.01 | 0.13 | 0.07 | -0.02 | -0.10 | 0.01 | 0.11 | 0.06 | 0.07 | 0.02 | 0.00 | 0.07 | -0.01 | 0.01 | 0.12 | 0.07 | 0.05 | 0.09 | 0.28 | 0.03 | 0.05 | 0.23 | 0.01 | 0.35 | -0.02 | 0.04 | 0.02 | 1.00 |
| 地層処分場建設への態度 | -0.01 | 0.09 | -0.02 | 0.08 | 0.02 | 0.02 | -0.01 | 0.21 | 0.04 | 0.02 | -0.15 | 0.04 | 0.01 | -0.02 | 0.01 | 0.16 | -0.03 | -0.08 | -0.09 | -0.14 | -0.23 | -0.11 | -0.24 | -0.22 | -0.28 | 0.26 | 0.16 | 0.13 | 0.10 | 0.14 | 0.11 | 0.10 | -0.23 | 0.24 | 0.20 | 0.09 | 0.14 | 0.21 | -0.13 | -0.12 | -0.07 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 |

表４－１２　地層処分場建設に対する態度（賛成）毎の回答間の相関

| | Q7(0) | Q7(1) | Q7(2) | Q7(3) | Q7(4) | Q7(5) | Q1(1) | Q1(2) | Q2(1) | Q2(2) | Q2(3) | Q2(4) | Q2(5) | Q2(6) | Q2(7) | Q2(8) | Q2(9) | Q2(10) | Q6(1) | Q6(2) | Q6(3) | Q6(4) | Q6(5) | Q6(6) | Q6(7) | Q6(8) | Q6(9) | Q6(10) | Q6(11) | Q6(12) | Q6(13) | Q6(14) | Q6(15) | Q6(16) | Q6(17) | Q6(18) | Q6(19) | Q6(21) | Q6(22) | Q6(23) | Q6(24) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性別 | 0.05 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年齢 | 0.11 | -0.24 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子供有無 | 0.06 | 0.14 | 0.46 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学歴 | -0.28 | -0.10 | -0.48 | -0.39 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職業 | -0.12 | -0.39 | -0.01 | -0.19 | 0.09 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現状社会の認識 | 0.01 | 0.19 | -0.07 | -0.11 | -0.07 | -0.08 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 将来社会への期待 | -0.04 | -0.16 | -0.05 | -0.28 | -0.24 | -0.07 | 0.33 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治・行政への信頼 | -0.23 | 0.10 | 0.03 | 0.16 | -0.01 | -0.06 | 0.25 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治参加の意識 | -0.23 | -0.10 | -0.20 | -0.25 | 0.06 | 0.04 | 0.12 | 0.39 | 0.35 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府責任の認識 | 0.14 | -0.11 | -0.01 | 0.02 | 0.00 | 0.00 | -0.01 | -0.16 | -0.31 | -0.38 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府への依存 | -0.09 | 0.12 | -0.06 | 0.19 | -0.14 | 0.01 | 0.20 | -0.02 | -0.01 | -0.11 | -0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公共問題への責任 | 0.14 | -0.05 | 0.19 | -0.03 | -0.16 | -0.06 | -0.08 | 0.00 | 0.12 | 0.04 | 0.02 | -0.27 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己利益の優先 | -0.01 | 0.06 | -0.17 | -0.22 | -0.20 | 0.14 | -0.08 | 0.12 | -0.10 | 0.06 | 0.15 | 0.01 | -0.02 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会への迎合 | -0.05 | -0.23 | 0.10 | 0.09 | 0.09 | -0.14 | 0.03 | 0.19 | 0.41 | 0.00 | -0.05 | 0.01 | -0.12 | -0.08 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第３者犠牲の容認 | 0.18 | 0.06 | -0.09 | 0.00 | 0.12 | 0.07 | 0.00 | -0.17 | 0.30 | 0.11 | 0.10 | -0.10 | -0.03 | 0.09 | 0.26 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家族犠牲の拒絶 | 0.20 | -0.13 | 0.21 | 0.02 | -0.24 | 0.08 | 0.03 | -0.04 | 0.07 | -0.15 | -0.12 | -0.24 | 0.34 | -0.01 | 0.10 | -0.15 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活習慣の変更の容認 | -0.27 | -0.05 | 0.22 | 0.07 | -0.14 | 0.03 | -0.06 | 0.05 | 0.20 | 0.35 | -0.18 | 0.11 | 0.22 | 0.02 | -0.14 | 0.09 | -0.08 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 反対運動の認知 | 0.13 | 0.25 | -0.50 | -0.19 | -0.06 | -0.07 | 0.17 | 0.21 | -0.17 | -0.08 | 0.24 | 0.10 | 0.12 | 0.25 | -0.14 | -0.01 | -0.02 | -0.26 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題への関心 | 0.10 | 0.22 | -0.44 | -0.28 | 0.03 | -0.22 | 0.10 | 0.19 | -0.20 | -0.13 | 0.26 | -0.12 | 0.34 | 0.36 | -0.12 | -0.19 | 0.08 | -0.22 | 0.67 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 直接的リスクの認識 | 0.30 | -0.14 | 0.36 | 0.11 | -0.15 | -0.04 | -0.29 | -0.09 | -0.25 | -0.33 | 0.15 | 0.04 | 0.28 | 0.05 | 0.09 | 0.06 | -0.02 | 0.03 | -0.16 | -0.05 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射能の認知 | 0.32 | 0.35 | -0.29 | -0.11 | -0.18 | -0.37 | 0.16 | 0.22 | -0.29 | -0.06 | 0.08 | 0.11 | 0.07 | 0.23 | -0.08 | 0.02 | -0.20 | -0.17 | 0.63 | 0.54 | -0.02 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 間接リスクの認識 | 0.06 | -0.10 | 0.40 | 0.15 | 0.06 | 0.06 | -0.20 | -0.26 | -0.05 | -0.36 | 0.21 | -0.12 | 0.12 | 0.11 | 0.05 | -0.05 | -0.07 | 0.08 | -0.18 | -0.13 | 0.57 | -0.21 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 隣接立地への不安 | 0.22 | -0.27 | 0.20 | 0.00 | 0.12 | 0.04 | -0.27 | -0.16 | -0.47 | -0.52 | 0.28 | -0.20 | 0.10 | -0.04 | 0.08 | -0.07 | 0.08 | -0.26 | -0.07 | 0.02 | 0.53 | -0.02 | 0.49 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境破壊の認知 | 0.21 | -0.13 | 0.29 | 0.20 | 0.03 | -0.04 | -0.27 | -0.21 | -0.24 | -0.38 | 0.20 | 0.10 | 0.02 | 0.06 | 0.06 | 0.00 | -0.09 | -0.01 | -0.28 | -0.16 | 0.76 | -0.16 | 0.74 | 0.65 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性の認識 | -0.14 | 0.09 | 0.13 | 0.02 | -0.16 | -0.06 | 0.27 | 0.23 | -0.23 | 0.09 | 0.00 | 0.02 | -0.11 | -0.01 | -0.41 | 0.00 | -0.27 | 0.06 | 0.02 | -0.05 | -0.16 | -0.02 | -0.18 | -0.09 | -0.21 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政への信頼 | -0.15 | 0.21 | 0.21 | 0.40 | -0.07 | -0.03 | -0.01 | -0.17 | 0.35 | -0.02 | -0.21 | -0.13 | 0.00 | -0.06 | 0.20 | 0.15 | 0.09 | -0.02 | -0.14 | -0.22 | 0.03 | -0.22 | 0.13 | -0.05 | -0.07 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | |
| 専門家への信頼 | 0.00 | 0.21 | -0.21 | 0.12 | 0.20 | -0.05 | 0.06 | -0.33 | 0.36 | -0.05 | 0.02 | -0.06 | -0.09 | -0.07 | 0.23 | 0.29 | -0.09 | -0.09 | -0.09 | -0.02 | -0.21 | -0.04 | -0.08 | -0.18 | -0.23 | -0.01 | 0.41 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| 情報公開への信頼 | -0.13 | 0.14 | -0.15 | 0.10 | 0.03 | -0.04 | -0.14 | -0.02 | 0.07 | 0.13 | 0.03 | -0.17 | -0.21 | -0.08 | -0.03 | 0.19 | 0.04 | -0.21 | -0.01 | -0.08 | -0.06 | -0.22 | -0.24 | -0.12 | -0.16 | 0.26 | 0.44 | 0.28 | 1.00 | | | | | | | | | | | |
| 提供情報への信頼 | -0.17 | 0.36 | -0.21 | 0.25 | 0.01 | 0.10 | -0.01 | -0.23 | 0.12 | 0.01 | -0.13 | 0.08 | -0.32 | 0.08 | -0.01 | 0.18 | -0.12 | -0.12 | 0.15 | -0.06 | -0.16 | 0.05 | -0.04 | -0.25 | -0.18 | 0.08 | 0.56 | 0.35 | 0.37 | 1.00 | | | | | | | | | | |
| 行政能力への信頼 | -0.30 | 0.17 | 0.04 | 0.22 | -0.01 | 0.10 | -0.10 | 0.01 | 0.47 | 0.18 | -0.21 | -0.03 | -0.08 | 0.03 | 0.16 | 0.09 | -0.04 | -0.04 | -0.16 | -0.14 | -0.09 | -0.37 | 0.05 | -0.24 | -0.14 | 0.01 | 0.78 | 0.33 | 0.51 | 0.51 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 風評への認識 | 0.16 | 0.16 | -0.13 | 0.12 | 0.10 | 0.09 | -0.11 | 0.00 | 0.09 | -0.03 | -0.09 | 0.10 | 0.00 | 0.00 | -0.04 | 0.12 | 0.08 | 0.14 | 0.12 | 0.06 | -0.10 | 0.00 | 0.00 | -0.04 | 0.11 | 0.04 | 0.00 | 0.19 | 0.20 | 0.07 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | |
| 直接決定の容認 | -0.02 | 0.23 | 0.24 | 0.30 | -0.09 | -0.03 | -0.22 | -0.28 | -0.06 | -0.16 | 0.07 | 0.14 | 0.13 | 0.07 | 0.09 | -0.05 | 0.08 | 0.10 | 0.06 | 0.03 | 0.14 | 0.20 | 0.32 | 0.13 | 0.18 | -0.27 | 0.05 | -0.01 | -0.16 | 0.06 | -0.04 | 0.15 | 1.00 | | | | | | | |
| 間接決定の容認 | -0.15 | 0.14 | -0.10 | 0.05 | 0.19 | 0.13 | 0.03 | -0.08 | 0.20 | 0.00 | -0.10 | 0.00 | -0.05 | -0.11 | 0.04 | 0.14 | 0.10 | 0.10 | -0.24 | -0.17 | -0.13 | -0.31 | -0.09 | -0.14 | -0.03 | 0.07 | 0.18 | 0.23 | 0.17 | 0.07 | 0.26 | 0.31 | -0.14 | 1.00 | | | | | | |
| 政治・行政への依存 | -0.05 | 0.06 | -0.10 | 0.02 | -0.06 | 0.21 | 0.02 | 0.10 | 0.41 | 0.16 | -0.25 | 0.06 | -0.08 | 0.26 | 0.28 | 0.31 | 0.20 | 0.11 | -0.10 | -0.10 | -0.15 | -0.13 | -0.16 | -0.15 | -0.11 | -0.22 | 0.39 | 0.28 | 0.24 | 0.24 | 0.49 | 0.30 | -0.22 | 0.57 | 1.00 | | | | | |
| 恩恵への責任意識 | -0.08 | 0.10 | -0.06 | 0.05 | -0.25 | 0.08 | 0.14 | 0.19 | 0.18 | 0.10 | -0.13 | 0.04 | 0.03 | 0.27 | 0.01 | 0.34 | -0.15 | 0.07 | 0.27 | 0.13 | -0.14 | 0.36 | -0.08 | -0.23 | -0.21 | 0.12 | 0.03 | 0.10 | -0.01 | 0.23 | 0.10 | 0.00 | 0.01 | -0.07 | 0.26 | 1.00 | | | | |
| 住民エゴへの認識 | -0.08 | -0.11 | -0.04 | 0.20 | -0.05 | 0.22 | 0.07 | 0.01 | 0.24 | -0.04 | 0.07 | 0.11 | -0.12 | 0.15 | 0.40 | 0.32 | 0.26 | -0.08 | -0.02 | -0.14 | 0.03 | -0.22 | -0.04 | -0.02 | 0.03 | -0.04 | 0.33 | 0.37 | 0.42 | 0.17 | 0.30 | 0.30 | -0.14 | 0.16 | 0.48 | 0.11 | 1.00 | | | |
| 補償の妥当性の認識 | -0.06 | 0.01 | -0.21 | 0.06 | 0.13 | 0.14 | -0.03 | -0.01 | 0.24 | 0.19 | -0.09 | -0.18 | -0.15 | 0.17 | -0.08 | 0.12 | -0.05 | -0.14 | -0.02 | 0.00 | -0.09 | -0.04 | -0.16 | -0.29 | -0.25 | 0.01 | 0.43 | 0.38 | 0.50 | 0.42 | 0.46 | 0.00 | -0.13 | 0.10 | 0.28 | 0.11 | 0.21 | 1.00 | | |
| 消費地と地元の不公平 | -0.12 | 0.03 | 0.08 | -0.19 | -0.15 | 0.00 | 0.09 | 0.16 | -0.09 | 0.02 | 0.17 | 0.02 | 0.11 | 0.48 | -0.08 | 0.05 | -0.07 | 0.15 | 0.03 | 0.16 | 0.28 | 0.04 | 0.35 | 0.15 | 0.29 | 0.28 | -0.01 | 0.05 | 0.11 | 0.10 | 0.00 | 0.07 | 0.15 | -0.16 | -0.02 | 0.14 | 0.18 | 0.02 | 1.00 | |
| 隣接立地不安への理解 | -0.20 | -0.23 | -0.05 | -0.03 | -0.04 | 0.05 | -0.08 | -0.11 | -0.02 | -0.15 | 0.17 | 0.14 | 0.37 | 0.17 | -0.06 | -0.22 | -0.10 | 0.05 | 0.17 | 0.34 | 0.28 | 0.11 | 0.23 | 0.17 | 0.14 | -0.11 | 0.07 | 0.07 | -0.13 | 0.03 | 0.05 | -0.10 | 0.08 | -0.15 | -0.13 | -0.03 | -0.06 | -0.01 | 0.17 | 1.00 |
| 利害対立への理解 | 0.13 | 0.12 | 0.01 | 0.10 | -0.02 | 0.09 | -0.22 | -0.13 | 0.07 | -0.34 | 0.07 | -0.07 | 0.10 | 0.08 | 0.19 | -0.01 | 0.08 | -0.10 | -0.07 | 0.13 | 0.14 | 0.09 | 0.22 | 0.23 | 0.18 | -0.27 | 0.11 | 0.33 | -0.02 | 0.03 | 0.19 | 0.28 | 0.10 | 0.22 | 0.35 | 0.12 | 0.32 | -0.10 | 0.02 | 0.10 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |

表４－１３　地層処分場建設に対する態度（どちらでもない）毎の回答間の相関

| | Q7(0) | Q7(1) | Q7(2) | Q7(3) | Q7(4) | Q7(5) | Q1(1) | Q1(2) | Q2(1) | Q2(2) | Q2(3) | Q2(4) | Q2(5) | Q2(6) | Q2(7) | Q2(8) | Q2(9) | Q2(10) | Q6(1) | Q6(2) | Q6(3) | Q6(4) | Q6(5) | Q6(6) | Q6(7) | Q6(8) | Q6(9) | Q6(10) | Q6(11) | Q6(12) | Q6(13) | Q6(14) | Q6(15) | Q6(16) | Q6(17) | Q6(18) | Q6(19) | Q6(21) | Q6(22) | Q6(23) | Q6(24) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性別 | -0.01 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年齢 | -0.11 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子供有無 | -0.03 | 0.19 | 0.49 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学歴 | -0.11 | -0.14 | -0.31 | -0.22 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職業 | 0.11 | -0.22 | -0.06 | 0.02 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現状社会の認識 | -0.07 | 0.11 | -0.03 | 0.20 | -0.04 | -0.05 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 将来社会への期待 | -0.03 | -0.12 | 0.06 | 0.05 | 0.02 | 0.03 | 0.13 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治・行政への信頼 | -0.13 | 0.01 | -0.13 | -0.08 | 0.10 | -0.09 | 0.24 | 0.25 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治参加の意識 | 0.01 | -0.07 | -0.04 | 0.03 | -0.01 | -0.17 | 0.06 | 0.00 | 0.18 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府責任の認識 | 0.04 | -0.13 | -0.01 | -0.08 | 0.13 | 0.26 | -0.07 | -0.06 | -0.06 | -0.16 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府への依存 | -0.06 | 0.03 | 0.04 | -0.08 | 0.13 | 0.02 | -0.04 | -0.08 | 0.04 | -0.13 | 0.13 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公共問題への責任 | 0.12 | -0.02 | -0.16 | 0.01 | 0.01 | 0.05 | -0.01 | 0.16 | 0.04 | 0.16 | -0.07 | -0.26 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己利益の優先 | -0.01 | 0.05 | -0.26 | -0.13 | 0.04 | -0.03 | -0.06 | -0.07 | -0.18 | 0.02 | 0.15 | 0.03 | 0.19 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会への迎合 | -0.11 | -0.08 | 0.00 | -0.13 | 0.06 | 0.03 | -0.14 | 0.03 | -0.11 | -0.21 | 0.23 | 0.31 | -0.16 | 0.09 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第３者犠牲の容認 | -0.02 | -0.10 | -0.04 | -0.02 | -0.08 | 0.03 | 0.05 | 0.00 | 0.05 | -0.12 | 0.20 | 0.19 | -0.03 | 0.06 | 0.27 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家族犠牲の拒絶 | 0.05 | -0.05 | -0.16 | -0.20 | 0.14 | 0.01 | 0.12 | 0.02 | -0.05 | -0.14 | 0.13 | -0.24 | -0.01 | 0.00 | -0.08 | -0.14 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活習慣の変更の容認 | -0.04 | -0.05 | -0.08 | -0.04 | -0.04 | -0.09 | -0.07 | -0.12 | 0.04 | 0.12 | 0.00 | 0.09 | 0.08 | 0.19 | -0.16 | -0.01 | -0.06 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 反対運動の認知 | 0.19 | 0.03 | -0.22 | -0.17 | 0.08 | -0.03 | -0.10 | -0.09 | 0.06 | 0.07 | 0.23 | 0.05 | 0.13 | 0.12 | 0.04 | 0.00 | -0.12 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題への関心 | 0.25 | 0.07 | -0.05 | -0.05 | -0.05 | -0.05 | -0.12 | -0.03 | -0.04 | 0.05 | 0.15 | -0.02 | 0.15 | 0.09 | -0.05 | -0.04 | 0.02 | 0.12 | 0.50 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 直接的リスクの認識 | 0.12 | -0.09 | 0.14 | -0.04 | 0.00 | 0.14 | -0.33 | -0.03 | -0.07 | -0.05 | -0.03 | 0.06 | 0.07 | 0.05 | -0.06 | 0.02 | -0.15 | 0.08 | 0.06 | 0.17 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射能の認知 | 0.24 | -0.07 | -0.08 | 0.00 | 0.04 | -0.05 | -0.17 | 0.03 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | -0.09 | 0.12 | -0.04 | -0.03 | 0.01 | -0.02 | 0.11 | 0.54 | 0.49 | 0.23 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 間接リスクの認識 | 0.02 | -0.14 | 0.10 | 0.00 | 0.09 | 0.03 | -0.24 | 0.03 | -0.01 | -0.08 | -0.02 | 0.11 | -0.08 | -0.10 | 0.00 | 0.03 | -0.16 | 0.19 | 0.08 | 0.10 | 0.54 | 0.24 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 隣接立地への不安 | 0.03 | -0.04 | 0.09 | 0.09 | -0.02 | -0.01 | 0.00 | 0.10 | 0.05 | 0.03 | 0.05 | 0.00 | -0.03 | -0.06 | -0.11 | 0.09 | -0.05 | 0.24 | -0.01 | 0.09 | 0.22 | 0.00 | 0.39 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境破壊の認知 | 0.07 | -0.14 | 0.00 | -0.01 | 0.10 | 0.20 | -0.08 | -0.05 | -0.12 | -0.01 | 0.03 | 0.12 | 0.09 | 0.04 | 0.02 | 0.03 | -0.06 | 0.11 | 0.03 | 0.00 | 0.41 | 0.02 | 0.52 | 0.43 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性の認識 | -0.07 | 0.07 | 0.00 | 0.15 | -0.06 | -0.01 | 0.04 | 0.03 | -0.01 | -0.04 | 0.06 | 0.05 | 0.20 | 0.01 | 0.20 | 0.20 | -0.12 | 0.04 | 0.24 | 0.12 | -0.13 | 0.17 | -0.04 | 0.01 | -0.07 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政への信頼 | 0.05 | -0.16 | 0.07 | 0.04 | 0.10 | -0.14 | 0.05 | 0.20 | 0.15 | 0.06 | 0.06 | 0.10 | 0.00 | -0.05 | -0.01 | 0.14 | -0.10 | 0.01 | -0.23 | -0.10 | -0.11 | -0.12 | -0.10 | -0.04 | -0.09 | 0.09 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | |
| 専門家への信頼 | -0.15 | -0.02 | 0.07 | -0.05 | -0.01 | -0.13 | 0.14 | 0.25 | 0.14 | -0.05 | -0.13 | 0.01 | -0.04 | -0.15 | -0.05 | 0.07 | 0.04 | -0.04 | -0.15 | -0.14 | 0.03 | -0.03 | 0.09 | -0.02 | -0.11 | -0.03 | 0.33 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| 情報公開への信頼 | -0.21 | 0.04 | 0.05 | 0.11 | 0.11 | 0.00 | 0.15 | 0.11 | 0.24 | 0.08 | -0.02 | 0.17 | -0.04 | -0.18 | -0.10 | -0.01 | -0.12 | 0.05 | -0.22 | -0.23 | -0.06 | -0.18 | -0.09 | -0.12 | -0.12 | 0.01 | 0.37 | 0.49 | 1.00 | | | | | | | | | | | |
| 提供情報への信頼 | -0.19 | -0.11 | 0.07 | 0.13 | 0.04 | 0.02 | 0.18 | 0.14 | 0.16 | 0.05 | 0.00 | 0.01 | -0.12 | -0.16 | 0.02 | 0.10 | -0.05 | -0.11 | -0.15 | -0.20 | -0.07 | -0.03 | -0.09 | -0.10 | -0.15 | 0.04 | 0.26 | 0.59 | 0.67 | 1.00 | | | | | | | | | | |
| 行政能力への信頼 | -0.06 | -0.03 | 0.07 | 0.03 | 0.11 | 0.06 | 0.03 | 0.04 | 0.18 | -0.08 | 0.05 | 0.23 | -0.09 | -0.10 | 0.04 | 0.09 | -0.18 | -0.14 | -0.22 | -0.13 | 0.01 | -0.13 | -0.13 | -0.19 | -0.15 | -0.03 | 0.54 | 0.25 | 0.50 | 0.41 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 風評への認識 | 0.09 | -0.11 | 0.10 | 0.11 | -0.06 | 0.07 | 0.08 | 0.23 | -0.10 | -0.13 | 0.07 | -0.07 | 0.09 | -0.07 | -0.07 | -0.03 | 0.06 | -0.16 | -0.08 | -0.17 | -0.06 | -0.12 | 0.05 | 0.00 | 0.00 | 0.04 | 0.16 | 0.16 | -0.02 | 0.03 | 0.06 | 1.00 | | | | | | | | |
| 直接決定の容認 | 0.06 | -0.06 | 0.05 | -0.09 | -0.07 | 0.05 | 0.00 | 0.01 | -0.05 | -0.07 | 0.00 | -0.16 | 0.20 | 0.11 | -0.03 | -0.03 | 0.23 | 0.06 | -0.14 | 0.13 | 0.03 | -0.05 | 0.02 | 0.11 | 0.10 | -0.01 | -0.01 | -0.04 | -0.09 | -0.04 | 0.05 | 0.17 | 1.00 | | | | | | | |
| 間接決定の容認 | -0.11 | -0.08 | -0.05 | -0.03 | 0.16 | -0.04 | 0.00 | 0.04 | 0.18 | -0.21 | 0.11 | 0.19 | -0.14 | 0.02 | 0.20 | 0.12 | -0.10 | -0.10 | 0.10 | -0.07 | 0.17 | 0.09 | 0.25 | -0.16 | 0.16 | 0.02 | 0.02 | 0.23 | 0.09 | 0.18 | 0.10 | -0.07 | -0.15 | 1.00 | | | | | | |
| 政治・行政への依存 | -0.08 | -0.17 | 0.09 | 0.02 | 0.18 | 0.06 | 0.05 | 0.07 | 0.03 | -0.12 | 0.14 | 0.16 | -0.14 | -0.01 | 0.10 | 0.12 | -0.18 | -0.20 | -0.04 | -0.13 | 0.00 | -0.04 | -0.03 | -0.31 | -0.07 | -0.10 | 0.36 | 0.14 | 0.21 | 0.19 | 0.40 | 0.10 | -0.19 | 0.37 | 1.00 | | | | | |
| 恩恵への責任意識 | -0.14 | 0.11 | 0.15 | 0.16 | -0.21 | 0.07 | 0.02 | 0.14 | -0.10 | -0.07 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.04 | 0.11 | 0.14 | 0.01 | -0.01 | -0.15 | -0.03 | 0.00 | -0.03 | 0.04 | -0.04 | -0.16 | -0.03 | 0.00 | 0.19 | 0.09 | 0.23 | 0.06 | 0.07 | 0.22 | -0.02 | 0.07 | 1.00 | | | | |
| 住民エゴへの認識 | 0.02 | -0.10 | 0.02 | 0.11 | -0.01 | 0.02 | 0.06 | 0.01 | 0.05 | -0.14 | 0.12 | 0.22 | -0.17 | -0.05 | 0.09 | 0.07 | -0.12 | -0.27 | -0.10 | -0.11 | -0.09 | -0.06 | -0.04 | -0.31 | -0.12 | -0.13 | 0.16 | -0.05 | 0.07 | 0.03 | 0.23 | 0.16 | -0.10 | 0.13 | 0.47 | 0.15 | 1.00 | | | |
| 補償の妥当性の認識 | -0.01 | 0.20 | -0.21 | 0.05 | -0.01 | -0.09 | 0.06 | 0.11 | -0.03 | 0.00 | 0.12 | -0.05 | 0.19 | 0.22 | -0.04 | 0.16 | 0.01 | 0.01 | -0.01 | -0.07 | -0.02 | 0.06 | -0.18 | -0.07 | -0.24 | 0.10 | 0.27 | 0.17 | 0.23 | 0.19 | 0.24 | 0.00 | -0.02 | 0.00 | 0.08 | 0.20 | -0.05 | 1.00 | | |
| 消費地と地元の不公平 | 0.07 | 0.15 | 0.00 | -0.04 | 0.02 | 0.12 | -0.14 | -0.11 | -0.10 | -0.10 | -0.07 | 0.09 | -0.01 | -0.03 | 0.16 | 0.16 | -0.06 | 0.08 | -0.05 | 0.03 | 0.05 | 0.02 | 0.18 | 0.17 | 0.20 | 0.15 | -0.06 | -0.08 | 0.01 | -0.06 | 0.00 | 0.12 | 0.19 | 0.11 | -0.08 | 0.18 | -0.12 | 0.09 | 1.00 | |
| 隣接立地不安への理解 | 0.06 | 0.09 | -0.01 | 0.04 | -0.18 | 0.06 | -0.04 | 0.03 | -0.14 | 0.06 | 0.02 | 0.00 | 0.14 | 0.24 | -0.04 | 0.01 | -0.10 | 0.11 | 0.11 | 0.12 | 0.02 | -0.13 | 0.22 | 0.14 | 0.22 | 0.14 | -0.05 | -0.07 | -0.19 | -0.30 | -0.22 | 0.15 | 0.00 | 0.00 | -0.06 | 0.07 | -0.12 | -0.01 | 0.11 | 1.00 |
| 利害対立への理解 | 0.07 | 0.00 | -0.02 | 0.11 | 0.02 | 0.12 | 0.11 | 0.03 | -0.11 | -0.01 | 0.09 | 0.02 | -0.01 | -0.04 | 0.09 | 0.06 | -0.17 | -0.28 | 0.09 | 0.16 | -0.06 | 0.12 | -0.07 | -0.21 | -0.05 | 0.10 | 0.09 | 0.06 | 0.13 | 0.12 | 0.21 | 0.23 | -0.02 | 0.00 | 0.33 | 0.01 | 0.43 | 0.01 | -0.02 | -0.05 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |

表４－１４　地層処分場建設に対する態度（反対）毎の回答間の相関

| | Q7(0) | Q7(1) | Q7(2) | Q7(3) | Q7(4) | Q7(5) | Q1(1) | Q1(2) | Q2(1) | Q2(2) | Q2(3) | Q2(4) | Q2(5) | Q2(6) | Q2(7) | Q2(8) | Q2(9) | Q2(10) | Q6(1) | Q6(2) | Q6(3) | Q6(4) | Q6(5) | Q6(6) | Q6(7) | Q6(8) | Q6(9) | Q6(10) | Q6(11) | Q6(12) | Q6(13) | Q6(14) | Q6(15) | Q6(16) | Q6(17) | Q6(18) | Q6(19) | Q6(21) | Q6(22) | Q6(23) | Q6(24) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性別 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年齢 | 0.09 | 0.02 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子供有無 | 0.03 | 0.11 | 0.37 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学歴 | -0.25 | -0.06 | -0.30 | 0.06 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職業 | 0.03 | -0.35 | -0.30 | -0.13 | 0.06 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現状社会の認識 | -0.08 | 0.03 | -0.20 | -0.19 | 0.02 | 0.18 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 将来社会への期待 | 0.27 | 0.10 | -0.02 | -0.13 | -0.22 | -0.07 | 0.36 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治・行政への信頼 | 0.07 | 0.03 | -0.01 | 0.08 | 0.00 | 0.02 | 0.18 | 0.09 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政治参加の意識 | -0.01 | 0.23 | 0.07 | -0.07 | -0.14 | 0.03 | -0.08 | -0.04 | 0.10 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府責任の認識 | -0.03 | -0.28 | -0.04 | 0.22 | 0.21 | 0.26 | -0.20 | -0.14 | 0.08 | -0.05 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府への依存 | 0.02 | -0.02 | 0.07 | 0.10 | 0.07 | 0.07 | 0.14 | 0.17 | 0.30 | -0.12 | 0.18 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公共問題への責任 | 0.16 | -0.06 | 0.04 | 0.03 | 0.03 | -0.12 | -0.07 | 0.09 | -0.15 | -0.02 | -0.10 | -0.13 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己利益の優先 | -0.06 | -0.23 | 0.13 | 0.15 | -0.06 | -0.10 | -0.26 | -0.16 | -0.19 | 0.02 | 0.25 | -0.05 | 0.18 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会への迎合 | -0.15 | -0.11 | -0.11 | -0.02 | 0.20 | 0.08 | 0.10 | -0.08 | 0.20 | 0.14 | 0.04 | 0.20 | -0.09 | 0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第３者犠牲の容認 | 0.00 | 0.14 | -0.10 | 0.06 | 0.13 | -0.05 | 0.10 | 0.04 | 0.33 | 0.14 | -0.09 | 0.05 | -0.02 | -0.10 | 0.15 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家族犠牲の拒絶 | 0.08 | 0.14 | -0.11 | 0.05 | 0.04 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.06 | -0.01 | 0.14 | 0.04 | 0.08 | 0.00 | -0.02 | -0.10 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活習慣の変更の容認 | 0.04 | -0.05 | 0.23 | 0.06 | -0.06 | -0.23 | -0.17 | -0.07 | -0.11 | 0.00 | -0.10 | -0.09 | 0.35 | 0.19 | -0.06 | 0.12 | -0.19 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 反対運動の認知 | 0.02 | 0.17 | -0.10 | 0.21 | 0.08 | -0.10 | 0.04 | -0.08 | 0.00 | -0.03 | 0.09 | 0.10 | 0.01 | 0.00 | -0.03 | 0.01 | 0.14 | -0.06 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題への関心 | 0.13 | -0.03 | 0.02 | 0.23 | -0.06 | -0.02 | -0.06 | -0.08 | 0.08 | 0.10 | -0.04 | 0.04 | 0.19 | 0.22 | -0.01 | 0.07 | 0.11 | 0.06 | 0.48 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 直接的リスクの認識 | 0.04 | -0.05 | 0.22 | 0.04 | -0.28 | -0.17 | -0.05 | -0.01 | 0.06 | 0.03 | -0.03 | 0.04 | -0.04 | 0.20 | -0.28 | 0.10 | 0.11 | 0.13 | 0.22 | 0.26 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射能の認知 | 0.20 | 0.00 | -0.02 | 0.17 | -0.08 | -0.10 | -0.09 | -0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.11 | 0.04 | 0.09 | 0.14 | 0.08 | 0.02 | -0.05 | 0.16 | 0.55 | 0.48 | 0.30 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 間接リスクの認識 | 0.00 | -0.04 | 0.15 | -0.03 | -0.16 | -0.10 | -0.06 | -0.21 | -0.01 | -0.27 | -0.07 | -0.03 | -0.03 | 0.17 | -0.14 | 0.03 | -0.05 | 0.22 | 0.01 | 0.04 | 0.39 | 0.00 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 隣接立地への不安 | -0.02 | 0.11 | 0.16 | 0.04 | -0.18 | -0.17 | -0.16 | 0.07 | -0.20 | -0.05 | -0.13 | 0.03 | 0.16 | -0.06 | -0.29 | -0.23 | -0.05 | -0.05 | -0.09 | -0.09 | -0.05 | -0.10 | -0.04 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境破壊の認知 | 0.13 | -0.09 | 0.10 | 0.09 | -0.08 | -0.09 | -0.01 | 0.03 | -0.36 | -0.11 | -0.13 | -0.31 | 0.22 | 0.20 | -0.08 | -0.22 | -0.01 | 0.13 | -0.20 | 0.04 | 0.10 | 0.03 | 0.10 | -0.03 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | |
| 必要性の認識 | -0.01 | 0.18 | -0.02 | -0.06 | -0.06 | -0.14 | -0.12 | 0.00 | -0.16 | 0.04 | -0.11 | -0.25 | 0.04 | -0.04 | -0.06 | 0.04 | -0.37 | 0.16 | -0.06 | -0.08 | -0.20 | 0.00 | 0.01 | 0.17 | 0.06 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政への信頼 | 0.04 | -0.17 | 0.10 | -0.02 | -0.08 | 0.06 | 0.11 | 0.10 | 0.21 | -0.06 | 0.04 | 0.04 | 0.00 | 0.10 | 0.04 | -0.11 | 0.03 | 0.04 | -0.05 | 0.03 | -0.09 | 0.06 | -0.05 | 0.06 | -0.07 | 0.01 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | |
| 専門家への信頼 | -0.09 | -0.05 | 0.16 | -0.06 | 0.07 | -0.02 | 0.07 | -0.01 | -0.02 | -0.04 | 0.12 | 0.10 | -0.05 | -0.12 | -0.03 | 0.04 | -0.12 | 0.22 | 0.08 | 0.00 | 0.04 | 0.13 | 0.15 | -0.05 | -0.14 | 0.11 | 0.27 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |
| 情報公開への信頼 | 0.08 | -0.10 | 0.14 | 0.19 | -0.03 | 0.10 | 0.04 | 0.11 | 0.22 | 0.19 | 0.17 | 0.21 | -0.10 | 0.02 | 0.21 | 0.07 | -0.13 | 0.11 | -0.04 | 0.02 | -0.10 | 0.10 | -0.19 | -0.16 | -0.15 | -0.05 | 0.41 | 0.29 | 1.00 | | | | | | | | | | | |
| 提供情報への信頼 | -0.08 | -0.08 | 0.22 | 0.00 | 0.02 | 0.04 | 0.05 | 0.07 | 0.01 | 0.08 | 0.09 | 0.05 | 0.16 | 0.05 | -0.07 | 0.13 | -0.16 | 0.13 | 0.03 | 0.05 | 0.04 | -0.04 | -0.06 | 0.07 | -0.23 | 0.10 | 0.35 | 0.50 | 0.49 | 1.00 | | | | | | | | | | |
| 行政能力への信頼 | 0.13 | -0.06 | 0.10 | 0.04 | -0.02 | 0.03 | 0.03 | 0.09 | 0.21 | 0.07 | 0.13 | 0.25 | 0.01 | -0.04 | 0.07 | -0.03 | -0.07 | 0.05 | -0.09 | 0.05 | -0.18 | 0.03 | -0.11 | 0.06 | -0.21 | 0.10 | 0.59 | 0.45 | 0.66 | 0.43 | 1.00 | | | | | | | | | |
| 風評への認識 | 0.16 | 0.15 | -0.08 | 0.03 | 0.02 | 0.04 | 0.11 | 0.08 | 0.15 | 0.08 | -0.04 | 0.21 | -0.14 | -0.04 | 0.15 | 0.01 | 0.05 | 0.00 | 0.08 | 0.09 | -0.17 | 0.05 | -0.11 | 0.11 | -0.04 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.15 | -0.07 | 0.07 | 1.00 | | | | | | | | |
| 直接決定の容認 | 0.08 | -0.16 | 0.05 | -0.01 | 0.01 | 0.13 | 0.02 | -0.03 | -0.16 | 0.17 | 0.08 | 0.13 | -0.02 | 0.05 | 0.04 | -0.05 | -0.09 | 0.07 | 0.00 | 0.02 | 0.02 | 0.14 | 0.01 | -0.09 | 0.06 | -0.25 | -0.02 | 0.03 | 0.08 | -0.02 | -0.06 | 0.11 | 1.00 | | | | | | | |
| 間接決定の容認 | 0.25 | -0.04 | -0.02 | -0.09 | -0.13 | -0.08 | 0.00 | 0.13 | 0.13 | 0.04 | -0.03 | -0.14 | 0.08 | 0.14 | -0.03 | 0.13 | 0.03 | 0.12 | -0.11 | 0.10 | 0.05 | 0.21 | -0.05 | -0.05 | 0.12 | 0.20 | 0.26 | -0.03 | 0.13 | 0.04 | 0.15 | 0.07 | 0.15 | 1.00 | | | | | | |
| 政治・行政への依存 | 0.15 | -0.07 | -0.08 | -0.13 | -0.14 | -0.03 | 0.08 | 0.15 | 0.12 | 0.09 | 0.00 | 0.03 | -0.09 | -0.02 | -0.05 | 0.15 | -0.20 | 0.10 | -0.08 | 0.07 | -0.16 | 0.10 | -0.03 | 0.07 | -0.19 | 0.12 | 0.43 | 0.18 | 0.21 | 0.18 | 0.39 | 0.24 | 0.09 | 0.37 | 1.00 | | | | | |
| 恩恵への責任意識 | 0.33 | 0.03 | 0.00 | 0.01 | -0.24 | -0.03 | 0.05 | 0.03 | 0.13 | -0.13 | -0.09 | 0.04 | 0.24 | 0.10 | -0.21 | 0.00 | 0.03 | 0.25 | 0.03 | 0.21 | 0.03 | 0.07 | 0.24 | -0.12 | 0.04 | -0.03 | 0.22 | 0.12 | -0.07 | 0.01 | 0.10 | 0.07 | 0.12 | 0.19 | 0.34 | 1.00 | | | | |
| 住民エゴへの認識 | 0.22 | 0.06 | -0.02 | 0.07 | 0.07 | 0.03 | 0.17 | 0.15 | 0.19 | 0.22 | -0.02 | 0.10 | -0.10 | -0.06 | 0.04 | 0.21 | -0.15 | 0.06 | -0.01 | 0.01 | -0.06 | 0.09 | -0.13 | -0.30 | -0.07 | 0.16 | 0.17 | 0.00 | 0.36 | 0.12 | 0.21 | 0.16 | 0.06 | 0.17 | 0.36 | 0.19 | 1.00 | | | |
| 補償の妥当性の認識 | 0.04 | -0.20 | 0.00 | -0.09 | 0.01 | 0.09 | 0.20 | 0.18 | 0.23 | -0.12 | 0.10 | -0.02 | -0.20 | -0.08 | -0.07 | 0.14 | -0.01 | 0.10 | -0.07 | -0.03 | 0.10 | -0.03 | -0.04 | -0.10 | -0.09 | -0.03 | 0.34 | 0.13 | 0.27 | 0.23 | 0.28 | 0.09 | -0.10 | 0.06 | 0.15 | -0.11 | 0.10 | 1.00 | | |
| 消費地と地元の不公平 | 0.10 | -0.14 | -0.17 | -0.02 | -0.01 | 0.20 | -0.03 | -0.15 | 0.21 | -0.03 | 0.11 | 0.08 | 0.10 | 0.16 | -0.06 | 0.07 | 0.03 | 0.23 | 0.04 | 0.28 | 0.13 | 0.20 | 0.14 | -0.09 | -0.02 | 0.00 | -0.03 | 0.01 | -0.01 | -0.14 | 0.03 | 0.18 | 0.02 | 0.16 | 0.07 | 0.26 | 0.05 | -0.05 | 1.00 | |
| 隣接立地不安への理解 | 0.12 | -0.10 | -0.06 | -0.22 | -0.02 | 0.07 | -0.11 | -0.09 | -0.07 | 0.07 | 0.16 | 0.08 | 0.04 | 0.22 | -0.09 | -0.19 | -0.13 | 0.33 | -0.17 | -0.06 | 0.04 | 0.03 | 0.00 | -0.03 | 0.05 | 0.02 | 0.07 | 0.09 | 0.06 | -0.01 | 0.08 | 0.05 | 0.26 | 0.13 | 0.10 | 0.19 | -0.01 | -0.02 | 0.37 | 1.00 |
| 利害対立への理解 | 0.12 | 0.10 | -0.05 | -0.08 | 0.07 | -0.03 | 0.10 | 0.02 | 0.01 | 0.25 | -0.11 | -0.03 | -0.05 | -0.06 | 0.15 | 0.18 | 0.08 | 0.10 | -0.02 | 0.07 | 0.10 | 0.00 | -0.13 | -0.15 | 0.06 | 0.07 | -0.14 | 0.07 | 0.06 | 0.01 | -0.12 | 0.34 | 0.00 | 0.05 | 0.07 | -0.02 | 0.32 | 0.04 | 0.11 | 0.07 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |

表４－１５　地層処分場建設に関する態度を説明する主要項目の説明係数（重回帰分析による分析結果）

| 回帰統計 | |
|---|---|
| 重相関 R | 0.475 |
| 重決定 R2 | 0.225 |
| 補正 R2 | 0.196 |
| 標準誤差 | 0.907 |
| 観測数 | 251 |

分散分析表

| | 自由度 | 変動 | 分散 | 観測された分散比 | 有意 F |
|---|---|---|---|---|---|
| 回帰 | 9 | 57.632 | 6.404 | 7.789 | 4.60E-10 |
| 残差 | 241 | 198.129 | 0.822 | | |
| 合計 | 250 | 255.761 | | | |

| | | 係数 | 標準誤差 | t | P-値 | 下限 95% | 上限 95% | 下限 95.0% | 上限 95.0% |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 切片 | | 2.011 | 0.511 | 3.939 | 0.000 | 1.006 | 3.017 | 1.006 | 3.017 |
| 影響項目 | 将来社会への期待 | 0.181 | 0.090 | 2.000 | 0.047 | 0.003 | 0.358 | 0.003 | 0.358 |
| | 政府責任の認識 | -0.139 | 0.070 | -1.992 | 0.048 | -0.277 | -0.002 | -0.277 | -0.002 |
| | 第３者犠牲の容認 | 0.136 | 0.079 | 1.728 | 0.085 | -0.019 | 0.291 | -0.019 | 0.291 |
| | 必要性の認識 | 0.295 | 0.091 | 3.245 | 0.001 | 0.116 | 0.474 | 0.116 | 0.474 |
| | 直接決定の容認 | -0.152 | 0.083 | -1.840 | 0.067 | -0.315 | 0.011 | -0.315 | 0.011 |
| | 間接決定の容認 | 0.224 | 0.078 | 2.889 | 0.004 | 0.071 | 0.377 | 0.071 | 0.377 |
| | 補償の妥当性の認識 | 0.293 | 0.119 | 2.456 | 0.015 | 0.058 | 0.528 | 0.058 | 0.528 |
| | 消費地と地元の不公平 | -0.209 | 0.095 | -2.203 | 0.029 | -0.396 | -0.022 | -0.396 | -0.022 |
| | 利害対立への理解 | -0.093 | 0.080 | -1.166 | 0.245 | -0.249 | 0.064 | -0.249 | 0.064 |

表４－１６　地層処分場建設に対する公衆の態度のクラスター分析結果に基づく問題認識の分類

| クラスター | 項目番号 | 問題認識 | 各クラスターの成分を代表する項目 |
|---|---|---|---|
| 1 | １９ | 環境破壊の認知 | ①リスクの認知 |
| | １８ | 隣接立地への不安 | |
| | １７ | 間接リスクの認識 | |
| | １５ | 直接的リスクの認識 | |
| 2 | １６ | 放射能の認知 | ②問題への知識・関心 |
| | １４ | 問題への関心 | |
| | １３ | 反対運動の認知 | |
| 3 | ３４ | 隣接立地不安への理解 | ③公平性の重視 |
| | ３３ | 消費地と地元の不公平 | |
| | ３０ | 恩恵への責任意識 | |
| | ２７ | 直接決定の容認 | |
| | １２ | 生活習慣の変更の容認 | ④公共性の重視 |
| | 7 | 公共問題への責任 | |
| 4 | １１ | 家族犠牲の拒絶 | ⑤自己犠牲の拒否 |
| 5 | 8 | 自己利益の優先 | ⑥個人主義 |
| | 5 | 政府責任の認識 | |
| 6 | ２４ | 提供情報への信頼 | ⑦情報・組織への信頼 |
| | ２３ | 情報公開への信頼 | |
| | ２２ | 専門家への信頼 | |
| | ３２ | 補償の妥当性の認識 | |
| | ２５ | 行政能力への信頼 | |
| | ２１ | 行政への信頼 | |
| 7 | ２９ | 政治・行政への依存 | ⑧集団主義 |
| | ２８ | 間接決定の容認 | |
| | ３１ | 住民エゴへの認識 | ⑨利害対立の認識 |
| 8 | ３５ | 利害対立への理解 | |
| | ２６ | 風評への認識 | |
| 9 | ２０ | 必要性の認識 | ⑩必要性の認識 |
| １０ | １０ | 第３者犠牲の容認 | ⑪社会制度への依存 |
| | 9 | 社会への迎合 | |
| | 6 | 政府への依存 | |
| １１ | 4 | 政治参加の意識 | ⑫社会・政治への期待 |
| | １３ | 政治・行政への信頼 | |
| | 2 | 将来社会への期待 | |
| | 1 | 現状社会の認識 | |

表４－１７　地層処分場建設に対する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（１／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 分類－A (75人) 29.9% | 分類－B (64人) 25.5% | 分類－C (69人) 27.5% | 分類－D (43人) 17.1% |
| 地層処分場建設への態度 | 賛成 (46人: 18%) | 20.0% | 1.6% | 15.9% | 44.2% |
| | どちらでもない (118人: 47%) | 42.7% | 25.0% | 71.0% | 48.8% |
| | 反対 (87人: 35%) | 37.3% | 73.4% | 13.0% | 7.0% |
| 地域 | 都市部（世田谷) (108人: 43%) | 50.7% | 48.4% | 37.7% | 30.2% |
| | 福生 (48人: 19%) | 17.3% | 15.6% | 26.1% | 16.3% |
| | 日の出町 (48人: 19%) | 13.3% | 23.4% | 20.3% | 20.9% |
| | 横須賀 (47人: 19%) | 18.7% | 12.5% | 15.9% | 32.6% |
| 性別 | 男性 (125人: 50%) | 60.0% | 40.6% | 42.0% | 58.1% |
| | 女性 (126人: 50%) | 40.0% | 59.4% | 58.0% | 41.9% |
| 年齢 | ２０代 (48人: 19%) | 16.0% | 18.8% | 20.3% | 23.3% |
| | ３０代 (49人: 20%) | 20.0% | 21.9% | 23.2% | 9.3% |
| | ４０代 (56人: 22%) | 21.3% | 26.6% | 23.2% | 16.3% |
| | ５０代 (54人: 22%) | 30.7% | 17.2% | 11.6% | 27.9% |
| | ６０代以上 (44人: 18%) | 12.0% | 15.6% | 21.7% | 23.3% |
| 子供有無 | 無し (54人: 22%) | 20.0% | 20.3% | 24.6% | 20.9% |
| | 有り (197人: 78%) | 80.0% | 79.7% | 75.4% | 79.1% |
| 学歴 | 大卒未満 (198人: 79%) | 77.3% | 81.3% | 79.7% | 76.7% |
| | 大卒以上 (53人: 21%) | 22.7% | 18.8% | 20.3% | 23.3% |
| 職業 | 主婦 (75人: 30%) | 26.7% | 45.3% | 23.2% | 23.3% |
| | 会社員・公務員 (91人: 36%) | 34.7% | 34.4% | 37.7% | 39.5% |
| | その他 (85人: 34%) | 38.7% | 20.3% | 39.1% | 37.2% |

表４－１７　地層処分場建設に対する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（２／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 分類－A (75人) 29.9% | 分類－B (64人) 25.5% | 分類－C (69人) 27.5% | 分類－D (43人) 17.1% |
| 男性 | ２０代 (23人: 18%) | 15.6% | 26.9% | 13.8% | 20.0% |
| | ３０代 (22人: 18%) | 13.3% | 19.2% | 31.0% | 8.0% |
| | ４０代 (30人: 24%) | 24.4% | 19.2% | 34.5% | 16.0% |
| | ５０代 (30人: 24%) | 31.1% | 26.9% | 6.9% | 28.0% |
| | ６０代以上 (20人: 16%) | 15.6% | 7.7% | 13.8% | 28.0% |
| 女性 | ２０代 (25人: 20%) | 16.7% | 13.2% | 25.0% | 27.8% |
| | ３０代 (27人: 21%) | 30.0% | 23.7% | 17.5% | 11.1% |
| | ４０代 (26人: 21%) | 16.7% | 31.6% | 15.0% | 16.7% |
| | ５０代 (24人: 19%) | 30.0% | 10.5% | 15.0% | 27.8% |
| | ６０代以上 (24人: 19%) | 6.7% | 21.1% | 27.5% | 16.7% |
| 男性 | 子供無し (34人: 27%) | 24.4% | 34.6% | 34.5% | 16.0% |
| | 子供有り (91人: 73%) | 75.6% | 65.4% | 65.5% | 84.0% |
| 女性 | 子供無し (20人: 16%) | 13.3% | 10.5% | 17.5% | 27.8% |
| | 子供有り (106人: 84%) | 86.7% | 89.5% | 82.5% | 72.2% |
| 子供無し | ２０代 (33人: 61%) | 60.0% | 69.2% | 47.1% | 77.8% |
| | ３０代 (8人: 15%) | 20.0% | 7.7% | 23.5% | 0.0% |
| | ４０代 (7人: 13%) | 20.0% | 0.0% | 23.5% | 0.0% |
| | ５０代 (2人: 4%) | 0.0% | 15.4% | 0.0% | 0.0% |
| | ６０代以上 (4人: 7%) | 0.0% | 7.7% | 5.9% | 22.2% |
| 子供有り | ２０代 (15人: 8%) | 5.0% | 5.9% | 11.5% | 8.8% |
| | ３０代 (41人: 21%) | 20.0% | 25.5% | 23.1% | 11.8% |
| | ４０代 (49人: 25%) | 21.7% | 33.3% | 23.1% | 20.6% |
| | ５０代 (52人: 26%) | 38.3% | 17.6% | 15.4% | 35.3% |
| | ６０代以上 (40人: 20%) | 15.0% | 17.6% | 26.9% | 23.5% |

表４－１８　地層処分場建設に対して賛成する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（１／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 賛成－A | 賛成－B | 賛成－C | 賛成－D |
| | | (15人) | (10人) | (11人) | (10人) |
| | | 32.6% | 21.7% | 23.9% | 21.7% |
| 地域 | 都市部（世田谷）　(19人：41%) | 46.7% | 50.0% | 36.4% | 30.0% |
| | 福生　(9人：20%) | 20.0% | 0.0% | 9.1% | 50.0% |
| | 日の出町　(6人：13%) | 13.3% | 10.0% | 18.2% | 10.0% |
| | 横須賀　(12人：26%) | 20.0% | 40.0% | 36.4% | 10.0% |
| 性別 | 男性　(31人：67%) | 80.0% | 30.0% | 90.9% | 60.0% |
| | 女性　(15人：33%) | 20.0% | 70.0% | 9.1% | 40.0% |
| 年齢 | ２０代　(7人：15%) | 13.3% | 10.0% | 0.0% | 40.0% |
| | ３０代　(8人：17%) | 26.7% | 10.0% | 18.2% | 10.0% |
| | ４０代　(10人：22%) | 13.3% | 50.0% | 9.1% | 20.0% |
| | ５０代　(10人：22%) | 26.7% | 20.0% | 27.3% | 10.0% |
| | ６０代以上　(11人：24%) | 20.0% | 10.0% | 45.5% | 20.0% |
| 子供有無 | 無し　(10人：22%) | 20.0% | 0.0% | 18.2% | 50.0% |
| | 有り　(36人：78%) | 80.0% | 100.0% | 81.8% | 50.0% |
| 学歴 | 大卒未満　(36人：78%) | 86.7% | 60.0% | 72.7% | 90.0% |
| | 大卒以上　(10人：22%) | 13.3% | 40.0% | 27.3% | 10.0% |
| 職業 | 主婦　(12人：26%) | 20.0% | 60.0% | 9.1% | 20.0% |
| | 会社員・公務員　(20人：43%) | 40.0% | 30.0% | 36.4% | 70.0% |
| | その他　(14人：30%) | 40.0% | 10.0% | 54.5% | 10.0% |

表４－１８　地層処分場建設に対して賛成する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（２／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 賛成－A | 賛成－B | 賛成－C | 賛成－D |
| | | (15人) | (10人) | (11人) | (10人) |
| | | 32.6% | 21.7% | 23.9% | 21.7% |
| 男性 | ２０代　(4人：13%) | 16.7% | 33.3% | 0.0% | 16.7% |
| | ３０代　(5人：16%) | 8.3% | 0.0% | 27.3% | 16.7% |
| | ４０代　(6人：19%) | 16.7% | 33.3% | 9.1% | 33.3% |
| | ５０代　(8人：26%) | 33.3% | 33.3% | 18.2% | 16.7% |
| | ６０代以上　(9人：29%) | 25.0% | 0.0% | 45.5% | 16.7% |
| 女性 | ２０代　(3人：20%) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 75.0% |
| | ３０代　(4人：27%) | 100.0% | 14.3% | 0.0% | 0.0% |
| | ４０代　(4人：27%) | 0.0% | 57.1% | 0.0% | 0.0% |
| | ５０代　(2人：13%) | 0.0% | 14.3% | 100.0% | 0.0% |
| | ６０代以上　(2人：13%) | 0.0% | 14.3% | 0.0% | 25.0% |
| 男性 | 子供無し　(9人：29%) | 25.0% | 0.0% | 27.3% | 50.0% |
| | 子供有り　(23人：74%) | 75.0% | 100.0% | 72.7% | 50.0% |
| 女性 | 子供無し　(2人：13%) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 50.0% |
| | 子供有り　(13人：87%) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 50.0% |
| 子供無し | ２０代　(5人：50%) | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 60.0% |
| | ３０代　(3人：30%) | 0.0% | 0.0% | 66.7% | 20.0% |
| | ４０代　(2人：20%) | 33.3% | 0.0% | 0.0% | 20.0% |
| | ５０代　(0人：0%) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | ６０代以上　(1人：10%) | 0.0% | 0.0% | 33.3% | 0.0% |
| 子供有り | ２０代　(2人：6%) | 0.0% | 10.0% | 0.0% | 20.0% |
| | ３０代　(6人：17%) | 33.3% | 10.0% | 11.1% | 0.0% |
| | ４０代　(8人：22%) | 8.3% | 50.0% | 11.1% | 20.0% |
| | ５０代　(10人：28%) | 33.3% | 20.0% | 33.3% | 20.0% |
| | ６０代以上　(10人：28%) | 25.0% | 10.0% | 44.4% | 40.0% |

表４－１９　地層処分場建設に対して賛成反対のどちらでもない公衆の意識構造の分類と個人属性との関係(1/2)

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 中立－A | 中立－B | 中立－C | 中立－D |
| | | (28人) | (34人) | (29人) | (27人) |
| | | 23.7% | 28.8% | 24.6% | 22.9% |
| 地域 | 都市部（世田谷）(51人: 43%) | 50.0% | 50.0% | 34.5% | 37.0% |
| | 福生　(26人: 22%) | 21.4% | 20.6% | 20.7% | 25.9% |
| | 日の出町　(23人: 19%) | 14.3% | 14.7% | 31.0% | 18.5% |
| | 横須賀　(18人: 15%) | 14.3% | 14.7% | 13.8% | 18.5% |
| 性別 | 男性　(48人: 41%) | 39.3% | 44.1% | 37.9% | 40.7% |
| | 女性　(70人: 59%) | 60.7% | 55.9% | 62.1% | 59.3% |
| 年齢 | ２０代　(28人: 24%) | 28.6% | 14.7% | 20.7% | 33.3% |
| | ３０代　(22人: 19%) | 14.3% | 23.5% | 24.1% | 11.1% |
| | ４０代　(24人: 20%) | 14.3% | 29.4% | 24.1% | 11.1% |
| | ５０代　(25人: 21%) | 25.0% | 20.6% | 13.8% | 25.9% |
| | ６０代以上　(19人: 16%) | 17.9% | 11.8% | 17.2% | 18.5% |
| 子供有無 | 無し　(32人: 27%) | 28.6% | 20.6% | 37.9% | 22.2% |
| | 有り　(86人: 73%) | 71.4% | 79.4% | 62.1% | 77.8% |
| 学歴 | 大卒未満　(99人: 84%) | 85.7% | 82.4% | 86.2% | 81.5% |
| | 大卒以上　(19人: 16%) | 14.3% | 17.6% | 13.8% | 18.5% |
| 職業 | 主婦　(38人: 32%) | 42.9% | 35.3% | 24.1% | 25.9% |
| | 会社員・公務員　(40人: 34%) | 28.6% | 32.4% | 44.8% | 29.6% |
| | その他　(40人: 34%) | 28.6% | 32.4% | 31.0% | 44.4% |

表４－１９　地層処分場建設に対して賛成反対のどちらでもない公衆の意識構造の分類と個人属性との関係(2/2)

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 中立－A | 中立－B | 中立－C | 中立－D |
| | | (28人) | (34人) | (29人) | (27人) |
| | | 23.7% | 28.8% | 24.6% | 22.9% |
| 男性 | ２０代　(12人: 25%) | 33.3% | 20.0% | 18.2% | 27.3% |
| | ３０代　(9人: 19%) | 16.7% | 20.0% | 27.3% | 9.1% |
| | ４０代　(13人: 27%) | 25.0% | 33.3% | 36.4% | 9.1% |
| | ５０代　(10人: 21%) | 16.7% | 20.0% | 18.2% | 27.3% |
| | ６０代以上　(5人: 10%) | 8.3% | 6.7% | 0.0% | 27.3% |
| 女性 | ２０代　(16人: 23%) | 23.5% | 10.5% | 22.2% | 37.5% |
| | ３０代　(14人: 20%) | 17.6% | 26.3% | 22.2% | 12.5% |
| | ４０代　(11人: 16%) | 5.9% | 26.3% | 16.7% | 12.5% |
| | ５０代　(15人: 21%) | 29.4% | 21.1% | 11.1% | 25.0% |
| | ６０代以上　(14人: 20%) | 23.5% | 15.8% | 27.8% | 12.5% |
| 男性 | 子供無し　(18人: 38%) | 33.3% | 40.0% | 36.4% | 36.4% |
| | 子供有り　(31人: 65%) | 66.7% | 60.0% | 63.6% | 63.6% |
| 女性 | 子供無し　(14人: 20%) | 23.5% | 5.3% | 38.9% | 12.5% |
| | 子供有り　(56人: 80%) | 76.5% | 94.7% | 61.1% | 87.5% |
| 子供無し | ２０代　(21人: 66%) | 87.5% | 42.9% | 54.5% | 83.3% |
| | ３０代　(3人: 9%) | 0.0% | 14.3% | 18.2% | 0.0% |
| | ４０代　(5人: 16%) | 0.0% | 28.6% | 18.2% | 16.7% |
| | ５０代　(1人: 3%) | 0.0% | 14.3% | 0.0% | 0.0% |
| | ６０代以上　(2人: 6%) | 12.5% | 0.0% | 9.1% | 0.0% |
| 子供有り | ２０代　(7人: 8%) | 4.8% | 7.4% | 0.0% | 19.0% |
| | ３０代　(20人: 23%) | 23.8% | 25.9% | 27.8% | 14.3% |
| | ４０代　(19人: 22%) | 19.0% | 29.6% | 27.8% | 9.5% |
| | ５０代　(24人: 28%) | 33.3% | 22.2% | 22.2% | 33.3% |
| | ６０代以上　(17人: 20%) | 19.0% | 14.8% | 22.2% | 23.8% |

表４－２０　地層処分場建設に対して反対する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（１／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 反対－A | 反対－B | 反対－C | 反対－D |
| | | (29人) | (10人) | (31人) | (17人) |
| | | 33.3% | 11.5% | 35.6% | 19.5% |
| 地域 | 都市部（世田谷）(38人: 44%) | 48.3% | 30.0% | 41.9% | 47.1% |
| | 福生 (13人: 15%) | 17.2% | 20.0% | 12.9% | 11.8% |
| | 日の出町 (19人: 22%) | 20.7% | 40.0% | 19.4% | 17.6% |
| | 横須賀 (17人: 20%) | 13.8% | 10.0% | 25.8% | 23.5% |
| 性別 | 男性 (46人: 53%) | 55.2% | 40.0% | 51.6% | 58.8% |
| | 女性 (41人: 47%) | 44.8% | 60.0% | 48.4% | 41.2% |
| 年齢 | ２０代 (13人: 15%) | 13.8% | 20.0% | 12.9% | 17.6% |
| | ３０代 (19人: 22%) | 24.1% | 20.0% | 16.1% | 29.4% |
| | ４０代 (22人: 25%) | 27.6% | 30.0% | 25.8% | 17.6% |
| | ５０代 (19人: 22%) | 24.1% | 0.0% | 29.0% | 17.6% |
| | ６０代以上 (14人: 16%) | 10.3% | 30.0% | 16.1% | 17.6% |
| 子供有無 | 無し (12人: 14%) | 6.9% | 30.0% | 16.1% | 11.8% |
| | 有り (75人: 86%) | 93.1% | 70.0% | 83.9% | 88.2% |
| 学歴 | 大卒未満 (63人: 72%) | 69.0% | 90.0% | 71.0% | 70.6% |
| | 大卒以上 (24人: 28%) | 31.0% | 10.0% | 29.0% | 29.4% |
| 職業 | 主婦 (25人: 29%) | 34.5% | 30.0% | 29.0% | 17.6% |
| | 会社員・公務員 (31人: 36%) | 34.5% | 10.0% | 35.5% | 52.9% |
| | その他 (31人: 36%) | 31.0% | 60.0% | 35.5% | 29.4% |

表４－２０　地層処分場建設に対して反対する公衆の意識構造の分類と個人属性との関係（2／２）

| 個人属性 | 個人属性分類　(人数：比率) | 意識構造の分類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 反対－A | 反対－B | 反対－C | 反対－D |
| | | (29人) | (10人) | (31人) | (17人) |
| | | 33.3% | 11.5% | 35.6% | 19.5% |
| 男性 | ２０代 (7人: 15%) | 18.8% | 25.0% | 6.3% | 20.0% |
| | ３０代 (10人: 22%) | 25.0% | 25.0% | 12.5% | 30.0% |
| | ４０代 (11人: 24%) | 31.3% | 0.0% | 31.3% | 10.0% |
| | ５０代 (12人: 26%) | 18.8% | 0.0% | 43.8% | 20.0% |
| | ６０代以上 (6人: 13%) | 6.3% | 50.0% | 6.3% | 20.0% |
| 女性 | ２０代 (6人: 15%) | 7.7% | 16.7% | 20.0% | 14.3% |
| | ３０代 (9人: 22%) | 23.1% | 16.7% | 20.0% | 28.6% |
| | ４０代 (11人: 27%) | 23.1% | 50.0% | 20.0% | 28.6% |
| | ５０代 (7人: 17%) | 30.8% | 0.0% | 13.3% | 14.3% |
| | ６０代以上 (8人: 20%) | 15.4% | 16.7% | 26.7% | 14.3% |
| 男性 | 子供無し (8人: 17%) | 12.5% | 50.0% | 12.5% | 20.0% |
| | 子供有り (38人: 83%) | 87.5% | 50.0% | 87.5% | 80.0% |
| 女性 | 子供無し (4人: 10%) | 0.0% | 16.7% | 20.0% | 0.0% |
| | 子供有り (37人: 90%) | 100.0% | 83.3% | 80.0% | 100.0% |
| 子供無し | ２０代 (7人: 58%) | 100.0% | 33.3% | 60.0% | 50.0% |
| | ３０代 (3人: 25%) | 0.0% | 33.3% | 20.0% | 50.0% |
| | ４０代 (0人: 0%) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | ５０代 (1人: 8%) | 0.0% | 0.0% | 20.0% | 0.0% |
| | ６０代以上 (1人: 8%) | 0.0% | 33.3% | 0.0% | 0.0% |
| 子供有り | ２０代 (6人: 8%) | 7.4% | 14.3% | 3.8% | 13.3% |
| | ３０代 (16人: 21%) | 25.9% | 14.3% | 15.4% | 26.7% |
| | ４０代 (22人: 29%) | 29.6% | 42.9% | 30.8% | 20.0% |
| | ５０代 (18人: 24%) | 25.9% | 0.0% | 30.8% | 20.0% |
| | ６０代以上 (13人: 17%) | 11.1% | 28.6% | 19.2% | 20.0% |

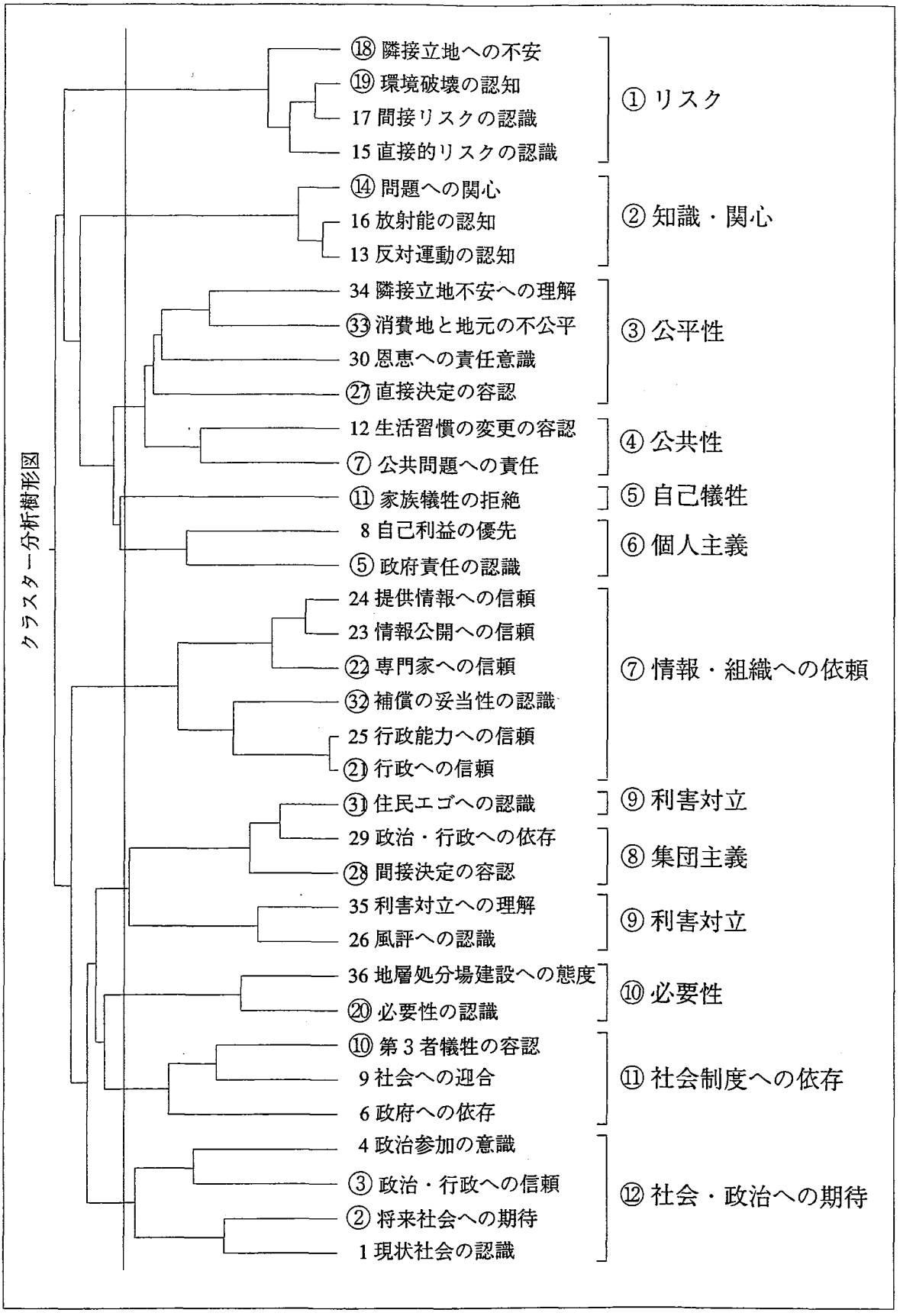



図4－2　地層処分場建設に対する態度と問題認識との関係

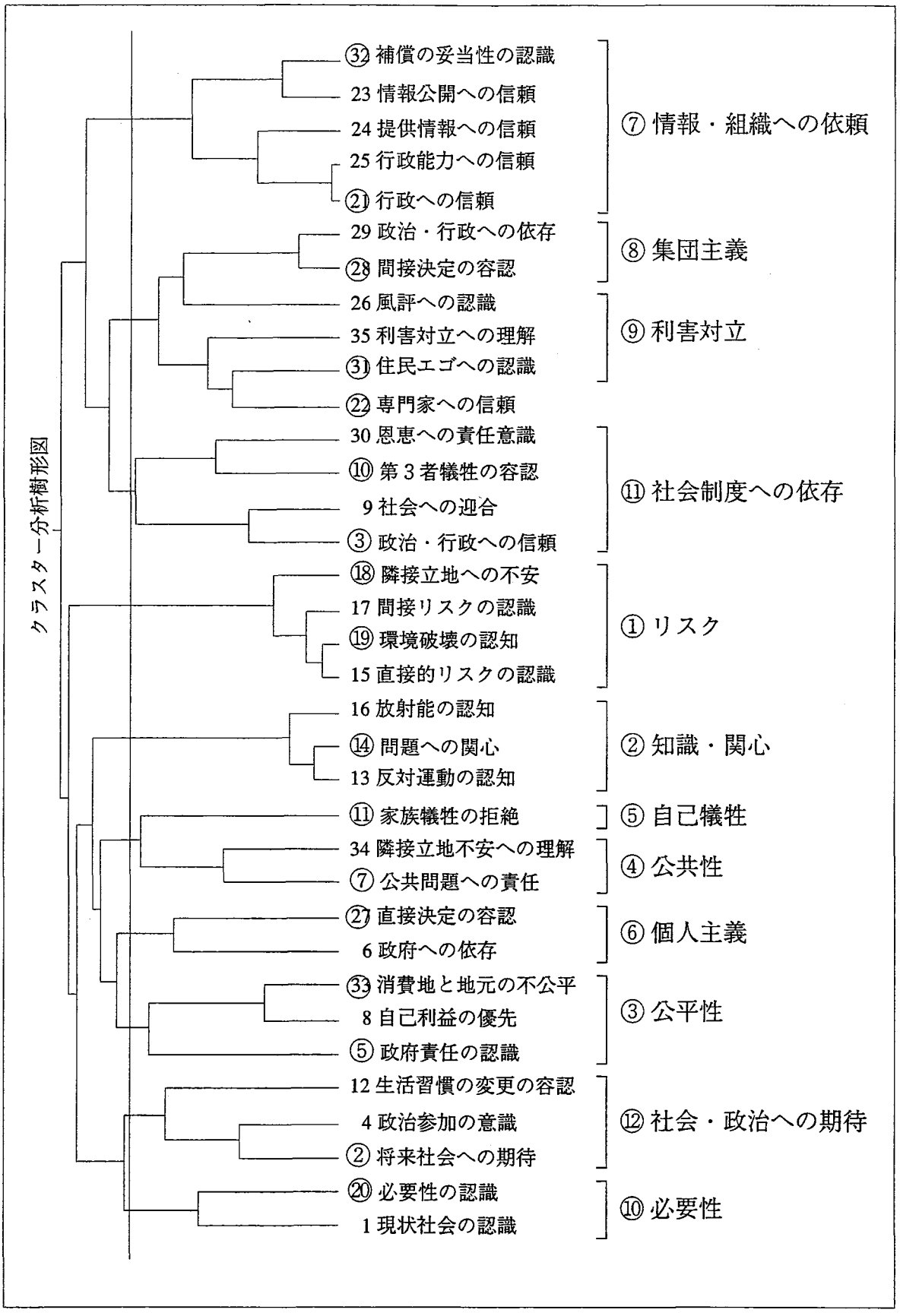



図４－３　地層処分場建設に対する態度別（賛成）での問題認識間の関係

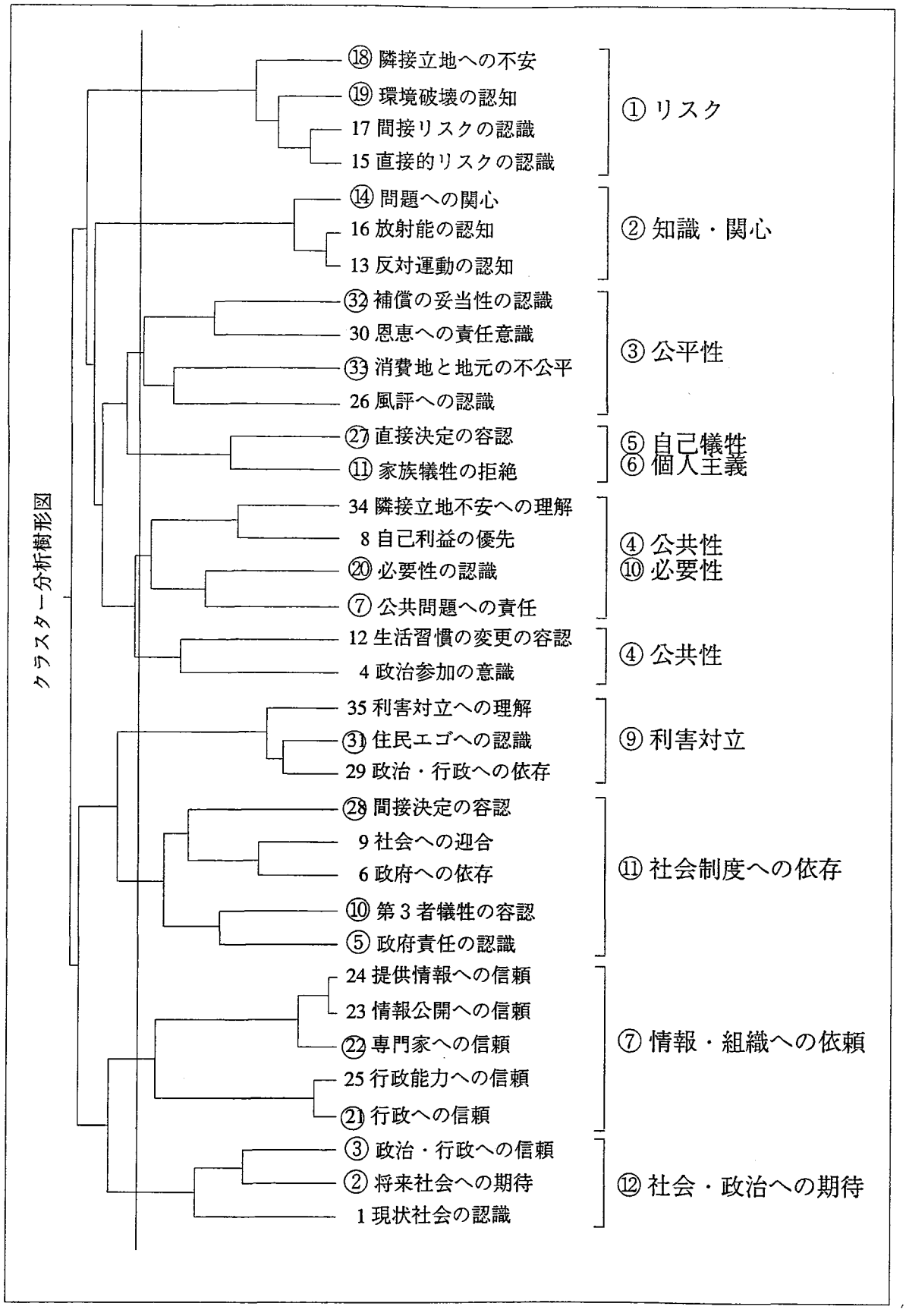



図4－4　地層処分場建設に対する態度別（どちらでもない）での問題認識間の関係

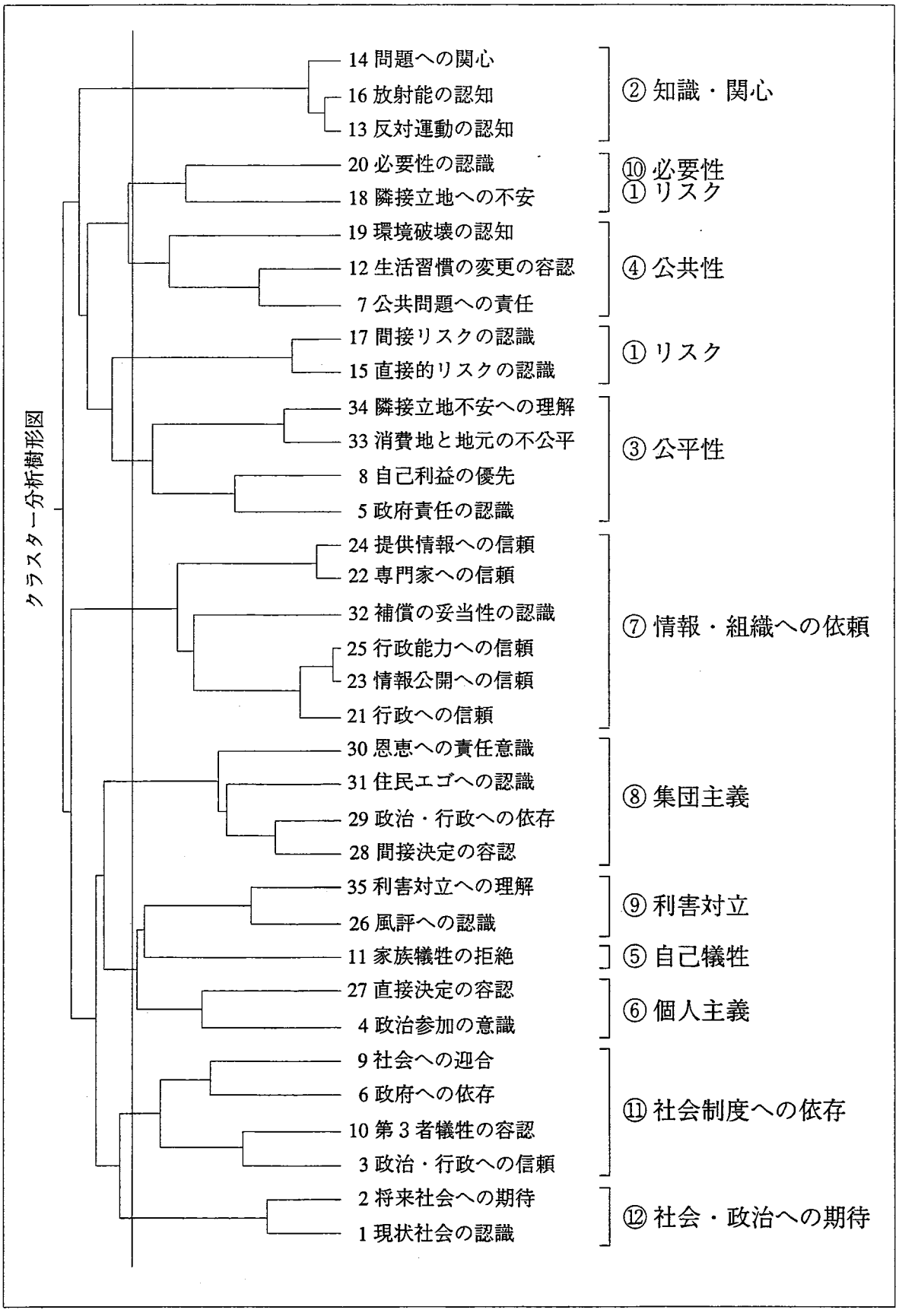



図4－5　地層処分場建設に対する態度別（反対）での問題認識間の関係

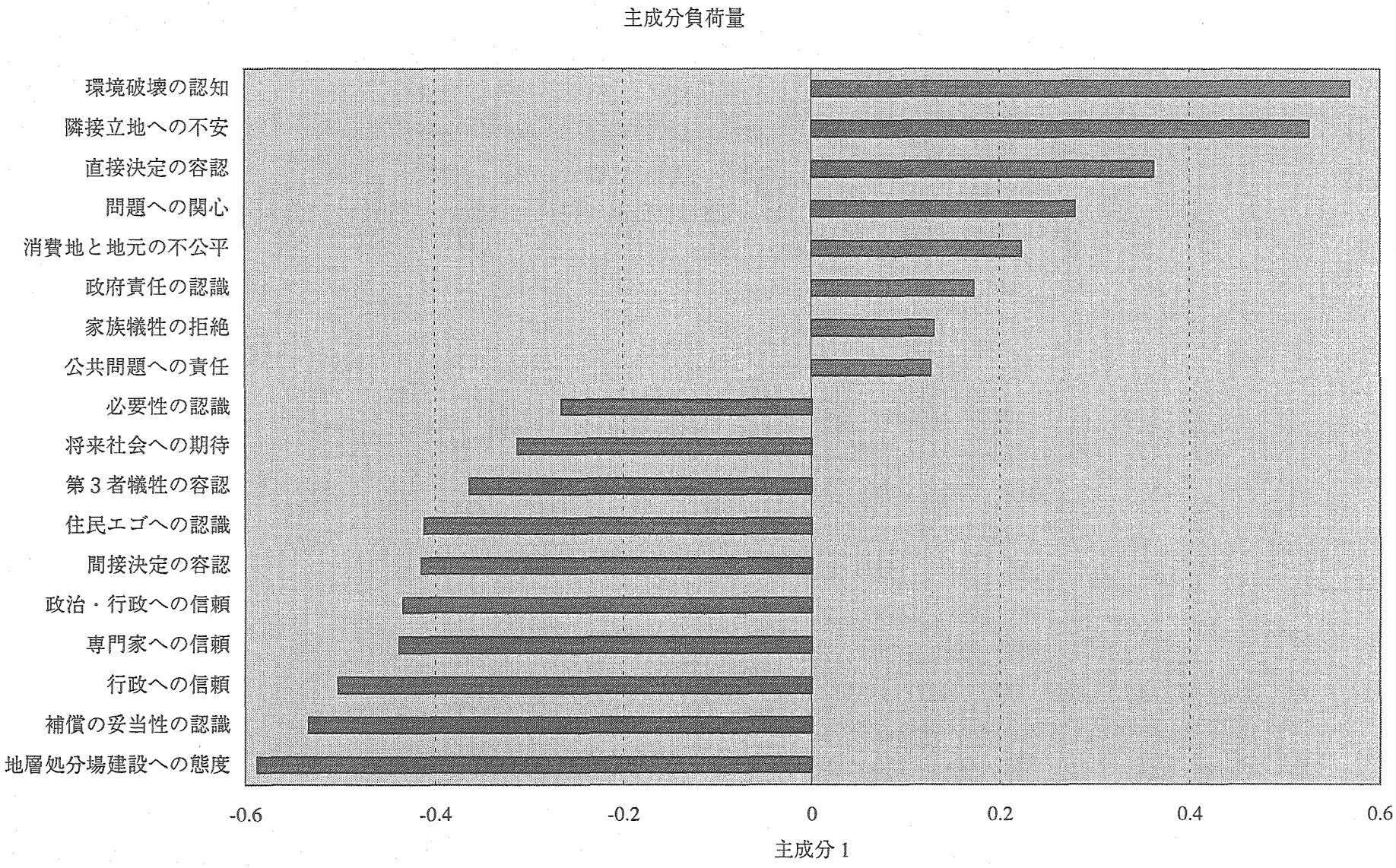



図４－６　地層処分場建設に対する態度を形成する主成分の負荷量（主成分１）

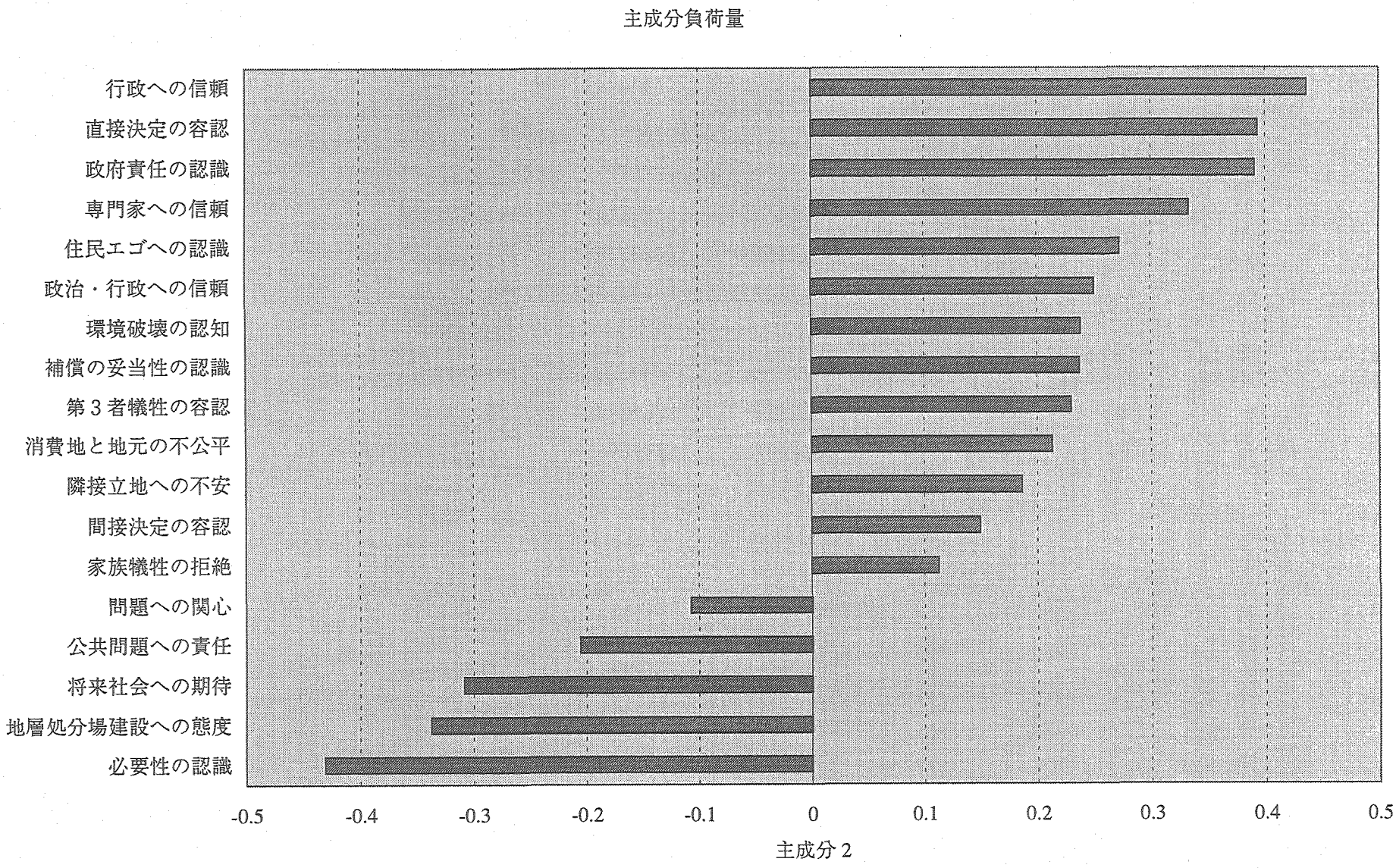



図４－７　　地層処分場建設に対する態度を形成する主成分の負荷量（主成分２）

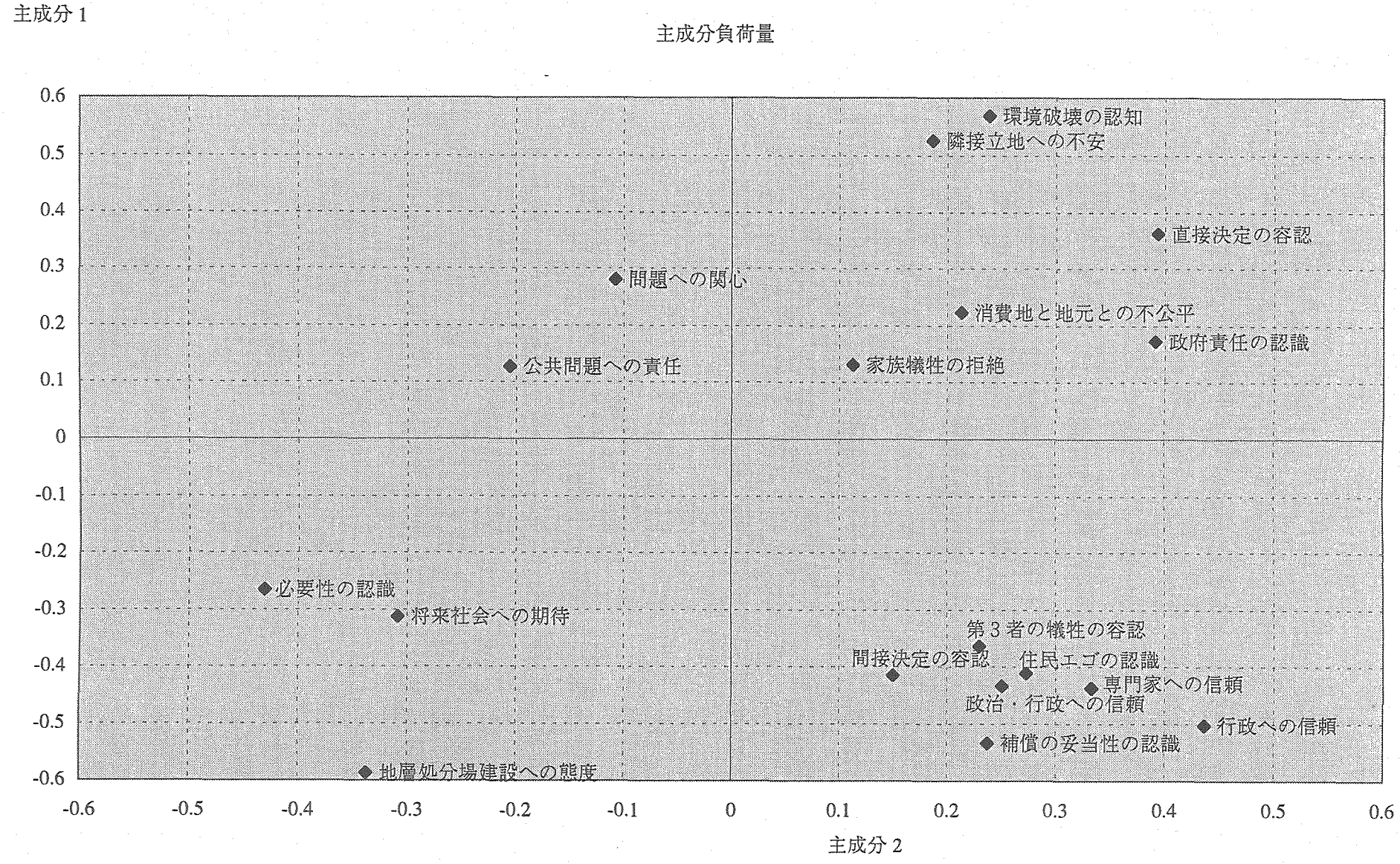



図４－８　　地層処分場建設に対する公衆の態度を形成する主成分の関係（主成分１－主成分２）

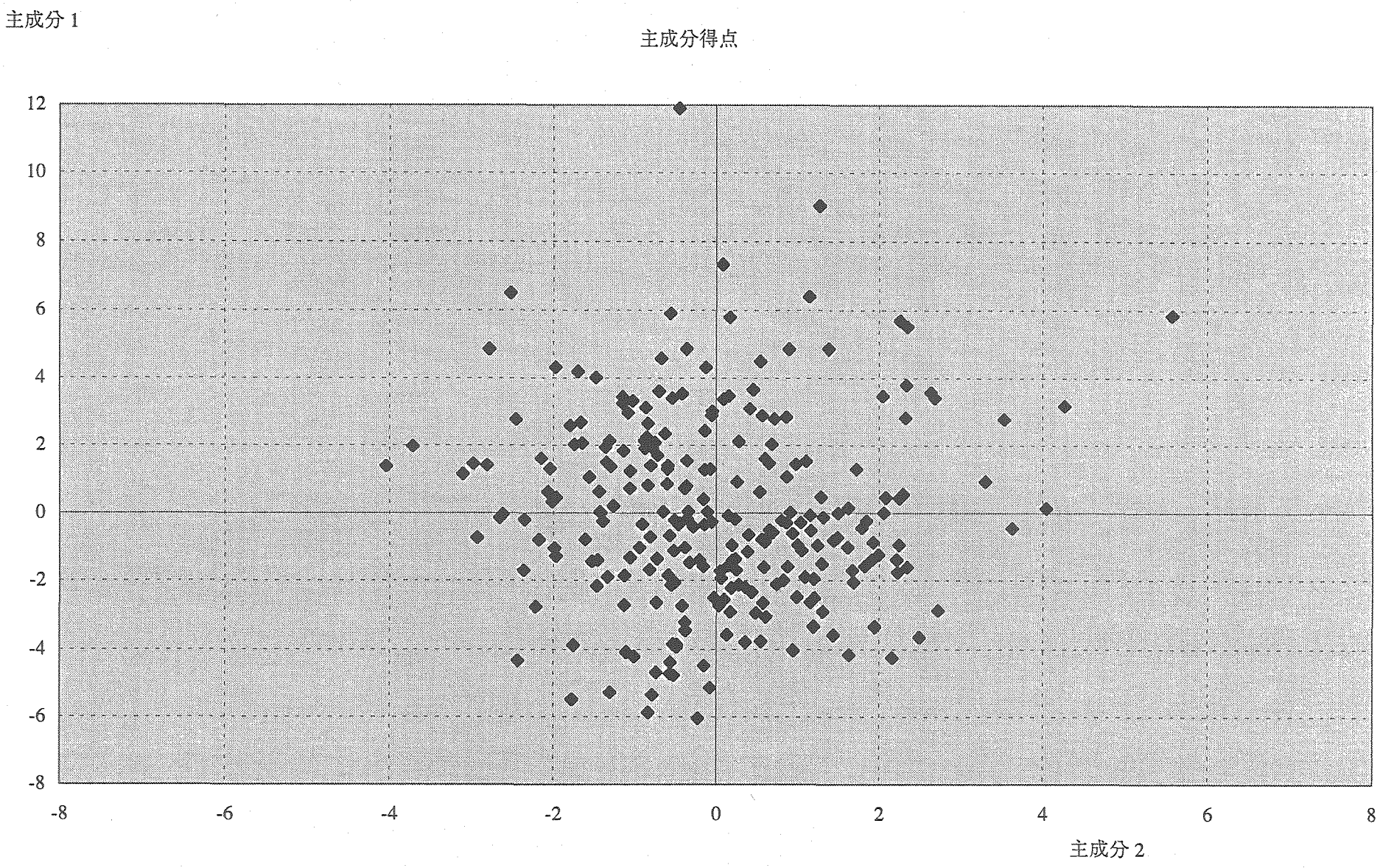



図４－９　　地層処分場建設に対する公衆の分類

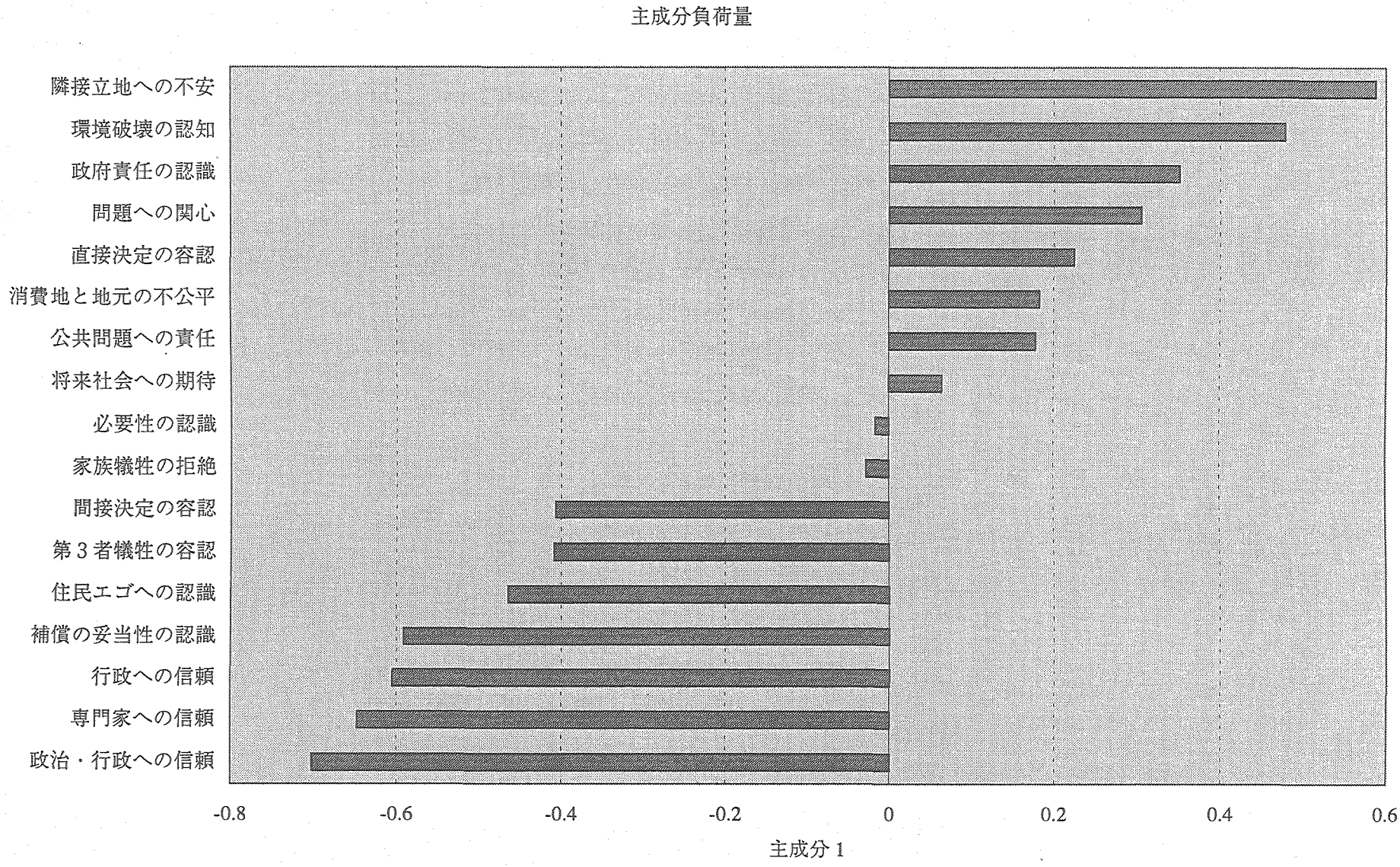



図４－１０　　地層処分場建設に対して賛成の態度を形成する主成分の負荷量（主成分１）

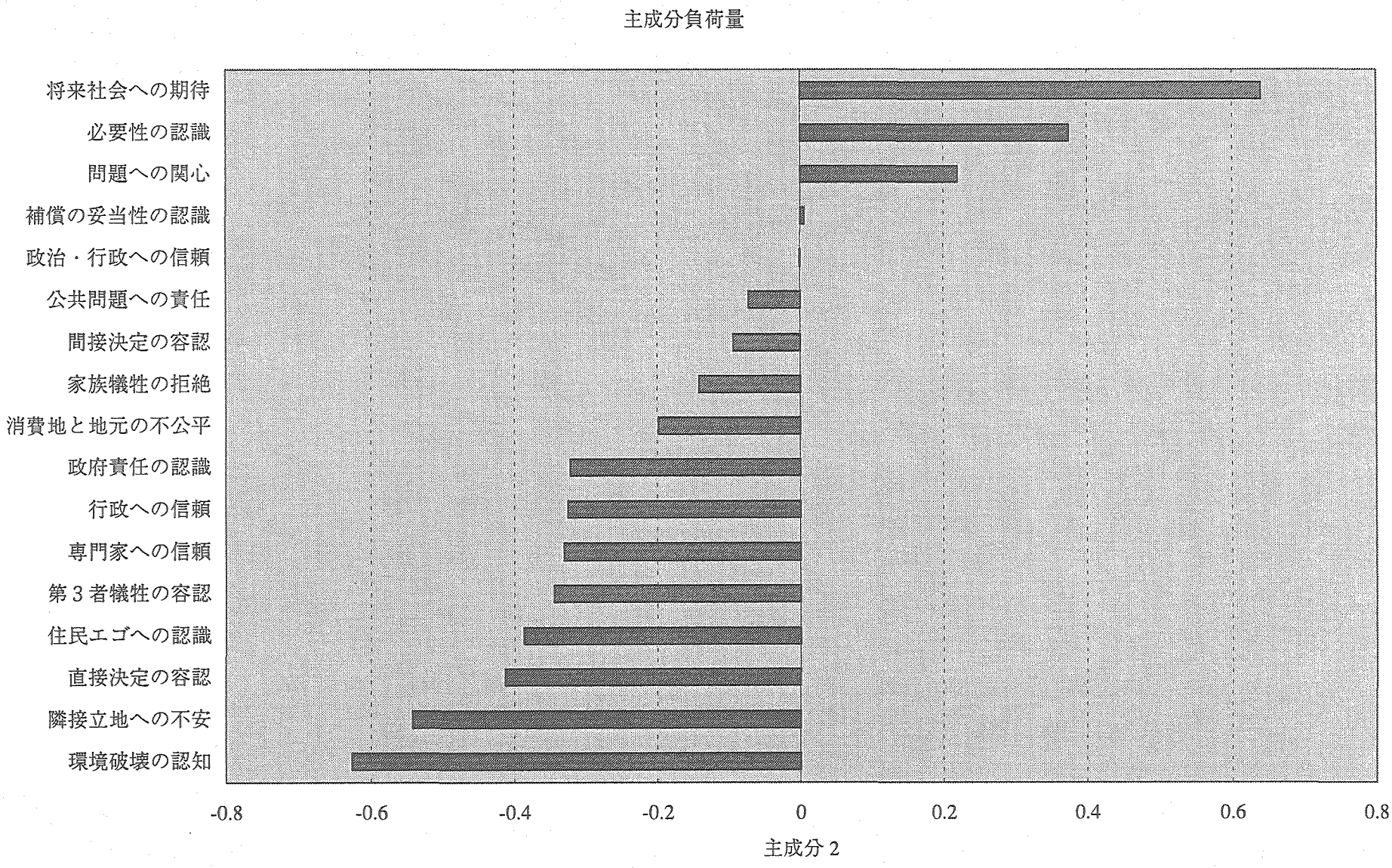



図４－１１　地層処分場建設に対して賛成の態度を形成する主成分の負荷量（主成分２）

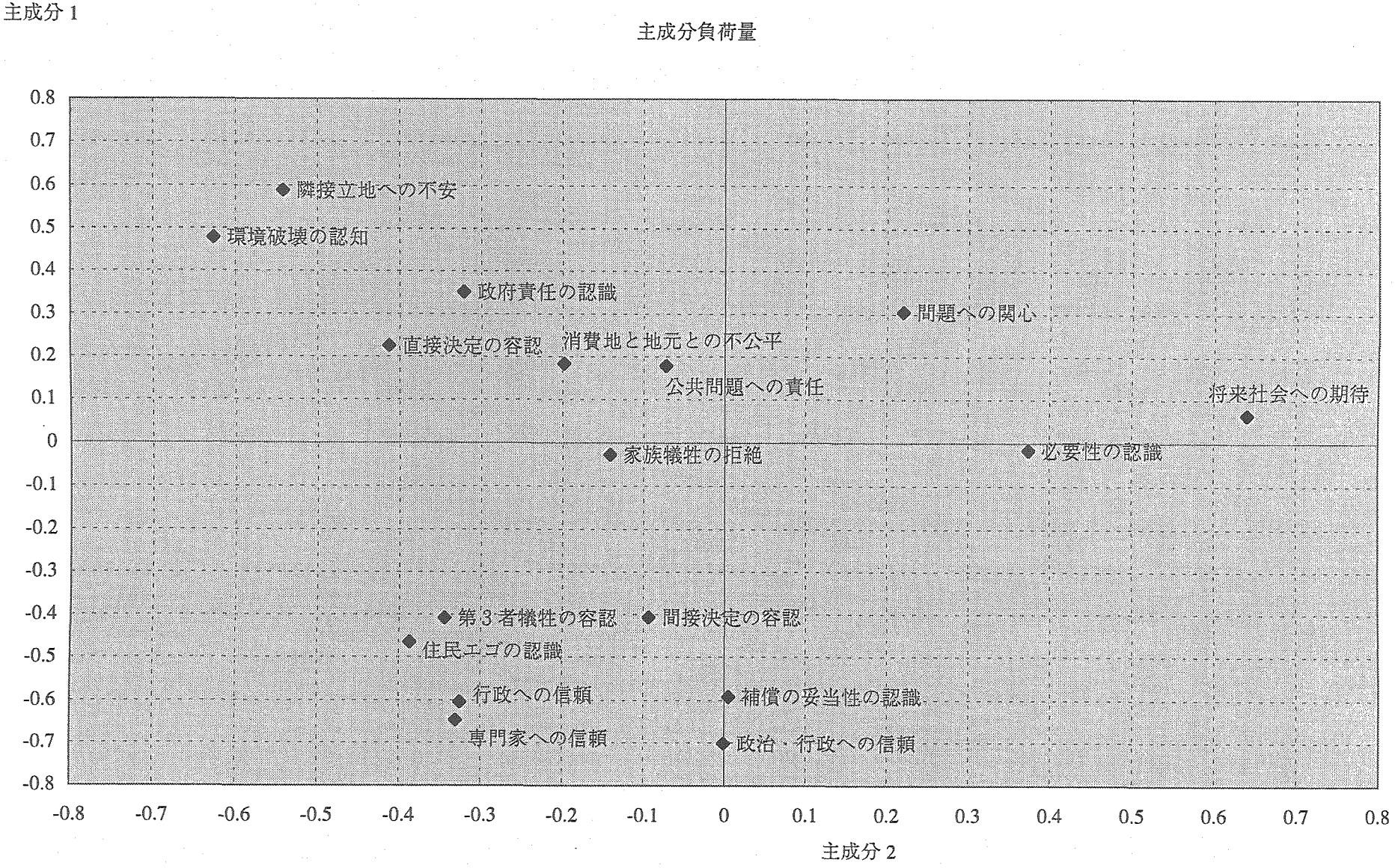



図４－１２　　地層処分場建設に対する公衆の賛成の態度を形成する主成分の関係（主成分１－主成分２）

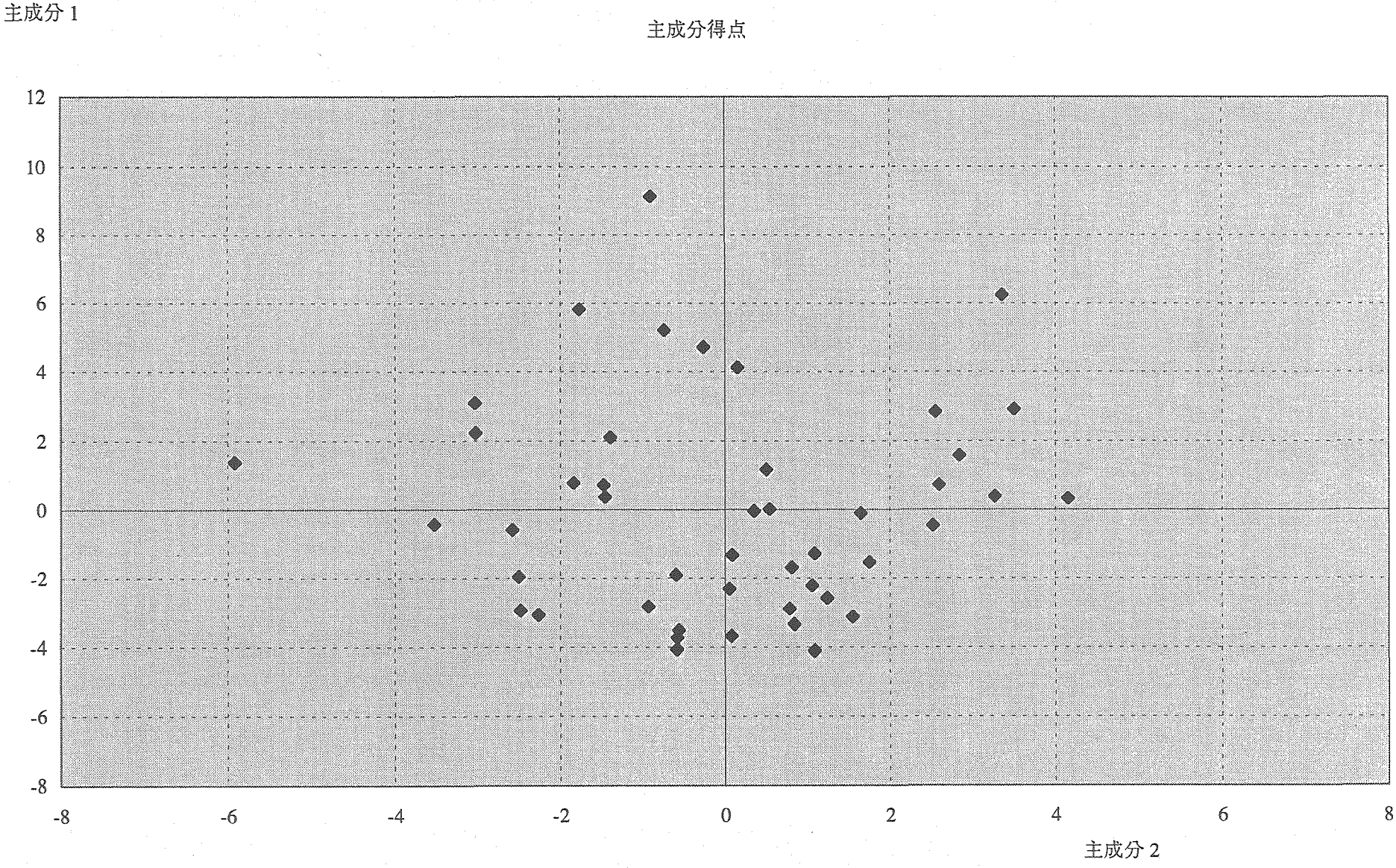



図４－１３　　地層処分場建設に対して賛成の態度をとる公衆の分類

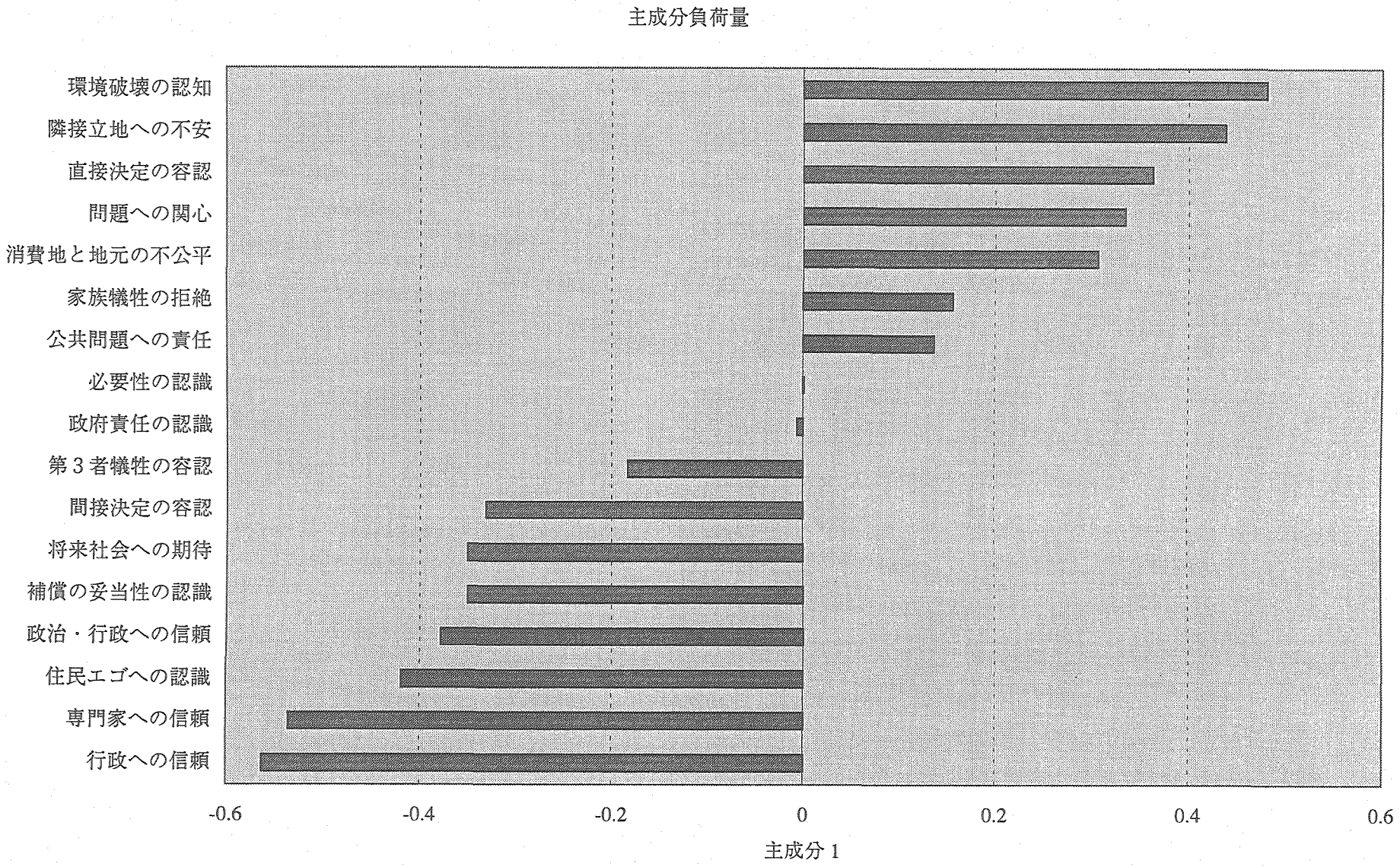



図４－１４　　地層処分場建設に対して賛成反対どちらでもない態度を形成する主成分の負荷量（主成分１）

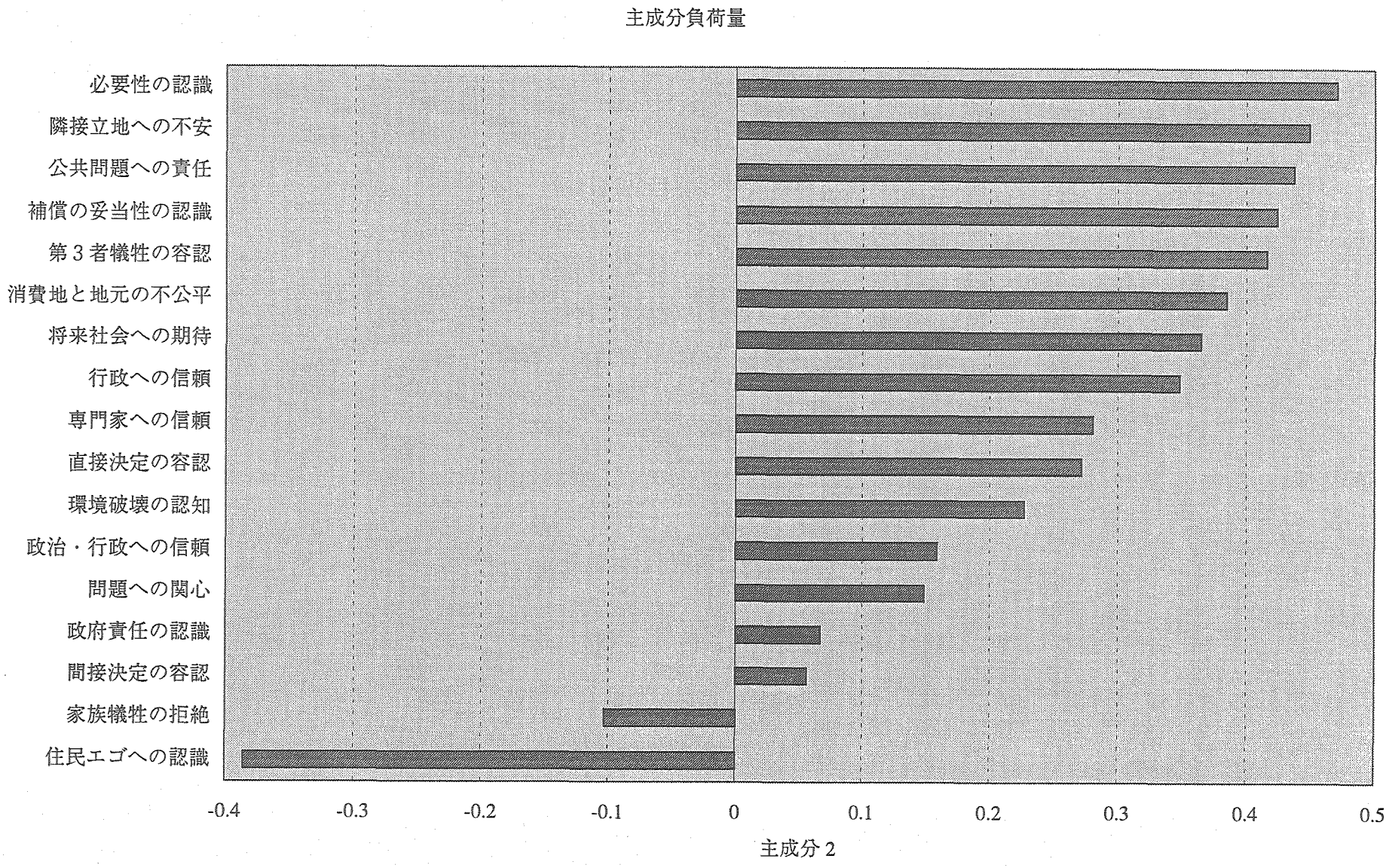



図４－１５　地層処分場建設に対して賛成反対どちらでもない態度を形成する主成分の負荷量（主成分２）

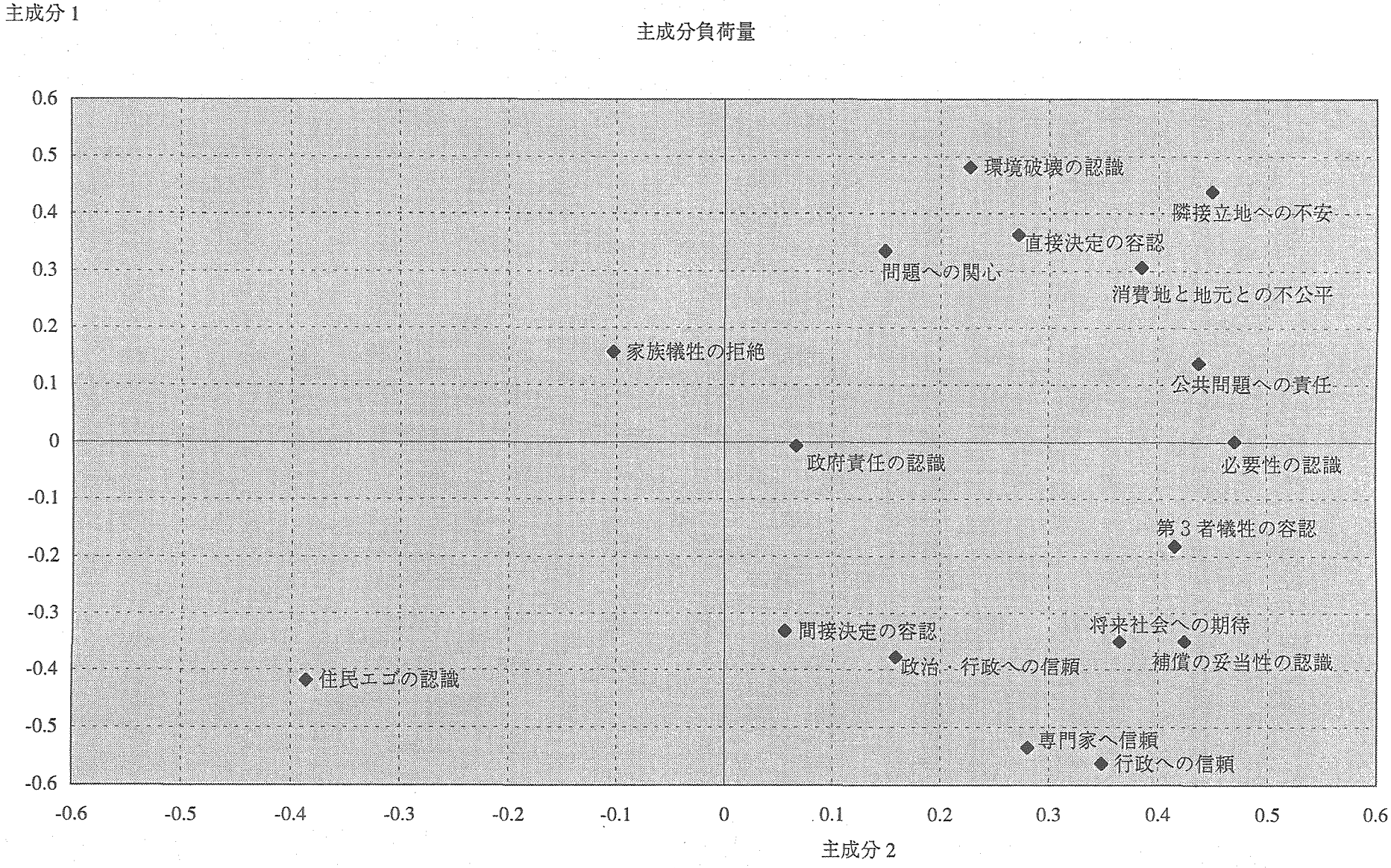



図４－１６　　地層処分場建設に対する公衆の賛成反対のどちらでもない態度を形成する主成分の関係（主成分１－主成分２）

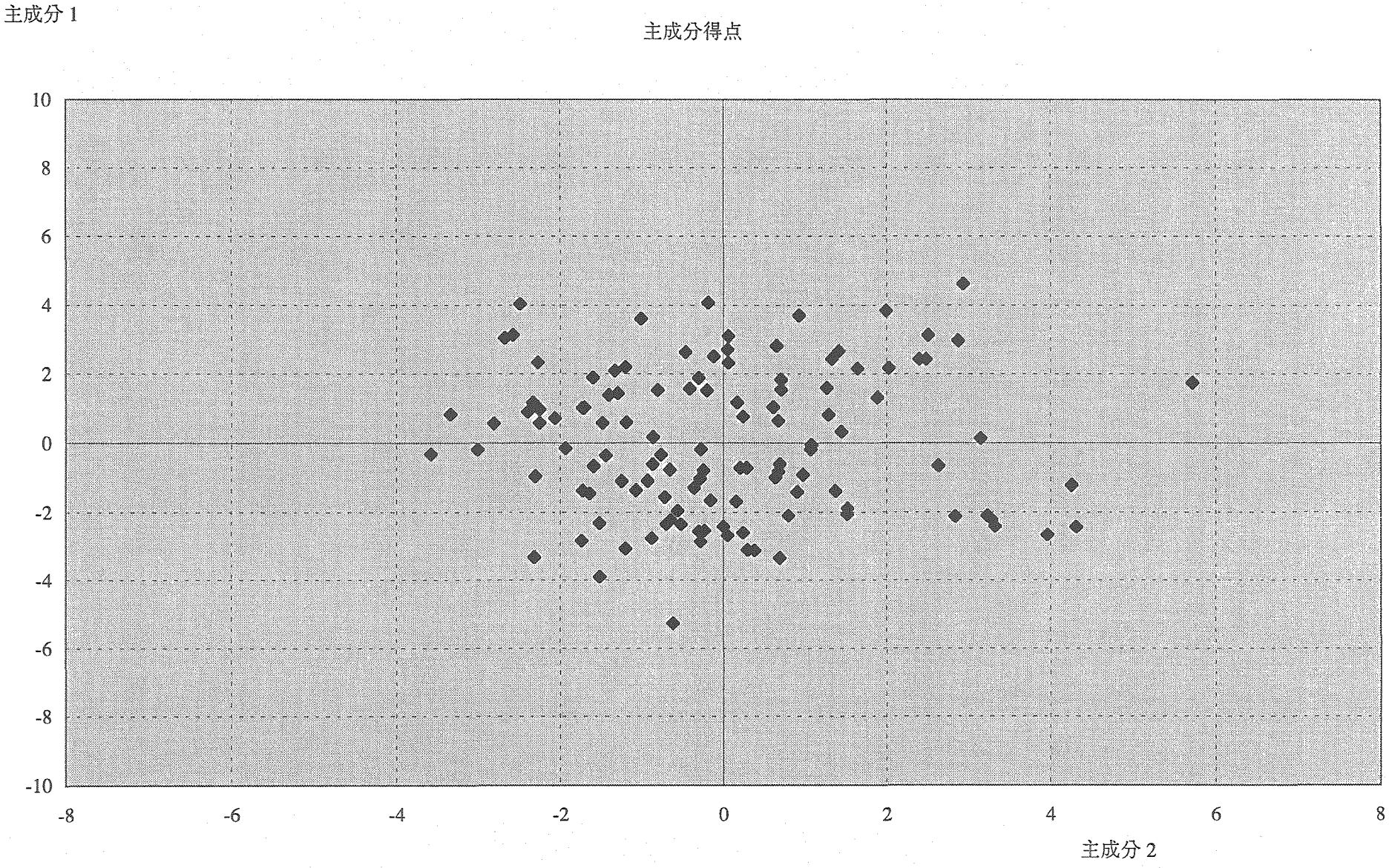



図４－１７　　地層処分場建設に対して賛成反対どちらでもないの態度をとる公衆の分類

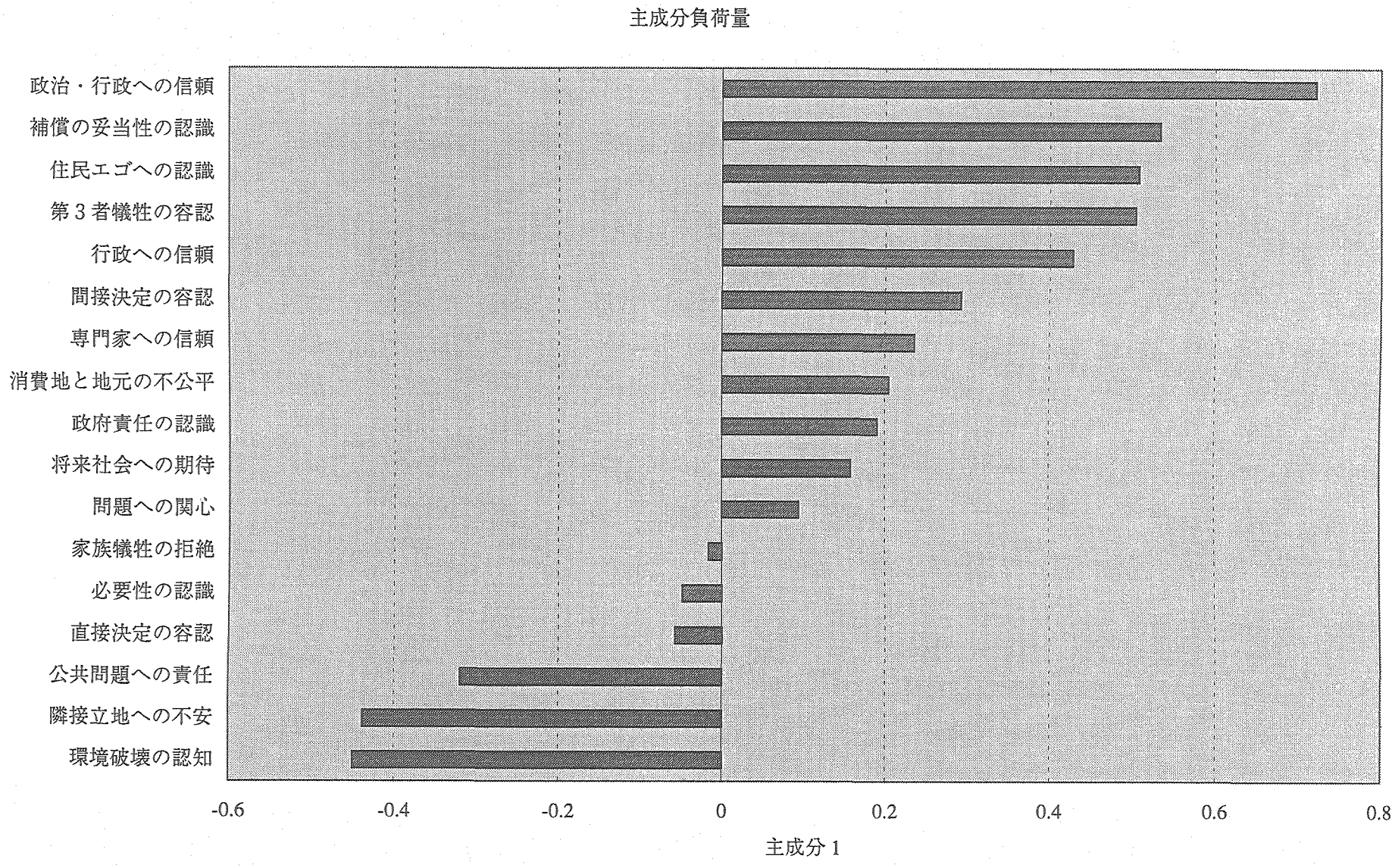



図４－１８　地層処分場建設に対して反対の態度を形成する主成分の負荷量（主成分１）

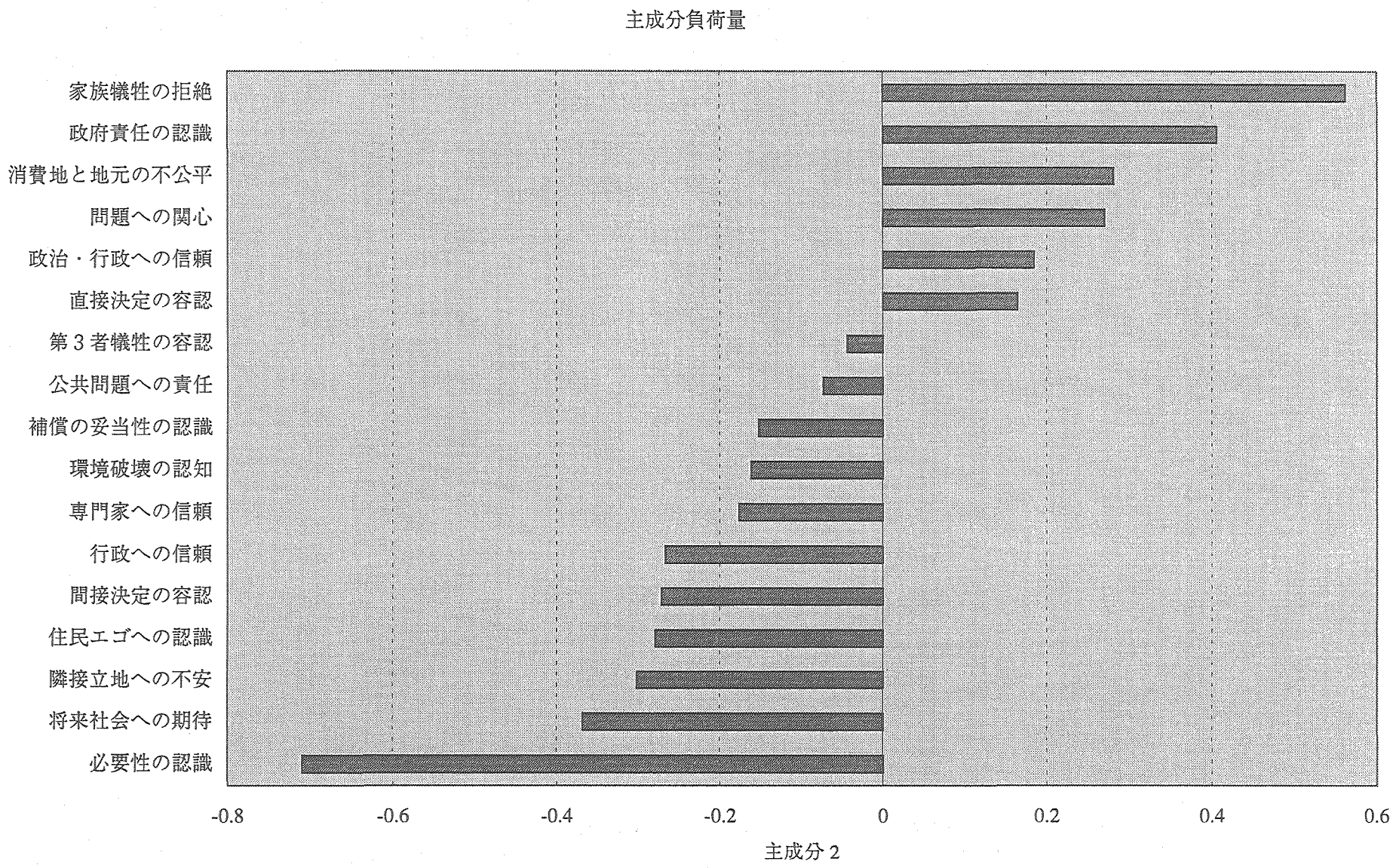



図４－１９　地層処分場建設に対して反対の態度を形成する主成分の負荷量（主成分２）

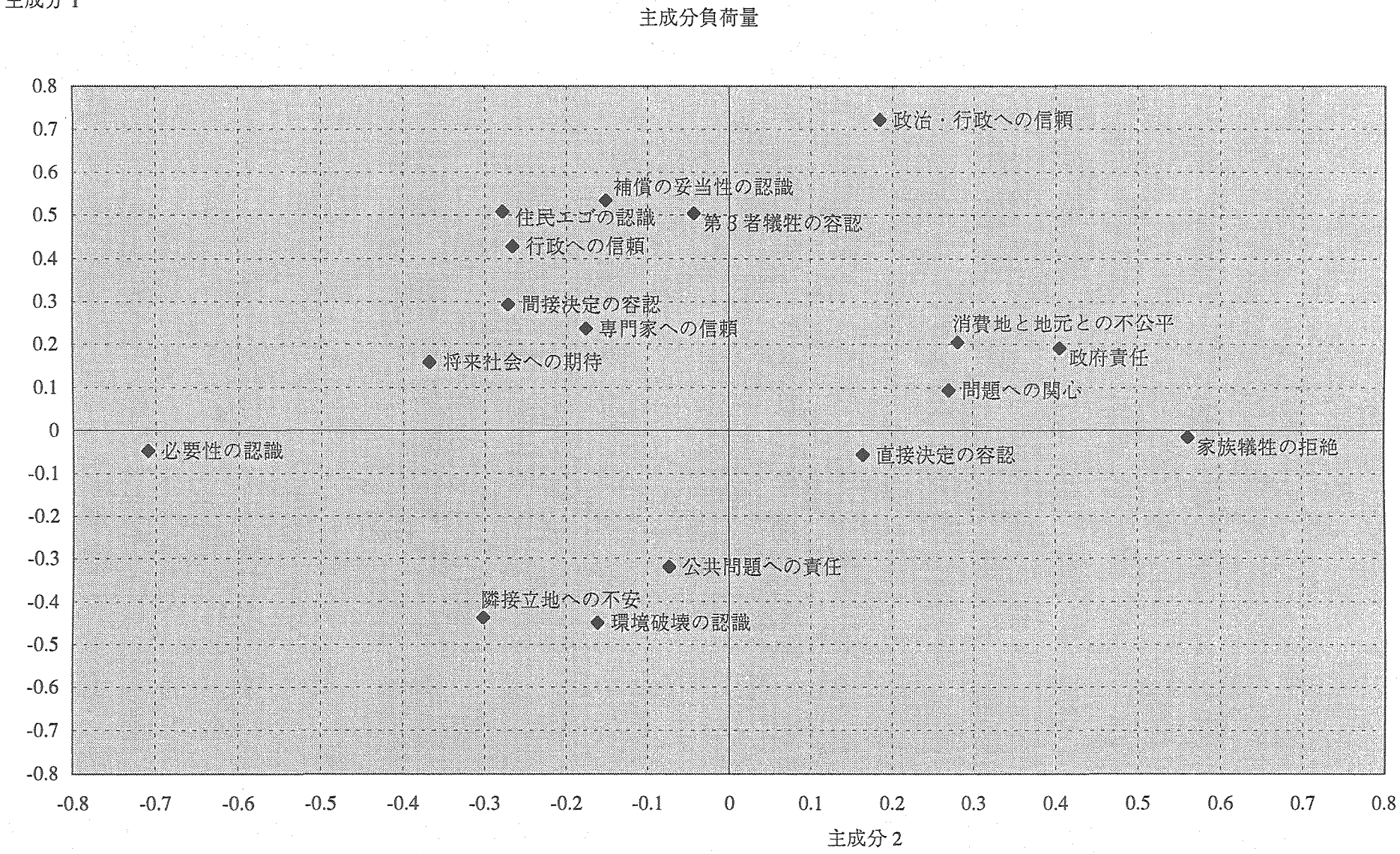



図４－２０　地層処分場建設に対する公衆の反対の態度を形成する主成分の関係（主成分１－主成分２）

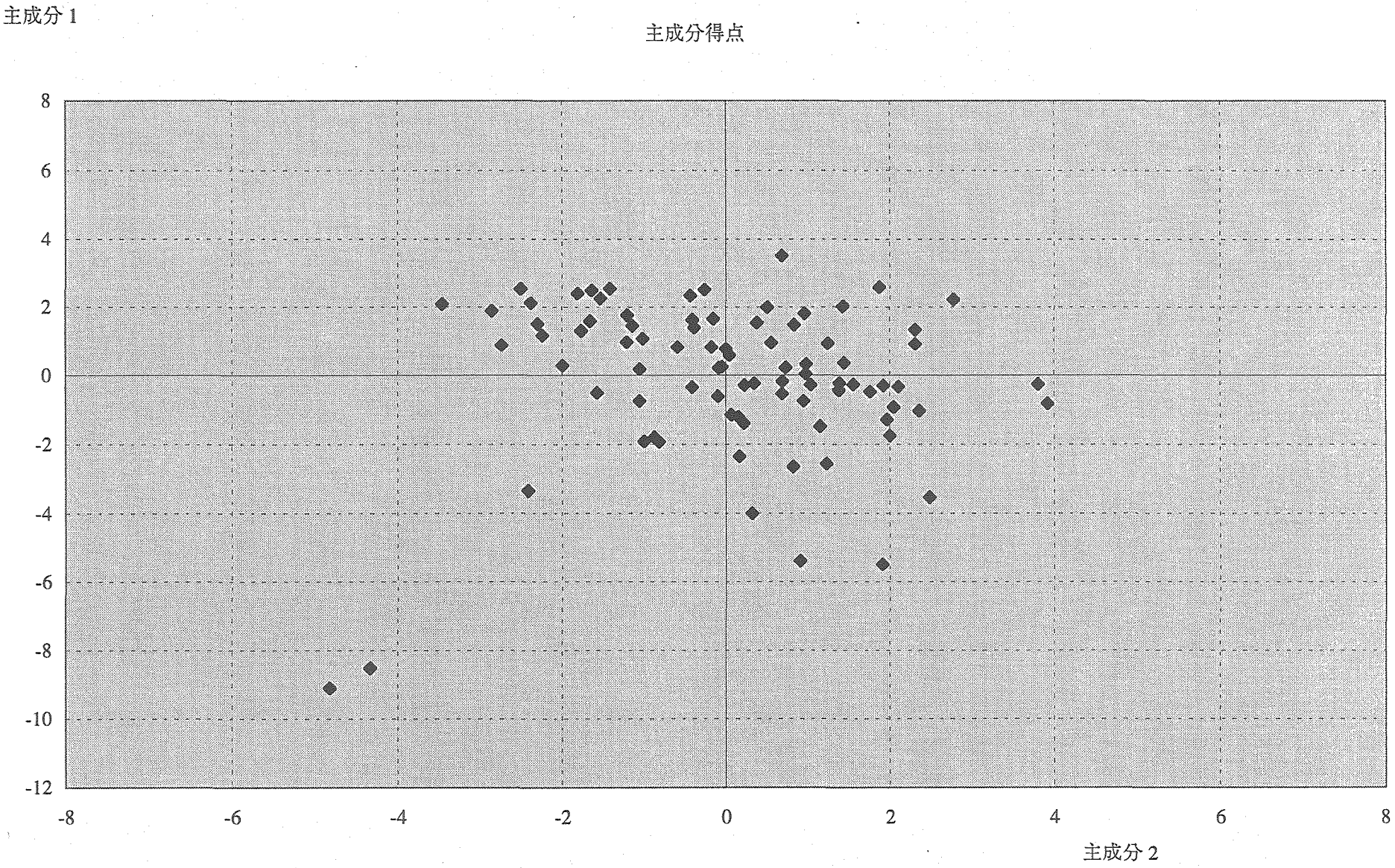



図４－２１　地層処分場建設に対して反対の態度をとる公衆の分類

## ４．５　アンケート結果に基づく公衆分類

（１）公衆分類

主成分分析結果、各主成分と主成分構成因子（問題認識）を用いて公衆の態度を形成する意識構造を分類した。地層処分場建設に対する公衆の態度の意識構造の分類結果を図４－２２に、賛成の態度の公衆の意識構造の分類を図４－２３、どちらでもない態度の公衆の分類を図４－２５に、反対の態度の公衆の分類を図４－２５に示す。

さらに、分類毎に各分類に属する公衆の個人属性を整理して、表４－１７～表４－２０に示す。

各分類への寄与する問題認識（主成分）とその寄与率（負荷量）から、各分類に属する公衆の意識構造の特徴をまとめた。また同時に、個人属性データから各分類での個人属性の影響についてもまとめた。そこれらの結果を表４－２１～表４－２４に示す。

（２）情報提供の効果の推定

ヒアリング対象者の地層処分への態度の分布とアンケート結果での公衆の態度の分布を表４－２６に整理した、また各層での男女比を表４－２５に比較した。ヒアリング対象者の母数は約４０人と少ない数ではあるが、アンケート対象者と比べると分布に差異が見られる。特に、賛成層と中立層の分布違いが大きい。ヒアリング対象者は、アンケート対象者よりも明らかに賛成の割合が大きく、中立層の一部が賛成層に移っていると推定される。しかも女性でその傾向が強くなっている。アンケート対象者とヒアリング対象者の大きな違いは、後者が地層処分研究開発に関するビデオを見ていることである。このことから推測すると、定性的には一般公衆への地層処分に関する情報提供は、中立層の女性に対して影響が大きいことが判る。

しかしながら、各態度の分類毎にビデオの効果を判断するには、ビデオを見た被験者の人数が少なく、定量的な推定を行うことは難しい。

より効果的なコミニュケーションを行うには、各分類の公衆が個々の情報に対してどのように影響されているのか、また、情報はどのような効果をもたらすのかを把握していくことが重要である。情報提供の前後で、公衆の分類の分布に変化が生じるとすれば、その変化の割合を情報提供の効果の大きさとして把握する事ができる。そのためには、多くの公衆を対象に情報提供の前後での公衆の分類の変化を調査する必要がある。

表４－２６　アンケート対象者とヒアリング対象者の態度の分布の比較

| 地層処分場建設への態度 | アンケート対象者（男：女） | ヒアリング対象者（男：女） |
|---|---|---|
| 賛成層 | １８％（７：３） | ５０％（３：４） |
| どちらでもない層<br>（中立層） | ４７％（４：６） | ２０％（５：４） |
| 反対層 | ３５％（５：５） | ３０％（１：２） |

表４－２１　　地層処分場建設に対する公衆の態度を形成している意識構造の分類（２５１人）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 態度毎分類の代表 | 特徴的個人属性 | 態度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 分類－A<br>(30%) | ①リスクの認知<br>⑩必要性の認識<br>③公平性の重視<br>⑫社会・政治への期待 | 社会問題に対して、問題解決に積極的に対応する集団。 | 積極的賛成<br>リスク重視型反対<br>論理的反対<br>積極的中立 | 多い集団<br>・男性<br>・低学歴層 | 賛成　20%(15人)<br>反対　37%(28人)<br>中立　43%(32人) |
| 分類－B<br>(25%) | ①リスクの認知<br>⑤自己犠牲の拒否<br>③公平性の重視<br>⑥個人主義 | リスクや不公平、政治不信等を原因として、現状社会への不満が大きく、個人主義的な傾向が強い。 | 集団依存的反対<br>個人主義的反対<br>懐疑的中立 | 多い集団<br>・女性（主婦）<br>・高学歴層<br>少ない集団<br>・男性 | 賛成　2%(1人)<br>反対　72%(46人)<br>中立　26%(17人) |
| 分類－C<br>(27%) | ⑦情報・組織への信頼<br>⑤自己犠牲の拒否<br>⑫社会・政治への期待<br>⑪社会制度への依存<br>⑥個人主義 | 個人主義的な傾向と社会制度や周囲に依存している傾向がある。いづれにしろ社会問題への関心が小さく、他人事ととらえる傾向がある。 | 問題認識の低い賛成<br>集団依存的賛成<br>集団依存的反対<br>集団依存的無関心<br>個人主義的無関心 | | 賛成　16%(11人)<br>反対　13%(9人)<br>中立　71%(49人) |
| 分類－D<br>(18%) | ⑩必要性の認識<br>⑦情報・組織への信頼<br>①リスクの認知<br>⑫社会・政治への期待<br>⑪社会制度への依存<br>⑧集団主義 | 社会制度や周囲に依存している。必要性に比べるとリスク感は小さい。社会への期待感も大きく、楽観主義的でもある。問題への関心は分類－Cに比べるとやや強い。 | 集団依存的賛成<br>消極的賛成<br>集団依存的無関心 | 少ない集団<br>・３０代男女 | 賛成　44%(19人)<br>反対　7%(3人)<br>中立　49%(21人) |

表４－２２　　地層処分場建設に賛成の態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成４６人／２５１人中）　（１／２）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 賛成－A (32%) | ①リスクの認知<br>③公平性の重視<br>⑨利害対立の認識<br>⑥個人主義 | リスクや公平性等のどちらかといえば、負の要因の認識はあるが、そもそも問題への関心も小さく、必要性への認識も弱い。問題認識が低いため、良く考えた上あるいは判った上での判断ではなく、なんとなく賛成している層と考えられる。高学歴より低学歴に多い点からも判断の曖昧さが関連していると推定される。 | 問題認識の低い賛成 | 多い集団<br>・男性<br>・低学歴層 | まず、問題認識をもってもらうことが重要。その上で、必要性を十分に理解してもらい、リスク感を弱めていく。 |
| 賛成－B (22%) | ⑫社会・政治への期待<br>①リスクの認知<br>⑩必要性の認識<br>⑥個人主義<br>②問題への知識・関心 | リスクと必要性の両者への認識がある。また問題への関心度も賛成－Aに比べると強くなる。基本的には、現状社会に期待もあり、リスクよりどちらかといえば必要性を重視して賛成している層と考えられる。賛成－Aに比べ高学歴層が増える点で問題認識の程度が高いことが推定される。また、男性より女性層で多い点は、積極より消極派であることに関連する。 | 消極的賛成 | 多い集団<br>・女性（主婦）<br>・高学歴層<br>少ない集団<br>・男性 | リスクが小さいことと情報や組織は、公平性や公共性の面を含めても信用できるものであることをアピールする。これにより賛成の態度を強める。 |

表４－２２　　地層処分場建設に賛成の態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成４６人／２５１人中）（２／２）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 賛成－C (24%) | ⑫社会・政治への期待<br>⑦情報・組織への信頼<br>⑨利害対立の認識<br>⑩必要性の認識<br>⑪社会制度への依存<br>⑧集団主義 | 現状の社会制度や政治、行政等の支持派層であり、情報や組織への信頼感が強い。同時に、必要性も重視しており、リスク感は弱い。社会問題を利害対立と考える傾向にあり、公平性への意識は少ない。このため積極的な賛成派といえる。男性に多く、女性に少ない点からも積極派といえる。賛成－Bと対比的である。 | 積極的賛成 | 多い集団<br>・男性<br>少ない集団<br>・女性（主婦） | 現状でも十分である。 |
| 賛成－D (22%) | ⑫社会・政治への期待<br>⑦情報・組織への信頼<br>①リスクの認知<br>⑪社会制度への依存 | 現状の社会や政治、情報や組織への信頼感はあり、社会制度への依存傾向がある。問題認識も小さくかつ必要性の認識よりリスク感が強まるため積極的な賛成にはならず、社会制度や集散依存型の賛成、いわゆる他人まかせ的な賛成派といえる。社会問題への関心が弱いと考えられる子供無しで多くなり、逆に高学歴層では少ない点が特徴である。 | 集団依存的賛成 | 多い集団<br>・子供無し<br>・会社員・公務員<br>少ない集団<br>・高学歴 | 個人の立場に立って、必要性を認識してもらうようにする。 |

表４－２３　　地層処分場建設に賛成反対どちらでもない態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成１１８人／２５１人中）　（１／２）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 中立－A (24%) | ⑨利害対立の認識<br>①リスクの認知<br>③公平性の重視<br>②問題への知識・関心<br>⑤自己犠牲の拒否 | リスク認識や問題認識もあるが、情報や組織への信頼感が弱い。公平性を重視する点や公共問題の原因を利害対立にあると考えている点も不信感があると考えられる。現状では、懐疑的な意識があり判断を保留している。何か不祥事や社会的問題が起こると反対派に移る可能性が高い集団と考えられる。 | 懐疑的中立 | －＊ | 不信感もあるので、情報や組織への信頼感をアピールする。透明性向上や情報公開等が有効である。同時に必要性を訴えるとともにリスクが小さいことを示す。 |
| 中立－B (29%) | ⑩必要性の認識<br>①リスクの認知<br>④公共性の重視<br>③公平性の重視<br>⑫社会・政治への期待 | 必要性とリスクを考慮した場合、理性的に判断しても、現状では判断材料がなく態度を保留している。子供有り女性では、将来へ影響等も考え、必要性は認めるも現状では賛成できないという意識もあると思われる。 | 積極的中立 | 多い集団<br>・３０、４０代<br>・子供有り女性 | 問題に対する論理的な説明により判断を促す。場合によってはリスク感を重視して反対になることも考えられる。 |

＊母集団の人数が少ないため特徴的な個人属性が明確とはいえない。

表４－２３　　地層処分場建設に賛成反対どちらでもない態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成１１８人／２５１人中）　（2./2）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 中立－C (24%) | ⑩必要性の認識<br>⑦情報・組織への信頼<br>①リスクの認知<br>④公共性の重視<br>⑨利害対立の認識<br>⑧集団主義 | リスクと必要性の認識をもつ、一方で情報や組織への信頼感もあり、集団主義的、社会制度依存的な面もあるため判断は他人まかせとしている無関心層と考えられる。無関心ではあるが、中立－Dよりは公共性を認識している点から問題への関心はある。個人属性からいえば、極普通のサラリーマン層である。他人まかせの傾向があるため、広報にも無関心となりやすい。半強制的な広報（教育やＴＶ）が必要。 | 集団依存的無関心 | 多い集団<br>・会社員・公務員<br>・子供無し<br>・30～40代男性 | 周囲に迎合する傾向があるため、まず世論を形成していく。他人事ではなく個人の問題として認識させる。地域での講習会や教育等への積極的な参加を促す。ＴＶを用いて定常的な広報も有効。 |
| 中立－D (23%) | ⑨利害対立の認識<br>⑦情報・組織への信頼<br>⑫社会・政治への期待<br>⑤自己犠牲の拒否 | 問題への関心度も小さければ、必要性やリスクへの認識は小さく、利害対立を問題の原因と考える傾向が強い。公共性や公平性については認識が小さい反面で組織への信頼や社会への依存傾向もある。どちらかといえば、個人主義的な無関心層といえる。<br>２０代女性が多い点は、社会の傾向を反映しているともいえる。 | 個人主義的無関心 | 多い集団<br>・２０代女性 | 個人にとって関心を持つことが、本人のメリットに繋がる意識を喚起する。<br>特に必要性と個人のメリットとの繋がりをアピールしていく。 |

表４－２４　　地層処分場建設に反対の態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成８７人／２５１人中）　（１／２）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 反対－A (33%) | ⑩必要性の認識<br>⑫社会・政治への期待<br>①リスクの認知<br>③公平性の重視 | 必要性とリスクを共に認識している。社会制度への依存が大きいため、周囲に合わせる傾向にある。世の中の雰囲気や社会情勢で態度を決めているなんとなく反対派。本質的にはどちらでもよい。主婦層に多く見られる。 | 集団依存的反対 | 多い集団<br>・子供有り<br>・主婦 | 世相に迎合しやすいため、まず、世論形成が重要。 |
| 反対－B (12%) | ⑫社会・政治への期待<br>⑤自己犠牲の拒否<br>⑨利害対立の認識<br>⑪社会制度への依存<br>⑥個人主義 | 個人主義的傾向が強いが、反面、社会や政治にも期待を持っている。本質的にはどちらでも良いが、強いて言えば個人的には反対。反対派の中でも少数派 | 個人主義的反対 | －＊ | 問題と個人との関わりを強くアピールし、必要性を個人問題として認識させる。 |

＊母集団の人数が少ないため特徴的な個人属性が明確とはいえない。

表４－２４　　地層処分場建設に反対の態度をとる公衆の意識構造の分類（賛成８７人／２５１人中）　（２／２）

| 意識構造分類 | 影響項目 | 分類の特徴 | 分類の代表 | 特徴的個人属性 | 広報のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 反対－C (36%) | ⑤自己犠牲の拒否<br>①リスクの認知<br>⑥個人主義<br>④公共性の重視<br>②問題への知識・関心 | 問題認識もあり、個人リスクを重視している。公共性があるにしても自分にリスクがおよぶ可能性があれば、強く反対する。高齢者で多くなる理由は、不明。 | リスク重視型反対 | 多い集団<br>・高齢者 | 効果的な方法なし。 |
| 反対－D (19%) | ⑩必要性の認識<br>①リスクの認知<br>⑫社会・政治への期待<br>④公共性の重視 | リスクと必要性のバランスを考慮して、現状ではリスクが大きいと判断して反対している。いわゆる条件付き反対派と言える。 | 論理的反対 | 少ない集団<br>・主婦 | 問題に対する論理的な説明により、リスク感が小さいことを認識させれば、反対ではなくなることも考えられる。<br>社会への期待感もあるため制度や組織面での信頼性向上のアピールも有効。 |

表４－２５　　ヒアリング対象者の態度とその特性の分類

| 態度分類 | 特性分類 | 平成６年度 | 平成７年度 | 平成８年度 | 平成９年度* | 合計人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 30代主婦 | 30代主婦 | 30代男性サラリーマン | 20代男女、40歳以上男女 | ４２名（男１８：女２４） |
| | | ４名 | １１名 | １０名 | １７名 | |
| 賛成 | 積極的賛成 | | | | [redacted]、[redacted] | ２名（男２：女０） |
| | 消極的賛成 | 主婦Ａ、主婦Ｂ | 主婦Ｄ、主婦Ｅ、主婦Ｆ | [redacted] | [redacted] | １３名（男６：女７） |
| | 問題認識の低い賛成 | | 主婦Ｃ、主婦Ｇ | [redacted] | | ３名（男１：女２） |
| | 集団依存的賛成 | | 主婦Ａ、主婦Ｂ | | [redacted] | ３名（男０：女３） |
| 中立 | 積極的中立 | | | | [redacted]、[redacted] | ２名（男２：女０） |
| | 懐疑的中立 | | 主婦Ｈ | [redacted] | [redacted] | ５名（男２：女３） |
| | 個人主義的無関心 | | | | [redacted] | １名（男０：女１） |
| | 集団依存的無関心 | | | [redacted] | | １名（男１：女０） |
| 反対 | リスク重視型反対（積極的反対） | 主婦Ｃ、主婦Ｄ | | | [redacted] | ３名（男０：女３） |
| | 論理的反対（条件付き反対） | | 主婦Ｉ、主婦Ｊ、主婦Ｋ | | [redacted] | ７名（男２：女５） |
| | 個人主義的反対 | | | | [redacted] | １名（男１：女０） |
| | 集団依存的反対 | | | [redacted] | | １名（男１：女０） |

＊　下線付き氏名は、女性。

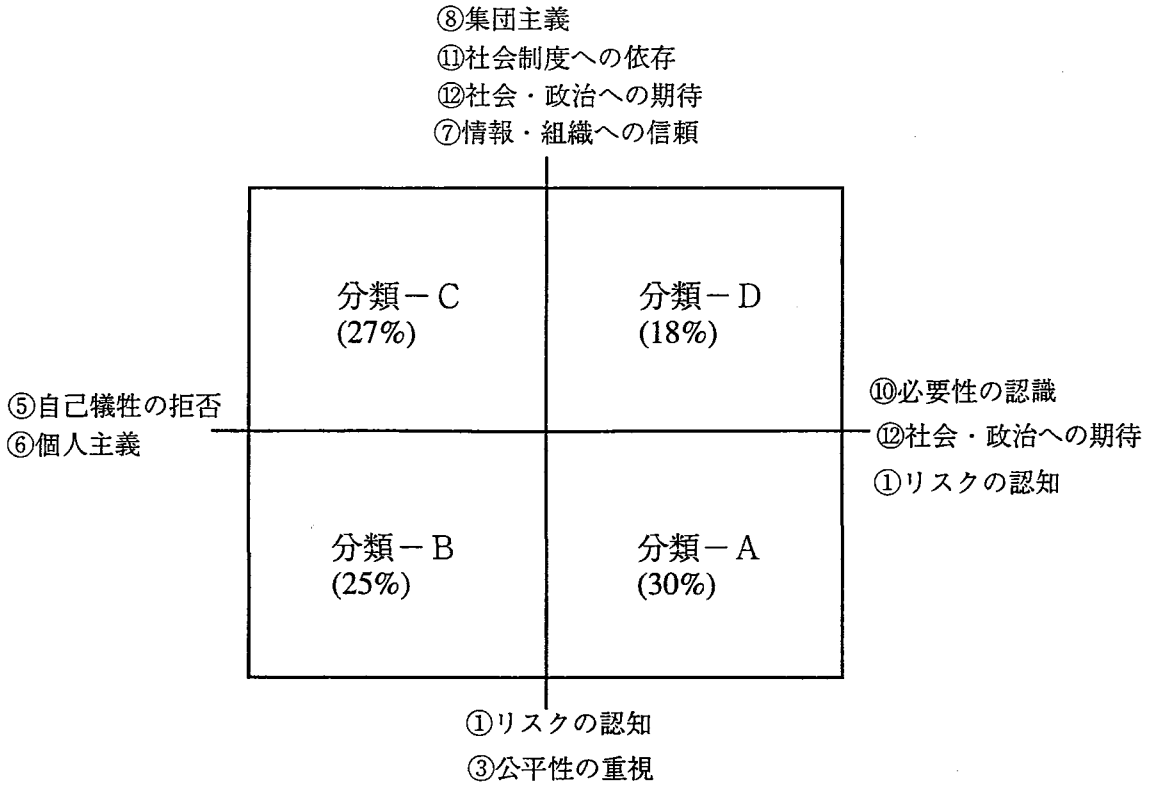



図４－２２　地層処分場建設に対する公衆の態度を形成している意識構造の分類
（対象人数：２５１人）

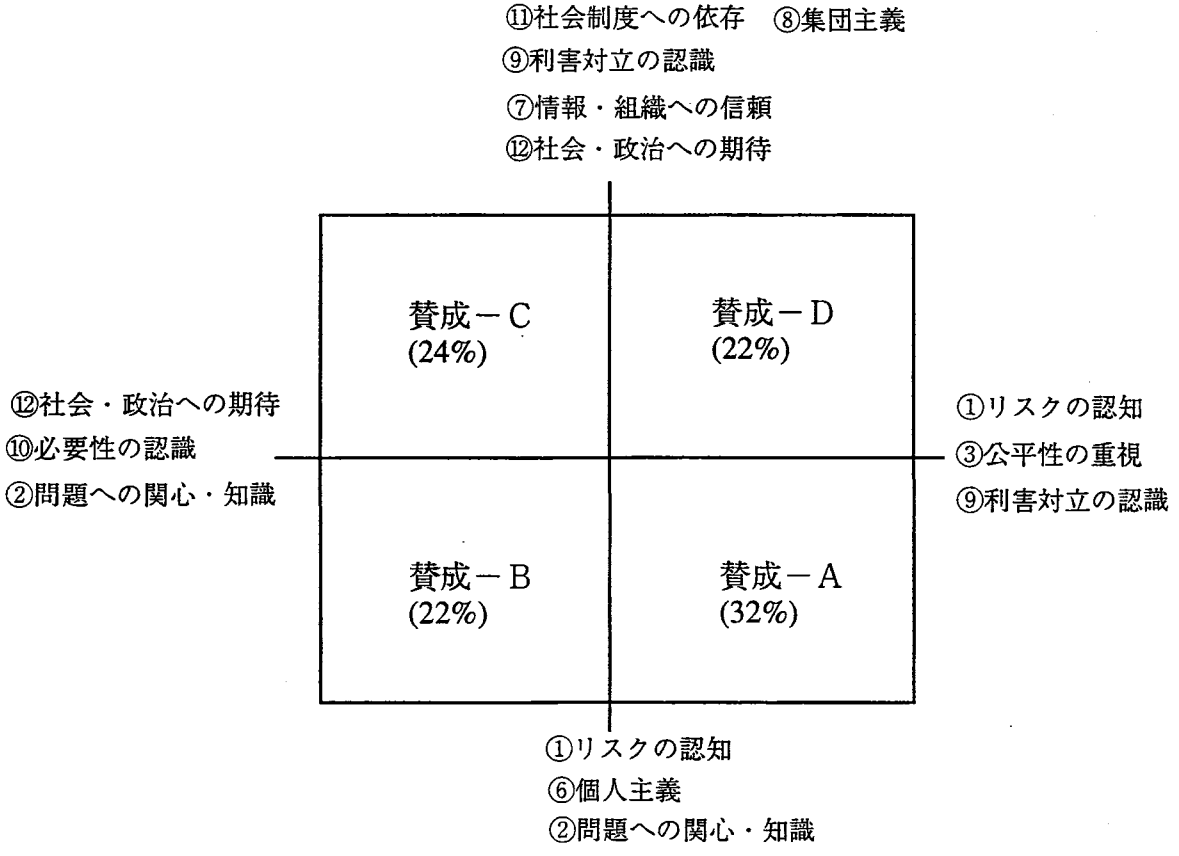



図４－２３　地層処分場建設に賛成の態度をとる公衆の意識構造の分類
（賛成人数：４６人／２５１人中）

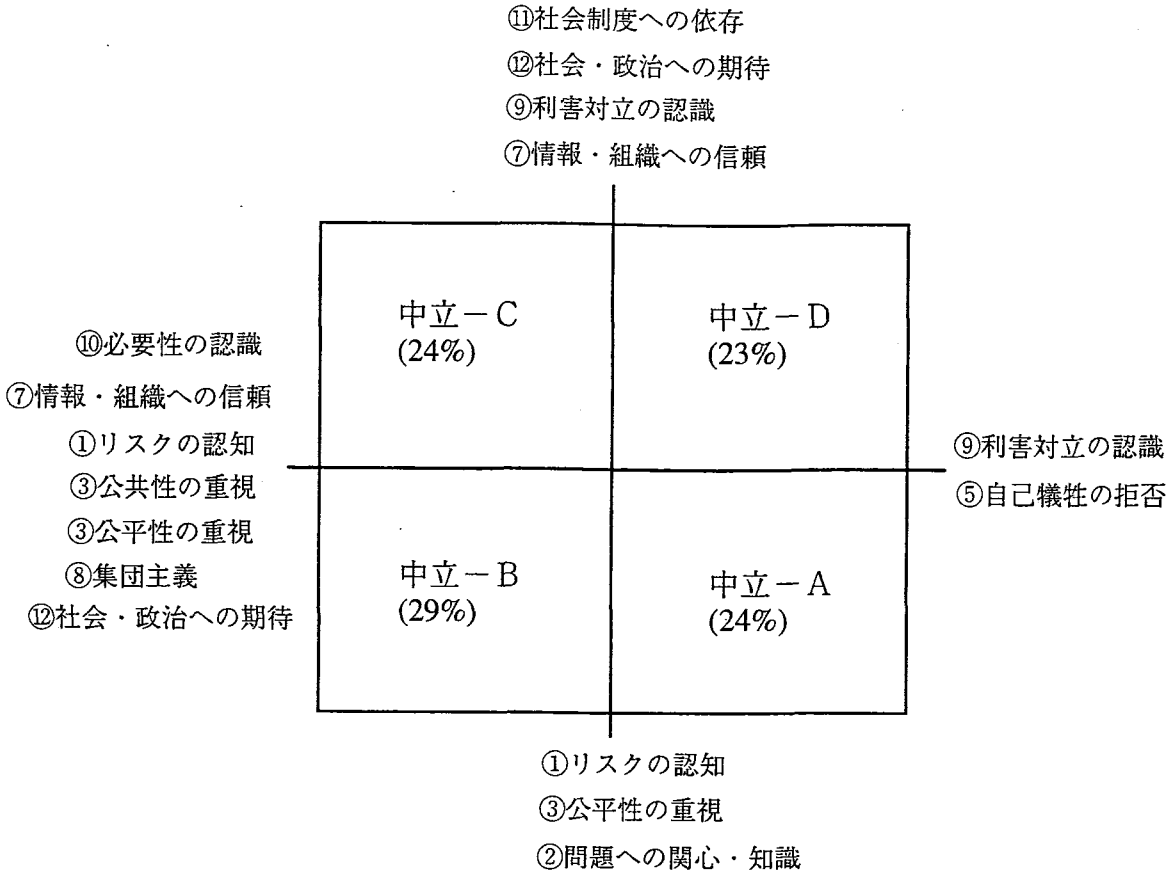



図４－２４　地層処分場建設に賛成反対どちらでもない態度をとる公衆の意識構造の分類
（中立人数：１１８人／２５１人中）

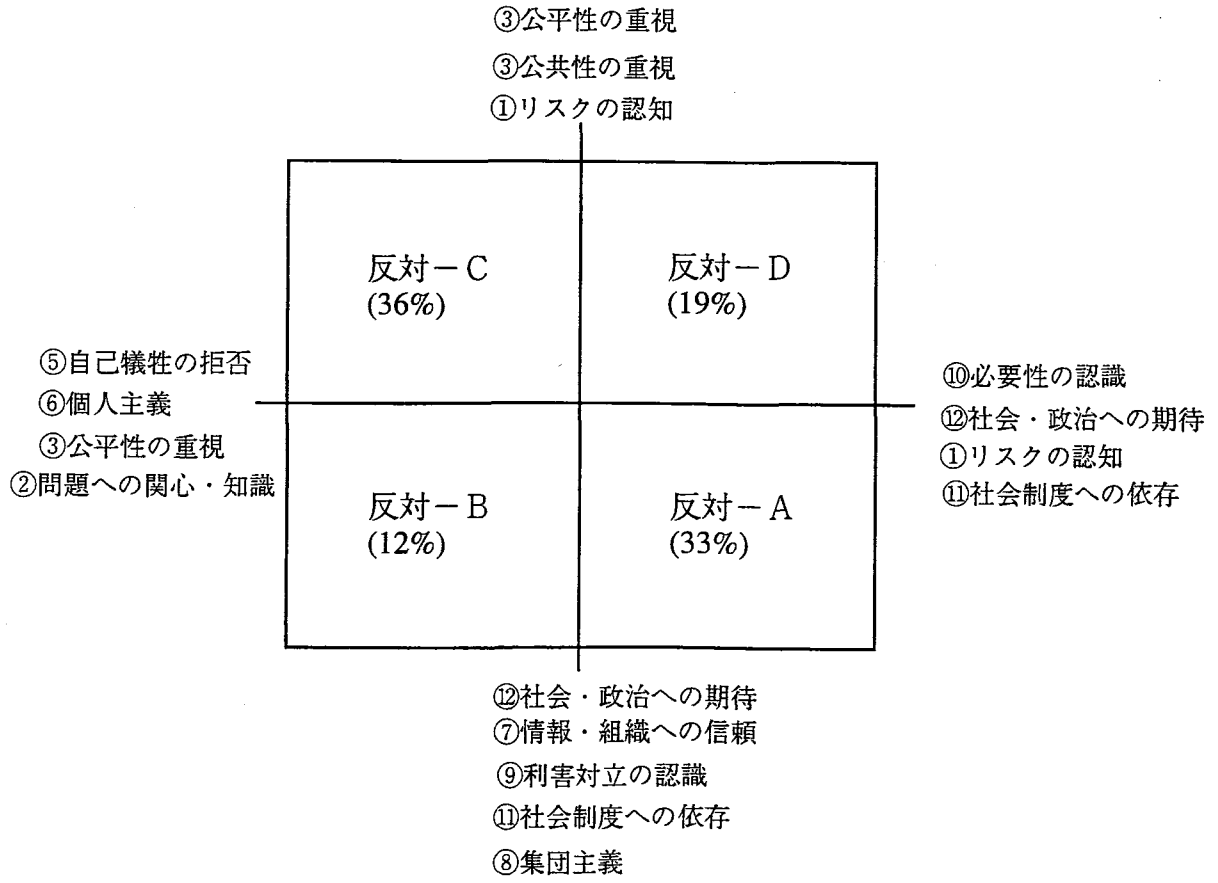



図４－２５　地層処分場建設に反対の態度をとる公衆の意識構造の分類
（反対人数：８７人／２５１人中）

# ５．地層処分の理解に有効なコミュニケーション対策の検討

本研究の最終的な目標は、将来の地層処分実施のために、地層処分に関する情報の理解と受容を進めるための方策を検討することである。平成８年度までは、公衆の情報の認知や地層処分問題に対する意識を理解するための枠組み（コミニュケーションモデル）の作成を中心に置き、ある程度の成果を得た。

その成果と本年度のヒアリング調査及びアンケート調査・分析結果に基づいて、地層処分に関する情報の理解と受容を進めるためのコミニュケーション対策としての情報提供の具体的な方策（シナリオ）をまとめるため、次を実施した。

①地層処分の理解に必要なコミニュケーションの検討

地層処分の理解に有効な情報提供の具体策（シナリオ）を作成する前に、情報提供の基本となる地層処分への公衆のコンセンサスを得るために必要なコミニュケーションのあり方を検討した。また、検討した対策の有効性の検証方法についても整理した。

②地層処分の理解に有効な情報提供シナリオの作成

①に基づいて、地層処分に関する情報提供を行う際に、公衆の理解促進に効果的と考えられる情報提供の具体策（シナリオ）を推定し、整理した。

## ５．１　地層処分の理解に必要なコミニュケーションの検討

### ５．１．１　有効なコミュニケーションに必要な要件

第４章の「アンケートによる公衆意識の予備的調査」によれば、高レベル廃棄物処分の必要性に対するアンケート結果によると、「高レベル廃棄物がすでにある以上、処分することは必要である」とする人が４５％おり、わからないとする人を除くと多くの人が処分の必要性を認めている。しかしながら、地層処分に関する個別具体的な問題となると理解を得ることは容易ではない。加えて、原子力全般に関する地元住民の態度は、もんじゅ事故や巻町の住民投票にあらわれたように以前にもまして厳しいものとなってきており、処分場の選定、立地については、非常な困難を伴うものと考えられる。

高レベル廃棄物処分を地道に着実に円滑に進めていくにあたっては、次の点で社会的に認知、理解されていることが重要であると考えられる。

①実施主体としての正統性

①－１：実施主体に必要な技術的能力や経営力を持っていること

①－２：企業文化、経営姿勢として、処分事業を担うにふさわしい公益性、公共性を持っていること、この結果、信頼でき、安心して処分事業を一任できること

②処分事業の具体的な計画の妥当性

②－１：日本の電力を適切に賄うためには原子力発電が必要であり、その結果、高レベル廃棄物の処分は必須であること

②－２：地層処分が高レベル廃棄物処分方式として安全性に問題がないこと

実施主体の正統性や計画の妥当性に対する理解は、一般市民の主体的な関わりの中から醸成されることが望ましいが、一般市民は将来的に実施主体からは離れた位置にいることが予想され、理解を得ていくことには困難が伴うであろう。つまり現状の日本の政治システムにおいては、図５－１に示すように、重要な政策は中央の省庁、財界などで形作られる閉じたループの中で決定され、一般市民とのあいだでは電力やサービス、金銭などの経済交流に限られていた。政策決定への参加や決定権の配分という政治交流はほとんど行われておらず、「中央で決定されたことに国民はだまって従う」という旧態とした図式がごく最近になっても日本の政治システムとしてそれなりに機能していることが現状である。

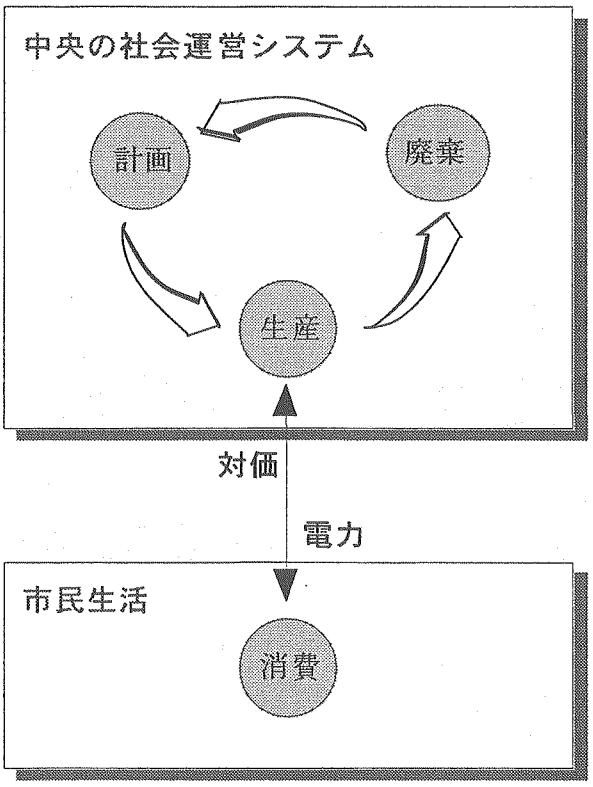



図５－１　従来の図式

ところが、生活保守主義や無党派層などの台頭に見られるように、中央の政治機構と一般市民の乖離、間接民主主義の形骸化などが、近年、急速に進み、多くの人々にとっては「自宅から最寄りのコンビニエンスストア」あたりまでの極めて限定された生活空間のなかが主要な関心の対象となっている。このような状況においては、日米安保などと同様に、日本のエネルギー政策や原子力発電、地層処分の問題などの「大きな物語」はもはやまじめには議論されず、いきおい「総論賛成、各論反対」というような態度に硬直してしまうが、それに対してその間を調整する真の政治システムは残念ながら不在である。

この結果、上に記したような一般市民の理解を得ていく上で、つぎのような問題点が生じる。

①－２に対して：処分実施主体と中央省庁が同一視され、中央の政治決定システムへの不信から、処分実施主体も市民を軽視し、閉鎖的、談合的で内輪の利益を追求している、とみなされる。このような公益性への不信があると、②の処分計画への理解にも支障をきたすことになる。

②－１に対して：環境問題や南北問題などにまで視野を広げることの以前に、国内問題としてのエネルギー政策や電力事業そのものについて関心がなく、そのような「大きな物語」が真剣に考えられることはない。また、発電方式や処分方式の選択肢についての技術的問題は、そもそも市民は判断しないものであり、結局、処分実施主体がいかに信頼できるか、ということで判断されることになるが、この点、①で述べた不信感から、ネガティブな評価が醸成されることになる。

②－２に対して：原子力の安全性については、「原子力・放射能」固有の強固な負のイメージがまずあり、そもそも理解を得ることは非常に難しい問題である。加えて、②-1で述べたような市民による技術的判断の問題、事業者への不信感により、問題が一層難しくなっている。

このような問題の根元は、上にも記したように、中央政府への不信により、中央政府で決定された政策が市民生活の場で容易に受け入れられないこと、そこで中央政府から市民に説得を試みようにも、対話のチャンネルが育っていないことであり、中央政府の社会運営システムと市民生活との乖離や、市民からの不信感、旧態依然たる官から民への上意下達、その２つの世界の間が経済的チャンネルのみによってしか結ばれていないことなどが原因となっている。

したがって、これを解消するためには、上記①および②の点で従来以上に理解を得ていく努力が必要であるが、それに加えて、硬直、閉塞した中央政府の政策決定ループの開放と、市民生活に密着した新たな

政治的チャンネルの形成が重要となる。このためには、「市民を処分事業の当事者として」ループの中に引き入れること、が必要である。

③市民の、処分事業への関心、主体的な関わりの惹起

③－１：日常生活と高レベル廃棄物処分との関係の認識（日常生活の共有）

③－１－１：高レベル廃棄物処分が暮らしに不可欠である、との恩恵や必要性の認識

③－１－２：高レベル廃棄物処分が日常生活の背景や下地をかたちづくっている重要な構成要素であるとの、親密感、近い距離感

③－２：人任せではなく、自分自身が主体的に係わって行くべき問題である、との責任意識

市民を主役として引き入れ、中央と市民生活が図５－２に示すようなループで結合することにより、当事者意識や必要性の認識、親近感が生まれることになり、これらの感覚が全体として処分事業への理解を押し進めていくことになる。

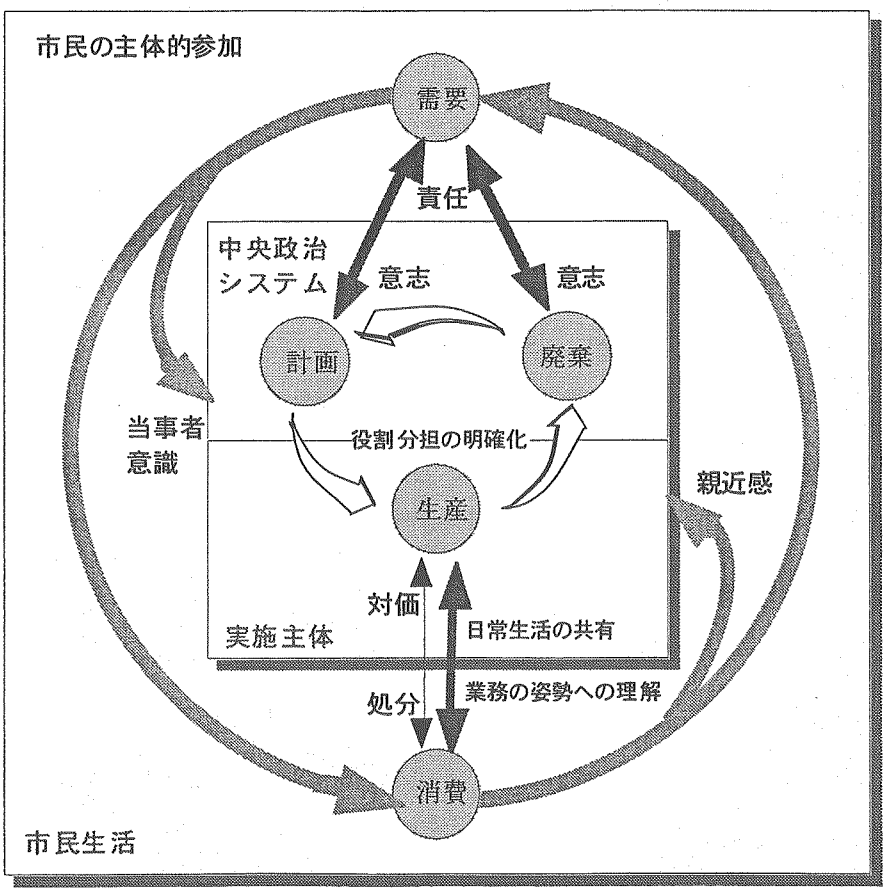



図５－２　今後の望ましい関係図式　（市民の主体的参加によるスパイラル効果）

ここで、当事者意識を喚起するためには、

○市民の総意として地層処分に対する需要を明確にし、中央政治システムにおける計画策定段階に対して、他人事ではない意志を明示的に反映させること

また、親近感や必要性の認識を醸成するためには、

○電力消費を主体とした市民生活において高レベル廃棄物処分の実施主体が自分たちと同じ生活の場を共有した身近な存在であること、視線の高さが同じであることを示し、また、実施主体の従業員の立場からは、自分たちの日頃の業務内容や努力の姿勢が社会に認められること

が重要となることを示している。またこの両者は、当事者意識が生まれれば親近感も増大し、親近感が増大すれば当事者意識も高まる、というポジティブなスパイラル効果をもたらす関係でもある。

以上の問題認識から、今後のコミュニケーションの基本的なあり方としては、当事者としての一般市民の関心を喚起し、正しい理解を醸成し、地層処分事業への主体的な関与を求めていく方向で検討することがポイントとなると考えられる。

### 5．1．2　安心を醸成するためのコミュニケーション技術

地層処分に対する公衆の理解を得ていくためには、従来の一方向的な原子力広報に加えて、より積極的で双方公的な情報提供が強く求められるであろう。しかしながら技術的安全評価の結果やトラブル情報を無秩序に提示することはかえって混乱や誤解を助長しかねず、そこには戦略的なアプローチや行動指針が必要となる。従来の反省を踏まえて今後のコミュニケーションを考えていく上での重要な概念としてリスクコミュニケーションがある。リスクコミュニケーションとは一言でいえば、技術的な安全の説明にとどまらず社会的な安心を双方向的コミュニケーションにより醸成していくための諸方策を体系化したものである。

そこで次のような最近のリスクコミュニケーションの考え方に依って、地層処分に関する今後の効果的コミュニケーション方法を検討する必要がある。

○リスクコミュニケーションの考え方

リスクコミュニケーションとは、個人とグループそして組織の間で情報や意見を交換する相互作用過程である。それは、リスクの特質についての多様なメッセージに加えて、リスクに限らず他の関連したことがらや、リスクメッセージへの公衆側の反応や意見に対する返答、リスク管理に関する法的／制度的な対応についてのメッセージを伴うものである。」（米国研究審議会：National Research Council, 1989）

（1）地層処分に関するリスクコミュニケーションの基本的な考え方

①「安全」と「安心」の差

専門家は、技術的な安全性を評価尺度とする。公衆は、安全性を直接評価できないため、安心できるかどうかに注目する。この安心感は、安全性に関するイメージと信頼感が重ね合わされて形成される。

②従来型ＰＡの問題点

専門家は、安全評価レベルを重視し、公衆の「安全」認識をなんとかそのレベルにまで引っ張りあげようと試みてきた。しかしながら$10^{-6}$の技術的安全評価結果の提示は、公衆にはただ単に「絶対に安全」としか聞こえず、図５－３のＡ軸で表されるように、一方的な安全性の宣伝として認識され不信感を生み、「安心」に対する効果はほとんど得られなかった。

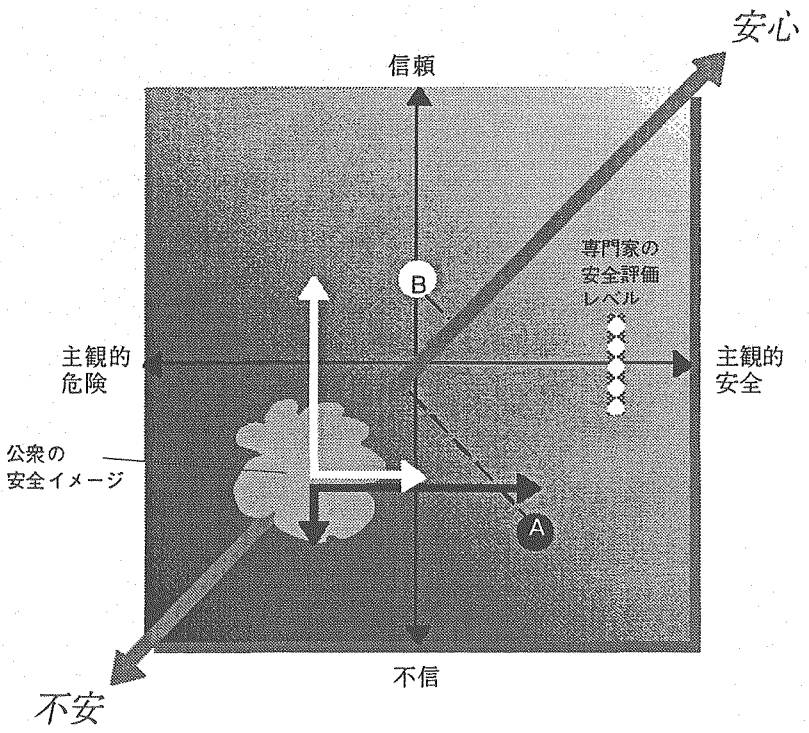



図５－３　公衆の安全意識の構造

③今後の情報提供の考え方（リスクコミュニケーション）

図５－３のＢ軸で表されるように、一方向的に「安全」を強調するのではなく、相互の信頼関係を重視し、双方向的なコミュニケーションを行いながら社会的な「安心」を醸成していくことが検討されている。このリスクコミュニケーションでは、２つのことが重視されている。

○双方向のコミュニケーションを重視し、共通理解をめざす。相手を説き伏せることにはこだわらない。

○自分にとって都合の良い情報も都合の悪い情報もできるだけ公開し、信頼感の醸成を重視する。

このためリスクコミュニケーションによる情報提供の実施にあたっては必ずしも技術的安全性に関する議論に限定しないことに関し専門家サイドに戸惑いをもたらしたりまた一時的には論争を助長する逆効果がでてくることも予め理解しておく必要のあるものであるが、長期的には良い結果をもたらすものである。

（2）地層処分に関するリスクコミュニケーションの技術上の要件

以下に、リスクコミュニケーションを実施する上での技術的な要件をまとめる。

①リスクコミュニケーションの目的

リスクコミュニケーションの目的を「リスクの特質についてのメッセージを、政府や他のリスク伝達者から一般大衆に一方通行的に伝達する」とすることは、次の点で不完全であり、双方向性を重視しなければならない。

○リスク（や便益）が社会全体に公平に分担されることはない。リスクの特質について正確に伝達するだけでは、不公平感を抱く人の納得は得られない。

○客観的なリスクの特質と、それに対して抱く人々の実感は必ずしも一致しない。科学技術の問題についての論争は価値観の対立を招きやすくすべての関係者が満足するようなリスクの評価尺度は存在しない。

○民主社会の市民は論争上の政治的問題について、特にその政治的問題に意思決定を誰が行うかについて関心を抱いている。このため、論争を科学技術上の専門的問題であるとして一般大衆を除外することは反発につながる。

このため、リスクコミュニケーションは一方向的なリスクメッセージの伝達ではなく、より包括的にリスクに関する一種の民主的話し合いであると捉えるべきである。すなわち、リスクコミュニケーションの定義は次のようになる。

○「リスクコミュニケーションとは、個人とグループそして組織の間で情報や意見を交換する相互作用過程である。それは、リスクの特質についての多種多様なメッセージに加えて、リスクに限らず他の関連した事柄や、リスクメッセージに対する公衆側の反応や意見に対する返事、リスク管理に関する法的、制度的な対応についてのメッセージを伴うものである。」

②ハザードとリスクの評価

ハザードとは、ある行動や現象が人間やものに害を与える、あるいはその他の望ましくない結果を与える場合の、害そのものである。害にさらされた人間やものの数、およびその結果の重大性で定量化する。

リスクとは、ハザードの危害が実際に生じるかもしれない可能性であり、確率などにより数量化する。ただし、単純な期待を求めるほかに、異なったリスクの評価を危険な影響ごとに計算し、さらにリスクの質的な判定で重み付けして、価値観とリスクに対する態度とを数量化する場合もある。（ただし、同じ値段の商品であってもそれぞれの人によって価値が異なるように、一律の価値観を数量化することには疑問もある。）リスク評価の項目には次のものがある。

○懸念すべきハザードにはなにがあるか？

○人やものの予想される曝露はどれほどか？

○危害の発生確率はどれくらいか？

○グループにより異なる曝露の分布はどうか？

○異なるグループのハザードへの感受性はどうか？

○曝露はどのように他のハザードへの曝露と相互影響（相乗、遮断効果）するのか？

○ハザードの質はどうか？（ex,大災害の可能性、なじみ度、理解度、制御可能性、曝露の任意性（自発姓）、子供への影響、遅発性、後世代への影響、被害者の特定、恐怖、公共機関への信頼度、報道機関の注目度、事故歴、公平さ、便益、影響の可逆性、原因（人為か不可抗力か））

○集団に対するリスクはどの程度か？

リスク評価は、技術的に完成されているものとはいいがたい。以前として問題点があり、コミュニケーションを複雑にしている。代表的な問題点として、次のものがある。

○評価における知識の不備と不確実性

○評価に影響を与える、専門家の判断の誤り

リスク評価における知識の不備と不確実性にはつぎのものがある。

○ハザードの特定（ex,ハザードの発現が遅れる場合や人への曝露量がごく微量な場合は、結果と原因を結びつけることが困難になる。）

○曝露の推定（ex,発生源で自然環境に放出された有害物質は、人間が最終的に曝露を受ける際には量的にも質的にも変質している場合がある。すべての曝露量や曝露時間を、発生源で一括するのではなく、曝露の個々の現場で測定することは困難である。）

○危害の確率（ex,ある特定のハザードの寄与を抽出することは難しい、充分なデータが得られな

い、ごく希な事象である、など)

○相乗効果（ex,1つのハザードにさらされると、別のハザードに対する感度が著しく変化する場合がある)

リスク評価に影響を与える、専門家の判断の誤りには、つぎのものがある。ただし、一度リスク評価結果が出されると、評価過程におけるこのような誤りは容易に検出できなくなる。

○制約されたデータへの過度の信頼（ex,統計に通じた専門家でさえ、研究上の仮説を指示する根拠を、不充分なサンプル数のデータから導き出してしまうことがある。)

○偶発的な事象への過剰な意味付け（ex,分析者が特定の結果を見いだそうという強い動機を持っている場合には、根拠に乏しいものに意味を見いだそうとする人間の認知バイアスにより、証拠の過剰解釈が生じる場合がある)

○不明瞭な証拠の、先入観への過剰な当てはめ（ex,不明瞭で多義的な情報に対して、いくつかの解釈の選択肢の中から、自分の抱く仮説に適合するものを選択し、こじつけやすい)

○リスクの構成要素の系統的な見落とし（ex,評価の難しいファクターは系統的に見落とされやすい。例えば、組織的因子、人的因子、共通要因など)

○分析の信頼性に関する過信（ex,専門家はしばしば自信過剰に陥る。例えば、ダム設計の土木技師は自分の設計に自信を持っているが、完成したダムの0.3%に重要な欠陥が見つかっている。)

リスク評価には、人間の価値観が影響する。人間の意思決定はなんらかの価値観に基づいた意味解釈により行われる。リスク評価もこの意思決定に利用するために行われる以上、なんらかの意味を持っていなければならず、したがって価値判断と概念的に分離することは不可能である。

○指標や尺度の選択（ex,指標や尺度はなんらかの意味のある選択しなければならない。例えば、炭坑事故のリスクは、生産量あたりだと減っているが、労働者数あたりでは増えている。国の立場からは必要とされる一定の生産量に伴う死者数を評価することが適切であるが、労働者の立場からは労働者数あたりの死亡を評価することが適切となり、立場の差により尺度の選択は異なる)

○ハザードの特性に関する価値観の違い（ex,先に述べたハザードの質の違いにより、リスクの受け取り方が異なり、価値観が影響する。非専門家と専門家の価値判断が異なった場合に、様々な種類のハザードを共通の測定尺度によりその尺度でのみ比較を提示することは、誤解や論争を生じさせ、かつ専門家の意見に対する不信感を持たせる可能性が高い)

③リスクコミュニケーションの目的と期待される効果

1)公の場でのリスクコミュニケーション

公の場では、問題に関心をもつグループが、専門家に対して質問を投げ、異なる見解を持つ専門

家は互いに議論し、市民の代表は専門家が見いだした知見とそれぞれの結果に対する批判を駆使して議論する。市民グループは代議員を直接的に動かすことで立法過程に直接参加したり、世論の動向を通じて間接的に影響を及ぼそうとする。行政はどの程度まで双方向のコミュニケーションを許すか、意思決定への参加の道を開くかの判断を迫られる。

○公の場でのリスクコミュニケーションの成功とは次のものである。

影響を受ける人々や関心を持っている人々の間で、関係する問題や決定への理解が深まり、入手可能な知識の範囲内において関係者が的確に情報を知らされていると満足することである。

○リスクコミュニケーションが成功しても、よりよいリスクに関する意思決定が行われるとは限らない。

正確なリスクが知らされても、（禁煙運動などのように）すべての人が合理的な判断を下すことは補償されない。これは次ステップのリスク管理の問題となる。

○リスクコミュニケーションが成功しても、論争が解決するわけではない。

民主社会においては、誰かの意見が絶対的に正しいということはありえない。したがって、はじめに正しい判断があって、その判断を周知させて公衆にしたがわせる、という発想はなじまない。誰もが論争に加われるような情報や知識の得られることを保証されることが、民主社会における成功であるといえる。リスクコミュニケーションの成功により、多くの事実が明らかにされ、論争がさらに激しくなることはありうる。この場合でも、情報を隠蔽することにより公衆の不信感をもたらすよりは好ましい。

○個人が選択する問題についてのリスクコミュニケーションの成功とは、いくつかの選択肢の中から個人が選択する上で必要な情報が適切に充分に与えられている場合である。

2)リスクコミュニケーションにおける感化（説得）のテクニック

○選択的強調（ex,リスクメッセージは複雑なので、理解しやすくするためにいずれかの整理や編集が必要になる。この時に、意図的に強調や省略、色分けなどを行うと、受け手の意図に沿って感化することができる。）

○情報の組立（ex,同じ事実でも、表現の仕方により印象を変えることができる。例えば、同じ確率で発生する２種の症状の一方に対して完全な効果がある、という場合と、同様のことを、症状の半数に効果がある、という場合では、前者の方が歓迎される。例えば、半数の患者が助かるクスリに関し、１００人のうち５０人の命が救われる、とするのと、１００人のうち５０人の命は助からない、とする場合でも印象が違う。）化学工場からの排気によるリスクの表現には、例えば次のものがある。

・人口100万人あたりの死亡者数

・工場から＊マイル以内の居住者100万人あたりの死亡者数

・単位濃度あたりの死亡者数

・１施設あたりの死亡者数

・放出された空気中浮遊毒性１トンあたりの死亡者数

・人々が吸収する空気中浮遊毒性１トンあたりの死亡者数

・生産された化学物質１トンあたりの死亡者数

・生産物１万ドルあたりの死亡者数

○リスクの比較（ex,リスクを比較する、ということは、大きいリスクをすでに感受しているのだからそれより小さいリスクも感受するべきだ、という送り手の意図が暗黙のうちに含まれている。）

○説得力のある事実の利用（ex,事実の選択方法により、潜在的に送り手の意図を含ませることができる。例えば、悲惨なイメージを持つ他の事実を列挙することにより当該のリスクをも悲惨なものに印象づけたり、主張がもっと強く見えるように支持的な論拠の数を上げたり、など。）

○権威の利用（ex,見解を支持する科学者の引用を載せて、反対する科学者の意見は無視すること、他の問題では権威のある科学者の（当該の問題に関しては間違っているかもしれない）意見を引用する）

○感情の利用（ex,恐れ、自尊心、罪の意識、共同体意識、親としての関心事など、個人の感情に訴える。文章だけではなく、映像、特に人の表情のイメージで印象づける）

④リスクコミュニケーションをおこなうにあたって考慮しなければならない問題点

1)リスク比較における問題

異なるリスクを比較することにより、人々はなじみのないリスクの大きさを理解することができる。しかしながら、リスクの認知には質的な差があり、これを考慮せずに機械的にリスクを並べるだけでは解決しない場合が多い（原発と交通事故のリスクを比較しても、あまり意味がない）。一般にリスクを比較する場合には、ハザードの質を揃えるほかに、個人がリスクに遭遇するであろう状況を揃える、目的を揃える、択一可能な選択しどうしで比較する、などがある。

また、リスク低減対策が容易かどうかも考慮される必要がある。年間の火災による死亡のリスクが自動車運転の死亡リスクの1/10であるとしても、放置しておいて良いわけではなく、電気器具やガスストーブの安全対策は真剣に取り組まれなければならない。

2)「公衆」に関する問題

一口に公衆といっても、大半の無関心、受け身的公衆、多少の関心を持っている注意深い公衆、

活動的で積極的に問題にかかわろうとしている公衆など、多様である。リスクコミュニケーションを行うには、想定される相手方のタイプごとの態度や情報ニーズを理解する必要がある。特に情報ニーズの理解は重要である。どのような公衆も、ニーズや興味を感じない情報は受け取らないものである。

3)制度や法律に関する問題

○法律による規制

公的機関が発生するリスクメッセージは、しばしば規制に利用される。例えば、連邦疾病体策センター（CDC）による土壌汚染に関する調査結果は、住民の移住の基準に使われている。このような場合、当該機関が公衆にとって擁護者とみなされるか、敵対者とみなされるか、が公衆衛生問題に関する公共政策の信頼性に大きな影響を与える。

○裁判

リスク取扱者は、常に製造物責任や賠償問題に関する裁判の標的にされる可能性がある。裁判に勝つためには、法廷で相手方に利するような情報はできる限り公開してはならない。この要請は、リスクコミュニケーションの趣旨と明らかに対立するものである。

○インフォームドコンセント

上記とは逆に、公衆が自ら意思決定できるように、情報公開が厳しく義務づけられている場合もある。

4)権力や政治に関する問題

○権力の共有と説明義務

ある地域の住民にとって不利となるような決定がなされたり、行政への不信が募った場合、人々は政治や行政の決定に直接参加することを求めるようになる。しかしながら、公衆の直接参加には、代議制民主主義の制度上、一定の限界がある。ただし代議制民主主義では、市民は意思決定の権力を選良に委譲する一方で、政府や行政の決定が正しくなされているかどうかを監視、判断する責任を負っている。このことは、政府、行政にとって、意思決定の内容を詳しく公開する説明義務（accountability）があることを意味する。この説明義務に基づいた活動こそが、リスクコミュニケーションの重要な機能の１つである。

○リスク負担の不公平性

リスク負担の不公平性は、大別すると次の３つのものがある。

・自発的に負担を同意しなかったのに、負担を強いられること

・危害を生ずる製品および事業に反対し、それらの利用を避ける人々に、負担を強いること

・最も利益を得ることが少ない人々に対して、不釣り合いに大きな負担を課すこと

特に、特定の地域にこのような負担の不公平が存在し論争となる場合はしばしばあり、「地域的に望まれない土地利用（LULU:Locally Unwanted Land Use）」と呼ばれている。これらの問題にリスクコミュニケーションが寄与できる範囲は限られたものである。

○責任の分散

権力の分散に配慮した政治機構がある以上、責任の範囲も分散し、混乱が生ずることもまた避けられない。同一の案件に対する縄張り争い、見解の対立は責任の所在を曖昧にし、混乱させる。責任範囲を超えた過剰な干渉が行われるかもしれないし、逆に互いに牽制しあって責任の真空状態が生じることもある。また、意思決定に個人や団体を参加させる場合、彼らの責任の範囲や責任能力も明らかにしておかなければならない。責任が分散し、複合し、境界が曖昧であると、責任の所在を特定することが困難になる。また、公衆にとって、誰に苦情を持ち込めばよいかがわからなくなる。

5)信頼の確立や、情報の信憑性に関する問題

○立場の正当性が疑問視されること

リスクメッセージに対する信頼には、その機関の立場の正当性が大きく影響する。立場の正当性には、技術的に（そのリスクを扱うに充分）有能であるか、ある特定の団体の利益に偏らず公平であるか、などがある。

○欺瞞、表現の誤りまたは強要に関する悪評判が立つこと

一度、欺瞞、表現の誤りまたは強要に関する悪評判が立つと、その後の情報の信頼性を著しく長期にわたって貶めてしまうことになる。一方、自分に不利な情報でも包み隠さず公開しているとの評判は、情報の信頼性を押し上げる効果を持つ。

○以前の立場と矛盾すること

信頼の確立と、一貫した立場の維持は非常に難しい関係にある。科学の進展や世論の変化に対応した基本政策の変更は、立場の変更を強いることになる。以前の立場との矛盾は、公衆の信頼性を掘り崩す。しかしながら、過去の（いまは誤った）事実や立場に固執することも信頼の低下を招く。

○メッセージの組立に作為がみられること

チェルノブイリの死亡者予測の報告で、ソビエト政府は「自然に発生するがんの死亡率と比較して0.05％未満」と発表したが、よりストレートな他の報告は「ソビエト連邦におけるがん死亡者数は3,500から4,500人」としている。両者は結局同等な数字であるが、印象ははっきりと違う。

そこに報告者の作為がみられる場合、公衆の不信を買うことになる。

○他の情報源と矛盾するメッセージ

同一の対象についての複数の評価情報が異なることは、情報源が同種の立場や対立する立場にあるかどうかにかかわらず、信頼を低下させることにになる。より深刻なのは、情報源に対する信頼だけではなく、専門家というもの全体に対する公衆の信用を失うことである。

○価値観対して公的機関が干渉しているととられること

禁煙のキャンペーンだけではなく、原子力発電の推進などにしても、そうした活動について広く公衆の理解を求めておくことは、個人の価値観の自由や自主性に敏感な人の反発を買うことがある。そのような個人の価値観に対するある種の干渉が法的な根拠を持つかどうかは、しばしば議論になる。

○意思決定過程の不透明性

公的機関の意思決定過程が閉ざされていて公衆が関与できないような仕組みになっている場合、不信感や疎外感を生じさせる。

○対立する主張の不公平な扱い

政府の諮問委員会などの構成メンバーが推進派に偏っていたり、公聴会から反対派を閉め出したりなどの、主張の不公平な扱いは、不信感を招く。

6)メッセージのわかりにくさに関する問題

○なじみのない言葉

公衆になじみのない科学用語、特にリスク評価用語を用いる場合には注意が必要である。特に次の場合。

・確率の表現（降雨確率70%、など）

・ギャンブラーの錯誤（コインの表ばかりが続けて出た場合、直感的に、次は裏の出る確率が高いと感じる）

・定義の混乱（「リスク」といっても、場合によって様々に使われており、素人の混乱を招いている。）

○なじみのない規模

例えば、4.7×10E-7という発がんリスクはほとんどの人にとって直感的に把握することが難しい。そこで、1000万人の都市が１０あったときに全体で５人程度の死者が出る、などということなる。

○受け手の心理的要求に気がつかないこと

相手の心理的要求に沿ったものであるかどうかで、わかりやすさや心への響きかたが異なる。例

えば、イエスかノーかの明確な結論を期待している場合、相手が敬意を示すことを実は期待している場合、など。

⑤リスクコミュニケーションの改善に関する勧告

1)プロセスの改善

○現実的な目標の設定

リスクコミュニケーション活動は、計画的に行われるべきである。実際的な目標は、政治的、法律的要請及びそのプロセスを拘束する他の制限に適合するように決める。またリスクメッセージの受け手となるべきグループの役割や特性を明確に意識するべきである。このように意識することで、現実的な予想、動機と目的の整理、成果の客観的な評価が可能となる。

○公開性の保証

リスクコミュニケーションは双方向的であるべきである。双方向の有効な対話には、次のことが必要である。

・陳腐化した「既製品」の説明ではない、共同の仕事における率直な感情レベルの交流（議論は技術的な非情緒的問題に限定しない）

・情報媒体、メッセージの仲介者を含む、できるだけ早期の、持続的な交流。

しかしながら、公開性は主役組織のリスク管理意思決定権をまで委譲することではない。誤解を避けるために参加の限界をはじめから明確に示しておくことが必要である。

○有効な対話

形式的で「聞き置く」だけの対話は、逆効果になる。意思決定権は制限されるにせよ、率直であること、オープンであること、信頼できること、参加者の関心事項を配慮していること、などが有効な対話には必要となる。

○早期の持続的な交流

何らかの意思決定がなされたのではない早い段階から対話を始め、持続していくことが必要である。寝耳に水、といった第１印象の形成は、その後の事態にもっとも悪い影響を与える。しかしながら、早期の対話や情報の公開は、信頼できるリスク評価がまだ定まっていない、組織内からの情報が混乱しており矛盾している、などにより信頼を損ねる可能性もある。

○リスクメッセージにおける均衡と正確性の保障

プロセスの管理上、上記を保証するには、次のことが重要である。

・歪曲の発見と低減についてメッセージ作成者の責任を明確にすること

・基礎となる評価、及びできればリスクメッセージについての公認された独立の専門家に調査

を委託すること

・見落とされた歪曲がないように、メッセージ原稿を下検分に出すこと

・評価に対する意見を求めるため、リスク評価及びリスク低減策に関する「白書」を作成し、公表すること

○リスクメッセージの歪曲の防止

メッセージの歪曲は、つぎの様な過程で侵入する可能性があるので、注意する必要がある。

・不確実な情報により評価をする場合の、過程や方法論の選択において（例えば、リスク管理の結果が何であるべきかに関する専門家の個人的判断、組織の利己的な関心がどこにあるかの専門家の考え、専門家自身の過剰な自信、など）

・ハザードの特質の扱いにおいて（恐ろしいリスクや破滅的なリスクの、過剰／過小な扱い）

・デオロギーや規範を意識した歪曲（原子力利用長期計画など）

○独立した審査

偏向を排除するために、独立した厳密な審査が行われるべきである。審査は、リスク主体から独立しているべきであり、リスク評価、メッセージに密接な関係がある科学領域をカバーする専門家グループによって行われるべきである。

○メッセージの下検分

メッセージの下検分は、偏向の排除に役立つだけではなく、対立が予想されるグループをも含むことにより、意識の共通化や合意の可能性を早期に実現することをも可能にする。

○リスクコミュニケーション活動の体制

リスクコミュニケーションを行う具体的な体制は、次のようにする。

・意図される受け手の構成を慎重に検討すること、およびメディアとメッセージの選択が受け手の理解と懸念に適合するかどうかを見極めること

・適切なコミュニケーションの専門家を招くか、コミュニケーションの技術要員を育成すること

・組織内のしっかりしたリスク専門家が、正確な評価とそこから導き出されるリスクメッセージの作成に発言力が持てるよう、組織的に保証すること

・リスクコミュニケーション活動の過去の成果を有効に活用できるような体制を確立すること

・仲介者、特に報道記者や編集者がリスクに関する記事を作成する際の、ニュースを構成する因子や実際上の時間的、空間的制約、記者の限られた技術的背景について良く理解すること

2)リスクメッセージの内容に関する問題

○受け手の見方を反映したメッセージ

リスクメッセージは対象となる受け手の見方や技術的能力、懸念を充分に反映するべきである。

・個人に直接関連した情報を強調するべきである。特に、個人が対策としてとりうるものに関連していること（特に、リスク主体が行うリスク管理は、集団のリスクを減らすためにどうすればよいか、を対象としているのに対し、個人の関心は、自分の安全を確保するにはどのようにするべきかであり、このギャップに配慮する必要がある）

・明解で平易な言葉で表現されていること

・受け手の懸念が尊重されていること

・感化させるようなテクニックが明確に許されていない限り、受け手に正確に知らせることを考えること

○不確実性の取り扱い

リスクメッセージと、その根拠となる資料は、不確実性の存在を最小にするべきである。ただし、実在する不確実性を過小に見せかけることは避け、データ不足と専門家の間の重要な一致がある領域は公表するべきである。見積の信頼度の目安と科学的不確実性の意味を伝えるべきである。

○リスクの比較

リスク比較は有用であり得るが、しかしそれらは注意して示されるべきである。対象のリスクが最小のものであると伝えることを意図して、他の様々な性質のリスクと比較するとき、リスクの評価尺度に作為があるなどの疑念が生じないように注意する。同じ意思決定の関係で生ずるリスク（ex,同じ目的地に飛行機で行くか、自動車で行くか、など）や同じ結果を生じさせるリスクなど、意味のあるもの同士を比較する場合には、上のような懸念は少なくなる。

（3）地層処分問題に対するコミュニケーションのあり方

地層処分問題に対するコミュニケーションのあり方は、個人が処分問題にどの程度コミットメントしているかのフェーズによって異なる。このコミットメントのフェースを図５－４に示す。認知の段階では、より平明は説明が有効であろうし、また判断の段階では、ある程度の意思決定への参加権が必要になろう。

①一般公衆への訴求

一般公衆への訴求は上記のコミットメントのフェーズに沿い、図５－５に示すようなシナリオに沿って、基本的に関心を喚起し、正しい理解を醸成し、地層処分への主体的な関与を求めることが重要となる。

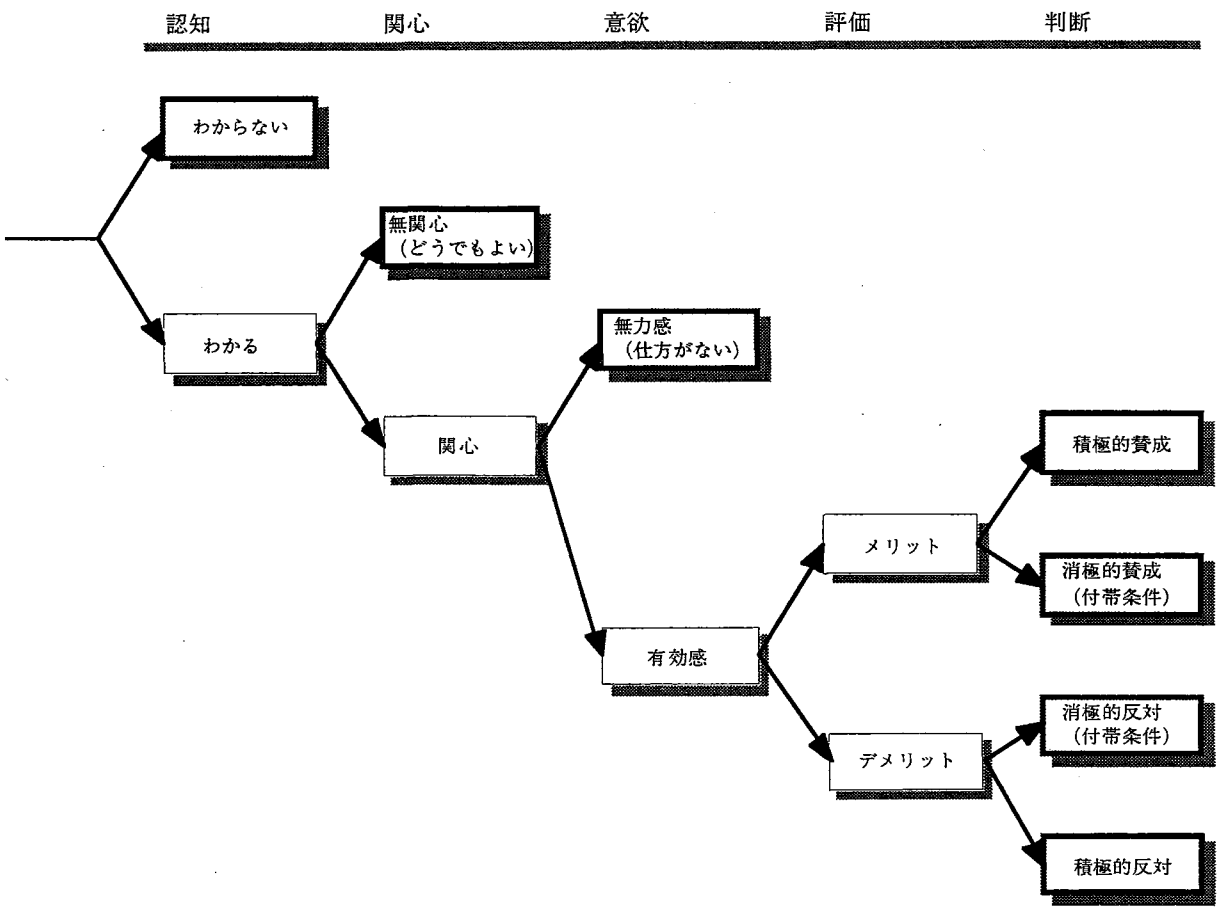



図５－４　処分問題に対するコミットメントのフェーズ

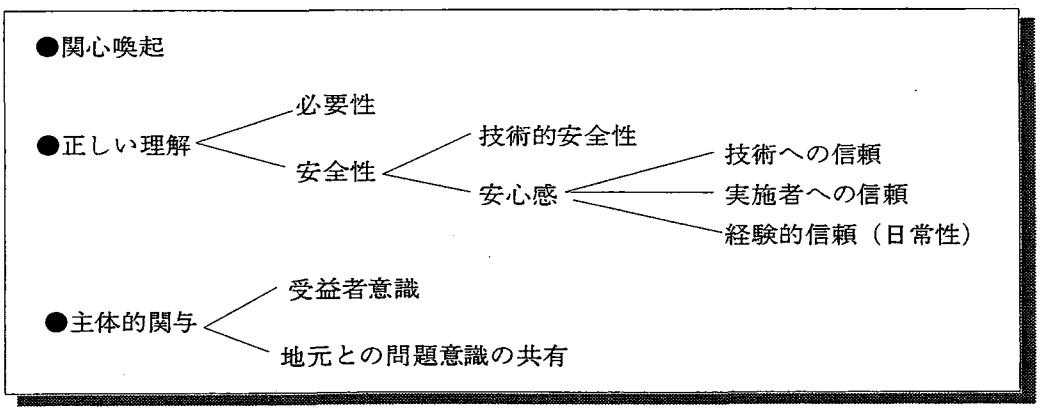



図５－５　一般公衆への訴求のシナリオ

②処分地選定、立地上の訴求

具体的な処分地の選定、立地については、多くの困難が伴うものと考えられる。ここではＮＩＭＢＹ意識をどう克服するかが、最も大きな訴求ポイントとなる。

1)総論賛成、各論反対

地層処分の必要性に関する認識は高く、多くの人は、「処分は必要である」と答える。しかし、「それではあなたの街に地層処分場が建設される場合、賛成されますか？」と問うと、ほとんどの人が「絶対反対」という。こうした意識をごくおおざっぱに要約すると、次のようになる。

必要性はわかる　→　しかし、危険なものである　→　それをなぜわが街が引き受けるのか

このように誰かが引き受けなければならない負担にまつわる「総論賛成、各論反対」という風潮は、地層処分に限らず、身近な一般ゴミ処理施設建設や米兵による少女暴行事件に端を発した沖縄基地問題にも共通してみられるものである。

特に原子力施設立地地域では、最近繰り返された動燃事故により「やっぱり原子力は危ないじゃないか」、また行政不信や国政の権威失墜により「（わが街に原子力を受け入れろという）国の意向にしたがっているのは、はたして正しい判断だったのか」というように、上に示した各論反対の意識をより厳しいものとするような状況が続いている。したがって、地層処分場の選定を推進していくためには、激しい逆風の中で、まず「地層処分は危険なものではありません」「地層処分を引き受けることは、決して損なことではありません」という２つの説得に成功しなければならない。

2)地層処分場の受入に反対する要因

地元が地層処分場を受容しない主要な要因をまとめると、図５－６のような構図が描ける。

地層処分場の選定、立地を推進するためには、図５－６に示すＡ～Ｇのすべての阻害要因を解消していかなければならない。阻害要因とそれに対する訴求方針を表５－１に整理する。

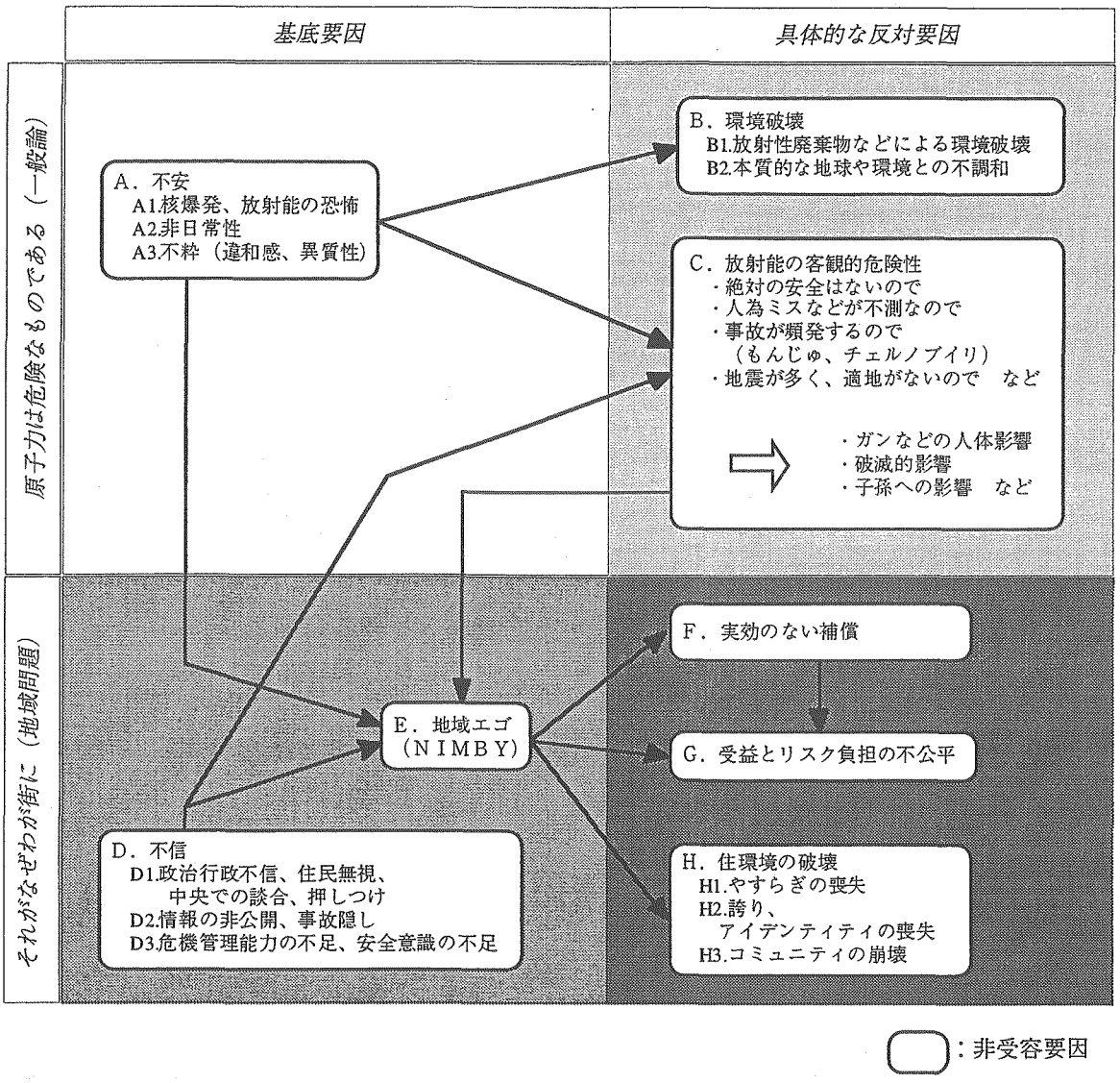



図５－６　地層処分場の立地に係わる非受容要因

表５－１　地層処分場の選定、立地の阻害要因と、訴求方針

| 地層処分場選定、立地の阻害要因 | | 説明 | 訴求方針 |
|---|---|---|---|
| A．不安 | A1.放射能の恐怖 | ぬぐい去れない強固な恐怖イメージとなっている | (この恐怖を拭い去ることは困難) |
| | A2.非日常性 | 原子力は日常生活とは関わりのない非常に特殊なもの、という社会的イメージが定着している | ・日常的イメージを持たせる<br>ex)発電所見学 |
| | A3.不粋<br>（違和感、異質性） | 異質で不粋なもの、忌むべきもの、ダサイ、というネガティブな社会的イメージが定着している | ・好ましいイメージを持たせる<br>ex)建屋の景観、デザイン |
| B．環境破壊 | B1.放射性廃棄物等の環境破壊 | 事故がなくても環境破壊が進む、とする。実態以上に過大に考えられている | ・客観的事実の伝達 |
| | B2.環境との不調和 | 原子力は不自然である、とするある種の信念がある | (A2.非日常性の払拭と同様) |
| C．放射能の危険性 | （各論） | 危険性は、実態以上に過大に考えられている | ・客観的事実の伝達<br>ex)地震リスクの周知 |
| D．不信 | D1.政治行政不信 | 国の原子力政策の権威を低め、帰順を損なっている。国・事業者が言う安全性が信用されない | ・事業内容の透明化<br>・意思決定への住民参加 |
| | D2.情報の非公開 | 信用して任せられない。国・事業者が言う安全性が信用されない | ・情報公開（特にトラブル情報など） |
| | D3.危機管理能力の不足 | 信用して任せられない。国・事業者が言う安全性が信用されない | ・安全確保努力のアピール<br>ex)自主的安全目標の設定<br>・原子力防災体制の整備強化 |
| E．地域エゴ（ＮＩＭＢＹ） | | 危険なものを押しつけられ、犠牲になっていると感じる | (基本的に地域エゴの解消は困難)<br>・原子力の必要性を訴える<br>・公共への犠牲の精神に訴える |
| F.効果のない補償 | | 真の生活の豊かさにつながっていない | ・個人個人の生活の豊かさにつながり、持続する補償、地域振興 |
| G.受益とリスク負担の不公平 | | 自分たちはないがしろにされている、犠牲にされている、とする強い憤懣を伴っている | ・客観的事実の伝達<br>ex)都市リスクとの実態比較<br>・負担のアンバランス解消<br>・負担の押しつけ感の払拭 |
| H．住環境の破壊 | H1.やすらぎの喪失 | 頭で安全性を理解したとしても、やはり原発の隣に住むことにはやすらぎはない | (A．不安感同様困難)<br>・安心感の醸成<br>ex)建屋の地中化<br>ex)原発に隣接した職員住居 |
| | H2.誇りの喪失 | 原発という著しくネガティブな社会的イメージにより、わが街を誇れなくなった | ・好ましいイメージを持たせる<br>・誇りの持てる原子力<br>ex)原子力関連の先端的研究施設<br>・自立的地域振興<br>・真の地域共生 |
| | H3.コミュニティの崩壊 | 地域共生というが実態は強引な地域経済のかきまわしであり、以前の自然な調和を失った | ・自立的地域振興<br>・真の地域共生 |

太枠部分は、リスクコミュニケーションの対象領域である

本来は、上記の受容阻害要因に対してそれぞれの訴求が行わなければならない。しかしながらそれらを一度に扱うことは困難であるばかりでなく、問題への展望を欠き、発散させてしまう。そこで、上記の阻害要因の構図を３つのサブ構造に分け、各サブ構造のグループにおける訴求の考え方をまとめる。

ａ．一般論としての原子力の安全論争

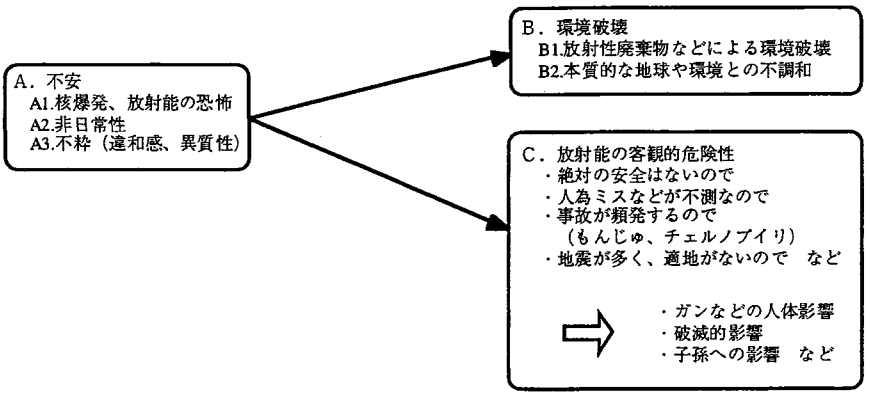



図５－７　一般論としての原子力の安全論争における阻害要因

放射能被害や環境破壊などの客観的な安全性は従来のＰＡが最も重要視してきた訴求内容である。これらは客観的事実にまつわるものであるだけに一方向的な情報の伝達で効果が上げられる側面はある。しかしながら、”絶対安全でないのならば原子力は危険””人間のやることだから万が一はあり得る””実際に事故は頻発している”というように、原子力は万一の事故でも許されない、とする考え方が非常に根強く、客観的な安全性がなかなか認識されないのが実状である。これは、原子力ではひとたび事故が起これば大惨事になる、とする強固な「原子力事故特殊イメージ」により生み出されるものであり、そのイメージは原子力に対する不安感がもとになっている。このため、この不安感を払拭できない限り、「原子力事故特殊イメージ」は改善されず、ひいては原子力の（他の発電方式に比べた場合の明らかな）安全性は認知されることがない。この傾向は、ことさら不安感を煽るようなマスコミ報道によって助長されている。

これらの阻害要因の払拭のためには、従来以上の広報活動を精力的に展開する必要があろう。特に、（マスコミで報道される印象とは異なり）我が国の原子力産業による死傷事故が極めて少ないことはもっと強調する必要がある。また、「原子力は絶対に安全である」と受け取られるような表現はできるだけ避け、むしろ「原子力にもリスクはあるが、そのリスクは客観的にみると極めて小さい」というように、表現方法に配慮する必要がある。さらに、人は信頼できるオピニオンリーダの発言や口コミからの情報を受け入れやすいため、そのような効果的な伝達方法も検討する必要がある。

一方、（上記の客観情報の伝達に加えて）根底にある不安感を払拭することも重要である。不安感については、A1.の恐怖イメージは地層処分場が実際に破滅的災害にいたり得るだけの放射性物質を内包している以上、これを「考えないようにする」ことは誰であっても不可能である。しかしながら必要以上に原子爆弾を連想させるような（「原爆：原発」「被爆者：被曝」）言葉遣いは地道に改めていく必要がある。不安要因の中で、A2.非日常性とA3.不粋は、必然性のない社会的イメージであり、（社会的イメージの改変は困難なものの）何らかの方策により改変できる可能性がある。

b．公共利益と地域の負担に関する政治的要因

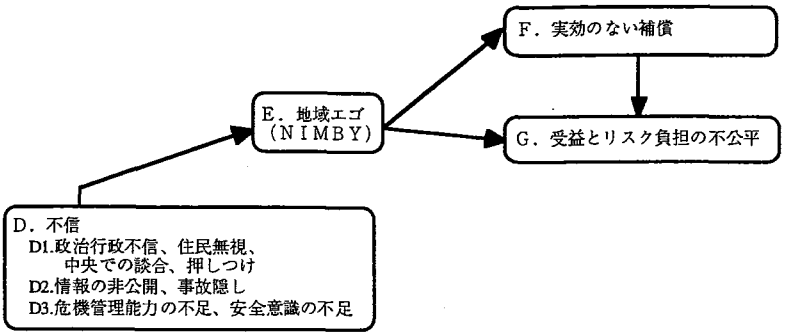



図５－８　公共利益と地域の負担に関する政治的な阻害要因

地域エゴを克服して地元への原子力施設の受入を促進するために、従来は金銭的な補償や、道路、公共施設といった箱ものの地域振興策が施されてきた。しかしながらこのような地元への利益誘導は、地元の真の発展につながらない、地元の一部の人だけが得をする、メリットが長続きしない、地域社会が混乱する、などその実効性が疑問視され、有効な誘導にはなり得ていないのが現状である。特に最近では地元もそこそこ豊かになっており、生活の豊かさに関する価値観も多様化しており、経済面に限った優遇策はますます難しくなってきている。

また、政治面では、従来のお上意識が希薄となり中央の政府（や原子力事業者）の決定におとなしくしたがう意識傾向はもはやみられなくなってきている。加えて昨今の行政不信の風潮がさらに政治面での住民の同意を引き出すことを難しくさせている。

このなかで、「都会の人間が恩恵にあずかる電気をつくるのに、なぜわが街が一方的にリスクを引き受けなければならないのか」という不公平感が先鋭化している。このように、政治的には図５－９に示すように、中央の密室で決められた原子力政策を、立地地域が一方的に押しつけられている、という図式が形成され、事態をこう着させている。

これに加えて、最近続いた事故及びそれに対する対応の不手際により、原子力事業者の当事者能力が問われ、原子力防災への対策の抜本的な見直しを迫られている。

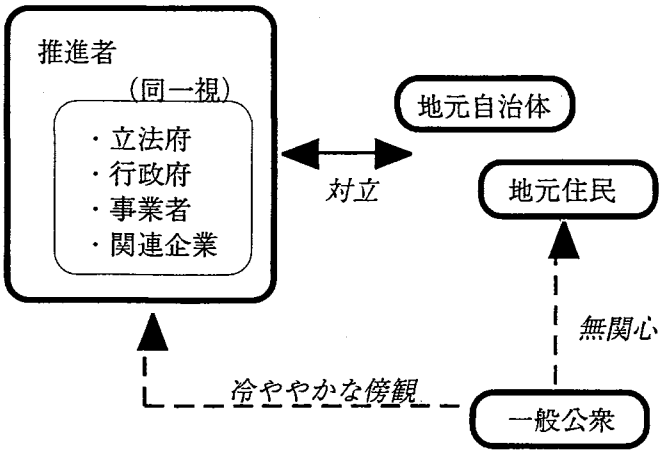



図５－９　原子力事業の推進者と地元住民、一般公衆の関係（従来）

これら受容の阻害要因の払拭のためには、まずは従来の地域振興など利益供与のあり方の見直しが必要である。目に見え直接的で原子力ならではであり、地域の個々人が確実に利益を受けしかも将来的に持続していく振興策が望まれている。

しかしながら、単なる利益供与の工夫だけでは従来の、「国・事業者→地元」という一方向的な押しつけ、対立図式を変更することは難しい。この対立図式が成り立ってしまう限り、「総論賛成、各論反対」というような冒頭述べた現状の最も困難な障害を克服することはできない。本来ならば、「地層処分場がわれわれにとって必要なものである以上、地域エゴを克服してみんなが公共の精神を自覚して問題を解決していかなければならないものである」という認識がまず先にあるべきであり、このためにも、先の対立図式を図５－１０に示すような問題の共有図式に変えなければならない。この図式に不可欠なのは、電力の受益者である一般公衆が総意として「地層処分場が必要である」というコンセンサスと、一般公衆と地元住民との問題意識の共有であり、さらにはそのような意識を生み出す条件としての一般公衆の主体的な関わり合いである。このように地層処分の真の受益者である一般公衆が重要なステーキホルダーとして登場しない限り、上記の一方向的な対立図式は解消されない。

一般公衆と地元住民との問題意識共有のための訴求としては、都市部による地元へのなんらかの謝意の意思表示や、都市部と立地地域の人的交流（ex)将来のエネルギーを考える市民フォーラム）などのソフトな環境づくりが必要であろう。また、具体的に電力生産の貢献度と電力消費の依存度を指標化して地域ごとに表示することも考えられる。

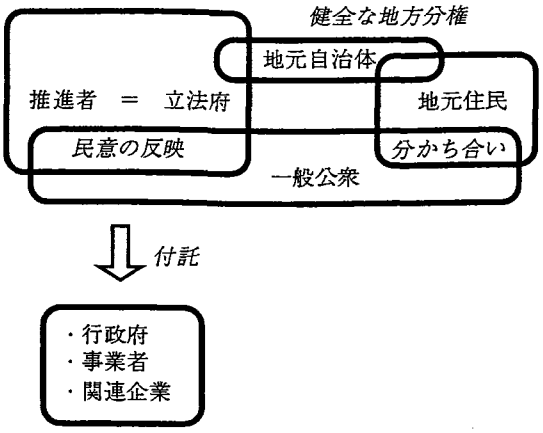



図５－１０　原子力事業の推進者と地元住民、一般公衆の関係（今後の望ましいかたち）

立地地域と都市住民との間の共通認識の形成を阻害している要因として、特に、原子力施設の立地地域は一般に大都市から離れており、このため、リスクは立地地域で、消費は大都市部で、という関係の存在が重要である。このとき原子力施設の存在がもたらしうるリスクが過大であるとの認識があれば、「リスク負担はわが町で、その恩恵は大都市部で」というような不公平感が先鋭化されることになる。

そこで、リスクに関するこのような不公平感を払拭するためには、「都会は利便性だけを得ているのではなく、その利便性を得るためにそれ相応のリスクも引き受けている」という実態を明確に示していく必要がある。

ｃ．地域の住みやすさに関する心理的要因

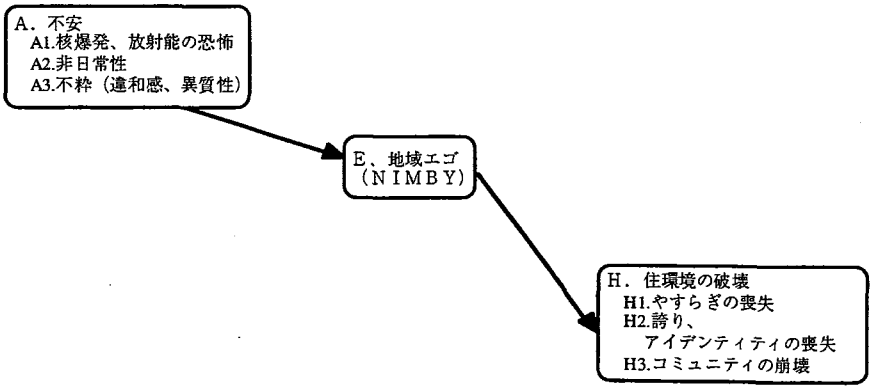



図５－１１　地域の住みやすさに関する心理的阻害要因

原子力施設立地に伴う住環境の破壊への配慮については、従来積極的に取り組まれてきたとは言えない。特に、図５－６のH1.やすらぎの喪失やH2.誇りの喪失などは、原子力に対する不安感が背景としてあるために、そうした喪失感を払拭するための抜本的な方策というものがたてられないというよ

うに、取り組みを困難にしている事情がある。また、地域のコミュニティが改善されていくという方向よりも、原子力施設の建設や地域振興策に伴う外部からの住民の流入、ライフスタイルの変化などによって、従来の落ちついていた地域コミュニティやコミュニケーションネットワークが損なわれてしまう例も多く、問題となっている。地域に根ざした共生やそのための真の振興策を施すことは実際には容易なことではない。

これらの阻害要因の払拭のためには、地元住民の視点に立った地域共生、地域振興策を検討する必要がある。地域振興は、ハードとしての公共施設などが与えられるのではなく、地元住民が自発的に手作りで創り出していく振興策やその機運がまずあって、それに対する支援という形で行われることが望ましい。地域共生も形式だけにとどまるのではなく、例えば日本原燃のように原子力部門全体が本部を地元におくなどのある程度の痛みを伴うことが必要である。また原子力施設の存在自体が地元にとっての誇り、アイデンティティになるような方策も検討される必要がある。

### ５．１．３　コミニュケーション対策の有効性の検証方法

高レベル放射性廃棄物の地層処分は、今後、高レベル廃棄物処分の必要性や地層処分方式の妥当性に対する一般公衆の理解を得た上で、処分場候補地の選定など個別具体的な話を進めていくことになると考えれる。処分場候補地選定の段階以後は、厳しい反対運動の展開が予想される候補地地域住民に対する訴求を行う必要がある。

５．１．２でも述べたように、一般公衆の理解を得ていく段階でのポイントは以下のような点になると考えられる。

①実施主体としての正統性

①－１：実施主体に必要な技術的能力や経営力を持っていること

①－２：組織文化、経営姿勢として、処分事業を担うにふさわしい公益性、公共性を持っていること、この結果、信頼でき、安心して処分事業を一任できること

②処分事業の具体的な計画の妥当性

②－１：日本の電力を適切に賄うためには原子力発電が必要であり、その結果、高レベル廃棄物の処分は必須であること

②－２：地層処分が高レベル廃棄物処分方式として安全性に問題がないこと

③処分の進め方の妥当性

③－１：処分を進めるプロセスが明確になっており、公開されていること

③－２：処分の進め方に民意が反映されていること

④公衆の、処分事業への関心、主体的な関わりの惹起

④－１：日常生活と高レベル廃棄物処分との関係の認識（日常生活の共有）

④－１－１：高レベル廃棄物処分が暮らしに不可欠である、との恩恵や必要性の認識

④－１－２：高レベル廃棄物処分が日常生活の背景や下地をかたちづくっている重要な構成要素であるとの、近い距離感

④－２：人任せではなく、自分自身が主体的に係わって行くべき問題である、との責任意識

④－３：処分地地元住民との問題の共有

また同様に、候補地地域住民に対する訴求においては、以上に示すような予想される立地阻害要因のそれぞれについて個別の訴求を行う必要がある。

A：不安　　A１：放射能の恐怖、A２：非日常性、A３：不粋

B：環境破壊　　B１：放射性廃棄物の環境破壊、B２：環境との不調和

C：放射能の危険性　　（技術的各論）

D：不信　　D１：政治行政不信、D２：情報非公開、D３：危機管理

E：地域エゴ（NIMBY）

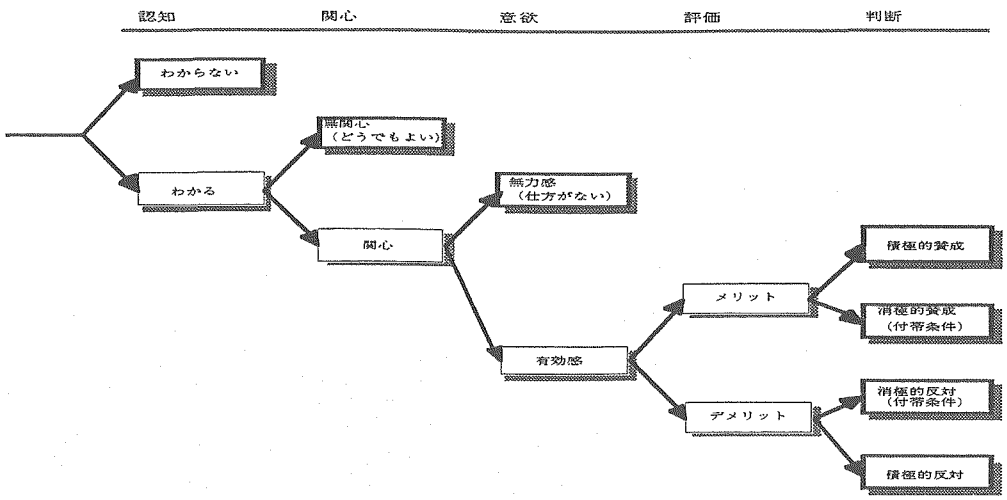
F：効果のない補償

G：受益とリスクの不公平

H：住環境の破壊　　H１：やすらぎ、H２：誇り、H３：コミュニティ

コミュニケーションのシナリオは、３．３で述べたように、「認知」→「関心」→「意欲」→「評価」→「判断」といった態度（あるいはコミットメント）のフェーズを基軸として設定する。また、コミュニケーション対象は、上記のように一般公衆と候補地域住民の２段階に大きく分かれる。一般公衆については主として関心や当事者意識の喚起が重要になり、候補地域住民に対しては、個別具体的な問題に関する誠意を持った対応や意思決定過程の参加の是非が議論になると考えられる。

以上まとめると、コミュニケーションのシナリオは図５－１２のように展開されることになる。




対象：一般公衆

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報 | 訴求方策① | 訴求方策② | 訴求方策④ | 訴求方策⑧ | |
| 経済 | | 訴求方策③ | 訴求方策⑤ | 訴求方策⑨ | |
| 政治 | | | 訴求方策⑥ | | 訴求方策⑪ |
| 倫理 | | | 訴求方策⑦ | | 訴求方策⑫ |
| 生理 | | | | 訴求方策⑩ | |

対象：候補地域住民

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報 | | | 訴求方策① | 訴求方策⑤ | |
| 経済 | | | 訴求方策② | 訴求方策⑥ | |
| 政治 | | | 訴求方策③ | | 訴求方策⑧ |
| 倫理 | | | 訴求方策④ | | 訴求方策⑨ |
| 生理 | | | | 訴求方策⑦ | |

図５－１２　コミュニケーションシナリオ

コミュニケーションが良好に進むかどうかは、上記のシナリオによると理想的には、「わかる」→「関心がある」→「有効感を持つ」→「メリットを知覚する」→「受容」というようなステップを経ることが望ましい。

したがって、コミュニケーションシナリオの適性を検証するためには、例えば一般公衆の認知段階を対象とした訴求方策①がどの程度、一般の人々の「わかる」という反応に寄与するかといったように、各フェーズで各訴求方策の効果をアンケートにより調査する必要がある。

## ５．２　地層処分の理解に有効な情報提供シナリオの作成

### ５．２．１　コミュニケーション目標の設定

一般論としてのコミュニケーションのあり方を土台とし、地層処分研究開発計画を考慮して、計画の時間軸に沿ったコミュニケーション目標を設定した。

コミュニケーション目標は、処分事業のスケジュールにおけるエポックと、その時点で達成されていることが望ましいコミュニケーションの状態として設定した。

表５－２　コミュニケーション目標

| 時間的エポック | コミュニケーション目標 |
|---|---|
| 研究成果のとりまとめ | ・地層処分問題に関する関心の喚起<br>・地層処分問題に関する遠い距離感の解消<br>・地層処分の必要性の周知<br>・地層処分技術に関する正しい認識<br>・地層処分技術に対する信頼 |
| 安全確保の基本的考え方の策定 | ・地層処分のリスクに関する正しい認識<br>・実施主体、規制当局、第３者機関に対する信頼<br>・実施主体、規制当局、第３者機関の長期的運営能力に対する信頼<br>・国民の当事者意識、責任意識の喚起<br>・地層処分実施についての国民の合意 |
| 処分候補地の選定 | ・立地地域の不公平性の解消<br>・処分地選定手続きに関する国民の合意 |
| 処分予定地の選定 | ・処分予定地住民と電力消費地域住民との問題の共有 |

## ５．２．２　具体的な情報提供シナリオの作成

アンケートによる公衆意識の調査結果より得られた知見に基づいて、コミュニケーション目標を達成するための情報提供シナリオを作成する。

### （1）アンケートにより得られた、公衆意識に関する知見の整理

アンケート結果を主成分分析することにより、地層処分に対する公衆の態度形成に関するグループ化を行っている。グループ化においては、態度を賛成、中立、反対の３層に分け、さらに各層を第１主成分、第２主成分の２軸により４象限に分割することにより、１２グループに分類している。この結果より、全体的な傾向として見られることがらをまとめる。

まず、それぞれの主成分として抽出されている問題認識の中で主要なものは、つぎのものである。

**○リスク**
**○公平性**
**○情報・組織への信頼**
**○社会制度への依存**
**○必要性**
**○知識・関心**
**○集団主義**
**○個人主義**

これらの各問題認識の関係を賛成、中立、反対の３層にわたって全体的に眺めてみると、公衆意識について、おおよそ次の傾向があることがわかる。

①リスクと公平性についての認識は、一致した傾向を示している。このことからリスクを考える際には常に不公平感を伴うことが伺われる。リスクとしては、国民全体がリスクを負うと言うよりも、立地地域周辺に限定されると認識されていることを考えあわせると、一部の立地地域住民が多大なリスクを負わなければならないことを問題視している、と推定できる。
②リスク（＋公平性）と情報／組織への信頼・社会制度への依存は、常に対置されている。このことから、リスクを重視する人は情報／組織への信頼度が低く、社会に批判的であることが伺われる。あるいは、情報／組織への信頼度が高く、社会に依存的である人は、あまりリスクを問題視しないことが伺われる。

③必要性と関心／知識との関係は、態度によって変化する。賛成層では、必要性の認識と関心／知識とが一致しており、これが賛成の態度を導いていることが伺われる。中立層では、必要性の認識と関心／知識とが分離している。さらに反対層では、必要性の認識と関心／知識が対置しており、関心や知識をもちながら地層処分の必要性を認識していないことが反対の態度を導くことが伺われる。

④個人主義－集団主義と、賛成や反対の態度の積極性には対応する関係がある。集団主義的な傾向のある賛成、および個人主義的な傾向のある反対の態度には、積極性があり、態度の変容は難しいことが伺われる。

一方、集団主義的反対と個人主義的な賛成には、態度に関してあいまい性があり、態度変容には柔軟であることが伺われる。

（3）公衆の各グループにおける情報ニーズ、問題認識

アンケートの結果、公衆の態度特性分類が得られたので、このグループ分類に従って再度ヒヤリングデータを分析し、公衆の各グループごとの情報ニーズ、問題認識を整理した。

表５－３～表５－１４に公衆の各グループ毎の情報ニーズを示す。また、表５－１５～表５－１７に、公衆の各グループ毎の問題認識を示す。なお、ここでは各コミュニケーション目標に対応させて、関心、理解／誤解、必要性の認識、技術への信頼について、問題認識を整理した。

（4）公衆の各グループに対する情報提供シナリオ

公衆の態度特性分類ごとに、各コミュニケーション目標についての情報提供シナリオとして訴求ポイントおよび訴求媒体をまとめた。この結果を表５－１８～表５－２０に示す。

表５－３　態度特性分類毎（賛成：積極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝賛成：積極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | ヒアリング内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・政策立案側の意識調査が必要。 | ・国会議員の原子力に対する意識はどうか？（50代男） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷの性質・発生量。<br>・核廃棄物（ＨＬＷ以外も含む）の発生量。<br>・消滅処理方法とその条件。 | ・地層処分場が際限なく拡大、増加していかないのか？（20代男）<br>・人工的な消滅はできないか？（50代男） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・地層処分以外の処分方法の研究内容、条件など。 | ・地層処分より宇宙処分の方が安全性が良いのではないか？（20代男）<br>・地層処分以外の処分オプションの研究は十分なされたのか？（50代男） |
| | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。 | ・断層が崩れることはないのか？データで示して欲しい。（50代男）<br>・予測以上の地震の影響は？（50代男） |
| | 長期的安全性 | ・ガラス固化体の特性および実証試験結果のデータ。 | ・耐食性、耐圧性は問題ないか？。データで示して欲しい。（50代男）<br>・耐震性は大丈夫か？（50代男） |
| 地層処分施設建設・操業に関わる情報 | 施設規模 | ・ＨＬＷの施設への搬入量。<br>・処分場の容量（処分能力）。<br>・処分場の再利用・跡地利用方法。 | ・地層処分場が際限なく拡大、増加していかないのか？（20代男） |
| | 人為的事故 | ・作為的な取り出し（テロ）の可能性検討内容との防護策。 | ・戦争やテロの影響はないのか？（50代男） |

表５－４　態度特性分類毎（賛成：消極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／５）

＜態度特性＝賛成：消極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・原子力政策の周知。<br>・原子力規制に関する法律の説明。<br>・規制の審査方法（安全審査）と確認（クロスチェック）の内容。<br>・処分方法の選択理由の説明。<br>・処分後の対応方法について事前の説明。<br>・原子力のコスト、地層処分のコストの評価方法、データの公開。 | ・地層処分の研究や事業の経過報告を常時してほしい。（20代女）<br>・地層処分選択の過程を公衆にも知らせるべきでは？（20代女２）<br>・原子力政策を明らかにすべきでは？（30代男）<br>・国の地層処分の決定根拠を明確に示すべきでは？（30代男）（20代女）<br>・原子力の規制はどのようなものか？（30代男）<br>・地層処分ではなく、保管でもよいのでは？（30代男）<br>・原子力を始める前に処分方法を検討しなかったのか？（30代女）<br>・処分後に更に良い方法が見つかった場合どうするのか？（30代女）<br>・原子力のコストは地層処分を含めても低いのか？（30代男２） |
| | 実施主体 | ・決定過程の公表。<br>・実施内容の公開。<br>・操業の監視方法の説明。 | ・地層処分に利害のある組織は加わらないか？（30代男）<br>・技術は適当でも、使う側が適切に使っているか？（30代男）<br>・作業のチェック機構はあるのか？（30代男） |
| | 実施工程 | ・地層処分研究内容の紹介。<br>・実施工程の公開とチェックの仕組みの説明。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・専門家の国内外の研究成果や海外での評価の紹介。 | ・実施段階で課題はないのか？（30代男）<br>・専門家は信頼できるのか？（30代女） |
| | マスコミ報道 | ・地層処分事業主体の中心になったマスコミ報道。 | ・マスコミ報道と技術者の意見が異なる場合、どちらが信頼できるのか？（30代女） |

表５－４　態度特性分類毎（賛成：消極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／５）

＜態度特性＝賛成：消極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。<br>・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。<br>・処分場への輸送方法。<br>・核廃棄物（ＨＬＷ以外も含む）の性質と発生量。<br>・ＨＬＷ処理方法の研究内容。 | ・処分前の放射性廃棄物の保管は安全か？（30代女）<br>・廃棄物の残存期間、処分量が不明。（30代女）<br>・現状での廃棄物の量は？（30代男3）<br>・今後の発生量・増加量は？（30代男）（30代女2）<br>・ＨＬＷのリサイクル方法はないのか？（30代男）（30代女）<br>・放射性物質の処理方法の研究レベルはどうか？（30代女） |
| | リスク（放射能） | ・目に見えない放射能のリスクとその判断方法。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響。<br>・放射能の強さと人体への影響についての数値データ。<br>・放射能の人体への影響研究の現状とその成果報告。<br>・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強さの数値データ。<br>・食物汚染の経路と可能性。<br>・リスクの明示と対策の説明。<br>・放射線の基礎知識。 | ・危険物が目に見えない。（30代女）<br>・恐いイメージを隠していないか？（30代女）<br>・地層処分の影響が判らない。（30代女）<br>・放射能の影響は数字にはっきり現れるものではないのでは？（30代女）<br>・放射能の人体への影響はどの程度か？（30代女）<br>・放射能の人体への影響の仕組みは解明されていないのでは？（20代女）<br>・放射能は低いレベルは本当に安全か？（30代女）<br>・地中に埋めると長期間残存しないか？（30代女）<br>・放射能の寿命が具体的に判らない。（20代女）（30代男）<br>・危険性についての情報は、専門家や行政サイドから全て公開されるか？。（30代女）<br>・原子力発電所からの放射能と自然放射能は違う？（30代男） |
| | ベネフィット | ・原子力発電のベネフィットと廃棄物のリスクのバランス。<br>・原子力発電の恩恵の程度。<br>・廃棄物処分の必要性。 | ・メリットとデメリットを判断する情報が少ない。（30代男） |

表５－４　態度特性分類毎（賛成：消極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（３／５）

＜態度特性＝賛成：消極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | コスト | ・処分場建設にかかる費用。<br>・処分にかかる費用。<br>・安全性の確保の実例とそれにかかる費用を示すデータ。 | ・処分場建設にかかる費用・規模はどのくらいか、経済性はあるのか？（30代男２）<br>・他の処分方法のコストは？（30代男）<br>・安全性よりコストを重視していないか？（30代男） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。<br>・ガラス固化体、オーバパックの性能の説明。<br>・地下の監視方法（トラブル発生時のモニタリングの方法）。<br>・地下のシミュレーションの実証試験方法。 | ・ＨＬＷの寿命は？（30代男）<br>・安全性を確認する方法はあるか？（30代男）<br>・安全性の確保は十分か？（30代女）<br>・輸送時、搬入時に問題はないか？（30代男）（30代女）<br>・処分容器が地表にでても大丈夫か？（30代男） |
| | 世代間の負担 | ・次世代への影響の有無と程度。<br>・放射能残存の程度とその子孫への影響度。<br>・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ。 | ・数１００年先は予測できない。未来への責任転嫁にならないか？（30代男）<br>・将来、ＨＬＷが地上に出ててこないか？（30代女） |
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 処分地の選択 | ・処分場建設場所の条件と日本の地質データ。<br>・処分場所およびその選択条件（有用資源の事前調査結果）。<br>・規制・立地条件・基準、調査方法の公開。<br>・選定に際しての地域の意見の考慮の仕組みの明示。 | ・日本に適地はあるのか？（30代男）<br>・処分場が資源開発を疎外しないか？（30代男）<br>・規制を厳しくして都市部につくれないか？（30代男）<br>・地層処分場はうけいれられるのか？（30代男） |
| | 補償 | ・設置者、国の報償方法を公開する | ・報償はどのようにおこなわれるか？（30代男） |
| | 地域共生 | ・地層処分政策への住民意見の反映の有無、方法の説明。 | ・地層処分推進には地元住民の意見を反映させられるか？（30代女） |

表５－４　態度特性分類毎（賛成：消極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（４／５）

＜態度特性＝賛成：消極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・模擬実験の体験学習など。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・海外での研究例（特に広大な土地がある国）、各国の協力体制。<br>・ビデオだけでなく資料も併用した情報の説明。<br>・Ｑ＆Ａ集の提供。<br>・対話形式の情報提供。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・数値データを用いた説明。<br>・これまでの研究成果のまとめと再評価結果。<br>・専門家の国内外の研究成果や海外での評価の紹介。<br>・公衆が正否を判断するために分かりやすい判断基準の説明。 | ・地層処分が良く判らない。（30代女）<br>・地層処分以外の処分オプションの研究は十分なされたのか？（20代女）<br>・地層処分の内容（バリアの方法とか）をもっと身近な例（体験）で説明してほしい。（20代女）（30代男）（30代女）<br>・ベントナイトの吸着はアニメでなく実物で示すべき。（20代女）<br>・海外での先例はどうなっているか？（30代女）<br>・難しい内容は言葉だけでなく資料も併用。（20代女）<br>・質問に答えることはできないか？（20代女）<br>・全ての研究内容の情報が公開されているといえるか？（30代男）<br>・専門家に迷いはないか、安全を主張できるのか？（30代男）<br>・専門家の反対意見はないか？（20代女）（30代男）（30代女）<br>・反対意見があっても大丈夫といえるか？（30代男）<br>・研究成果の実績はどうか。第３者評価は行われているか？（30代男）<br>・専門家のレベルが判らない。（30代女）<br>・情報の正否の判断をどのようにすればよいのか？（30代女） |
| | 放射能防護の安全性 | ・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ。 | ・処分場の性能（容量、閉じ込め性能）は？（30代男）<br>・地下までの搬入坑道での安全性は？（30代男）<br>・地殻変動に対してバリアは大丈夫か？（30代男） |
| | 地下のメカニズム | ・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。<br>・シミュレーションの予測性能。<br>・実験による限界とシミュレーションの必要性。<br>・シュミレーションと実験による実証方法とその結果。<br>・想定外事象の影響の評価結果。 | ・地層処分研究により地層を含めた全てのトラブルの予測は可能といえない。（30代男）<br>・地下のメカニズムは本当に判っているのか？（30代女）<br>・想定外のことはないのか？（30代女２）<br>・実際にトラブルが起きないと言えるか？（30代男）（30代女）<br>・予想通りかどうかどのように確認するのか？（30代男） |

表５－４　態度特性分類毎（賛成：消極的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（５／５）

＜態度特性＝賛成：消極的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分研究開発内容 | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。<br>・地殻変動の可能性とその影響、対策の具体例の提示。 | ・地震予知はどこまで信頼できるか？専門家でも賛否両論。(30代男)<br>・予期せぬ地殻変動の影響は？（30代男） |
| | 長期的安全性 | ・ガラス固化体の特性および実証試験結果のデータ。<br>・施設モニタリング方法の説明。 | ・地下の監視はするのか？（30代男）<br>・地表の影響はないか？（30代男） |
| 地層処分施設建設・操業に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ（地上部分と地下部分）。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容。<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力。 | ・処分場建設にかかる費用・規模はどのくらいか、経済性はあるのか？（30代男2）<br>・処分場の性能（容量、閉じ込め性能）。（30代男）<br>・掘ることができるのか、埋め戻すことが可能か？（30代男） |
| | 作業事故 | ・機械の故障等による事故の内容と可能性のデータ。<br>・地中の開発技術の程度と内容。<br>・操業方法とその安全性を示すデータ。<br>・施設モニタリング方法の説明。 | ・工事実施上での問題はないか？（30代男）<br>・機械の故障等による事故は？<br>・搬入経路での事故の安全性は？（30代男2）<br>・輸送時、搬入時に問題はないか？（30代男）（30代女）<br>・地下の監視はするのか。（30代男）<br>・搬入時に容器は外にでないか？（30代男） |
| | 人為的事故 | ・作業者の人的過誤（ヒューマンエラー）による事故の可能性と事故の影響（搬入時の事故による放射能漏れ等）。<br>・作為的な取り出し（テロ）の可能性検討内容との防護策。<br>・施設の外部からの衝撃に対する安全性データ。 | ・作業者のミスの可能性はないのか？（30代男）（30代女2）<br>・テロへのセキュリティーは十分か？（30代男） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度。<br>・地下工事による環境破壊の有無。<br>・想定外の事故での被害想定。 | ・地層処分場建設により自然破壊は起こらないのか？（30代女4）<br>・もしもの場合の被害の程度は？（30代男）（30代女2）<br>・汚染が集中するのでは？（30代女）<br>・地層処分の影響がわからない。（30代女） |

表５－５　態度特性分類毎（賛成：問題認識の低い賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／３）

＜態度特性＝賛成：問題認識の低い賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。 | ・地層処分の情報は関係者だけでなく一般の人もに公開すべき。（30代女）<br>・国の地層処分政策決定の過程を公衆にも知らせるべきでは？（30代女） |
| | 実施主体 | ・決定過程の公表。<br>・操業の監視方法の説明。<br>・実施主体の能力（企業情報の公開）。 | ・長期間管理が継続できるか？（30代男）<br>・現状の技術レベルでの選択は可能か。（30代男） |
| | 実施工程 | ・処分場の操業スケジュール。<br>・地層処分研究内容の紹介。<br>・実施工程の公開とチェックの仕組み説明。 | ・時間情報がない？（30代男）<br>・設計通りの建設が進むのか？（30代男） |
| | マスコミ報道 | ・地層処分事業のマスコミ報道。 | ・地層処分の問題はマスコミ（ＴＶ）報道でも取りあげるべきでは？（30代女） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。<br>・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。 | ・処分前の放射性廃棄物の保管はどうなっているのか？（30代女） |
| | リスク（放射能） | ・目に見えない放射能のリスクとその判断方法。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響。<br>・放射能の強さと人体への影響についての数値データ。<br>・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強さの数値データ。<br>・リスクの明示と対策の説明。 | ・放射能の寿命が具体的に判らない。（30代男）（30代女2）<br>・リスクを示して欲しい（30代女） |
| | ベネフィット | ・原子力発電の恩恵の程度。 | ・原発の恩恵（電力）は誰が受けているか。（30代男） |
| | コスト | ・処分場建設にかかる費用。<br>・処分にかかる費用。 | ・処分方法のコストは膨大では？（30代女） |

表５－５　態度特性分類毎（賛成：問題認識の低い賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／３）

＜態度特性＝賛成：問題認識の低い賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | 安全性 | ・放射能のが安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。<br>・ガラス固化体、オーバパックの性能の説明。<br>・地下の監視方法（トラブル発生時のモニタリングの方法）。 | ・地層処分の実害は本当にないのか？（30代男） |
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 処分地の選択 | ・処分場所およびその選択条件（有用資源の事前調査結果）。<br>・立地条件・基準、調査方法の公開。<br>・選定に際しての地域の意見の考慮の仕組みの明示。<br>・地層処分政策への住民意見の反映の有無、方法の説明。 | ・場所およびその選択条件の調査は実施されているか？（30代男）<br>・候補地に人が住んでいる場合は調査できるか？（30代男）<br>・現状の技術レベルでの選択は可能か。（30代男）<br>・説明だけで地層処分場はうけいれられるのか？（30代男） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・ＨＬＷ処理方法の研究内容。<br>・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・模擬実験の体験学習など。<br>・数値データを用いた説明（特に時系列、寸法データ）。<br>・公衆が正否を判断するために分かりやすい判断基準の説明。 | ・研究機関は、誰もが安全性を納得できるデータを示すべきでは？（30代女）<br>・もののスケールが分かり難い。（30代男）<br>・時間的情報がない。（30代男）<br>・地層処分に対してどう判断すればよいのか？（30代女） |
| | 放射能防護の安全性 | ・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ。<br>・地層による防護機能の説明。 | ・漏れた場合の対策はあるのか？（30代女） |
| | 地下のメカニズム | ・想定外事象の影響の評価結果。<br>・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。 | ・想定外のことが起きた場合どうするのか？（30代女） |

表５－５　態度特性分類毎（賛成：問題認識の低い賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（３／３）

＜態度特性＝賛成：問題認識の低い賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分研究開発内容 | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。 | ・地震に対する安全性は本当？（30代女） |
| | 長期的安全性 | ・施設モニタリング方法の説明。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容 | ・地下（保管状況や放射能漏洩）の監視はするのか。（30代女）<br>・長期間管理が継続できるか？（30代男） |
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ（地上部分と地下部分）<br>・処分場の操業方法と安全対策内容<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力 | ・施設が巨大であるが、管理は大丈夫か？<br>・処分場の性能（容量、閉じ込め性能）（30代女2）<br>・スケールが分かり難い（30代男） |
| | 作業事故 | ・機械の故障等による事故の内容と可能性のデータ<br>・操業方法とその安全性を示すデータ<br>・施設モニタリング方法の説明。 | ・地下（保管状況や放射能漏洩）の監視はするのか。（30代女）<br>・作業中のミスの可能性はないのか？（30代女） |
| | 人為的事故 | ・作業者の人的過誤（ヒューマンエラー）による事故の可能性と事故の影響（搬入時の事故による放射能漏れ等）<br>・作為的な取り出し（テロ）の可能性検討内容との防護策 | ・テロの影響はないのか？（30代女）<br>・作業中のミスの可能性はないのか？（30代女） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度<br>・地下工事による環境破壊の有無 | ・地層処分の実害は本当にないのか？（30代男） |

表５－６　態度特性分類毎（賛成：集団依存的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／２）

＜態度特性＝賛成：集団依存的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。<br>・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。 | ・本来の放射性物質はどのような形か？（40代女）<br>・処分前の放射性廃棄物のはどこに保管されているのか？（30代女） |
| | リスク（放射能） | ・放射能の強さと人体への影響についての数値データ。<br>・これまでの放射能事故の解説。<br>・目に見えない放射能のリスクとその判断方法。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響。<br>・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強さの数値データ。<br>・食物汚染の経路と可能性。<br>・リスクの明示と対策の説明。 | ・原子力発電所作業者の被ばくは本当か？（30代女）<br>・放射能の人体への影響はどの程度か？（40代女）<br>・放射能の食品中への混入の可能性はないのか？（40代女）<br>・放射能の寿命や強さが示さていない。（30代女） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。 | ・作業者の安全性はどうか？（30代女）<br>・予想外のことが起きても安全か？（30代女2）<br>・輸送時、搬入時に問題はないか？（30代女） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・模擬実験の体験学習など。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・数値データを用いた説明。<br>・公衆が正否を判断するために分かりやすい判断基準の説明。 | ・ビデオ内容が本当かどうか判らない。（30代女）<br>・研究内容の紹介ビデオというより宣伝用に見える。（40代女）<br>・ビデオの説明の正否を判断する情報がない？（30代女） |

表５－６　態度特性分類毎（賛成：集団依存的賛成）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／２）

＜態度特性＝賛成：集団依存的賛成＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分研究開発内容 | 放射能防護の安全性 | ・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ<br>・操業の安全確保対策の説明。 | ・地層変化によりバリアが壊れないか？（30代女）<br>・予想外のことが起きても安全か？（30代女） |
| | 地下のメカニズム | ・想定外事象の影響の評価結果。<br>・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。 | ・予想外のことが起きても安全か？（30代女） |
| | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。 | ・地震予知はどこまで信頼できるか？（30代女） |
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ（地上部分と地下部分）。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容。<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力。 | ・施設が巨大であるが、管理は大丈夫か？（40代女） |
| | 作業事故 | ・機械の故障等による事故の内容と可能性のデータ。<br>・地中の開発技術の程度と内容。<br>・操業方法とその安全性を示すデータ。 | ・機械の故障等による事故は？（30代女）<br>・処分過程で事故はないか？（30代女） |
| | 人為的事故 | ・作業者の人的過誤（ヒューマンエラー）による事故の可能性と事故の影響（搬入時の事故による放射能漏れ等）。 | ・作業者のミスの可能性はないのか？（30代女） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度。<br>・地下工事による環境破壊の有無。 | ・地層処分場建設により自然破壊は起こらないのか？（30代女） |

表５－７　態度特性分類毎（中立：積極的中立）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／２）

＜態度特性＝中立：積極的中立＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・処分方法の選択理由の説明。<br>・研究済みと研究中の情報公開レベルの明確化。<br>・非公開情報もあることの明示。 | ・地層処分の決定の公平さを示して欲しい。（20代男）<br>・事故後ではなく事故前にあらゆる情報を公開すべきでは？（50代男） |
| | 実施工程 | ・処分場の操業スケジュール。 | ・地層処分の実施スケジュールは？（50代男） |
| | マスコミ報道 | ・地層処分事業のマスコミ報道（ＴＶ）。 | ・強制的な情報提供も必要。（50代男） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。<br>・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。<br>・核廃棄物（ＨＬＷ以外も含む）の性質と発生量。 | ・廃棄物の発生量が不明。（50代男）<br>・処分量が不明。（50代男） |
| | リスク（放射能） | ・目に見えない放射能のリスクとその判断方法。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響。<br>・放射能の強さと人体への影響についての数値データ。<br>・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強さの数値データ。<br>・食物汚染の経路と可能性。<br>・リスクの明示と対策の説明。 | ・放射能の寿命が具体的に判らない。（50代男）<br>・あらゆる事故やリスクの可能性を示して欲しい。（50代男） |
| | ベネフィット | ・原子力発電のベネフィットと廃棄物のリスクのバランス。<br>・廃棄物処分の必要性。 | ・メリットとデメリットを整理して示して欲しい。（50代男） |

表５－７　態度特性分類毎（中立：積極的中立）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／２）

＜態度特性＝中立：積極的中立＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 処分地の選択 | ・処分場建設場所の条件と日本の地質データ。<br>・処分場所およびその選択条件。<br>・立地条件・基準、調査方法の公開。<br>・反対派にも積極的な情報提供が必要。 | ・住民投票をするにしても正しい情報が必要。（20代男） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・研究内容、条件などの正否の判断基準。<br>・ビデオだけでなく資料も併用した情報の説明。<br>・数値データを用いた説明。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。 | ・専門家の意見は抽象的。具体的データを示すべきでは？（20代男）<br>・専門家の反対意見、否定意見も示すべきでは？（20代男）<br>・漏洩しても大丈夫といっているが漏洩量は不明。（20代男）<br>・賛否の判断材料がすくない。（20代男）<br>・啓発ビデオではなく、情報提供ビデオが必要では？（20代男）<br>・複数の選択肢を提供すべきでは？（50代男） |
| | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。<br>・地殻変動の可能性とその影響、対策の具体例。 | ・地震に対する研究レベルの信頼性に疑問がある。（20代男） |
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ、数（地上部分と地下部分）。<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力。 | ・処分場の数は？（50代男） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度。<br>・地下工事による環境破壊の有無。 | ・あらゆる事故やリスクの可能性を示して欲しい。（50代男） |

表５－８　態度特性分類毎（中立：懐疑的中立）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／３）

＜態度特性＝中立：懐疑的中立＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・政策立案側の意識調査。<br>・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・研究済みと研究中の情報公開レベルの明確化。<br>・非公開情報もあることの明示。 | ・重要な問題の割には情報が簡単すぎる。（60代女）<br>・情報公開の程度を明確にすべきでは？（20代女） |
| | 実施工程 | ・処分場の操業スケジュール。 | ・地層処分の実施スケジュールは？（60代女）（30代女） |
| | マスコミ報道 | ・地層処分事業のマスコミ報道（ＴＶ）。 | ・知らず知らずに入ってくる情報提供も必要。（20代女） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。<br>・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。<br>・核廃棄物（ＨＬＷ以外も含む）の性質と発生量。 | ・廃棄物の発生量が不明。（30代女）（30代男）<br>・処分量が不明。（30代男）<br>・リサイクルできないか？（30代男）<br>・処分前の放射性廃棄物の保管は安全か？（60代女） |
| | リスク（放射能） | ・目に見えない放射能のリスクとその判断方法。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響。<br>・放射能の強さと人体への影響についての数値データ。<br>・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強の数値データ。<br>・食物汚染の経路と可能性。<br>・リスクの明示と対策の説明。 | ・放射能の寿命が具体的に判らない？（30代男）<br>・放射能の人体への経路は？（30代女）<br>・放射能の人体への影響は？（30代女） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。<br>・基準データや根拠となるデータの開示。<br>・判断基準となる反対意見の情報。 | ・輸送時、搬入時に問題はないか？（60代女）<br>・安全の基準が不明。（20代女）（30代女） |

表５－８　態度特性分類毎（中立：懐疑的中立）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／３）

＜態度特性＝中立：懐疑的中立＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 処分地の選択 | ・処分場建設場所の条件と日本の地質データ。<br>・処分場所およびその選択条件。<br>・立地条件・基準、調査方法の公開。 | ・場所を世界で考えられないか？（60代女） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・模擬実験の体験学習など。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・ビデオだけでなく資料も併用した情報の説明。<br>・Ｑ＆Ａ集の提供。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・数値データを用いた説明。 | ・ビデオでは、安全しか述べていない。（50代男）（30代女）<br>・処分中はどのようになっているか不明。（30代女）<br>・安全面だけでなく、漏洩・汚染があった場合影響も説明してほしい。（30代男）<br>・賛否両論的な研究成果を示して欲しい。（50代男）<br>・複数の選択肢を提供すべきでは？（50代男）<br>・ビデオでの紹介以外の情報はないのか？（50代男） |
| | 地下のメカニズム | ・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。<br>・シミュレーションの予測性能。<br>・実験による限界とシミュレーションの必要性。<br>・シュミレーションと実験による実証方法とその結果。<br>・想定外事象の影響の評価結果。 | ・安全面だけでなく、漏洩・汚染があった場合影響も説明してほしい。（30代男）<br>・自然災害の影響はないか？（30代女） |
| | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。<br>・地殻変動の可能性とその影響、対策を具体例。 | ・地震に対する安全性を具体的数字でのべてほしい。（30代女） |
| | 長期的安全性 | ・ガラス固化体の特性および実証試験結果のデータ。<br>・施設モニタリング方法の説明。 | ・処分中はどのようになっているか不明。（30代女） |

表５－８　態度特性分類毎（中立：懐疑的中立）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（３／３）

＜態度特性＝中立：懐疑的中立＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ（地上部分と地下部分）。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容。<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力。 | ・処分場がいっぱいになることはないか？処分場がなくならないか？（30代女）（30代男）<br>・広さはどのくらい？（30代男）<br>・地下の利用範囲が不明？（60代女） |
| | 人為的事故 | ・作為的な取り出し（テロ）の可能性検討内容との防護策。 | ・テロへのセキュリティーは十分か？（30代女） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度。<br>・地下工事による環境破壊の有無。 | ・地層処分場建設により地層の変化は起こらないのか？（30代男） |

表５－９　態度特性分類毎（中立：個人主義的無関心）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝中立：個人主義的無関心＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。 | ・これまでの情報公開は不十分地では？（20代女） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。<br>・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。 | ・処分前の放射性廃棄物の保管はどうなっているのか？（20代女） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。 | ・輸送時、搬入時に問題はないか？（20代女） |
| | 世代間の負担 | ・次世代への影響の有無と程度。<br>・放射能残存の程度とその子孫への影響度。 | ・未来への弊害はないのか？（20代女） |
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 補償 | ・設置者、国の報償方法の公開。 | ・地元の反対はどう解決するのか？（20代女） |
| | 地域共生 | ・地層処分政策への住民意見の反映の有無、方法の説明。 | ・地元の反対派どう解決するのか？（20代女） |
| 地層処分研究開発内容 | 放射能防護の安全性 | ・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ。<br>・地層による防護機能の説明。 | ・事故が起きた場合の影響もしらせてほしい。（20代女） |
| | 地下のメカニズム | ・想定外事象の影響の評価結果。<br>・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。 | ・事故が起きた場合の影響もしらせてほしい。（20代女） |
| | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。<br>・地殻変動の可能性とその影響、対策の具体例。 | ・予期せぬ地殻変動の影響は？（20代女）<br>・事故が起きた場合の影響もしらせてほしい。（20代女） |
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 作業事故 | ・操業方法とその安全性を示すデータ。 | ・輸送時、搬入時に問題はないか？（20代女） |

表５－１０　態度特性分類毎（中立：集団依存的無関心）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝中立：集団依存的無関心＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・公衆の意見の反映する仕組み（円卓会議等）の明確化。 | ・公衆の意見を反映すべきである。(30代男) |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | リスク（放射能） | ・これまでの放射能事故の解説。 | ・放射能事故の実体が判らない。(30代男) |
| | コスト | ・処分場建設にかかる費用。<br>・地層処分研究への予算措置の内容。<br>・他の手法とのコスト比較。 | ・処分場建設にかかる費用どのくらいか？(30代男)<br>・研究コストはどのくらいか？(30代男) |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・直接対話形式の情報提供。<br>・数値データを用いた説明。<br>・国内外の複数機関の成果の比較。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・Ｑ＆Ａ集の提供。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・放射能の人体影響を示したデータの提示。 | ・ビデオでは、安全しか述べていない。一方的なおしつけ。(30代男)<br>・賛否両論が必要。(30代男)<br>・別な機関の研究成果はどうか？(30代男)<br>・質問に答えてもらえるようにしてほしい。(30代男)<br>・安全の根拠を示すデータがない。(30代男) |

表５－１１　態度特性分類毎（反対：リスク重視型反対）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝反対：リスク重視型反対＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・原子力政策の周知。<br>・処分方法の選択理由の説明。<br>・公衆の意見の反映する仕組み（円卓会議等）の明確化。 | ・国民投票で決定すべきであり、そのために全ての情報を公表してほしい。（40代女） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | リスク（放射能） | ・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強の数値データ。 | ・放射能の寿命が具体的に判らない。（２名）（40代女） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。<br>・ガラス固化体、オーバパックの性能の説明。<br>・地下の監視方法（トラブル発生時のモニタリングの方法）。<br>・地下のシミュレーションの実証試験方法。 | ・安全性の確証は可能か？（40代女） |
| | 世代間の負担 | ・次世代への影響の有無と程度。<br>・放射能残存の程度とその子孫への影響度。 | ・次世代への影響はないといえるか？過信できる情報は。（40代女） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・ＨＬＷ処理方法の研究内容。<br>・数値データを用いた説明。<br>・海外での研究例。<br>・複数の専門家の国内外の研究成果や海外での評価の紹介。<br>・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。 | ・長期間の研究成果は公開されているのか？（40代女） |

表５－１２　態度特性分類毎（倫理的反対（条件付き反対））のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（１／３）

＜態度特性＝反対：倫理的反対（条件付き反対）＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・原子力政策の周知。<br>・処分方法の選択理由の説明。 | ・地層処分選択の過程を知らせてほしい。（20代女）<br>・地層処分選択の過程が不明確。（30代女） |
| | 実施主体 | ・決定過程の公表。<br>・実施主体の条件。 | ・地層処分実施の責任は？（20代男）（20代女） |
| | 実施工程 | ・処分場の操業スケジュール。<br>・地層処分研究内容の紹介。<br>・実施工程の公開とチェックの仕組み説明。 | ・チェック機関がしっかりしていることを示して欲しい。（20代男）<br>・具体的な処分（操業方法）は？（20代男）<br>・処分場が埋め戻されるまでの期間は？（30代男）<br>・事業の推進を監視できない。情報提供がない。（30代女） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | ＨＬＷ | ・ＨＬＷそのものについて。<br>・ＨＬＷの性質・発生量、将来の増加量等。<br>・搬入前のＨＬＷ保管方法、貯蔵量。 | ・現状での廃棄物の量は？（30代女２）<br>・発電期間は？（30代女）<br>・廃棄物の処分量は？（30代女）<br>・処分前の放射性廃棄物の保管は安全か？（20代女）<br>・廃棄物がテロに使われないか？（30代女） |
| | リスク（放射能） | ・放射能の寿命（ＨＬＷ及びＬＬＷ）と強さの数値データ。<br>・これまでの放射能事故の解説。 | ・放射能の寿命が具体的に判らない。（30代女）<br>・放射能事故を全て明らかにして欲しい。（30代女） |
| | コスト | ・処分場建設にかかる費用。<br>・処分にかかる費用。 | ・処分場建設にかかる費用・規模はどのくらいか、経済性はあるのか？（30代男） |
| | 安全性 | ・放射能が安全になる時間。<br>・実施設による実証試験結果。<br>・操業方法と安全確保対策の説明。<br>・ガラス固化体、オーバパックの性能の説明。<br>・地下の監視方法（トラブル発生時のモニタリング方法）。<br>・地下のシミュレーションの実証試験方法。 | ・廃棄物の残存期間、量が不明。（30代男）<br>・安全性の確証は可能か？（30代男）（20代女）<br>・安全だけでなくリスクも必要性もあるというべき。（30代女）<br>・輸送時、搬入時に問題はないか？（30代男）（20代男） |

表５－１２　態度特性分類毎（倫理的反対（条件付き反対））のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（２／３）

＜態度特性＝反対：倫理的反対（条件付き反対）＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分の選定過程に関わる情報 | 処分地の選択 | ・処分場建設場所の条件と日本の地質データ。<br>・処分場所およびその選択条件（有用資源の事前調査結果）。<br>・規制・立地条件・基準、調査方法の公開。 | ・日本に適地はあるのか？（30代男）<br>・場所はどこ？（20代女）<br>・候補地を示さずに安全といっても説得性はない。（30代女） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・目に見えない放射能のリスク。<br>・ＨＬＷからの放射能の人体への影響とその基準値。<br>・数値データを用いた説明。<br>・海外での研究例。<br>・複数の専門家の国内外の研究成果や海外での評価の紹介。<br>・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・模擬実験の体験学習など。<br>・実写映像による情報の提供。 | ・地層処分以外の処分オプションの研究は十分なされたのか？（30代男）<br>・地層処分にもデメリットがあるはず。それを明らかにしてほしい。（30代女）<br>・漏洩量が微量といわれても判らない。（30代女）<br>・地層処分以外の処分オプションの研究のレベルは？（30代女）<br>・専門家の反対意見ものせる。（30代女）<br>・第３者の正確な情報と選択基準を示して欲しい。（30代女）<br>・漏れても大丈夫は、漏れると言うこと？（20代女）<br>・放射能のことは専門家でもわからないのでは？（30代女）<br>・地層処分は一般に理解できるレベルではないのか？（30代女）<br>・専門家と公衆の意思疎通は不十分では？（30代女） |
| | 放射能防護の安全性 | ・ＨＬＷの隔離程度（人工バリア、天然バリア性能）のデータ。 | ・処分場の安全性を具体的データで示して欲しい。（20代男）<br>・バリアの絶対の安全性を示して欲しい。（20代女） |
| | 地下のメカニズム | ・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。<br>・シミュレーションの予測性能。<br>・実験による限界とシミュレーションの必要性。<br>・シュミレーションと実験による実証方法とその結果。<br>・想定外事象の影響の評価結果。 | ・地下の予測は、本当に可能か？不可能なのでは？（30代女２）<br>・１万年先のことは予測不可能なこともある。（30代女） |

表５－１２　態度特性分類毎（倫理的反対（条件付き反対））のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ（３／３）

＜態度特性＝反対：倫理的反対（条件付き反対）＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分研究開発内容 | 地震の影響 | ・地震による地層の影響のシミュレーション結果。<br>・想定外地震でのシミュレーション。<br>・地震によるトラブルの予測性能をデータ。<br>・地殻変動の可能性とその影響、対策の具体例。 | ・地震の影響の安全性をデータで示して欲しい。（20代女）<br>・（巨大地震の）実測データがないので説得性は小さいのでは？（30代女） |
| | 長期的安全性 | ・ガラス固化体の特性および実証試験結果のデータ。<br>・施設モニタリング方法の説明。 | ・大深度の圧力でもガラス固化体は変形しないか？（30代男）<br>・埋めっぱなし出大丈夫か？（30代女）<br>・健全性には寿命があるのでは？（30代女）<br>・長期間の安全性を確認する方法はあるか？（30代男）（20代女） |
| 地層処分施設建設・総合に関わる情報 | 施設規模 | ・施設の実際の広さ（地上部分と地下部分）。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容。<br>・ＨＬＷの施設への搬入量、貯蔵能力。 | ・処分場の性能（容量限界）は？（30代女）<br>・処分場が満杯にならないか？（20代女） |
| | 作業事故 | ・機械の故障等による事故の内容と可能性のデータ。<br>・操業方法とその安全性を示すデータ。<br>・処分場の操業スケジュール。 | ・輸送時、搬入時に問題はないか？（30代男）（20代男）<br>・将来の機器のメンテナンスは現状の調査で安全といえるか？（30代男）<br>・処分場が埋め戻されるまでの期間は？（30代男） |
| | 人為的事故 | ・作業者の人的過誤（ヒューマンエラー）による事故の可能性と事故の影響（搬入時の事故による放射能漏れ等）。<br>・操業の監視方法の説明。<br>・作為的な取り出し（テロ）の可能性検討内容との防護策。 | ・作業者のミスの可能性はないのか？（30代女２）（20代女）<br>・チェックする方法はあるのか？（30代女）<br>・テロへのセキュリティーは十分か？（30代女） |
| | 環境影響・自然破壊 | ・処分場（大規模施設）建設に伴う環境影響（自然破壊）の程度。<br>・地下工事による環境破壊の有無。 | ・地層処分場建設により地表、自然に変化は起こらないのか？（30代女２） |

表５－１３　態度特性分類毎（反対：個人主義的反対）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝反対：個人主義的反対＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | 安全性 | ・実施設による実証試験結果。<br>・基準データや根拠となるデータの開示。<br>・判断基準となる反対意見の情報。 | ・安全性を強調しすぎるのでは？（20代男） |
| 地層処分研究開発内容 | 研究内容・オプション | ・ＨＬＷ処理方法の研究内容。<br>・地層処分以外の処分オプションの研究内容、条件など。<br>・直接対話形式の情報提供。<br>・数値データを用いた説明。<br>・国内外の複数機関の成果の比較。<br>・専門家の賛成・反対の研究内容、意見の両論併記。<br>・Ｑ＆Ａ集の提供。<br>・実写映像による情報の提供。<br>・放射能の人体影響を示したデータの提示。 | ・ビデオでは、安全しか述べていない。（20代男）<br>・デメリットが示されていない。（20代男）<br>・研究施設が見えない。（20代男）<br>・安全の根拠を示すデータがない。（20代男）<br>・バリアの隔離性能を実証してほしい。（30代女）<br>・国際協力についての情報。（30代女） |
| | 地下のメカニズム | ・想定外事象の影響の評価結果。<br>・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。 | ・地下のメカニズムの解明は妥当か？（30代女）<br>・地下のトラブル予想は可能か？（30代女） |
| | 長期的安全性 | ・施設モニタリング方法の説明。<br>・処分場の操業方法と安全対策内容。 | ・地下のトラブルの監視はしないのか？（30代女） |

表５－１４　態度特性分類毎（反対：集団主義的反対）のヒアリング対象者の地層処分研究開発に関する情報ニーズ

＜態度特性＝反対：集団主義的反対＞

| 分類 | 項目 | 情報ニーズの内容 | 情報ニーズの内容 |
|---|---|---|---|
| 政策・制度・組織に関わる情報 | 原子力政策 | ・地層処分の実施に関して研究、処分方法、事業主体、場所、操業方法等の選定過程の公開。<br>・原子力政策の周知。<br>・処分方法の選択理由の説明。 | ・処分しないという代替案も検討すべきでは？（30代男） |
| 地層処分事業の過程に関わる情報 | 世代間の負担 | ・次世代への影響の有無と程度。<br>・放射能残存の程度とその子孫への影響度。 | ・次世代への影響はないといえるか？（30代男） |
| 地層処分研究開発内容 | 地下のメカニズム | ・コンピュータでは、予測できないトラブルや不測の事態の可能性の提示。<br>・シミュレーションの予測性能。<br>・実験による限界とシミュレーションの必要性。<br>・シュミレーションと実験による実証方法とその結果。<br>・想定外事象の影響の評価結果。 | ・相手は自然なので、地中でなにが起きるか判らない。（30代男） |

## 表５－１５（1/2）　賛成の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［賛成］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 積極的賛成 | 社会・政治への期待<br>情報・組織への信頼<br>利害対立の認識<br>必要性の認識<br>社会制度への依存<br>集団主義 | 多い集団<br>・男性<br><br>少ない集団<br>・女性（主婦） | ・廃棄物を消滅させることができない以上、なんらかの処分は必要。安全性が確認されているなら賛成 | ・処分場の耐震性は確保されているか。地震は不確実ではないか<br>・緩衝材の耐水性は充分か<br>・施設の耐圧能力は充分か。1000mの地下では圧力はどの程度になるのか。それに耐えられる構造物は造れるのか。岩盤の変形もある<br>・説明は具体的な数字や図を添えて示してほしい | ・埋設をすべて無人のコンピュータ制御でできるということなので安全だと思う<br>・地上にある原子力発電所に比べて地中深い地層処分場の安全感は高い<br>・処分→放置ではなく、長期的に管理することも検討すべき<br>・原子力のよる豊かな暮らしなどの利便性は積極的に享受すべき | ・原子力がなかったら今の生活レベルはどうなるか、と考えるとぞっとする<br>・政党も原子力には反対しなくなってきている | ・技術的安全性についてはある程度信頼する。シミュレーション結果など数字で示されれば信用する |
| 消極的賛成 | 社会・政治への期待<br>リスクの認知<br>必要性の認識<br>個人主義<br>問題への知識・関心 | 多い集団<br>・女性（主婦）<br>・高学歴<br><br>少ない集団<br>・男性 | ・自分たちが使う電気エネルギーのゴミなので処分は仕方がない | ・放射能というと悪いイメージがあるが、もっとちゃんと知識を持つ必要がある<br>・地層処分のコストはどれくらいか。電気料金にどのように跳ね返ってくるのか | ・かなり地下深くに埋めるということで生活圏には影響ない<br>・埋設作業中や輸送中に万が一の事故が起こることが心配<br>・東京に住んでいるので栃木か茨城の山の中ぐらいまで離れていれば安心できる<br>・日本では放射能による人体影響がでるような事故はなく安心している | ・自分たちが使う電気エネルギーのゴミなので処分自体は仕方がない<br>・処分は電力の責任 | ・不利なことは隠している<br>・役人ではなく開発技術者自らの話は信用できる |
| 問題認識低 | リスクの認知<br>公平性の重視<br>利害対立の認識<br>個人主義 | 多い集団<br>・男性<br>・低学歴<br><br>少ない集団 | ・立地に適した場所があり地元の反対がなければ賛成<br>・自分や家族がリスクを負担するのは絶対反対 | ・地層処分の実施により電気代がどれだけ上がるのか<br>・自分に関係のある問題だとは思わない。自分の町に建設されるはずもない | ・放射能による環境汚染が心配<br>・反対する人はごねているだけ<br>・自分の町には絶対反対<br>・専門家が安全だといえば、多くの人は納得するだろう | ・すでにあるゴミの処分は仕方がない<br>・原子力からは受けている恩恵は大きい<br>・一部住民の犠牲は仕方がない | ・学者や研究者はまじめで信頼できる<br>・技術的に正しいならばその決定は政治的にも妥当<br>・役所による管理には不信感がある |

表５－１５（2/2）　賛成の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［賛成］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 集団依存的賛成 | 社会・政治への期待<br>情報・組織への信頼<br>リスクの認知<br>社会制度への依存 | 多い集団<br>・子供なし<br>・会社員<br>・公務員<br><br>少ない集団<br>・高学歴 | ・専門家の人が判断したのなら<br>・ただ最近の事故のように専門性のない人がお役所的に判断するのなら疑問<br>・地層処分技術には実績はあるか。新規の技術は不安 | ・原子力全般に関してよそ事という感覚<br>・原子力や放射能の問題よりもゴミのダイオキシンの方に関心がある<br>・ゴミは自分の生活の中から出てくるもので関わりがある。原子力は遠い問題<br>・原子力への関心は強いて言えば事故の可能性<br>・チェルノブイリも時間が経てばみんな忘れる | ・廃棄物の量は思ったほど多くない。いままでは産業廃棄物みたいにどんどん出てくるものと思っていた<br>・放射能も発電所の煙突から煤煙のように出ていくと思っていた<br>・放射能は目に見えない怖いものというイメージがあったが、ガラスに固められて目に見えるので多少は安心<br>・安全確保には二重三重に気を使っている<br>・処分場は大規模、壮大で本当にできるのか | ・処分は国に責任がある | ・技術的には高水準で信頼しているが、動燃などを見ると組織的には低レベルで人間のミスがある<br>・原子力を仕事としている人が一番身近に怖さを知っていると思うのでその判断は信頼できる |

表５－１６（1/4）　中立の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［中立］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 積極的中立 | 必要性の認識<br>リスクの認知<br>公共性の重視<br>公平性の重視<br>社会・政治への期待 | 多い集団<br>・30,40代<br>・子持ち女性<br><br>少ない集団 | ・自分自身で承認できる納得感がない。他人任せの判断は避けたい<br>・明確に反対ではないが、きちんと判断できる知識や情報もないので保留<br>・後世にも影響があるので慎重に | ・地層処分以外の処分技術の可能性は実のところどうなのか。定量的な比較データが必要<br>・廃棄物の量はどの程度か<br>・処分の期間や減衰していく時間の長さはどの程度か<br>・廃棄物量が逼迫し最終的に処分方法を決定せざるを得ない時期はいつ頃か。廃棄物量の時間的推移、増加傾向<br>・高レベルの放射性物質を地中に埋めることの環境影響<br>・埋設工事中に事故が起きる可能性はないか<br>・現実的に起こりうる最悪のケースはどのようなものか。裏表、良い面、悪い面を率直に<br>・地層処分場はどの程度の規模で何サイト建設され何年続くか<br>・地中に埋めて放棄するのか、管理するのか、方針が曖昧<br>・実際に模型などで体験したい | ・放射能が減衰していく時間は人間の生活サイクルを遙かに超えている<br>・処分問題は人知を越えた問題だが、現にある以上受け入れざるを得ない<br>・日常生活とあまりにもかけ離れているので、無責任、安易に判断しやすい<br>・原子力発電に比べると地層処分の方が遙かに安全。それは地上と地下の違い | ・地層処分を選択せざるを得ない必然性は今のところ無い<br>・原子力発電は既成事実として認めざるを得ない。現実につきあってしまった | ・猶予が無くなり判断せざるを得なくなったときには専門家の判断を尊重する<br>・専門家は責任を持って判断するべき<br>・専門家は自分の仕事をどうしてもポジティブに考える<br>・故意に隠しているとは思わない |

表５－１６（2/4）　中立の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［中立］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 懐疑的中立 | 利害対立の認識<br>リスクの認知<br>公平性の重視<br>問題への知識・関心<br>自己犠牲の拒否 | 多い集団<br><br>少ない集団 | ・研究は十分に進んでいるのか、その成果は開示されているか | ・問題点はすべて想定できているのか。なぜそうだと言えるのか<br>・放射能が漏れてくる事態は本当に起きないのか<br>・地下で地盤に亀裂が入ることはないのか<br>・自分たちの世代に影響があるか<br>・知識が無く過剰に危険視している面があるので情報公開が必要<br>・筋道を立てたわかりやすい説明<br>・安全面、危険面のありのままの情報<br>・安全性や放射能レベルを常時監視する体制にあるのか | ・放射能の漏洩や地下水の侵入を防ぐ手だては二重三重によく検討されている<br>・地震については不確実性が大きく誰も確かなことは言えない<br>・予想以上の地震により放射能が漏れ出てくる可能性はある<br>・放射能の残存期間は５０年ぐらいだと思うが、長い期間である<br>・よく知らないために無闇に怖がっている側面はある<br>・高レベル廃棄物の発生は発電所に責任がある<br>・事実を丁寧に説明して漠然とした不安を払拭できれば沖縄の基地問題よりは解決は容易<br>・原子力問題は国レベルなので住民投票にはなじまない | ・安全性が確保されているのであれば原子力の利用は必要 | ・事実を隠蔽する体質がある<br>・経済原則が安全性に優先する<br>・一局集中的のなので監査が効かない<br>・阪神大震災を予測できた専門家はいなかった<br>・長期間管理するのなら営利企業ではだめ、公的資金の裏付けが必要 |

表５－１６（3/4）　中立の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［中立］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 個人主義的無関心 | 利害対立の認識<br>情報・組織への信頼<br>社会・政治への期待<br>自己犠牲の拒否 | 多い集団<br>・20代女性<br><br>少ない集団 | ・できればやめた方がよい。他に手段がなければ仕方がない | ・知らないうちに放射性廃棄物が自分のそばを運ばれているのではないか<br>・発電や輸送中に起こった放射能漏れが隠されているのではないか<br>・自分のまわりで具体的な問題が持ち上がらない限り関心は持たないだろう<br>・建設にまつわる地域への見返りはどうするのか | ・放射性廃棄物を地中に埋めるのは気持ちが悪い。地下と地上はつながっているから<br>・発電所内にあれば隔離されているイメージだが、自分につながっている地下にあるとなると生々しい<br>・なんとなく地殻変動などで地上に出てくる気がする<br>・放射線が限りなくゼロになるという言い方に違和感がある。完全にゼロになった方がよい。<br>・自然界にも放射線があることは知らなかった<br>・原子力対する地元の反対はすごいなと思う。ただ結局、泣きを見るだけ。自分には関わりはない。<br>・あれだけ安全対策をしてるんだから、それでもだめなときは地球が爆発するときぐらい。そのときはもう仕方がない。そういう意味で安心<br>・人里離れた山奥に作ろうとすることが秘密の地下組織みたいであやしい | ・原子力発電は現状いすでにあるので仕方がない<br>・処分の必要性はよくわからない。実感が沸かない | ・安全だというばかりで信用できない<br>・機密事項が隠されていると思う |

表５－１６（4/4）　中立の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［中立］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 集団主義的無関心 | 必要性の認識<br>情報・組織への信頼<br>リスクの認知<br>公共性の重視<br>利害対立の認識<br>集団主義 | 多い集団<br>・会社員<br>・公務員<br>・子供なし<br>・30,40代男性<br><br>少ない集団 | ・自分に関わりない場所に作るのであれば国が勝手に決めて良い。どうでもよい | ・廃棄物量や処分が切迫するまでの時期など判断材料がほしい<br>・自分の町に来ない限り関心はない | ・原子力というとチェルノブイリや奇形児をイメージする<br>・100%の安全が保証されなければならない<br>・あまり社会問題にならないまま処分が実施されると思う。たぶん北海道か東北辺りに | ・処分は国が責任を持って決めるべき。市民が口を挟む問題ではない<br>・便利な以上、原子力は必要 | ・良い面、安全性しか言わないことには不信感<br>・技術的能力は高い<br>・不祥事はつきもので、仕方がない |

表５－１７（1/2）　反対の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［反対］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 条件付き反対<br><br>論理的 | 必要性の認識<br>リスクの認知<br>社会・政治への期待<br>公共性の重視 | 多い集団<br><br>少ない集団<br>・女性（主婦） | ・地盤が安定していること。ツンドラなど無人地帯に。国内は難しい<br>・燃料サイクルが確立して経済的に見合うこと<br>・他の処分方法も真剣に検討すること | ・埋設中では何年間経路を開放するのか、その危険性<br>・坑道が圧力で潰れないか<br>・処分費用はどの程度電気料金に影響するのか<br>・長期間生活圏に影響がないことをどう証明するのか、見落としはないか<br>・処分技術の選択やリスク許容値の基準は<br>・ガラス固化体の運搬はどうするのか<br>・ガラス固化体の大きさおよび本数はどの程度か | ・不経済<br>・水の浸透防止は困難<br>・他に選択肢が無いという安易な発想<br>・発電所が点であるのに対して処分場は面的に広がっている<br>・各電力がそれぞれ建設<br>・固化ガラスの表面から溶出 | ・原子力発電をやっている以上必要<br>・原子力発電は必要 | ・水の浸透があり技術的に困難<br>・組織管理レベルが低い<br>・官僚的で信頼できない |
| 積極的反対<br><br>リスク重視 | 自己犠牲の拒否<br>リスクの認知<br>個人主義<br>公共性の重視<br>問題への知識・関心 | 多い集団<br>・高齢者<br><br>少ない集団 | ・本当に安全だと確信が持てない限り反対<br>・確証のある処分技術が出てくるまで待つべき | ・地層処分の安全性は推測だけで証明されていない。何らかの臨床例や実績はあるのか<br>・処分された廃棄物は最終的には無害なものに変わるのか。それにかかる時間はどれくらいか。 | ・目に見えない放射能が長い年月を掛けて徐々に地上に浸み出してくるという不安感<br>・処分後、地中の物質と長い年月の間に反応して悪影響が出てくるかもしれない<br>・廃棄物の量を小さく固められることは優れている<br>・人体並びに地球環境に影響を与えることが一番問題<br>・連鎖の中で食物摂取から人体に影響が出てくる<br>・ガラスからは溶けだし難いというのは日常感覚的にわかる<br>・人間に予測できるのはせいぜい数１０年である<br>・被害の範囲は距離的に限定できない。地球規模 | ・原子力発電よりもフリーエネルギーや新エネルギーを開発するべき<br>・原子力のような危険なものに頼るべきではない<br>・責任は我々一人一人にある<br>・みんなで協議する必要 | ・研究者のモラルは高いと思う<br>・研究成果もある程度はあがっている。ただベストではなく、ベストの処分技術が開発されなければならない |

表５－１７（2/2）　反対の態度をとる公衆の意識構造分類ごとの問題認識

［反対］

| 意識構造分類 | | | 付帯条件 | 認識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分類 | 影響項目 | 特徴的個人属性 | | 関心 | 理解、誤解 | 必要性の認識 | 技術への信頼 |
| 個人主義的反対 | 社会・政治への期待<br>自己犠牲の拒否<br>利害対立の認識<br>社会制度への依存<br>個人主義 | 多い集団<br><br>少ない集団 | ・賛成でも反対でもないが自宅そばにはつくらないでほしい<br>・本来ならば 100%安全とすべき | ・放射能を完全に取り去る技術はないのか<br>・実際に研究している施設や研究者はどのようか<br>・地層処分のデメリットはどうか。デメリットは全くないのか<br>・廃棄物から積極的にメリットを引き出すことはできないのか | ・地層処分は現状ではもっとも安全そうな印象がある<br>・放射能のリスクにはしきい値がない<br>・安全ならば国会議事堂の下に処分すればよい。国の政治を司る人が姿勢で示す必要<br>・核の廃棄物のような国家レベルの問題と自分の生活の問題は結びつかない<br>・家庭のゴミの場合は自分に責任があるという実感はあるが、発電のゴミの場合は発生する過程が目に見えないのでピンとこない<br>・原子力関係者の利権で原子力政策が決められている<br>・臭いものには蓋をしろという印象 | ・廃棄物処分は、生活の便利さのためにはある程度なくてはならない。必要悪<br>・処分は、電気を使う側ではなく電気を作る側の責任 | ・安全性を印象づけようとする意図が見える。安全性を強調するほど眉唾になる<br>・他に選択肢がないからやっていることを正当化しない |
| 集団主義的反対 | 必要性の認識<br>社会・政治への期待<br>リスクの認知<br>公平性の重視 | 多い集団<br>・子供あり<br>・主婦<br><br>少ない集団 | ・他のよりよい方法が開発されるまで廃棄物は保管する<br>・国会議事堂の下に保管する | ・他の解決策はどうか。なぜ開発されないのか<br>・地層処分が推進される政治的背景は何か | ・地中に原子爆弾を埋めるようなもの<br>・放射能が漏れだしてチェルノブイリのような奇形児が生まれる | ・早く新エネルギーを開発して原子力から撤退する<br>・消滅処理を開発すれば処分は必要ない<br>・処分の責任は行政にある。個人にはない | ・研究者にやる気があれば消滅処理などもっといい方法が開発できる<br>・官僚や原子力事業者は信用できない |

表５－１８(1/2)　賛成の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

［賛成］

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 積極的賛成 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・一般に関心は高く、豊かな生活のために必要と認識している<br>・「豊かな暮らしを支えるため」、「社会全体の幸福のため」など社会的必要性をアピールする | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略 |
| | 正しい認識 | ・積極的、建設的に理解しようとする姿勢に応える<br>・男性が多いため、表現は具体的で、データを多用する<br>・耐震性、耐水性、処分量、処分時期、等<br>・地中深く埋設することの利点、安全性 | ・保守系週刊誌のＰＲ記事等における技術評論家のやや詳しい紹介 |
| | 必要性の周知 | ・原子力の必要性、地層処分の技術的優位性を、豊かな暮らしの維持と関連させて説明する<br>・男性が多いため、表現は具体的で、データを多用する | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略 |
| | 技術への信頼 | ・もともと高い信頼感、高い期待に応える<br>・シミュレーション結果など、高い技術水準を印象づける表現を用いて、具体的な技術内容を紹介する | ・保守系週刊誌のＰＲ記事等における技術評論家のやや詳しい紹介 |
| 消極的賛成 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・社会問題に関心は高く、豊かな暮らしのために原子力は必要と認識している。また客観的、合理的に判断する姿勢を持つ<br>・「豊かな暮らしを支えるため」、「社会全体の幸福のため」など社会的重要性、必要性をアピールする | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略 |
| | 正しい認識 | ・安全性やコストに懸念を持つ。この懸念を解消するような説明<br>・高学歴な女性が多いため、質の高いイメージ表現を用いる<br>・原子力発電所に比べ、地中深くに埋設する地層処分の方が安全と認識されているため、この点を適切にアピールする | ・知的女性月刊誌のＰＲ記事等において、好感度の高い女性評論家を起用した、やや詳しい紹介<br>・社会的重要性と関連づけた表現 |
| | 必要性の周知 | ・自分たちが電気を使うことにより発生していることを認識している<br>・原子力の必要性、地層処分の安全性を、都会的で豊かなくらしをおくることやその責任と関連づけてアピールする<br>・都会的で豊かなくらしのイメージ基調に表現する | ・知的女性月刊誌のＰＲ記事等において、都会的で豊かなくらしのイメージ基調に表現する |
| | 技術への信頼 | ・技術や技術者への信頼は比較的高い<br>・重役クラスではなく、現場の第一線の技術者による説明 | ・知的女性月刊誌のＰＲ記事等において、現場の第一線の技術者を登場させた解説 |

表５－１８(2/2)　賛成の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

［賛成］

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 問題認識低 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心や問題意識は低いが、反対を唱える可能性は低い<br>・周囲の多数が賛成だと感じればそれに影響を受ける<br>・常識として知っておかなければならないと感じれば興味を持つ<br>・周囲の良識派、多数派が賛成していることを印象づける | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略 |
| | 正しい認識 | ・学者、研究者への信頼は高い<br>・学者、研究者による平明な解説<br>・ガラスの安定性やオグロの自然炉など | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 必要性の周知 | ・豊かなくらしをするためには地層処分は不可欠であることを解説する | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 技術への信頼 | ・技術や技術者への信頼は比較的高い | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| 集団依存的賛成 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心や問題意識は低いが、反対を唱える可能性は低い<br>・国が責任を持って実施することをいえば、それを受け入れる<br>・周囲の多数が賛成だと感じればそれに影響を受ける<br>・常識として知っておかなければならないと感じれば興味を持つ<br>・周囲の良識派、多数派が賛成していることを印象づける | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略<br>・国が責任を持って実施することの信頼感を伴った表現 |
| | 正しい認識 | ・学者、研究者への信頼は高い<br>・学者、研究者による平明な解説<br>・ガラスの安定性やオグロの自然炉など | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 必要性の周知 | ・豊かなくらしをするためには地層処分は不可欠であることを解説する | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 技術への信頼 | ・技術や技術者への信頼は比較的高い<br>・国が責任を持って処分することを強調する | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |

表５－１９(1/2)　中立の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

［中立］

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 積極的中立 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心や問題意識は高い<br>・情報ニーズも高く、多様<br>・詳しい解説記事等により、関心に応える | ・知的月刊誌等による特集記事 |
| | 正しい認識 | ・他人任せではなく、公平な情報に基づいて自分で理解しないと納得しない。論理的に思考する<br>・良い面、悪い面を率直に説明した詳しい解説 | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| | 必要性の周知 | ・なぜ地層処分でなければならないのか、なぜ今から準備していく必要があるのか、についての詳しい解説 | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| | 技術への信頼 | ・良い面、悪い面を率直に説明し、信憑性をアピールする | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| 懐疑的中立 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心はさほど高くなく、斜に構えている面がある<br>・原子力発電の必要性に関してはある程度理解があるので、原子力発電の必要性→地層処分の必要性→関心、自分との関わりの認識へと促す | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解 |
| | 正しい認識 | ・ある程度、客観的合理的に判断しようとする姿勢はある<br>・なぜ正しく予測できるのか、不確実性は克服できるのか、見落としはないのか、長期間の予測は可能か、等に関して懐疑的であるため、その不信感を払拭するほど説得性が必要 | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解<br>・負の情報や踏み込んだ情報公開 |
| | 必要性の周知 | ・なぜ地層処分でなければならないのか、なぜ今から準備していく必要があるのか、についての詳しい解説 | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解<br>・負の情報や踏み込んだ情報公開 |
| | 技術への信頼 | ・実施側の隠蔽体質、関連企業の利益優先、官僚的事なかれ主義に批判的<br>・当事者の真剣さ、真摯な態度を目に見える形でアピールする | ・負の情報や踏み込んだ情報公開<br>・実施主体組織の透明性の確保、第３者によるチェック |
| 個人主義的<br>無関心 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・原子力に関し無関心で知識も乏しい。また懐疑的な傾向も持つ<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する<br>・自分の生活との関わりをアピールする | ・街頭広告ポスター等、マスメディアを用い、一人一人の暮らしに関わりがあること、責任があることをアピールする |
| | 正しい認識 | ・自然界にも放射線があること、３割以上の電力が原子力発電により賄われていることなどの基本的知識の周知 | ・エネルギー教育等による対応が必要 |
| | 必要性の周知 | ・地層処分はあまりにも生活からかけ離れているので実感を伴っていない<br>・家庭ゴミとゴミ処理との関係、電気の消費と処分の必要性などの関係を身近な話題によりわかりやすく説明 | ・街頭広告ポスター等、マスメディアを用い、一人一人の暮らしに関わりがあること、責任があることをアピールする |
| | 技術への信頼 | ・実施主体に懐疑的な姿勢がある<br>・現場の技術者による顔の見える説明 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |

表５－１９(2/2)　中立の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

[中立]

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| | 技術への信頼 | ・実施主体に懐疑的な姿勢がある<br>・現場の技術者による顔の見える説明 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| 集団主義的無関心 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・原子力に関し無関心で知識も乏しい。<br>・周囲に迎合する傾向がある<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する<br>・自分の生活との関わりをアピールする | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略<br>・国が責任を持って実施することの信頼感を伴った表現 |
| | 正しい認識 | ・バイアスのかかったマスコミ報道から受けている誤解を解消するような説明が必要 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 必要性の周知 | ・地層処分のようなものは国の責任で、自分は関係ないと認識している。<br>・国が責任を持って実施することを周知する<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 技術への信頼 | ・技術的能力については基本的に信頼している<br>・実施主体には若干の不信感がある<br>・現場の技術者による顔の見える説明 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |

表５－２０(1/2)　反対の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

[反対]

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 条件付き反対<br><br>論理的 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心や問題意識は高い<br>・情報ニーズも高く、多様な視点を持っている<br>・詳しい解説記事等により、関心に応える | ・知的月刊誌等による特集記事 |
| | 正しい認識 | ・他人任せではなく、公平な情報に基づいて自分で理解しないと納得しない。論理的に思考する<br>・良い面、悪い面を率直に説明した詳しい解説 | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| | 必要性の周知 | ・なぜ地層処分でなければならないのか、なぜ今から準備していく必要があるのか、についての詳しい解説 | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| | 技術への信頼 | ・良い面、悪い面を率直に説明し、信憑性をアピールする | ・知的月刊誌等による特集記事<br>・中立的評論家による解説記事 |
| 積極的反対<br><br>リスク重視 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・関心や知識はあるが、反対という見方に硬直している<br>・原子力は必要ないと考えている<br>・原子力に対する拒否感を和らげる必要がある | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解 |
| | 正しい認識 | ・基本的な事実関係に誤解が多く、硬直的に思いこんでいる<br>・放射線や高レベル廃棄物など、基本的な事項を周知する必要がある | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解<br>・負の情報や踏み込んだ情報公開 |
| | 必要性の周知 | ・原子力は日宇町内と考えている<br>・なぜ地層処分でなければならないのか、なぜ今から準備していく必要があるのか、についての詳しい解説 | ・信頼できるオピニオンリーダによる見解<br>・負の情報や踏み込んだ情報公開 |
| | 技術への信頼 | ・実施側の隠蔽体質、関連企業の利益優先、官僚的事なかれ主義に批判的<br>・当事者の真剣さ、真摯な態度を目に見える形でアピールする | ・負の情報や踏み込んだ情報公開<br>・実施主体組織の透明性の確保、第３者によるチェック |

表５－２０(2/2)　反対の態度をとる公衆への情報提供シナリオ

［反対］

| 意識構造分類 | 訴求ポイント | | 媒体 |
|---|---|---|---|
| 個人主義的<br>反対 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・原子力に関し無関心で知識も乏しい。また懐疑的な傾向も持つ<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する<br>・自分の生活との関わりをアピールする | ・街頭広告ポスター等、マスメディアを用い、一人一人の暮らしに関わりがあること、責任があることをアピールする |
| | 正しい認識 | ・自然界にも放射線があること、３割以上の電力が原子力発電により賄われていることなどの基本的知識の周知 | ・エネルギー教育等による対応が必要 |
| | 必要性の周知 | ・地層処分はあまりにも生活からかけ離れているので実感を伴っていない<br>・家庭ゴミとゴミ処理との関係、電気の消費と処分の必要性などの関係を身近な話題によりわかりやすく説明 | ・街頭広告ポスター等、マスメディアを用い、一人一人の暮らしに関わりがあること、責任があることをアピールする |
| | 技術への信頼 | ・実施主体に懐疑的な姿勢がある<br>・現場の技術者による顔の見える説明 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| 集団主義的<br>反対 | 関心喚起<br>距離感の解消 | ・原子力に関し無関心で知識も乏しい。<br>・周囲に迎合する傾向がある<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する<br>・自分の生活との関わりをアピールする | ・ＴＶコマーシャル等、マスメディアを用い、その内容に共感する人が良識を持った社会的多数派であることを実感するような戦略<br>・国が責任を持って実施することの信頼感を伴った表現 |
| | 正しい認識 | ・バイアスのかかったマスコミ報道から受けている誤解を解消するような説明が必要 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 必要性の周知 | ・地層処分のようなものは国の責任で、自分は関係ないと認識している。<br>・国が責任を持って実施することを周知する<br>・豊かな暮らしを享受することによる責任意識を喚起する | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |
| | 技術への信頼 | ・技術的能力については基本的に信頼している<br>・実施主体には若干の不信感がある<br>・現場の技術者による顔の見える説明 | ・一般週刊誌、マンガ週刊誌等による、学者、研究者を登場させた平明な解説 |

## 6．まとめ

### 6．1　これまでの研究成果のまとめ

平成６年度～平成９年度にかけて、地層処分研究開発情報の理解・受容を促進する方法論を検討してきた。表6-1にこれまでの研究の概要を示す。

本研究では、地層処分にかかわる情報を提供した場合に、一般公衆がどのような反応を示すかを調べることを目的に、東京都区内居住者を対象にしたヒアリング調査を実施した。このヒアリング調査で得られた知見を基に、公衆の意識構造とその要素間の相互関係を整理して、地層処分にかかわる情報の認知モデルを作成した。また、情報を受け取った個々人が採る態度は意識構造に基づきグループ化され、従来の公衆というひとくくりの概念では不十分で、いわば分衆の集合として扱う必要のあることがわかった。また、個々の分衆に対して的確な情報を過不足なく提供することが望ましいことも明らかになった。

この分衆間の意識構造の種類を調べるために、東京近郊の一般人を対象としたアンケート調査を実施した。集計したデータと情報認知モデルに基づいて特徴を抽出し、意識構造別に１２のグループに分類した。さらに、意識構造のグループ別特性を考慮して情報提供シナリオ案を提示した。

表６－１　　これまでの研究の経緯

| 年度 | 位置付け | 研究目的 | 研究内容 | 実施内容 |
|---|---|---|---|---|
| 平成６年 | 予備調査 | 地層処分研究に対する態度を決める公衆の意識内容の把握 | 一般公衆の意識構造内容の予備調査 | ヒアリング調査<br>東京都下 30 代主婦(4名) |
| 平成７年 | 意識構造の分析 | 地層処分研究に対する意識構造の分析 | 意識内容の定義（問題認識の定義）と相互関係を分析 | ヒアリング調査<br>東京都下 30 代主婦(8名) |
| 平成８年 | 情報認知のモデル化 | 地層処分研究に対する情報認知過程のモデル化 | 問題認識の定義と相互関係の分析の拡充及び意識構造分析の拡充（性別の拡張） | ヒアリング調査<br>東京都下 30 代男性(10名) |
| 平成９年 | ・公衆意識構造のグループ化<br>・シナリオ案作成 | ・地層処分研究に対する公衆の意識構造のグループ化とグループの定量化<br>・グループ毎の情報提供シナリオ案の提示 | ・問題認識の定義と相互関係の分析及び意識構造分析の拡充と情報認知モデルの拡充（年齢層の拡張）<br>・グループ化とグループの特徴の抽出。特徴に適した情報提供シナリオ検討 | ・ヒアリング調査<br>東京都下 20 代男女(8名)、40 代以上男女(8名)<br>・アンケート調査*<br>東京近郊公衆 300 件弱 |

## 6．2　本年度研究の成果

（1）研究の背景

この研究は、地層処分という一般になじみの薄いテーマに関して、安全性の理解と技術の受容を促進するためには、どのような情報提供方法をとればよいかを検討することを目的としている。

一般公衆の地層処分技術への理解と安全性の受容を得るためには、地層処分研究に関する正しい情報と認識に基づいた社会的信頼を得ていく必要がある。しかし、地層処分研究に関する情報は、公衆にはなじみのないものでもあり、また専門的であることが多く、理解を得ることは難しい。このため、地層処分研究の成果を公衆に的確に伝える方法を検討することとした。

地層処分の是非を判断する際の公衆の意識が、情報提供の内容や提供方法のみならず原子力全般に関する印象に加えて、知識程度、価値観等に左右されるものと推測し、それらを分析することで有効な地層処分研究に関する情報の提供策を推定した。

（2）研究の経緯

平成6年度から平成9年度に掛けて、図 6-1 に示すように地層処分の是非に関して一般公衆を対象にインタビューとアンケート調査を東京近郊で実施して、公衆の地層処分研究に関する情報の認知過程のモデルを推定した。これらの結果を基に、図 6-2 に示すように、地層処分への態度をきめる意識構造を類型化し１２グループに分類し、提供策を推定した。

（3）研究の成果

本研究では、一般公衆の地層処分研究に関する情報の認知モデルを提起するとともに、公衆の地層処分への態度を決める意識構造のグループ毎に特徴を把握し、その類型毎に適切な地層処分研究に関する情報提供策を検討した。本年度の研究成果をまとめると次の通りである。

①地層処分研究に関する情報の認知過程のモデル化（図 6-3 参照）

・平成8年度の研究（意識構造の分析）を拡充（年齢層の拡張）するとともに情報認知過程をモデル化した。

・インタビュー（東京都下２０代以下及び４０代以上男女１６名）

・提供資料（平成6年度と同じ）

・インタビュー項目（平成7年度と同じ）

②地層処分への態度を決める公衆の意識構造の類型化（図 6-4 参照）

・アンケート調査（東京都近郊公衆３００名弱）

・定量的分類の手順＝アンケート集計→相関分析→因子分析→クラスター分析→主成分分

析

主成分：必要性、問題への関心・知識、リスク、公平性、個人主義、情報・組織への信頼
社会制度への依存

・アンケート内容＝地層処分研究情報の認知過程（社会的立場、問題認識、判断）に影響する因子に関する設問、地層処分への態度決定に影響する因子に関する設問

・地層処分への態度を決める公衆の意識構造の定量的な類型化による分類

・グループ毎の特徴の把握（態度分類：賛成１８％、どちらでもない４７％、反対３５％）

・グループ毎の情報提供策の推定

（４）今後の展開

この研究成果を実践（実際の広報の場）で検証するとともに、より広い地域への適用を目標にした研究と実際の広報活動への展開していく。

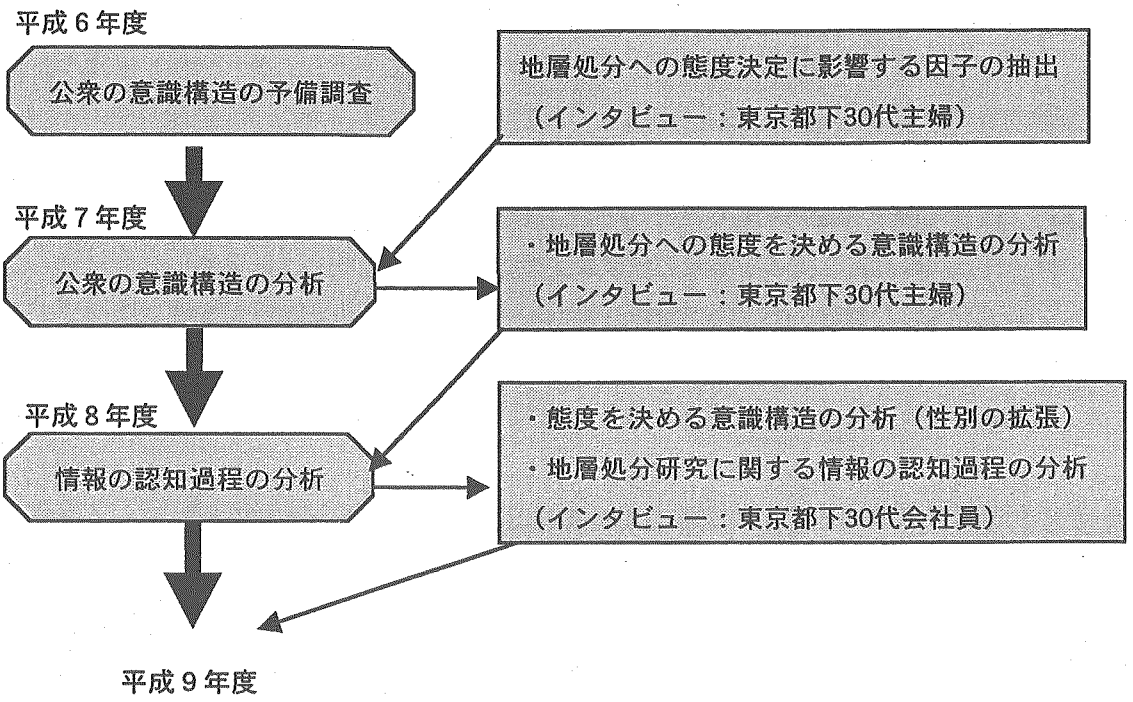



図６－１　平成９年度までの研究の経緯

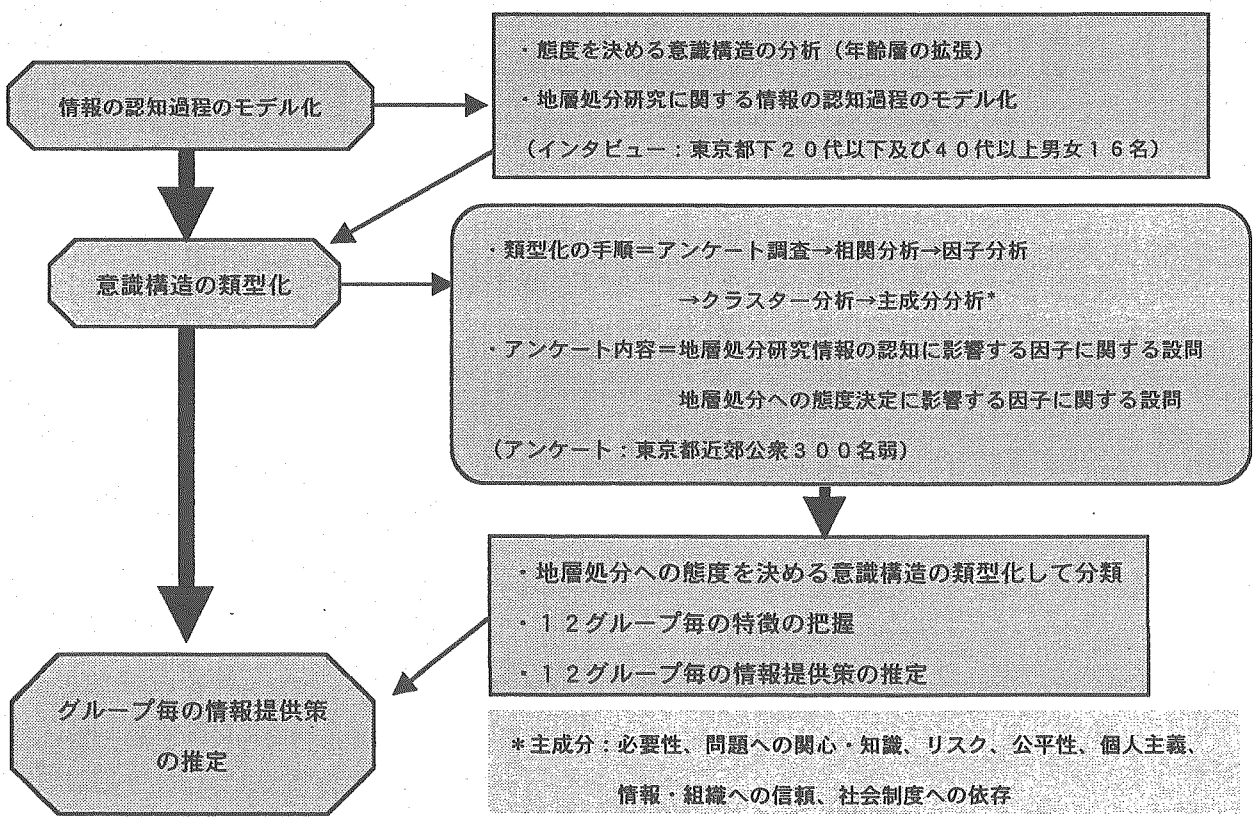



図６－２　平成９年度への研究の経緯

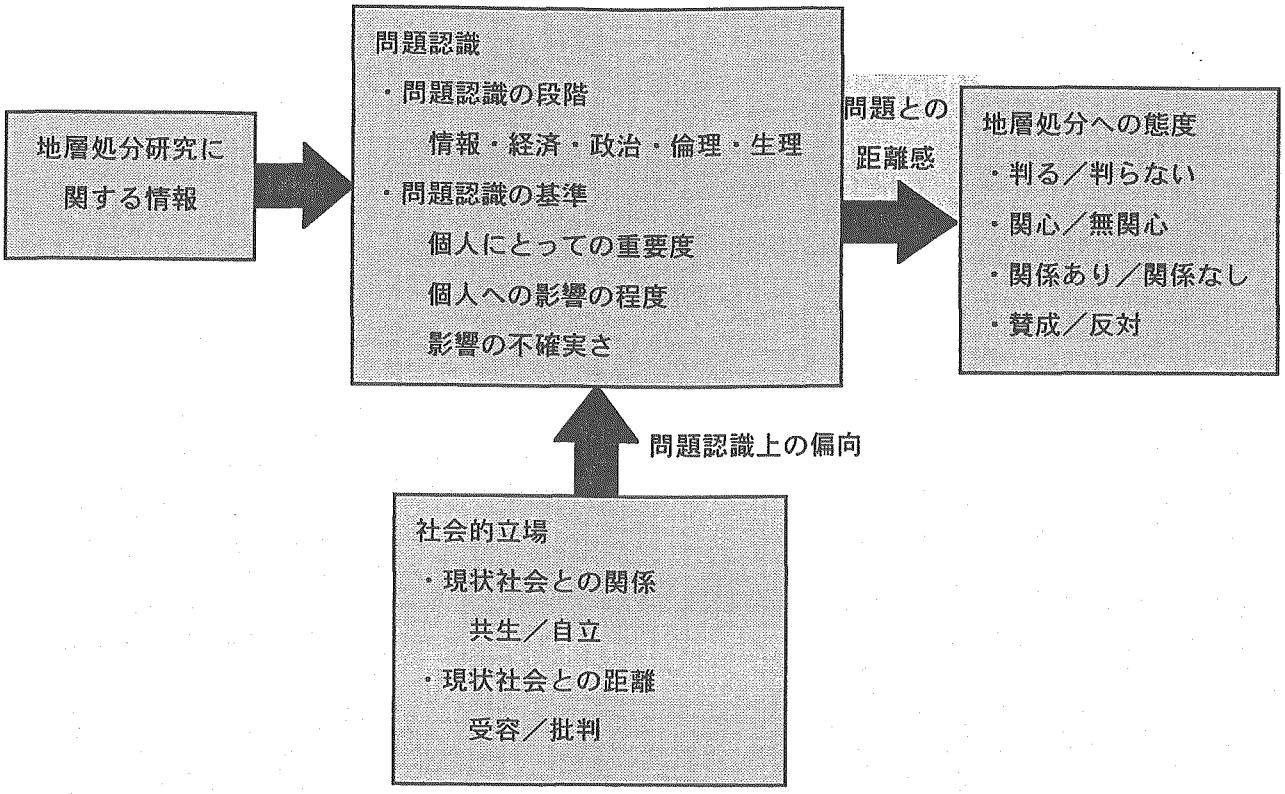



図６－３　本年度の研究成果（地層処分研究に関する情報の認知モデルの提起）

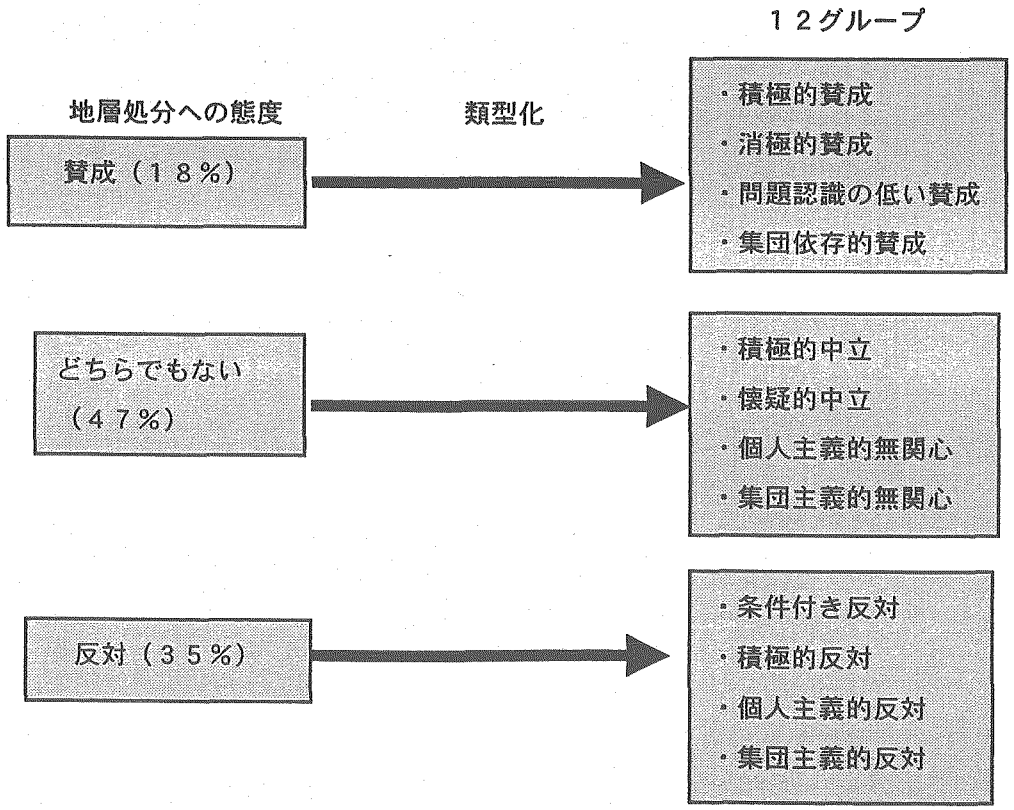



図６－４　本年度の研究成果（地層処分への態度を決める意識構造の類型化して分類）

## 添付資料A　リスクコミュニケーションの考え方

（1）伝統的リスクパブリシティ

「リスクコミュニケーション」は、狭義にはつぎのように考えられている。

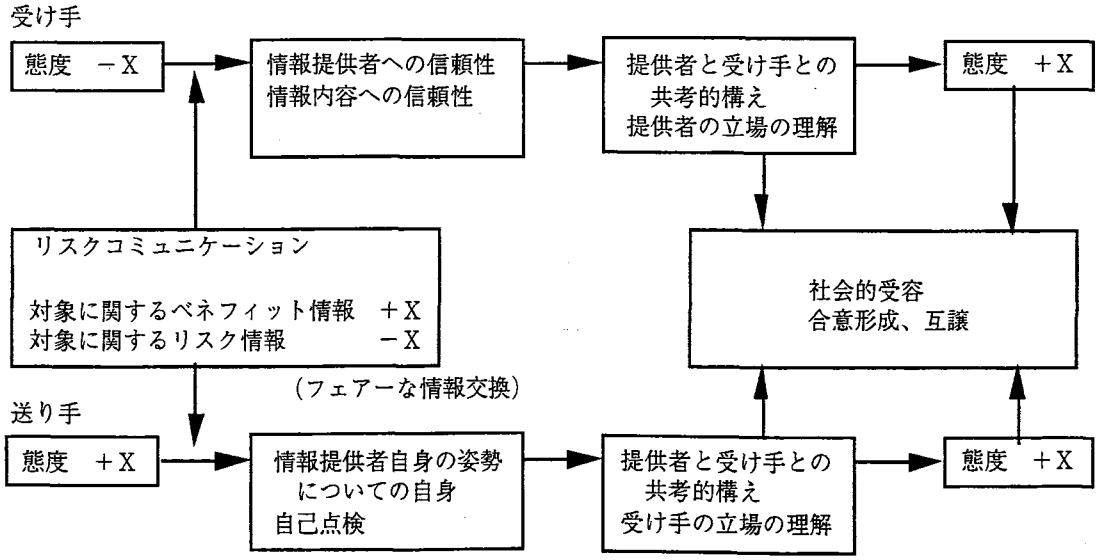
専門的知識を持たない一般公衆にとって、複雑な技術システムの持つリスクを正確に把握することは、難しい。不完全な知識により、過小評価したり、過大評価したりする。したがって専門家は、一般公衆が正確にリスクを把握し、合理的な意思決定ができるように、リスクやその発生源である技術システムに関する情報を判りやすく公衆に提供しなければならない。

（2）理性合理的リスクコミュニケーション

最近では、一方向的な情報の提示ではなく、次に示すように、双方向による情報のやりとりを基本として、互いの信頼感を醸成していく「双方向的リスクコミュニケーション」の重要性が認識されてきている。

複雑な技術システムの持つリスクに関し、異なる見解を持つグループが互いの情報を交換しつつ理性的にディベートを行うことにより、客観的に正しいと思われるリスク評価の共通認識に到達でき、その過程で互いに信頼感が醸成され、問題の解決が促進される。

しかしながら、正確かつ平明な技術情報を公衆に伝えるだけでは、現代の技術システムにまつわる論争の解決には直接結びつかない場合が多い。また公正客観的な情報交換をおこなっても、互いに異なる文化的背景を持つグループ間のリスクコミュニケーションを成功させることには少なからぬ限界がある。




図A－1　双方向的リスクコミュニケーションモデル[1)]

[1)] 木下　富雄、リスク・コミュニケーション、日本リスク研究学会誌、Vol.5,No.1、1993

ex) 日消連（日本消費者連盟関西グループ）の人たちとか原発のことで関心を持ってた人たちが学習会みたいなものをやっていた。そこへ私らも行ってて、女もけっこう多かったんやけど、男がやっぱり中心みたいな感じがあってね。進行役は女がやったりもしたけど、全体の話が冷静、客観、科学的というかね、そういう次元の話じゃないとあかんみたいな雰囲気を私は感じてた。それで何回目かは忘れたけれど、参加者のある男が「反原発というけど、ぼくは原発推進する側の意見と反原発の意見とを同じように聞いて、それで自分の考えをはっきりさせたいとおもってきたんや」というようなことをいうて、「なんかおかしい、これはおかしい」と思った。今やったら、自分がどう生きたいのかというのがまずあるから、「あんたはどんな生き方がしたいんや、あんた自身はどないやねん」みたいな感じで言えるねんけど、その時はどういうていいのかわからへんで、とにかくおかしいという思いだけはあった。（中略）どっかの新聞記者の男からも「なにがなんでも反対なんて、非科学的でむちゃくちゃな」って言われたもんな[1]。

上記の例は、生協活動を通して反原発運動に入っていった女性の考え方をよく表現しているものである。これは、先のa.およびb.のリスクコミュニケーションの考え方にあっては、望ましくないリスクへの態度であるといえる。しかしながら、彼女の考え方を上の新聞記者のように直ちに「非科学的でむちゃくちゃ」として否定しさることは難しい。それは次の理由による。

①「リスク」を客観的・厳密に定義し、指標として算出することはできない。

「リスク」は、その起源として、生物の個体に適切な防衛行動をとらせるための警戒シグナルに由来する。すなわち、失われる価値（生存そのものや生存のための食物など）が大きいほど、また失われる可能性が大きいほど、強い「リスク」として生物に知覚される。この結果、生物はそのような「リスク」の大きな状況を避けることにより、個体の生存や集団の繁栄を最大化していく。

したがって、本来的に「リスク」とは自分が抱く価値観とその価値観が失われる可能性で構成されているので、「リスク」観は個人の主観的価値観に本質的に基づいていることになる。

このような「リスク」を客観的、数学的に定義し、指標化することは難しい。（科学の主要な領域においてすら、客観的厳密性に対する論争は決着していない。現在のところ、・・・と考えても矛盾は観察されない、ことを客観的厳密と考えている。）（例えば、原子力発電と自動車のリスクを比較することは、双方に抱かれる価値がそもそも違うので、比較が難しい。単位電力量あたりの人命損失と単位移動距離あたりの人命損失を比較することは難しい。）（あるいは、電力量は客観的に定義で

[1] 三輪　妙子編、原発をとめる女たち、社会思想社、1990

きるが、電力利用の便利さは、客観的に定義できない)

②客観的・厳密に定義できない主観的価値観に対して、どれが正しく、どれが正しくないか、を判断することは、非常に難しい。

③人間のあらゆる感情的な反応は、発生学的な根拠を持ち、野生合理的[1]である。

例えば野生環境においては、各個体の縄張りを適切に分配し、各個体の生産性と野生社会全体の秩序を維持する必要がある。この秩序維持のためには、ルール違反者に警告を与え、さらに再度のルール違反を抑制させるための、個体間の作用が必要となる。このために発達したのが”怒り”という感情である。すなわち、集団の秩序維持のための自然発生的なルールは野生社会においても存在し、そのルールを犯されたものには”怒り”という感情が生じ、またルールを犯したものには”罪悪感”という感情が生じる。被害者が”怒り”を示し、加害者が”罪悪感”を抱くことが”加罰”という社会制度の本質であり、被害者は罪悪感による負の感情を心中に抱き、加害者はその結果、正の感情を受け取ることにより、社会的通貨の交換行為としてルール違反に対する補償が成立する。

この野生社会における秩序維持制度の発展形態が、現代社会における法制度である。ただし、現代社会においては、野生環境での空間的な縄張りと比べて、個人の権力・権利空間が非常に多様、複雑、抽象的であるため、社会的ルールの認識が個人により様々に異なり、野生合理性（すなわち”怒り”という感情システム）に基づく両者の共通認識での”加罰”行為が成立しにくい。このため、明文化した法体系の導入が必要となる 。

技術システムにおける「リスク」を生み出す側と、生み出される側の社会的交換行為も基本的に同様であり、人々が自然素朴に抱く「リスク」観のもつ野生合理性も充分尊重されなければならない。

（3）野生合理的リスクコミュニケーション

リスクに関するコミュニケーションは、純粋な技術論に閉じるものではなく、本来的に個人の主観に立脚したものである。したがってリスクコミュニケーションを通して生じる論争は、純粋な技術論以外の次元を持っている。この次元においては、客観的リスク指標の存在を前提とするリスクコミュニケーション形態（上記、（1）、（2））では問題解決に限界がある。この次元では、人間の持つ感情システムの特性が配慮されなければならない。これを、野生合理的リスクコミュニケーションと呼ぶ。

高等動物が持つ感情システムは、本来、野生環境に適合し集団の社会的統制を維持することにより個体や集団の生存や繁栄を実現していくための高度な認知情報処理システムとして発達してきたもの

---

[1] 戸田　正直、認知科学選書24　感情、東京大学出版会、1992

である。言語処理システムはこの感情システムを拠り所としている。また明文化された法体系も、野生環境における感情体系を起源としている。したがって、自然な感情体系を軽視することは、種の保存のための野生合理性を否定するものであり、法体系の自然法的な正当性の根拠も否定することになる。また感情論を排した論理的思考は、しばしば極端な非人間的結論へと導く。したがって、リスクコミュニケーションの場においても人々の自然素朴な「リスク」観が尊重される必要がある。リスクコミュニケーションは、異なるグループがお互いに感情的な満足に到達することを目指して進められなければならない。

しかしながら、複雑な現代社会においては自然法の調整が必要なのと同様に、個別状況での個人の野性的合理性にもとづく判断に一定の制約が課されなければならない。個人の主観的判断を至上のものとすると、「君と私とでは考え方が違う。どちらが悪いともどちらが良いとも言えない。互いに批判することは出来ない。自分の信念に基づいて行動するだけである」とする文化的相対主義、個人主義的ニヒリズムに陥ってしまう。特に、技術施設のリスクを扱う問題においては、市民の主観的判断を過度に尊重すると、個人の利害の最大化により社会全体の福利に深刻な損害がもたらされるという社会的ジレンマを引き起こす危険性がある。

（4）現実的なリスクコミュニケーションの方策（理性的合理性と野性的合理性の中庸）

客観的リスク指標の存在を前提とし異なるグループ間でのリスク評価の共通認識を目指す素朴な理性合理的リスクコミュニケーションでは、異なる文化的背景を持つグループ間の論争を解決するには不十分である。他方、個人の主観的判断の文化的相対性を過度に尊重したリスクコミュニケーションでは、現代社会では相対主義的なニヒリズムに陥るか社会的ジレンマを引き起こす可能性がある[1)]。

したがって、現実的なリスクコミュニケーションは、理性的合理性と野性的合理性の中庸を模索していく方向で進められなければならない。

表A－1に、以上述べたリスクコミュニケーションの次元についてまとめる。また、その典型例を表A－2に示す。

以上の3つの次元は、実際のリスクコミュニケーション分析で必ず問題点となるところである。例えば、遺伝仕組み換え施設の建設問題[2)]では、問題解決のための課題として、次の項目が抽出されている。

・客観的リスク評価に関する共通認識の形成

---

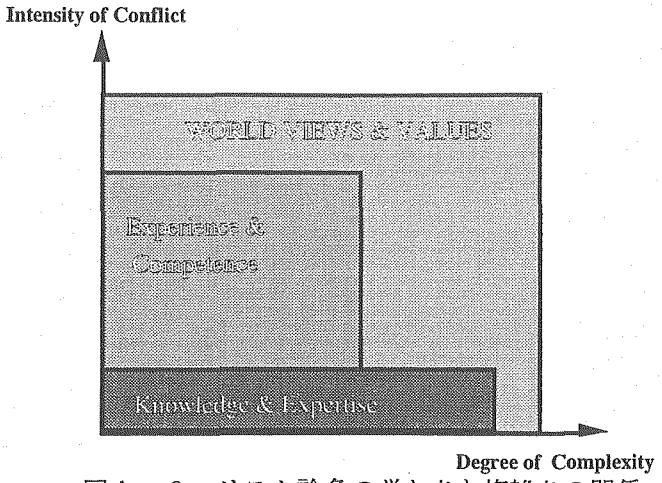
[1)] K.S.Sharader-Frechette, Risk and Rationality, University of California Press, 1991

[2)] 河合、社会的意思決定問題の事例分析、日本原子力学会　秋の大会、1993

・当事者間の信頼関係の醸成

・公と私、弊害をもたらしうるものと被りうるものとの競合についての、社会全体の議論を通じた調停基準の設定

また、Raynerも、リスク論争の厳しさと複雑さとの関係を、同様の次元を用いて整理している[1)]（図Ａ－２）。図中、第１レベルは技術的安全性の確率論的評価の問題であり（Knowledge & Expertise）、第２レベルは関係者や組織の経験度や適格性に起因する問題（Experience & competence）であり、第３のレベルは世界観や価値観に関わる問題（WORLD VIEWS & VALUES）である。Rayner は、もし第３レベルにおける問題が未解決のままならば、第２や第１レベルの解決も著しく困難になる、と述べている。




図Ａ－２　リスク論争の厳しさと複雑さの関係

[1)] S.Rayner, Risk and relativism in Science and policy, The Social and Cultural Construction of Risk, Reidel, Dordrecht, 1987

表A－1　リスクコミュニケーションの次元

| リスクコミュニケーション形態 | | コミュニケーションの方向性 | コミュニケーションのメディア | 基本的パラダイム | リスクに対する考え方 | 問題点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 伝統的リスクパブリシティ | | 一方向的（説得的） | 情報 | 啓蒙主義 | リスクは客観的合理的に評価できる。<br>したがって、その前提の上で議論ができる | ・客観的厳密性を持った「リスク指標」を定義する　ことが難しい<br>・専門的な技術的内容を公衆にわかりやすく伝達す　ることが難しい<br>・一方的な情報伝達は、民主的手続きと馴染まない |
| リスクコミュニケーション | 理性合理的リスクコミュニケーション | 双方向的（共考的） | 情報<br>信頼 | 近代合理主義<br>（素朴合理主義） | | ・客観的厳密性を持った「リスク指標」を定義する　ことが難しい<br>・専門的な技術的内容を公衆にわかりやすく伝達す　ることが難しい<br>・情報と信頼のみでは、文化的背景の異なるグルー　プ間では真の解決が得にくい<br>・論的的思考は、極端な過ちを犯しうる |
| | 野生合理的リスクコミュニケーション | 双方向的（共有的） | 情報<br>信頼<br>価値観・権力 | 文化相対主義<br>（感性至上主義） | リスクは個人の主観的価値観により、千差万別である。<br>したがって、リスク観の正統性には、優劣を付けられない。 | ・非合理的な判断、不明瞭な判断に至る可能性があ　る<br>・感情的対立、あるいは相対主義的ニヒリズムに陥　りやすい<br>・個々の市民が個人的利害（いまここ価値）のみを　追求すると社会的ジレンマに陥りる可能性がある |

表A－2　リスクコミュニケーション形態の典型例

| リスクコミュニケーション形態 | | 典型例 | |
|---|---|---|---|
| 伝統的リスクパブリシティ | | 「私はなぜ原子力を選択するのか」<br>The Nuclear Energy Option- An Alternative for the 90s<br>Bernard Cohen, 1990 | 「私は出来るだけわかり易いように話を進めたつもりだ。しかし、一つだけ出来ないことがある。それは、原子力と代替技術の定量的証拠を与えることなく、原子力発電に対する批判に答えることである。定量的証拠を挙げないのであれば、ある技術を危険に見せることも、安全に見せることも、思いのままである。これらの定量的証拠を見て自分で判断するのは面倒だというなら、これらの証拠は科学者の世界の大多数に受け入れられてきたものであると理解して、結果を受け入れていただくしかない。（中略）発電をすべて原子力発電所によった場合、我々の平均余命は１時間弱短縮する。これは喫煙者が15年間毎に煙草を1本余計に吸った場合、肥満者が体重を0.03g増加した場合、．．．（後略）」 |
| リスクコミュニケーション | 理性合理的リスクコミュニケーション | 「リスク・コミュニケーション」<br>日本リスク研究学会誌、Vol5, No.5, 1993　木下　富雄 | 「リスク・コミュニケーションは、基本的に、情報の送り手と受け手の相互作用によって成立している。まず受け手は、リスク・コミュニケーションを与えられることによって情報の送り手と、そのメッセージ内容について信頼感を抱く。一方送り手も、正しい情報を伝えることによって後ろめたさがなくなり、自分自身の姿勢について自信を持つ。（中略）このような「フェアー」な情報交換を土台にして、相手の立場に対する相互理解が芽生え、両者の間に共考的構えが作られる。（中略）要約すれば、フェアーな情報提供による信頼感を媒介として、送り手と受け手の間に、初めて合意の可能性が出てくるということであろう。」 |
| | 野生合理的リスクコミュニケーション | 「Risk and Culture」<br>University of California Press, 1982　M. Douglas and A.Wildavsky | 「公衆のリスク認知とその受容レベルは、言語システムや倫理体系と同様に、集団共有的な概念体系（collective constructs）である。このような善悪の判断基準に属するものは、集団の生存を最適化する社会的相互作用に即して、その社会の文化的な体系から自然に形成されてきたものであり、元来、客観的絶対的な根拠はない。（中略）したがって異なる文化的背景を持つ価値観に優劣をつけることはできない。」 |

## 添付資料B　社会的コミュニケーションモデル

（1）社会的コミュニケーションモデルの認知心理学的基礎

社会的な問題は、社会的なコミュニケーションにより解決が図られる。逆に言えば、社会的なコミュニケーションは、個々人の行動が互いに阻害し合わないよう、またうまく協調できるような調整（社会的問題の解決）のために発達し、社会的に制度化されてきたものであるといえる。

そこで、社会的なコミュニケーションを、社会問題を解決していくための社会的な相互作用力という機能的な面から捉え、現実の社会問題の解決においてどのような（コミュニケーションによる）社会的な相互作用が行われているのかを見ていくことで、社会問題の解決の方向やそこで生じる混乱や紛糾を分析できるものと考えられる。

一般にコミュニケーションは、複数の人々の間に相互に作用するものであり、コミュニケーションの結果、それぞれの人々のふるまいに影響を与えるものとして観察される。またこのコミュニケーションの行為を機能的な面から考えてみると、それによって、複数の人々が協調したり競合関係を解消したりするなど、個々人の利害関係をうまく調節し、社会全体の秩序だった調和のとれた社会関係を維持していくための手段として機能しているものと考えられる。

このように考えることによって、まずコミュニケーションを次のように定義してみる。

> コミュニケーションとは、社会全体の調和や利益を実現するために、
> 個々人の行動を円滑に調節するための、社会的な相互作用である。

狭い意味でのコミュニケーションというと、情報伝達がまずあげられる。情報伝達により人々は互いに知識の交換が可能となり、空間的、時間的に離れているのなかで共通認識を持って活動することができ、社会関係を持つことが可能となる。

しかしながらこのような作用力を持つもの、すなわちコミュニケーション媒体は、情報に限られるものではない。上にあげた定義のように、個々人の行為をうまく調節し、社会全体の整合性を実現する働きをする社会的な相互作用力を考えると、例えば貨幣を媒体とした経済交換や、政治的権力などに基づく命令－服従系統、個人の振る舞いを根本的な部分で規定する倫理規範なども、広い意味でのコミュニケーション要素として考えることができる。

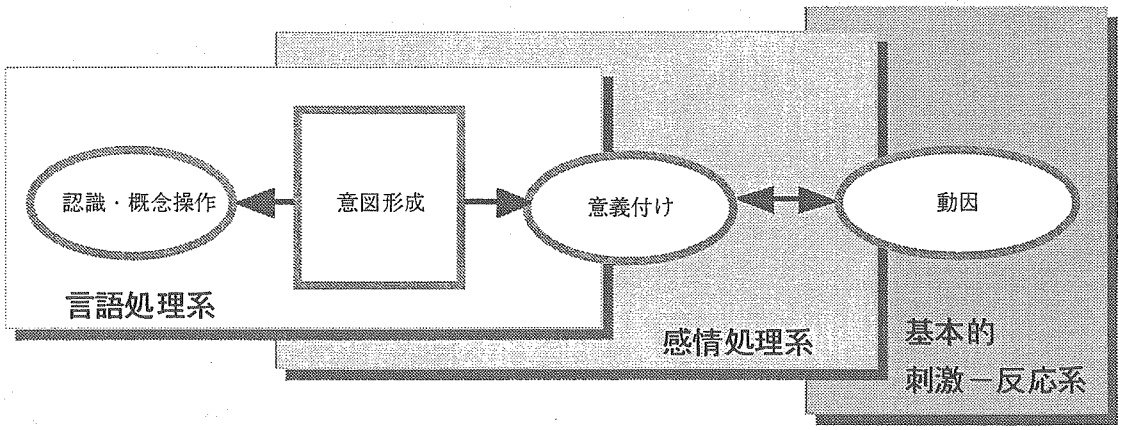
そしてこれらのコミュニケーション媒体を詳しく見てみると、個人が持つ知識を増加させる情報コミュニケーション、財を増減させる経済的コミュニケーション、個人の行動目的や意図に影響を与える権力的コミュニケーション、価値観に影響を与える倫理的コミュニケーションなど、それぞれのコミュニケーショ

ンの形態により影響を与える個々人の活動の局面が異なることが判る。逆に言えば、人間の活動の種々の局面に応じてその調整のために発達してきたものがコミュニケーションであると考えると、その活動の局面に応じてコミュニケーション形態を整理すれば、それぞれのコミュニケーション形態がどのような働きで人間の行為に影響を与え、コミュニケーションの効果を生み出すのか、を系統的に構造化することができるものと期待できる。

そこで人間の自律的な活動を次のように仮定して、コミュニケーションの構造化を行う。この仮定は下段に示すように、脳の処理系と対応づけることができる。

この自律的活動が階層的に機能して、例えば、「りんご」といった個人の生存にとって有用な価値が内部に取り込まれることになる。

またこの自律的な活動のモデルで重要なことは、それぞれの自律的な行動が結局は、自己の保存と集団の保存を最終的な目的として行われている、ということである。個人の行動は自己の保存と集団の保存を基本的な動因として規定される。




人間の自律的活動と脳の処理系に関するモデル

社会的相互作用とは、表Ｂ－１のように自己の保存と集団の保存を求めて何らかの対象物に対して行動する個々人の自律的活動の各機能に影響を与え、社会関係において個人と集団の保存が適切に実現されるように調整する作用だと考える。

この相互作用の内容を、自律的活動の各機能に与える影響とその媒体、および影響の様式として表Ｂ－２に整理した。この影響の様式には、社会的に良好であるとみなされる一定のマナーが存在する。

相互作用を機能ごとの区割りで整理するという意味で、この整理を相互作用の次元と呼ぶ。

後で述べるように、個人が”社会的に問題あり”と認識するのは、個人の自己保存及び集団保存にとって好ましくない影響媒体があると感じる場合と、影響の様式でのマナーが守られていない、と感じる場合である、とここでは考える。

表Ｂ－１　個々人の自律的活動

| 活動内容 | 自律的活動の主な内容 | 例（対象物に対する活動） | 対応する脳処理系との関係 |
|---|---|---|---|
| 認識・<br>概念操作<br>(recognition) | 自分の認知活動の対象に関する知識や論理の体系により、対象世界を客観的に認識、記述する。また、推論・計算などの客観的な概念操作を行う。 | 「りんご」がなっていることを知る。<br>「りんご」を数える<br>「もしりんごが～ならば」などの推論をする | 主として、言語処理により行う |
| 意図形成<br>(intension) | 自分の行動に関する目標や意図を創発し、それに基づいて意思決定し行動計画を組み上げる。 | 「りんご」を食べようと思う | 目標や意図は言語的に認識されるが、それらが沸き上がる段階では感情処理系が大きく関与する。 |
| 意義付け<br>(signification) | 自分の認知活動の対象や行動が、自分にとってどの程度好ましいかを判断するための価値観（価値体系）を内包し、それによって現在の認知活動の対象や行動の価値を主観的に意義づける。 | 「りんご」の価値が判る | 価値観の表層部分の一部は言語的に認識できるが、その大部分は感情処理系において構成されている。 |
| （動因）<br>(drive) | （自己の保存および集団の保存を目的として、自分の行動に関する基本的な意欲や動機付けを生み出す。） | （「りんご」に対する食欲がわく） | （生物の基本的な情動を生み出す刺激－反応系において行われる。） |

表Ｂ－２　社会的相互作用の次元とその影響内容

| 自律的行動 | 社会的相互作用の次元 | 影響媒体 | 影響 | 影響の様式 |
|---|---|---|---|---|
| 認識<br>・概念操作 | 情報的・経済的相互作用<br>（客観的概念を媒体とし、対象物への各自の到達可能性を調整し、社会的に整合させる） | 情報、知識、技術知識 | 知る<br>（認識の内容が変化することにより、対象物への到達可能性が高まる） | 伝搬<br>蓄積・増殖型 |
| | | 財、貨幣 | 財が増える、減る<br>（抽象客観的概念である財が変化することにより、対象物への到達可能性が変化する） | 等価交換<br>移動型 |
| 意図形成 | 政治的相互作用<br>（勢力を媒体とし、対象物への各自の到達意志を調整し、社会的に整合させる） | 権力、権威、処罰、報償 | 個人の目的や意志が変化する<br>（対象物への到達意志が変化する） | 序列関係（命令・服従）<br>競合型 |
| 意義づけ | 倫理的相互作用<br>（価値観を媒体とし、対象物への各自の意義を調整し、社会的に整合させる） | 敬意の持てる価値観<br>（自ずから共感される価値観） | 個人の行動を基礎づける価値観が変容する<br>（対象物の意義が変化する） | 包含関係（共感・感化）<br>共有型 |
| 動因 | 生理的作用<br>（動因への刺激となる自己保存及び集団保存上の影響） | 物理的作用力 | （個人の自己保存及び集団保存に影響する） | （物理的関係） |

（2）社会的コミュニケーションモデルの社会心理学的基礎

絶対的な権威、権力が失われた現代社会においては、権力、権威、情報、貨幣などは、間主観的作用力として、流通する。それらが作用する様式は、社会に参加する人々の間で社会的なゲームのルールとして共有される。このルールを、社会的相互作用過程と呼ぶ。

この社会的なゲームは、自覚的な個人がそのゲームへの参加を主体的に選択する、といった性質のものではなく、社会化の過程において自然に身につけるものである。その代表的な例が、言語（母国語）である。

→ 言語ゲーム（ウィトゲンシュタイン）

→ コミュニケーション的行為（ハーバマス）

（3）社会的コミュニケーションによる影響の知覚、社会問題の認識

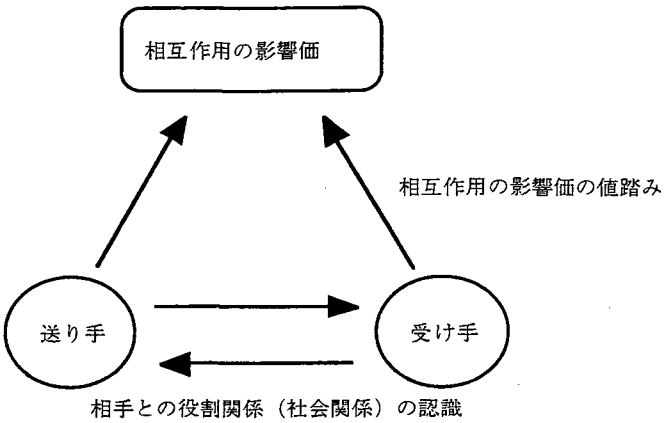
各相互作用の次元には、受け手と送り手の間に何らかの役割関係があって、その役割関係に応じて影響様式上に一定のルールが存在する。

この役割関係に応じたルールが整合のとれている状況では相互作用は円滑に行われるが、何らかの不整合があると役割緊張が生じ、円滑な相互作用が阻害されることになる。

良好な（社会問題として問題視されないための）社会的相互作用が実現すべきルールを、社会的相互作用のバランスルールと呼ぶ。

各相互作用における役割関係は、相互作用に参加する受け手と送り手の社会関係と、各自にとっての相互作用の影響価（相互作用における影響の大きさ）によって表現できる。

社会的相互作用のバランスは、表Ｂ－３に示すように、影響価の値踏み、その不確実性の見極め、および相手との社会関係をバランス要素として行われる。




役割関係に応じた相互作用のルール

表Ｂ－３　社会的相互作用におけるバランス要素

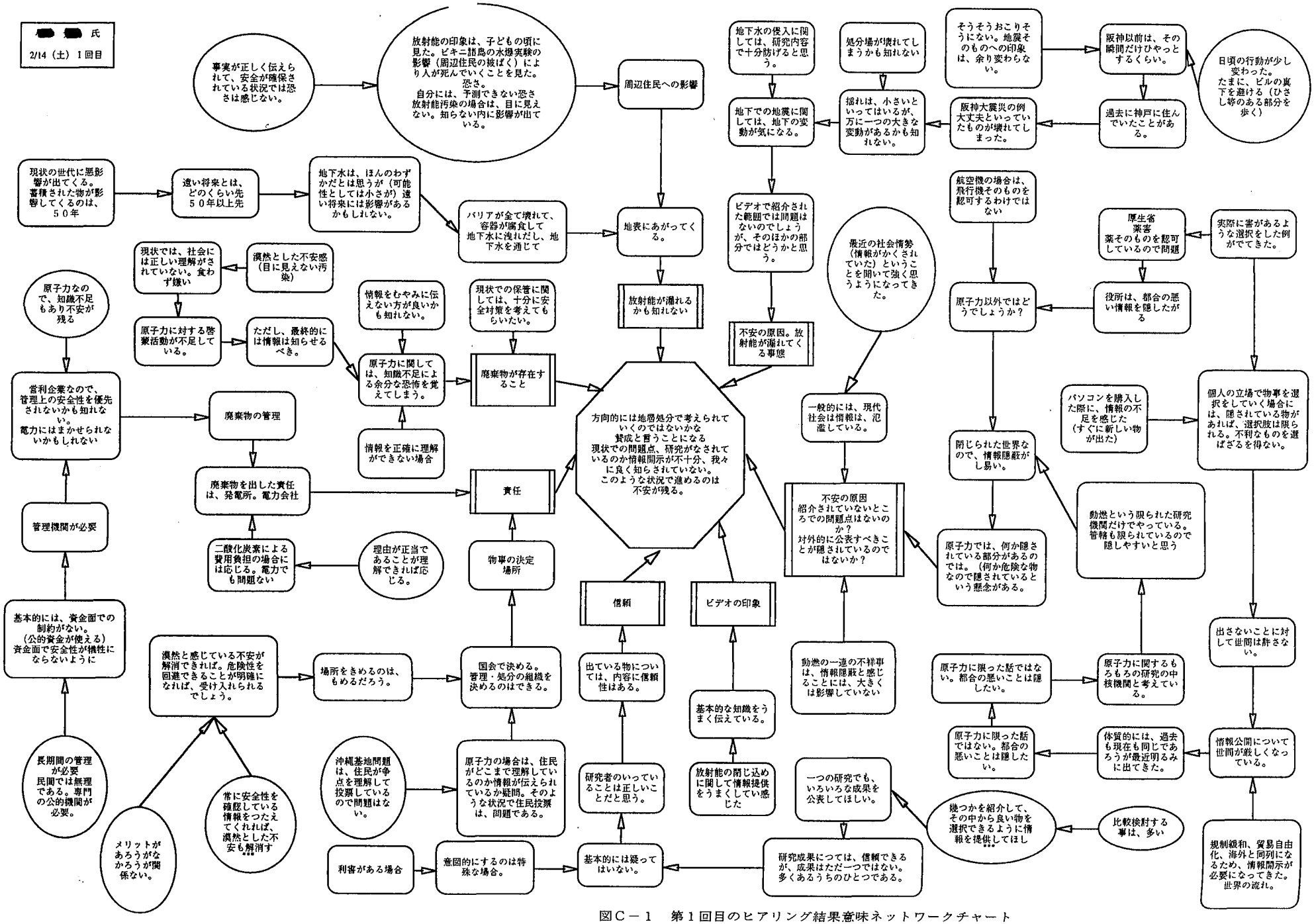
| 社会的相互作用の次元 | 相互作用の影響価の値踏み | 影響価の値踏みに関する不確実性の見極め（明白でない値踏みへの信用） | 影響が社会的に妥当だと認識できる相手との社会関係の差 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用（情報、知識、技術） | （対象物に係る）情報、技術の効用 | 事実関係に関する信用、信憑性 | 対等 |
| 経済的相互作用（財、貨幣） | （対象物に係る）経済的効用 | 契約的信用 | 対等 |
| 政治的相互作用 | （対象物に係る）自分の意志の重要性 | 信頼、信義 | 勢力の差 |
| 倫理的相互作用 | （対象物に係る）自分の価値観の重要性 | 敬意、信念 | （自ずから共感される）価値観の優秀性の差 |
| 生理的作用 | （対象物から受ける）自己保存、集団保存に対する物理的影響 | （物理的確率） | （物理的因果関係） |

## 添付資料Ｃ　第１回目のヒアリング結果

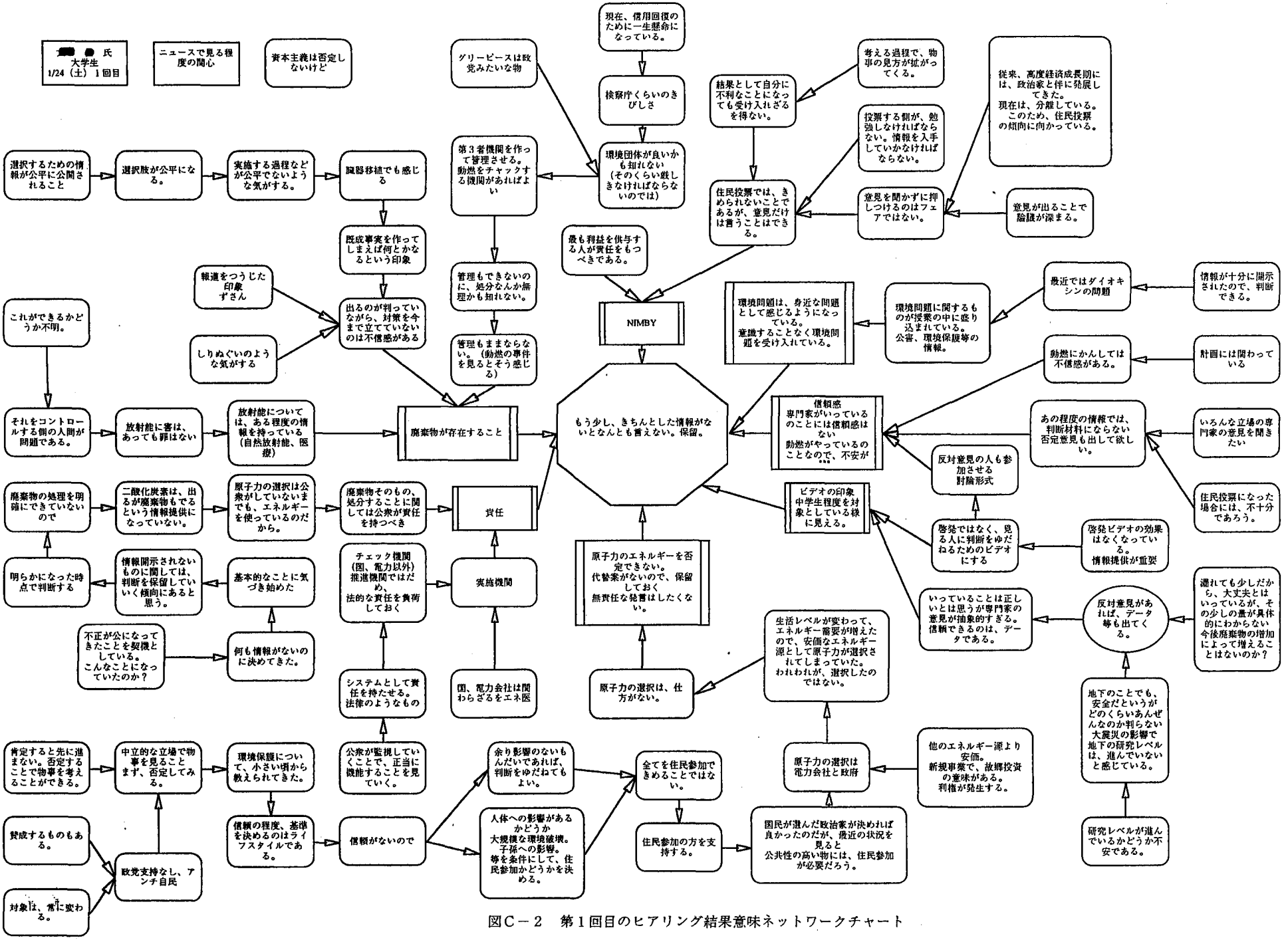
表Ｃ－１のヒアリング対象者の意味ネットワークのチャートを記載した。

表Ｃ－１　ヒアリング結果意味ネットワークチャート記載リスト

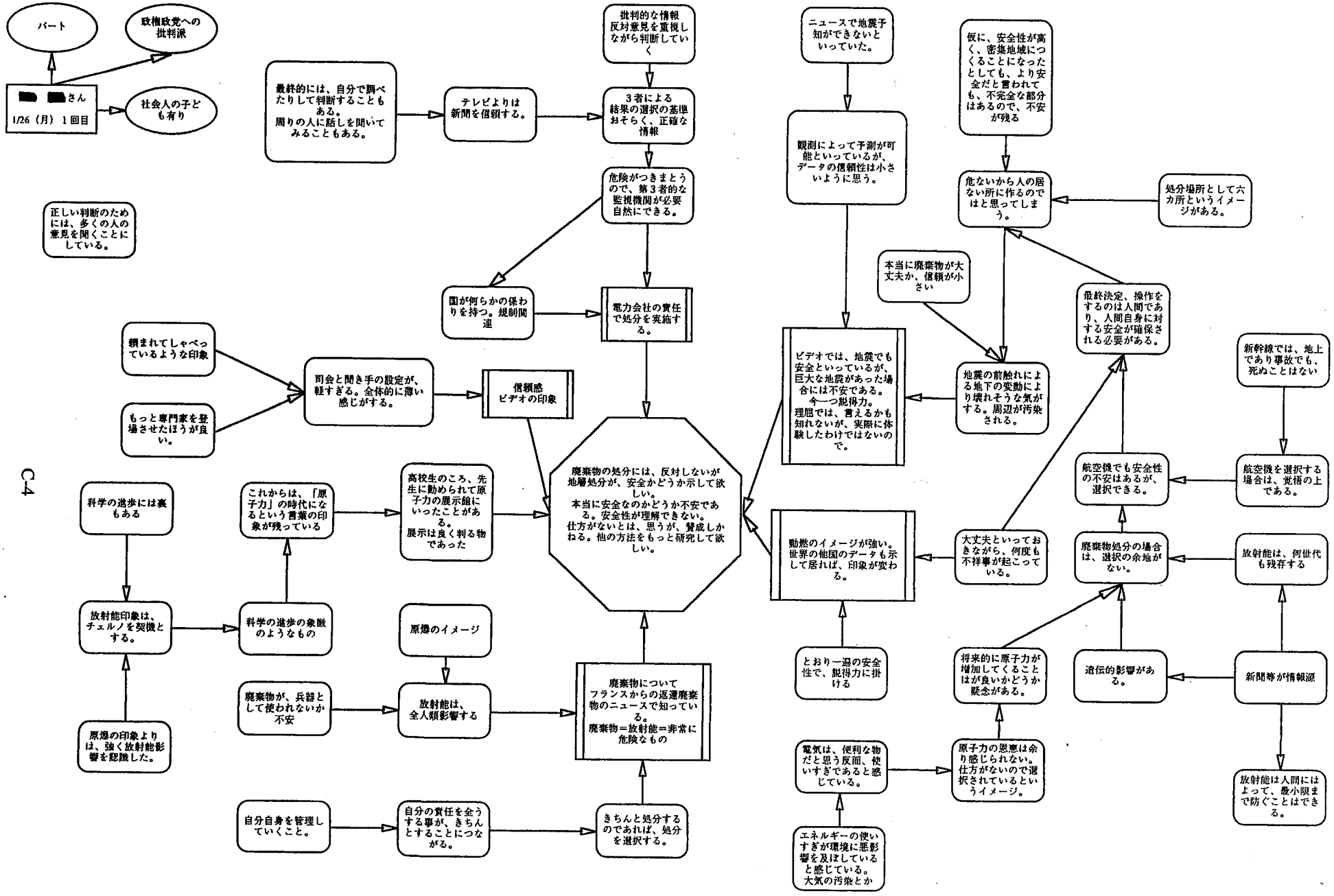
| 属性 | 氏名 | 年齢 | 住所 | 職業 | | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 本人 | 世帯主 | |
| ２０代独身男性 | | ２８ | 中野区中央 | 会社員（金融） | | |
| | | ２２ | 練馬区関町 | 大学生 | | |
| | | ２４ | 杉並区和泉 | 会社員（ｻｰﾋﾞｽ） | | |
| | | ２５ | 三鷹市中原 | 会社員（出版） | | |
| ２０代独身女性 | | ２３ | 大田区石川町 | 会社員（保険） | | |
| | | ２５ | 世田谷区上北沢 | 会社員（派遣） | | |
| | | ２６ | 渋谷区神宮前 | デザイナー | | |
| | | ２８ | 練馬区南田中 | 会社員（金融） | | |
| | | ２９ | 埼玉県大宮市 | 会社員（金融） | | |
| ４０代以上男性 | | ５４ | 杉並区清水 | 会社員（金融） | | |
| | | ５６ | 世田谷区上用賀 | 会社員（？） | | |
| | | ４３ | 新宿区高田馬場 | 会社員（食品） | | |
| ４０代以上女性 | | ４８ | 目黒区柿の木坂 | 主婦 | 会社員（教育） | |
| | | ５５ | 稲城市向陽台 | 主婦 | 会社員（不動産） | |
| | | ６３ | 世田谷区松原 | 主婦 | 本人 | |



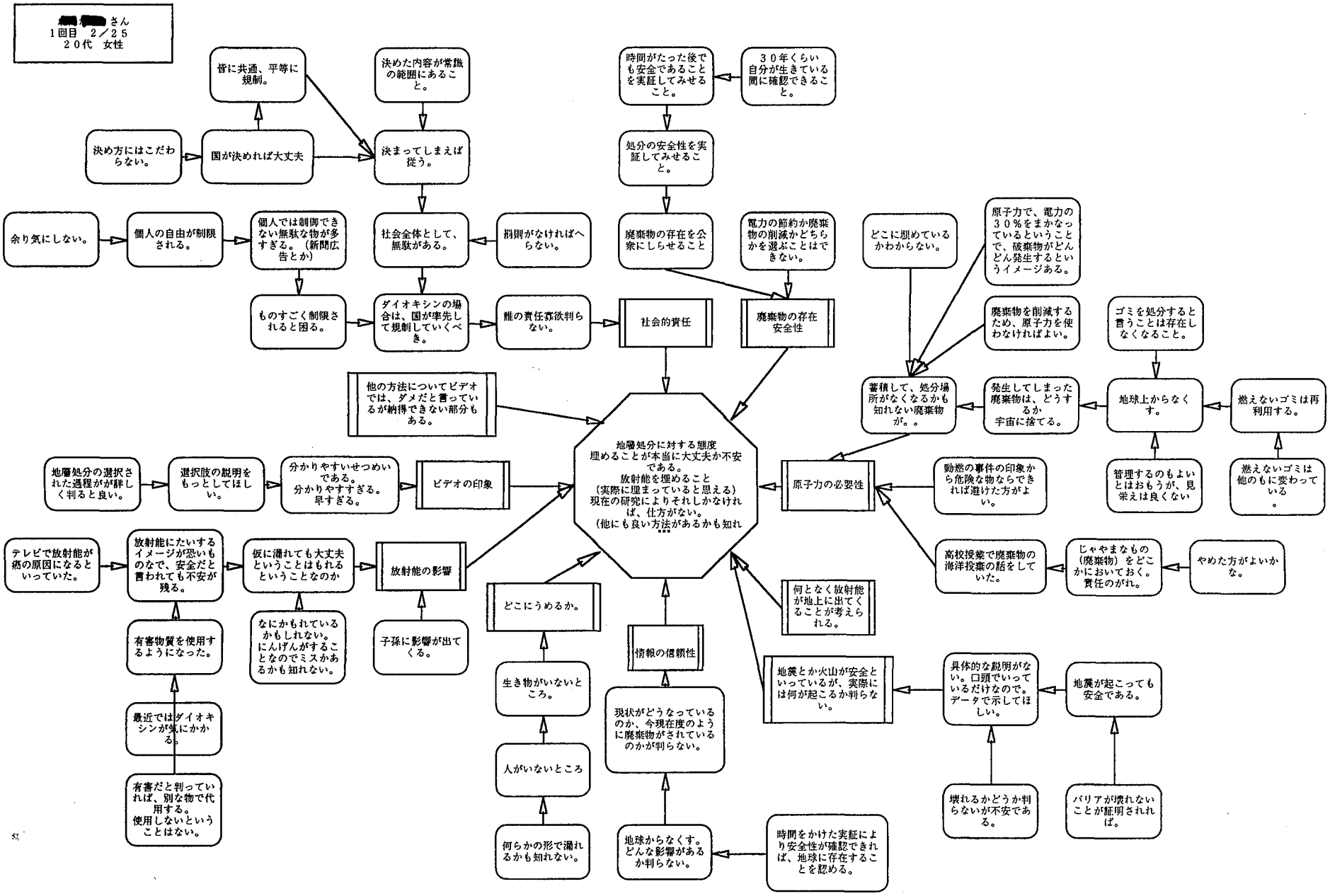

図Ｃ－１　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



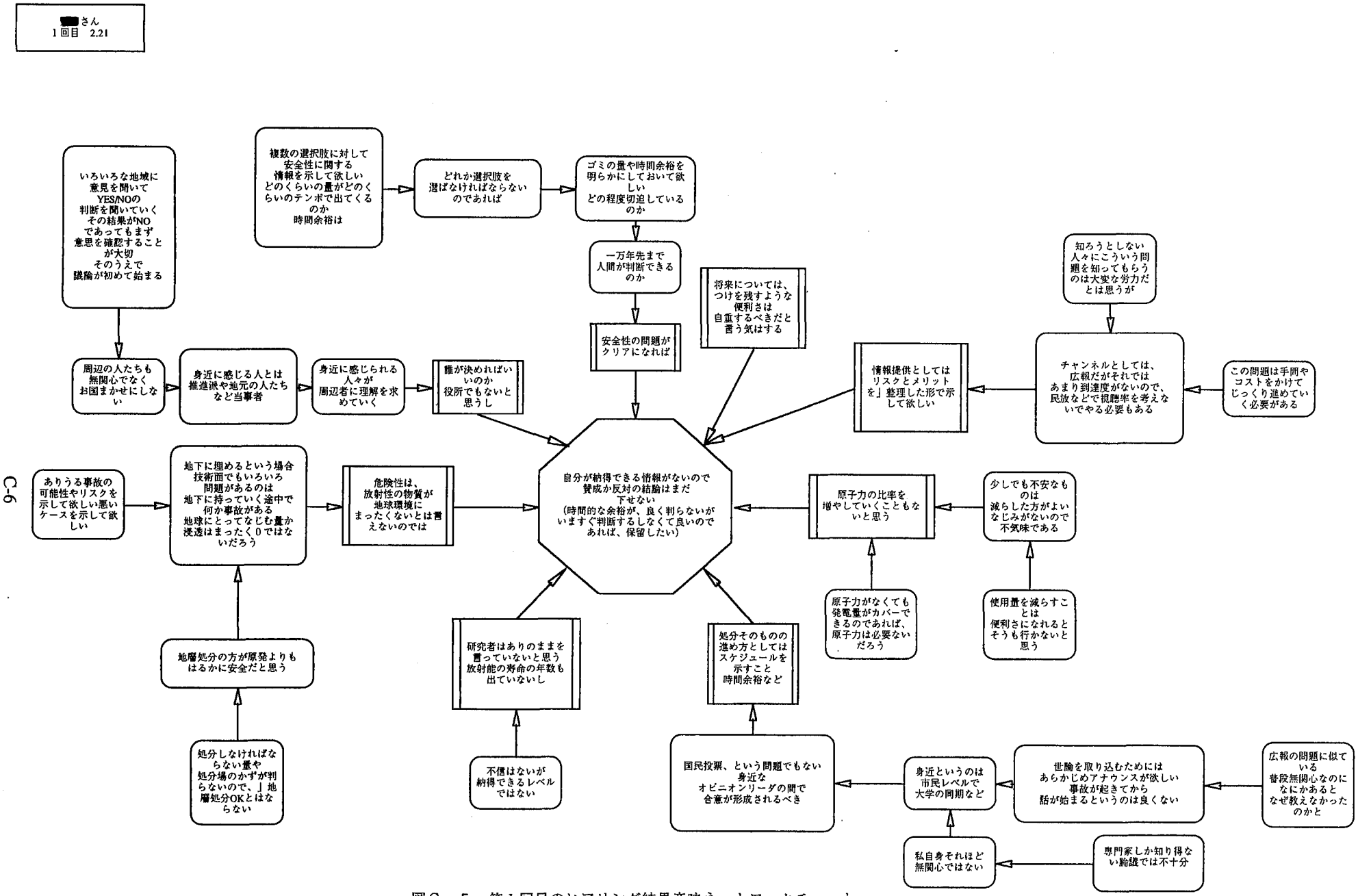

図C－2　第1回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



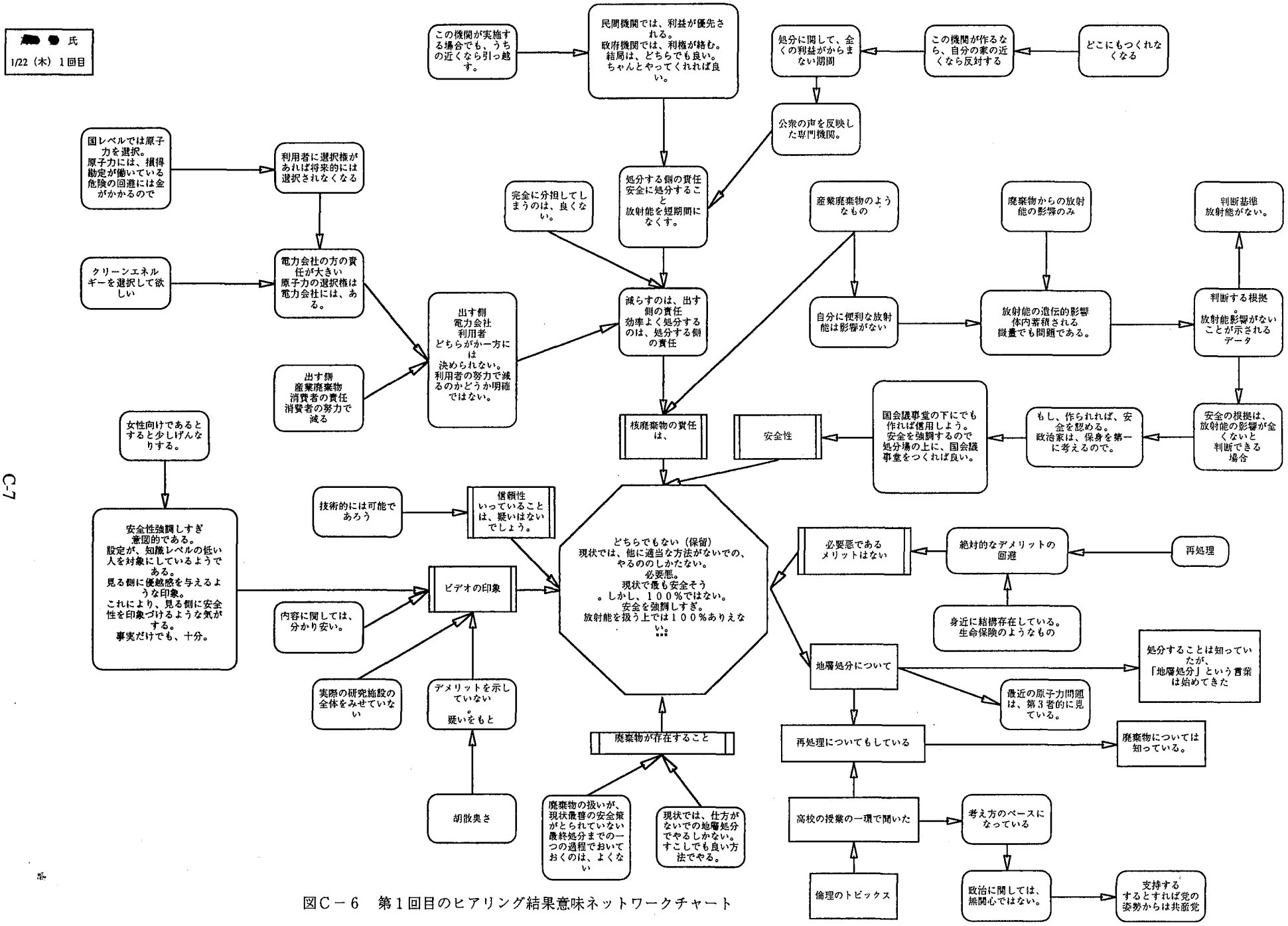

図C－3　第1回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



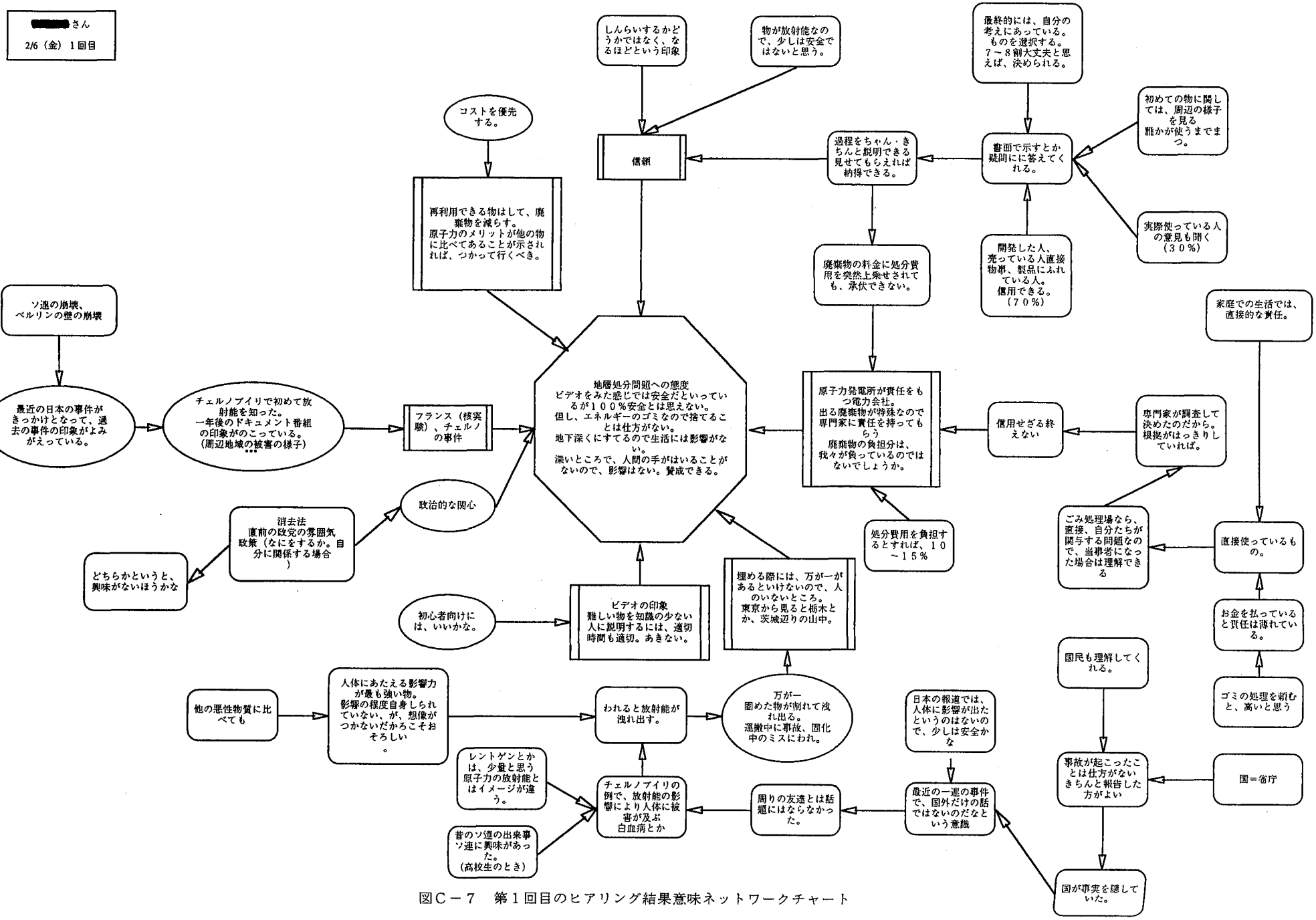

図C－4　第1回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



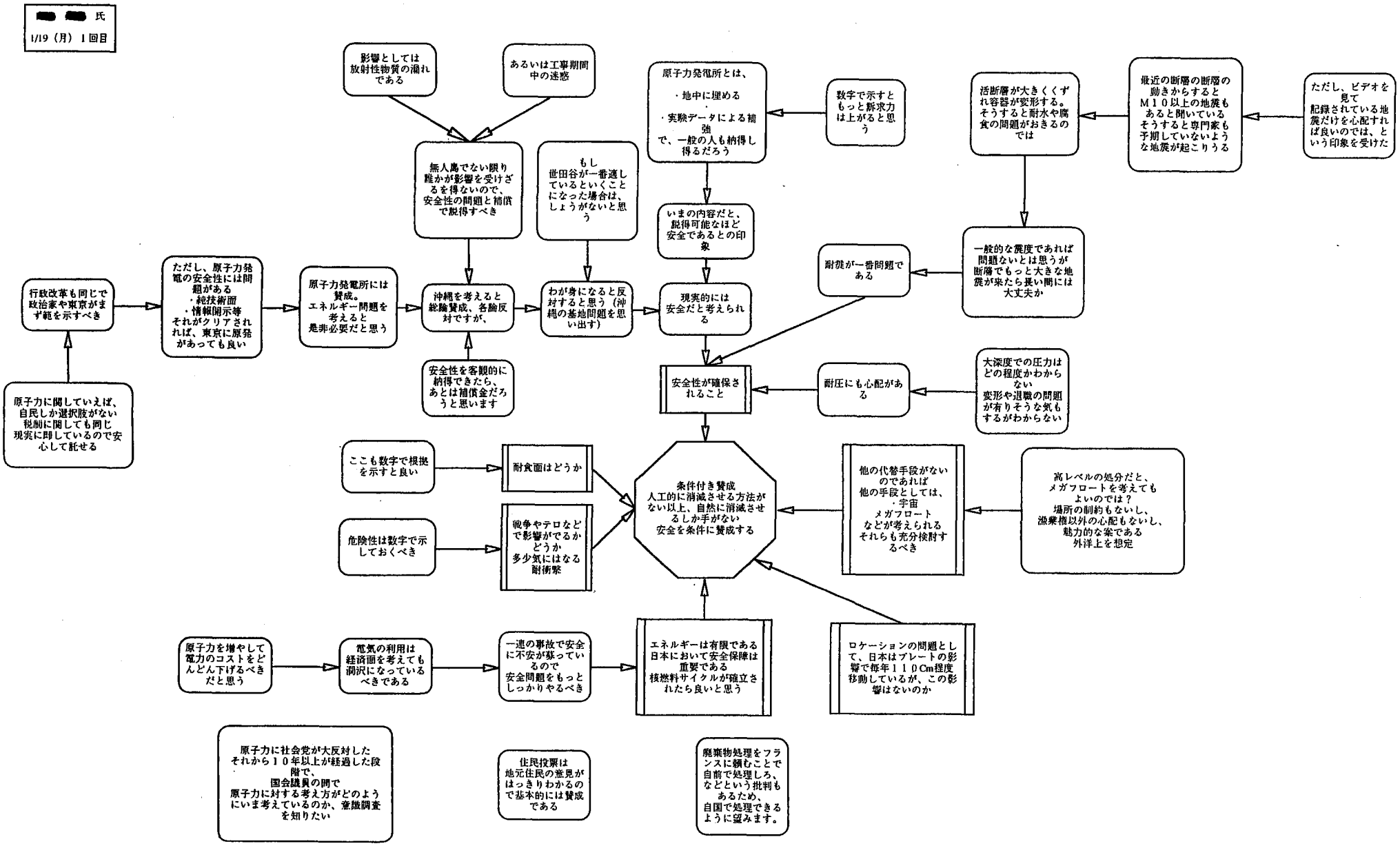

図C－5　第1回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



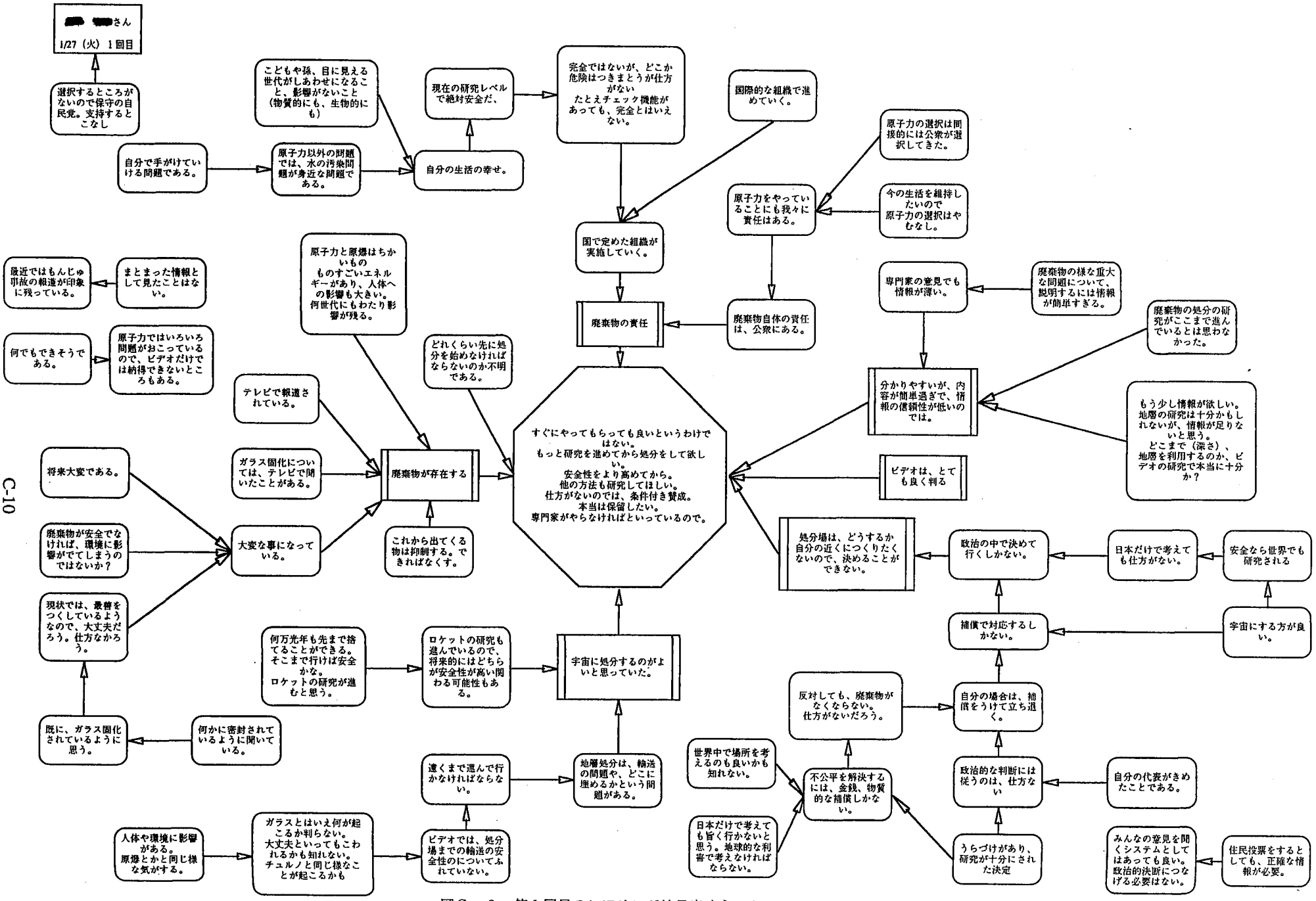

図Ｃ－６　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



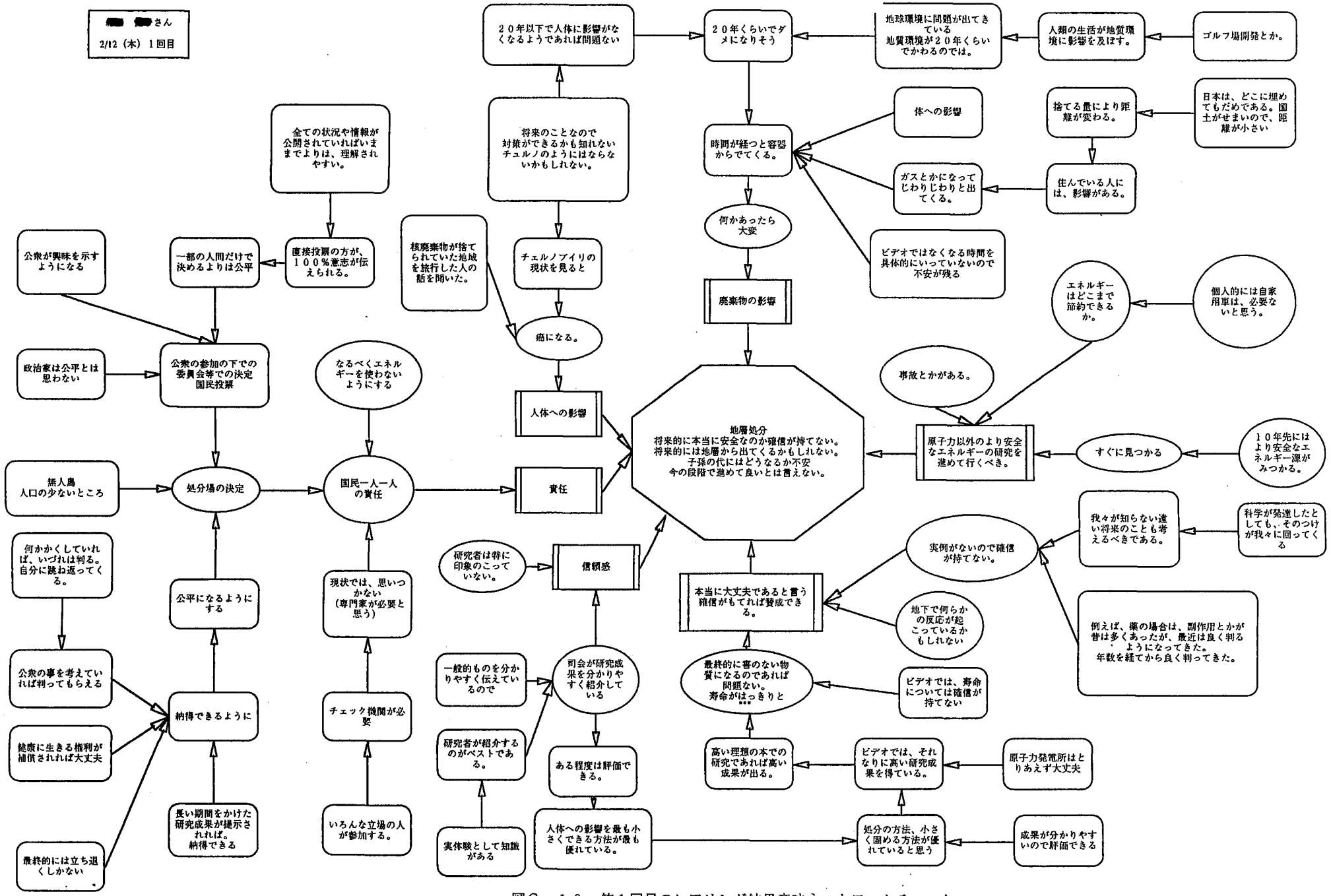

図Ｃ－７　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



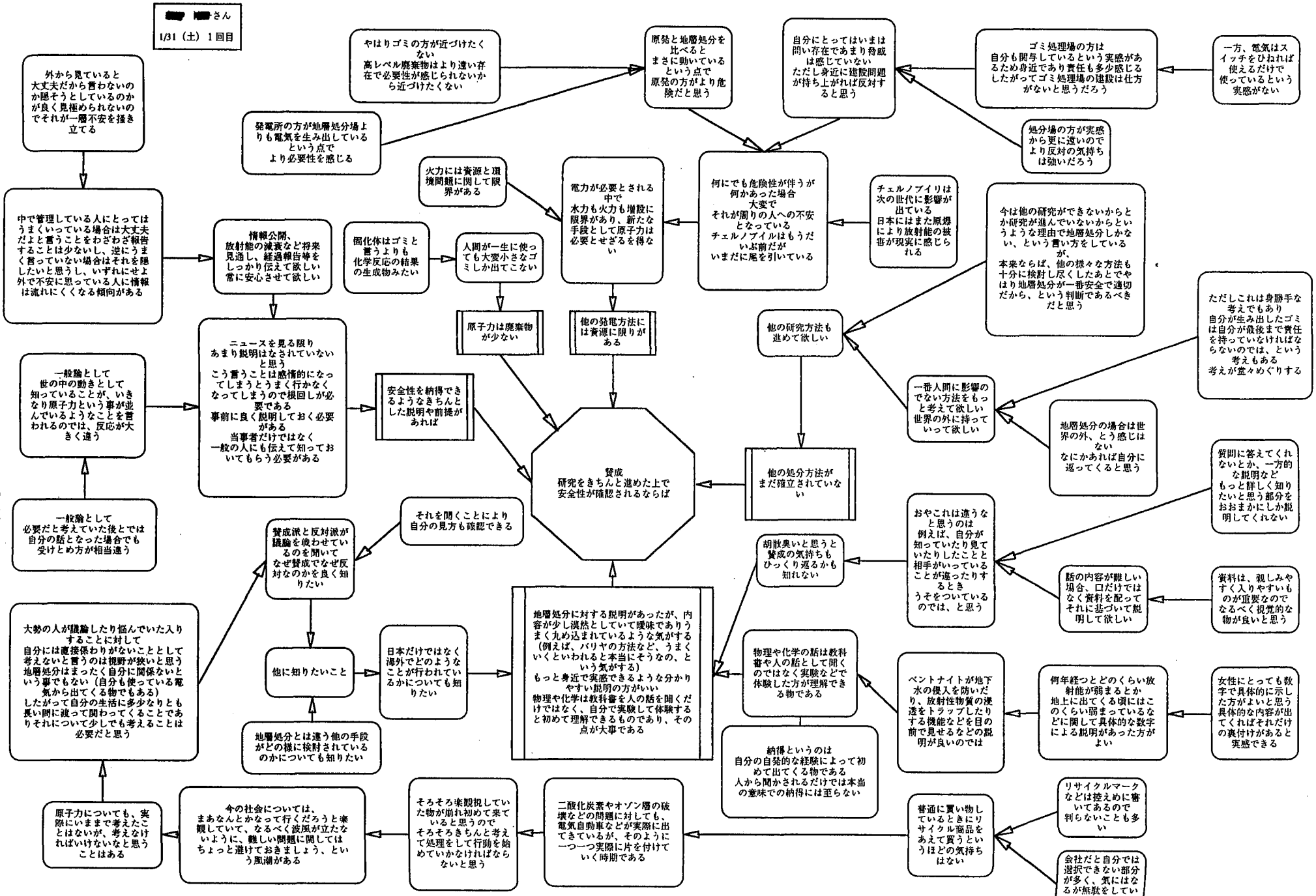

図Ｃ－８　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



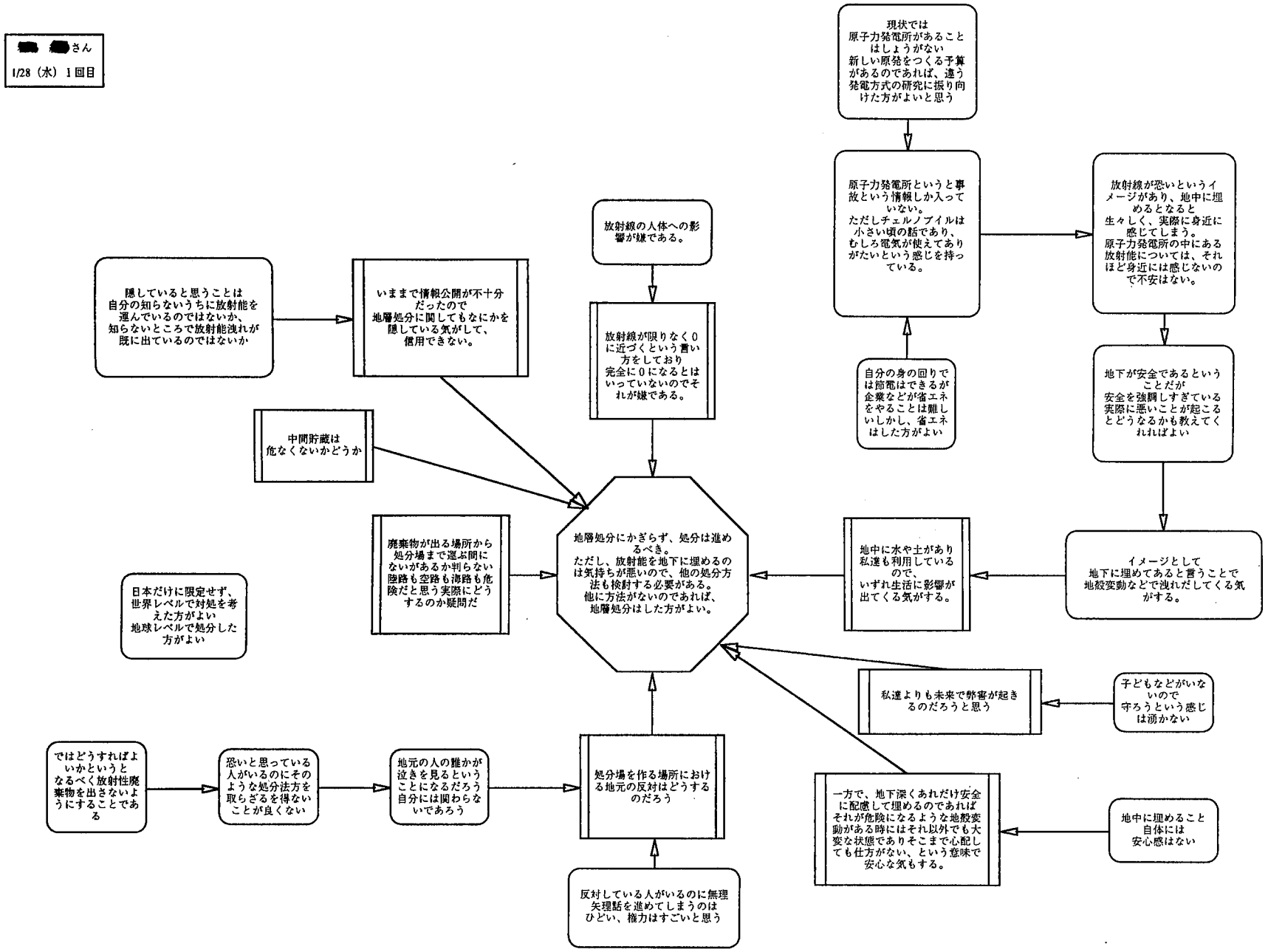

図Ｃ－９　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



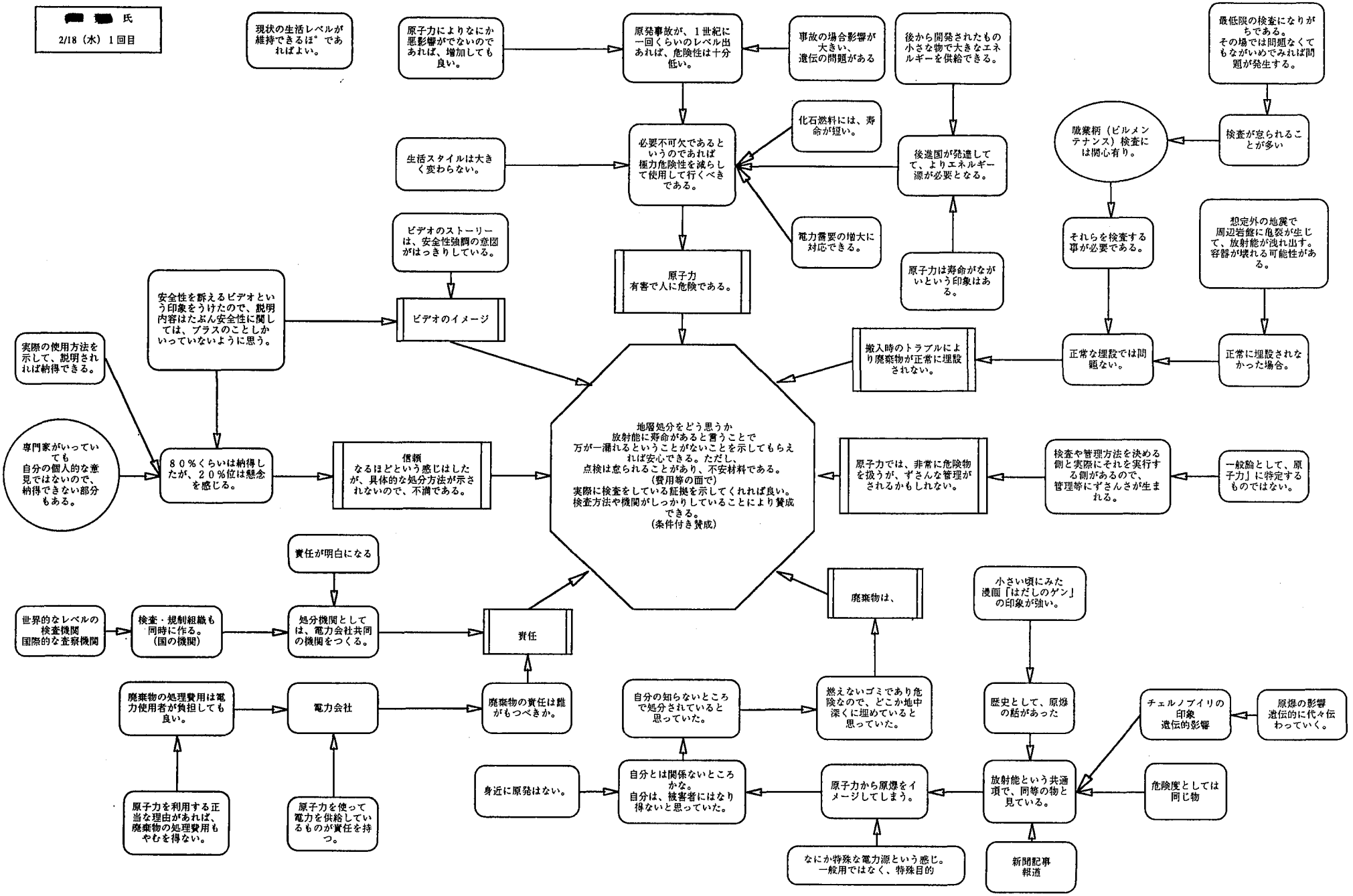

図Ｃ－１０　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート




図Ｃ－１１　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート

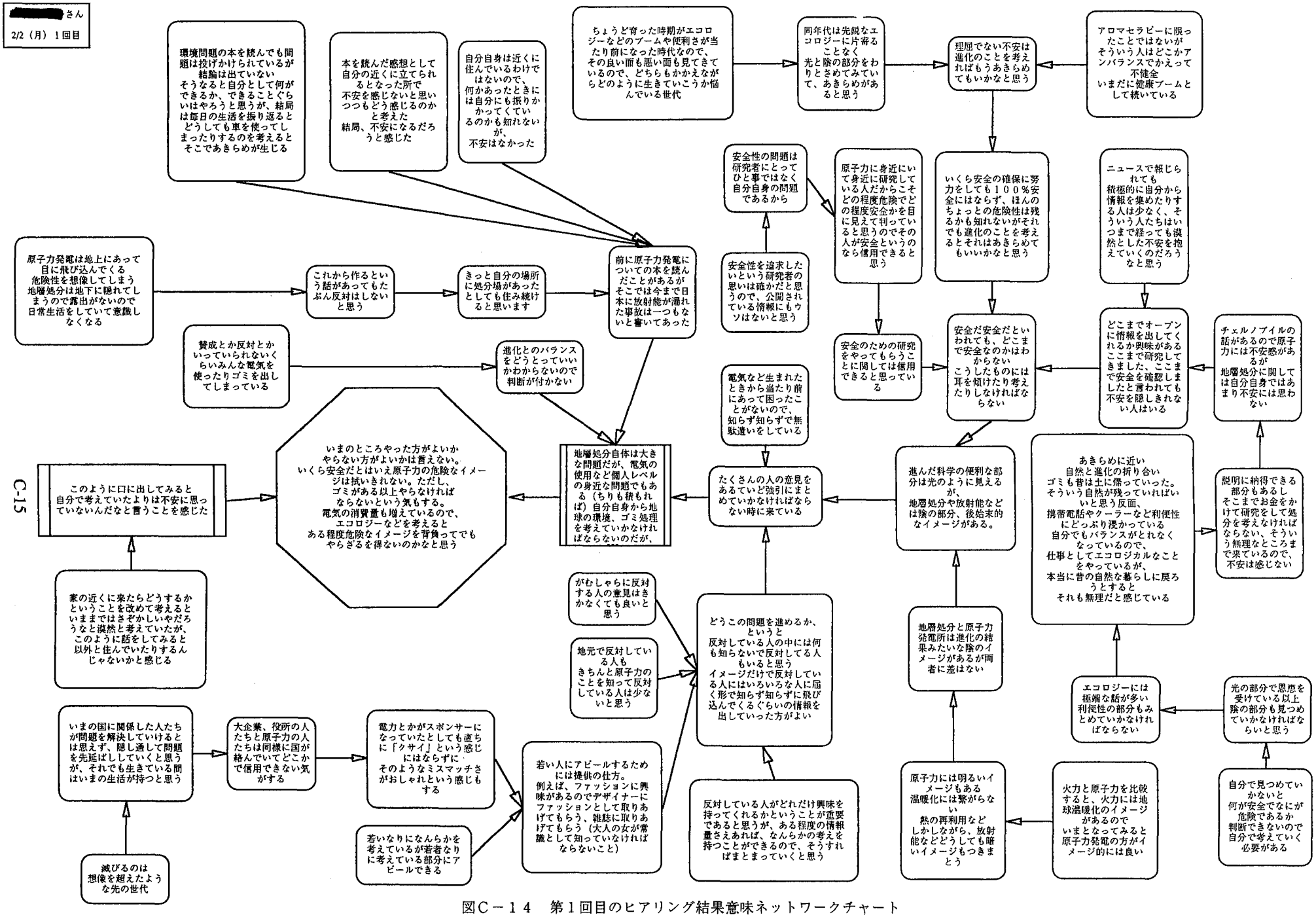



図Ｃ－１２　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート



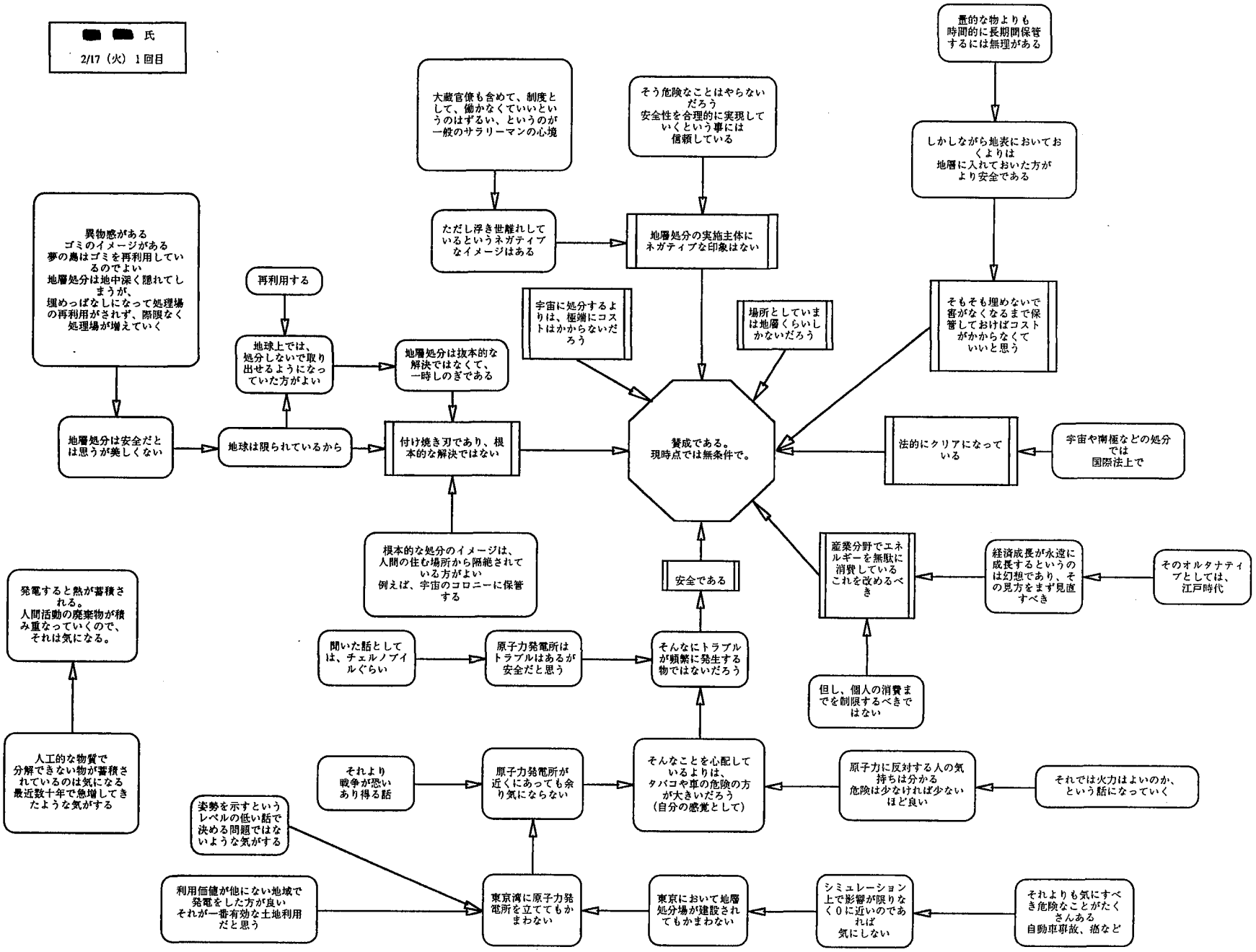

図Ｃ－１３　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート

[redacted]さん
2/2（月）1回目




C-15

図Ｃ－１４　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート




図Ｃ－１５　第１回目のヒアリング結果意味ネットワークチャート

# 添付資料D　ヒアリング分析結果の例

## 1．　被験者（[redacted]氏）のヒアリング分析結果

(1)分析結果

［地層処分に対する態度］

条件付き賛成：　日本で独自に処分しなければならない。地層処分しか方法がなく、その安全性が確保されるのならば、賛成する。安全性は、掘ることが可能か、固めることができるか、地震の影響はないか、について確認されなければならない。

［地層処分に対する問題認識］

| | 影響の大きさの知覚 | 不確実性の知覚 | 社会的妥当性の知覚 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | *情報的影響* | *信憑性*<br>●原子力のマイナスイメージ② | *対等性* |
| 経済的相互作用 | *経済的影響*<br>○原発は必要悪③ | *信用* | *対等性* |
| 政治的相互作用 | *政治的影響*<br>●国の責任⑤ | *信頼*<br>○国際共同研究の信頼性④ | *勢力差*<br>▲東京と地域の不公平⑥ |
| 倫理的相互作用 | *倫理的影響* | *信念* | *価値観の優位性* |
| 生理的相互作用 | *生理的影響*<br>●地中での安全性、過程の危険性① | *確率* | *（因果関係）* |

影響関係：　好影響：　☆私・家族　○社会全体　△地元住民
悪影響：　★私・家族　●社会全体　▲地元住民
問題の重要度：　**重要度大**　重要度中　重要度小

［社会的立場］

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理（共生原理） | ①大勢への順応 | ②東京一極集中の弊害 |
| | 父性原理（自律原理） | | |

(2)各影響項目の内容

[地層処分に対する問題認識]

①地中での安全性、過程の危険性

内容：ガラス固化体を地中に埋めてしまえば、一応安全という気はする。運んで埋めるまでの過程では心配がある。

言述：「処分した後（地層に埋めた後）は安全のなのかなという気はする。」

「安全性の確保については、ビデオだけではわからない。処分場に行くまでとか、処分するときに何か起きないか」

「ガラス固化体にすると少しは安全かな、と思う。（食用油を固めるのと同じ）」

「起こる確率でいうと、例えば富士山が噴火するかというのと同じ確率だと思うんですね。かたや天災であって、かたや場合によって人災ですよね。」

解釈：地中に埋めてしまうと安全である、という捉え方は多くの人に見られる。この点は、地上ににそびえ立ち、強大なポテンシャルを感じさせる原子力発電所と好対照をなすところである。この地中処分の「安全イメージ」は今後の訴求の過程でもっと注目されて良い。

②原子力のマイナスイメージ

内容：原子力というと、マスコミなどで流される事故報道がイメージされ、異様で、遠いものと感じられる。

言述：「なにか原子力発電というのは、テレビや新聞や雑誌を通じてだと事故に絡んだニュースが多いですよね。だからどうしてもマイナスイメージのほうが割と優先してしまうという部分があるので。」

「一つの目安で考えれば、例えば、東京電力とかがテレビコマーシャルで、電気の電子ちゃんが「電気を無駄使いしないように」とかやっていますよね。あれぐらいのポジションでテレビ宣伝なりアピールなりがあればいいんじゃないかなという気はするんですけれどもね。」

「やはり、連想ゲームではないですけれども、放射能からなにをイメージしますかといわれたらまず重装備ですよね。だからそちらのイメージが強いですね。」

「事故現場とかで作業者が防護のために重装備をしているので、原発からの放射能は、自然のものとは違うイメージがある。」

解釈：原子力に対する「異様で、身近ではない」というイメージは、最近の一連の事故報道でますます強固な社会的イメージとして定着してしまっている。この社会的マイナスイメージが、原子力と

いうと直ちに「忌むべきもの」というステレオタイプになってしまっており、原子力ＰＡの効果を著しく阻害している。

③原発は必要悪

内容：いまの便利な生活は維持したい。だから、原発はそのための必要悪である。現状では充分な電力があり、これ以上原発を増やす必要はない。

言述：「原発は将来のエネルギー源として重要。あえて言えば必要悪。」

「とりあえずは現状維持でしょうね。これがどんどん身近な町にも増えてきたら、なんだなんだという感じになってしまうと思いますね。」

「やはりそれはとりあえず今の必要な分だけ・・だから足りないというのであればやはりもう少し作らなくてはいけないのかもしれないですけれど。」

解釈：原発の必要性は大方の人（意識調査では約６割）の認めるところである。このため、現在ある高レベル廃棄物を処分しなければならない、という話には、大抵の人が、ある以上仕方がない、と消極的ながら賛成する。この総論賛成の傾向を「都市と地方の問題の共有」につなげていくかたちで、処分場立地推進を図っていくことが望ましい。

④国際共同研究の信頼性

内容：日本が単独で、このような先進的な作業を行うことには不安がある。米国や欧州などと協同で行うのであれば、安心できる。

言述：「国際的な共同研究をやっているので、技術や研究内容は信頼がおける」

「やはり国内だけではなく、こういったいわゆる原子力の開発をしている先進国と共同開発をしているということで割と信頼が置けるかなと。」

「いや、日本だけだと心配だなという感じはします。」

解釈：日本は、先進的な技術を独自に開発していくことは不得意であるという認識である。特に地層処分などのように諸外国が二の足を踏むような技術を日本が独自に押し進めることには多くの人が不安を感じるだろう。逆に、諸外国と協同で地層処分を推進している、というスタンスをアピールできれば、受容に大きな効果を上げるものと期待できる。

結局、日本の技術の独創性や先進性には国民は信頼していないと言うことである。プルトニウムサイクルのように、これに政治面での孤立が加われば、そうした原子力政策の受容は非常に困難なものになる。

⑤国の責任

内容：国の政策として原子力を進めているのだから、最終的には国が責任を持つべきであり、国民に迷

惑をかけてはいけない。

言述：「国としての政策として原子力を進めているのだから、最終的には国が責任を持つべき」

「原子力は国民が選んだのではない。国の政策である」

解釈：原子力は、国が主体として責任を持って行っていくものであり、一般の個人に、原子力に関する責任や義務はない。したがって、一般人が頭を悩ませたり、迷惑を被る必要はない、とする考え方は根強い。これは典型的な「お上意識」であるが、原子力の場合は、国民の議論不在の形で押し進められてきた側面もあり、このような意識傾向をあながち批判できない。

この「お上意識」が問題なのは、１つには都会の人が原子力問題や地方の立地問題に無関心であることであり、一方で、例えば福井県に見られるように、原子力に関する無理難題はすべて国が何とかしなければならないものであり地方は文句だけを言っていればよい、という国と地方との間で非建設的な図式が生じてしまうことである。

先の、「生活のレベルは維持したい、そのために原子力は必要悪」という一般の共通認識をうまく活かして、原子力発電に関する一般公衆の責任意識を健全に醸成していく必要がある。

⑥東京と地域の不公平

内容：東京など都市部は、安全な場所にいて原子力の恩恵だけを受け、かたや立地地域はリスクを背負わされており、不公平である。

言述：「例えば、今のように東京でなにか物事を決定して、危険なものをやるんだけれども場所はどこにしようかということで、じゃあ青森県にしようかとか仮にそのようにいった場合、やはりなにか東京は手を汚さないで、しかも安全な場所にいて、地方のそういうところだけを指定してやっ「｛社会にとってのゴミの処分は｝これも東京と地方で分かれてしまうかもしれないですね。東京から見ればプラスなのかもしれないし、地方で受け入れ先になった場合にはマイナスになったりすると・・・」

解釈：大消費地と立地地域の不公平性は、近年ますます深刻になってきている。立地地域では、もはや経済的誘導だけではこの不公平は受け入れられないであろう。リスクの一方的な押しつけや、過疎に苦しむ地方を植民地にしている、といった意識は、政治的な公平性や、ライフスタイルの面での問題にまで発展している。東京など大消費地の一般公衆が責任意識を持ち、痛みを分かち合う姿勢を示さない限り、この問題は解決しないであろう。特に地層処分の場合は、「核のごみ捨て場」というイメージが強硬であり、政治的に抑圧されている、という認識はことさら強いものになる。

[社会的立場]

①大勢順応

内容：大勢の和を乱して反対するような、突出した行動は避けたい。特に高レベル廃棄物の処分は、現に廃棄物がある以上、反対してもしょうがない。

言述：「つくらなければならないものであるから、特に反対してもしょうがない」

「やはり、流れというものがあって、そういうものに断固立ち向かうというのは、まあ端から見れば、その流れを止めているというか・・・。例えば高速で車を走らせているときに、割と空いているところで周りが全部１２０キロぐらいで流れているときに、一人だけ８０キロで走っているとしたら、はっきりいって迷惑ですよね。」

解釈：大勢への和を乱さないようにする、という意識は保守層に多く見られるものである。この大勢順応は、総論として決まった方策への協調を生み出すが、一方で、お上依存体質や「自分の問題とは考えない」とする無責任な姿勢にも通じる。地層処分では、「現に廃棄物がある以上、処分は仕方がない」とする総論では一致するので、その共通認識を、「一人一人が自分の問題として考えていく」環境をどのように整えるかが、重要な鍵になっていくものと考えられる。

②東京一極集中の弊害

内容：東京にあまりにも何もかもが集中してしまっており、もはや住むには適さない街になってしまっている。

言述：「東京はやはり刺激があって情報があって、いわゆる活発だからでしょうね。ただ、今、東京で生活していて疲れてきている人も多いと思うんですよね。自分もそうかもしれないんですけれど、子供を静岡に連れていったときに、こっちで育てたほうがいいんだろうな、と思いますよね。余りにも人間的な要素が失われつつありますでしょ。自分も確かに東京で育った人間だけれども、自分が小さかった時の東京と今の東京は全然変わっているわけですよね。だからあまりにも行くところまで行ってしまった感じがあるような・・」

「東京というのはなにか将来的に恐いですよね。まあそれなりに機能はしていくだろうけれど、環境という面を考えると－例えば子供育てる環境とか、学校へ行っている環境とかー、ちょっと恐ろしいなという感じはしますね。だから今後、東京から少しずつ地方へ流れて、地方で生活するという人は増えていくとは思うんですけれどね。」

解釈：東京にあまりにも何もかもが集中してしまっており、もはや住むには適さない街になってしまっている。かたや、地方は東京にすべてを持って行かれてしまっているので、やはり住み難い側面もある。このようなひずみが、全国レベルの公共問題の健全な解決を困難にしている。つまり、

それぞれが便益と負担をほどほどに分かち合うということができなくなっている。このような認識は、原子力開発などに関する地方植民地化論などにつながるが、基本的には地層処分を都会の人々が「我々の問題」として考えるきっかけになるものとして評価できる。

［意識上の文脈］

A： ②原子力のマイナスイメージ → ①地中での安全性、過程の危険性 → 「安全性の条件」

・地中に埋めてしまえば安全である、と見ている。ただし、ガラス固化処理から処分上に埋設するまでの過程を危険とみなしている。

・地震などによる影響も心配している。このような背景には、チェルノブイリ報道の悲惨さや、動燃事故映像の（防護服などの）異様さが、マイナスイメージとして強固の定着していることがある。

・この社会的に強固に定着してしまっているマイナスイメージが、一般の原子力に対する不安感や忌避感のもととなっており、地層処分に対する厳しい見方につながっている。

<コミュニケーション方策>

・社会的に強固に定着してしまっているマイナスイメージを拭い消すことは、差別問題などを考えると、極めて難しいと思われる。

・原子力に関するマイナスイメージは、大別して、「放射能の恐怖感」「非日常性」「不粋さ」にあると考える。「放射能の恐怖感」は、原爆や放射能事故が実際に存在している以上、これを払拭することは不可能である。「非日常性」については、インタビュイーも述べているように、東電の「デンコちゃん」などのキャラクターで身近さや日常性をアピールすること、あるいは（事故続きでもはやイメージは地に落ちたと考えれば、これ以上のイメージ低下を恐れる必要はないので）思い切った情報公開やトラブルの公開などを行えば、原子力（や原子力事故）が身近にあり、それでも言われているほど大したことは起こっていない、マスコミは騒ぎすぎである、とする冷静な見方が定着すると思われる。「不粋さ」とは、例えば、風光明媚な北陸海岸に唐突にそびえる灰色の原発建て屋の醜悪さ、などであり、以外とマイナスイメージの形成に寄与しているものと考えられる。原子力発電所も、他の公共施設と同じく、「モダン」「先進的」などの好イメージをまとえば、マイナスイメージや恐怖感の解消に大きく寄与するものと思われる。

B： ①大勢順応 → ③原発は必要悪 → ⑤国の責任 → 「条件付き賛成」

・大勢順応には、集団の秩序や結集を生み出す一方、行政依存などの負の効果も発生する。これらの特性をうまく活かして、地層処分に関するコンセンサスを得ていく必要があろう。

・特に重要なのは、原発は必要悪、としつつも、基本的には原発による電力生産の必要性を大方の人が認めている点である。現在は、「必要だから国が何とかしろ」という行政依存に向いてしまって

いることが問題であるので、「必要だから、みんなで何とかしよう」という方向が見えてくることが望ましい。

<コミュニケーション方策>

・原子力に対する一般の人の行政依存体質は、日本人の国民性によるところが大きいと考えられるが、そうした傾向を助長してきた行政側にも帰する所が大きい。特に、原子力政策に関していままで「民主」「自主」「公開」の原則が形骸化され、一般の人が伺いしれない密室で決定されてきた点が、「原子力はどうなっても国の責任」とする認識を形作っていると考えられる。

・したがって、「原子力は必要であり、そのための処分は我々の問題」とする認識を生み出していくためには、まずなによりも、公開を進め、原子力政策のステーキホルダーに民間人を取り込んでいかなければならないであろう。

・特に、民間人の重要なステーキホルダーとして、電力大消費地、大都市部の受益者がなんらかの責任ある関与をするべきである。

C： ②東京一極集中の弊害 → ⑥東京と地域の不公平性

・東京の人は安全なところにいて便利な生活を送っている、それは地方の人が原発などのリスクを負担しているおかげである、とする地方植民地化論は、現在の原発立地の推進を困難にしている最も大きな要因であると考えられる。

・この地方植民地化論は原発計画地等の過疎地域で顕著であるが、一方、東京の住民であっても、従来の利便性一点張りの東京集中に飽んでいる人、物質面に偏った近代化に批判的な人からも、「これ以上東京が物質的な豊かさを追求して、そのつけを地方に押しつけるわけにはいかない」とする反省がでてきている。

・この傾向は、多電力消費型のライフスタイルを見直す、地方の豊かな自然環境を守る、という環境保護運動につながるものであるが、原発の新規立地と違って、地層処分の場合は「すでに発生してしまった核のゴミを自然環境に悪影響を与えない形で処分しなければならない」とする問題意識を環境保護派とも共有できる可能性がある。

・また、東京と地域の不公平性の見直しを東京など大都市住民に問いかけることによって、「地層処分は地方の問題ではなく、我々こそが主体的に取り組んでいかなければならない問題」とする認識につなげていける可能性がある。

<コミュニケーション方策>

・原子力問題に関する「都市部と地方の不公平性」は、実際に社会問題であり、なんらかの是正が考えられていかなければならない。そうしたなかで、都市部住民が主体的にかかわっていけるような

土壌が形成されることが望ましい。

・このためには、「原子力は必要です」とする結論を「理解してもらう」のではなく、「原子力は必要ですか？　そのためにはどのようにすればよいのでしょうか？」というように、原子力政策に関する意思決定を一部一般の人たちに委ねていく必要があろう。

・一般の人が関与でき、しかも混乱を招かないような意思決定システム作りを行う必要がある。

2．　被験者（[redacted]氏）のヒアリング分析結果

(1)分析結果

[地層処分に対する態度]

消極的賛成：　立地条件に適合したところがあり、そこでの地元住民との話し合いがつく、という条件で、地層処分の実施に賛成である。ただし、途中で何らかの技術的な問題が生じたり、社会的な反対が強まれば、計画を見直したり、延期したりする必要はある。

[地層処分に対する問題認識]

| | 影響の大きさの知覚 | 不確実性の知覚 | 社会的妥当性の知覚 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | *情報的影響* | *信憑性* | *対等性* |
| 経済的相互作用 | *経済的影響*<br>☆原子力の恩恵⑥ | *信用* | *対等性*<br>★自分が引き受けてよい負担⑦ |
| 政治的相互作用 | *政治的影響*<br>○息の長い住民説得が有効④<br>○地元住民不満の沈静化⑧ | *信頼*<br>○専門家への信頼③ | *勢力差*<br>○処分地選定の妥当性②<br>○強制立ち退きの妥当性⑤ |
| 倫理的相互作用 | *倫理的影響* | *信念* | *価値観の優位性* |
| 生理的相互作用 | *生理的影響*<br>▲放射能汚染① | *確率* | *(因果関係)* |

影響関係：　好影響：　☆私・家族　○社会全体　△地元住民
悪影響：　★私・家族　●社会全体　▲地元住民
問題の重要度：　**重要度大**　重要度中　重要度小

[社会的立場]

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理<br>(共生原理) | ①全体主義的<br>②私生活保守主義的<br>③利己的な住民意識<br>④管理社会 | |
| | 父性原理<br>(自律原理) | | |

(2)各影響項目の内容

[地層処分に対する問題認識]

①放射能汚染

内容：環境面で、放射能汚染の問題がひょっとすると生じるかもしれない。その影響はそれほど大きなものではないと思うが、よくわからない。

言述：「どちらかというと環境的な話なのでね・・・汚染みたいな話なんですよ。政治的でもないし、費用の話でもないでしょうし、この中には入りにくいかもしれませんね。まあ第1は放射能汚染ですよね。」

「一番影響を及ぼすのはそこの住民でしょうね。」

「この前のビデオなり話のなかで聞いたなかでは、さほどの影響はないと思いますよ。影響がなくなったものをわざわざ持ってくるわけですから。個人的には未知な世界なので、経験がないし分からないので、どのくらいの影響と言われてもはっきりは申し上げられないですけれどね。」

｛まず研究者に絶対の信頼を置けるということは、個人的にはどういった安心感、影響をお感じになっているか。｝「情報というのも挙げられるし、政治的な地位的なところでこの人は研究者で学者であるという信頼があるのと、倫理的にも絶大な信頼を置いているということですね。」

解釈：地層処分の悪影響として放射能汚染を挙げているが、その影響はそれほどではないと思っている。これは、安全であるとの専門家の判断を信用していることが大きい。この結果、地層処分に地元が反対することを、「ごねている」とする見方につながっている。ただし、自分の足下に建設されることには絶対反対である、としており、放射能汚染に対してある程度の懸念は持っているものと考えられる。そうした汚染の発生は不確実でわからないとしているが、その不確実性自体を問題視している言述は見られない。

②処分地選定の妥当性

内容：専門家の判断によりある場所が一番地層処分場立地に適しているとすれば、その場所が政治的にも妥当である。

言述：｛さほど影響がないものであるんですけれもそれをそこへ持ってくること自体の妥当性、正当性といいますか、まあごみだからある程度仕方ないという部分もありますし、いやそういうものは絶対持ってきてはいけないという考えもありますし。｝「要は、そこの場所が一番いい場所とされている所だとすれば、そこしかないわけですよね。だからその場所が妥当だということですよね。最善の道だということでしょうね。」

「国に対して知識的な対抗策をとるようになってきたということですよ。昔はしょうがないとい

うのがあったんですけれど最近は・・・。それは沖縄の基地問題も同じですよね。あるいはこの前の原発の住民投票の件もそうですね。」 ｛そのような反対に向くような現状というのはどういった理由が考えられますでしょうかね。｝「要は自分本位な考え方が多くなってきているということですよね・・いやそう言い切れるどうか分かりませんよ。自分だってそうだから。ただ自分の所はやめてくれという言い方でしょ、皆さん言っているのは。」

解釈：専門家の判断への信頼を背景として、技術的に立地条件が最も適した場所が選ばれたならば、そこを処分場とすることは政治的にも妥当である、と考えている。したがって、決め方における政治的不公平性に対する問題意識は見られない。また住民自治に対する見方として権威主義的な傾向が見られる。

③専門家への信頼

内容：研究者、技術者など専門家には、情報面、政治面、倫理面において少なからぬ信頼を置いている。また、専門家から口伝てに「地層処分は安全である」と聞かされれば、多くの人はそれを信じるだろうと考えている。

言述：「知識人、専門家であれば、ああこうやったんだということでもう大丈夫だろうと思うのはまずひとつあるでしょうし、そういう方がいれば、口伝えでもいいですけれども、あれだったら大丈夫だよっていう（中略）ああいう方たちがたくさん出てくれば、多少何も知らない人たちでも、科学者がこう言っているんだったらまあ大丈夫なのかなとか、そういったふうにだんだんそういうことは浸透してくると思っているんですよ。」

｛まず研究者に絶対の信頼を置けるということは、個人的にはどういった安心感、影響をお感じになっているか。｝「情報というのも挙げられるし、政治的な地位的なところでこの人は研究者で学者であるという信頼があるのと、倫理的にも絶大な信頼を置いているということですね。」

｛何を基準に、専門家を信頼できるかどうか判断しているか｝「たえば科学者とか研究者についてはおそらく今までの著書なり自己紹介されたときにこんなこともやったという経緯が分かると思いますよ。まあ一部そういうところで評価をしますね、やはり。（中略）そういう意味では作業者を知るにはちょっと無理があるので。そういう意味では人選をする機構がこうやって選んだという方法なりを紹介してくれれば、それをバロメータに信頼できると思いますよ。それと自分では嫌いだけれども、もう潜在的に感じるバロメータの中に入っているのがネームバリューでしょうね。建設会社なり工事会社の名前みたいなものも無意識に入ってくると思いますよ。ああ、この建設会社だったら大丈夫、というような。」

解釈：研究者、技術者など専門家への信頼が厚く、阪神大震災などから言われるようになった専門家へ

の不信は見られない。この点には、権威に信をおく権威主義的な傾向が見られる。この専門家への信頼が、息の長い説得により理解が得られるとの考えや、処分実施のためには多少の強制的執行があっても良いとすることにつながっている。

④息の長い説得が有効

内容：（特に専門家による）息の長い説得が、地元などで反対している人に効果がある。

言述：「何回も繰り返して言ってくるとだんだん信じてくるということです。根気よく説得するということですね、納得いくまで、理解してもらうまで。」

「要するに、最初は自分は信じないと思っていても、それが毎日毎日繰り返し流されるようになればだんだんそっち系統に考えがよるじゃないですか。変な言い方をすると洗脳みたいなものですよ。」

解釈：基本的に専門家には信をおいており、専門家により安全性が繰り返しいわれれば、大抵の人は納得するだろう、としている。そこには対話的要素よりも一方向的な説得が想定されている。また、言葉による説得でも納得が得られないならば、経済的な補償、さらには公権力の強制執行も考えている。

⑤強制立ち退きの妥当性

内容：言葉により説得で了解が得られなければ、強制立ち退きをしても仕方がない。住民側にも、ごね得という不徳な考えがあるので、すべて紳士的に振る舞ってもしょうがない。

言述：「根気よく説得するということですね、納得いくまで、理解してもらうまで。そういう面がひとつと・・あとはそれでもだめだという人がいますよね。その説得にも限界がありますからね。そうすると今度は説得の内容が変わってきて他に移ってくると。今度はそっちの説得に入ってくると思いますよね。｛そっちの説得といいますと？｝どうしてもこれだけ言ってもだめならここをどいてくれということですよ。立ち退きの説得のなかですけれど。」

｛それでは、個人的な立ち退きに関してなんですが。これは、例えば反対している人でお金を払えば必ずそれは効果があるものなんでしょうか。｝「そうですね、効果はあると思います、絶大なる。それはもう今までいろいろな例を見てもね。」

｛強制立ち退きの効果について｝「要は、強制権があるかどうか分からないのでなんとも言えないですけれども。例えば、新宿の浮浪者を立ち退かせるんだったら強制権があるんでしょうしね。そういう意味では行政がやっているといえばそうなんですけれども。こういうものに対してどういう関わりになってくるのか分からないのでなんとも言えないですけれど。いわば国としての強制権を持って立ち退かせるのであれば、法的なところでいけば合法なんだから、という考え方と、

下手すればやくざ雇って追い出しかけるみたいな方法をとれば完全な違法ですよね。だから私は強制立ち退きなんかは本当にできるものなのか分からないのでなんとも言えないですけれど。だけど合法非合法という意味ではそういうものがあるけれども、やり方としては最悪のやり方ですよね、合法といえ。」

「今までのそういった事業の報道なり情報を見ての判断ですね。先ほど成田も言われましたが。ほとんどの場合そういうケースが出てきますよね、道路の拡張にしても。｛ではこういった強制権は必要なものだと｝そうですね、必要なものでしょうね。今までのケースを考えたなかでは、もう切っても切れない部分なんじゃないでしょうか、その３つは・・・説得、お金を渡して出ていってもらう、強制立ち退き。げすな考え方でいけば、ごねればごねるほどお金がもらえるよ、最後にはお金で解決しようとするんだよ、というのを住民は多少分かっているのかもしれませんね。」

解釈：地元の反対への言葉による説得がダメなら金で、金がダメなら強制立ち退きもしかたないと考えており、かなり権威的な意見である。この背景として、住民側のごね得など住民エゴを指摘しており、産廃問題などへの住民投票など住民自治への理解は低い。また、自分がそのような迷惑施設を突きつけられる側にまわるかもしれない、ということは想像しておらず、第３者的に考えている。

⑥原子力の恩恵

内容：原子力によって豊富な電力を使えるという恩恵を受けている。逆に、原子力から自分にもたらされた不利益はない。

言述：｛次に、責任問題について。まずご自身としては原子力発電の恩恵というのは受けているとお思いになりますか。｝「受けていると思っています。」「要は豊富な電力ですよね、国内のあるいは自分の地域あるいは会社、自分の関わっているところでの電気については・・受けていると思います。」｛逆に、原子力で自分にとってなにか不利な点を受けているというふうな・・・｝「自分にとってはないですね、ひとつも。」

解釈：原子力による恩恵は認識しているものの、自分が引き受けてよい負担を見ると、そのための経済的な負担増はある程度引き受けても良いが、結果として生じるHLWのリスクの負担はごめんである、としており、恩恵からその責任の公平な分担にはつながっていない。

⑦自分が引き受けてよい負担

内容：原子力の恩恵を受けているのだから、その地層処分により電気料金が多少上がるのは仕方がない。ただし、自分のところに処分されるのはとにかくいやである。

言述：｛原子力の恩恵を受けているということに対してどのような代償をご自身が・・・｝「電気料金ですよね。」「とりあえず、電気代が上がるといってもそんなに法外に上がるわけじゃないと思っているから、電気代が上がることについてはがまんできますね。」

「その代わりその設備が自分の足下にくるのはいやですね、それは許せないですね。非常に自分勝手だけれど。要は電気代が上がるところまでですかね。つまり妥当だと認められるのは金額負担までだと、自分だけを考えれば。」

「自分の住んでいるところにできるのは反対ですよ。」｛その理由は｝「いやだからです。」

解釈：原子力の恩恵は認識しつつも、そのためのリスク負担を受けてもしかたがない、というところまでにはいたらない。地層処分問題をどこかひと事のものとして捉えており、私生活保守主義的傾向も見られる。

⑧地元住民不満の沈静化

内容：交渉時には強制立ち退きなどもあり地元住民の不満は高いかもしれないが、ひとたび建設されてしまえば、不満はいつまでも持続するものではない。

言述：｛一種の権力というか政治力を行使されたということは、その場ではやはり不満を生ずるかもしれないけれど・・・｝「不満のテンションが高いですからね。だけどだんだん時間が経つにつれて・・・ずっとそのテンションを保って怒っているのは難しいですからね、人間は。途中からだんだん慣れてくるでしょうね。時間的にはそんなに長いことないですよ。一年もすればだんだん忘れかけてきますよ。」

「交渉は交渉の段階で一番テンションの高い時だからそこでの決断は金銭的なものとか組み合わせて使ってやっと妥協に至るわけですよ。だけど妥協はするんだけれど不安とか不満とかは残るわけですよ、気持ちの上ではね。だけどその不安というものは先ほど言ったように時とともにだんだん薄くなっていくでしょ、ということですよ。だから同じ時間帯での経緯は違うんで。要するに、説得をするための交渉事が長く続いたからだんだん不安がなくなって不満がなくなってくるという意味とはちょっと違いますよね。」

解釈：強制立ち退きもやむなし、しかもそれによる不満は一時的で時間がたてば住民もおとなしくなる、という見方を示している。これは旧来のお上の論理であり、権威主義的傾向がうかがえる。

[社会的立場]

①全体主義的

内容：国民全体のためなら、一部の犠牲はやむを得ない。

言述：「正当性が失われるかもしれなくても強制権を使わないとまとまりつかない・・というより先に

進めないですからね。それでも使うでしょうね。私がそういう立場だったら。汚い言い方をすると、日本の国民を守るために一人殺してもいいかなと思う半面がありますよ。で、殺すわけではないですが、多少苦しめるけれども我慢していただくという意味ではその一人に我慢してもらうようになるでしょうね。要するに犠牲はつきまとうということです。」

解釈：強権的なものを是とする見方の背景に、この全体のための一部の犠牲はやむなし、という考え方がある。これと、「しかし自分が犠牲になるのはいやだ」とする私生活保守主義とが相まって「総論賛成、各論反対」に結びついていく。

②私生活保守主義的

内容：自分や自分の家族に害が及ばなければ、他の人への害には特に関心がない。

言述：「強制力が自分に行使される場合と、自分の子どもや将来の世代あるいは別な人に行使される場合と違いが出てくると思うんですが」「はっきり言うと、自分の知っている人に対しては絶対にいやです。他人については全然関係ないですよ、それはしょうがないなと言ってしまいますね。要するに自分さえよければですよ。ドライにかっこつけないで言えばそういうことですね。まあいろいろな言い方、オブラートに包む言い方もあるでしょうけれど最終的にはそういう判断基準ですよ。」

解釈：全体のためなら一部が犠牲になっても、と考えてはいても、自分が犠牲になって良いとは考えておらず、典型的な私生活保守主義的見方を示している。これらが、容易に「総論賛成、各論反対」につながっていく。

③利己主義的住民

内容：昔と違って住民の権利意識が強くなってきており、住民投票などにつながっている。ただし、これには利己主義的な傾向が見られる。

言述：「昔お上というと皆さんかなり強いイメージでお持ちになっていたでしょうね。日本の住民自身もそれほど気性の強いいわば反抗するような住民も少なかったでしょう、知識もなかっただろうし。だけど最近では、もういろいろな機関ができあるいは弁護士相談所みたいなものができ、そういったものに頼りながらでも反発のできる余裕ができてますよね。」

「国に対して知識的な対抗策をとるようになってきたということですよ。昔はしょうがないというのがあったんですけれど最近は・・・。それは沖縄の基地問題も同じですよね。あるいはこの前の原発の住民投票の件もそうですね。」

「要は自分本位な考え方が多くなってきているということですよね・・いやそう言い切れるどうか分かりませんよ。自分だってそうだから。ただ自分の所はやめてくれという言い方でしょ、皆

さん言っているのは。必要性は分かると、基地がなくてはいけないというのは分かると、だけど訓練は他でやってくれと言っているわけだから。だから原発にしてもごみ処理場をつくるにしたってそうですよ。要するに自分の所はいやよと言っているわけだから。それが唯一の理由でしょう。」

解釈：最近の住民投票などを利己主義的なものとみなしている。ただし、自身もそうであると認識しており、仕方がないじゃないか、という無党派層的なシニシズムが見られる。

④管理社会

内容：管理社会が進展して、個人の自由度が奪われ、住民の組織的な反対運動は行いにくくなる。

言述：「いや、恐ろしいイメージがありますよ、これから先は。法律は合法ですよね、先ほど言ったように。要するに非合法的な人が使い兼ねないということですよ。そういう方向にならなければいいと思いつつもなるんじゃないかなと思う一面が・・。それも国をあげて。」

「例えば今納税をナンバー制で管理しちゃうみたいな発想が出てきてる時代ですから、かなり管理的な社会になりつつあるので長期的にスケジュールなり計画なりを立て出すんじゃないですか。」

「下手すればここに住んでいる人間が分かるわけですよ。この人はここに勤めているよと。そうしたら勤め先に話して転勤させるとかね。そんな世の中になりつつあるんじゃないの、という・・・かなりＳＦチックな話ですけれど。そういう世界ができないではないでしょということですよ。そうするとわざわざ無駄な説得はいらないわけですよ、生きるためには転勤しなければいけないんだから。」

解釈：管理社会の進展を恐ろしいイメージとして表現しているが、お上の強圧的な執行を受け入れる傾向を考慮すると、社会の管理システム化に対してそれほど先鋭な避難意識を持っているとは思えない。

[意識上の文脈]

Ａ：　①全体主義的、②私生活保守主義的、③利己主義的住民

・基本的な社会観として、全体のためなら誰かが犠牲になるのは仕方がない、最近の住民は自分の権利ばかりを主張しすぎる、というものであり、これからは伝統的保守に見られるような権威主義的な傾向が伺われる。

・しかしながら、自分や自分の家族だけは犠牲になるのはごめんである、という私生活保守主義的、利己的な傾向もある。つまり他者には権威主義的で身内には近代個人主義的な利己的考え方がミックスしたものとなっている。ある点では、無党派層中に多く見られるパターンである。

・身内を特別視する甘えのパターンが見られ、母性原理的傾向が強い。また、権威主義的側面はシ

ステム化社会を受容しているものとして判断できる。

<コミュニケーション方策>

・基本的に権威を受け入れる傾向が見られるので、「お上」が決めた地層処分に反対する可能性は少ない。したがって、その意味では、特段のリスクコミュニケーションを必要としない。

・しかしながら、都市の電力受益者の多くが含まれる無党派層のうちのあるマジョリティが、このように地元住民を突き放した見方を持っており、強圧的な施策を支持する傾向を持っていることは、地元へのリスクコミュニケーション上好ましくない。

・このような傾向を本音として持つ都市住民は少なくないと考えられる。そこであくまでも試案ではあるが、そのような都市住民の隠している本音を何らかの形で引き出して浮き彫りにし、そのうえで改めて、都市部住民は地層処分問題にどのように取り組んでいけばよいのかを、問題提起していくことが有効ではないかと考える。

・権威主義的な傾向を持った集団に対しては、社会的な権威を有した識者によるしかるべき会議によって（例えば、都市住民の責任意識を喚起するような）呼びかけが行われれば有効であるかもしれない。

B： A（①全体主義的、②私生活保守主義的、③利己主義的住民）

→③専門家への信頼、②処分地選定の妥当性、④息の長い住民説得が有効

→ [消極的賛成]

・基本的な社会的立場での権威主義的傾向から、専門家の言っていることが結局は信頼でき、このため専門家が判断したのなら処分地選定も妥当である、その結果を根気よく住民に説得していけば最後は納得が得られる、という見方につながっている。

・また専門家の決定を受け入れることにより、（自分のところに立地されない限り）地層処分には賛成していくもの考えられる。

・このような静かな傍観者は、地層処分に対する都市部住民の反応の１つのマジョリティとなるものと考えられる。

<コミュニケーション方策>

・このような静かな傍観者の存在は、リスクコミュニケーション上、特に問題とはならない。

・ただし、１つのマジョリティが、専門家等、限定された集団による意思決定、その結果の一方向的な説得を当然視しているからといって、そのスタイルで実際に地元とのコミュニケーションを進めていくと大きなまちがいを起こすであろう。

C： A（①全体主義的、②私生活保守主義的、③利己主義的住民）

→⑦自分が引き受けても良い負担

→ （［どうでもよい］）

・基本的な社会的立場での無党派層的な利己的、甘え的側面を背景として「自分のところには絶対いやだ」と言い切っている。これは「総論賛成、各論反対」を唱える最近の住民の意識傾向のある種の本音であろう。

・また、こうした私生活以外関心がない、という傾向は、全体的に地層処分問題を自分の問題からは距離を置き、「どうでもよい」とするコミットメントの低さにつながっている。

<コミュニケーション方策>

・この、私生活保守主義的傾向→自分のことろでなければどうでも良い（公共問題へのコミットメントの低さ）は、地元へのＰＡ活動上、重大な影響を与えうる。なんらかの啓発的なコミュニケーションが必要となる。

3．被験者（[redacted]氏）のヒアリング分析結果

(1)分析結果

［地層処分に対する態度］

消極的賛成：　なんらかの形で処理しなければならないことは確かである。詳しく知らないので判断はできないが、地層処分が現状で一番適した方法のように思える。結局、一般消費者としては賛成せざるを得ない。

［地層処分に対する問題認識］

| | 影響の大きさの知覚 | 不確実性の知覚 | 社会的妥当性の知覚 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | *情報的影響*<br>○情報公開⑥ | *信憑性* | *対等性* |
| 経済的相互作用 | *経済的影響*<br>●原子力の必要性③ | *信用* | *対等性* |
| 政治的相互作用 | *政治的影響* | *信頼*<br>●核廃棄物の長期的管理④ | *勢力差*<br>○ＨＬＷ処分に関する公衆の責任⑤ |
| 倫理的相互作用 | *倫理的影響*<br>○生活スタイルの変更② | *信念* | *価値観の優位性* |
| 生理的相互作用 | *生理的影響*<br>★核への不安感① | *確率* | *(因果関係)* |

影響関係：　好影響：　☆私・家族　○社会全体　△地元住民
悪影響：　★私・家族　●社会全体　▲地元住民
問題の重要度：　**重要度大**　重要度中　重要度小

［社会的立場］

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理<br>(共生原理) | | |
| | 父性原理<br>(自律原理) | | 公共問題に対する個人の責任②<br>エネルギー多消費型社会への批判① |

(2)各影響項目の内容

[地層処分に対する問題認識]

①核への不安感

内容：核への漠然としてはいるが根強い心情的な不安感がある。平和目的であっても核は使ってはいけないように感じる。

言述：「知識がないから核は非常に恐いものだという先入観があるわけですし。それはもちろん漏れなければ大丈夫でしょうではなくて、そういうものを持っていること自体が・・・。例えば発病しなければ大丈夫だよというウィルスを持っているようなそういう感覚ではあるんですよね。平和利用するとしてもそれはつきつめれば核なわけですから、所有すること自体に対してのアレルギーがあるかなと感じますけれども。石油に対する危険、例えばこの間の重油の流出がありましたけれども、環境破壊とか、とは比較にならないと思いますね。身近の経験から根ざしているわけではないですけれども、知識のレベルでですね。ですから、もっといろいろな情報を開示していただいて・・・大きな誤解があるかもしれませんし・・。」

「将来に負担が残るから私自身も少し否定的な意見が出てくるわけですね。（中略）今、非常に、疑問点も分からないくらいの漠然とした不安というようなものでしかないですから、その不安をクリアに明らかにして・・。メリットだけではなく、デメリットはどうなるのか・・。ですから情報の開示のなかには当然デメリットの部分をきちんと・・それに対しての危機管理はどうなっているのか、ということも正しく伝わると考え方も変わってくるかなという感じがしますね。」

解釈：地下からの放射能の漏洩という具体的な懸念ではなく、ここでは核への漠然とした不安感となっているが、いずれにせよ、この不安要素はすべての個人の意識に共通するものであると考えられる。より漠然とした核への不安となると、原子力を用いることの是非、といった価値観上の問題にもつながっていく。（核の利用そのものへの不安感は、電力多消費などのライフスタイルそのものへの疑義につながっていく。）

②生活スタイルの変更

内容：地層処分問題の根本に電力多消費型の現在のライフスタイルがある。このライフスタイルを変えていかない限り、問題の抜本的な解決にはならない。

言述：「核を持ちたくないと言いながら、君は電気を使っているじゃないかと言われればその通りなんです。ただこの電気を使っている生活が、あるいは現在の日本というものが、現在は満足していたとしても、この延長線上に継続的に明るい未来があるのかというとそうではないな・・ということですね。」

「物がこれだけたくさんあふれている生活レベルが生活のレベルが高い、と表現するならば、それに満足するという考え方の方向性を変えていくべきだと思います。物がたくさんあってそれが人間にとって幸せなんだ、それが生活レベルが高いんだ、こういうものが今ない、じゃあこういうものをつくろう、という・・もちろんそれは発展的に物が進化していく過程ですけれども。そうやっていろいろなものを作り出していくこと自体が生活のレベルが高くなって進歩だ、という考え方、それが生活スタイルだという方向だとしたら、その方向性、考え方を変えていかなければこういったエネルギーの問題だとか出てくると思います。現在の考え方の延長線上であれば。」

解釈：地層処分問題は、高レベル廃棄物が生み出されていくことは是か非か、という問題と、いま現にある高レベル廃棄物の処分は是か非か、という２つの問題が絡み合っている。現在の物質主義的な社会のあり方を批判的に見ている人は、前者の問題も重要視する傾向にあり、そのようなエネルギー依存のライフスタイルの変更に言及する。ただしこれはダイレクトに地層処分反対の態度につながるのではなく、逆に、今あるものは責任を持って処分するべきという考え方につながるケースが多い。

③原子力の必要性

内容：既存の原子力発電所は必要悪であり、これ以上増やす必要もない。原子力発電所がこれ以上増えなければ、高レベル廃棄物問題もこれ以上深刻になることはない。

言述：「原発自体どのようにお考えですかということに関して、非常に危険性もあるので、まあ原発自体は反対はしませんけれども、発電所をこれ以上増やしていくというのは心情的に・・・という部分ですよね。アレルギー反応を起こして原発というものはいやだというのではなくて、現状のものはやむを得ないけれどもこれ以上増やしたくないというのは心情としてありますよ、と。」

「やはり日本は核は持ちたくないですね。それが心情としてありますね。もちろん原子力発電の平和利用ということですから原子力発電所自体がどうのこうのということではないですけれども、使われている核燃料を被爆国である日本が持っているというのは・・・それは心情的にですけれども。」

解釈：原子力を必要悪とする見方は、核への不安とエネルギー多消費社会への批判があいまって生み出される。この背景には、原子力のような危険きわまりない技術を用いてまでなにも無理して電力をつくる必要はないのでは、という認識がある。

④核廃棄物の長期的管理

内容：現在ある当面の社会問題の解決に手こずっており、さらに長期的な政治改革も難航しているのに、数百年もかかる核廃棄物の処分の問題を本当に信頼して任せられる政治主体は存在するのだろう

か？

言述：「廃棄物のほうも、現在それを使ってエネルギーを満たして、自分たちがそれを使うんですよね。（中略）この廃棄物に関して言えば寿命がなくなったところで我々が恩恵にあずかった部分がそこで一応けじめがつけられるわけですよね。（中略）それは一企業の問題ではなくて政府単位の政治的な問題でもありますので、そういう問題を、国ですら・・・システムも政治改革という名で改革されているんでしょうけれども・・・それすら非常に難しい部分もあるのに、この百年二百年という長いスパンまでも人間が果たして保証できるかと。仮に解決できるとしても、そこまでずっと責任を持ってできる人はいないわけですから。そういう根本的な問題があるかなと。」

解釈：核廃棄物の処分の問題を一任できるような政治主体は存在しない、という見方は、国民一人一人が責任意識を持ってこの問題に取り組んでいかなければならない、そこでは次の世代に負担を残すことの是非も含めて議論していかなければならない、とする見方につながっていく。

⑤ＨＬＷ処分に関する公衆の責任

内容：核廃棄物の処分問題は政治家まかせにするのではなく、国民一人一人が責任をもって考えていかなければならない。われわれの世代の責任の取り方としては、次の世代に負担やリスクを残さない処分を完全に行うことであり、そのような高レベル廃棄物を生み出すような生活スタイルを改めることである。

言述：「個人的な意見を述べる前に、まあもちろん個人的な意見を言う立場ではないんですが、国債の問題もそうなんですがそれをどうしたらいいかというのを政治家に任せようという風潮、考え方がありますね。それはむしろみんなで考えなくてはいけないんじゃないかと。つまり問題意識をそこに持って。政治家たちはその時その時で努力をしたんでしょうけれども結果として見ればこういう結果になってきている・・まあそれは政治批判にもつながりますけれども・・。で批判する以上我々の問題でありますし、我々の次の世代に関わってくる問題ですから、どうしたらいいかという意識を持ってみんなで考えるということを習慣づけなければいけないのかなという・・。単純に方法論ではなくてむしろ赤字国債の問題は国民一人一人が考えなければいけない問題なんだという意識ですよね。結果として何が出てくるかは次の問題であって、まず意識を持つこと、自分の問題として考えなくてはいけないんじゃないかな、と思いますね。放射性廃棄物に関しても、当然処分場の地域の人たちあるいはそれに関わる人たちはそういった問題を折りにふれて深く考えると思いますけれども、ただ我々そうでない者にとってはこういったヒアリングの機会がない限りはここまで深くは・・・。まず考えること自体が大事で、そこから導き出される結論というのはその人の知識レベルだとかによって変わってくるんでしょうけれども。そのためにもい

ろいろな情報を得て・・考えていくうえで必要になってくるんだなと思いますね。」

｛われわれの世代の責任の取り方は｝「１００％に近い形の危機管理を・・我々が持っている知恵なり技術を。ここにはこういうものがあるという情報を含めて・・。」

「先程の責任の話で。第一義に今まで作ったものは我々の世代が責任をとらなくてはいけないということ、がありましたけれども、それと同時にここに書いた生活レベル、スタイルを我々は同時に考えていかなくてはならないと・・いうことは当然つながってくると思いますね。（中略）それは感じるとか感じないに関わらず、エネルギーを消費して生活を成り立たせ享受している限りはその責任と義務があるのかなと。責任というのは、半減したり消滅する前の期間の責任で、義務というのは、これ以上そういった廃棄物を増やさないという意味でもエネルギーの問題に対して意識を持って・・・という意味ですね。」

解釈：地層処分は自分にも責任のある問題である、との自覚は、次の世代に迷惑をかけない現世代におけるつつがない処分の決着と、そのような高レベル廃棄物をうみだす社会形態の見直しという２つの方向につながっていく。

⑥情報公開

内容：老人や子供など、社会の様々な人々が、身近な生活の延長線上に原子力の存在を感じることが問題解決の第一歩である。そのためには、身近な生活の延長線上の捉えられるようなわかりやすい情報の公開が必要である。

言述：「何をどう伝えたら理解されるかと。これは私個人というよりもむしろ年輩の方とか子どものこととかも考えると、原子力というものが工場やプラントが身近にないので非常に遠い存在になっていると思うんですね。むしろ飛行機やパソコンなどは普段目にしたり利用したりしている・・。原子力が身近な生活のところに感じられるものがあるといいな、というのは感じるんですけれども。そういうものを通じて原子力というものに対しての意識づけというか・・・そういうものやあるいはサービスなりを通じて・・それはまあ普段の生活の中での素地としてですよね。そういう段階を経てなにか情報が出た場合と、普段身近に感じてないところにいきなり情報が出た場合とでは感じ方も違うでしょうし、拒否反応も出てくるでしょうし。いきなり原子力とはという堅苦しい講義をしても・・・。なにかあるものとかサービスとかシステムとか非常に我々の生活に身近になってきていて、それがエネルギーとして原子力発電を使っているんだ、というのがあったとしますね。で、我々が普段目にしたり利用したりということを通じて原子力というものがこういうところに使われているんだなということを感じると。現在は電力のエネルギーの形に変わっている姿が全然見えないですからそれがなにか見える形にならないかな、と。」

解釈：原子力のあり方や地層処分のあり方については国民一人一人が責任意識を持って考えていくことが望ましいが、そのためには老人や子供にも身近な生活上の問題として理解してもらえるような情報の提供が必要である、としている。

[社会的立場]

①エネルギー多消費型社会への批判

内容：エネルギー多消費型社会は、今後行き詰まるので、もっと自然と調和した社会を目指すべきである。

言述：「我々自身は物の豊かな時代にいて欲望のままに物を作り出して享受してきているわけですけれど、５０年１００年前にはそれがないのが当たり前だったわけで。電力あるいは石油、原子力も含めて、その恩恵にあずかっているものは人類の歴史においてここわずかであり、それがすべてではないですし、このままのエネルギーの使われ方の生活の延長線上に人間の将来があると考えるのは非常に危険なところではないかな、と。そういう大きな意味あいで生活スタイルを考えなくてはいけないのかな、と。」

「各々立場、例えばエコロジーの立場からとか、世界的な環境の立場からとか、部分的にものも含めて新しい哲学を提案している方はいますけれども・・」

解釈：脱物質主義的な考え方であり、エネルギー多消費型の現システム化社会への批判に根ざしている。この批判は、原子力発電の存在そのものへの批判につながっていく。ただし、逆に言えばエネルギー問題に強い関心を抱いていることでもあり、高レベル廃棄物も自分の問題として考える傾向を持つ。

②公共問題に対する個人の責任

内容：公共問題については、単に責任を政治家などに押しつけるのではなく、公衆の一人一人がまず自分の問題として考えていく態度が重要である。

言述：「むしろ消費するほうの考え方を変えていくということのほうが消費する生活者にとっては大事なことかなと。まず原発問題をうんぬんするならば、エネルギー消費者のひとりとしてエネルギーをどう有効に使っていくかということをやはりきちんと考えて・・・まあこれはひとりで考えても、当然それは国のレベル、企業のレベルでやっていかなくてはいけないですけれども・・・ということですね。」

「個人的な意見を述べる前に、まあもちろん個人的な意見を言う立場ではないんですが、国債の問題もそうなんですがそれをどうしたらいいかというのを政治家に任せようという風潮、考え方がありますね。それはむしろみんなで考えなくてはいけないんじゃないかと。つまり問題意識を

そこに持って。政治家たちはその時その時で努力をしたんでしょうけれども結果として見ればこういう結果になってきている・・まあそれは政治批判にもつながりますけれども・・。で批判する以上我々の問題でありますし、我々の次の世代に関わってくる問題ですから、どうしたらいいかという意識を持ってみんなで考えるということを習慣づけなければいけないのかなという・・。」

解釈：政治家や行政への甘えを批判し、個人の自律を志向する父性原理的な考え方である。

[意識上の文脈]

A： ①エネルギー多消費型社会への批判 (→ ①核への不安感) (→ ②原子力の必要性)

→ 生活スタイルの変更 (→ 「ＨＬＷ処分問題の終結（原子力からの撤退）」)

・脱物質主義的な人生観や環境問題に関心を持つ層は、地層処分問題を考えるにあたっても、まずそもそも原子力発電は必要なのか、という問から考える傾向がある。

・原子力発電の必要性に対する批判は、地層処分問題への態度に複雑な影響を及ぼす。単純に原子力反対→地層処分反対、とはならない。

・１つには、この文脈で述べるように、そもそもエネルギー多消費型の生活スタイルそのものを見直さなければならない、そしてＨＬＷの発生は今後根絶しなければならない、という方向につながるものである。

・このような脱物質主義的な人生観や環境問題に関心を持つ層は、核への価値観上の嫌悪感が強い傾向にある。このため、地層処分場からの放射能漏れのリスクが低いことを具体的に説明しても効果は少ない。

<有効なコミュニケーション方>

・原子力＝チェルノブイルというような表面的な誤解には、わかりやすい客観的、技術的情報の提供が有効であるが、そもそも人間社会にとって核とは何か、エネルギー消費とは何か、というように基本的なところに疑義を呈している場合には、原子力発電の有効性をことさら協調することは難しい。しかしながら、ではいまの文明にとってどの程度のエネルギーが必要なのか、その生産形態としてどのようなオプションが合理的なのか、というように客観的に原子力の必要性を議論していくことは可能である。

・このような場合には、核に対する嫌悪感は一般的に強いが、客観的な原子力の安全性の説明に対して理不尽な反対論をもちだすことは少ない。したがって、客観的、技術的に本質的な部分から議論できる。

・ただし価値観上の問題なので、脱物質主義的な人生観への傾倒が激しい場合は、頑固な反対派となり、有効なコミュニケーションの余地は極めて乏しくなる場合もある。

B： ②公共問題に対する公衆の責任 → ＨＬＷ処分に関する公衆の責任

→ 「現にあるＨＬＷの処分には賛成」

・脱物質主義的な人生観や環境問題に関心を持つ層の意識文脈の２番目として、個人の責任意識の必要性につながっていくものがある。基本的に公共意識が強く、また自立した個人への志向も強い、ということがその背景にある。

・エネルギー問題への関心も高く、自分で考えなければならない問題として捉えている。

・このような場合、地層処分に対する態度として、原子力そのものには反対だが、現に高レベル廃棄物がある以上、これはなんとかして次の世代や地球環境に負担をかけない形で処分しなければならない、という見方につながる。

・従ってこの層は、基本的に地層処分に理性的な賛成を示す層である。

・しかしながら、地層処分が本当に「次の世代や地球環境に負担をかけない形」なのかどうかを慎重に見極めることも要求するであろう。

<有効なコミュニケーション方策>

・客観的、技術的に、地層処分の有効性について説明、議論することが有効である。

・しかしながら、地層処分が本当に「次の世代や地球環境に負担をかけない形」なのかどうかは議論の分かれるところであり、厳しい論争点にもなりうる。

4．　被験者（[redacted]氏）のヒアリング分析結果

(1)分析結果

[地層処分に対する態度]

どうでもよい：　地層処分などは自分とは遠い存在であり、どうでもよい。自分に関わりのない場所に処分場をつくるのであれば、国が勝手に決めてくれて良い。

[地層処分に対する問題認識]

| | 影響の大きさの知覚 | 不確実性の知覚 | 社会的妥当性の知覚 |
|---|---|---|---|
| 情報的相互作用 | *情報的影響* | *信憑性*<br>●良いことしかいわない③<br>●判断情報の不足④<br>○動燃の信頼性⑤ | *対等性* |
| 経済的相互作用 | *経済的影響*<br>☆原子力のメリット⑧ | *信用* | *対等性* |
| 政治的相互作用 | *政治的影響*<br>●市民のお節介⑥<br>○行政のサービス⑦ | *信頼* | *勢力差* |
| 倫理的相互作用 | *倫理的影響* | *信念* | *価値観の優位性* |
| 生理的相互作用 | *生理的影響*<br>●放射能の漏洩① | *確率*<br>●１００％の安全性② | *（因果関係）* |

影響関係：　好影響：　☆私・家族　○社会全体　△地元住民
悪影響：　★私・家族　●社会全体　▲地元住民
問題の重要度：　重要度大　重要度中　重要度小

[社会的立場]

| | | 社会との基本的関わり（社会との距離感） | |
|---|---|---|---|
| | | システム化社会の受容 | システム化社会の批判 |
| 社会化の基本原理 | 母性原理（共生原理） | ①なにも変わらない<br>②公共問題への無関心<br>③行政への甘え<br>④社会的不祥事の受容 | |
| | 父性原理（自律原理） | | |

(2)各影響項目の内容

[地層処分に対する問題認識]

①放射能の漏洩（原子力→チェルノブイル事故）

内容：地層に処分すると、地震や地盤沈下、腐食などにより、漏洩する可能性がある。その影響は、地下水、食物を通して、人体に及ぶ。その結果、チェルノブイルのように、長期間・広範囲にわたって奇形や白血病などの影響が起き、末代までへの影響する。

言述：「例えば筒に入れると言っていましたが、一本から漏れたらどれくらいの被害が起こるか、とか、それも知識がありませんから何とも言えないのですが、おぼろげながら、すごいことになるのかなって言う、まぁチェルノブイルぐらいになるのかどうなるのかわかりませんけれども、ただいえるのはやっぱり日本って狭いですから、かなり被害が及ぶのかなというイメージだけですよね。」

「チェルノブイルを見ましたけれどいまだに奇形児が生まれたり白血病が発生したりなど、いまだに影響がありますものねぇ。」

「放射能っていうのは恐いですよね、なんか蓄積されるっていうか、目に見えないだけに。知らず知らずのうちに末代まで影響を受けるようなイメージがあるので。チェルノブイルの時だって、日本にまで放射能を含んだ雨が降ったとか、そんなイメージがありますよね。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

放射能の人体への影響を問題視しているので、生理的悪影響と考える。子供への影響についても論じているものの、基本的には、東京に住んでいる自分とは関係ない話と考えているので、漠然と社会全体への影響と捉えているものと考える。

②100％の安全性

内容：地層処分は100％の安全性が保証されなければならない。それは、チェルノブイルのように、なんらかのトラブルが起きれば、長期間・広範囲にわたって奇形や白血病などの破滅的な影響が起きるからである。

言述：「100%安全でなければならないと思うんですよ。99.99ではいけないはずなんですよね。だから「安全だ」ということには信頼できないんですよね。それは、チャルノブイルを見ましたけれどいまだに奇形児が生まれたり白血病が発生したりなど、いまだに影響がありますものねぇ。だから100%あっちゃいけない、形ですよねぇ。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

健康への破滅的な影響を問題視しているので、生理的相互作用の次元である。さらに、破滅的な影響が発生する可能性は万が一にもあってはならない、という発生確率が論旨であるので、不確実性の知覚の問題と考える。つまり、影響大－確率小のリスクの捉え方の問題である。

③良いことしかいわない安全性の説明への疑義

内容：地層処分という選択肢について、良い面しか説明しておらず、一方的な主張となっている。このため白々しさを感じる。本当に説明しようとするのであれば、良い面、悪い面を公平に紹介するなど、誠実性が必要である。

言述：「なんでも、良いですよ、良いですよ、とばかり言っていると、なんでも信用できなくなりますよね。結局それが、ビデオ、２０分ぐらいあったと思いますけど、２０分間そればかり言ってましたから、なんか本当かなって言う。逆に疑っちゃいますよね。」

「別に故意にだまそうと言うことでは無いと思うんですけど、きちんと説得しようと言う気がないんだと思いますよ。だから、（説得的な）センスがないんじゃぁないでしょうか？役所ってそういうところありますよね。だいたい国が作るＰＲって言うのは、国民の声を無視しているって言うか、相手のことを配慮して本気で作っていない、っていうかんじですよね。」

「地層処分は100%安全ですか、っていったときに、いや100%安全だとはさすがに言えないけど、飛行機事故だって自動車事故だってありますよ、っていえば、もっと説得力が出てくると思いますがね。」

「でも（100%安全だとは言えないけど、と言われたら）やっぱり、本心から言っているなっていうきがするじゃぁないですか。100%安全だとはいまは言えないけど、それに近づけようと努力しているんです、とか、他に言い回しがあると思うんですよね。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

万が一にでも事故は起こりうる、と考えているところに、100%安全です、と（聞こえるような）説明をすることに対する白々しさを問題視しているのであり、情報的相互作用の次元での信憑性の問題である。もしこれが、故意にだまそうという意図を問題視しているのであれば、それは政治的相互作用の次元の問題を含むことになるが、対象者にそのような認識はなく、またそれに対する反発もない、と解釈する。その要因として、対象者が地層処分にそこまでコミットメントしておらず、基本的に他人事として捉えていることがあげられる。

④判断情報の不足

内容：一般の人間が地層処分の是非について判断できるだけの情報が不足している。これには行政側の「知らしむべからず」「事なかれ主義」がある。またその表裏一体のものとして公衆側の無関心があるが、無関心なのは行政側の責任である。

言述：「判断つかないのは、ビデオしか見てませんから、毎年どのくらいの（廃棄物の）量が出ていて、どれくらいで一杯になってしまうのか、処分場の建設にどれくらい年数がかかるのか、それとの兼ね合いで本当は何年しか持たないんだとか、そうなれば今すぐにでも判断しなければならないのでしょうが、（中略）そういう見通しがあるかどうかわかりませんから、闇雲に先延ばしするんではなくて、そういう判断基準は情報が欲しいと（思います）。」

「さらに賛成とも反対とも言えない人が、どうでもいいっていう人のうえにさらにたくさんいるんでしょうね。判断できるまでの情報を得ているわけではありませんし、そこまで勉強するかっていうと、別に必要もないのかもしれませんし、自分の街に来るっていうと、やっぱりねぇ、真剣にならざるを得ないんだろうけど。」

「それから、消去的な発想があるんでしょうね、これを言っちゃダメ、これもダメ、っていうような。なんか余計なことを言ったら、こういう風に（誤解して）取られるんじゃぁないか、とか。」

「｛地層処分の問題については、どういう風に決めていけばいいと思いますか？｝あまり問題にならないままいっちゃうんでしょうね、地層処分はね。たぶん、埋めちゃいますよっていう（通知だけで？）、あんまりみんな知らないじゃないですか。だから、たぶんそのままいっちゃうんじゃないかな、っていう気がしますけどね」

「（任せて）不安だとは思いますけど、自分の身に必ず降りかかるかどうかというと、そこまで考えていられないなっていう。東京にできるわけではないでしょうし。たぶん、北海道なり、あっちの東北のほうでしょうから。ちょっと無責任な言い方になりますけど、そこまで考えないな、と。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

地層処分に関して詳しい情報が得られないのでその是非を判断できない、といっており、その背景として行政側に、公衆からあまりとやかくいわれたくない、そのために情報の提供は最小限にしたい、とする体質があることを指摘している。ただし、そのようは情報の閉鎖性について強い不満を持っている要素は見受けられず、「行政とはそのようなものだ」としてそれほど重大視していないと考える。このことは、情報を知らされていない（自分を含めた）公衆側が情報不足に

より地層処分に関して判断できない状況を、「無関心で無責任だが、公衆とはそのようなものだ」として重大視していないことにもつながっている。

結局のところ、この項目は、単純に情報不確実性をいっているものであり、決定権の配分などの、政治的利害関係は問題にしていないものと考える。さらにいえば、地層処分にかんして自分が積極的にかかわって判断していく意志や関心がないことに対する弁解として、情報不足を持ち出している、とも考える。

⑤推進側の組織としての信頼性

内容：動燃という組織に対しては、意図的な情報隠しや虚偽報告などの不正は感じていない。ただし、融通性にかけていたり広報がなっていないなどで、情報提供者としての信頼度は低く評価している。技術的な能力に関する信頼度は、高く評価している、と考える。

言述：「別に故意にだまそうと言うことでは無いと思うんですけど、きちんと説得しようと言う気がないんだと思いますよ。」

「やる気、というか、閉鎖的だからじゃないでしょうかね？予算の中で作っていけばいいと言う。旧態依然としていますよね、ずっとね。」

「まぁ役所に勤めたことがあるわけではないからわかりませんけれども、イメージとしては、なんか型にはまったことを踏襲していくのが良いというか。それを超えないという気がしますよね。」

「こと、もんじゅとかに関していえば、あまりに動燃がバカすぎる、もう格好の餌食ですよね。」

「安全性を非常に重要視しているようで、その点は評価できるんではないでしょうか。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

情報の信憑性のレベルで不信頼を指摘している。意図的な情報隠しや虚偽報告などはないと考えているので、（政治的）意図のレベルでの信頼性に関する指摘ではない。

⑥市民のお節介

内容：国の政策について個人の意見を反映させることは極めて難しい。が、そのように個人が主張することは分をすぎたことで、住民投票などはやりすぎだと考えている。

言述：「少数が騒いだところで聞き入れないだろうっていう、そんな力もないし、っているあきらめもありますけどね。｛原子力に関して、最近は住民の声っていうのはどのくらい通っていると思いますか？｝ほとんど通っていないんじゃあないか、という気がしますねぇ。もんじゅを止めろ、っていう署名をかなりの人がやっていて、ＴＶや新聞とかでも（そういう報道を）やっているのに、止まんないですもんねぇ。かなりの署名をやったんですよね、あれは。」

「｛ああいう住民投票はこれから増えるんでしょうか？｝さぁー、増えるんじゃあないですかねぇ。みんな最近は行政を睨むのが好きですもんねぇ。オンブズマン、とかいって。余計なお世話だっていう感じがしますけどね。」

「｛地層処分の問題については、どういう風に決めていけばいいと思いますか？｝あまり問題にならないままいっちゃうんでしょうね、地層処分はね。たぶん、埋めちゃいますよっていう（通知だけで）、あんまりみんな知らないじゃないですか。だから、たぶんそのままいっちゃうんじゃないかな、っていう気がしますけどね。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

国の政策への市民の関与のあり方について言っており、政治的影響に関する問題意識である。ただし地層処分の実施により何らかの政治的な影響が発生する、というのではなく、地層処分のような行政が主導する政策が進められると、一部の市民がそれについていろいろ意見を言ったり、（多くは反対の）運動をしたりする、といっている。市民の（一部の）行政に対する政治的影響である。

これに対して本人は、傍観者的な態度を示しているが、その背後には、市民がどう騒いでも行政は変えられない、という諦観が見られる。ただし、この諦観には無念さはない。どちらかというと、行政の進め方や行政と市民との関係は本来そういうもの、という肯定的な捉え方があると考える。またこれが、オンブズマンなどを「余計なお世話」とする見方につながっている。

結局のところ、地層処分などのやっかいなこと、面倒なことは行政に任せておけばよい、と考えているようである。

このことから地層処分に限らず、公共問題全般に関して、自分とは無関係とし、自分が煩わされるのを厭う傾向が見られる。本人と地層処分問題との距離は大きい。

⑦行政のサービス

内容：地層処分などのやっかいなこと、面倒なことは行政がやるべきである。一般市民が取り組むことではない。無関心が悪いというのなら、それも関心を抱かせない行政側の責任である。地層処分場の選定も、国が勝手に決めて良い。

言述：「（任せて）不安だとは思いますけど、自分の身に必ず降りかかるかどうかというと、そこまで考えていられないなっていう。東京にできるわけではないでしょうし。たぶん、北海道なり、あっちの東北のほうでしょうから。ちょっと無責任な言い方になりますけど、そこまで考えないな、と。まぁ、国にまかしておいても、無茶苦茶なことはしないでしょうし。」

「そうですね、スイッチ着けたら電気がつくって思っている人がたくさんいるはずだから。｛そういう人たちについては、どう思いますか？｝どう思うかっていわれても（笑）。そういう人たちが大数なんでしょうからねぇ、だからそういう人たちをどう思うかっていわれても、別に。さらに賛成とも反対とも言えない人が、どうでもいいっていう人のうえにさらにたくさんいるんでしょうね。判断できるまでの情報を得ているわけではありませんし、そこまで勉強するかっていうと、別に必要もないのかもしれませんし、自分の街に来るっていうと、やっぱりねぇ、真剣にならざるを得ないんだろうけど。」

「選挙でも、誰がいったのかな、来ない奴がおかしいって、みんなさんざんいっていますけれど、僕が思うのは、じゃぁ、選挙やっている選挙管理委員会なりなんなりが努力はしているかっていうと、箱持って見ているだけなんですよね。選挙来た人に抽選でなんか賞品出すとか、そうすれば絶対投票率ってあがるはずなんですよ。そういう努力をしているかって。」

「｛地層処分の問題については、どういう風に決めていけばいいと思いますか？｝あまり問題にならないままいっちゃうんでしょうね、地層処分はね。たぶん、埋めちゃいますよっていう（通知だけで？）、あんまりみんな知らないじゃないですか。だから、たぶんそのままいっちゃうんじゃないかな、っていう気がしますけどね（みんなが知らない、とか、関心がない、という状況の中で、あまり騒がれることなく処分が実施される、という意味か？）。実際もう始まっているんでしたっけ？｛研究開発の段階で、まだ具体的な処分場が決まっているわけではありません｝まぁ、処分場の場所を決めることは難しいんでしょうけど、それが問題になっているだけなんでしょうね。（場所の選定はたいした問題ではない、というニュアンス）なんか、無人島にでもつくるんじゃないでしょうか、わかりませんけど。」

「まぁ、本音をいえば、自分の身に降りかかるようは話ではないんだから、処分すればいいんじゃないの、って思いますよね。別にひとりで騒いでもしょうがないですし。そんな力も余裕もないですし。それが自分のところに来るっていったら、そうしたら反対しちゃうんでしょうけどねぇ。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

地層処分やエネルギー確保などの面倒なことは誰がやるか、という政治的影響の問題である。行政側が市民に一方的なサービスを行うべきという、かなり行政側に依存した見方をしている。

地層処分など、面倒くさいことは行政が勝手にやってくれればよいとして、行政のもつ決定権をメリットと捉えている。

⑧原子力のメリット

内容：自分のところにない限り、原子力発電所により電力の心配をしなくて良いというメリットを持っており、原子力があっても良い。

言述：「ただ原子力はまぁないといいとは思いますけど、ですが、では代替エネルギーはどうするのっていわれたら、そこをつっこまれたらつらいですけれどもね、スイッチをひねれば電気がつくと思っていますから。まぁ、わがままかもしれませんけれども、やっぱり自分のところに原発がない限りは、原子力でもしょうがないのかなって思いますよね。」

解釈：原子力に特に反対する姿勢は見られない。それよりも電力の心配をしなくて良いというメリットを重要に考えている。

[社会的立場]

①なにも変わらない

内容：住民投票をやっても、原子力政策にはほとんどなんの影響も与えない。推進側の組織票にはかなわない。

言述：「少数が騒いだところで聞き入れないだろうっていう、そんな力もないし、っているあきらめもありますけどね。｛原子力に関して、最近は住民の声っていうのはどのくらい通っていると思いますか？｝ほとんど通っていないんじゃあないか、という気がしますねぇ。もんじゅを止めろ、っていう署名をかなりの人がやっていて、ＴＶや新聞とかでも（そういう報道を）やっているのに、止まんないですもんねぇ。」

「｛原子力発電所を国民投票で、っていうことになっていくんでしょうか？｝不可能だと思いますけどね。っていうか、意味がないと思いますね。賛成が絶対勝ちますから。絶対、投票率が低くて（組織票で決まる）。絶対かなわないと思いますよ。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

高度化された社会の管理システムにあって、自分個人ではなにも事態は変わらない、と考えている。また、特に関与しようとも思わない、自分の私生活が充実していさえすればよい、とする「私生活保守主義」的な考え方である。これは価値観の問題であり、倫理的影響項目であると考える。これらの層は、他者の価値観には興味を示さず、自分の価値観が脅かされなければ他者に干渉することもしない。

（この層が、社会システムに対してどのようなスタンスを取っているのかは、検討の余地あり）

②公共問題への無関心

内容：地層処分など公共問題は、そもそも（私を含む）一般公衆にとって遠い存在であって、積極的にかかわっていく問題ではない。

公衆が公共問題に対して無関心なのは、行政側のやり方がまずいからである。

言述：「（任せて）不安だとは思いますけど、自分の身に必ず降りかかるかどうかというと、そこまで考えていられないなっていう。東京にできるわけではないでしょうし。たぶん、北海道なり、あっちの東北のほうでしょうから。ちょっと無責任な言い方になりますけど、そこまで考えないな、と。まぁ、国にまかしておいても、無茶苦茶なことはしないでしょうし。」

「というのと、あと、少数が騒いだところで聞き入れないだろうっていう、そんな力もないし、っているあきらめもありますけどね。」

「｜巻町で住民投票がありましたが｜ あそこまでやればすごいですよね。そういう投票までして。さすがに黙っていられない、っていうのがあったんでしょうけど。そこまでやるかっていう感じですけど」

「まぁ、本音をいえば、自分の身に降りかかるようは話ではないんだから、処分すればいいんじゃないの、って思いますよね。別にひとりで騒いでもしょうがないですし。そんな力も余裕もないですし。それが自分のところに来るっていったら、そうしたら反対しちゃうんでしょうけどねぇ。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

地層処分などの社会問題に個人が積極的に関わっていくことは「そこまでやるかっていう感じ」なことと考えており、典型的な無関心派の立場を示している。

③行政への甘え

内容：公衆が「スイッチをつければ電気が使える」と思えるぐらいに、エネルギー供給をスムーズに行うのは行政の役目である。公衆はそれに関して特に問題意識を持つ必要はない。また、公衆が公共問題に対して無関心なのは、行政側のやり方がまずいからである。

言述：「スイッチ着けたら電気がつくって思っている人がたくさんいるはずだから。｜そういう人たちについては、どう思いますか？｜ どう思うかっていわれても（笑）。そういう人たちが大数なんでしょうからねぇ、だからそういう人たちをどう思うかっていわれても、別に。さらに賛成とも反対とも言えない人が、どうでもいいっていう人のうえにさらにたくさんいるんでしょうね。判

断できるまでの情報を得ているわけではありませんし、そこまで勉強するかっていうと、別に必要もないのかもしれませんし、自分の街に来るっていうと、やっぱりねぇ、真剣にならざるを得ないんだろうけど。」

「選挙でも、誰がいったのかな、来ない奴がおかしいって、みんなさんざんいっていますけれど、僕が思うのは、じゃぁ、選挙やっている選挙管理委員会なりなんなりが努力はしているかっていうと、箱持って見ているだけなんですよね。選挙来た人に抽選でなんか賞品出すとか、そうすれば絶対投票率ってあがるはずなんですよ。そういう努力をしているかって。」

解釈：

[問題認識次元・分類の根拠]　（実のところ何を問題視しているのか）

（どこかひとごとのように）電気が使えるのは当たり前である、投票率が低いのは有権者ではなく行政側の責任である、と考えており、「甘え」の傾向を示している。

④社会的不祥事の受容

内容：役人の不祥事など、社会の裏側もそれなりの理由があって成り立っているのであって、それを単眼的に批判するのは大人げない。

言述：「｛最近のやたらと報道されている役人の不祥事は？｝役人の不祥事というのは、あれはいけないことなのかもしれないけど、逆にあれは役人だからダメなのであって、いわゆる普通の企業だったらいいとかね。関空の元社長だって100万とか200万とかしかもらっていないのに、かわいそうな感じはしますよね。それ以上のこと（仕事）をやってきたわけで、一生懸命。それが1つだけをとって、悪い、悪い、てものすごくはやし立てますよねぇ。それが余計なお世話というか、つぶしていっているような。優秀な人のところには絶対お金は集まるし、人は集まるんですよ。岡光さんの場合はあまりにやりすぎだとは思いましたけど。だけど、なにかしらそこには利害関係はあるわけで、例えば、誰かに初めて会うときには、お茶菓子とか、営業は絶対持っていくじゃないですか、それが（相手も）ランクが上がっていけば、そんなお茶菓子ではすななくなって、でなにを持っていけばわからなくなるから、じゃぁ、10万でも、とか、100万でも、って、そう思うわけですよね。それをまた、そういう話をあんまり変に騒ぐっていうのは、やっぱりマスコミ自体も弱いものいじめになっている、っていうことなんでしょうね。」

解釈：社会システムの影の部分もそれなりの理由があって成り立っていると、肯定的に受けとめており、道徳規範を振りかざして異議申し立てすることは大人げないと考えている。

[文脈]

A：　②公共問題への無関心、③行政への甘え、④社会的不祥事の受容

→ ⑦行政のサービス → 「無関心」

・基本的な社会観として、個人が行政に首を突っ込むことまでしなくても良い、行政が面倒なことを引き受けるべきであり個人は社会問題に頭を悩ます責任はない、社会が円滑に営まれるためには少々の不祥事も許される、という「私生活保守主義」的傾向が、地層処分問題に対する行政依存につながり、無関心な態度を生み出す。

<コミュニケーション方策>

・地層処分などのやっかいなこと、面倒なことは行政に任せておけばよい、自分の住む街につくるのは絶対反対だが、そうでなければどうでも良い、と考えている。このため、都市部等の、処分地とならない地域の住民であれば、特に地層処分についての理解を得るためのコミュニケーションを行う必要はない、という考え方をとることができる。どのように決まってもそれに従うであろう。しかしながら、このような無関心層にこそ地層処分の問題を一緒になって考えてもらえるように訴えるべきである、とする考え方もある。地層処分の問題は、広く公共の問題、現在の世代の問題である。また、都市部の住民も自分の問題として考えていることが、処分地住民となる人の疎外感を緩和することにもつながる。

B： ②公共問題への無関心、③行政への甘え

→ ④判断情報の不足（⑥市民のお節介） → 「わからない」

・公共問題への無関心、行政依存の姿勢を背景として、「判断情報の不足」を、「どうも行政の内容がきちんと伝えられていない、だからそれに対して私が判断できないのは仕方がない」という、公共問題に積極的に関与していかない自分の姿勢に対するエクスキューズとして使っている。またこの裏返しとして、公共問題への関心の高い人に対しては「そこまでやるかねぇ」という批判的な見方を持ち、シニシズムにつながっている。

<コミュニケーション方策>

・地層処分に関する国民的な合意を形成していくためには、このような無党派層こそに責任意識を啓発していくことが重要である。そのためには、ＴＶコマーシャルなど到達率の高いメディアを用いる必要がある。ただし、責任意識を訴えるときには、行政依存の強い無党派層に対して「行政の責任をわれわれに押しつけるな」という反発が生じないように、伝達内容に注意を払わなければならない。

C： ③行政への甘え → ⑧原子力のメリット → 「賛成」

・原子力発電などの面倒なことは行政に任せ、自分はそこから得られる電力だけを享受できればよい、という見方から、原子力に対しては世の中の風潮にあわせはするが、特に積極的に反対する

ことはせず、内心では肯定している。

<コミュニケーション方策>

・無党派層にはこのような潜在的「原子力肯定派」が多いと考えられる。このため地層処分に関する今後のＰＡにおいても、原子力の必要性やメリットを訴えていくことは、有効である。

Ｄ：　①なにも変わらない、③行政への甘え、④社会的不祥事の受容　→　「無力感」

・「特に私が言ってどうなるものでもない」、「面倒なことは任せておけば行政がうまくやってくれる」、「世の中はきれいごとではすまない」という達観（一種の無力感）は、日本社会における典型的シニシズムであり、システム化社会の受容層として特徴的である。

<コミュニケーション方策>

・このような日本的なシニシズムは、穏やかな日本的意思決定文化を特徴づけているものであり、あながち否定されるべきではない。地層処分に関して国民的な合意を得ていく過程では、この要素について積極的に注目していく必要がある。

Ｅ：　①放射能の漏洩、②100%の安全性、③良いことしかいわない

・地層処分の危険性をチェルノブイル事故の破滅的なイメージで捉えているため、そのようなことは100%あってはならない、という考えにいたっている。また、良いことしかいわない安全性の説明に対しては、逆にその情報の信憑性を低下させている。

<コミュニケーション方策>

・推進側の広報が、お役所的で決まり切ったこと、当たり障りのないこと、量的にも限られた情報しか発信しない、という批判は多い。やはり、それを打破するための斬新な情報提供が必要である。特に、現在の原子力政策は、住民投票やもんじゅなどの事故により、大きな転機を迎えている。従来の安定期にあったように、原子力政策の推進者と一般公衆との関係が、一方向的、上意下達的ではなくなってきている。これは、「原子力（や地層処分）はみんなで考えなければならない問題」という視点で訴えられるという意味で、１つの好機ともなりうるものである。

添付資料Ｅ　アンケート調査票

# 「社会公共問題に関するお伺い」

## アンケート調査票

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケート調査へのご協力をお願い申しあげます。

本アンケートは、（株）三菱総合研究所が、独自に社会公共問題に対する住民意識の研究のために、実施するものです。アンケート用紙の配布・回収を、（株）コーノリサーチに委託して行っております。

本アンケート内容は、一般住民の方々が、現代社会において日常生活のなかでエネルギー問題や環境問題、ゴミ問題さらには基地問題等の様々な社会公共に影響する問題にどのように携わっておられるのか。また、どのようなものとしてとらえておられるのかを伺っております。

この住民意識調査アンケートの結果を分析することにより、社会公共問題とはどのようなものであるのかを把握するとともに、これからの社会の中で発生するであろう社会公共問題への適切な対応策や地域社会での対立の回避策を検討する際に活用していくものです。

ご回答頂いた調査票が外部に漏れることは決してございません。すべて統計的に処理し、統計数字としてのみとりまとめますので、皆様にご迷惑を掛けることは決してございません。

皆様におかれましては、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

問１：現代社会についてどのようにお考えですか。以下の質問について、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | いまの日本の状況は、昔と比べて良くなったと思いますか？ | | | | | | |
| (2) | 将来の日本の状況は、今より良くなると思いますか？ | | | | | | |

問２：現代の社会制度（政治、役所の行政）や一般住民についてどのようにお感じになっていますか。以下の質問に対して、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | いまの政治や政治家や役人は信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (2) | あなたがなにかをすることによって、いまの政治は良くなると思いますか？ | | | | | | |
| (3) | 政治や経済など、世の中のことは、政府にすべての責任があると思いますか？ | | | | | | |
| (4) | 政治や経済など、世の中のことは、政府にすべて任せておけばよいと思いますか？ | | | | | | |
| (5) | 公共問題に関しては、個人がもっと関心をもち責任とるべきと思いますか？ | | | | | | |
| (6) | 最近は、みんな自分の利益しか考えていないと思いますか？ | | | | | | |
| (7) | 社会に対する意見は、なるべく周りの人にあわせた方がよいと思いますか？ | | | | | | |
| (8) | 国民全体のために、ある程度、一握りの人が犠牲になることはしかたがないと思いますか？ | | | | | | |
| (9) | 社会のためとはいえ、自分や家族が犠牲になるのは、納得できないと思いますか？ | | | | | | |
| (10) | 環境問題などの解決のためには、あなたの現在の生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

[現代社会における社会公共問題として、ゴミ処理場施設や原子力発電所の建設、米軍基地移転の問題、放射性廃棄物の処分施設の問題などについて、あなたのご意見をお聞かせ下さい。]

問３－１：ゴミ処理施設の建設について、あなたはどのようにお考えになっていますか？　以下の質問に対して、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる回答に○印を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | ゴミ処理施設の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることがありますが、あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(1)-1：ゴミ処理施設建設の問題は、日頃、何から見聞きしますか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 新聞 | テレビ・ラジオなど | 一般雑誌・書籍・広報誌など | 地域の広報（市町村の広報案内など） | 学校教育（授業、講義） | 知人・友人 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | （　　） |

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (2) | ゴミ処理施設建設の問題について、関心はあるほうだと思いますか？ | | | | | | |
| (3) | ゴミ処理施設は、人体に直接悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (4) | ごみ処理施設から発生する有害物質ダイオキシンについて良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(4)-1：ダイオキシンについて何かをご存じですか？（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 発生原因 | 外部への漏れだし方 | 生き物への影響の有無 | 影響により生き物におこる症状 | 影響の続く期間 | 影響を防ぐ方法 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | （　　） |

<次ページにつづく>

| 質問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (5) | ゴミ処理施設は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (6) | ゴミ処理施設が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
| (7) | ゴミ処理施設は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
| (8) | ゴミ処理施設は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
| (9) | ゴミ処理施設建設に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (10) | ゴミ処理施設建設に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (11) | ゴミ処理施設建設に関しては、必要な情報は周辺住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
| (12) | ゴミ処理施設建設に関して、周辺住民が得ている情報は、信用できる情報だ　と思いますか？ | | | | | | |
| (13) | ゴミ処理施設建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
| (14) | ゴミ処理施設建設の問題は、施設のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
| (15) | ゴミ処理施設の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (16) | ゴミ処理施設の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (17) | ゴミ処理施設建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (18) | ゴミ処理施設建設に関しては、ゴミを出す都市住民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (19) | ゴミ処理施設建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
| (20) | ゴミ処理施設建設の問題を解決するには、あなたの生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (21) | ゴミ処理施設の建設にあたって、周辺地域への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
| (22) | ゴミ処理施設建設に関しては、ゴミを出す人と施設を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
| (23) | ゴミ処理施設の建設に周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
| (23) | ゴミ処理施設の建設に周辺住民が反対するのは、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

問３－２：現在のゴミ処理施設の建設のやり方には、賛成ですか、反対ですか？あなたのご意見をお聞かせ下さい。ご意見にあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| | あなたのご意見 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | ゴミ処理施設の建設のやり方には、賛成である | |
| ② | ゴミ処理施設の建設のやり方には、どちらかといえば賛成である | |
| ③ | ゴミ処理施設の建設のやり方には、条件しだいでは、賛成する | |
| ④ | ゴミ処理施設の建設のやり方には、賛成、反対のどちらでもない | |
| ⑤ | ゴミ処理施設の建設のやり方には、条件しだいでは、反対する | |
| ⑥ | ゴミ処理施設の建設のやり方には、どちらかといえば反対である | |
| ⑦ | ゴミ処理施設の建設のやり方には、反対である | |
| ⑧ | ゴミ処理施設の建設のやり方が、よくわからないので判断できない。 | |
| ⑨ | ゴミ処理施設の建設には、関心がない。 | |
| ⑩ | ゴミ処理施設の建設のやり方は、私が何をいっても変わらないのでしかたがない。 | |

問３－３：問３－２の質問に対して「③条件しだいで賛成である」あるいは「⑤条件しだいで反対である」とお答えになられた方に、お聞きします。条件はどのようなことでしょうか。あてはまる条件の**回答すべてに○印**を付けて下さい。また、具体的な条件についてご意見があれば、ご記入下さい。

| あてはまる条件 | 回答 | 具体的な条件があればご記入下さい |
|---|---|---|
| ゴミ処理施設建設について、正しく情報が公開されていれば | | どのような情報ですか（　　） |
| ゴミ処理施設建設に対して、適切な補償がなされていれば | | どのような補償ですか（　　） |
| ゴミ処理施設建設が、適切な方法で決められていれば | | どのような決め方ですか（　　） |
| ゴミ処理施設建設対して、ゴミを出す人も責任を感じてくれれば | | どのような責任でしょうか（　　） |
| ゴミ処理施設の安全性が、確認できれば | | どのような安全性ですか（　　） |
| その他の条件 | | どのような条件ですか（　　） |

<次ページにつづく>

問４－１：原子力発電所の建設について、あなたはどのようにお考えになっていますか？　以下の質問に対して、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる回答に○印を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | 原子力発電所の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることがありますが、あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(1)-1：原子力発電所の建設の問題は、日頃、何から見聞きしますか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 新聞 | テレビ・ラジオなど | 一般雑誌・書籍・広報誌など | 地域の広報（市町村の広報案内など） | 学校教育（授業、講義） | 知人・友人 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | （　　） |

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (2) | 原子力発電所建設の問題について、関心はあるほうだと思いますか？ | | | | | | |
| (3) | 原子力発電所は、人体に直接悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (4) | 放射線や放射能または放射性物質について良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(4)-1：放射線や放射能または放射性物質について何かをご存じですか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 発生原因 | 外部への漏れだし方 | 生き物への影響の有無 | 影響により生き物におこる症状 | 影響の続く期間 | 影響を防ぐ方法 | 放射能が徐々に消えていくこと | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | | （　　） |

<次ページにつづく>

| 質問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (5) | 原子力発電所は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (6) | 原子力発電所があなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
| (7) | 原子力発電所は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
| (8) | 原子力発電所は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
| (9) | 原子力発電所建設に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (10) | 原子力発電所建設に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (11) | 原子力発電所建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
| (12) | 原子力発電所建設に関して、周辺住民が得ている情報は､信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
| (13) | 原子力発電所建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
| (14) | 原子力発電所建設の問題は、発電所のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
| (15) | 原子力発電所の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (16) | 原子力発電所の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (17) | 原子力発電所建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (18) | 原子力発電所建設に関しては、電力の恩恵を受ける都市住民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (19) | 原子力発電所建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
| (20) | 原子力発電所建設の問題解決のためには、あなたの生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (21) | 原子力発電所の建設にあたって、周辺地域への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
| (22) | 原子力発電所の建設に関しては、電気を使う人と発電所を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 原子力発電所の建設に周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 原子力発電所の建設に周辺住民が反対するのは、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |

＜次ページにつづく＞

問４－２：現在の原子力発電所の建設のやり方には、賛成ですか、反対ですか？あなたのご意見をお聞かせ下さい。ご意見にあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| | あなたのご意見 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 原子力発電所の建設のやり方には、賛成である | |
| ② | 原子力発電所の建設のやり方には、どちらかといえば賛成である | |
| ③ | 原子力発電所の建設のやり方には、条件しだいでは、賛成する | |
| ④ | 原子力発電所の建設のやり方には、賛成、反対のどちらでもない | |
| ⑤ | 原子力発電所設の建設のやり方には、条件しだいでは、反対する | |
| ⑥ | 原子力発電所の建設のやり方には、どちらかといえば反対である | |
| ⑦ | 原子力発電所の建設のやり方には、反対である | |
| ⑧ | 原子力発電所の建設のやり方は、よくわからないので判断できない。 | |
| ⑨ | 原子力発電所の建設には、関心がない。 | |
| ⑩ | 原子力発電所の建設のやり方は、私が何をいっても変わらないのでしかたがない。 | |

問４－３：問４－２の質問に対して「③条件しだいで賛成である」あるいは「⑤条件しだいで反対である」とお答えになられた方に、お聞きします。条件はどのようなことでしょうか。あてはまる条件の**回答すべてに○印**を付けて下さい。また、具体的な条件についてご意見があれば、ご記入下さい。

| あてはまる条件 | 回答 | 具体的な条件があればご記入下さい |
|---|---|---|
| 原子力発電所建設について、正しく情報が公開されていれば | | どのような情報ですか（　　） |
| 原子力発電所建設に対して、適切な補償がなされていれば | | どのような補償ですか（　　） |
| 原子力発電所建設が、適切な方法で決められていれば | | どのような決め方ですか（　　） |
| 原子力発電所建設に対して、電気を使う人も責任を感じてくれれば | | どのような責任でしょうか（　　） |
| 原子力発電所の安全性が、確認できれば | | どのような安全性ですか（　　） |
| その他の条件 | | どのような条件ですか（　　） |

<次ページにつづく>

問５－１：米軍基地移転の問題について、あなたはどのようにお考えになっていますか？　以下の質問に対して、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる回答に○印を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | 米軍基地の移転では、移転先の地域の住民の反対運動が起こることがありますが、あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(1)-1：米軍基地移転の問題は、日頃、何から見聞きしますか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 新聞 | テレビ・ラジオなど | 一般雑誌・書籍・広報誌など | 地域の広報（市町村の広報案内など） | 学校教育（授業、講義） | 知人・友人 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | （　　） |

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (2) | 米軍基地移転の問題について、関心はあるほうだと思いますか？ | | | | | | |
| (3) | 米軍基地は、人体に直接悪影響があると思いますか？ | | | | | | |

(3)-1：人体に直接影響するのはどのようなことですか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 騒音 | 振動 | 基地から漏れ出す有害ガス | 基地から漏れ出す有害な液体 | 電磁波 | 航空機の墜落 | 爆発 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | | （　　） |

<次ページにつづく>

| 質問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (5) | 米軍基地は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (6) | 米軍基地が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
| (7) | 米軍基地は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
| (8) | 米軍基地は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
| (9) | 米軍基地移転に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (10) | 米軍基地移転に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (11) | 米軍基地移転に関しては、必要な情報が住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
| (12) | 米軍基地移転に関して、住民が得ている情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
| (13) | 米軍基地移転に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
| (14) | 米軍基地移転の問題は、基地のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
| (15) | 米軍基地の移転は、直接、移転先周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (16) | 米軍基地の移転は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (17) | 米軍基地移転に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (18) | 米軍基地移転に関しては、日米安全保障の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (19) | 米軍基地移転の問題は、移転先の周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
| (21) | 米軍基地移転にあたって、移転先の周辺地域への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
| (22) | 米軍基地移転に関しては、日米安全保障の恩恵を受ける国民と基地を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 米軍基地移転に移転先周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 米軍基地移転に移転先周辺住民が反対するのは、移転をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

問５－２：現在の米軍基地移転のやり方には、賛成ですか、反対ですか？あなたのご意見をお聞かせ下さい。ご意見にあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| | あなたのご意見 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 米軍基地移転のやり方には、賛成である | |
| ② | 米軍基地移転のやり方には、どちらかといえば賛成である | |
| ③ | 米軍基地移転のやり方には、条件しだいでは、賛成する | |
| ④ | 米軍基地移転のやり方には、賛成、反対のどちらでもない | |
| ⑤ | 米軍基地移転のやり方には、条件しだいでは、反対する | |
| ⑥ | 米軍基地移転のやり方には、どちらかといえば反対である | |
| ⑦ | 米軍基地移転のやり方には、反対である | |
| ⑧ | 米軍基地移転のやり方は、よくわからないので判断できない。 | |
| ⑨ | 米軍基地移転には、関心がない。 | |
| ⑩ | 米軍基地移転のやり方は、私が何をいっても変わらないのでしかたがない。 | |

問５－３：問５－２の質問に対して「③条件しだいで賛成である」あるいは「⑤条件しだいで反対である」とお答えになられた方に、お聞きします。条件はどのようなことでしょうか。あてはまる条件の**回答すべてに○印**を付けて下さい。また、具体的な条件についてご意見があれば、ご記入下さい。

| あてはまる条件 | 回答 | 具体的な条件があればご記入下さい |
|---|---|---|
| 米軍基地移転について、正しく情報が公開されていれば | | どのような情報ですか（　　） |
| 米軍基地移転に対して、適切な補償がなされていれば | | どのような補償ですか（　　） |
| 米軍基地移転が、適切な方法で決められていれば | | どのような決め方ですか（　　） |
| 米軍基地移転に対して、日米安全保障の恩恵をうける国民も責任を感じてくれれば | | どのような責任でしょうか（　　） |
| 米軍基地の安全性が、確認できれば | | どのような安全性ですか（　　） |
| その他の条件 | | どのような条件ですか（　　） |

<次ページにつづく>

問６：放射性廃棄物の処分場の建設について、あなたのご意見をお聞かせ下さい。

現在、運転されています原子力発電所では、燃料としてウランを利用しています。このウラン燃料を燃やして火力発電所と同じように蒸気を発生させて電気を作ります。燃やした後のウラン燃料から、燃え残りの燃料成分を取り出し、その後に残った燃えかすを高レベル放射性廃棄物と呼びます。

この高レベル放射性廃棄物は強い放射線（放射能）を出しているので、将来的には我々の生活している場所から遠く離れた場所に処分することが検討されています。

その処分の方法の一つに、非常に深い地下（地下１０００ｍくらい）に高レベル放射性廃棄物うめる処分方法（地層処分）が挙げられています。

問６－１：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）について、あなたはどのようにお考えになりますか？　以下の質問に対して、あなたのお考えにあてはまる、あるいは最も近いと思われる回答に○印を付けて下さい。

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (1) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることが考えられます。あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(1)-1：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、日頃、何から見聞きしますか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 新聞 | テレビ・ラジオなど | 一般雑誌・書籍・広報誌など | 地域の広報（市町村の広報案内など） | 学校教育（授業、講義） | 知人・友人 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | （　　） |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (2) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の問題について、関心はあるほうだと思いますか？ | | | | | | |
| (3) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に直接悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (4) | 高レベル放射性廃棄物やそれから出る放射線や放射能について良く知っていると思いますか？ | | | | | | |

(4)-1：高レベル放射性廃棄物やそれから出る放射線、放射能について何かをご存じですか？
（あてはまる**回答のすべてに○印**をつけてください）

| 項目 | 発生原因 | 外部への漏れだし方 | 生き物への影響の有無 | 影響により生き物におこる症状 | 影響の続く期間 | 影響を防ぐ方法 | 放射能が徐々に消えていくこと | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答欄 | | | | | | | | （　　） |

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (5) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
| (6) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
| (7) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
| (8) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
| (9) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (10) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して専門家のいうことは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
| (11) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されると思いますか？ | | | | | | |
| (12) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、周辺住民が得る情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
| (13) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
| (14) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、地層処分場のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
| (15) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (16) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (17) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (18) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、電力の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |
| (19) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起こると思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

| 質　問 | | あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらともいえない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | わからない |
| (21) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設にあたって、周辺地域への補償は、適切に行われると思いますか？ | | | | | | |
| (22) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、原子力の恩恵を受ける国民と処分場を引き受ける人に、不公平が生じると思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
| (23) | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |

<次ページにつづく>

問６－２：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に対しては、賛成ですか、反対ですか？あなたのご意見をお聞かせ下さい。ご意見にあてはまる、あるいは最も近いと思われる**回答一つに○印**を付けて下さい。

| | あなたのご意見 | 回答欄 |
|---|---|---|
| ① | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、賛成である | |
| ② | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、どちらかといえば賛成である | |
| ③ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、条件しだいでは、賛成する | |
| ④ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、賛成、反対のどちらでもない | |
| ⑤ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、条件しだいでは、反対する | |
| ⑥ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、どちらかといえば反対である | |
| ⑦ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、反対である | |
| ⑧ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、よくわからないので判断できない。 | |
| ⑨ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設には、関心がない。 | |
| ⑩ | 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、私が何をいっても変わらないのでしかたがない。 | |

問６－３：問６－２の質問に対して「③条件しだいで賛成である」あるいは「⑤条件しだいで反対である」とお答えになられた方に、お聞きします。条件はどのようなことでしょうか。あてはまる条件の**回答すべてに○印**を付けて下さい。また、具体的な条件についてご意見があれば、ご記入下さい。

| あてはまる条件 | 回答 | 具体的な条件があればご記入下さい |
|---|---|---|
| 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設について、正しく情報が公開されていれば | | どのような情報ですか（　　） |
| 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に対して、適切な補償がなされていれば | | どのような補償ですか（　　） |
| 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設が、適切な方法で決められていれば | | どのような決め方ですか（　　） |
| 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に対して、電気を使う人も責任を感じてくれれば | | どのような責任でしょうか（　　） |
| 放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の安全性が、確認できれば | | どのような安全性ですか（　　） |
| その他の条件 | | どのような条件ですか（　　） |

<次ページにつづく>

問７：ご自身についてお聞かせ下さい？各質問のお答えとしてあてはまる回答に○印を付けて下さい。

| (1)　性　別 | 既婚男性 | 未婚男性 | 既婚女性 | 未婚女性 |
|---|---|---|---|---|
| あてはまる回答**一つに○印**を付けて下さい | | | | |

| (2)　年　齢 | ２０歳～２９歳 | ３０歳～３９歳 | ４０歳～４９歳 | ５０歳～５９歳 | ６０歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | |

| (3)　家族（別居含む） | 配偶者あり | 子ども１人 | 子ども２人 | 子ども３人 | 子ども４人以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答すべてに○印**を付けて下さい | | | | | |

| (4)　最終学歴 | 旧制小学校卒業 | 小学校卒業 | 旧制中学校卒業 | 中学校卒業 | 旧制高等学校卒業 | 高等学校卒業 | 専門学校卒業 | 短期大学卒業 | ４年制大学卒業 | 大学院卒業 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | | | | | | |

| (5)　職　業 | 無職 | 専業主婦 | 学生 | 会社員 | 公務員・団体職員 | 自営業 | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答一つに○印**を付けて下さい | | | | | | | |
| 専攻または職種をご記入下さい | | | | | | | |

| (6)　よく読む新聞 | 読売新聞 | 朝日新聞 | 毎日新聞 | 日経新聞 | 産経新聞 | 東京新聞 | 地方新聞（ご記入下さい） | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答すべてに○印**を付けて下さい | | | | | | | | |

| (7)　よく読む雑誌 | 週間読売 | 週間朝日 | サンデー毎日 | 週間新潮 | 週間文春 | 週間現代 | ニューズウイーク | アエラ | その他（ご記入下さい） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あてはまる**回答すべてに○印**を付けて下さい | | | | | | | | | |

質問はこれで終わりです。アンケートへのご回答、ご協力、大変ありがとうございました。

# 添付資料Ｆ　アンケート単純集計結果

ここでは、被験者集団の「現代社会」、「現代社会制度」、「社会公共問題」に対する質問回答を単純集計し、回答率を基に被験者集団の現代社会への意見、現代社会制度への意見、社会公共問題への意見の傾向を整理した。

## Ｆ．１　単純集計結果

（１）現代社会への意見の集計結果

表Ｆ－１に、現代社会への意見に関する２つの質問に対する地域毎、全地域合計の回答内容の割合を示した。

（２）現代社会制度（政治、役所、行政）への意見の集計結果

表Ｆ－２に、現代社会制度（政治、役所、行政）に関する１０個の質問の回答内容の割合を地域毎、全地域合計で示した。

（３）社会公共問題への意見の集計結果

次の４つの社会公共問題に関する質問の回答内容の割合を地域別と全地域合計で、表Ｆ－３～表Ｆ－６に示した。

①ゴミ処理施設建設

②原子力発電所建設

③米軍基地移転問題

④放射性廃棄物の処分場建設（地層処分）

（４）各主命題に対する判断

４命題に対する公衆の判断の地域毎、全地域合計の回答内容の割合を、表Ｆ－７～表Ｆ－１０に示した。

## Ｆ．２　公衆意識の傾向

（１）地域別の社会問題に対する特徴的な傾向（影響項目）

アンケート結果は、各地域毎に、影響項目に関する回答及び命題に対する回答を集計している。しかしこれらの母数は、地域別に見ると高々、５０弱であり、それぞれを統計処理しても各因子間で有為な傾向を見つけることは難しいと判断される。そこで、まず、影響項目毎の質問と命題に対する回答の傾向や相関を定性的に分析する。定性的な分析結果を基に、特に支配的と考えられる影響項目にを洗い出し、命題毎に影響項目の影響の程度を序列化して、整理する。

また、影響項目以外の因子として、年齢、性別、職業、学歴等の個人情報の影響についても傾向を分析し、主要な因子を整理した。

４つの社会問題に対する質問の回答に対して、各地域別に特徴的な項目を整理し、地域特性

と態度の関係につて、まとめた。

①都市部（世田谷区周辺）

一般的な都市部であり、特に迷惑施設を抱えている地域でもない。このため、特定の社会問題に対して特徴的な傾向は、見られない。しいて挙げれば、ゴミ処理施設建設と原子力発電所建設の傾向、米軍基地移転と放射性廃棄物処分施設建設の傾向が似ている点である。これは、前者が、必要な物、後者は、不必要なものという位置づけにあるものと推測される。

②産廃施設周辺（西多摩郡日の出町）

ゴミ処理施設建設の当事者地域である、日の出町では、他の地域に比べても、ゴミ処分問題への反対運動など実際に起こっているにもかかわらず、そのような問題への認知は、特別、強い傾向は見られない。しかしながら、住民投票による施設建設への決定ついては、他地域に比べて、強く望む傾向にある。これらの結果から考えると、社会的立場の影響は、問題認識の程度よりも、自分たちによる決定といった、当事者意識が強調されるような項目として現れるようである。

③核燃料施設周辺（横須賀市佐原周辺）

核燃料加工工場のある佐原地区での傾向は、特に他の地域と異なるものは見られない。このことは、当該の原子力関連施設が、地域にとって大きな問題になっていないか、地域への貢献度も小さく、社会問題の対象として、意識されていないと考えられる。

④基地周辺（福生市双葉町周辺）

米軍基地周辺の町である福生市の結果を見ると、やはり、②と同様の傾向にある。しかしながら、原子力関連施設よりは地元とのつながりは大きく、基地の存在を仕方なしと考える傾向にあるとも考えられる。また質問が「基地移転」でもあり、そのため当事者意識が薄れているとも考えられる。

⑤空港周辺（成田市三里塚周辺）

この地域は、都市部同様に、４つの命題に直接関連する施設はない。しかし、成田空港の建設という、社会的な問題を抱えている地域であり、命題に対して何らかの影響があるものと予想された。しかし、結果を見ると、ゴミ処理施設建設以外に対しては、「良く分からない」と「関心がない」の比率が大きくなっており、他の地域とは異なる傾向を示している。ゴミ処理施設以外での「良く分からない」と「関心がない」の合計は、ほぼ７割に達している。

また、他の地域では、放射性廃棄物処理節建設に対する「良く分からない」の比率は、他の命題に対してもそれほど高くないにも関わらず、この血有為気では、有意に高い比率を示している。

成田周辺地域は、東京近郊といっても農村部に近い地域である。このため、たとえ空港建設の問題があっても、直接それと関連しない問題や生活に結びつかない問題に対しては、「わからない」「関心がない」という結果に結びつく傾向が強いものと考えられる。このような

傾向の違いが都市部と農村部の違いとして現れていると考えると、その原因となる項目はどのようなことであるのかを検討する必要がある。それには先に挙げた影響項目だけでなく、別の視点からの検討も重要であると考えられる。

（2）各主命題に対する判断の個人族属性毎の傾向

（1）の結果から、洗い出された影響項目を回帰分析の因子として、統計的に処理を行い、その結果から影響項目（因子）間及び態度（命題への回答）への影響の度合いを分析する。

①態度に影響する因子

ゴミ処分施設、原子力発電所、米軍基地、放射性廃棄物‘処理施設施設の４つの命題に対して、地域毎の傾向を分類すると、産廃施設建設の問題が挙がっている日の出町で、ゴミ処分施設に対する態度に大きな違いが見られている。当事者意識が強いためか、他の地域に比べると「良く分からない」が１／５に減り、「どちらかといえば反対」と「反対」が約３倍程度大きくなっている。しかし、福生における基地問題に対する傾向には、日の出町でのゴミ処理施設に対するほどの違いはない。これは、佐原に対する原子力でも同様である。

②命題間の相関

各命題に対する全体の態度を見ると、放射性廃棄物処理施設建設に対しては、ゴミ処理施設－日の出町を除くと、ゴミ処理施設や原子力発電所よりも「反対」の割合が大きくなっており、米軍基地に近い傾向を示すことが分かる。

本来、地層処分場は、原子力発電所の延長上に位置する物であるが、公衆の位置づけとしては、基地と同様と考えるようである。つまり、「迷惑施設であるが必要なもの」でなく、「出来れば無い方がよい迷惑施設」というものである。この点は、今後、地層処分研究の情報提供に際して、少なくともまずは、ゴミ処理施設や原子力発電所のレベルにまで、役割や必要性を公衆に認知してもらうことが必要条件となることを示唆している。

③年齢、性別、職業、学歴等の個人情報の影響の検討

４つの主命題に対する態度を年齢、性別、学歴、職業、購読紙等の個人情報を基準にして整理した結果を表Ｆ－１１～表Ｆ－１４に示す。各個人情報毎に見た態度の傾向を以下に記す。

ｲ)年齢層

２０代の傾向として、４つの命題に対して「仕方がない」の比率が他の世代よりも大きくなっている。特にゴミ処理施設建設では顕著である。さらに、原子力発電所と放射性廃棄物処理施設建設に対して、「どちらでもない」の比率が高くなる。しかしながら、「良く分からない」の比率は、他の世代と比べても小さくはなく、これらの傾向は、２０代世代の特徴的な傾向と言える。おそらく、「自分たちにはどうしようもない」とい

う、体制まかせ的な意識が他の世代より強いためかと推測される。

ロ)性別

性別よる傾向の違いとしては、4命題ともに、女性の方が「良く分からない」の比率が高くなっている。それに比例して、「条件次第で賛成」の比率も大きくなる。このことから、ある程度の知識が、条件付き賛成に結びついていることも予想される。また、未婚男性より既婚男性の「条件次第で賛成」の比率が高いことを見ると、男性の場合は、社会的な位置（職業上の地位）も影響することも考えられる。

ハ)学歴

大学院卒は、全体で2名であり、傾向を見るには意味をもたない。そこで、大学卒以下での比率について、検討する。この結果からは、かならずしも、高学歴になるほど「良く分からない」が減少するわけではないようである。逆に短大卒で「良く分からない」の比率が増加する傾向にあるが、これは、短大卒には、女性が大部分を占めることによると考えられる。

また、その他の回答についても学歴に対しては、特徴的な傾向は見られない。

ニ)職業

職業別に見ると、それぞれに特徴的な傾向が見られる。無職では、米軍基地以外では、「条件次第で賛成」の比率が全体的に高くかつ「良く分からない」の比率が低下している。

学生では、原子力発電所以外で、「どちらかといえば賛成」の傾向が強い。しかも、基地と放射性廃棄物処理施設に対しては、「良く分からない」の比率も高くなっている。

公務員では、4つの命題に対して「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた比率は、他の職種に比べると、高めである。このことから、公共問題への批判的な集団と推測される。

ヘ)購読紙

購読紙については、読売と朝日が大部分であり、その他の購読紙の母数は小さい。このため、読売と朝日での傾向の違いに着目する。両者は、分類としては、保守系と革新系に分けられるがこれにより、購読者の4命題に対する態度の傾向に差異は余り見られない。したがって、本アンケートに関しては、新聞等の種類はあまり影響しないようである。

（3）主命題への影響項目間の相関と主命題への主要因子の抽出

各主命題毎に影響項目間の相関及び相関係数に基づいて回帰分析により抽出した、主要因子を表Ｆ－１５～表Ｆ－１８に示す。

放射性廃棄物処理施設建設に対する態度では、質問として質問6(4)、(5)、(6)、(8)、(10)、(16)、(18)、(24)と態度との相関が比較的大きくなっている。これと同等の傾向を示す命題としては、ゴミ処理施設よりは原子力発電所あるいは米軍基地の傾向に近い。前者では、質問4(8)、(18)、

後者では、質問5(6)、(8)、(10)、(18)である。地域毎の命題に対する傾向からみても、放射性廃棄物処理施設は、米軍基地に近い位置づけにあり、地層処分の受容には、施設の必要性の認知が大きな壁となることが予想される。

表Ｆ－１　　現代社会への意見

| 問１(1)：今の日本の状況は、昔と比べて良くなったと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 14% | 29% | 17% | 32% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 19% | 23% | 21% | 27% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 21% | 13% | 23% | 13% | 23% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 21% | 4% | 19% | 40% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 28% | 40% | 11% | 15% | 4% |
| 合計 | 9% | 18% | 25% | 16% | 29% | 4% |

| 問２(2)：将来の日本の状況は今よりよくなると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 4% | 7% | 30% | 14% | 39% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 0% | 2% | 19% | 25% | 52% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 4% | 25% | 31% | 27% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 6% | 26% | 19% | 43% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 23% | 43% | 23% | 6% |
| 合計 | 3% | 5% | 26% | 24% | 37% | 5% |

表Ｆ－２　現代社会制度（政治、役所、行政）への意見（１／４）

問２(1)：今の政治や政治家、役人は信用できると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 0% | 2% | 9% | 26% | 62% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 0% | 4% | 10% | 23% | 63% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 8% | 17% | 13% | 60% | 0% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 4% | 9% | 30% | 57% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 11% | 19% | 64% | 2% |
| 合計 | 0% | 4% | 11% | 23% | 61% | 1% |

問２(2)：あなたがなにかをすることによって、いまの政治は良くなると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 5% | 12% | 19% | 27% | 29% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 13% | 15% | 15% | 38% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 17% | 13% | 13% | 45% | 9% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 17% | 13% | 11% | 45% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 17% | 32% | 38% | 13% |
| 合計 | 5% | 12% | 16% | 21% | 37% | 10% |

問２(3)：政治や経済など、世の中のことは、政府にすべての責任があると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 13% | 34% | 21% | 23% | 2% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 23% | 21% | 13% | 27% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 21% | 23% | 17% | 31% | 0% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 17% | 13% | 21% | 38% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 9% | 11% | 17% | 38% | 23% | 2% |
| 合計 | 9% | 16% | 24% | 22% | 28% | 1% |

表Ｆ－２　現代社会制度（政治、役所、行政）への意見（２／４）

| 問２(4)：政治や経済など、世の中のことは、政府にすべて任せておけばよいと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 2% | 9% | 21% | 68% | 0% |
| 福生市双葉町周辺 | 0% | 4% | 2% | 33% | 58% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 8% | 6% | 25% | 54% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 2% | 6% | 15% | 74% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 2% | 9% | 11% | 79% | 0% |
| 合計 | 1% | 3% | 7% | 21% | 67% | 1% |

| 問２(5)：公共問題に関しては、個人がもっと関心をもち責任とるべきと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 48% | 42% | 5% | 1% | 2% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 58% | 29% | 8% | 2% | 0% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 44% | 33% | 10% | 0% | 8% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 53% | 26% | 11% | 2% | 4% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 47% | 51% | 2% | 0% | 0% | 0% |
| 合計 | 50% | 37% | 7% | 1% | 3% | 3% |

| 問２(6)：最近は、みんな自分の利益しか考えていないと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 28% | 42% | 24% | 2% | 4% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 42% | 35% | 17% | 2% | 4% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 48% | 25% | 15% | 4% | 6% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 43% | 32% | 17% | 2% | 4% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 34% | 51% | 4% | 9% | 0% | 2% |
| 合計 | 37% | 38% | 17% | 3% | 4% | 1% |

表Ｆ－２　現代社会制度（政治、役所、行政）への意見（３／４）

| 問２(7)：社会に対する意見は、なるべく周りの人にあわせた方がよいと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 3% | 22% | 25% | 49% | 0% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 2% | 25% | 17% | 50% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 8% | 27% | 10% | 44% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 6% | 21% | 21% | 49% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 6% | 38% | 36% | 19% | 0% |
| 合計 | 2% | 5% | 26% | 22% | 44% | 1% |

| 問２(8)：国民全体のために、ある程度、一握りの人が犠牲になることはしかたがないと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 3% | 14% | 21% | 11% | 44% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 15% | 21% | 13% | 42% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 15% | 25% | 6% | 44% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 9% | 28% | 9% | 51% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 30% | 28% | 26% | 11% | 6% |
| 合計 | 3% | 16% | 24% | 12% | 40% | 5% |

| 問２(9)：社会のためとはいえ、自分や家族が犠牲になるのは、納得できないと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 48% | 30% | 12% | 3% | 2% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 42% | 23% | 21% | 8% | 4% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 48% | 19% | 21% | 4% | 2% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 57% | 15% | 15% | 6% | 6% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 32% | 36% | 17% | 9% | 6% | 0% |
| 合計 | 46% | 26% | 16% | 5% | 4% | 3% |

表Ｆ－２　　現代社会制度（政治、役所、行政）への意見（４／４）

| 問２(10)：環境問題などの解決のためには、あなたの現在の生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 39% | 28% | 22% | 5% | 6% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 52% | 31% | 6% | 6% | 2% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 38% | 46% | 10% | 2% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 53% | 26% | 4% | 6% | 11% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 36% | 47% | 6% | 6% | 2% | 2% |
| 合計 | 43% | 34% | 12% | 5% | 5% | 1% |

表Ｆ－３　　ゴミ処理施設建設に関わる意見(1/6)

問３(1)：ゴミ処理施設の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることがありますが、
あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 10% | 56% | 18% | 12% | 4% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 21% | 48% | 8% | 19% | 2% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 19% | 50% | 19% | 8% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 32% | 23% | 9% | 15% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 13% | 60% | 9% | 4% | 6% | 9% |
| 合計 | 15% | 47% | 16% | 11% | 7% | 4% |

問３(2)：ゴミ処理施設建設の問題について、関心はあるほうだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 19% | 43% | 27% | 9% | 2% | 0% |
| 福生市双葉町周辺 | 35% | 25% | 29% | 4% | 6% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 23% | 50% | 17% | 4% | 4% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 32% | 30% | 19% | 11% | 9% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 23% | 36% | 15% | 15% | 11% | 0% |
| 合計 | 25% | 38% | 22% | 9% | 5% | 0% |

問３(3)：ゴミ処理施設は、人体に直接悪影響があると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 31% | 34% | 21% | 7% | 4% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 52% | 27% | 13% | 4% | 2% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 38% | 27% | 23% | 6% | 2% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 40% | 32% | 19% | 2% | 4% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 36% | 40% | 13% | 9% | 0% | 2% |
| 合計 | 38% | 33% | 18% | 6% | 3% | 3% |

問３(4)：ごみ処理施設から発生する有害物質ダイオキシンについて良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 11% | 62% | 14% | 6% | 5% | 2% |
| 福生市双葉町周辺 | 13% | 50% | 10% | 13% | 6% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 33% | 27% | 10% | 10% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 11% | 55% | 11% | 6% | 11% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 17% | 64% | 4% | 6% | 6% | 2% |
| 合計 | 13% | 55% | 13% | 8% | 7% | 4% |

表Ｆ－３　　ゴミ処理施設建設に関わる意見(2/6)

| 問３(5)：ゴミ処理施設は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 32% | 37% | 15% | 6% | 5% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 48% | 40% | 8% | 4% | 0% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 46% | 31% | 19% | 0% | 0% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 40% | 32% | 19% | 4% | 2% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 55% | 28% | 13% | 2% | 0% | 2% |
| 合計 | 42% | 34% | 15% | 4% | 2% | 3% |

| 問３(6)：ゴミ処理施設が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 49% | 29% | 17% | 6% | 0% | 0% |
| 福生市双葉町周辺 | 69% | 23% | 4% | 2% | 0% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 54% | 33% | 10% | 0% | 2% | 0% |
| 横須賀市佐原周辺 | 62% | 21% | 13% | 0% | 2% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 70% | 19% | 9% | 2% | 0% | 0% |
| 合計 | 58% | 26% | 12% | 3% | 1% | 1% |

| 問３(7)：ゴミ処理施設は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 25% | 31% | 28% | 12% | 2% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 42% | 27% | 21% | 4% | 4% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 35% | 23% | 27% | 8% | 2% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 26% | 13% | 34% | 15% | 11% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 45% | 32% | 11% | 6% | 2% | 4% |
| 合計 | 33% | 26% | 25% | 10% | 4% | 3% |

| 問３(8)：ゴミ処理施設は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 77% | 19% | 5% | 0% | 0% | 0% |
| 福生市双葉町周辺 | 73% | 17% | 8% | 0% | 0% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 67% | 19% | 8% | 2% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 77% | 17% | 4% | 2% | 0% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 81% | 13% | 2% | 2% | 2% | 0% |
| 合計 | 75% | 17% | 5% | 1% | 1% | 1% |

表F－3　ゴミ処理施設建設に関わる意見(3/6)

| 問3(9)：ゴミ処理施設建設に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 7% | 30% | 23% | 34% | 5% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 2% | 35% | 17% | 38% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 8% | 23% | 21% | 35% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 4% | 26% | 21% | 40% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 23% | 26% | 30% | 17% |
| 合計 | 2% | 6% | 28% | 22% | 35% | 8% |

| 問3(10)：ゴミ処理施設建設に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 2% | 22% | 40% | 18% | 9% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 21% | 40% | 13% | 15% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 17% | 40% | 15% | 8% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 11% | 26% | 28% | 11% | 21% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 15% | 55% | 2% | 9% | 17% |
| 合計 | 6% | 20% | 40% | 13% | 12% | 9% |

| 問3(11)：ゴミ処理施設建設に関しては、必要な情報は周辺住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 4% | 8% | 13% | 37% | 31% | 7% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 4% | 6% | 29% | 50% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 4% | 8% | 27% | 46% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 9% | 11% | 28% | 47% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 15% | 34% | 45% | 6% |
| 合計 | 4% | 6% | 11% | 32% | 41% | 6% |

| 問3(12)：ゴミ処理施設建設に関しては、周辺住民が得ている情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 10% | 30% | 28% | 22% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 0% | 15% | 25% | 23% | 29% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 4% | 31% | 25% | 29% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 4% | 6% | 34% | 21% | 26% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 40% | 19% | 17% | 19% |
| 合計 | 2% | 8% | 32% | 24% | 24% | 10% |

表Ｆ－３　ゴミ処理施設建設に関わる意見(4/6)

| 問３(13)：ゴミ処理施設建設に関して、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 2% | 19% | 34% | 39% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 2% | 23% | 21% | 44% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 6% | 23% | 17% | 44% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 0% | 21% | 26% | 49% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 32% | 19% | 30% | 15% |
| 合計 | 1% | 3% | 23% | 26% | 41% | 7% |

| 問３(14)：ゴミ処理施設建設の問題は、施設のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 20% | 21% | 15% | 31% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 8% | 10% | 19% | 31% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 13% | 27% | 8% | 40% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 15% | 9% | 9% | 30% | 34% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 28% | 32% | 13% | 11% | 11% | 6% |
| 合計 | 13% | 17% | 17% | 16% | 30% | 7% |

| 問３(15)：ゴミ処理施設の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 11% | 21% | 36% | 14% | 6% | 11% |
| 福生市双葉町周辺 | 21% | 23% | 27% | 17% | 6% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 42% | 8% | 29% | 8% | 6% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 26% | 21% | 17% | 11% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 28% | 32% | 32% | 2% | 2% | 4% |
| 合計 | 21% | 22% | 31% | 12% | 6% | 8% |

| 問３(16)：ゴミ処理施設の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 8% | 25% | 33% | 6% | 17% | 10% |
| 福生市双葉町周辺 | 23% | 17% | 27% | 10% | 19% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 19% | 10% | 25% | 13% | 25% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 15% | 26% | 9% | 32% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 15% | 30% | 32% | 4% | 13% | 6% |
| 合計 | 13% | 20% | 30% | 8% | 20% | 8% |

表F－3　　ゴミ処理施設建設に関わる意見(5/6)

| 問3(17)：ゴミ処理施設建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 6% | 31% | 20% | 33% | 4% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 10% | 33% | 19% | 29% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 6% | 23% | 15% | 44% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 13% | 9% | 21% | 53% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 9% | 38% | 32% | 15% | 2% |
| 合計 | 5% | 8% | 28% | 21% | 35% | 3% |

| 問3(18)：ゴミ処理施設建設に関しては、ゴミを出す都市住民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 37% | 47% | 10% | 3% | 1% | 2% |
| 福生市双葉町周辺 | 42% | 29% | 17% | 6% | 4% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 58% | 23% | 8% | 4% | 2% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 43% | 28% | 13% | 6% | 11% | 0% |
| 成田市三里塚周辺 | 17% | 43% | 30% | 4% | 0% | 6% |
| 合計 | 39% | 37% | 14% | 4% | 3% | 3% |

| 問3(19)：ゴミ処理施設建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 15% | 36% | 16% | 28% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 13% | 23% | 25% | 29% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 2% | 17% | 21% | 46% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 15% | 30% | 19% | 26% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 19% | 34% | 23% | 13% | 9% |
| 合計 | 4% | 13% | 30% | 20% | 28% | 6% |

| 問3(20)：ゴミ処理施設建設の問題を解決するには、あなたの生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 32% | 38% | 19% | 4% | 2% | 5% |
| 福生市双葉町周辺 | 38% | 31% | 8% | 8% | 10% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 38% | 31% | 21% | 2% | 2% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 38% | 36% | 11% | 6% | 6% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 62% | 30% | 4% | 2% | 0% | 2% |
| 合計 | 40% | 34% | 14% | 4% | 4% | 4% |

表Ｆ－３　ゴミ処理施設建設に関わる意見(6/6)

| 問３(21)：ゴミ処理施設の建設にあたって、周辺地域への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 4% | 29% | 16% | 11% | 41% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 2% | 25% | 17% | 17% | 35% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 2% | 38% | 15% | 25% | 15% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 0% | 32% | 9% | 23% | 36% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 0% | 19% | 9% | 15% | 55% |
| 合計 | 2% | 2% | 29% | 13% | 17% | 37% |

| 問３(22)：ゴミ処理施設建設に関しては、ゴミを出す人と施設を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 23% | 35% | 23% | 5% | 1% | 13% |
| 福生市双葉町周辺 | 35% | 15% | 23% | 2% | 2% | 23% |
| 西多摩郡日の出町 | 27% | 29% | 25% | 2% | 4% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 26% | 19% | 15% | 9% | 11% | 21% |
| 成田市三里塚周辺 | 19% | 38% | 17% | 4% | 2% | 19% |
| 合計 | 26% | 29% | 21% | 4% | 3% | 17% |

| 問３(23)：ゴミ処理施設の建設に周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 41% | 38% | 10% | 5% | 3% | 4% |
| 福生市双葉町周辺 | 56% | 42% | 2% | 0% | 0% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 58% | 17% | 8% | 4% | 8% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 55% | 32% | 2% | 4% | 4% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 53% | 34% | 9% | 2% | 0% | 2% |
| 合計 | 50% | 34% | 7% | 3% | 3% | 3% |

| 問３(24)：ゴミ処理施設の建設に周辺住民が反対するのは、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 8% | 14% | 27% | 15% | 20% | 16% |
| 福生市双葉町周辺 | 10% | 8% | 25% | 19% | 29% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 8% | 23% | 15% | 35% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 4% | 13% | 13% | 21% | 38% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 15% | 49% | 9% | 15% | 9% |
| 合計 | 7% | 12% | 27% | 15% | 26% | 12% |

表Ｆ－４　　原子力発電所建設に関わる意見(1/6)

問４(1)：原子力発電所の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることがありますが、
あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 7% | 48% | 25% | 12% | 6% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 29% | 17% | 8% | 13% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 19% | 21% | 15% | 23% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 17% | 30% | 28% | 4% | 17% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 6% | 60% | 11% | 4% | 11% | 9% |
| 合計 | 10% | 39% | 21% | 9% | 12% | 8% |

問４(2)：原子力発電所建設の問題について、関心はあるほうだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 10% | 36% | 30% | 18% | 5% | 2% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 25% | 33% | 17% | 15% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 23% | 27% | 19% | 19% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 15% | 23% | 36% | 9% | 15% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 21% | 28% | 13% | 26% | 9% |
| 合計 | 9% | 28% | 31% | 15% | 13% | 4% |

問４(3)：原子力発電所は、人体に直接悪影響があると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 13% | 34% | 26% | 12% | 6% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 27% | 27% | 19% | 6% | 13% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 21% | 21% | 31% | 15% | 4% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 17% | 21% | 26% | 11% | 11% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 6% | 40% | 26% | 11% | 4% | 13% |
| 合計 | 16% | 30% | 26% | 11% | 7% | 10% |

問４(4)：放射線や放射能または放射性物質について良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 47% | 22% | 15% | 6% | 4% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 33% | 19% | 15% | 8% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 17% | 27% | 23% | 15% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 4% | 19% | 36% | 11% | 23% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 60% | 21% | 2% | 2% | 15% |
| 合計 | 5% | 38% | 24% | 13% | 10% | 9% |

表Ｆ－４　原子力発電所建設に関わる意見(2/6)

| 問４(5)：原子力発電所は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 22% | 27% | 27% | 7% | 7% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 27% | 35% | 17% | 8% | 6% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 31% | 17% | 25% | 4% | 6% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 34% | 21% | 15% | 2% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 19% | 34% | 28% | 9% | 0% | 11% |
| 合計 | 23% | 29% | 24% | 8% | 5% | 10% |

| 問４(6)：原子力発電所があなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 60% | 27% | 6% | 5% | 1% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 75% | 17% | 4% | 0% | 4% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 67% | 27% | 2% | 0% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 62% | 26% | 9% | 0% | 2% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 68% | 28% | 2% | 2% | 0% | 0% |
| 合計 | 65% | 25% | 5% | 2% | 2% | 1% |

| 問４(7)：原子力発電所は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 24% | 31% | 29% | 5% | 4% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 31% | 27% | 29% | 4% | 6% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 35% | 21% | 23% | 10% | 4% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 15% | 36% | 13% | 9% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 13% | 40% | 32% | 4% | 2% | 9% |
| 合計 | 23% | 28% | 30% | 7% | 5% | 8% |

| 問４(8)：原子力発電所は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 31% | 26% | 19% | 6% | 11% | 7% |
| 福生市双葉町周辺 | 31% | 17% | 27% | 8% | 4% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 29% | 10% | 31% | 4% | 17% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 38% | 34% | 6% | 9% | 4% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 40% | 38% | 9% | 2% | 6% | 4% |
| 合計 | 33% | 25% | 18% | 6% | 9% | 8% |

表Ｆ－４　　原子力発電所建設に関わる意見(3/6)

| 問4 (9)：原子力発電所建設に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 3% | 20% | 23% | 45% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 17% | 17% | 48% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 6% | 31% | 17% | 35% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 4% | 17% | 30% | 38% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 6% | 15% | 6% | 36% | 36% |
| 合計 | 0% | 4% | 20% | 19% | 42% | 15% |

| 問4 (10)：原子力発電所建設に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 12% | 35% | 19% | 22% | 11% |
| 福生市双葉町周辺 | 13% | 17% | 25% | 17% | 15% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 15% | 46% | 10% | 15% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 6% | 23% | 21% | 17% | 26% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 11% | 36% | 17% | 6% | 28% |
| 合計 | 4% | 15% | 33% | 17% | 18% | 13% |

| 問4 (11)：原子力発電所建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 3% | 14% | 33% | 44% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 4% | 15% | 21% | 50% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 17% | 29% | 33% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 0% | 9% | 28% | 49% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 0% | 17% | 21% | 38% | 21% |
| 合計 | 1% | 2% | 14% | 28% | 43% | 12% |

| 問4 (12)：原子力発電所建設に関して、周辺住民が得ている情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 6% | 23% | 26% | 31% | 14% |
| 福生市双葉町周辺 | 10% | 0% | 31% | 10% | 31% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 29% | 29% | 21% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 6% | 19% | 23% | 38% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 2% | 23% | 17% | 21% | 36% |
| 合計 | 2% | 4% | 25% | 22% | 29% | 18% |

表Ｆ－４　　原子力発電所建設に関わる意見(4/6)

| 問4 (13)：原子力発電所建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 1% | 19% | 31% | 42% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 0% | 23% | 17% | 46% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 4% | 21% | 21% | 40% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 2% | 11% | 19% | 57% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 2% | 19% | 15% | 28% | 36% |
| 合計 | 1% | 2% | 19% | 23% | 42% | 14% |

| 問4 (14)：原子力発電所建設の問題は、発電所のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 9% | 26% | 24% | 14% | 20% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 8% | 17% | 27% | 35% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 10% | 19% | 17% | 29% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 15% | 19% | 9% | 32% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 38% | 28% | 13% | 6% | 4% | 11% |
| 合計 | 15% | 19% | 19% | 14% | 23% | 9% |

| 問4 (15)：原子力発電所の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 16% | 18% | 34% | 10% | 10% | 12% |
| 福生市双葉町周辺 | 25% | 23% | 23% | 15% | 8% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 27% | 19% | 21% | 13% | 8% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 17% | 20% | 26% | 11% | 15% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 26% | 36% | 26% | 4% | 4% | 4% |
| 合計 | 21% | 22% | 28% | 10% | 9% | 10% |

| 問4 (16)：原子力発電所の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 8% | 15% | 36% | 15% | 19% | 7% |
| 福生市双葉町周辺 | 13% | 13% | 23% | 19% | 29% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 15% | 25% | 15% | 25% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 11% | 17% | 23% | 13% | 26% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 9% | 19% | 45% | 13% | 9% | 6% |
| 合計 | 10% | 15% | 32% | 15% | 21% | 8% |

表Ｆ－４　原子力発電所建設に関わる意見(5/6)

| 問4(17)：原子力発電所建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 7% | 28% | 21% | 37% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 6% | 21% | 23% | 42% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 4% | 29% | 13% | 42% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 11% | 15% | 15% | 51% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 9% | 45% | 28% | 15% | 2% |
| 合計 | 2% | 7% | 28% | 20% | 37% | 5% |

| 問4(18)：原子力発電所建設に関しては、電力の恩恵を受ける都市住民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 12% | 28% | 36% | 5% | 9% | 10% |
| 福生市双葉町周辺 | 19% | 13% | 35% | 6% | 17% | 10% |
| 西多摩郡日の出町 | 17% | 21% | 27% | 10% | 15% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 26% | 21% | 6% | 23% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 9% | 30% | 38% | 6% | 4% | 13% |
| 合計 | 13% | 24% | 33% | 6% | 13% | 11% |

| 問4(19)：原子力発電所建設の問題は、周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 5% | 27% | 24% | 41% | 4% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 4% | 21% | 17% | 50% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 4% | 21% | 23% | 35% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 4% | 2% | 30% | 11% | 45% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 13% | 21% | 23% | 32% | 11% |
| 合計 | 2% | 5% | 24% | 20% | 41% | 7% |

| 問4(20)：原子力発電所建設の問題解決のためには、あなたの生活習慣を見直すべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 18% | 27% | 31% | 6% | 7% | 10% |
| 福生市双葉町周辺 | 21% | 15% | 19% | 6% | 15% | 25% |
| 西多摩郡日の出町 | 19% | 15% | 31% | 13% | 8% | 15% |
| 横須賀市佐原周辺 | 26% | 19% | 19% | 13% | 19% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 55% | 17% | 9% | 6% | 4% | 9% |
| 合計 | 26% | 20% | 24% | 8% | 10% | 12% |

表Ｆ－４　原子力発電所建設に関わる意見(6/6)

| 問4 (21)：原子力発電所の建設にあたって、周辺地域への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 4% | 25% | 13% | 11% | 46% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 23% | 8% | 10% | 56% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 2% | 33% | 15% | 15% | 31% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 2% | 17% | 15% | 26% | 37% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 21% | 6% | 15% | 57% |
| 合計 | 2% | 2% | 24% | 12% | 15% | 46% |

| 問4 (22)：原子力発電所の建設に関しては、電気を使う人と発電所を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 13% | 31% | 31% | 3% | 3% | 19% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 6% | 31% | 4% | 10% | 31% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 15% | 31% | 8% | 6% | 29% |
| 横須賀市佐原周辺 | 17% | 15% | 30% | 9% | 9% | 21% |
| 成田市三里塚周辺 | 15% | 40% | 17% | 9% | 2% | 17% |
| 合計 | 14% | 23% | 29% | 6% | 5% | 23% |

| 問4 (23)：原子力発電所の建設に周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 39% | 46% | 6% | 4% | 0% | 5% |
| 福生市双葉町周辺 | 60% | 27% | 8% | 0% | 2% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 56% | 19% | 17% | 2% | 0% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 53% | 30% | 2% | 2% | 6% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 60% | 34% | 6% | 0% | 0% | 0% |
| 合計 | 51% | 34% | 8% | 2% | 1% | 4% |

| 問4 (24)：原子力発電所の建設に周辺住民が反対するのは、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 17% | 25% | 14% | 18% | 20% |
| 福生市双葉町周辺 | 19% | 10% | 19% | 10% | 29% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 8% | 27% | 15% | 25% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 19% | 15% | 13% | 30% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 13% | 38% | 9% | 19% | 19% |
| 合計 | 8% | 14% | 25% | 12% | 23% | 18% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(1/6)

問５(1)：米軍基地の移転では、移転先の地域の住民の反対運動が起こることがありますが、
あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 43% | 29% | 12% | 7% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 15% | 38% | 8% | 17% | 4% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 21% | 31% | 8% | 17% | 15% |
| 横須賀市佐原周辺 | 23% | 36% | 19% | 6% | 13% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 70% | 6% | 9% | 2% | 11% |
| 合計 | 10% | 42% | 21% | 11% | 8% | 8% |

問５(2)：米軍基地移転の問題について、関心はあるほうだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 3% | 36% | 28% | 20% | 10% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 19% | 25% | 38% | 6% | 10% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 21% | 42% | 10% | 21% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 23% | 17% | 36% | 11% | 11% | 2% |
| 成田市三里塚周辺 | 6% | 19% | 15% | 9% | 45% | 6% |
| 合計 | 9% | 26% | 31% | 13% | 17% | 3% |

問５(3)：米軍基地は、人体に直接悪影響があると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 14% | 38% | 19% | 14% | 6% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 25% | 38% | 8% | 8% | 15% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 29% | 42% | 4% | 10% | 4% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 21% | 17% | 17% | 23% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 49% | 26% | 9% | 6% | 6% |
| 合計 | 13% | 36% | 22% | 11% | 11% | 7% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(2/6)

| 問５(5)：米軍基地は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 19% | 31% | 29% | 8% | 3% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 29% | 27% | 13% | 13% | 13% | 6% |
| 西多摩郡日の出町 | 21% | 27% | 35% | 6% | 2% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 23% | 32% | 9% | 15% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 13% | 32% | 36% | 11% | 6% | 2% |
| 合計 | 18% | 29% | 29% | 9% | 7% | 8% |

| 問５(6)：米軍基地が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 47% | 31% | 14% | 4% | 2% | 3% |
| 福生市双葉町周辺 | 40% | 21% | 8% | 13% | 19% | 0% |
| 西多摩郡日の出町 | 48% | 38% | 10% | 0% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 32% | 21% | 15% | 11% | 17% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 57% | 36% | 6% | 0% | 0% | 0% |
| 合計 | 45% | 30% | 11% | 5% | 7% | 2% |

| 問５(7)：米軍基地は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 23% | 31% | 25% | 8% | 6% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 23% | 25% | 19% | 17% | 15% | 2% |
| 西多摩郡日の出町 | 21% | 21% | 48% | 6% | 2% | 2% |
| 横須賀市佐原周辺 | 15% | 13% | 28% | 17% | 17% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 15% | 43% | 32% | 4% | 0% | 6% |
| 合計 | 20% | 28% | 29% | 10% | 7% | 6% |

| 問５(8)：米軍基地は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 4% | 17% | 22% | 14% | 40% | 4% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 15% | 23% | 6% | 33% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 6% | 10% | 27% | 15% | 35% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 17% | 19% | 9% | 34% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 11% | 38% | 6% | 34% | 11% |
| 合計 | 5% | 14% | 25% | 11% | 36% | 8% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(3/6)

| 問５(9)：米軍基地移転に関しては、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 3% | 25% | 19% | 41% | 13% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 21% | 19% | 33% | 25% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 35% | 13% | 29% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 4% | 21% | 13% | 49% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 17% | 11% | 19% | 49% |
| 合計 | 0% | 3% | 24% | 15% | 36% | 22% |

| 問５(10)：米軍基地移転に関して専門家のいっていることは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 8% | 32% | 15% | 28% | 17% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 8% | 19% | 21% | 21% | 29% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 6% | 46% | 4% | 21% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 15% | 23% | 9% | 40% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 2% | 32% | 15% | 6% | 43% |
| 合計 | 1% | 8% | 31% | 13% | 24% | 22% |

| 問５(11)：米軍基地移転に関しては、必要な情報が住民に公開されていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 1% | 17% | 27% | 42% | 14% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 6% | 23% | 52% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 0% | 29% | 27% | 25% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 0% | 15% | 21% | 53% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 15% | 11% | 43% | 28% |
| 合計 | 1% | 1% | 16% | 23% | 43% | 16% |

| 問５(12)：米軍基地移転に関して、住民が得ている情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 0% | 27% | 23% | 28% | 22% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 2% | 21% | 23% | 31% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 4% | 44% | 19% | 10% | 23% |
| 横須賀市佐原周辺 | 4% | 4% | 26% | 15% | 38% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 2% | 28% | 11% | 11% | 47% |
| 合計 | 2% | 2% | 29% | 19% | 24% | 24% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(4/6)

| 問５(13)：米軍基地移転に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 0% | 15% | 24% | 50% | 11% |
| 福生市双葉町周辺 | 4% | 0% | 19% | 21% | 52% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 27% | 19% | 35% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 0% | 19% | 15% | 55% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 2% | 13% | 13% | 34% | 36% |
| 合計 | 1% | 1% | 18% | 19% | 46% | 15% |

| 問５(14)：米軍基地移転の問題は、基地のイメージが悪いから起こると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 16% | 38% | 18% | 7% | 16% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 19% | 13% | 17% | 17% | 23% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 8% | 31% | 13% | 23% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 21% | 23% | 13% | 6% | 23% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 36% | 34% | 13% | 0% | 11% | 6% |
| 合計 | 20% | 26% | 18% | 8% | 18% | 9% |

| 問５(15)：米軍基地の移転は、直接、移転先周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 15% | 31% | 27% | 8% | 9% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 23% | 13% | 23% | 8% | 15% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 29% | 17% | 23% | 4% | 6% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 32% | 15% | 4% | 17% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 17% | 45% | 21% | 0% | 2% | 15% |
| 合計 | 19% | 28% | 23% | 6% | 10% | 14% |

| 問５(16)：米軍基地の移転は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 19% | 29% | 15% | 19% | 12% |
| 福生市双葉町周辺 | 10% | 19% | 19% | 17% | 21% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 10% | 6% | 29% | 13% | 27% | 15% |
| 横須賀市佐原周辺 | 6% | 11% | 19% | 17% | 36% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 28% | 47% | 2% | 15% | 6% |
| 合計 | 7% | 17% | 29% | 13% | 23% | 12% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(5/6)

| 問５(17)：米軍基地移転に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 3% | 6% | 20% | 28% | 37% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 8% | 23% | 17% | 38% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 4% | 25% | 23% | 29% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 9% | 9% | 15% | 57% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 6% | 49% | 13% | 21% | 11% |
| 合計 | 3% | 6% | 24% | 21% | 37% | 9% |

| 問５(18)：米軍基地移転に関しては、日米安全保障の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 9% | 18% | 32% | 8% | 19% | 14% |
| 福生市双葉町周辺 | 19% | 8% | 29% | 6% | 19% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 13% | 31% | 10% | 13% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 23% | 11% | 19% | 13% | 19% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 9% | 53% | 6% | 6% | 23% |
| 合計 | 12% | 13% | 33% | 9% | 16% | 18% |

| 問５(19)：米軍基地移転の問題は、移転先の周辺住民の自己中心的な考え方が原因で起きていると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 5% | 25% | 23% | 38% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 8% | 31% | 13% | 38% | 8% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 6% | 19% | 17% | 46% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 6% | 4% | 19% | 15% | 45% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 32% | 23% | 26% | 15% |
| 合計 | 2% | 5% | 25% | 19% | 38% | 10% |

表Ｆ－５　　米軍基地移転に関わる意見(6/6)

| 問５(21)：米軍基地移転にあたって、移転先の周辺住民への補償のやり方は、適切だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 3% | 24% | 9% | 16% | 47% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 15% | 8% | 23% | 52% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 29% | 8% | 23% | 38% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 4% | 23% | 9% | 23% | 40% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 6% | 11% | 17% | 66% |
| 合計 | 18% | 26% | 21% | 4% | 4% | 26% |

| 問５(22)：米軍基地移転に関しては、日米安全保障の恩恵を受ける国民と基地を引き受ける人で、不公平があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 17% | 31% | 24% | 6% | 4% | 19% |
| 福生市双葉町周辺 | 31% | 13% | 13% | 2% | 6% | 35% |
| 西多摩郡日の出町 | 21% | 10% | 29% | 2% | 4% | 33% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 30% | 15% | 4% | 6% | 26% |
| 成田市三里塚周辺 | 6% | 43% | 23% | 4% | 2% | 21% |
| 合計 | 18% | 26% | 21% | 4% | 4% | 26% |

| 問５(23)：米軍基地移転に移転先周辺住民が反対するのは、安心して住めなくなるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 34% | 41% | 11% | 5% | 1% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 54% | 27% | 4% | 2% | 0% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 40% | 31% | 8% | 4% | 4% | 13% |
| 横須賀市佐原周辺 | 32% | 36% | 11% | 4% | 9% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 51% | 40% | 6% | 2% | 0% | 0% |
| 合計 | 41% | 36% | 9% | 4% | 2% | 8% |

| 問５(24)：米軍基地移転に移転先周辺住民が反対するのは、移転をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 6% | 20% | 26% | 14% | 12% | 21% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 8% | 19% | 13% | 25% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 10% | 25% | 17% | 17% | 23% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 17% | 21% | 4% | 30% | 19% |
| 成田市三里塚周辺 | 9% | 6% | 49% | 17% | 4% | 15% |
| 合計 | 9% | 14% | 28% | 13% | 16% | 20% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(1/6)

問６(1)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設については、建設地域の住民の反対運動が起こることが考えられます。あなたはこうした問題を良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 36% | 28% | 12% | 11% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 17% | 21% | 10% | 15% | 13% | 25% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 17% | 23% | 8% | 23% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 34% | 13% | 11% | 23% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 6% | 64% | 9% | 6% | 11% | 4% |
| 合計 | 8% | 35% | 19% | 11% | 15% | 13% |

問６(2)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の問題について、関心はあるほうだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 42% | 31% | 16% | 4% | 2% |
| 福生市双葉町周辺 | 15% | 23% | 33% | 8% | 17% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 25% | 29% | 10% | 23% | 10% |
| 横須賀市佐原周辺 | 19% | 17% | 26% | 9% | 23% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 19% | 21% | 15% | 34% | 9% |
| 合計 | 8% | 29% | 29% | 12% | 17% | 5% |

問６(3)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に直接悪影響があると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 34% | 31% | 14% | 4% | 0% | 18% |
| 福生市双葉町周辺 | 38% | 35% | 8% | 4% | 2% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 25% | 29% | 23% | 4% | 2% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 30% | 26% | 15% | 11% | 4% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 13% | 36% | 34% | 2% | 0% | 15% |
| 合計 | 29% | 31% | 18% | 5% | 1% | 16% |

問６(4)：高レベル放射性廃棄物やそれから出る放射線や放射能について良く知っていると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 5% | 41% | 24% | 11% | 11% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 23% | 19% | 8% | 15% | 27% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 13% | 23% | 17% | 21% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 6% | 19% | 23% | 21% | 19% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 45% | 30% | 4% | 6% | 15% |
| 合計 | 4% | 31% | 24% | 12% | 14% | 15% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(2/6)

| 問６(5)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、人体に間接的に悪影響があると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 31% | 40% | 13% | 4% | 1% | 11% |
| 福生市双葉町周辺 | 35% | 42% | 4% | 0% | 4% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 33% | 31% | 15% | 0% | 0% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 21% | 47% | 15% | 2% | 2% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 23% | 36% | 30% | 0% | 0% | 11% |
| 合計 | 30% | 39% | 15% | 2% | 1% | 13% |

| 問６(6)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）が、あなたの家のそばに建設されたとしたら、あなたは不安を感じると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 72% | 20% | 5% | 2% | 0% | 1% |
| 福生市双葉町周辺 | 75% | 15% | 4% | 0% | 2% | 4% |
| 西多摩郡日の出町 | 75% | 19% | 0% | 0% | 0% | 6% |
| 横須賀市佐原周辺 | 64% | 19% | 9% | 2% | 2% | 4% |
| 成田市三里塚周辺 | 62% | 30% | 6% | 0% | 0% | 2% |
| 合計 | 70% | 20% | 5% | 1% | 1% | 3% |

| 問６(7)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、環境を破壊すると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 56% | 24% | 9% | 2% | 1% | 8% |
| 福生市双葉町周辺 | 50% | 31% | 6% | 0% | 2% | 10% |
| 西多摩郡日の出町 | 48% | 23% | 6% | 2% | 0% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 30% | 36% | 21% | 2% | 2% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 26% | 36% | 30% | 0% | 0% | 9% |
| 合計 | 45% | 29% | 13% | 1% | 1% | 11% |

| 問６(8)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）は、必要だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 17% | 23% | 33% | 5% | 5% | 18% |
| 福生市双葉町周辺 | 27% | 15% | 17% | 6% | 8% | 27% |
| 西多摩郡日の出町 | 8% | 23% | 25% | 6% | 8% | 29% |
| 横須賀市佐原周辺 | 34% | 26% | 21% | 2% | 4% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 23% | 43% | 17% | 4% | 6% | 6% |
| 合計 | 21% | 25% | 25% | 5% | 6% | 18% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(3/6)

| 問６(9)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、役所の対応のしかたは信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 1% | 19% | 27% | 37% | 17% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 6% | 23% | 8% | 40% | 21% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 0% | 25% | 15% | 38% | 23% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 0% | 15% | 23% | 47% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 2% | 19% | 9% | 26% | 45% |
| 合計 | 0% | 2% | 20% | 18% | 37% | 22% |

| 問６(10)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して専門家のいうことは、信用できると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 13% | 31% | 21% | 20% | 14% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 13% | 27% | 17% | 21% | 21% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 15% | 35% | 15% | 13% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 19% | 23% | 13% | 30% | 6% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 2% | 32% | 11% | 6% | 47% |
| 合計 | 2% | 12% | 30% | 16% | 18% | 20% |

| 問６(11)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、必要な情報が周辺住民に公開されると思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 2% | 16% | 33% | 42% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 8% | 25% | 46% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 2% | 29% | 13% | 29% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 2% | 13% | 36% | 38% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 0% | 11% | 13% | 45% | 30% |
| 合計 | 1% | 1% | 15% | 26% | 40% | 16% |

| 問６(12)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関して、周辺住民が得る情報は、信用できる情報だと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 0% | 5% | 25% | 35% | 28% | 7% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 2% | 17% | 29% | 29% | 21% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 29% | 19% | 23% | 27% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 13% | 21% | 17% | 36% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 19% | 17% | 15% | 49% |
| 合計 | 1% | 4% | 23% | 26% | 27% | 20% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(4/6)

問６(13)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）建設に関しては、役所は優れた対応ができると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 0% | 1% | 22% | 31% | 40% | 6% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 2% | 13% | 17% | 46% | 21% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 0% | 25% | 23% | 31% | 21% |
| 横須賀市佐原周辺 | 0% | 4% | 6% | 23% | 49% | 17% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 15% | 17% | 26% | 43% |
| 合計 | 0% | 1% | 17% | 24% | 39% | 18% |

問６(14)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設の問題は、地層処分場のイメージが悪いから起こると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 20% | 19% | 21% | 8% | 14% | 17% |
| 福生市双葉町周辺 | 15% | 8% | 25% | 8% | 27% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 19% | 13% | 17% | 8% | 27% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 15% | 19% | 13% | 26% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 36% | 38% | 11% | 4% | 2% | 9% |
| 合計 | 20% | 19% | 19% | 8% | 18% | 15% |

問６(15)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、直接、周辺住民の投票で決めるべきだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 11% | 28% | 33% | 6% | 9% | 13% |
| 福生市双葉町周辺 | 23% | 10% | 25% | 13% | 8% | 21% |
| 西多摩郡日の出町 | 33% | 10% | 25% | 4% | 10% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 13% | 23% | 26% | 9% | 19% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 19% | 40% | 23% | 0% | 2% | 15% |
| 合計 | 18% | 23% | 28% | 6% | 10% | 15% |

問４(16)：原子力発電所の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 6% | 14% | 36% | 13% | 21% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 15% | 19% | 23% | 15% | 13% | 17% |
| 西多摩郡日の出町 | 13% | 8% | 27% | 13% | 21% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 9% | 19% | 17% | 9% | 34% | 13% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 23% | 43% | 6% | 13% | 11% |
| 合計 | 9% | 16% | 31% | 11% | 20% | 13% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(5/6)

| 問６(17)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設は、都や県の議会が責任を持って決めるべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 5% | 6% | 21% | 19% | 44% | 5% |
| 福生市双葉町周辺 | 6% | 6% | 17% | 15% | 42% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 2% | 35% | 19% | 27% | 17% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 9% | 13% | 17% | 49% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 2% | 6% | 47% | 19% | 17% | 9% |
| 合計 | 3% | 6% | 26% | 18% | 37% | 10% |

| 問６(18)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、都や県の議会で決めたたことに住民はしたがうべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 15% | 24% | 31% | 7% | 8% | 15% |
| 福生市双葉町周辺 | 15% | 19% | 23% | 10% | 15% | 19% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 15% | 27% | 6% | 13% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 15% | 30% | 17% | 4% | 23% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 11% | 15% | 43% | 11% | 4% | 17% |
| 合計 | 14% | 21% | 29% | 8% | 12% | 17% |

| 問６(19)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、電力の恩恵を受ける国民が責任を持つべきだと思いますか？ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
| 世田谷区周辺 | 1% | 7% | 26% | 12% | 44% | 9% |
| 福生市双葉町周辺 | 8% | 2% | 27% | 13% | 35% | 15% |
| 西多摩郡日の出町 | 2% | 2% | 19% | 17% | 42% | 19% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 2% | 23% | 21% | 40% | 11% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 4% | 30% | 30% | 23% | 13% |
| 合計 | 2% | 4% | 25% | 17% | 39% | 12% |

表Ｆ－６　　放射性廃棄物処分施設（地層処分）建設に関わる意見(6/6)

問 6 (21)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設にあたって、周辺地域への補償は、適切に行われると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 1% | 1% | 16% | 13% | 18% | 52% |
| 福生市双葉町周辺 | 2% | 0% | 13% | 13% | 15% | 58% |
| 西多摩郡日の出町 | 0% | 0% | 21% | 15% | 19% | 46% |
| 横須賀市佐原周辺 | 2% | 2% | 19% | 9% | 23% | 45% |
| 成田市三里塚周辺 | 0% | 0% | 19% | 6% | 13% | 62% |
| 合計 | 1% | 1% | 17% | 11% | 17% | 52% |

問 6 (22)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に関しては、原子力の恩恵を受ける国民と処分場を引き受ける人に、不公平が生じると思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 22% | 25% | 27% | 4% | 3% | 19% |
| 福生市双葉町周辺 | 31% | 17% | 15% | 4% | 4% | 29% |
| 西多摩郡日の出町 | 15% | 25% | 21% | 0% | 6% | 33% |
| 横須賀市佐原周辺 | 23% | 23% | 26% | 2% | 6% | 19% |
| 成田市三里塚周辺 | 4% | 47% | 19% | 2% | 0% | 28% |
| 合計 | 20% | 27% | 22% | 3% | 4% | 24% |

問 6 (23)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するとしたら、その理由は、安心して住めなくなるからだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 50% | 32% | 10% | 2% | 1% | 5% |
| 福生市双葉町周辺 | 56% | 27% | 4% | 0% | 0% | 13% |
| 西多摩郡日の出町 | 69% | 17% | 6% | 0% | 0% | 8% |
| 横須賀市佐原周辺 | 51% | 30% | 6% | 2% | 2% | 9% |
| 成田市三里塚周辺 | 49% | 40% | 2% | 2% | 2% | 4% |
| 合計 | 54% | 30% | 7% | 1% | 1% | 7% |

問 6 (24)：放射性廃棄物の処分場（地層処分場）の建設に周辺住民が反対するのは、建設をめぐるもめ事で地域がぎすぎすしたものになるからだと思いますか？

| 地域名 | そう思う | どちらかというとそう思う | どちらとも言えない | どちらかというとそう思わない | そう思わない | 分からない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 世田谷区周辺 | 8% | 14% | 30% | 13% | 18% | 18% |
| 福生市双葉町周辺 | 13% | 10% | 15% | 13% | 23% | 27% |
| 西多摩郡日の出町 | 4% | 10% | 27% | 10% | 23% | 25% |
| 横須賀市佐原周辺 | 6% | 11% | 21% | 15% | 32% | 15% |
| 成田市三里塚周辺 | 11% | 6% | 32% | 28% | 9% | 15% |
| 合計 | 8% | 11% | 26% | 15% | 20% | 19% |

表Ｆ－７　ゴミ処理施設建設に対する態度

| 質問：ゴミ処理施設建設のやり方について賛成ですか、反対ですか？ | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
| 世田谷区周辺 | ２％ | ７％ | ２６％ | ２％ | ８％ | ６％ | ２％ | ４３％ | ０％ | ４％ |
| 福生市双葉町周辺 | ０％ | ４％ | ２１％ | ６％ | １０％ | １３％ | ４％ | ３８％ | ０％ | ４％ |
| 西多摩郡日の出町 | ２％ | ２％ | ３３％ | ４％ | ２％ | ２１％ | １３％ | ８％ | ２％ | １３％ |
| 横須賀市佐原周辺 | ０％ | ２％ | ２６％ | ４％ | １５％ | ６％ | ４％ | ３６％ | ０％ | ６％ |
| 成田市三里塚周辺 | ０％ | ９％ | ２６％ | ４％ | ０％ | ９％ | ２％ | ４５％ | ２％ | ４％ |
| 合計 | １％ | ５％ | ２６％ | ４％ | １％ | １０％ | ４％ | ３６％ | １％ | ６％ |

表Ｆ－８　原子力発電所建設に対する態度

| 質問：原子力発電所の建設のやり方について賛成ですか、反対ですか？ | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
| 世田谷区周辺 | ０％ | ２％ | １６％ | ７％ | ３％ | １０％ | ７％ | ４９％ | １％ | ６％ |
| 福生市双葉町周辺 | ２％ | ４％ | １３％ | ６％ | ６％ | １５％ | ４％ | ４６％ | ０％ | ４％ |
| 西多摩郡日の出町 | ２％ | ２％ | ４％ | ８％ | ０％ | １９％ | ８％ | ４４％ | ８％ | ４％ |
| 横須賀市佐原周辺 | ２％ | ２％ | １３％ | １１％ | １１％ | １１％ | ９％ | ３８％ | ０％ | ４％ |
| 成田市三里塚周辺 | ０％ | ２％ | ６％ | ９％ | ２％ | １１％ | ２％ | ５１％ | １３％ | ４％ |
| 合計 | １％ | ２％ | １１％ | ８％ | ４％ | １２％ | ６％ | ４６％ | ４％ | ４％ |

表Ｆ－９　米軍基地移転問題に対する態度

| 質問：米軍基地移転のやり方について賛成ですか、反対ですか？ | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
| 世田谷区周辺 | ０％ | ４％ | ５％ | ６％ | １％ | １４％ | １０％ | ４０％ | ２％ | ３％ |
| 福生市双葉町周辺 | ２％ | ０％ | ８％ | ６％ | ２％ | １５％ | １３％ | ３８％ | ２％ | １５％ |
| 西多摩郡日の出町 | ２％ | ２％ | ４％ | １０％ | ０％ | １７％ | ８％ | ４８％ | ６％ | ２％ |
| 横須賀市佐原周辺 | ２％ | ４％ | １５％ | １１％ | ２％ | １１％ | １７％ | ３４％ | ２％ | ２％ |
| 成田市三里塚周辺 | ０％ | ０％ | ０％ | ９％ | ０％ | １３％ | ４％ | ４５％ | ２６％ | ４％ |
| 合計 | １％ | ２％ | ６％ | ８％ | １％ | １４％ | １３％ | ４４％ | ６％ | ５％ |

表Ｆ－１０　放射性廃棄物の処分場建設（地層処分）に対する態度

| 質問：放射性廃棄物処分場建設のやり方について賛成ですか、反対ですか？ | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域名 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
| 世田谷区周辺 | ２％ | ３％ | １０％ | ４％ | ４％ | １４％ | １０％ | ４３％ | １％ | ３％ |
| 福生市双葉町周辺 | ２％ | ２％ | １０％ | ４％ | ８％ | ６％ | １３％ | ４８％ | ２％ | ４％ |
| 西多摩郡日の出町 | ２％ | ２％ | ４％ | ８％ | ０％ | １７％ | ２３％ | ４０％ | ０％ | ４％ |
| 横須賀市佐原周辺 | ４％ | ４％ | １５％ | ９％ | ４％ | １７％ | １５％ | ３０％ | ０％ | ２％ |
| 成田市三里塚周辺 | ０％ | ０％ | ２％ | ４％ | ０％ | ６％ | １１％ | ６２％ | １３％ | ２％ |
| 合計 | ２％ | ２％ | ９％ | ５％ | ３％ | １２％ | １６％ | ４４％ | ３％ | ３％ |

表Ｆ－１１　ゴミ処理施設建設に対する態度

＜年齢＞

| 年齢層 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２０代 | 0% | 5% | 12% | 5% | 12% | 4% | 5% | 39% | 2% | 16% |
| ３０代 | 0% | 0% | 19% | 5% | 5% | 14% | 7% | 44% | 0% | 5% |
| ４０代 | 0% | 6% | 25% | 1% | 3% | 18% | 6% | 38% | 1% | 1% |
| ５０代 | 2% | 5% | 37% | 6% | 8% | 8% | 3% | 27% | 0% | 5% |
| ６０代 | 4% | 11% | 38% | 0% | 9% | 6% | 0% | 30% | 0% | 2% |
| 合計 | 1% | 5% | 26% | 4% | 7% | 10% | 4% | 36% | 1% | 6% |

＜性別＞

| 性別 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既婚男性 | 2% | 5% | 37% | 3% | 6% | 12% | 4% | 27% | 0% | 5% |
| 未婚男性 | 0% | 8% | 19% | 6% | 6% | 6% | 6% | 36% | 3% | 11% |
| 既婚女性 | 1% | 5% | 21% | 4% | 8% | 10% | 4% | 41% | 1% | 4% |
| 未婚女性 | 0% | 0% | 7% | 0% | 14% | 7% | 14% | 50% | 0% | 7% |
| 合計 | 1% | 5% | 26% | 4% | 7% | 10% | 4% | 36% | 1% | 6% |

＜学歴＞

| 最終学歴 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 0% | 14% | 14% | 0% | 14% | 29% | 0% | 14% | 0% | 14% |
| 中学校 | 3% | 10% | 45% | 0% | 0% | 3% | 0% | 35% | 0% | 3% |
| 高等学校 | 1% | 4% | 27% | 4% | 8% | 8% | 6% | 35% | 1% | 6% |
| 専門学校 | 0% | 7% | 21% | 7% | 5% | 19% | 2% | 37% | 0% | 2% |
| 短大 | 0% | 0% | 17% | 4% | 17% | 4% | 4% | 39% | 0% | 13% |
| 大学 | 2% | 6% | 23% | 2% | 8% | 13% | 6% | 36% | 0% | 6% |
| 大学院 | 0% | 0% | 50% | 0% | 0% | 0% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| 合計 | 1% | 5% | 26% | 4% | 7% | 10% | 4% | 36% | 1% | 6% |

＜職業＞

| 職業 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 無職 | 4% | 13% | 33% | 0% | 13% | 13% | 0% | 21% | 0% | 4% |
| 専業主婦 | 1% | 6% | 25% | 5% | 7% | 11% | 5% | 35% | 1% | 5% |
| 学生 | 0% | 14% | 14% | 0% | 0% | 0% | 14% | 29% | 0% | 29% |
| 会社員 | 1% | 5% | 22% | 4% | 7% | 12% | 4% | 37% | 1% | 5% |
| 公務員 | 0% | 6% | 29% | 0% | 6% | 12% | 18% | 24% | 0% | 6% |
| 自営 | 0% | 2% | 36% | 4% | 11% | 4% | 0% | 36% | 0% | 7% |
| その他 | 0% | 0% | 22% | 4% | 0% | 11% | 4% | 56% | 0% | 4% |
| 合計 | 1% | 5% | 26% | 4% | 7% | 10% | 4% | 36% | 1% | 6% |

＜購読紙＞

| 購読紙 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 読売 | 1% | 4% | 32% | 3% | 6% | 8% | 4% | 33% | 1% | 7% |
| 朝日 | 2% | 5% | 29% | 2% | 7% | 10% | 6% | 32% | 1% | 8% |
| 毎日 | 0% | 8% | 19% | 6% | 11% | 11% | 3% | 36% | 0% | 6% |
| 日経 | 3% | 5% | 38% | 3% | 3% | 15% | 3% | 28% | 0% | 3% |
| 産経 | 8% | 0% | 8% | 0% | 17% | 8% | 0% | 42% | 0% | 17% |
| 東京 | 6% | 0% | 19% | 13% | 13% | 19% | 6% | 25% | 0% | 0% |
| 地方紙 | 0% | 0% | 19% | 0% | 25% | 6% | 13% | 38% | 0% | 0% |
| その他 | 0% | 13% | 35% | 0% | 4% | 4% | 4% | 39% | 0% | 0% |

表Ｆ－１２　原子力発電所建設に対する態度

＜年齢＞

| 年齢層 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２０代 | 0% | 2% | 2% | 14% | 4% | 9% | 5% | 53% | 5% | 7% |
| ３０代 | 0% | 2% | 7% | 7% | 7% | 9% | 7% | 56% | 0% | 5% |
| ４０代 | 1% | 3% | 12% | 9% | 3% | 12% | 12% | 43% | 4% | 1% |
| ５０代 | 2% | 2% | 19% | 8% | 2% | 17% | 5% | 38% | 3% | 5% |
| ６０代 | 2% | 4% | 17% | 2% | 6% | 15% | 2% | 43% | 6% | 4% |
| 合計 | 1% | 2% | 11% | 8% | 4% | 12% | 6% | 46% | 4% | 4% |

＜性別＞

| 性別 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既婚男性 | 3% | 4% | 19% | 6% | 4% | 15% | 6% | 37% | 3% | 4% |
| 未婚男性 | 0% | 3% | 11% | 14% | 0% | 6% | 6% | 42% | 8% | 11% |
| 既婚女性 | 0% | 1% | 7% | 7% | 5% | 12% | 6% | 54% | 4% | 4% |
| 未婚女性 | 0% | 0% | 0% | 14% | 0% | 14% | 14% | 57% | 0% | 0% |
| 合計 | 1% | 2% | 11% | 8% | 4% | 12% | 6% | 46% | 4% | 4% |

＜学歴＞

| 最終学歴 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 0% | 0% | 14% | 0% | 0% | 29% | 14% | 29% | 14% | 0% |
| 中学校 | 3% | 3% | 16% | 0% | 3% | 19% | 0% | 35% | 13% | 6% |
| 高等学校 | 1% | 3% | 13% | 7% | 6% | 12% | 6% | 44% | 2% | 6% |
| 専門学校 | 2% | 5% | 2% | 16% | 0% | 7% | 2% | 60% | 2% | 2% |
| 短大 | 0% | 0% | 0% | 17% | 0% | 9% | 9% | 61% | 4% | 0% |
| 大学 | 0% | 0% | 17% | 6% | 2% | 15% | 11% | 43% | 2% | 4% |
| 大学院 | 0% | 0% | 0% | 0% | 50% | 0% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| 合計 | 1% | 2% | 11% | 8% | 4% | 12% | 6% | 46% | 4% | 4% |

＜職業＞

| 職業 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 無職 | 0% | 0% | 21% | 8% | 0% | 21% | 0% | 29% | 13% | 8% |
| 専業主婦 | 0% | 1% | 8% | 7% | 6% | 13% | 8% | 50% | 2% | 4% |
| 学生 | 0% | 0% | 0% | 29% | 0% | 0% | 0% | 71% | 0% | 0% |
| 会社員 | 2% | 3% | 10% | 7% | 4% | 13% | 5% | 46% | 4% | 5% |
| 公務員 | 0% | 0% | 18% | 12% | 6% | 18% | 18% | 29% | 0% | 0% |
| 自営 | 2% | 4% | 20% | 7% | 2% | 9% | 4% | 44% | 0% | 7% |
| その他 | 0% | 4% | 4% | 7% | 4% | 7% | 7% | 59% | 7% | 0% |
| 合計 | 1% | 2% | 11% | 8% | 4% | 12% | 6% | 46% | 4% | 4% |

＜購読紙＞

| 購読紙 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 読売 | 2% | 3% | 14% | 9% | 4% | 12% | 7% | 41% | 3% | 5% |
| 朝日 | 1% | 3% | 12% | 6% | 6% | 13% | 10% | 45% | 4% | 2% |
| 毎日 | 0% | 6% | 6% | 8% | 6% | 17% | 3% | 53% | 3% | 0% |
| 日経 | 3% | 3% | 21% | 5% | 3% | 15% | 5% | 46% | 0% | 0% |
| 産経 | 8% | 0% | 0% | 8% | 8% | 33% | 0% | 42% | 0% | 0% |
| 東京 | 0% | 0% | 13% | 13% | 0% | 13% | 6% | 38% | 13% | 6% |
| 地方紙 | 0% | 0% | 6% | 13% | 0% | 6% | 13% | 56% | 0% | 6% |
| その他 | 4% | 4% | 22% | 4% | 4% | 4% | 13% | 39% | 0% | 4% |

表Ｆ－１３　米軍基地移転に対する態度

＜年齢＞

| 年齢層 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２０代 | 0% | 4% | 0% | 9% | 0% | 18% | 12% | 40% | 7% | 11% |
| ３０代 | 0% | 0% | 4% | 9% | 2% | 16% | 12% | 49% | 5% | 4% |
| ４０代 | 3% | 1% | 10% | 6% | 0% | 13% | 12% | 47% | 7% | 0% |
| ５０代 | 2% | 3% | 6% | 13% | 2% | 13% | 14% | 38% | 5% | 5% |
| ６０代 | 0% | 4% | 9% | 4% | 2% | 9% | 15% | 43% | 8% | 6% |
| 合計 | 1% | 2% | 6% | 8% | 1% | 14% | 13% | 44% | 6% | 5% |

＜性別＞

| 性別 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既婚男性 | 2% | 4% | 7% | 10% | 1% | 16% | 14% | 37% | 4% | 5% |
| 未婚男性 | 0% | 6% | 3% | 11% | 0% | 17% | 14% | 28% | 14% | 8% |
| 既婚女性 | 1% | 1% | 7% | 7% | 1% | 11% | 13% | 52% | 6% | 2% |
| 未婚女性 | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 14% | 7% | 57% | 7% | 14% |
| 合計 | 1% | 2% | 6% | 8% | 1% | 14% | 13% | 44% | 6% | 5% |

＜学歴＞

| 最終学歴 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 0% | 0% | 14% | 14% | 0% | 14% | 14% | 29% | 0% | 14% |
| 中学校 | 0% | 0% | 13% | 3% | 3% | 3% | 10% | 48% | 16% | 3% |
| 高等学校 | 1% | 4% | 6% | 7% | 1% | 11% | 14% | 42% | 7% | 5% |
| 専門学校 | 2% | 0% | 0% | 16% | 0% | 21% | 9% | 47% | 0% | 5% |
| 短大 | 0% | 0% | 9% | 4% | 0% | 9% | 4% | 57% | 13% | 4% |
| 大学 | 2% | 2% | 4% | 8% | 0% | 23% | 19% | 38% | 2% | 4% |
| 大学院 | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 50% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| 合計 | 1% | 2% | 6% | 8% | 1% | 14% | 13% | 44% | 6% | 5% |

＜職業＞

| 職業 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 無職 | 0% | 4% | 8% | 4% | 0% | 13% | 8% | 42% | 13% | 8% |
| 専業主婦 | 1% | 1% | 7% | 7% | 2% | 8% | 17% | 50% | 2% | 4% |
| 学生 | 0% | 29% | 0% | 14% | 0% | 0% | 0% | 57% | 0% | 0% |
| 会社員 | 2% | 1% | 5% | 9% | 1% | 15% | 14% | 39% | 9% | 5% |
| 公務員 | 0% | 0% | 6% | 12% | 0% | 35% | 12% | 35% | 0% | 0% |
| 自営 | 0% | 4% | 7% | 11% | 0% | 16% | 11% | 38% | 4% | 9% |
| その他 | 0% | 0% | 4% | 4% | 0% | 15% | 11% | 52% | 15% | 0% |
| 合計 | 1% | 2% | 6% | 8% | 1% | 14% | 13% | 44% | 6% | 5% |

＜購読紙＞

| 購読紙 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 読売 | 2% | 3% | 8% | 9% | 1% | 9% | 14% | 44% | 5% | 4% |
| 朝日 | 2% | 3% | 6% | 5% | 1% | 15% | 9% | 49% | 6% | 5% |
| 毎日 | 0% | 0% | 0% | 14% | 6% | 22% | 11% | 39% | 0% | 8% |
| 日経 | 3% | 5% | 13% | 8% | 0% | 10% | 15% | 38% | 0% | 8% |
| 産経 | 8% | 0% | 8% | 8% | 0% | 17% | 8% | 42% | 0% | 8% |
| 東京 | 0% | 0% | 13% | 6% | 0% | 19% | 13% | 38% | 6% | 6% |
| 地方紙 | 0% | 0% | 13% | 13% | 0% | 13% | 6% | 50% | 6% | 0% |
| その他 | 0% | 4% | 17% | 4% | 0% | 13% | 22% | 30% | 4% | 4% |

表Ｆ－１４　放射性廃棄物処分施設の建設に対する態度

＜年齢＞

| 年齢層 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２０代 | 2% | 4% | 0% | 11% | 4% | 14% | 9% | 47% | 4% | 7% |
| ３０代 | 2% | 2% | 9% | 7% | 2% | 11% | 23% | 40% | 4% | 2% |
| ４０代 | 3% | 1% | 9% | 3% | 3% | 13% | 19% | 43% | 4% | 1% |
| ５０代 | 2% | 3% | 10% | 6% | 3% | 16% | 14% | 43% | 2% | 2% |
| ６０代 | 2% | 2% | 17% | 0% | 6% | 8% | 15% | 47% | 0% | 4% |
| 合計 | 2% | 2% | 9% | 5% | 3% | 12% | 16% | 44% | 3% | 3% |

＜性別＞

| 性別 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既婚男性 | 4% | 3% | 15% | 4% | 4% | 19% | 15% | 32% | 1% | 3% |
| 未婚男性 | 3% | 3% | 3% | 14% | 3% | 8% | 17% | 31% | 14% | 6% |
| 既婚女性 | 0% | 1% | 6% | 4% | 3% | 8% | 18% | 57% | 1% | 2% |
| 未婚女性 | 0% | 7% | 0% | 14% | 0% | 14% | 7% | 50% | 0% | 7% |
| 合計 | 2% | 2% | 9% | 5% | 3% | 12% | 16% | 44% | 3% | 3% |

＜学歴＞

| 最終学歴 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 0% | 0% | 14% | 0% | 0% | 14% | 14% | 43% | 0% | 14% |
| 中学校 | 3% | 0% | 10% | 3% | 0% | 6% | 23% | 45% | 6% | 3% |
| 高等学校 | 1% | 3% | 10% | 4% | 5% | 8% | 17% | 47% | 3% | 2% |
| 専門学校 | 2% | 0% | 7% | 7% | 0% | 19% | 16% | 44% | 0% | 5% |
| 短大 | 0% | 4% | 0% | 9% | 0% | 4% | 13% | 61% | 4% | 4% |
| 大学 | 4% | 2% | 9% | 8% | 6% | 26% | 13% | 28% | 2% | 2% |
| 大学院 | 0% | 50% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| 合計 | 2% | 2% | 9% | 5% | 3% | 12% | 16% | 44% | 3% | 3% |

＜職業＞

| 職業 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 無職 | 0% | 0% | 21% | 4% | 0% | 8% | 21% | 33% | 4% | 8% |
| 専業主婦 | 0% | 2% | 8% | 4% | 5% | 7% | 19% | 50% | 1% | 4% |
| 学生 | 0% | 14% | 0% | 14% | 0% | 0% | 0% | 71% | 0% | 0% |
| 会社員 | 5% | 2% | 10% | 6% | 4% | 12% | 13% | 39% | 5% | 3% |
| 公務員 | 0% | 6% | 0% | 12% | 0% | 35% | 12% | 29% | 6% | 0% |
| 自営 | 2% | 2% | 9% | 4% | 4% | 22% | 18% | 36% | 0% | 2% |
| その他 | 0% | 0% | 4% | 4% | 0% | 7% | 19% | 67% | 0% | 0% |
| 合計 | 2% | 2% | 9% | 5% | 3% | 12% | 16% | 44% | 3% | 3% |

＜購読紙＞

| 購読紙 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | 条件次第では賛成 | 賛成、反対どちらでもない | 条件次第では反対 | どちらかといえば反対 | 反対 | 良く分からない | 関心がない | 仕方がない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 読売 | 3% | 2% | 12% | 7% | 2% | 13% | 17% | 38% | 3% | 3% |
| 朝日 | 2% | 4% | 5% | 4% | 7% | 14% | 18% | 41% | 1% | 4% |
| 毎日 | 0% | 0% | 11% | 6% | 8% | 14% | 19% | 42% | 0% | 0% |
| 日経 | 5% | 3% | 21% | 3% | 5% | 18% | 18% | 26% | 3% | 0% |
| 産経 | 8% | 0% | 0% | 0% | 17% | 8% | 17% | 50% | 0% | 0% |
| 東京 | 0% | 0% | 13% | 13% | 0% | 13% | 31% | 31% | 0% | 0% |
| 地方紙 | 0% | 0% | 6% | 13% | 0% | 31% | 0% | 50% | 0% | 0% |
| その他 | 4% | 0% | 17% | 0% | 4% | 4% | 17% | 48% | 4% | 0% |

表Ｆ－１５　　各質問の回答とゴミ処理施設建設への態度との相関

| 質問番号 | | 地域名 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 世田谷区周辺 | 福生市双葉町周辺 | 西多摩郡日の出町 | 横須賀市佐原周辺 | 成田市三里塚周辺 |
| 観測数 | | 108 | 47 | 48 | 47 | 47 |
| 質問１ | (1) | -0.21 | -0.16 | 0.34 | -0.03 | -0.26 |
| | (2) | 0.04 | -0.01 | 0.24 | 0.05 | -0.25 |
| 質問２ | (1) | -0.05 | -0.10 | -0.02 | 0.11 | -0.21 |
| | (2) | 0.01 | 0.20 | 0.18 | 0.51 | -0.40 |
| | (3) | 0.10 | 0.04 | -0.21 | -0.12 | 0.14 |
| | (4) | -0.13 | -0.09 | -0.11 | -0.11 | 0.21 |
| | (5) | 0.01 | 0.20 | -0.01 | 0.09 | 0.09 |
| | (6) | -0.07 | -0.03 | 0.22 | -0.08 | 0.22 |
| | (7) | 0.01 | -0.16 | 0.29 | -0.01 | -0.07 |
| | (8) | 0.07 | 0.04 | 0.20 | 0.09 | 0.05 |
| | (9) | -0.02 | -0.05 | 0.00 | -0.27 | -0.02 |
| | (10) | -0.05 | 0.22 | 0.23 | 0.24 | 0.11 |
| 質問３ | (1) | 0.22 | 0.33 | 0.47 | 0.11 | 0.12 |
| | (2) | 0.18 | 0.12 | 0.39 | 0.44 | 0.09 |
| | (3) | -0.15 | 0.28 | -0.09 | -0.05 | 0.00 |
| | (4) | 0.15 | 0.32 | 0.17 | -0.03 | 0.21 |
| | (5) | 0.06 | 0.15 | -0.04 | 0.06 | -0.17 |
| | (6) | -0.21 | 0.07 | -0.13 | -0.01 | 0.12 |
| | (7) | -0.12 | 0.09 | -0.12 | -0.21 | 0.06 |
| | (8) | 0.06 | -0.05 | 0.09 | -0.07 | 0.05 |
| | (9) | 0.06 | -0.01 | 0.46 | 0.41 | 0.13 |
| | (10) | 0.21 | -0.05 | 0.11 | 0.01 | 0.02 |
| | (11) | 0.17 | 0.04 | 0.31 | 0.42 | 0.05 |
| | (12) | 0.13 | 0.06 | 0.26 | 0.05 | 0.23 |
| | (13) | 0.02 | 0.20 | 0.35 | 0.31 | -0.08 |
| | (14) | -0.04 | 0.05 | 0.03 | 0.11 | 0.20 |
| | (15) | 0.02 | 0.19 | -0.07 | -0.05 | 0.11 |
| | (16) | 0.19 | 0.22 | 0.01 | 0.34 | 0.18 |
| | (17) | 0.08 | 0.29 | 0.08 | 0.28 | 0.09 |
| | (18) | 0.07 | 0.14 | 0.26 | 0.01 | 0.10 |
| | (19) | 0.08 | -0.09 | 0.09 | 0.18 | 0.18 |
| | (20) | 0.05 | 0.06 | 0.31 | 0.17 | 0.08 |
| | (21) | 0.32 | 0.17 | 0.20 | 0.21 | -0.03 |
| | (22) | 0.09 | 0.17 | 0.06 | 0.34 | 0.11 |
| | (23) | -0.19 | 0.06 | 0.15 | 0.23 | -0.05 |
| | (24) | 0.13 | 0.23 | 0.26 | 0.20 | -0.25 |

：重回帰分析により、態度への影響の主要因子となる項目

表Ｆ－１６　各質問の回答と原子力発電所建設への態度との相関

| 質問番号 | | 地域名 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 世田谷区周辺 | 福生市双葉町周辺 | 西多摩郡日の出町 | 横須賀市佐原周辺 | 成田市三里塚周辺 |
| 観測数 | | 108 | 47 | 48 | 47 | 47 |
| 質問１ | (1) | -0.16 | -0.33 | 0.13 | 0.07 | 0.18 |
| | (2) | -0.11 | -0.16 | 0.00 | 0.25 | 0.04 |
| 質問２ | (1) | 0.04 | -0.14 | 0.06 | 0.03 | 0.14 |
| | (2) | 0.06 | 0.03 | 0.09 | 0.27 | -0.01 |
| | (3) | 0.10 | -0.11 | -0.23 | 0.05 | 0.17 |
| | (4) | 0.02 | -0.21 | 0.12 | 0.15 | 0.05 |
| | (5) | 0.04 | 0.25 | -0.11 | -0.23 | 0.17 |
| | (6) | 0.00 | 0.14 | 0.18 | -0.02 | 0.12 |
| | (7) | -0.10 | -0.14 | 0.40 | -0.16 | 0.11 |
| | (8) | 0.08 | 0.08 | 0.30 | -0.03 | -0.17 |
| | (9) | -0.03 | -0.15 | -0.13 | -0.31 | -0.10 |
| | (10) | 0.02 | -0.08 | -0.09 | 0.27 | -0.08 |
| 質問４ | (1) | 0.09 | 0.26 | 0.28 | 0.33 | 0.15 |
| | (2) | 0.12 | 0.21 | 0.28 | 0.41 | 0.13 |
| | (3) | -0.03 | 0.28 | -0.16 | 0.08 | 0.07 |
| | (4) | 0.17 | 0.09 | 0.18 | 0.02 | 0.01 |
| | (5) | 0.02 | 0.17 | 0.03 | 0.02 | 0.17 |
| | (6) | -0.03 | 0.08 | -0.27 | -0.14 | -0.16 |
| | (7) | -0.06 | 0.02 | -0.07 | -0.04 | -0.03 |
| | (8) | 0.23 | 0.37 | -0.05 | 0.25 | 0.00 |
| | (9) | -0.03 | 0.10 | 0.32 | 0.44 | 0.30 |
| | (10) | -0.03 | 0.26 | 0.05 | 0.17 | 0.23 |
| | (11) | -0.15 | 0.02 | 0.42 | 0.37 | 0.17 |
| | (12) | 0.02 | 0.19 | 0.30 | 0.23 | 0.24 |
| | (13) | -0.02 | -0.05 | 0.46 | 0.43 | 0.27 |
| | (14) | 0.18 | 0.18 | -0.04 | 0.19 | -0.02 |
| | (15) | -0.02 | 0.11 | 0.10 | -0.19 | 0.07 |
| | (16) | 0.17 | 0.01 | 0.03 | 0.41 | -0.07 |
| | (17) | 0.02 | 0.13 | 0.12 | 0.43 | -0.02 |
| | (18) | 0.17 | 0.33 | 0.28 | 0.02 | 0.09 |
| | (19) | 0.10 | 0.22 | 0.29 | 0.29 | 0.30 |
| | (20) | 0.12 | 0.20 | 0.17 | -0.03 | -0.06 |
| | (21) | 0.26 | 0.38 | 0.25 | 0.35 | 0.30 |
| | (22) | 0.20 | 0.14 | 0.08 | 0.25 | -0.07 |
| | (23) | -0.09 | 0.08 | -0.03 | -0.12 | 0.17 |
| | (24) | 0.12 | 0.23 | 0.01 | 0.25 | 0.00 |

：重回帰分析により、態度への影響の主要因子となる項目

表Ｆ－１７　　各質問の回答と米軍基地移転への態度との相関

| 質問番号 | | 地域名 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 世田谷区周辺 | 福生市双葉町周辺 | 西多摩郡日の出町 | 横須賀市佐原周辺 | 成田市三里塚周辺 |
| 観測数 | | 108 | 47 | 48 | 47 | 47 |
| 質問１ | (1) | 0.05 | -0.10 | 0.00 | 0.09 | 0.13 |
| | (2) | 0.09 | 0.03 | -0.08 | 0.23 | 0.32 |
| 質問２ | (1) | -0.10 | -0.22 | 0.06 | -0.06 | 0.34 |
| | (2) | -0.04 | 0.23 | 0.08 | 0.24 | -0.05 |
| | (3) | 0.00 | 0.19 | -0.16 | -0.10 | 0.15 |
| | (4) | -0.06 | -0.12 | 0.08 | 0.11 | 0.26 |
| | (5) | 0.09 | 0.23 | -0.24 | -0.09 | -0.01 |
| | (6) | -0.02 | 0.49 | 0.01 | -0.15 | 0.23 |
| | (7) | -0.09 | -0.10 | 0.25 | -0.08 | 0.03 |
| | (8) | 0.10 | 0.13 | 0.22 | 0.10 | -0.15 |
| | (9) | 0.09 | -0.03 | -0.01 | -0.24 | -0.01 |
| | (10) | -0.06 | -0.09 | -0.15 | 0.21 | 0.02 |
| 質問５ | (1) | 0.07 | 0.24 | 0.25 | 0.11 | 0.23 |
| | (2) | 0.12 | 0.34 | 0.15 | 0.12 | 0.12 |
| | (3) | 0.06 | 0.23 | 0.14 | 0.13 | 0.14 |
| | 欠番 | — | — | — | — | — |
| | (5) | 0.09 | 0.22 | -0.13 | 0.08 | -0.01 |
| | (6) | 0.16 | 0.09 | -0.28 | -0.04 | 0.30 |
| | (7) | 0.10 | 0.13 | -0.32 | 0.10 | -0.15 |
| | (8) | 0.27 | 0.41 | 0.27 | 0.40 | 0.06 |
| | (9) | 0.12 | 0.22 | 0.26 | 0.31 | 0.27 |
| | (10) | 0.15 | 0.42 | 0.16 | 0.19 | 0.17 |
| | (11) | 0.11 | 0.22 | 0.24 | 0.28 | 0.04 |
| | (12) | 0.16 | 0.35 | 0.24 | 0.26 | 0.16 |
| | (13) | 0.03 | -0.06 | 0.37 | 0.41 | 0.22 |
| | (14) | 0.17 | -0.08 | 0.07 | 0.08 | -0.18 |
| | (15) | 0.12 | 0.15 | -0.02 | 0.13 | -0.13 |
| | (16) | 0.15 | -0.13 | 0.12 | 0.22 | 0.12 |
| | (17) | -0.22 | -0.14 | 0.36 | 0.51 | 0.00 |
| | (18) | 0.04 | 0.39 | 0.33 | 0.25 | 0.19 |
| | (19) | 0.06 | 0.09 | 0.26 | 0.37 | 0.00 |
| | 欠番 | — | — | — | — | — |
| | (21) | 0.16 | 0.28 | 0.13 | 0.42 | 0.28 |
| | (22) | 0.03 | 0.20 | 0.09 | 0.19 | -0.01 |
| | (23) | 0.05 | 0.03 | -0.04 | 0.02 | 0.05 |
| | (24) | 0.08 | 0.30 | -0.04 | 0.28 | 0.09 |

：重回帰分析により、態度への影響の主要因子となる項目

表Ｆ－１８　　各質問の回答と放射性廃棄物処分施設建設への態度との相関

| 質問番号 | | 地域名 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 世田谷区周辺 | 福生市双葉町周辺 | 西多摩郡日の出町 | 横須賀市佐原周辺 | 成田市三里塚周辺 |
| 観測数 | | 108 | 47 | 48 | 47 | 47 |
| 質問１ | (1) | 0.03 | -0.16 | -0.03 | 0.03 | -0.04 |
| | (2) | 0.23 | 0.03 | -0.06 | 0.22 | -0.25 |
| 質問２ | (1) | -0.08 | 0.02 | -0.01 | 0.05 | 0.07 |
| | (2) | 0.10 | 0.06 | 0.06 | 0.16 | -0.15 |
| | (3) | -0.14 | 0.30 | -0.21 | -0.07 | 0.15 |
| | (4) | -0.05 | 0.01 | 0.02 | 0.09 | 0.26 |
| | (5) | 0.14 | 0.13 | -0.10 | -0.08 | 0.09 |
| | (6) | -0.07 | 0.10 | 0.10 | 0.07 | 0.21 |
| | (7) | -0.10 | -0.01 | 0.28 | -0.19 | 0.08 |
| | (8) | 0.10 | 0.17 | 0.19 | -0.13 | -0.25 |
| | (9) | 0.05 | 0.10 | 0.01 | -0.16 | -0.16 |
| | (10) | 0.01 | -0.12 | -0.09 | 0.17 | -0.05 |
| 質問６ | (1) | 0.35 | 0.48 | 0.10 | 0.35 | 0.05 |
| | (2) | 0.24 | 0.38 | 0.10 | 0.36 | 0.19 |
| | (3) | 0.27 | 0.26 | -0.05 | -0.05 | 0.22 |
| | (4) | 0.41 | 0.28 | 0.18 | 0.07 | 0.08 |
| | (5) | 0.21 | 0.26 | -0.02 | -0.14 | 0.32 |
| | (6) | -0.01 | 0.13 | -0.09 | -0.37 | 0.19 |
| | (7) | 0.12 | 0.14 | 0.04 | -0.23 | -0.02 |
| | (8) | 0.38 | 0.31 | 0.25 | 0.39 | 0.03 |
| | (9) | -0.02 | 0.12 | 0.44 | 0.30 | 0.39 |
| | (10) | 0.02 | 0.50 | 0.17 | 0.01 | 0.31 |
| | (11) | -0.07 | 0.35 | 0.14 | 0.30 | 0.18 |
| | (12) | 0.01 | 0.35 | 0.18 | 0.18 | 0.44 |
| | (13) | -0.09 | 0.23 | 0.13 | 0.35 | 0.44 |
| | (14) | 0.23 | 0.19 | -0.06 | 0.27 | 0.00 |
| | (15) | 0.18 | 0.08 | 0.04 | -0.01 | -0.03 |
| | (16) | 0.23 | 0.23 | 0.44 | 0.33 | 0.05 |
| | (17) | 0.19 | 0.30 | 0.40 | 0.35 | -0.14 |
| | (18) | 0.27 | 0.52 | 0.37 | 0.13 | 0.11 |
| | (19) | 0.07 | 0.26 | 0.25 | 0.32 | 0.30 |
| | (20) | — | — | — | — | — |
| | (21) | 0.19 | 0.25 | 0.32 | 0.17 | 0.01 |
| | (22) | 0.17 | 0.35 | 0.30 | 0.21 | 0.09 |
| | (23) | 0.09 | 0.28 | 0.12 | 0.22 | 0.10 |
| | (24) | 0.20 | 0.53 | 0.01 | 0.08 | 0.36 |

：重回帰分析により、態度への影響の主要因子となる項目